授業概要

syllabus

■ □ 2026年度

奥羽大学　歯学部

授　業　概　要

syllabus

2026年度

歯学部の学生諸君へ

歯学部長　髙　田　　訓

１）はじめに

奥羽大学は「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する」を理念とし，教育基本法並びに学校教育法に基づき，広く知識を養うと共に，深く専門の学芸を教授研究し，知的，道徳的及び応用的能力を育成し，国民の福祉と文化の発展に寄与することとしています。

歯学部は「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師を養成する」ことを目的として，以下を教育目標として掲げています。

・医療人に求められる幅広い教養，社会性及び倫理観を涵養する。
・歯科医療に求められる高度な専門知識及び技能を習得する。
・医療の場において自ら問題を発見し解決していく能力を身に付ける。
・生涯にわたり歯科医師としての自己開発に努める習慣を身に付ける。
・医療，保健，福祉において他の医療人と協調・連携する能力を研鑽する。

２）2026年度奥羽大学歯学部教育カリキュラムの概要

奥羽大学歯学部は「歯科医学教授要綱」及び「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」並びに「歯科医師国家試験出題基準」に則った，６年一貫とした教育カリキュラムを組んでいます。さらに自らが課題を発見し，他者と協同してその解決に取り組み，課題発見解決能力を有する歯科医師を育成します。

歯学部の目的を実践する「歯科医療人間学」において，基本的なコミュニケーションや日常習慣の重要性を認識する態度，知識及び技能を修得するための教育を行います。また，各科目の到達目標に対して学生間に差が生じないよう，目標達成度の低い学生を対象に少人数で効果的に学修する「科目選択ゼミナール」や生涯にわたり，歯科医師として自己開発に努める習慣を身に付けるために学生が主体的に興味を持つ分野を自ら選択し，当該分野に出向して学修できる「エレクティブ・スタディ」を取り入れています。さらに東日本大震災を経験・被災した大学として，災害時の医療体制・歯科的個人識別など災害発生時の歯科医師の役割を学び，大規模災害などに際して，社会貢献できる歯科医師を育成することを目標に「災害歯科医学」を設けています。

第１学年では，初年度教育の充実を図り，「理数系科目」と「日本語学」及び「歯科医学教育」を教育します。また「総合演習１Ｄ」を設け，多職種連携・多職種協働の意識を芽生えさせます。

第２学年では，教養系科目から専門系科目への移行教育の充実を図り，「情報リテラシー」と「基礎歯学概論」を充実すると共に，「総合演習２Ｄ」を設け，教養科目と基礎科目の再度教育を行います。

第３学年では，基礎系科目から臨床系科目への移行教育の充実を図り，「口腔内科学」を設けると共に「総合演習３Ｄ」を設け，基礎科目と臨床科目の再度教育を行います。

第４学年では，共用試験のための準備教育の充実を図り，「高齢者歯科学」と「障害者歯科学」を設けると共に，「総合演習４Ｄ」を設け，基礎科目と臨床科目の再度教育を行います。

第５学年では，臨床実習教育の充実を図り，診療参加型臨床実習で「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」の必須項目を明確にします。また，臨床系教員は臨床実地試験（CPX）と一斉技能試験（CSX）に合格できる環境を整えると共に，基礎系科目の知識を維持することを目的に「総合演習５Ｄ」を設け再度教育を行います。

第６学年では，歯学総合教育と歯科医師国家試験準備教育の充実を図ります。歯科医師国家試験の合格を目指して「臨床総合講義」を設けると共に，各々の学生が自分の到達目標を段階的かつ具体的に自覚できるように，実施する試験はすべて卒業判定に用い，その結果をもとに「フィードバック学修」と「個別指導」を行います。

結びにあたり，学生諸君は，本学の理念・目標を理解し，この授業概要を熟読して頂きたいと思います。そして，学則は元より規定規則を遵守して，しっかり学び，試験に合格して，進級するよう努めて下さい。そのためにはしっかり出席して，実りある学生生活を送ることを願っています。

目　　次

◆ディプロマポリシー　1
◆アドミッションポリシー　2
◆カリキュラムポリシー　3
◆カリキュラムマップ　4
◆歯学部教務日程　5
◆カレンダー　6
◆時間割表　12
◆カリキュラム表　15
◆科目ナンバリング（ユニパ No.）　17
◆アセスメントポリシー　18
◆オフィスアワーについて　19

Ⅰ．　規程
1．学則（抜粋）……　21
2．奥羽大学試験規程　27
3．奥羽大学歯学部卒業試験規程　28
4．奥羽大学 GPA 制度に関する規定　28
5．不正行為者の懲戒処分に関する内規　29
6．奥羽大学歯学部臨床実習規程　29
7．奥羽大学歯学部臨床実習に関する不正行為に対する処罰内規　30

Ⅱ．　遵守事項
1．学籍について……　32
1）修業年限及び在学年限　32
2）休学　32
3）復学　32
4）退学　32
5）除籍　32
6）再入学　32
7）卒業証書及び学位の授与　32
2．履修の概要……　33
1）授業科目の区分　33
2）授業時間　33
3）掲示　33
4）休講　33
5）補講　33
6）出席日数　33
7）講義・演習・実習などに対する準備　33
8）講義・演習・実習などが終了した後の復習　33
3．試験と成績評価……　34
1）定期試験　34
2）総合試験　34
3）追試験　34
4）再試験　34
5）受験上の注意事項　34
6）レポートの提出　35
7）成績評価　35
4．各試験の受験資格，評価の要件，進級および卒業判定……　36
1）第１～４学年の定期試験の受験資格と実習評価の要件　36
2）第５学年臨床実習の各期の終了試験の受験資格と実習評価の要件　36
3）総合試験，共用試験，卒業試験の受験資格　36
4）進級および卒業条件　36

Ⅲ．　授業概要
学年別授業計画
◆歯学教育モデル・コア・カリキュラム
◆歯科医師国家試験出題基準

Ⅳ．　構内案内図

【理　念】

高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する。

【目　的】

奥羽大学は，教育基本法（平成18年12月22日法律第120号）並びに学校教育法（昭和22年３月31日法律第26号）に基づき，広く知識を養うと共に，深く専門の学芸を教授研究し，知的，道徳的及び応用的能力を育成し，国民の福祉と文化の発展に寄与することとし，各学部のその目的は，次の各号のとおりとする。

（１）歯学部は，高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師を養成することを目的とする。

（２）薬学部は，高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな薬剤師を養成することを目的とする。

(教育目標)

歯学部

・医療人に求められる幅広い教養，社会性及び倫理観を涵養する。

・歯科医師に求められる高度な専門知識及び技能を習得する。

・医療の場において自ら問題を発見し解決していく能力を身につける。

・生涯にわたり歯科医師としての自己開発に努める習慣を身につける。

・医療，保健，福祉において他の医療人と強調・連携する能力を研鑽する。

奥羽大学歯学部３ポリシー

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する基本的な方針）

歯学部は，本学の目的と教育目標とに基づく教育課程を通じて，以下のような能力を身に付け，かつ所定の単位を修得し，卒業試験に合格した者に対し卒業証書を授与し，卒業した者に対し学士（歯学）の学位を授与します。

１．倫理とコミュニケーション

・患者の立場や背景を理解し，思いやりを持った言動ができる。

・患者との良好な関係を構築し，自己決定の権利の尊重と個人情報の厳守ができる。

２．探求力と解決力

・医療に対して社会や環境が求めるニーズや問題を探求し，迅速かつ的確に解決できる。

３．病態解析と治療概念

・病態を解析し，治療の要素を把握できる。

４．知識と診断

・歯科口腔疾患を診断し，適切な治療計画を立案できる。

５．技能と治療

・歯科医療技術を身に付け，先進的で高度な歯科医療を実施できる。

６．奥羽プロフェッショナリズム

・超高齢社会の問題と課題を分析し，ニーズを抽出して解決策を立案できる。

・地域特性を踏まえた医療連携を構築し，他職種とともに包括医療を実践できる。

・生涯にわたり歯科医師としての自己研鑽に努めることができる。

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

本学の建学の理念は「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する」です。医療従事者は医学的知識や医療技術の修得にとどまらず，人間性と道徳観や倫理観を持って他者とのコミュニケーション能力を高め良好な人間関係を築くことが大切です。また，社会環境の変化やニーズに対応するために，自ら課題を探求して解決する能力や多職種連携に関わる知識と応用力も必要になります。さらに，人として他者を尊重し思いやる心と生涯にわたり歯科医師を貫く強い志を持ち，社会に貢献できる歯科医師を目指すことが必要となります。

歯学部では，次のような資質を備えた入学者を求めています。

求める人物像

1．国民の健康の保持・増進に役立ちたいという志を持っている。
2．生命を尊重し他者を思いやる心を持っている。
3．地域医療を支える意識を持っている。
4．歯科医師という職業に魅力を感じ，その仕事に携わりたいという強い希望と意欲を持っている。
5．歯科医師として，生涯にわたって自己研鑽を続けるための強い意志を持っている。

入学前に身に付けていることが望まれる知識など

1．入学後の学修に必要な基礎学力（国語，英語，数学，理科）を有している。
2．基本的なコミュニケーション能力を発揮するための基礎的な知識・態度を有している。

入試区分別アドミッションポリシー

・総合型選抜入学試験

歯学部のアドミッションポリシーに加えて，下記の資質を有する入学者を求めます。

1．歯科医療を通して社会に貢献したいという強い意欲がある。
2．将来，自らが目指す歯科医師像が明確である。

・同窓特別入学試験

歯学部のアドミッションポリシーに加えて，下記の資質を有する入学者を求めます。

1．本学歯学部の教育環境を十分に理解している。
2．将来，自らが目指す歯科医師像が明確である。

・学校推薦型選抜入学試験

歯学部のアドミッションポリシーに加えて，下記の資質を有する入学者を求めます。

1．本学で歯科医学を学ぶことを強く希望している。
2．歯科医療を通して社会に貢献したいという強い意欲がある。

・特待生選抜入学試験

歯学部のアドミッションポリシーに加えて，下記の資質を有する入学者を求めます。

1．特に理数系科目と英語において，優れた学力水準にある。
2．指導的立場に立って歯科医学・歯科医療を支える意識を強く持っている。

・一般選抜入学試験

歯学部のアドミッションポリシーに合致する入学者を求めます。

・社会人特別入学試験（１年次）

歯学部のアドミッションポリシーに加えて，下記の資質を有する入学者を求めます。

1．歯科医療を通して社会に貢献したいという強い意欲がある。
2．将来、自らが目指す歯科医師像が明確である。

・編入学試験（２・３・４年次編入）

歯学部のアドミッションポリシーに加えて，下記の資質を有する入学者を求めます。

1．歯科医師になりたいという強い希望を持っている。
2．本学で歯科医学を学ぶことを強く希望している。
3．歯科医療を通して社会に貢献したいという強い意欲がある。

カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

ディプロマポリシーに掲げる知識・技能・態度などの能力を修得するために，歯学部では６年一貫とした以下の方針でカリキュラムを編成しています。

1．人間性豊かで優れた歯科医師を育成するために，大学で学ぶ目的を明確化し，医療人としてのコミュニケーションに必要な基本的態度・知識・技能を修得する必要があり，第１学年～第３学年では，この一貫した共通目標を持たせた「歯科医療人間学」を設けています。また患者の立場と背景を理解し道徳観や倫理観を涵養するために，第１学年と第２学年で「リベラルアーツ」を履修します。さらに医療に対するニーズや問題を探求し，それを解決する力を身に付けるために，第１学年～第３学年では，アーリーエクスポージャーを踏まえた「医学概論」を取り入れています。

2．生涯にわたり歯科医師として自己開発に努める習慣を身に付けるために，第１学年～４学年では，学年や基礎，臨床を問わず学生自身が興味を持つ分野を選択し出向して学修できる「エレクティブ・スタディ」を取り入れています。

3．各学年における総合的な知識を確認するために，第１学年では総合試験１Ｄ，第２学年では総合試験２Ｄ，第３学年では総合試験３Ｄ，第４学年ではCBT，OSCE，第５学年では第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ期終了試験，総合試験５Ｄを行います。また，第１学年～第３学年の履修科目では，各科目の到達目標に対して学生間に差が生じないよう，目標達成度の低い学生を対象に少人数で強化的に学修する「科目選択ゼミナール」を取り入れています。

4．歯科口腔疾患の病態の解析と治療概念を把握し，診断と適切な治療計画を立案するために，第１学年と第２学年では「理科」，第２学年と第３学年では基礎系科目による「歯科基礎医学」と「歯科基礎病態学」，第３学年と第４学年では臨床系科目による「歯科口腔病態学」と「歯科口腔治療学」，第４学年では「歯科口腔診断学」を履修するように編成しています。これにより第１学年～第４学年で履修する理科，基礎系科目，臨床系科目が順に取り組めます。

5．先進的で高度な歯科医療技術を身に付け，さらに超高齢社会のニーズに対応し，地域特性を踏まえた包括医療を実践するプロフェッショナルになるために，第５学年では臨床実習（診療参加型）と基礎系科目を再度履修するための総合演習５Ｄ，他職種連携を学ぶための地域医療研修，介護老人保健施設や特別養護老人ホームでの歯科訪問診療を取り入れています。

6．歯科医師になるために必要な知識と技能を再確認するために，第６学年では歯科医師国家試験出題基準に則った授業時間を各科目に割り当て，臨床総合講義を行います。

カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	1．倫理とコミュニケーション	2．探求力と解決力	3．病態解析と治療概念	4．知識と診断	5．技能と治療
	・患者の立場や背景を理解し、思いやりを持った言動ができる。 ・患者の自己決定権を尊重し、個人情報を厳守できる。	・医療に対して社会や環境が求めるニーズや問題を探求し、迅速かつ的確に解決できる。	・病態を解析し、治療の要素を把握できる。	・歯科口腔疾患を診断し、適切な治療計画を立案できる。	・歯科医療技術を身につけ、先進的で高度な歯科医療を実施できる。

第1学年

- リベラルアーツ：美術・英語基礎・日本語学Ⅰ・心理学
- 英語Ⅰ／経営学／統計数理学／情報リテラシーⅠ
- 朝礼・ＨＲ
- ＥＳ（エレクティブスタディー）
- 医学概論：臨床心理学・医療倫理学／臨床歯学概論・歯科医療概論・歯科医学演習
- 基礎歯学概論Ⅰ
- 歯科医療人間学Ⅰ
- 自然科学：基礎物理学・物理学実験／基礎化学・化学実験／基礎生物学・生物学実験
- 総合演習１Ｄ／科目選択ゼミナール

第2学年

- 医学概論：基礎歯学概論Ⅱ
- リベラルアーツ：英語Ⅱ・情報リテラシーⅡ・社会学・日本語学Ⅱ
- 歯科医療人間学Ⅱ
- 自然科学：物理学・化学・生物学
- 朝　礼
- 歯科基礎医学：解剖学・口腔解剖学／口腔組織学・口腔生理学Ⅰ／口腔生化学Ⅰ・公衆衛生学
- 解剖学実習・口腔解剖学実習・口腔組織学実習・口腔生理学実習
- 歯科基礎病態学：口腔感染免疫学Ⅰ・歯科薬理学Ⅰ・生体材料／歯科材料学Ⅰ
- 総合演習２Ｄ／科目選択ゼミナール

第3学年

- 医学概論：社会歯科学，歯科医療管理学
- 歯科医療人間学Ⅲ
- 歯科基礎医学：口腔生理学Ⅱ／口腔生化学Ⅱ・口腔生化学実習／口腔衛生学・口腔衛生学実習
- 朝　礼
- 歯科基礎病態学：口腔病理学・口腔病理学実習
- 歯科基礎治療学：口腔感染免疫学Ⅱ・口腔感染免疫学実習／歯科薬理学Ⅱ・歯科薬理学実習／生体材料／歯科材料学Ⅱ・生体材料／歯科材料学実習
- 歯科口腔病態学：総合臨床医学・保存修復学Ⅰ・冠橋義歯補綴学Ⅰ／有床義歯補綴学Ⅰ・災害歯科医学・高齢者歯科学／口腔内科学・口腔外科学Ⅰ・歯科放射線学Ⅰ
- 歯科口腔治療学：有床義歯補綴学Ⅰ実習
- 総合演習３Ｄ／科目選択ゼミナール

第4学年

- 朝　礼
- 歯科口腔病態学：有病者歯科学・歯科麻酔学
- 歯科口腔診断学：歯内療法学・歯周病学・保存修復学Ⅱ／冠橋義歯補綴学Ⅱ・有床義歯補綴学Ⅱ・口腔インプラント学／高齢者歯科学Ⅱ・口腔外科学Ⅱ・口腔外科学Ⅲ／歯科矯正学・小児歯科学・歯科放射線学Ⅱ
- 歯科口腔治療学：保存修復学実習・歯内療法学実習・歯周病学実習／冠橋義歯補綴学実習・有床義歯補綴学実習Ⅱ・口腔インプラント学実習／歯科矯正学実習・小児歯科学実習
- 臨床総合演習
- 総合演習４Ｄ

第5学年

- 朝　礼
- 臨床実習
- 総合試験５Ｄ

第6学年

- 朝　礼
- 臨床総合講義
- 卒　業　試　験

- 朝　礼
- 歯科臨床研修

6．奥羽プロフェッショナリズム

- 超高齢社会の問題と課題を分析し，ニーズを抽出して解決策を立案できる。
- 地域特性を踏まえた医療連携を構築し，他職種とともに包括医療を実践できる。
- 生涯にわたり歯科医師としての自己研鑽に努めることができる。

2026年度　歯学部教務日程

学期	月	日	1年	2年	3年	4年	5年	6年
前期	4月	4日(土)	入学式（編入学生含む）・オリエンテーション					
		6日(月)	オリエンテーション	在学生ガイダンス・登院式（5年）				ガイダンス
		7日(火)	前期講義開始				臨床実習開始	第1回卒業試験(A・B・C・D)
		8日(水)						
		9日(木)						前期講義開始
		29日(水)～5月5日(火)	特別休業					
	5月	27日(水)（予定）		慰霊式（2年）				
	6月	1日(月)～4日(木)						第1回卒業試験(E・F・G・H)
		22日(月)					Ⅰ期終了試験	
		26日(金)						模擬試験0(麻布)
	7月	27日(月)～30日(木)						第1回卒業試験(I・J・K・L)
		29日(水)	前期講義終了					
		30日(木)～8月17日(月)	夏季休業					
	8月	11日(火)～17日(月)					夏季休業	
		18日(火)						ガイダンス
		19日(水)						後期講義開始
		20日(木)～27日(木)	前期定期試験					
		26日(水)（予定）					CPX	
		28日(金)	在学生ガイダンス（1～4年）					
		31日(月)	後期講義開始					
後期	9月	7日(月)	前期追・再試験該当者発表／追・再試験受験手続日				Ⅱ期終了試験	
		10日(木)・11日(金)						模擬試験1(DES)
		14日(月)～10月26日(月)	前期追・再試験（月曜日1・2限目）					
		17日(木)・18日(金)						模擬試験2(麻布)
		24日(木)						国試願書作成説明会
	10月	2日(金)～7日(水)						第1回卒業試験(M・N・O・P)
		17日(土)・18日(日)	奥羽祭					
		27日(火)・28日(水)						模擬試験3(DES)
	11月	5日(木)・6日(金)						模擬試験4(麻布)
		16日(月)					Ⅲ期終了試験	
	12月	2日(水)・3日(木)						第2回卒業試験
		日(　)（未定）				CBT模試		
		10日(木)・11日(金)						模擬試験5(麻布)
		17日(木)・18日(金)						模擬試験6(DES)
		21日(月)	後期講義終了					
		22日(火)～	冬季休業					冬季休業
		26日(土)～1月7日(木)					冬季休業	
	1月	～1月11日(月)						
		12日(火)・13日(水)						第3回卒業試験
		12日(火)～19日(火)	後期定期試験					
		20日(水)						卒業予定者発表
		22日(金)				OSCE		
		28日(木)	後期追・再試験該当者発表／追・再試験受験手続日					
		30日(土)・31日(日)（未定）						歯科医師国家試験
	2月	1日(月)～8日(月)	後期追・再試験					
		9日(月)					Ⅳ期終了試験	
		12日(金)	総合試験1～5D					
		16日(火)					CSX	
		17日(水)				CBT		
		19日(金)				OSCE課題別再試		
		24日(水)	総合試験1～5D　追・再試験該当者発表／追・再試験受験手続日					
	3月	2日(火)					CSX追試	
		5日(金)	総合試験1～5D　追・再試験					
		9日(火)				CBT再試		
		10日(水)	卒業証書・学位記授与式					
		11日(木)					CSX再試	
		17日(水)					臨床実習終了式	
		19日(金)	進級予定者発表					

1年

CALENDAR
2026～2027

4　APRIL

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

5　MAY

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6　JUNE

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7　JULY

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8　AUGUST

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9　SEPTEMBER

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

授業コマ数（1年～4年）

	月	火	水	木	金
前期	14+1	15	15	15	15
後期	14+1	14+1	15	15	15
計	30	30	30	30	30

10　OCTOBER

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

11　NOVEMBER

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

12　DECEMBER

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

1　JANUARY

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2　FEBRUARY

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

3　MARCH

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

講　義　　振替講義日

進級発表　　試　験

オリエンテーション ガイダンス

4/29～5/5　特別休暇

2年

CALENDAR
2026～2027

4　APRIL

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

5　MAY

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6　JUNE

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7　JULY

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8　AUGUST

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9　SEPTEMBER

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

授業コマ数（1年～4年）

	月	火	水	木	金
前期	14+1	15	15	15	15
後期	14+1	14+1	15	15	15
計	30	30	30	30	30

10　OCTOBER

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

11　NOVEMBER

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

12　DECEMBER

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

1　JANUARY

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2　FEBRUARY

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

3　MARCH

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

講　義　　振替講義日

進級発表　　試　験

オリエンテーション ガイダンス

4/29～5/5　特別休暇

3年

CALENDAR
2026～2027

4　APRIL

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

5　MAY

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6　JUNE

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7　JULY

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8　AUGUST

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9　SEPTEMBER

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

授業コマ数（１年～４年）

	月	火	水	木	金
前期	14+1	15	15	15	15
後期	14+1	14+1	15	15	15
計	30	30	30	30	30

10　OCTOBER

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

11　NOVEMBER

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

12　DECEMBER

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

1　JANUARY

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2　FEBRUARY

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

3　MARCH

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

講　義　　振替講義日

進級発表　　試　験

オリエンテーション ガイダンス

4/29～5/5　特別休暇

4年

CALENDAR
2026～2027

4　APRIL

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

5　MAY

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6　JUNE

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7　JULY

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8　AUGUST

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9　SEPTEMBER

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

授業コマ数（1年～4年）

	月	火	水	木	金
前期	14+1	15	15	15	15
後期	14+1	14+1	15	15	15
計	30	30	30	30	30

10　OCTOBER

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

11　NOVEMBER

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

12　DECEMBER

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

1　JANUARY

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2　FEBRUARY

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

3　MARCH

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

講　義　　振替講義日

進級発表　　試　験

オリエンテーション ガイダンス

4/29～5/5　特別休暇

5年

CALENDAR
2026～2027

4　APRIL

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

5　MAY

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6　JUNE

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7　JULY

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8　AUGUST

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9　SEPTEMBER

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

10　OCTOBER

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

11　NOVEMBER

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

12　DECEMBER

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

1　JANUARY

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2　FEBRUARY

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

3　MARCH

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

講　義　　試　験

ガイダンス
登院式　　進級発表

4/29～5/5　特別休暇

6年

CALENDAR
2026～2027

4　APRIL

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

5　MAY

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6　JUNE

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7　JULY

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8　AUGUST

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9　SEPTEMBER

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

10　OCTOBER

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

11　NOVEMBER

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

12　DECEMBER

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

1　JANUARY

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2　FEBRUARY

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

3　MARCH

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

講　義　　試　験
強化講義　　ガイダンス
卒業発表　　予備日

4/29～5/5　特別休暇

2026年度　歯学部授業時間割〈第１学年〉311教室

学期	時限	8：40〜8：50	1 8：50〜9：50		2 10：00〜11：00	11：00〜11：10	3 11：10〜12：10	4 13：00〜14：00	5 14：10〜15：10	6 15：20〜16：20	7 16：30〜17：30
前期	月	補講枠 8：40〜9：40		補講枠 9：50〜10：50		朝礼	科目選択 ゼミナール	総合演習１D			
	火	朝礼	臨床歯学概論	歯科医学演習			歯科医学演習	歯科医療概論	基礎化学	基礎化学	エレクティブ スタディ
	水		情報リテラシーⅠ	日本語学Ⅰ			日本語学Ⅰ	英語基礎 ※歯学薬学合同	英語Ⅰ ※歯学薬学合同		
	木		基礎生物学	基礎生物学			統計数理学	心理学	基礎物理学	基礎物理学	エレクティブ スタディ
	金		基礎歯学概論Ⅰ	美術			美術	生物学実験 （歯学・薬学実習棟２F128室）			
後期	月	試験／補講枠 8：40〜9：40		試験／補講枠 9：50〜10：50		朝礼	科目選択 ゼミナール	総合演習１D			
	火	朝礼	基礎生物学	基礎生物学			医療倫理学	情報リテラシーⅠ	歯科医療人間学Ⅰ	歯科医療人間学Ⅰ	エレクティブ スタディ
	水		臨床心理学	日本語学Ⅰ			日本語学Ⅰ	英語基礎 ※歯学薬学合同	英語Ⅰ ※歯学薬学合同	経営学	
	木		物理学実験 （歯学・薬学実習棟２F125室）					統計数理学	基礎化学	基礎化学	エレクティブ スタディ
	金		基礎歯学概論Ⅰ	基礎物理学			基礎物理学	化学実験 （歯学・薬学実習棟３F131室）			

2026年度　歯学部授業時間割〈第２学年〉312教室

学期	時限	8：40〜8：50	1 8：50〜9：50		2 10：00〜11：00	11：00〜11：10	3 11：10〜12：10	4 13：00〜14：00	5 14：10〜15：10	6 15：20〜16：20	7 16：30〜17：30
前期	月	補講枠 8：40〜9：40		補講枠 9：50〜10：50		朝礼	科目選択 ゼミナール	総合演習２D			
	火	朝礼	解剖学	口腔組織学			口腔組織学	口腔生理学Ⅰ	物理学	物理学	エレクティブ スタディ
	水		化学	化学			社会学	生物学	生物学	歯科医療人間学Ⅱ	
	木		口腔解剖学	口腔解剖学			口腔解剖学実習 （解剖棟実習室）				エレクティブ スタディ
	金		日本語学Ⅱ	英語Ⅱ			口腔感染免疫学Ⅰ	情報リテラシーⅡ	基礎歯学概論Ⅱ	基礎歯学概論Ⅱ	
後期	月	試験／補講枠 8：40〜9：40		試験／補講枠 9：50〜10：50		朝礼	科目選択 ゼミナール	公衆衛生学	総合演習２D		
	火	朝礼	口腔組織学実習 （歯学・薬学実習棟２F128室）					口腔組織学	口腔組織学	口腔解剖学	エレクティブ スタディ
	水		口腔生理学Ⅰ	口腔生理学Ⅰ			口腔生化学Ⅰ	口腔生理学実習 （歯学・薬学実習棟３F131室）			
	木		解剖学	解剖学			解剖学実習 （解剖棟実習室）				エレクティブ スタディ
	金		歯科薬理学Ⅰ	英語Ⅱ			口腔感染免疫学Ⅰ	情報リテラシーⅡ	生体材料・ 歯科材料学Ⅰ	生体材料・ 歯科材料学Ⅰ	

2026年度　歯学部授業時間割〈第３学年〉313教室

学期	時限	8：40〜8：50	1 8：50〜9：50	9：50〜10：00	2 10：00〜11：00	11：00〜11：10	3 11：10〜12：10	4 13：00〜14：00	5 14：10〜15：10	6 15：20〜16：20	7 16：30〜17：30
前期	月	補講枠 8：40〜9：40		朝礼	口腔病理学		口腔病理学	社会歯科学	歯科医療人間学Ⅲ	総合演習３D	
	火	朝礼	口腔外科学Ⅰ		生体材料・ 歯科材料学Ⅱ		生体材料・ 歯科材料学Ⅱ	口腔生化学実習 （歯学・薬学実習棟３F131室）			エレクティブ スタディ
	水		歯科薬理学Ⅱ		歯科薬理学Ⅱ		口腔生理学Ⅱ	歯科薬理学実習 （歯学・薬学実習棟２F125室）			科目選択 ゼミナール CBT 対策
	木		口腔感染免疫学Ⅱ		口腔感染免疫学Ⅱ		口腔内科学	口腔感染免疫学実習 （歯学・薬学実習棟２F128室）			エレクティブ スタディ
	金		生体材料・歯科材料学実習 （基礎棟２階実習室）					口腔生化学Ⅱ	口腔生化学Ⅱ	口腔衛生学	科目選択 ゼミナール CBT 対策
後期	月	試験／補講枠 8：40〜9：40		試験／補講枠 9：50〜10：50		朝礼	総合演習３D	総合演習３D	保存修復学Ⅰ	保存修復学Ⅰ	
	火	朝礼	口腔外科学Ⅰ		有床義歯補綴学Ⅰ		有床義歯補綴学Ⅰ	有床義歯補綴学Ⅰ実習 （基礎棟２階実習室）			エレクティブ スタディ
	水		口腔衛生学実習 （歯学・薬学実習棟２F125室）					口腔衛生学	高齢者歯科学Ⅰ	災害歯科医学	科目選択 ゼミナール CBT 対策
	木		口腔病理学		口腔病理学		口腔内科学	口腔病理学実習 （歯学・薬学実習棟２F128室）			エレクティブ スタディ
	金		歯科医療管理学		冠橋義歯補綴学Ⅰ		有床義歯補綴学Ⅰ	歯科放射線学Ⅰ	歯科放射線学Ⅰ	総合臨床医学	科目選択 ゼミナール CBT 対策

2026年度　歯学部授業時間割〈第４学年〉332教室

学期	時限	8：40〜8：50	1 8：50〜9：50	9：50〜10：00	2 10：00〜11：00	11：00〜11：10	3 11：10〜12：10	4 13：00〜14：00	5 14：10〜15：10	6 15：20〜16：20	7 16：30〜17：30
前期	月	補講枠 8：40〜9：40		朝礼	歯内療法学		有床義歯補綴学Ⅱ	口腔インプラント学／実習 （基礎棟２階実習室）			
	火	朝礼	小児歯科学		小児歯科学		保存修復学Ⅱ	歯科矯正学	歯科麻酔学	歯科麻酔学	エレクティブ スタディ
	水		小児歯科学実習 （基礎棟２階実習室）					保存修復学実習 （基礎棟２階実習室）			科目選択 ゼミナール CBT 対策
	木		歯周病学		冠橋義歯補綴学Ⅱ		冠橋義歯補綴学Ⅱ	冠橋義歯補綴学実習 （基礎棟２階実習室）			エレクティブ スタディ
	金		口腔外科学Ⅱ		有床義歯補綴学Ⅱ		有床義歯補綴学Ⅱ	有床義歯補綴学Ⅱ実習 （基礎棟２階実習室）			科目選択 ゼミナール CBT 対策
後期	月	試験／補講枠 8：40〜9：40		試験／補講枠 9：50〜10：50		朝礼	総合演習４D		臨床総合演習（OSCE）		
	火	朝礼	小児歯科学		歯内療法学		歯内療法学	歯内療法学実習 （基礎棟１階実習室）			エレクティブ スタディ
	水		歯科放射線学Ⅱ		歯周病学		歯周病学	歯周病学実習 （基礎棟２階実習室）			科目選択 ゼミナール CBT 対策
	木		高齢者歯科学Ⅱ		歯科矯正学		歯科矯正学	歯科矯正学実習 （基礎棟２階実習室）			エレクティブ スタディ
	金		口腔外科学Ⅱ		口腔外科学Ⅲ		障害者歯科学	歯科麻酔学	歯科麻酔学	総合演習４D	科目選択 ゼミナール CBT 対策

2026年度　歯学部授業時間割〈第６学年〉

学期	時限	8：40〜8：50	1 8：50〜9：50	2 10：00〜11：00	3 11：10〜12：10	4 13：00〜14：00	5 14：10〜15：10	6 15：20〜16：20	7 16：30〜17：30
通年	月	朝礼	有床義歯補綴学 56コマ		医療管理学 14コマ 医療倫理学 14コマ	歯科麻酔学 42コマ 歯周病学 42コマ			
	火		歯科放射線学 28コマ 口腔病理学 28コマ		歯科薬理学 14コマ 災害歯科医学 7コマ 歯学史／歯科英語 7コマ	保存修復学 42コマ 高齢者歯科学 42コマ			
	水		口腔解剖学 28コマ 口腔感染免疫学 28コマ		口腔インプラント学 14コマ 障害者歯科学 14コマ	小児歯科学 42コマ 歯内療法学 42コマ			
	木		生体材料・歯科材料学 28コマ 口腔組織学 28コマ		総合臨床医学 14コマ 口腔生化学 14コマ	口腔外科学 63コマ 口腔内科学 21コマ			
	金		公衆衛生学／口腔衛生学 56コマ		社会歯科学 14コマ 口腔生理学 14コマ	冠橋義歯補綴学 42コマ 歯科矯正学 42コマ			

※講義：第１講義室（第２講義棟）　※斜線のコマは隔週で講義を実施する

2026年度カリキュラム表

単位区分　a：講義，b：演習，c：実験・実習・実技

授業				単位		授業時間数										
区分	分類	科目	番号	区分	数	1年		2年		3年		4年		5年	6年	計
						前	後	前	後	前	後	前	後	通年	通年	
A 教養系教育・基礎科学教育	1 リベラルアーツ	美術	01	b	1	30										30
		社会学	02	a	1			15								15
		統計数理学	03	a	2	15	15									30
		情報リテラシーⅠ	04	b	1	15	15									30
		情報リテラシーⅡ	05	b	1			15	15							30
		英語基礎	06	b	1	15	15									30
		英語Ⅰ	07	b	1	15	15									30
		英語Ⅱ	08	b	1			15	15							30
		心理学	09	a	1	15										15
		経営学	10	a	1		15									15
		日本語学Ⅰ	11	a	4	30	30									60
		日本語学Ⅱ	12	a	1			15								15
	2 医学概論	臨床心理学	01	a	1		15									15
		医療倫理学	02	a	1		15									15
		歯科医学演習	03	b	1	30										30
		歯科医療概論	04	a	1	15										15
		基礎歯学概論Ⅰ	05	a	2	15	15									30
		基礎歯学概論Ⅱ	06	a	2			30								30
		臨床歯学概論	07	a	1	15										15
		社会歯科学	08	a	1					15						15
		歯科医療管理学	09	a	1						15					15
	3 自然科学	基礎物理学	01	a	4	30	30									60
		物理学	02	a	2			30								30
		物理学実験	03	c	1		45									45
		基礎化学	04	a	4	30	30									60
		化学	05	a	2			30								30
		化学実験	06	c	1		45									45
		基礎生物学	07	a	4	30	30									60
		生物学	08	a	2			30								30
		生物学実験	09	c	1	45										45
	4 歯科医療人間学	Ⅰ	01	a	2		30									30
		Ⅱ	02	a	1			15								15
		Ⅲ	03	a	1					15						15
	小計			52		345	360	195	30	30	15	0	0	0	0	975
B 生命科学教育	5 歯科基礎医学	解剖学	01	a	3			15	30							45
		解剖学実習	02	c	1				60							60
		口腔解剖学	03	a	3			30	15							45
		口腔解剖学実習	04	c	1			60								60
		口腔組織学	05	a	4			30	30							60
		口腔組織学実習	06	c	1				45							45
		口腔生理学Ⅰ	07	a	3			15	30							45
		口腔生理学Ⅱ	08	a	1					15						15
		口腔生理学実習	09	c	1				45							45
		口腔生化学Ⅰ	10	a	1				15							15
		口腔生化学Ⅱ	11	a	2					30						30
		口腔生化学実習	12	c	1					45						45
		口腔衛生学	13	a	2					15	15					30
		口腔衛生学実習	14	c	1						45					45
		公衆衛生学	15	a	1				15							15

授業				単位		授業時間数										
区分	分類	科目	番号	区分	数	1年		2年		3年		4年		5年	6年	計
						前	後	前	後	前	後	前	後	通年	通年	
B 生命科学教育	6 歯科基礎病態学	口腔感染免疫学Ⅰ	01	a	2			15	15							30
		歯科薬理学Ⅰ	02	a	1				15							15
		生体材料・歯科材料学Ⅰ	03	a	2				30							30
		口腔病理学	04	a	4					30	30					60
		口腔病理学実習	05	c	1						45					45
	7 歯科基礎治療学	口腔感染免疫学Ⅱ	01	a	2					30						30
		口腔感染免疫学実習	02	c	1					45						45
		歯科薬理学Ⅱ	03	a	2					30						30
		歯科薬理学実習	04	c	1					45						45
		生体材料・歯科材料学Ⅱ	05	a	2					30						30
		生体材料・歯科材料学実習	06	c	1					45						45
	小計			45		0	0	165	345	360	135	0	0	0	0	1,005
C 口腔科学教育	8 歯科口腔病態学	総合臨床医学	01	a	1						15					15
		保存修復学Ⅰ	02	a	2						30					30
		冠橋義歯補綴学Ⅰ	03	a	1						15					15
		有床義歯補綴学Ⅰ	04	a	3						45					45
		災害歯科医学	05	a	1						15					15
		高齢者歯科学Ⅰ	06	a	1						15					15
		障害者歯科学	07	a	1								15			15
		口腔内科学	08	a	2					15	15					30
		口腔外科学Ⅰ	09	a	2					15	15					30
		歯科麻酔学	10	a	4							30	30			60
		歯科放射線学Ⅰ	11	a	2						30					30
	9 歯科口腔診断学	歯内療法学	01	a	3							15	30			45
		歯周病学	02	a	3							15	30			45
		保存修復学Ⅱ	03	a	1							15				15
		冠橋義歯補綴学Ⅱ	04	a	2							30				30
		有床義歯補綴学Ⅱ	05	a	3							45				45
		口腔インプラント学	06	a	1							15				15
		高齢者歯科学Ⅱ	07	a	1								15			15
		口腔外科学Ⅱ	08	a	2							15	15			30
		口腔外科学Ⅲ	09	a	1								15			15
		歯科矯正学	10	a	3							15	30			45
		小児歯科学	11	a	3							30	15			45
		歯科放射線学Ⅱ	12	a	1								15			15
	10 歯科口腔治療学	保存修復学実習	01	c	1							45				45
		歯内療法学実習	02	c	1								45			45
		歯周病学実習	03	c	1								45			45
		冠橋義歯補綴学実習	04	c	1							45				45
		有床義歯補綴学Ⅰ実習	05	c	1						45					45
		有床義歯補綴学Ⅱ実習	06	c	1							45				45
		口腔インプラント学実習	07	c	1							30				30
		歯科矯正学実習	08	c	1								45			45
		小児歯科学実習	09	c	1							45				45
	11 臨床総合演習		01	b	2								24			24
	12 臨床実習		01	c	30									1,428		1,428
	13 臨床総合講義		01	b	10										403	403
	小計			95		0	0	0	0	30	240	435	369	1,428	403	2,905
合計				192		345	360	360	375	420	390	435	369	1,428	403	4,885

科目ナンバリング（ユニパ No.）

D ③④ C-a2-3808（D3808）

歯学部/DP*/授業区分－単位区分/単位数－学年/授業分類/科目

＊ DP ＝ディプロマポリシー（P１参照）

アセスメントポリシー

歯学部では６つのディプロマポリシーを身に付けるため，カリキュラム表に記載された授業科目をカリキュラムマップに沿った流れで６年間をかけて履修します。各授業は，その特性に応じて講義（１単位15時間），演習（１単位30時間），実験・実習・実技（１単位30～45時間）に区分し，以下の方針に則り，科目ごと，あるいは学年ごとに評価し，進級および卒業判定します。

１．歯科医学は常に新しくなり，進化する学問であるため，教育の順次性が重要であることを踏まえ，単位は必修とし，進級しなければ，当該学年の単位はすべて失います。
２．知識と技能の取りこぼしや遅れを生じさせることなく，体調管理や健康への意識と授業に出席する大切さや責任感を重んじて，履修科目に加え，時間割に記載したすべての枠毎に80％以上の出席を必須とします。
３．各学年では少人数（５～10人程度）に分けたクラスに担任を置き，随時，授業の到達度や進捗状況を面談・指導しながら，到達目標に至る道程を明らかにします。
４．講義や演習の科目では，知識とその応用力を多肢選択問題や記述試験，口頭試問により達成度を評価します。科目によってはレポートや小テスト，各科目で適宜行われる試験などを評価の資料にします。
５．実験や実習，実技の科目では技能，態度，コミュニケーション能力を筆記試験や口頭試問，実技試験，リクワイアメント，製作物，レポート，スケッチ，ポートフォリオなどを用いて評価します。
６．授業の評価は，各科目の評価方法に記載された基準に則り，達成度を数値化し100点満点で最終評価します。この最終評価において各学年の全科目で合格と判定されていることに加え，年度末に実施される総合試験に合格していることを進級要件とします。
７．第４学年では，次年度に臨床実習を行うことができる知識・技能・態度が備わっているかを共用試験（CBT と OSCE）で判定し，これに合格していることが第５学年（臨床実習）への進級要件に加わります。
８．第５学年の臨床実習では知識や技能に加え，プロフェッショナリズム（身だしなみ，協調的ふるまい，自己主導学習，コミュニケーション能力，および医療倫理）を態度の評価対象にします。また，共用試験（CPX と CSX）に合格していることが臨床実習終了の用件となります。
９．第６学年では歯科医師国家試験に準じた形式による卒業試験を行い卒業判定します。

このアセスメントポリシーは，年度当初および後期開始時に歯学部教育職につく全教員と全学生を対象に説明会を実施し，ポリシーを共有します。

各科目（略称）とオフィスアワーについて

オフィスアワー（Office Hour）は，各教員に対して学生が学業や学校生活全般に関する質問をしたり，相談あるいは個人的な指導等を受けるために設定された，広く学生に対して開かれた時間です。

下記の時間帯以外でも，在室時は質問・相談を受け付けますので，学生の皆さんは，有効にオフィスアワーを利用してください。

ただし，オフィスアワーに設定されている時間であっても，会議や出張等で在室できない場合がありますので掲載されているメールアドレスを使用して事前に連絡することをお勧めします。また，メールを使用して質問・相談等も受け付けますので，有効に活用してください。

科目分野(略称)	職名	氏名	メールアドレス	曜　日	時　間	場　所
口腔解剖学(解剖)	教授	宇佐美晶信	a-usami@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	解剖学棟
	教授	今井　元	ha-imai@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	歯学・薬学実習棟３階 教授室
	准教授	芹川　雅光	m-serikawa@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	解剖学棟
口腔組織学(組織)	教授	安部　仁晴	k-ambe@den.ohu-u.ac.jp	月～金	16:30～17:30	歯学・薬学実習棟３階 教授室
	准教授	荒木　啓吾	k-araki@den.ohu-u.ac.jp	水	17:00～17:30	基礎棟４階 口腔組織学研究室
	講師	森山　光	h-moriyama@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	基礎棟４階 口腔組織学研究室
口腔感染免疫学(感染)	教授	玉井利代子	r-tamai@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	歯学・薬学実習棟３階 教授室
	教授	清浦　有祐	y-kiyoura@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	基礎棟５階 口腔感染免疫学研究室
	准教授	山家　尚仁	n-yanbe@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	基礎棟５階 口腔感染免疫学研究室
	講師	眞島いづみ	i-mashima@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	基礎棟５階 口腔感染免疫学研究室
口腔病理学(病理)	教授	遊佐　淳子	j-yusa@den.ohu-u.ac.jp	水	16:30～17:30	歯学・薬学実習棟３階 教授室
歯科薬理学(薬理)	教授	柴田　達也	t-shibata@den.ohu-u.ac.jp	月	17:00～17:45	歯学・薬学実習棟３階 教授室
	講師	長岡　正博	m-nagaoka@den.ohu-u.ac.jp	月	16:30～17:30	歯学・薬学実習棟３階 歯科薬理学研究室
	講師	髙橋文太郎	f-takahashi@den.ohu-u.ac.jp	月	16:30～17:30	歯学・薬学実習棟３階 歯科薬理学研究室
口腔生理学(生理)	教授	山崎　信也	s-yamazaki@den.ohu-u.ac.jp	木	16:40～17:30	病院棟５階 歯科麻酔学研究室
	講師	大須賀謙二	k-osuga@den.ohu-u.ac.jp	火	16:40～17:30	基礎棟３階 口腔生理学研究室
	講師	古山　昭	a-furuyama@den.ohu-u.ac.jp	月	16:40～17:30	基礎棟３階 口腔生理学研究室
口腔生化学(生化)	教授	前田　豊信	t-maeda@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	歯学・薬学実習棟３階 教授室
	教授	加藤　靖正	y-katou@den.ohu-u.ac.jp	月	16:30～17:30	歯学・薬学実習棟３階 教授室
	講師	神林　直大	n-kamibayashi@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 口腔外科研究室
生体材料学(材料)	教授	石田　喜紀	y-ishida@den.ohu-u.ac.jp	水	17:15～17:45	歯学・薬学実習棟３階 教授室
	講師	大木　達也	t-ohki@den.ohu-u.ac.jp	水	17:15～17:45	基礎棟３階 歯科理工学研究室
	講師	齋藤　龍一	r-saito@den.ohu-u.ac.jp	水	17:15～17:45	基礎棟３階 歯科理工学研究室
口腔衛生学(衛生)	教授	南　健太郎	k-minami@den.ohu-u.ac.jp	月～金	17:00～17:30	歯学・薬学実習棟３階 教授室
	准教授	中川　敏浩	t-nakagawa@den.ohu-u.ac.jp	水	12:20～13:15	基礎棟５階 口腔衛生学第１研究室
	准教授	小林美智代	m-kobayashi@den.ohu-u.ac.jp	月～金	17:00～17:30	基礎棟５階 口腔衛生学第１研究室
保存修復学(修復)	教授	山田　嘉重	y-yamada@den.ohu-u.ac.jp	月～木	17:00～17:30	病院棟５階 教授室
	准教授	菊井　徹哉	t-kikui@den.ohu-u.ac.jp	月～木	17:00～17:30	病院棟２階 歯科保存学研究室 No.4
	講師	大木　英俊	h-ooki@den.ohu-u.ac.jp	月～木	17:00～17:30	病院棟２階 歯科保存学研究室 No.5
歯内療法学(歯内)	准教授	佐藤　穏子	ya-sato@den.ohu-u.ac.jp	木	17:00～17:30	病院棟３階 歯科保存学講座研究室７
	講師	長﨑　慶太	k-nagasaki@den.ohu-u.ac.jp	水	17:00～17:30	病院棟３階 歯科保存学講座研究室７
	講師	金澤　朋昭	t-kanazawa@den.ohu-u.ac.jp	水	17:00～17:30	病院棟３階 歯科保存学講座研究室７
歯周病学(歯周)	教授	臼井　通彦				病院棟５階 教授室
	講師	高橋　昌宏	m-takahashi@den.ohu-u.ac.jp	水	17:00～17:30	病院棟２階 歯科保存学研究室１
冠橋義歯学(冠橋)	教授	羽鳥　弘毅	k-hatori@den.ohu-u.ac.jp	金	17:00～17:30	病院棟５階 教授室
	准教授	冨士　岳志	t-fuji@den.ohu-u.ac.jp	金	17:00～17:30	病院棟３階 歯科補綴学講座研究室５
	講師	内田　光洋	m-uchida@den.ohu-u.ac.jp	月水	17:00～17:30	病院棟３階 歯科補綴学講座研究室

科目分野(略称)	職名	氏名	メールアドレス	曜　日	時　間	場　所
有床義歯学(有床)	教授	高津　匡樹	m-takatsu@den.ohu-u.ac.jp			病院棟５階 教授室
	講師	池田　敏和	t-ikeda@den.ohu-u.ac.jp	金	17:00～17:45	病院棟３階 歯科補綴学講座研究室
	講師	内山　梨夏	r-uchiyama@den.ohu-u.ac.jp	金	17:00～17:45	病院棟３階 歯科補綴学講座研究室
口腔インプラント学(イン)	講師	保田　穣	y-yasuda@den.ohu-u.ac.jp	水	17:00～17:30	病院棟３階 口腔インプラント学研究室
高齢者歯科学(高齢)	教授	鈴木　史彦	f-suzuki@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 教授室
	准教授	北條健太郎	k-hojyo@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 高齢者歯科
	講師	渡邉　聡	s-watanabe@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 高齢者歯科
口腔外科学(口外)	教授	髙田　訓	s-takada@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 教授室
	教授	金　秀樹	h-kon@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 教授室
	教授	森　一将				病院棟５階 教授室
	講師	小嶋　忠之	t-kojima@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 口腔外科研究室
	講師	西　祐也	y-nishi@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟６階 口腔外科研究室
	講師	山崎　北斗	ho-yamazaki@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟６階 口腔外科研究室
歯科麻酔学(麻酔)	教授	川合　宏仁	h-kawai@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 歯科麻酔学研究室
	准教授	安部　将太	sh-abe@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 歯科麻酔学研究室
	講師	佐藤　光	h-satou @ den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 歯科麻酔学研究室
障害者歯科学(障害)	准教授	吉田　健司	ke-yoshida @ den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 障害者歯科学研究室
	講師	加川千鶴世	c-kagawa@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 障害者歯科学研究室
	講師	赤穂　麗子	r-akaho@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 障害者歯科学研究室
歯科矯正学(矯正)	教授	川鍋　仁	h-kawanabe@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 教授室
	准教授	山野辺晋也	s-yamanobe@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟３階 成長発育歯学３
	講師	松村　賢史	t-matsumura@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟３階 成長発育歯学３
	講師	根本奈央子	n-nemoto@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟３階 成長発育歯学３
	講師	荻野　早紀	s-ogino@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟３階 成長発育歯学３
小児歯科学(小児)	教授	島村　和宏	k-shimamura@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 教授室
	講師	神庭　優衣	y-asaka@den.ohu-u.ac.jp	水	17:00～17:30	病院棟３階 成長発育歯学１
歯科放射線学(放射)	教授	川原　一郎	i-kawahara@den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 教授室
	講師	茂呂祐利子	y-moro@den.ohu-u.ac.jp	月	16:30～17:30	病院棟１階 放射線診断学講座研究室
	講師	臼田　真浩	m-usuda @ den.ohu-u.ac.jp	木	16:30～17:30	病院棟５階 口腔外科研究室
	講師	矢口　剛士	t-yaguchi@den.ohu-u.ac.jp	火	16:30～17:30	病院棟１階 放射線診断学講座研究室
総合臨床医学(医学)	教授	風間　咲美	s-kazama@den.ohu-u.ac.jp	木金	15:30～17:45	病院棟５階 教授室
物理学(物理)	教授	原田　卓哉	t-harada@den.ohu-u.ac.jp	金	16:30～17:30	病院棟１階 放射線診断学講座研究室
	准教授	荒木　威	t-araki@den.ohu-u.ac.jp	月～金	16:30～17:30	歯学・薬学実習棟３階 研究室
化学	講師	阿部　匡聡	m-abe@den.ohu-u.ac.jp	月	16:45～17:45	歯学・薬学実習棟３階 研究室
	講師	斎藤昇太郎	s-saito@den.ohu-u.ac.jp	月	16:30～17:30	歯学・薬学実習棟３階 研究室
日本語学(日本語)	准教授	本多　真史	m-honta@den.ohu-u.ac.jp	木	12:10～13:00	歯学・薬学実習棟３階 研究室
心理学(心理)	講師	佐藤　歩	ay-sato@den.ohu-u.ac.jp	火	12:10～13:00	歯学・薬学実習棟３階 カウンセリング室
英語	講師	長峯　英樹	h-nagamine@den.ohu-u.ac.jp	水	16:30～17:30	歯学・薬学実習棟３階 研究室
美術	非常勤講師	渡部　憲生	n-watanabe@educ.fukushima-u.ac.jp	金	12:10～13:00	第３講義棟２階非常勤講師控室
社会学	非常勤講師	高橋　嘉代	workscr22s @ hotmail.com	水	12:10～13:00	第３講義棟２階非常勤講師控室

Ⅰ．規　　定

１．学　　則（抜粋）

第１章　総　　則

（目的）

第１条　奥羽大学（以下「本学」という。）は，教育基本法並びに学校教育法に基づき，広く知識を養うと共に，深く専門の学芸を教授研究し，知的，道徳的及び応用的能力を育成し，国民の福祉と文化の発展に寄与することとし各学部のその目的は，次の各号のとおりとする。

⑴　歯学部は，高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師を養成することを目的とする。

⑵　薬学部は，高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな薬剤師を養成することを目的とする。

２　本学は，前項の目的を達成するために，教育研究等の状況について自ら点検及び評価を行い，その結果を公表するものとする。なお，点検及び評価については「奥羽大学自己点検・自己評価規程」として別に定める。

第２章　学 部 構 成

（学部学科）

第２条　本学に次の学部及び学科を置く。

歯学部　歯学科

薬学部　薬学科

第３章　修業年限及び入学定員

（修業年限）

第３条　本学の修業年限は，歯学部及び薬学部は６年とする。

２　歯学部においては，修業年限の２倍を超えて在学することはできない。

ただし，在学期間は同一学年において３年を超えることはできない。

３　薬学部においては，修業年限の２倍を超えて在学することはできない。

（入学定員及び収容定員）

第４条　本学の入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

⑴　歯学部　歯学科　入学定員　80名　収容定員　480名

⑵　薬学部　薬学科　入学定員　100名　収容定員　600名

第４章　学年，学期及び休業日

（学年）

第５条　学年は，４月１日に始まり，翌年３月31日に終わる。

（学期）

第６条　学年を次の２期に分ける。

前期　　４月１日から９月30日まで

後期　　10月１日から翌年３月31日まで

（休業日）

第７条　省略

第５章　授業科目，履修方法及び講座

（授業科目の区分）

第８条　各学部において開設する授業科目は，次の区分とする。

⑴　歯学部　教養系教育，基礎科学教育科目，生命科学教育科目，口腔科学教育科目

⑵　薬学部　基礎教育科目，専門教育科目

第９条　省略

（開設授業科目及び履修方法）

第10条　歯学部においては，その教育研究上の目的を達成するため，講座制をとる。

２　次の講座をおく。

基礎講座	臨床講座
生体構造学講座	歯科保存学講座
口腔病態解析制御学講座	歯科補綴学講座
口腔機能分子生物学講座	口腔外科学講座
生体材料学講座	成長発育歯学講座
口腔衛生学講座	放射線診断学講座

（単位の算定）

第11条　各授業科目に対する単位数は，１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間外に必要な学修等を考慮して，次の基準により単位数を計算するものとする。

⑴　講義については，15時間の授業をもって１単位とする。

⑵　演習については，30時間の授業をもって１単位とする。

⑶　実験，実習及び実技については，30時間から45時間までの範囲で本学が各授業科目について定める時間の授業をもって１単位とする。

２　前項の規定にかかわらず，薬学部における特別実習に対する単位数は６単位とする。

（選択科目の申請）

第12条　選択履修する授業科目は，毎学年所定の期間に申請しなければならない。

第６章　職　　員（省略）

第７章　教　授　会（省略）

第８章　入学，編入学，転学，休学，復学，退学及び再入学

（入学の時期）

第19条　入学時期は，学年の始めとする。

（入学資格及び入学者の選考）

第20条　本学に入学することのできる者は，次の各号の一に該当する者とする。

⑴　高等学校又は中等教育学校を卒業した者

⑵　通常の課程による12年の学校教育を修了した者

⑶　通常の課程以外の課程によって，前号に相当する学校教育を修了した者

⑷　外国において，学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

⑸　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

⑹　文部科学大臣の指定した者

⑺　高等学校卒業程度認定試験規則により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者

2　本学への入学志願者については，能力，資質，人物，健康等を考慮して選考する。

（編入学）

第21条　次の各号の一に該当する者で，本学の各学部に編入学を志願する者があるときは，欠員のある場合に限り，選考のうえ相当年次に入学を許可することができる。

⑴　大学を卒業した者又は大学に１年以上在学した者

⑵　短期大学又は高等専門学校を卒業した者

（転学）

第22条　学長は，他の大学に転学を願い出る者があるときは，当該学部教授会の議を経て，これを許可することができる。

2　学長は，本学の学部の一から他の学部に転学を願い出る者があるときは，当該学部教授会の議を経て，これを許可することができる。

3　他の大学に転学したものは，除籍する。

（入学試験等）

第23条　入学試験期日，試験科目及び出願期間は，毎年度これを定める。

（入学願書等）

第24条　入学を志願する者は，指定の期間中に，入学検定料その他別に定める書類等を提出又は納入しなければならない。

（入学書類等）

第25条　入学を許可された者は，指定の期日までに，次の各号に掲げる書類等を提出又は納入しなければならない。

⑴　住民票

⑵　所定の誓約書

⑶　在学保証書

⑷　出身校の卒業又は修了証明書

⑸　入学金及び授業料その他の納付金

（在学保証書）

第26条　入学（編入学及び再入学を含む。）を許可された者は，その者の身上及び本学に対する債務に関し，独立の生計を営む成年者で，入学時の在学保証書に定めてある負担債務内容及び損害・賠償金の極度額を責任を負うことのできる保証人２名が連署した在学保証書を提出しなければならない。

2　前項の保証人が欠け，又は変更の必要がある場合は，新たに保証人を定め，直ちに在学保証書を提出しなければならない。

（休学）

第27条　病気その他やむを得ない理由によって，引き続き３か月以上修学することができないと認められる者は，その事実を証明する書類を添え，保証人連署のうえ学長に願い出て，その許可を得て休学することができる。

2　学長は，必要により休学を命ずることがある。

3　休学期間は，当該年度限りとする。特別の事由があるときは，引き続き休学期間を延長することができる。ただし，通算して３年を超えることはできない。

4　休学期間は，第３条の在学期間に算入しない。

（復学）

第28条　休学の理由の止んだ者は，学長の許可を得て原学年に復学することができる。

2　復学願いには，保証人の連署を必要とし，疾病によって休学した者は，本学附属病院又は本学が指定する医療機関の診断書を添付しなければならない。

（退学）

第29条　病気その他やむを得ない理由により退学しようとする者は，その理由を証明する書類を添え，保証人連署のうえ，学長に退学願を提出して許可を受けなければならない。

（再入学）

第30条　学長は，退学した者又は除籍された者が２年以内に再入学を願い出たときは，選考のうえ，当該学部教授会の議を経て許可することがある。この場合には，既修授業科目の全部又は一部について再履修を命ずることがある。

第９章　入学検定料，入学金，授業料その他納付金

（入学検定料）

第31条　本学に入学を志願する者は，入学検定料（歯学部40,000円，薬学部30,000円）を入学願書に添えて納入するものとする。

（入学金等及び再入学金）

第32条　入学を許可された者は，所定の期日までに次表の入学金，授業料等を納付しなければならない。ただし，第30条の規定により再入学を許可された者は，入学金の２分の１を納入するものとする。なお，歯学部３年次及び４年次編入学を許可された者は，所定の期日までに入学金，授業料，歯学教育充実費を納付しなければならない。

	歯　学　部	薬　学　部
入　　学　　金	500,000 円	200,000 円
授　　業　　料	3,500,000 円	1,500,000 円

	歯　学　部
歯学教育充実費	3,500,000 円

（授業料の納入，退学及び休学の授業料）

第33条　学籍にある者は，次表の授業料を納めなければならない。

	歯　学　部	薬　学　部
授　　業　　料	3,500,000 円	1,500,000 円

２　授業料その他定められたものは年額とし，次の２期に分けて２分の１額ずつ分納することができる。

前期４月30日まで

後期10月31日まで

３　休学者に係わる第１項に定める授業料の納付金は，学期毎に１期分の３分の１を休学費として納入しなければならない。

４　学長は，授業料の納付を怠り，督促を受けてもなお納入しない者については，当該学部教授会の議を経て除籍することができる。

（実験実習費）

第34条　学生の実験実習に要する費用は，別にこれを徴収することがある。

（学費の変更）

第35条　在学中において授業料及びその他の納付金に変更があったときは，新たに定められた金額に基づいて納入しなければならない。

（返還）

第36条　既に納入した入学検定料，入学金，授業料及びその他の納付金は，いかなる事情があっても返還しない。

２　入学時所定の期日までに入学許可の取り消し又は入学を辞退した者にあっては，その者の請求により授業料及びその他の納付金を返還することがある。

第10章　学修の評価，進級及び卒業

（学修の評価）

第37条　履修した授業科目については，別に定める試験規程により，その成績を判定する。

２　科目の成績は，100点をもって満点とし，秀（100～90点），優（89～80点），良（79～70点），可（69～65点），不可（64点以下）の５種とする。秀，優，良，可は合格とし，不可は不合格とする。

（進級）

第38条　各学年所定の授業科目の試験に合格した者は進級とする。

２　ただし，歯学部においては各学年の総合試験に合格しなければならない。

（卒業の認定）

第39条　所定の授業科目を履修し，その単位を修得した者に対し卒業証書を授与する。ただし，歯学部においては卒業試験に合格しなければならない。

２　卒業試験に関する事項は，別に定める。

第11章　学位の授与

（学位の授与）

第40条　本学を卒業した者に対し，次の区分に従い学位を授与する。

歯学部　学士（歯学）

薬学部　学士（薬学）

第12章　賞　　罰

（表彰）

第41条　学業の優秀な者又は善行のあった者は，当該学部教授会の議を経て学長がこれを表彰することがある。

（懲戒）

第42条　学長は，学生がその本分に反する行為をし，又は本学の諸規程等に違反する行為があった場合は，当該学部教授会の議を経てこれを懲戒する。

２　懲戒を分けて訓告，停学及び退学とする。

３　前項の退学は，次の各号の一に該当する者について行う。

⑴　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

⑵　学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

⑶　正当の理由がなくて出席が常でない者

⑷　本学の秩序を乱し，その他学生としての本分に反した者

第13章　研究生，聴講生並びに委託生

（研究生，聴講生，委託生）

第43条　本学に研究生，聴講生並びに委託生の制度を設けることができる。

２　研究生，聴講生並びに委託生に関する事項は別に定める。

第14章　公 開 講 座

（公開講座）

第44条　本学に公開講座を設ける。

２　公開講座に関する事項は，別に定める。

第15章　大　学　院

（大学院）

第45条　本学に大学院歯学研究科を置く。

２　大学院歯学研究科の学則等については，別に定める。

第16章　附 属 施 設

（附属病院）

第46条　一般患者の診療及び学生の臨床実習に資するため，本学歯学部に附属病院を置く。

２　附属病院において開設する科目は，次のとおりとする。

⑴　歯　科（予診科，総合歯科，口腔インプラント科，地域医療支援歯科，歯科麻酔科，放射線科）

⑵　矯正歯科

⑶　小児歯科

⑷　歯科口腔外科

⑸　内　科

⑹　その他必要な診療科

３　附属病院の組織，管理及び運営その他必要な事項は，別に定める。

（附属薬用植物園）

第46条の２　本学薬学部に附属薬用植物園を置く。

２　附属薬用植物園の管理及び運営その他の必要な事項は，別に定める。

第17章　図　書　館

（図書館）

第47条　職員及び学生の研究，学修に資するため本学に図書館を置く。

２　図書館の管理運営その他必要な事項は，別に定める。

第18章　特待生制度

（特待生制度）

第48条　本学建学の主旨により，人物，成績，健康共に優秀な者には，これを特待生として授業料の全部又は一部を免除する制度を置く。

２　特待生制度に関する事項は，別に定める。

第19章　雑　　則

第49条　本学則のほかに教育，研究又は学生に関し必要な事項は，別に定める。

附　則

本学則は，平成18年４月１日から施行する。ただし，第３条及び第11条の薬学部については，平成18年度入学生から適用し，平成18年３月31日に在籍する者については，従前の学則とする。

２　大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）が廃止され，高等学校卒業程度認定試験規則が創設されたことにより，第22条についての経過措置として大学入学試験検定を受験し合格した者については，新規則（認定試験合格者）と読み替えるものとする。

附　則

本学則は，令和３年４月１日から施行する。

２．奥羽大学試験規程

第１章　総　　則

第１条　この規程は，学則第37条及び第38条に基づき，本学で実施する試験について定める。

第２章　試　　験

第２条　試験は，定期試験及び追・再試験とする。ただし，授業科目により適宜に行う試験及び学年別総合試験等もある。

第３条　定期試験は，科目毎に学期末又は学年末に行う。なお，試験の方法については，科目筆記試験及び口頭による試験，並びに実技試験のほか，小論文等による。

第４条　追試験は，定期試験を受けることが出来なかった者に対し，願い出により行うことがある。

第５条　再試験は，定期試験で65点未満であった者に対し，願い出により行うことがある。

第６条　追・再試験の受験に際しては，所定の願書を提出し，１科目につき4,000円の受験料を定められた日までに納入しなければならない。

２　学年別総合試験等の合格基準及び追・再試験等に関わる事項は教授会で定める。

第３章　受 験 資 格

第７条　歯学部にあっては，各学年で履修するいずれの科目においても，各期授業時間数の80％以上の出席がない場合には，当該科目の受験資格を失う。薬学部にあっては，各学年で履修するいずれの科目においても，授業時間数の３分の２以上の出席がない場合には，当該科目の受験資格を失う。
ただし，学年別総合試験等の受験資格に関わる事項は教授会で定める。

第８条　試験は，授業料その他の納入金を完納しなければ受験させることができない。

第４章　試験の欠席

第９条　疾病その他やむを得ない理由により試験を欠席した者は，医師の診断書，又はその理由を付した欠席届を速やかに提出しなければならない。

２　前項の届出が行われない場合は，追試験の受験資格は与えられない。

第５章　不 正 行 為

第10条　試験において不正行為を行った者は，その学期における全科目の成績を０点とし，かつ懲戒処分を行う。

２　懲戒処分については，別に定める。

第６章　試験の成績

第11条　試験の成績は100点をもって満点とする。

第７章　受 験 心 得

第12条　受験に際しては，次の事項を守らなければならない。

⑴　受験中，学生証を必ず机上に提示しておくこと。ただし，忘れた場合は，学事部に申し出て証明書を受け，これを学生証に代えることができる。

⑵　試験場には，試験開始５分前に入っていること。

⑶　25分以上の遅刻，及び試験開始後30分以内の退出はしないこと。

⑷　試験場では，筆記に必要な用具のほかは机から離して置くこと（下敷は不可）。ただし，特に許可されたものはこの限りではない。

⑸　受験中は，用具の貸借をしたり監督者以外への話しかけや，答案等を見せたりしてはいけない。

(6) 受験に際しては，不正な方法によって答案を作成したり，それを幇助したりしてはならない。
(7) その他，監督者の指示に従うこと。
2　受験心得に違反した者は，退場を命ずる。

第８章　雑　　則

第13条　本規程の改廃は，教授会の議決を経なければならない。

附　則

この規程は，平成27年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，令和４年４月１日から施行する。

３．奥羽大学歯学部卒業試験規程

第１章　総　　則

第１条　この規程は，学則第39条第２項に基づき本学歯学部で実施する卒業試験（以下「本試験」という。）について定める。
第２条　本試験の実施に際し，本規程に定められていない事項については，別に定める試験規程を適用する。

第２章　試　　験

第３条　本試験は，既に履修した基礎並びに臨床科目の修業の程度を総合的に判定するために行う。
第４条　本試験は，第６学年において，実施する。
第５条　合格者は，教授会において決定する。

第３章　試験の施行（省略）

第４章　雑　　則（省略）

附　則

この規程は，平成29年９月１日から施行する。

４．奥羽大学 GPA 制度に関する規定

（趣旨）
第１条　この規定は，奥羽大学（以下「本学」という。）の学士課程における Grade Point Average（履修科目成績平均値。以下「GPA」という。）制度に関し必要な事項を定めることにより，学生の能動的学習活動と教員のきめ細やかな履修指導を推進するとともに，成績評価の透明性を高め，教育の質を向上させることを目的とする。
（評価等）
第２条　学生が履修した授業科目の成績評価に与えられる Grade Point（以下「GP」という。）は次表のとおりとする。

成績の評価		GP
５段階評価	成　績	
秀	100 ～ 90	4.0
優	89 ～ 80	3.0
良	79 ～ 70	2.0
可	69 ～ 65	1.0
不可	64 ～ 0	0.0

（GPAの算出）

第３条　GPA は，学期の学修状況及び成果を示す指標としての GPA（以下「学期 GPA」という。）並びに在学中における全期間の学修状況及び成果を示す指標としての GPA（以下「累積 GPA という。）の二種類とする。

２　GPA は，次の式により計算するものとし，その数に小数点以下第二位未満の端数があるときは，小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。

$$\text{学期 GPA} = \frac{\text{（当該学期に評価を受けた授業科目の GP} \times \text{当該授業科目の単位数）の総和}}{\text{当該学期に評価を受けた授業科目の単位数の総和}}$$

$$\text{累積 GPA} = \frac{\text{（在学全期間に評価を受けた授業科目の GP} \times \text{当該授業科目の単位数）の総和}}{\text{在学全期間に評価を受けた授業科目の単位数の総和}}$$

（GPA対象授業科目）

第４条　本学学士課程において，５段階評価によって成績認定される授業科目であって，卒業要件に算入できる授業科目とする。

２　GPA 対象授業科目は，各学部における GPA 利用の目的に照らし，適切な方法をもって選択し，または除外することができる。

３　学部長が指定した授業科目は GPA 対象科目から除くことができる。

（成績証明書への記載）

第５条　GPA は，原則として成績証明書に記載しない。ただし，成績証明書提出先から GPA 記載を求められたときは，累積 GPA，本学の評価区分及び GPA 算出方法を併せて記載するものとする。

（雑則）

第６条　この規定に定めるもののほか，GPA の取扱いに関し必要な事項は本学の学部長会において別に定めるものとする。

附　則

この規定は，平成31年４月１日から施行する。

この規定の施行前に行った成績評価及び単位の認定については，従前のとおりとする。

５．不正行為者の懲戒処分に関する内規

１　この内規は，奥羽大学試験規程第10条第２項に基づき定める。

２　不正行為とは，受験に際し不正な方法をもって解答を作成するか又はそれを幇助する行為をいう。

３　試験を監督する者は，不正行為と認めた場合，本人にその旨を認知させた後直ちに退場させ，証拠品等を添え，状況報告書を学生部長に届け出る。

４　教授会の委嘱を受けた調査委員会は，事実の確認を行い，処分案を作成する。

５　教授会は停学処分を行う。

停学の期間は，２週間以上とする。

６　本内規の改廃は，教授会の議によるものとする。

附　則

この内規は，平成17年４月１日から施行する。

６．奥羽大学歯学部臨床実習規程

（目的）

第１条　臨床実習は，臨床実習を行う学生（以下「臨床実習生」という。）が，診療に関する知識及び技能を修得するとともに，医療における人間関係，特に患者との関係についての理解に努め，併せて医の倫理を体得することによって資質の向上を図ることを目的とする。

（臨床実習委員会）
第２条　臨床実習に関する重要事項を調査，審議するために臨床実習委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（委員の構成）
第３条　委員は次の者をもって構成する。
⑴　診療科長及び科目担当教授
⑵　委員会が必要と認める者
２　委員長は病院長の職にあたる者をもってこれに当てる。
（委員会の招集）
第４条　委員会は毎月１回，委員長が招集することを原則とする。
２　会議の議長は委員長とする。
（臨床実習計画）
第５条　臨床実習計画は附属病院の診療日程に準じて委員会が策定する。
２　各科の実習計画は当該科で作成し，委員会の承認を得るものとする。
（臨床実習成績の評価及び判定）
第６条　各科の実習成績の評価及び判定は当該科の診療科長又は科目担当教授が行い，その結果を委員会に提出するものとする。
（臨床実習成績の総合判定）
第７条　臨床実習成績の総合判定は，前条の規定により提出された各科の実習成績の評価及び判定に基づき教授会が行うものとする。
（補充実習）
第８条　所定の臨床実習を終了しない者には補充実習を行わせることがある。
２　前項の規定に基づく補充実習は委員会で決定する。
（改廃）
第９条　この規程の改廃は委員会が発議して教授会の議決を経なければならない。
（制裁）
第10条　臨床実習生としての本分に悖り，又は病院の規律に違背した行為があると認められた者に対し，委員長は別に定めるところにより制裁を科すことがある。
附　則
この規程は，平成29年４月１日から施行する。

７．奥羽大学歯学部臨床実習に関する不正行為に対する処罰内規

第１条　処罰は，学則第42条に該当する懲戒と，臨床実習規程第10条の制裁とする。
第２条　懲戒に該当する行為があると認められた者は，臨床実習委員会（「以下委員会」という。）で調査し，歯学部長へ報告する。
第３条　制裁に該当する行為があると認められた者は，委員会で協議し，歯学部長へ報告する。
第４条　制裁は，２週間未満の実習停止とする。
第５条　前条に該当する者は，委員会の議を経て，委員長がこれを命ずる。
２　ただし，１週間未満の実習停止に該当する者については，前項の規程にかかわらず，当該診療科長又は，科目担当教授がこれを命じ，委員長へ遅滞なく報告するものとする。
第６条　本内規に定める処罰の基準は次のとおりとする。
⑴　懲戒（退学又は停学）に付される行為
ａ　病院外で診療行為を行ったとき
ｂ　指導医を設定せず独自に診療行為を行ったとき
ｃ　診療録，処方箋又は，それに準ずる指示書あるいは，報告書などを改変したとき

⑵　懲戒（停学また戒告）
　a　指導医の指示によらず実習したとき
　b　検印等を偽造行使したとき
　c　しばしば出欠を偽証したとき
⑶　２週間未満の実習停止に付される行為
　a　出欠を偽証したとき
　b　検印等に不正のあったとき
　c　交付を受けた機械，材料等の取り扱いに不正のあったとき
　d　指導医の指導にしばしば違背したとき
⑷　１週間未満の実習停止に付される行為
　a　各自所持すべき機械器具等の補充を命ぜられたにもかかわらず，その義務を履行しなかったとき
　b　各自の責任として，弁償を命ぜられたにもかかわらず，その義務を履行しなかったとき
　c　所定の服装をしなかったとき
　d　許可なく指定の時間外に実習したとき
　e　無断で欠席，早退又は，実習時間中に外出したとき
　f　所定の機械，器具を持たず実習を行ったとき
　g　患者に迷惑をかけたとき
　h　指導医の指導に違背したとき
２　前項の定めるものの他は，委員会で前項に準じて決定するものとする。
第７条　この内規の改廃は，委員会において決する。

附　則

この内規は，平成29年４月１日から施行する。

Ⅱ．遵守事項

１．学籍について

１）修業年限及び在学年限

⑴　本学歯学部の修業年限は６年である。
⑵　歯学部においては修業年限の２倍を超えて在学することはできない。
⑶　在学期間は同一学年において３年を超えることはできない。

２）休　　学

⑴　病気その他やむを得ない理由によって，引き続き３か月以上修学することができないと認められる者は，その事実を証明する書類を添え，保証人連署のうえ学長に願い出て，その許可を得て休学することができる。
⑵　学長は，必要により休学を命ずることがある。
⑶　休学期間は，当該年度限りとする。特別の事由があるときは，引き続き休学期間を延長することができる。ただし，通算して３年を超えることはできない。
⑷　休学期間は，学則第３条の在学期間に算入しない。

３）復　　学

⑴　休学の理由の止んだ者は，学長の許可を得て原学年に復学することができる。
⑵　復学願には保証人の連署を必要とし，疾病によって休学した者は，本学附属病院又は本学が指定する医療機関の診断書を添付しなければならない。

４）退　　学

病気その他やむを得ない理由により退学しようとする者は，その理由を証明する書類を添え，保証人連署のうえ学長に退学願を提出して許可を受けなければならない。
⑴　退学を願い出る場合は，退学願のほか，必ず学生証を添付しなければならない。
⑵　病気により退学する場合は，必ず医師の診断書を添付しなければならない。

５）除　　籍

⑴　次の各事項のいずれかに該当するときは，これを除籍とする。
①　在学年数が12年を超えたとき，又は同一学年において３年を超えたとき。
②　授業料の納付を怠り，督促を受けてもなお納入しないとき。
③　休学期間が通算して３年を超えたとき。

６）再　入　学

退学した者又は除籍された者が２年以内に再入学を願い出たときは，選考のうえ，当該学部教授会の議を経て許可することがある。この場合には，既修授業科目の全部又は一部について再履修を命ずることがある。

７）卒業証書及び学位の授与

大学に６か年以上在学し，所定の授業科目を履修し，かつ卒業試験に合格した者に対し卒業証書及び学士（歯学）の学位を授与する。

２．履修の概要

１）授業科目の区分

教育課程において開設する科目を授業科目といい，その内容によって教養系教育科目，基礎科学教育科目，口腔科学教育科目にこれを分けている。

２）授 業 時 間

「授業時間割」として，別に印刷配布される。授業の時間区分は次のとおりである。

第１時限	第２時限	第３時限	第４時限	第５時限	第６時限	第７時限
8：50～9：50	10：00～11：00	11：10～12：10	13：00～14：00	14：10～15：10	15：20～16：20	16：30～17：30

３）掲　　示

学生に対する公示，告示及び授業に関する事項は，Universal Passport RX 内「掲示板」に掲示する。

なお，掲示板には授業実施上周知を要する一切の事項のほか，学事部から個人に伝達する事項も掲示するので，最低１日１回以上確認することを習慣化し，各種連絡を見落とさぬよう十分に留意すること。（掲示板閲覧方法：Universal Passport RX にログイン＞「共通」を選択＞「掲示板」を選択）

４）休　　講

下記の場合，休講となるが，いずれも予め掲示によって連絡する。

⑴　各授業科目の担当者において，やむを得ない事情が生じた場合。
⑵　授業を休講としなければならない特別な大学行事を行う場合。
⑶　休校の指示がなく，また特別な指示がない場合で，授業開始時間より30分を経過しても講義が開始されない場合。（この場合は，教務課で授業の有無を必ず確認すること。）

５）補　　講

⑴　休講があった場合，原則としてこれを補うための補講を行う。
⑵　日程については，予め掲示によって連絡する。

６）出 席 日 数

各学年で履修するいずれの科目においても，各期授業時間数の80％に達しない者は，定期試験の受験資格を失うので注意すること。

７）講義・演習・実習などに対する準備

事前にシラバスを確認し，次回行う内容を把握しておく。その上で，履修部分について教科書や実習書の内容を予習する習慣をつける（毎日30分以上）。

８）講義・演習・実習などが終了した後の復習

講義・演習・実習が終了した直後は，履修した内容がまだしっかり頭に残っている時間である。そのため，講義・演習・実習が終了したその日のうちに内容を復習する習慣をつける（毎日１時間以上）。

３．試験と成績評価

１）定 期 試 験

⑴　定期試験は，科目毎に学期末又は学年末に行う。
⑵　定期試験は，講義を行った科目について行う。
⑶　時間割については，試験開始の約１週間前までに掲示・配布によって発表する。
　　試験時間は，１科目を60分とする。

２）総 合 試 験

⑴　年度末に総合試験を実施する。

３）追　試　験

⑴　追試験は，定期試験及び総合試験を欠席した者に対して願い出により行うことがある。
⑵　試験を欠席し，追試験を希望する場合は，「欠席届」に証明書を添えて速やかに教務課へ提出しなければならない。なおかつ定められた期日に教務課で「追・再試験受験願」の手続きをしなければならない。
⑶　追試験は，各期定期試験及び総合試験終了後に各々行う。
⑷　追試験料は１科目4,000円とする。

４）再　試　験

⑴　再試験は，定期試験及び総合試験を受験して不合格となった者に対して，願い出により行うことがある。なお，試験結果（合否）については，試験終了後随時掲示により発表する。
⑵　定期試験及び総合試験を受験せずに不合格となった科目については，再試験は行わない。
⑶　再試験を希望する場合は，定められた期日に教務課で「追・再試験受験願」の手続きをしなければならない。
⑷　再試験料は１科目4,000円とする。

５）受験上の注意事項

⑴　次の事項に該当する場合は，定期試験を受験することができない。
　①　授業料，その他諸納付金が未納の場合
　②　授業への出席日数が，各期授業時間数の80％に達しない者
　③　学生証を所持していない場合
　④　休学中の場合
　⑤　受験科目の試験開始時刻に25分以上遅刻した場合
⑵　試験場においては，次の事項を守らなければならない。
　①　受験中は，学生証を机上に提示しておくこと
　②　学生証を忘れた場合は，教務課において「仮学生証」の交付を受け，これを机上に提示すること（「仮学生証」 の交付料は１日1,000円で，当日限り有効とする。）
　③　試験開始後30分以上経過しなければ，答案を提出して退出することはできない
　④　試験場における行動は，すべて監督者の指示に従わなければならない。監督者の指示に従わない場合は，受験を停止し，退場を命ずる
⑶　次の場合は，その答案は無効とする。
　①　無記名の場合
　②　指定された試験会場で受験しなかった場合
　③　他人の答案の「学籍番号」・「氏名」を書き直した場合

⑷　不正行為

①　受験中に不正行為を行った者に対しては，即時退場を命じ，その学期における評価を行わない。なお，学則による懲戒処分については，教授会の議を経て別に行う。

②　次の事項に該当する行為をなした場合は，これを不正行為と見なす。

・私語，態度不良について注意を与えても改めない場合
・カンニングペーパーの使用，又は机・辞書等への書き込み
・他人の答案の書き直し，又は書き写した場合
・許可されていない教科書等の参照
・物品の貸借
・他人が受験，又は他人に受験を依頼した場合
・学籍番号・氏名等を故意に偽って記入した場合
・問題用紙，及び答案を無断で試験会場外へ持ち出した場合
・監督者の指示に従わない場合
・その他不正行為と判断される行為を行った場合

6）レポートの提出

⑴　レポートは，授業担当教員及び掲示による指示に従って提出すること。

⑵　提出期限を経過したレポートは受理しない。

7）成 績 評 価

⑴　成績評価

試験の成績は次の区分により評価する。

評　　定	合　　格				不　合　格
評　　価	100 ～ 90点	89 ～ 80点	79 ～ 70点	69 ～ 65点	64点以下
	秀	優	良	可	不可
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

⑵　成績発表

成績発表（最終評価）は年度末に行う。

⑶　その他

・留年した場合は当該年度の科目を全て再履修し，成績評価を受けなければならない。
・累積 GPA は，進級年度の学期 GPA を計算する。

４．各試験の受験資格，評価の要件，進級および卒業判定

１）第１～４学年の定期試験の受験資格と実習評価の要件

当該科目における前期，後期の出席率がいずれも80％以上であること。

２）第５学年臨床実習の各期の終了試験の受験資格と実習評価の要件

各期における臨床実習出席率がいずれも80％以上であること。

３）総合試験，共用試験，卒業試験の受験資格

⑴　第１学年の総合試験１Ｄの受験資格：朝礼，総合演習１Ｄ，科目選択ゼミナール，ES の各出席率が全て80％以上であること。
⑵　第２学年の総合試験２Ｄの受験資格：朝礼，総合演習２Ｄ，科目選択ゼミナール，ES の各出席率が全て80％以上であること。
⑶　第３学年の総合試験３Ｄの受験資格：朝礼，総合演習３Ｄ，科目選択ゼミナール，ES の各出席率が全て80％以上であること。
⑷　第４学年の共用試験（OSCE，CBT）および総合試験４Ｄの受験資格：朝礼，総合演習４Ｄ，ES，フィードバックの各出席率が全て80％以上であること。
⑸　第５学年の総合試験５Ｄの受験資格：朝礼，総合演習５Ｄ，フィードバックの各出席率が全て80％以上であること。
⑹　第６学年の卒業試験の受験資格：朝礼，各科目の講義，模擬試験，各強化講義の出席率が全て80％以上であること。

※注意１　上記⑴～⑹に記載されている出席率は，試験直前までの出席率とする。
※注意２　科目責任者の判断により出席が免除された場合は，その時間は出席として扱う。

４）進級および卒業条件

⑴　第１～４学年は，各科目および各実習の最終評価で全て65点以上を取得し，かつ総合試験１～４Ｄで72.00％以上を取得した者を合格とする。
⑵　第４学年は，CBT および OSCE に合格しなければ進級できない。
⑶　第５学年は，知識点と臨床実習最終評価でいずれも平均65点以上を取得し，なおかつ総合試験５Ｄで72.00％以上を取得した者を合格とする。また臨床実地試験（CPX），一斉技能試験（CSX）の両方に合格することを臨床実習終了の要件とする。
⑷　第６学年は，３回の卒業試験で平均72.00％以上を取得した者を合格とする。

※受験資格の補足

注）1　各期とは：第１学年から第４学年にあっては前期および後期，第５，６学年にあっては各期を別に定める。

注）2　欠席扱いをしない事項（欠席届，忌引き届が必要）

①　忌引き　本人の父母，子および配偶者；７日間
　　それ以外（祖父母，兄弟姉妹，配偶者の父母および兄弟姉妹）：３日間

②　学校感染症による出停期間（医師からの診断書必要）

③　緊急に対処すべき危機が発生又は危機発生が予想される事態に，大学から自宅待機等の指示が発令された場合（連絡網やホームページ等で確認すること）

④　本学または公的機関から要請があった場合

⑤　その他学生部委員会が別に定めることがある。

注）3　欠席扱いをしない事項において，それぞれ届出書類（欠席届，忌引届，診断書など）が必要な場合は，欠席の後に出席した日から１週間以内に提出すること。１週間以内に提出がない場合は欠席とする。

Ⅲ. 授 業 概 要

エレクティブスタディ（ES）（第１～４学年　通年）

科目責任者：玉井利代子（感染・教授），加藤　靖正（生化・教授）
科目担当者：芹川　雅光（解剖），安部　仁晴（組織），
森山　　光（組織），清浦　有祐（感染），
玉井利代子（感染），山家　尚仁（感染），
眞島いづみ（感染），遊佐　淳子（病理），
柴田　達也（薬理），長岡　正博（薬理），
古山　　昭（生理），加藤　靖正（生化），
前田　豊信（生化），石田　喜紀（材料），
大木　達也（材料），齋藤　龍一（材料），
南　健太郎（衛生），小林美智代（衛生），
菊井　徹哉（修復），山田　義重（修復），
金澤　朋昭（歯内），臼井　通彦（歯周），
吉沢　大樹（歯周），羽鳥　弘毅（冠橋），
雨宮　幹樹（冠橋），伊藤　　歩（冠橋），
大友　悠資（冠橋），内田　光洋（冠橋），
髙津　匡樹（有床），池田　敏和（有床），
内山　梨夏（有床），高橋　昌宏（歯周），
奈田　憲二（イン），河村　享英（イン），
保田　　穣（イン），山崎　北斗（口外），
山崎　信也（生理），鈴木　史彦（高齢），
安部　将太（麻酔），北條健太郎（高齢），
川鍋　　仁（矯正），山野辺晋也（矯正），
島村　和宏（小児），舟山　敦雄（小児），
原田　卓哉（物理），茂呂祐利子（放射）
第１～４学年　学年主任およびクラス担任

１．科目の概要

学年を問わず，主体性をもって，興味・関心を持つ分野・科目を選択し，当該分野・科目に出向して学修・研鑽する。それにより，将来の医療人として，主体的に考え，行動する姿勢を涵養する。

２．一般目標

リサーチマインドをもって生涯学修・研修を続け，潜在能力を開発して飛躍できるよう，主体的に以下のアクションプランの中から興味あるものを選択し，自己研鑽する。

1）頭頚部の構造の理解から臨床への応用を目指す（口腔解剖学）
2）研究を通じて，組織学的実験結果から論理的思考を身につける（口腔組織学）
3）微生物感染とそれに対する感染防御システムに関する専門知識の習得を目指す（口腔感染免疫学）
4）病理診断に必要な知識を学生が自主的に修得することを目指す（口腔病理学）
5）歯科医療現場で必要な薬理学の専門知識の修得を目指す（歯科薬理学）
6）研究活動に触れ必要な知識を探索し学習する（口腔生理学）
7）口腔生化学の専門知識の修得と応用を目指す（口腔生化学）
8）歯科材料の特性，操作を修得し，その応用について検討する（生体材料・歯科材料学）
9）口腔衛生学に関する図上演習を通じて専門知識の修得と応用を目指す（口腔衛生学）
10）保存修復治療で使用する機材，薬剤などに対する専門知識の習得と応用に関する知識を追求する（保存修復学）
11）歯内療法学の専門的知識の確認と修得を目指す（歯内療法学）
12）歯周病と歯周治療の専門知識の習得を目指す（歯周病学）
13）冠橋義歯補綴学の専門知識の修得と応用を目指す（冠橋義歯補綴学）
14）有床義歯補綴と歯科医療における意義を説明する（有床義歯補綴学）
15）口腔インプラント学が多領域連携包括的学問であることを認識する（口腔インプラント学）
16）将来の歯科医学の発展のために，口腔外科・口腔内科の臨床症例に携わり，現在より優れた治療概念を探求し，新知見を発見する（口腔外科・口腔内科学）
17）歯科麻酔学の臨床／研究／教育を早期に体験する（歯科麻酔学）
18）不正咬合の診断に必要な歯科矯正学の習得を目指す（歯科矯正学）
19）小児の心身の特徴を知り，治療と指導に必要な基本的知識の習得と応用を目指す（小児歯科学）
20）歯科放射線学に関する専門知識の修得と応用を目指す（放射線診断学）
21）摂食嚥下リハビリテーションの体験と基本的な歯科医療の知識の習得を目指す（地域医療支援歯科）

３．到達目標

1）主体性をもって，興味・関心を持つ分野・科目を選択できる。
2）主体性をもって，テーマ・目標を決めることができる。
3）主体性をもって，テーマ・目標に対する方針を検討し，実行できる。
4）成果・結果をまとめ，発表することができる。

４．履修の進め方

出向した分野・科目において，テーマ・目標を考えながら，生涯学修を継続できるよう個人または少人数グループ指導体制の形態で履修する。各分野・科目ごとの特色やルールがあるので，担当教員とよく相談しながら進める。

５．準備学修

分野・科目紹介冊子（配布方法は別途指示）を参考に，興味を持った分野や科目の詳細な情報を収集しておく（15分）。

６．評価方法

毎回出席を確認する。80％以上の出席がなければ総合試験の受験資格を失う。

【出席確認方法】

基本的に，出向した分野・科目の教員が出席を確認する。分野・科目に出向しない回（自習）は，出席扱いとする。また，ES の前時限が実習の場合，その日の ES は出席扱いとする。

【注意点】

① ES の前時限の実習が延長した場合は，延長実習が終了次第，出向先の分野・科目の ES に合流すること。
②出向先の分野・科目の教員の予定により，分野・科目ごとに休講する場合があるので，担当教員の予定を確認して行動すること。
③その他，不明な点は，出向先の分野・科目の担当教員とよく相談すること。

７．教本

なし

８．参考書

出向した分野・科目において，必要に応じて，紹介する。

９．授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	備考	担
1	4／7㈫	プレ ES	ES 分野・科目紹介冊子の作成(各分野・科目に出向)	１年生と編入生は自習	各分野
2	4／9㈭	プレ ES	ES 分野・科目紹介冊子の作成(各分野・科目に出向)	1年生と編入生は自習	各分野
3	4／14㈫	プレ ES	ES 分野・科目紹介冊子の作成(各分野・科目に出向)	１年生と編入生は自習	各分野
4	4／16㈭	プレ ES	ES 分野・科目紹介冊子の作成(各分野・科目に出向)	１年生と編入生は自習	各分野
5	4／21㈫	プレ ES	ES 分野・科目紹介冊子の作成(各分野・科目に出向)	１年生と編入生は自習	各分野
6	4／23㈭	プレ ES	ES 分野・科目紹介冊子の作成(各分野・科目に出向)	１年生と編入生は自習	各分野
7	4／28㈫	プレ ES	ES 分野・科目紹介冊子の作成(各分野・科目に出向)	１年生と編入生は自習	各分野
8	5／7㈭	調整日	自　習		各分野
9	5／12㈫	分野・科目選択アンケート	１年生，編入生および科目変更希望者はアンケートに記入。	ユニバーサルパスポートを使用予定。	各分野
10	5／14㈭	分野・科目配属調整期間	自　習		各分野
11	5／19㈫	分野・科目配属調整期間	自　習		各分野
12	5／21㈭	分野・科目配属調整期間	自　習		各分野
13	5／26㈫	分野・科目配属調整期間	自　習		各分野
14	5／28㈭	分野・科目配属調整期間	自　習		各分野
15	6／2㈫	分野・科目配属調整期間	自　習		各分野
16	6／4㈭	ES-1	各分野・科目毎のオリエンテーション	各分野・科目に出向	各分野
17	6／9㈫	ES-2	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
18	6／11㈭	ES-3	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
19	6／16㈫	ES-4	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
20	6／18㈭	ES-5	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
21	6／23㈫	ES-6	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
22	6／25㈭	ES-7	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
23	6／30㈫	ES-8	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
24	7／2㈭	ES-9	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
25	7／7㈫	ES-10	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
26	7／9㈭	ES-11	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
27	7／14㈫	ES-12	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
28	7／16㈭	ES-13	各分野・科目毎のテーマ	前期出向最終日	各分野
29	7／21㈫	前期の振り返り 1	自　習		各分野
30	7／23㈭	前期の振り返り 2	自　習		各分野
31	9／1㈫	調整日	自　習		各分野
32	9／3㈭	調整日	自　習		各分野
33	9／8㈫	調整日	自　習		各分野
34	9／10㈭	調整日	自　習		各分野
35	9／15㈫	ES-14	各分野・科目毎のテーマ	後期出向開始日	各分野
36	9／17㈭	ES-15	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
37	9／24㈭	ES-16	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
38	9／29㈫	ES-17	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
39	10／1㈭	ES-18	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
40	10／6㈫	ES-19	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
41	10／8㈭	ES-20	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
42	10／13㈫	ES-21	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
43	10／15㈭	ES-22	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
44	10／20㈫	ES-23	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
45	10／22㈭	ES-24	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野

回	月日	タイトル	授業内容	備考	担
46	10／27㈫	ES-25	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
47	10／29㈭	ES-26	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
48	11／ 5㈭	ES-27	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
49	11／10㈫	ES-28	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
50	11／12㈭	ES-29	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
51	11／17㈫	ES-30	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
52	11／19㈭	ES-31	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
53	11／24㈫	ES-32	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
54	11／26㈭	ES-33	各分野・科目毎のテーマ	各分野・科目に出向	各分野
55	12／ 1㈫	後期の振り返り 1	自　習		各分野
56	12／ 3㈭	後期の振り返り 2	自　習		各分野
57	12／ 8㈫	後期の振り返り 3	自　習		各分野
58	12／10㈭	後期の振り返り 4	自　習		各分野
59	12／15㈫	後期の振り返り 5	自　習		各分野
60	12／18㈮	後期の振り返り 6	自　習		各分野

科目選択ゼミナール（第１～３学年　通年）

科目責任者：石田　喜紀（材料・教授）
科目担当者：①石田　喜紀（材料），②斎藤昇太郎（化学），
③今井　　元（解剖），④荒木　　威（物理），
⑤本多　真史（日本語），⑥佐藤　　歩（心理），
⑦長峯　英樹（英語），⑧阿部　匡聡（化学），
⑨前田　豊信（生化），⑩神林　直大（生化），
⑪安部　仁晴（組織），⑫芹川　雅光（解剖），
⑬大須賀謙二（生理），⑭古山　　昭（生理），
⑮玉井利代子（感染），⑯山家　尚仁（感染），
⑰眞島いづみ（感染），⑱加藤　靖正（生化），
⑲柴田　達也（薬理），⑳長岡　正博（薬理），
㉑南　健太郎（衛生），㉒小林美智代（衛生），
㉓遊佐　淳子（病理），㉔原田　卓哉（物理）

１．科目の概要

不得意，あるいは苦手な科目を少人数体制で指導する。

２．一般目標

１）基礎化学：歯学における化学の重要性を理解した上で，基本的な元素や化合物，生体関連物質の名称・構造・性質・反応を説明できるようにする。
２）基礎生物学：人体の体制（解剖と生理）の全体像と発生過程を系統的に説明できるようにする。
３）基礎物理学：物理学に基づいた歯科医師としての客観的，合理的な判断力を養うために物理学の普遍性とその応用の広範さを理解する。
４）統計数理学：統計学の方法を理解して，歯科医師としての客観的，合理的な判断力を養う。
５）日本語学：歯科医療人に必要な，「読む，聞く，話す，書く，考える」の基礎力を修得する。
６）心理学：先ず，心理学の代表的な理論や人間理解の方法について説明するために，心の探究の歴史を理解する。続いて，病む人の心理ならびにその援助法にあたり，医療従事者として配慮すべきことを考えるために，臨床心理学を習得する。
７）医療倫理学：医療行為の特殊性を鑑み，歯科医師はその職に特有かつ道徳的な規範と自律倫理が求められることを理解し，全ての医療従事者の職業上の義務と社会における医療のあり方について検討し，問題解決のための具体的指針を習得する。
８）臨床心理学：臨床心理学の基礎を学び，人間が人間を心理的に支援することの意味を理解する。臨床心理学の症例を学び，医療者として患者を尊敬することの重要性を理解する。臨床心理学から学んだ知識を生かし，自己のパーソナリティ特性を理解する。
９）英　語：歯科医療の専門家として，最新かつ広範囲な情報を日常的に吸収し続けていく必要があることを理解し，英語のインプット（読む・聞く）力の基礎を習得する。
10）生物学：歯科基礎科目の知識を理解・習得するために，必要な生物学の知識を身につける。
11）物理学：物質の物理的，電磁的な性質に対する基礎的な知識を習得する。
12）化　学：物質量や濃度の計算ができ，化学反応式を記述し，化学変化の量的関係を説明できる。
13）解剖学・口腔解剖学：正常な人体の形態と構造について理解する。
14）口腔組織学：細胞，組織，人体諸器官の正常構造と微細構造を機能と結び付け，理解する。
15）口腔生理学：口腔生理学の基礎的事項を確認して身につける。
16）口腔感染免疫学Ⅰ：微生物の基本的性状，病原性と感染によって生じる病態を理解する。
17）生体材料・歯科材料学：生体材料，歯科材料の分類，組成および特性を学びその正しい使用法を理解する。
18）口腔生化学：生体を構成する成分と機能，代謝について理解を深める。
19）歯科薬理学：薬物の体内動態，薬理作用と作用機序，副作用についての知識を修得する。
20）公衆衛生学：集団・社会の視点から健康と疾病を理解することができる。
21）口腔感染免疫学Ⅱ：免疫系を理解し，生体防御機構としての免疫反応を理解する。
22）口腔衛生学：口腔の健康を保持・増進するために必要な基本的内容を理解する。
23）社会歯科学：歯科医療に関連する法令の基本的内容を習得する。
24）口腔病理学：歯科疾患・口腔疾患を病理診断できるようになるため，病理学総論と口腔病理学を学ぶ。
25）歯科医療管理学：安心・安全な歯科医療を提供するために必要な歯科医療管理の基礎的事項を理解する。

３．到達目標

１）自ら問題点を挙げ，改善することができる。
２）苦手な分野・教科を克服することができる。
３）各科目で設定された基準をクリアすることが出来る。

４．履修の進め方

設定された基準に到達していない科目を少人数体制で集中的に指導する。

①各学年（第１学年～第３学年）の科目のうち，不得意あるいは苦手な科目を選択する。
②試験を行い，学力を客観的に評価し，科目を選択する。もしくは科目担当者が受講者を指名する。
③授業中の小試験や授業の理解度から科目を選択，または科目担当者が受講者を指名してもよい。
④後期は前期の定期試験の結果から科目を選択，または科目担当者が受講者を指名してもよい。
⑤第２学年と第３学年では前年度の定期試験の結果から科目を選択，または科目担当者が受講者を指名してもよい。

上記の①～⑤に該当した学生はその科目の科目選択ゼミナールを受講する。

５．準備学修

選択科目の授業内容を確認し，その内容を復習する。
事前学習：当該科目の教科書，ノートを確認する（10分）
事後学習：授業内容のノートや資料の重要項目を確認する（15分）。

６．評価方法

プレテスト，各科の小試験および定期試験の結果などから各科目担当者が受講者を指名する。指名された受講者は，該当する科目のゼミに出席する。すべての科目で設定学力以上の場合は受講する必要はなく，出席に相当する。出席率が80％未満であった場合，別途記載の規定に従って総合試験の受験資格を喪失する。

７．教本

選択した科目で使用している教科書を用いる。

８．参考書

必要な場合は各科目で指定される。

９．授業内容と日程

１）第１学年

回	月日	タイトル	担当者
1	4／13	オリエンテーション	①
2	4／20	基礎生物学	③
3	4／27	基礎化学	②
4	5／11	基礎物理学	④
5	5／18	日本語学	⑤
6	5／25	基礎生物学	③
7	6／1	心理学	⑥
8	6／8	統計数理学	④
9	6／15	基礎化学	②
10	6／22	英語Ⅰ	⑦
11	6／29	英語基礎	⑦
12	7／6	日本語学	⑤
13	7／13	基礎物理学	④
14	7／27	基礎生物学	③
15	7／28	基礎化学	②
16	8／31	基礎生物学	③
17	9／7	基礎化学	②
18	9／14	基礎物理学	④
19	9／28	日本語学	⑤
20	10／5	臨床心理学	⑥
21	10／19	基礎生物学	③
22	10／26	基礎化学	②
23	11／2	統計数理学	④
24	11／9	医療倫理学	⑳
25	11／16	英語Ⅰ	⑦
26	11／30	英語基礎	⑦
27	12／7	日本語学	⑤
28	12／14	基礎物理学	④
29	12／17	基礎生物学	③
30	12／21	基礎化学	②

２）第２学年

回	月日	タイトル	担当者
1	4／13	基礎生物学	③
2	4／20	基礎化学	②
3	4／27	基礎物理学	④
4	5／11	口腔組織学	⑪
5	5／18	口腔解剖学	⑫
6	5／25	日本語学	⑤
7	6／1	英　語	⑦
8	6／8	生物学	⑱
9	6／15	化　学	⑧
10	6／22	物理学	㉔
11	6／29	解剖学	⑫
12	7／6	口腔生理学１	⑬⑭
13	7／13	口腔感染免疫学Ⅰ	⑮⑯⑰
14	7／27	口腔組織学	⑪
15	7／28	口腔解剖学	⑫
16	8／31	解剖学	⑫
17	9／7	口腔生理学１	⑬⑭
18	9／14	口腔解剖学	⑫
19	9／28	口腔組織学	⑪
20	10／5	口腔生理学１	⑬⑭
21	10／19	口腔解剖学	⑫
22	10／26	歯科薬理学Ⅰ	⑲⑳
23	11／2	口腔感染免疫学Ⅰ	⑮⑯⑰
24	11／9	口腔生化学Ⅰ	⑱
25	11／16	生体材料・歯科材料学Ⅰ	①
26	11／30	口腔組織学	⑪
27	12／7	口腔生理学Ⅰ	⑬⑭
28	12／14	生体材料・歯科材料学Ⅰ	①
29	12／17	公衆衛生学	㉒
30	12／21	解剖学	⑫

３）第３学年

回	月日	タイトル	担当者
1	4／8	口腔組織学（CBT 対策）	⑪
2	4／10	解剖学（CBT 対策）	⑫
3	4／15	口腔生理学（CBT 対策）	⑬⑭
4	4／17	口腔感染免疫学（CBT 対策）	⑮⑯⑰
5	4／22	生体材料・歯科材料学（CBT 対策）	①
6	4／24	口腔解剖学（CBT 対策）	⑫
7	5／8	口腔生化学（CBT 対策）	⑱
8	5／13	歯科薬理学（CBT 対策）	⑲⑳
9	5／15	公衆衛生学（CBT 対策）	㉓
10	5／20	口腔組織学（CBT 対策）	⑪
11	5／22	解剖学（CBT 対策）	⑫
12	5／27	口腔生理学（CBT 対策）	⑬⑭
13	5／29	口腔感染免疫学（CBT 対策）	⑮⑯⑰
14	6／3	生体材料・歯科材料学（CBT 対策）	①
15	6／5	口腔解剖学（CBT 対策）	⑫
16	6／10	口腔病理学（CBT 対策）	㉓
17	6／12	口腔生化学（CBT 対策）	⑨
18	6／17	歯科薬理学（CBT 対策）	⑲⑳
19	6／19	生体材料・歯科材料学（CBT 対策）	①
20	6／24	口腔感染免疫学（CBT 対策）	⑮⑯
21	6／26	口腔生理学（CBT 対策）	⑬⑭
22	7／1	口腔衛生学（CBT 対策）	㉑㉒
23	7／3	口腔病理学（CBT 対策）	㉓㉔
24	7／8	社会歯科学（CBT 対策）	⑳
25	7／10	口腔生化学（CBT 対策）	⑨
26	7／15	歯科薬理学（CBT 対策）	⑲⑳
27	7／17	口腔生理学（CBT 対策）	⑬⑭
28	7／22	口腔感染免疫学（CBT 対策）	⑮⑯
29	7／24	生体材料・歯科材料学（CBT 対策）	①
30	7／29	口腔病理学（CBT 対策）	㉓
31	9／2	口腔病理学（CBT 対策）	㉓
32	9／4	歯科薬理学（CBT 対策）	⑲⑳
33	9／9	生体材料・歯科材料学（CBT 対策）	①

34	9／11	口腔解剖学（CBT 対策）	⑫
35	9／16	口腔生理学（CBT 対策）	⑬⑭
36	9／18	口腔組織学（CBT 対策）	⑪
37	9／25	口腔衛生学（CBT 対策）	㉑㉒
38	9／30	解剖学（CBT 対策）	⑫
39	10／2	口腔生化学（CBT 対策）	⑨
40	10／7	口腔感染免疫学（CBT 対策）	⑮⑯
41	10／9	社会歯科学（CBT 対策）	㉑
42	10／14	口腔病理学（CBT 対策）	㉓
43	10／16	解剖学（CBT 対策）	⑫
44	10／21	口腔組織学（CBT 対策）	⑪
45	10／23	口腔生理学（CBT 対策）	⑬⑭
46	10／28	口腔感染免疫学（CBT 対策）	⑮⑯
47	10／30	口腔解剖学（CBT 対策）	⑫
48	11／4	歯科薬理学（CBT 対策）	⑲⑳
49	11／6	口腔病理学（CBT 対策）	㉓
50	11／11	生体材料・歯科材料学（CBT 対策）	①
51	11／13	口腔生化学（CBT 対策）	⑰
52	11／18	口腔衛生学（CBT 対策）	㉑㉒
53	11／20	口腔感染免疫学（CBT 対策）	⑮⑯⑰
54	11／25	生体材料・歯科材料学（CBT 対策）	①
55	11／27	歯科医療管理学（CBT 対策）	㉑
56	12／2	口腔組織学（CBT 対策）	⑪
57	12／4	口腔組織学（CBT 対策）	⑪
58	12／9	口腔衛生学（CBT 対策）	㉑㉒
59	12／11	歯科薬理学（CBT 対策）	⑲⑳
60	12／16	口腔病理学（CBT 対策）	㉓

総合演習1D（通年）

科目責任者：今井　　元，宇佐美晶信（解剖・教授）
科目担当者：①今井　　元（解剖），②斎藤昇太郎（化学），
③本多　真史（日本語），④長峯　英樹（英語），
⑤阿部　匡聡（化学），⑥荒木　　威（物理），
⑦小林美智代（衛生），⑧押尾　　茂（薬学部），
⑨伊藤　頼位（薬学部），⑩若林　千里（薬学部），
⑪髙田　　訓（口外），⑫菅野　勝也（非常勤），
⑬佐藤　　歩（心理），⑭山野辺晋也（矯正），
⑮山崎　信也（生理），⑯羽鳥　弘毅（冠橋），
⑰原田　卓哉（物理），⑱髙橋文太郎（薬理），
⑲北條健太郎（高齢），⑳長岡　正博（薬理），
㉑川鍋　　仁（矯正），㉒川原　一郎（放射），
㉓鈴木　史彦（高齢），㉔臨床各科担当教員

※この科目は，主に診療経験のある歯科医師及び一般企業勤務経験のある教員が担当する

１．科目の概要

高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師になるためには，チーム医療を実践できる教養と能力が必要である。チーム医療を実践するためには，他の医療スタッフと互いの専門性を尊重できる確かな教養，コミュニケーション能力とプロフェッショナリズムの修得が必要である。奥羽大学は，歯学と薬学の医療人を養成する全国でも数少ない大学であるため，これを活用し，２学部連携した『チーム医療学演習』を行い，チーム医療の基礎となる医療人として教養，心構えと態度を修得する。さらに，学期末の『効果的な学修法』において，医療人として身につけるべき，高度な専門知識の学修方法を修得する。また，学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

２．一般目標

医療人として確かな教養，必要な心構えと態度（道徳観・倫理観・創造力・探求心・研究志向・問題解決力・コミュニケーション・プロフェッショナリズム）を理解した上で，チーム医療を実践できる豊かな人間性を修得する。また，学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

３．到達目標

１）医療人としての社会的立場を理解できる。（倫理観）
２）医療人としての良心と尊厳や，人道的な配慮を理解できる。（道徳観）
３）歯科医師に対する現代社会のニーズを理解できる。（創造力）
４）社会の新しいニーズに対応できる姿勢を身につける。（探求心）
５）自ら問題点を抽出し，解決する研究姿勢を身につける。（研究志向・解決力）
６）医療人として好ましい態度で他者と接することできる。（態度）
７）医療人として適切な発言・行動を身につける。（コミュニケーション能力）
８）他医療職を尊重した円滑なチーム医療を行う。（プロフェッショナリズム）
９）薬害の原因，健康被害，社会的影響を考察する。（患者中心の医療・至誠）
10）医療人として身につけるべき高度な専門知識の学修方法を修得する。（医療人としての教養）
11）学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

４．履修の進め方

【チーム医療学演習】と【効果的学修法】に分けて，以下のように履修を進める。

（１）【チーム医療学演習】
１）講演＋スモールグループ・ディスカッション（SGD）形式の場合
①学内や学外の特別講師をお招きし，講演を聴講する。
②講演後，SGD で要点を抽出し，プロブレムマップ／メモリーツリーを作成する。
③講演や SGD に対するレポートを作成する。
２）講演＋演習形式（病院見学・MT 研修・ワールドカフェ・問題解決型演習）の場合
①体験した事や議論内容の要点を抽出し，レポートを作成する。

（２）【効果的学修法の修得】
チーム医療学演習が早く終わった場合，補講や演習・形成的試験を行う場合がある。
補講の科目の課題に解答し，問題解決型の演習を行い【１Ｄ総合試験】の準備を行う。
日程や時間割（※）は，ユニバーサルパスポート上に再掲示される。（※：１Ｄ総合試験に合格できるように，各科目の補講や形成的試験を行うので，６限を７限まで延長する場合がある）

５．準備学修

１）【チーム医療学演習】の事前学修：シラバスやユニパ掲示を確認し，必要な準備を行う。
①講演や演習の場所と集合時間は掲示で確認しておく。
【注意：講演によっては，４限の HR の時間から開始となる】
中央棟６階教３／第２講義棟第１講義室／中央棟５階模型実習室／講義棟第２講義室／病院棟５階臨床講義室など（30分）
②SGD の方法（KJ 法，ワールドカフェ，PBL，TBL）などについて調べる。
チーム医療学の事後学修：実験観察で得られたスケッチやデータをもとに，レポートを期日までに作成し提出する。この際，結果を下記の教本（配布資料）等で得た情報をもとに解釈し，与えられた課題の意義を理解する。（120分）
２）【効果的学修法】の事前学修：各教養科目のシラバスに掲載された方法に準ずる。

６．評価方法

チーム医療学については，演習への参加（※）と一定基準以上を満たした課題の提出をもって，出席とみなし，80％以上の出席で，１Ｄ総合試験の受験資格を取得できる。年度末に行う，１Ｄ総合試験の本試験，または追・再試験において，72.00％以上を合格とする。
（※：７限まで延長した場合，途中で帰宅すると，６限の出席が取り消されることがある）

７．教本

チーム医療学演習；指定しない。スライドや配布資料などにより進める。
効果的な学修法；各教養科目で指定された教科書に準ずる。

８．参考書

各科目の教本に準ずる。

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	４／13 4, 5, 6限	第１回チーム医療学演習：特別講演（１）／効果的学修法（１）	演題：『効果的な学習法・学習態度・体験談』 演習：レポート／補講／問題演習	講演： 研修歯科医・社会人大学院生・附属病院助教 演習： 今井　元 （解剖）	① ⑥ ⑦
4 5 6	４／20 4, 5, 6限	第２回チーム医療学演習：特別講演（２）／効果的学修法（２）	演題：『自走可能な学習者を目指して：リーディングスキルを意識した学習の手立て』 演習：レポート／補講／問題演習	講演： 伊藤頼位 （薬学部） 演習： 今井　元 （解剖）	① ③ ⑨
7 8 9	４／27 4, 5, 6限	第３回チーム医療学演習：特別講演（３）／演習・効果的学修法（３）	演題：『方言の魔術と歯科医療』 演習：レポート／補講／問題演習	講演： 本多真史 （日本語） 演習： 今井　元 （解剖） PR-01～06, LL-01～05, RE-01～06, CM-01～05, D-2-1-1-1／ 必-8-ウ-abcde 形成的試験： 今井　元 （解剖）	① ③
10 11 12	５／11 4, 5, 6限	第４回チーム医療学演習：特別講演（４）／効果的学修法（４）	演題：『歯学系 OSCE／歯学系 CBT／歯科医師国家試験の概要』 演習：レポート／補講／問題演習	講演： 川原一郎 （放射） 演習： 今井　元 （解剖）	① ㉒
13 14 15	５／18 4, 5, 6限	第５回チーム医療学演習：特別講演（５）／効果的学修法（５）	演題：『歯科医師の未来像』 演習：レポート／補講／問題演習	講演： 羽鳥弘毅 （冠橋） 演習： 今井　元 （解剖）	① ⑭ ⑯
16 17 18	５／25 4, 5, 6限	第６回チーム医療学演習：効果的学修法（６）／特別講演（６）	演題：『歯科医療における英語の重要性』 演習：レポート／補講／問題演習	演習： 今井　元 （解剖） 講演： 長峯英樹 （英語） C-7-1／ 必12-ウ	① ④
19 20 21	６／１ 4, 5, 6限	第７回チーム医療学演習：効果的学修法（７）／特別講演（７）	演題：『ワールドカフェ』 演習：レポート／補講／問題演習	講演： 山崎信也 （生理） 演習： 山崎信也 （生理） 課題提出： 今井　元 （解剖）	① ⑮ ㉔
22 23 24	６／８ 4, 5, 6限	第８回チーム医療学演習：特別講演（８）／効果的学修法（８）	演題：『歯って何だろう?』 演習：レポート／補講／問題演習	講演： 今井　元 （薬理） 演習： 今井　元 （解剖） RE, 総Ⅱ-5-ア, イ	①
25 26 27	６／15 4, 5, 6限	第９回チーム医療学演習：特別講演（９）／効果的学修法（９）	演題：『歯はどこからくるのか？』 演習：レポート／補講／問題演習	講演： 今井　元 （解剖） 演習： 今井　元 （解剖） RE-A-2-1, -4／ 必5-ア, 総Ⅱ-8-ア	①
28 29 30	６／22 4, 5, 6限	第10回チーム医療学演習：特別講演(10)／効果的学修法(10)	演題：『歯科医療におけるデータ解析』 演習：レポート／補講／問題演習	講演： 荒木　威 （物理） 演習： 荒木　威 （物理） IT-04／ 必12-イ）	⑥ ⑰
31 32 33	６／29 4, 5, 6限	第11回チーム医療学演習：特別講(11)／効果的学修法(11)	演題：『近年の矯正歯科治療について』 演習：レポート／補講／問題演習	講演： 川鍋　仁 （矯正） 演習： 今井　元 （解剖） C-3／ 必2-ウ, カ, キ	① ⑭ ㉑
34 35 36	７／６ 4, 5, 6限 （7限まで延長あり）	第12回チーム医療学演習：特別講演(12)／効果的学修法(12)	演題：『人間性豊かな医療人』 演習：問題解決型演習 演習：レポート／補講／問題演習	講演： 今井　元 （解剖） 演習： 今井　元 （解剖） PR-01～06	① ⑥
37 38 39	７／13 4, 5, 6限 （7限まで延長あり）	第13回チーム医療学演習：特別講演(13)／効果的学修法(13)	演題：『要介護高齢者への歯科治療』 演習：レポート／補講／問題演習	講演： 北條健太郎 （高齢） 演習： 今井　元 （解剖） C-4-3／ 必2-イ-f	① ～ ⑦ ⑭ ～ ㉔
40 41 42	７／27 4, 5, 6限 （7限まで延長あり）	第14回チーム医療学演習：特別講演(14)／効果的学修法(14)	演題：『多職種協働の重要性：奥羽大学附属病院における地域医療研修について』 演習：レポート／補講／問題演習	講演： 鈴木史彦 （高齢） 演習： 今井　元 （解剖） C-1-3／ 必2-ウ	① ～ ⑦ ⑭ ～ ㉔
43 44 45	７／28 4, 5, 6限 （7限まで延長あり）	第15回チーム医療学演習：特別講演(15)／効果的学修法(15)	演題：『定期試験の学習法について』 演習：レポート／補講／問題演習	講演：１学年-科目責任者 演習：１学年-科目責任者	① ～ ⑦ ⑬ ⑳

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
46	8／31 4限	第16回チーム医療学演習：特別講演(16)	演題：『大学教員を目指す諸君に伝えたいこと』 演習：レポート	講演： 清浦有祐 (感染) レポート提出： 今井　元 (解剖)	⑪
47 48	8／31 5，6限 (7限まで延長あり)	第17回チーム医療学演習：特別講演(17)／効果的学修法(17)	第 1 部（演題）：『再試験手続きについて』 第 2 部（演習）：補講／問題演習	講義： 今井　元 (解剖) 演習： 今井　元 (解剖)	① ⑥
49 50 51	9／7 4, 5, 6限 (7限まで延長あり)	第18回チーム医療学演習：特別講演(18)／効果的学修法(18)	演題：『薬害とは何か：薬害と薬物の副作用の違い』 演習：レポート／補講／問題演習	講演： 小林美智代 (衛生) 演習： 今井　元 (解剖) C-3-2-5, 必2-カ, キ	① ⑦
52 53 54	9／14 4, 5, 6限 (7限まで延長あり)	第19回チーム医療学演習：特別講演(19)／効果的学修法(19)	演題：『薬害（サリドマイド）と社会』 演習１：SGD／レポート「薬害を防ぐために臨床現場に求められることは」 演習２：補講／問題演習	講演： 増山ゆかり (外部講師) (財)いしずえサリドマイド福祉センター常任理事 演習： 伊藤頼位 (薬学部)／ 今井　元 (解剖) A-6-1-2, A-6-4-1／ 必2-ケ, 必6-イ	① ～ ⑩
55 56 57	9／28 4, 5, 6限 (7限まで延長あり)	第20回チーム医療学演習：特別講演(20)／効果的学修法(20)	演題：『がん患者の口腔管理や医科歯科連携の実際』 演習：SGD／レポート／問題演習	講演： 臼渕公敏 (外部講師) (外部講師：宮城県立がんセンター医療局歯科) 演習： 今井　元 (解剖) C-3-2-5	① ～ ⑩
58 59 60	10／5 4, 5, 6限 (7限まで延長あり)	第21回チーム医療学演習：特別講演(21)／効果的学修法(21)	演題：『認知症サポーター養成講習』 演習：SGD／レポート／補講 「認知症患者さんに対応する際に必要なこと」「認知症を近親者に伝える場合の注意点」	講演： 押尾　茂 (薬学部) 演習： 伊藤頼位 (薬学部)／ 今井　元 (解剖) C-1-3／ 必2-ウ	① ～ ⑩

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
61 62 63	10／19 4, 5, 6限 (7限まで延長あり)	第22回チーム医療学演習：特別講演(22)／効果的学修法(22)	演題：『B 型肝炎の正しい知識と患者の現状について』 演習：SGD／レポート／問題演習	講演： 小淵真理子 (外部講師)，および，B 型肝炎患者様 演習： 伊藤頼位 (薬学部)／ 今井　元 (解剖) C-3-2-5, 必2-カ, キ	① ～ ⑩
64	10／26 4限	第23回チーム医療学演習：特別講演(23)／効果的学修法(23)	演題：『化学実験－定量分析の概要』 演習：レポート／補講／問題演習	講演： 斎藤昇太郎 (化学) 演習： 斎藤昇太郎 (化学)	②
65 66	10／26 5，6限	第24回チーム医療学演習：特別講演(24)／効果的学修法(24)	講題：『医療系大学における感染防御の重要性』 演習：レポート／補講／問題演習	講師： 今井　元 (解剖) 演習： 今井　元 (解剖)	① ⑦
67 68 69	11／2 4, 5, 6限 (7限まで延長あり)	第25回チーム医療学演習：特別講演(25)／効果的学修法(25)	演題：『歯科医療における物理学』 演習：弾性率の計算	講演： 荒木　威 (物理) 演習-1： 荒木　威 (物理) B-1-1／ 必12-イ	⑥ ⑰
70 71 72	11／9 4, 5, 6限 (7限まで延長あり)	第26回チーム医療学演習：特別講演(26)／効果的学修法(26)	演題：『総合病院における歯科の役割とは』 演習：レポート／補講／問題演習	講師： 菅野勝也 (非常勤) 髙橋文太郎 (口外) 演習： 今井　元 (解剖)	① ⑫ ⑱
73 74 75	11／16 4, 5, 6限 (7限まで延長あり)	第27回チーム医療学演習：特別講演(27)／演習・効果的学修法(27)	演題：『歯科医師会と歯科医師の将来のために』『奥羽大学歯学部同窓会の役割と活動』 演習：レポート／補講／問題演習	講師： 菅野勝也 (非常勤) 髙橋文太郎 (口外) 演習： 今井　元 (解剖) C-1-3／ 必2-ウ	① ⑫ ⑱
76 77 78	11／30 4, 5, 6限 (7限まで延長あり)	第28回チーム医療学演習：特別講演(26)／効果的学修法(26)	演題：『総合病院で扱う顎顔面口腔奇形の発症機序』 演習問題：「顔面裂・口蓋裂の発生機序」	講師： 今井　元 (解剖) 演習： 今井　元 (解剖) C-1-3／ 必2-ウ	① ⑦

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
79 80 81	12／7 4, 5, 6限 （7限まで延長あり）	第29回チーム医療学演習：特別講演(29)／効果的学修法(29)	演題：『微生物と共に生きる：我々の古い友人たち』 演習：レポート／補講／問題演習	講演： 小林美智代 （衛生） 演習： 今井　元 （解剖） A-4-1-3, 4, 8, 9, C-4-2, C-5-4,／ 必2－キ, 総Ⅰ-7-ア	① ⑦
82 83 84	12／14 4, 5, 6限 （7限まで延長あり）	第30回チーム医療学演習：特別講演(30)／効果的学修法(30)	演題：『コミュニケーションで大切にしてほしいこと－』 演習：レポート／補講／問題演習	講演： 佐藤　歩 （心理） 演習-1： 佐藤　歩 （心理） 心理D-2-1)／ 総Ⅶ-コ 演習-2： 今井　元 （解剖）	① ⑬ ⑳
85 86 87	12／17 4, 5, 6限 （7限まで延長あり）	第32回チーム医療学演習：特別講演(32)／効果的学修法(32)	演題：『健康と「化学物質」の考え方』 演習：レポート／補講／問題演習	講演： 斎藤昇太郎 （化学） 演習： 斎藤昇太郎 （化学） A-1-1, A-4-1-3, 4, 8, 9, C-4-2, C-5-4,／ 必12-イ, 必2－キ, 総Ⅰ-7-ア	② ⑤
88 89 90	12／21 4, 5, 6限 （7限まで延長あり）	演第32回チーム医療学演習：特別講演(32)／効果的学修法(32)	演題：『総合試験について』 演習：レポート／補講／問題演習	講演：１学年-科目責任者 演習：１学年-科目責任者	① ～ ⑦ ⑬ ⑳

総合演習 2D（通年）

科目責任者：玉井利代子（感染・教授），遊佐　淳子（病理・教授）
科目担当者：①玉井利代子（感染），②原田　卓哉（物理），
③阿部　匡聡（化学），④今井　　元（生物），
⑤宇佐美晶信（解剖），⑥安部　仁晴（組織），
⑦山崎　信也（生理），⑧加藤　靖正（生化），
⑨柴田　達也（薬理），⑩石田　喜紀（材料），
⑪荒木　　威（物理），⑫斎藤昇太郎（化学），
⑬大須賀謙二（生理），⑭古山　　昭（生理），
⑮芹川　雅光（解剖），⑯小林美智代（衛生），
⑰長岡　正博（薬理）

※この科目は，主に診療経験のある歯科医師が担当する。

１．科目の概要

臨床実習開始前までに習得すべき歯科医学的知識を総合的に理解することを目的として，２学年までに履修する科目を中心に，知識の確認を行う。また，学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

２．一般目標

歯学部における専門科目を十分理解するために，その基礎となる知識の習得を目指す。また，学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

３．到達目標

１）物質の物理的，電磁的な性質に関する基礎的な原理・法則を説明できる。
２）基本的な元素や化合物，生体関連物質の名称・構造・性質・反応を説明できる。
３）人体の正常な形態と構造を説明できる。
４）細胞，組織，口腔諸器官の正常微細構造と発生過程を説明できる。
５）生体機能，生命現象の機序を説明できる。
６）生体を構成している主な物質の分子構造と機能について説明できる。
７）病原微生物，生体防御のメカニズムおよび感染防御手段（滅菌，消毒，化学療法）について説明できる。
８）薬理作用，薬物の投与方法と体内動態に関する基礎的事項を説明できる。
９）生体材料・歯科材料の組成，特性および正しい使用法を説明できる。
10）集団レベルでの健康の増進と疾病の予防を説明できる。
11）学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

４．履修の進め方

問題演習を主体として，適宜，プリントやスライドを用いた視覚的素材を活用しながら進めていく。

５．準備学修

各科目に準ずる。

６．評価方法

年度末に行う総合試験２Ｄの本試験または追・再試験で評価する。72.00％以上を合格とする。

７．教本

各科目指定の教本に準ずる。

８．参考書

各科目指定の参考書に準ずる。

9．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／13 4限	総合演習	口腔感染免疫学Ⅰ	A-4-1／ 必4-イ， 総Ⅲ-1-キ	①
2	4／13 5限	総合演習	解剖学・口腔解剖学	A-3-1～4／ 必4-ア， 総Ⅱ1-ア～ケ， 総Ⅱ4-ア～キ， Ⅱ5-ア	⑮
3	4／20 4限	総合演習	基礎物理学	B-1-1／ 必12-イ	⑪
4	4／20 5限	総合演習	口腔組織学	A-1-4／ 必4-ア	⑥
5	4／27 4限	総合演習	口腔生理学Ⅰ	A-3-1／ 必4-ア	⑭
6	4／27 5限	総合演習	基礎化学	A-1-1)， A-1-2)， B-1-2)， 必4-ア， 必12-イ	⑫
7	5／11 4限	総合演習	基礎生物学	A-1-1～5／ 必4-ア	④
8	5／11 5限	総合演習	口腔感染免疫学Ⅰ	A-4-1／ 必4-イ， 総Ⅲ-1-キ	①
9	5／18 4限	総合演習	基礎物理学	B-1-1／ 必12-イ	⑪
10	5／18 5限	総合演習	解剖学・口腔解剖学	A-3-1～4／ 必4-ア， 総Ⅱ1-ア～ケ， 総Ⅱ4-ア～キ， Ⅱ5-ア	⑮
11	5／25 4限	総合演習	基礎化学	A-1-1)， A-1-2)， B-1-2)， 必4-ア， 必12-イ	⑫
12	5／25 5限	総合演習	口腔組織学	A-3-1／ 必4-ア， 総Ⅱ-1	⑥
13	6／1 4限	総合演習	基礎生物学	A-3-1～11／ 必4-ア， 総Ⅱ-1-ア～コ	④
14	6／1 5限	総合演習	口腔生理学Ⅰ	A-3-1／ 必4-ア	⑭
15	6／8 4限	総合演習	基礎物理学	B-1-1／ 必12-イ	⑪
16	6／8 5限	総合演習	基礎化学	A-1-1)， A-1-2)， B-1-2)， 必4-ア， 必12-イ	⑫
17	6／15 4限	総合演習	解剖学・口腔解剖学	A-3-1～4／ 必4-ア， 総Ⅱ1-ア～ケ， 総Ⅱ4-ア～キ， Ⅱ5-ア	⑮
18	6／15 5限	総合演習	口腔感染免疫学Ⅰ	A-4-1／ 必4-イ， 総Ⅲ-1-キ	①
19	6／22 4限	総合演習	基礎生物学	A-3-1～11／ 必4-ア， 総Ⅱ-1-ア～コ	④
20	6／22 5限	総合演習	口腔組織学	A-3-1／ 必4-ア， 総Ⅱ-1	⑥
21	6／29 4限	総合演習	統計数理学	C-6-2／ 必12－イ	⑪
22	6／29 5限	総合演習	口腔生理学Ⅰ	A-3-1／ 必4-ア	⑬
23	7／6 4限	第1回実力試験A	第2学年前期全科目（教養科目を含む）	本年度（2026年7月3日㈮まで）行った授業内容について	
24	7／6 5限	第1回実力試験B	〃	〃	
25	7／13 4限	総合演習	基礎化学／化学	A-1-1)， A-1-2)， B-1-2)， 必4-ア， 必12-イ	③ ⑫
26	7／13 5限	総合演習	基礎生物学／生物学	A-1-2, A-3-2, -3／ 必4-ア， 必5-ア， 総Ⅱ-4-ア～カ	④ ⑧
27	7／27 4限	総合演習	口腔組織学	A-1-4, -3-1／ 必4-ア， 総Ⅱ-1	⑥
28	7／27 5限	総合演習	解剖学・口腔解剖学	A-3-1～4／ 必4-ア， 総Ⅱ1-ア～ケ， 総Ⅱ4-ア～キ， Ⅱ5-ア	⑮
29	7／28 4限	総合演習	物理／基礎物理学・統計数理学	A-1-1, B-1-1, C-6-2, D-2-5／ 必12-イ	② ⑪
30	7／28 5限	総合演習	口腔生理学Ⅰ／口腔感染免疫学Ⅰ	A-3-2／ 総Ⅱ-6, A-4-1／ 必4-イ， 総Ⅲ-1-キ	⑭ ①
31	8／31 5限	総合演習	物理学	B-1-1, D-2-5, A-1-1／ 必12-イ	②
32	8／31 6限	総合演習	化学	A-1-1／ 必12-イ	③
33	9／7 5限	総合演習	生物学	A-1-3／ 総Ⅱ-1-カ	⑧
34	9／7 6限	総合演習	物理学	B-1-1, D-2-5, A-1-1／ 必12-イ	②
35	9／14 5限	総合演習	化学	A-1-1／ 必12-イ	③
36	9／14 6限	総合演習	生物学	A-1-3／ 総Ⅱ-1-カ	⑧

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
37	9／28 5限	総合演習	解剖学・口腔解剖学	A-3-1～4／必4-ア, 総Ⅱ1-ア～ケ, 総Ⅱ-4-ア～キ, Ⅱ5-ア	⑤
38	9／28 6限	総合演習	口腔組織学	A-3-1／必4-ア, 総Ⅱ-1	⑥
39	10／5 5限	総合演習	口腔生理学Ⅰ	A-3-1／必4-ア, 総Ⅱ-1-ウ	⑬
40	10／5 6限	総合演習	口腔生化学Ⅰ	A-1-2／必4-ア	⑧
41	10／19 5限	総合演習	口腔感染免疫学Ⅰ	A-4-1／必4-イ, 総Ⅲ-1-キ	①
42	10／19 6限	総合演習	生体材料・歯科材料学Ⅰ	B-1, 2, 3／総Ⅷ-1～11	⑩
43	10／26 5限	総合演習	公衆衛生学	C-4-1, 3, C-5-1～5／必3-ア～エ	⑯
44	10／26 6限	総合演習	歯科薬理学Ⅰ	A-6-2, 3／必11-コ, 総Ⅶ-8-ア, イ	⑨ ⑰
45	11／2 5限	総合演習	解剖学・口腔解剖学	A-3-1～4／必4-ア, 総Ⅱ1-ア～ケ, 総Ⅱ4-ア	⑤
46	11／2 6限	総合演習	口腔組織学	A-2-1／必5-ア 総Ⅱ-8	⑥
47	11／9 5限	総合演習	口腔生理学Ⅰ	A-3-1／必4-ア, 総Ⅱ-1-ウ	⑦
48	11／9 6限	総合演習	口腔生化学Ⅰ	A-1-2／必4-ア	⑧
49	11／16 5限	総合演習	口腔感染免疫学Ⅰ	A-4-1, 2／必4-イ, 総Ⅱ-3-オ-a, 総Ⅲ-1-キ	①
50	11／16 6限	総合演習	生体材料・歯科材料学Ⅰ	B-1, 2, 3／総Ⅷ-1～11	⑩
51	11／30 5限	総合演習	公衆衛生学	C-4-1, 3, C-5-1～5／必3-ア～エ	⑯
52	11／30 6限	総合演習	歯科薬理学Ⅰ	A-6-2, 3, A-6-4-3／必11-コ, 総Ⅶ-8-ア, イ	⑨ ⑰
53	12／7 5限	第２回実力試験Ａ	第２学年後期全科目（教養科目を含む）	本年度（2026年12月７日㈪４限まで）行った授業内容について	
54	12／7 6限	第２回実力試験Ｂ	〃	〃	

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
55	12／14 5限	総合演習	物理学／化学／口腔生理学Ⅰ	B-1-1, D-2-5, A-1-1／必12-イ, A-3-1／必4-ア, 総Ⅱ-1-ウ	② ③ ⑬
56	12／14 6限	総合演習	生物学／口腔生化学Ⅰ	A-1-3／総Ⅱ-1-カ, A-1-2／必4-ア	⑧
57	12／17 5限	総合演習	口腔組織学	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ-5	⑥
58	12／17 6限	総合演習	解剖学・口腔解剖学	A-3-1～4／必4-ア, 総Ⅱ1-ア～ケ, 総Ⅱ4-ア～キ, Ⅱ5-ア	⑮
59	12／21 4限	総合演習	公衆衛生学／生体材料・歯科材料学Ⅰ	C-4-5, C-6-2／総Ⅰ-6-ウ, 総Ⅰ-9-ア, B-1, 2, 3／総Ⅷ-1～11	⑯ ⑩
60	12／21 5限	総合演習	歯科薬理学Ⅰ／口腔感染免疫学Ⅰ	A-6-2, 3, A-6-4-3／必11-コ, 総Ⅶ-8-ア, イ, A-4-1, A-4-2-2, 3, 4／必4-イ, 総Ⅱ-3-オ-a, 総Ⅲ-1-キ	⑨ ①

総合演習 3D（通年）

科目責任者：前田　豊信（生化・教授），高津　匡樹（有床・教授）
科目担当者：①前田　豊信（生化），②安部　仁晴（組織），
③大須賀謙二（生理），④小林美智代（衛生），
⑤宇佐美晶信（解剖），⑥眞島いづみ（感染），
⑦玉井利代子（感染），⑧柴田　達也（薬理），
⑨石田　喜紀（材料），⑩南　健太郎（衛生），
⑪古山　　昭（生理），⑫遊佐　淳子（病理），
⑬金　　秀樹（口外），⑭髙橋文太郎（薬理），
⑮髙津　匡樹（有床），⑯池田　敏和（有床），
⑰山田　嘉重（修復），⑱原田　卓哉（物理），
⑲風間　咲美（医学），⑳鈴木　史彦（高齢），
㉑羽鳥　弘毅（冠橋），㉒川原　一郎（放射），
㉓中川　敏浩（衛生）

※この科目は，主に診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

臨床実習開始前までに習得すべき歯科医学的知識を理解することを目的として，三学年に履修する科目を中心に，演習と解説講義を行う。また，学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

２．一般目標

歯学部における専門科目を十分理解するために，その基礎となる知識の習得を目指す。また，学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

３．到達目標

１）人体の正常な形態とその機能を説明できる。
２）感染と生体防御のメカニズムについて説明できる。
３）病変の特徴と成因および治療法について説明できる。
４）全身疾患と口腔病変について説明が出来る。
５）薬物の体内動態と特徴について説明できる。
６）歯科材料とその特徴について説明できる。
７）健康増進，疾病予防と保健活動について説明が出来る。
８）クラウンブリッジ補綴と全部床義歯補綴について説明が出来る。
９）保存修復について概略が説明できる。
10）歯科医療における放射線の取り扱いに必要な知識が説明できる。
11）高齢者の特徴と治療上の留意点が説明できる。
12）学年末の総合試験に合格できる総合力を身につける。

４．履修の進め方

問題演習を主体として，適宜，プリントやスライドを用いた視覚的素材を活用しながら進めていく。

５．準備学修

各科目に準ずる。

６．評価方法

総合試験３Ｄで評価する。72.0％以上を合格とする。72.00％に満たない者は，願出により，再試験を受験させる。再試験も本試験と同様に 72.00％以上を合格とする。

７．教本

各科目指定の教本に準じる。

８．参考書

各科目指定の参考書に準じる。

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／13 6限	総合演習３Ｄ	口腔組織学	A-1-4, A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-ア～ケ	②
2	4／20 6限	総合演習３Ｄ	口腔解剖学	A-3-1, 2, 3／必4-ア, 総Ⅱ1ア-ケ, 6-ア-カ	③
3	4／27 6限	総合演習３Ｄ	解剖学（口腔解剖学）	A-3-1／必4-ア, 総Ⅱ1-ア～ケ	⑤
4	5／11 6限	総合演習３Ｄ	公衆衛生学	C-4-1, C-4-5, C-5-1～5,／総I-1-ア, オ	④
5	5／18 6限	総合演習３Ｄ	口腔感染免疫学Ⅰ	A-4-1-1／総Ⅲ1-キ-a, b	⑥ ⑦
6	5／25 6限	総合演習３Ｄ	口腔生理学Ⅰ	A-3-1, 2, 3／必4-ア, 総Ⅱ1ア-ケ, 6-ア-カ	③
7	6／1 6限	総合演習３Ｄ	口腔生化学Ⅰ	A-1-5／必4-ア, 総Ⅱ-1-イ～カ・ク	①
8	6／8 6限	総合演習３Ｄ	歯科薬理学Ⅰ	A-6-1～3, A-6-4-3／必11-コ	⑧ ⑭
9	6／15 6限	総合演習３Ｄ	生体材料・歯科材料学Ⅰ	B-1, 2, 3／総Ⅷ-1～11	⑨
10	6／22 6限	総合演習３Ｄ	社会歯科学	C-4-2／必2-イ	⑩
11	6／29 6限	総合演習３Ｄ	口腔生化学Ⅱ	A-1-3･-5, A-3-1／必4-ア, 総Ⅱ-1-ア～ク, 総Ⅱ8-ウ	①
12	7／6 6限	総合演習３Ｄ	口腔感染免疫学Ⅱ	A-4-2-1, 2, 3／総Ⅱ-3-ウ, エ, オ	⑥ ⑦
13	7／13 6限	総合演習３Ｄ	歯科薬理学Ⅱ	A-6-2, 3, 4／必11コ, 総Ⅶ-8-ア, イ, ウ	⑧ ⑭
14	7／27 6限	総合演習３Ｄ	生体材料・歯科材料学Ⅱ	B-1, 2, 3／総Ⅷ-1～11	⑨
15	7／28 6限	総合演習３Ｄ	口腔生理学Ⅱ	A-3-1, 2, 3／必4-ア, 総Ⅱ1ア-ケ, 6-ア-カ	⑪
16	8／31 3限	総合演習３Ｄ	口腔病理学	A-5-4／総Ⅲ-1-オ	⑫
17	8／31 4限	総合演習３Ｄ	口腔衛生学	C-6-1, 2／総Ⅰ-6-ア, イ	⑩
18	9／7 3限	総合演習３Ｄ	口腔外科学Ⅰ	E-2-4／各Ⅳ-16	⑬

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
19	9／7 4限	総合演習３D	口腔内科学	E-2／必, 総Ⅳ, Ⅵ, Ⅷ, Ⅸ, X	⑭
20	9／14 3限	総合演習３D	社会歯科学	C-4-2／ 必2-イ	⑩
21	9／14 4限	総合演習３D	口腔生理学Ⅱ	A-3-1, 2, 3／ 必4-ア, 総Ⅱ1ア-ケ, 6-ア-カ	⑪
22	9／28 3限	総合演習３D	口腔感染免疫学Ⅱ	A-4-2-1, 2, 3／ 総Ⅱ-3-ウ, エ, オ	⑥ ⑦
23	9／28 4限	総合演習３D	歯科薬理学Ⅱ	A-6-2, 3, 4／ 必11コ, 総Ⅶ-8-ア, イ, ウ	⑧ ⑭
24	10／5 3限	総合演習３D	生体材料・歯科材料学Ⅱ	B-1, 2, 3／ 総Ⅷ-1～11	⑨
25	10／5 4限	総合演習３D	口腔生化学Ⅱ	A-1-3･-5, A-3-1／ 必4-ア, 総Ⅱ-1-ア～ク, 総Ⅱ8-ウ	①
26	10／19 3限	総合演習３D	歯科医療管理学	C-4-3-2／ 総Ⅰ-1-ウ	⑩
27	10／19 4限	総合演習３D	保存修復学Ⅰ	D-3-2-1, E-5-3-1／ 各Ⅱ-1, 必-8, 総Ⅷ-5, 9	⑰
28	10／26 3限	総合演習３D	総合臨床医学	D-6-1)／ 総Ⅶ-1-エ	⑲
29	10／26 4限	総合演習３D	冠橋義歯補綴学Ⅰ	E-5-3／ 各Ⅳ-3-ア, イ, ウ	㉑
30	11／2 3限	総合演習３D	有床義歯補綴学Ⅰ	E-5-3-2／ 各Ⅳ-5	⑯
31	11／2 4限	総合演習３D	歯科放射線学Ⅰ	E-1-2／ 必修9-カ, 総Ⅲ-1-コ-b, Ⅵ-2, Ⅶ-7	㉒
32	11／9 3限	総合演習３D	高齢者歯学Ⅰ	D-5-7／ 総Ⅰ-2-オ Ⅵ-2, Ⅶ-7	⑳
33	11／9 4限	総合演習３D	災害歯科学	A-7-1), B-2-2)／ 総Ⅰ-1-エ-h, Ⅰ-3-ア-a, b, c	⑩
34	11／16 3限	総合演習３D	口腔病理学	A-5-4／ 総Ⅲ-1-オ	⑫
35	11／16 4限	総合演習３D	口腔衛生学	C-6-1, 2／ 総Ⅰ-6-ア, イ	⑩
36	11／30 3限	総合演習３D	口腔外科学Ⅰ	E-2-4／ 各Ⅳ-16	⑬
37	11／30 4限	総合演習３D	口腔内科学	E-2／必, 総Ⅳ, Ⅵ, Ⅷ, Ⅸ, X	⑭

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
38	12／7 3限	総合演習３D	災害歯科学	A-7-1), B-2-2)／ 総Ⅰ-1-エ-h, Ⅰ-3-ア-a, b, c	㉓
39	12／7 4限	総合演習３D	高齢者歯学Ⅰ	D-5-7／ 総Ⅰ-2-オ Ⅵ-2, Ⅶ-7	⑳
40	12／14 3限	総合演習３D	歯科医療管理学	C-4-3-2／ 総Ⅰ-1-ウ	⑩
41	12／14 4限	総合演習３D	歯科放射線学Ⅰ	E-1-2／ 必修9-カ, 総Ⅲ-1-コ-b, Ⅵ-2, Ⅶ-7	⑱
42	12／17 3限	総合演習３D	総合臨床医学	D-6-1)／ 総Ⅶ-1-エ	⑲
43	12／17 4限	総合演習３D	保存修復学Ⅰ	D-3-2-1, E-5-3-1／ 各Ⅱ-1, 必-8, 総Ⅷ-5, 9	⑰
44	12／21 3限	総合演習３D	冠橋義歯補綴学Ⅰ	E-5-3／ 各Ⅳ-3-ア, イ, ウ	㉑
45	12/21 4限	総合演習３D	有床義歯補綴学Ⅰ	E-5-3-2／ 各Ⅳ-5	⑯

総合演習 4D（後期）

科目責任者：金　　秀樹（口外・教授），川合　宏仁（麻酔・教授）
科目担当者：①髙津　匡樹（有床），②羽鳥　弘毅（冠橋），
③高橋　昌宏（歯周），④山田　嘉重（修復），
⑤島村　和宏（小児），⑥佐藤　　光（麻酔），
⑦佐藤　穏子（歯内），⑧川鍋　　仁（矯正），
⑨臼井　通彦（歯周），⑩川原　一郎（放射），
⑪金　　秀樹（口外），⑫宇佐美昌信（解剖），
⑬安部　仁晴（組織），⑭山崎　信也（生理），
⑮玉井利代子（感染），⑯前田　豊信（生化），
⑰柴田　達也（薬理），⑱石田　喜紀（材料），
⑲遊佐　淳子（病理），⑳南　健太郎（衛生），
㉑鈴木　史彦（高齢），㉒吉田　健司（障害）

※この科目は，主に診療経験のある歯科医師が担当する

1．科目の概要

臨床実習開始前までに必要不可欠な総合的知識を身につけるために，生命科学および口腔科学科目の復習を行い，学年末の CBT および総合試験４D に合格できる総合力を維持する。

2．一般目標

生命科学および口腔科学科目を中心とした歯科医学的知識を復習して理解を深める。

3．到達目標

1）生命科学科目について理解する。
2）口腔科学科目について理解する。
3）学年末の CBT および総合試験４D に合格できる総合力を身につける。

4．履修の進め方

講義形式でスライドと資料を使用して履修する。

5．準備学修

各科目に準ずる。

6．評価方法

年度末に行う総合試験４Dの本試験または追･再試験（100％）により評価し，72.00％以上を合格とする。

7．教本

各科目指定の教本に準ずる。

8．参考書

各科目指定の参考書に準ずる。

9．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	8/31 3限	総合演習４D	口腔組織学	A-1-4, A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-ア～ケ	⑬
2	8/31 4限	総合演習４D	口腔組織学	A-2-4, -3-3, 4／必4-ア, 5-ア 総Ⅱ4-オ, 5-イ 総Ⅱ8-ア, イ	⑬
3	9/4 6限	総合演習４D	有床義歯補綴学	前期内容に準ずる	①
4	9/7 3限	総合演習４D	解剖学	A-3-1／必4-ア, 総Ⅱ1-ア～ケ	⑫
5	9/7 4限	総合演習４D	解剖学	A-3-1／必4-ア, 総Ⅱ1-ア～ケ	⑫
6	9/11 6限	総合演習４D	有床義歯補綴学	前期内容に準ずる	①
7	9/14 3限	総合演習４D	口腔解剖学	A-3-2, 3, 4／総Ⅱ4-ア～キ, Ⅱ5-ア	⑫
8	9/14 4限	総合演習４D	口腔解剖学	A-3-2, 3, 4／総Ⅱ4-ア～キ, Ⅱ5-ア	⑫
9	9/18 6限	総合演習４D	冠橋義歯補綴学	前期内容に準ずる	②
10	9/25 6限	総合演習４D	冠橋義歯補綴学	前期内容に準ずる	②
11	9/28 3限	総合演習４D	口腔生理学Ⅰ	A-3-1, 2, 3／必4-ア, 総Ⅱ1ア-ケ, 6-ア-カ	⑭
12	9/28 4限	総合演習４D	口腔生理学Ⅰ	A-3-1, 2, 3／必4-ア, 総Ⅱ1ア-ケ, 6-ア-カ	⑭
13	10/2 6限	総合演習４D	口腔インプラント学	前期内容に準ずる	③
14	10/5 3限	総合演習４D	口腔衛生学	C-6-1, 2／総Ⅰ-6-ア, イ	⑳
15	10/5 4限	総合演習４D	口腔衛生学	C-6-1, 2／総Ⅰ-6-ア, イ	⑳
16	10/9 6限	総合演習４D	口腔インプラント学	前期内容に準ずる	③
17	10/16 6限	総合演習４D	保存修復学	前期内容に準ずる	④
18	10/19 3限	総合演習４D	口腔病理学	A-5-4／総Ⅲ-1-オ	⑲
19	10/19 4限	総合演習４D	口腔病理学	A-5-5／総Ⅲ-1-カ	⑲
20	10/23 6限	総合演習４D	保存修復学	前期内容に準ずる	④
21	10/26 3限	総合演習４D	口腔感染免疫学Ⅰ	A-4-1-1／総Ⅲ1-キ-a, b	⑮
22	10/26 4限	総合演習４D	口腔感染免疫学Ⅰ	A-4-1-1／総Ⅲ1-キ-a, b	⑮
23	10/30 6限	総合演習４D	小児歯科学	前期内容に準ずる	⑤
24	11/2 3限	総合演習４D	歯科薬理学Ⅰ	A-6-1～4／必11-コ／総Ⅶ-8-ア, イ	⑰
25	11/2 4限	総合演習４D	歯科薬理学Ⅰ	A-6-1～4／必11-コ／総Ⅶ-8-ア, イ	⑰
26	11/6 6限	総合演習４D	小児歯科学	前期内容に準ずる	⑤
27	11/9 3限	総合演習４D	生体材料・歯科材料学Ⅰ	B-1, 2, 3／総Ⅷ-1～11	⑱
28	11/9 4限	総合演習４D	生体材料・歯科材料学Ⅰ	B-1, 2, 3／総Ⅷ-1～11	⑱
29	11/13 6限	総合演習４D	歯科麻酔学	前期内容に準ずる	⑥
30	11/16 3限	総合演習４D	口腔生化学Ⅱ	A-1-5／必4-ア, 総Ⅱ-1-イ～カ・ク	⑯

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
31	11/16 4限	総合演習４Ｄ	口腔生化学Ⅱ	A-1-3, A-3-1／ 必4-ア, 総Ⅱ-1-ア～ク, 総Ⅱ8-ウ	⑯
32	11/20 6限	総合演習４Ｄ	歯科麻酔学	前期内容に準ずる	⑥
33	11/27 6限	総合演習４Ｄ	歯内療法学	前期内容に準ずる	⑦
34	11/30 3限	総合演習４Ｄ	歯周病学	前期内容に準ずる	⑨
35	11/30 4限	総合演習４Ｄ	歯周病学	前期内容に準ずる	⑨
36	12/ 4 6限	総合演習４Ｄ	歯内療法学	前期内容に準ずる	⑦
37	12/ 7 3限	総合演習４Ｄ	口腔外科学	前期内容に準ずる	⑪
38	12/ 7 4限	総合演習４Ｄ	口腔外科学	前期内容に準ずる	⑪
39	12/11 6限	総合演習４Ｄ	歯科矯正学	前期内容に準ずる	⑧
40	12/14 3限	総合演習４Ｄ	歯科放射線学	前期内容に準ずる	⑩
41	12/14 4限	総合演習４Ｄ	歯科放射線学	前期内容に準ずる	⑩
42	12/17 3限	総合演習４Ｄ	高齢者歯科学	後期内容に準ずる	㉑
43	12/17 4限	総合演習４Ｄ	障害者歯科学	後期内容に準ずる	㉒
44	12/21 3限	総合演習４Ｄ	歯科矯正学	前期内容に準ずる	⑧
45	12/21 4限	総合演習４Ｄ	高齢者歯科学	後期内容に準ずる	㉑
補講1		CBT 対策講座	Ａ生命科学		
補講2		CBT 対策講座	Ｂ歯科材料 Ｃ社会と歯学		

第１学年

教養系教育・基礎科学教育科目

美　　術 …… 59
統 計 数 理 学 …… 60
情報リテラシーⅠ …… 61
英 語 基 礎 …… 63
英　　語　Ⅰ …… 64
心　　理　学 …… 65
経　　営　学 …… 66
日 本 語 学 Ⅰ …… 67
医 療 倫 理 学 …… 70
基 礎 物 理 学 …… 71
物 理 学 実 験 …… 73
基 礎 化 学 …… 74
化 学 実 験 …… 76
基 礎 生 物 学 …… 77
生 物 学 実 験 …… 81
歯 科 医 学 演 習 …… 83
歯 科 医 療 概 論 …… 84
基礎歯学概論Ⅰ …… 85
臨 床 歯 学 概 論 …… 86
臨 床 心 理 学 …… 87
歯科医療人間学Ⅰ …… 88

美術（前期・１単位）

D①②A-b1-1101（D1101）

科目責任者：渡部　憲生（非常勤）
科目担当者：①渡部　憲生（非常勤）

１．科目の概要

「美術」は過去から未来への文化の伝承を担う営みであり，造形的な表現と鑑賞を通したビジュアルコミュニケーションを展開する世界である。私たちの身の回りに存在している「美術」は，意識・無意識にかかわらず，私たちの生活に大きな影響を与えている。たとえば衣服の選択や日用品の購入，住居の環境構成など，それぞれの趣味やセンスとして認識され，顕在化される。「美術」の授業では，そんな私たちの生活に大きな影響を与える重要な文化の一つである“美術”について，よく知られる美術作品の鑑賞や基本的な表現体験を通して，認識を新たにするとともに，造形的な表現活動の楽しさを味わい，文化に対する広い見識と造形表現に関する理解の深まりをねらいとして学習活動を行う。

２．一般目標

造形表現の意味や価値について学び，美術への興味・関心・理解を深めるとともに，文化的・精神的な豊かさについて考察する。

３．到達目標

１）造形表現に関心をもち，それらを通した学びの意味を考え，意義深い学習活動を構築することができる。
２）造形的要素を用いた表現を体験し，日常生活や生涯学習に活用できる文化価値を理解することができる。
３）学習活動から得られた認識力，表現技術により，知性的・感性的人格の実現を目指すことができる。
４）ものやことに触れ，描画センスや配色の調和感覚，手の巧緻性を高めることができる。
５）授業準備，計画実施，学習意欲等について，多面的に自らの姿勢を振り返り，自己改善することができる。
６）情報や資料の収集に努め，主体的に授業に参加することができる。
７）文化の伝承や民族性について理解し，人々の営みと文化の多様性，芸術活動について理解することができる。
８）美術史学習から造形的な文化について洞察を深め，「美」を求めてきた意義について考察することができる。
９）表現活動を通して，条件や状況に合わせて発想したり企画したりすることができる。

４．履修の進め方

映像やプリント，板書等による講義，紙材や粘土などを用いた表現実習を行う。表現活動では，主題を具体的に表すための発想力や構想力が求められる。授業進度に合わせた学習ペースを考え，主体的に授業に参加することが求められる。

［準備物］スケッチブック，鉛筆（Ｈ～４Ｂを３本程度），色鉛筆（12色～24色），ハサミ，カッターナイフ，スティック糊，木工用接着剤，定規

５．準備学修

予　習：授業計画を基に表現内容について理解し，主題を明確にした構想を練り上げるとともに，表現の進め方や材料・用具を確認し，表現計画を構想する。（60分）
復　習：スケッチブックの描画や作品を自己評価し，自分なりの表現のよさを味わったり修正を加えたりして進度の調整をする。（60分）
その他：手の巧緻性や集中力，人間関係力などの自己評価に基づき，学習姿勢や自己管理について考える。

６．評価方法

提出された作品（スケッチブック）〈50％〉，毎時の授業感想（出席カード記録）及び授業総括レポート〈30％〉，出席状況〈20％〉により評価する。

提出作品については，主題の捉え方，表現技術（作品の質）の他，資料収集力，表現の丁寧さなど，授業への積極性・関心意欲等も加味した評価を行う。作品評価のため，スケッチブックを定められた方法・内容，期日で提出する。

筆記による試験は行わないが，出席確認を兼ねた授業感想カードの提出を毎時ごとに求める。また，授業最終日に授業全体を振り返る総括レポート（1500字程度）の提出を求める。なお，提出されたスケッチブックは評価後返却する。

７．教本

テキスト等については特に指定しない。実習材料として，スケッチブック，色紙（トーナルカラー65色）を各自購入する。授業に使用する資料等は，必要に応じて各題材ごとにプリント資料の配付，データ提示を行う。

８．参考書

なし

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2	4／10	オリエンテーション 表現体験Ⅰ 造形美の発見	本授業のねらい・学習計画等の確認 身辺の造形美の発見（筆記用具・スケッチブック）		①
3 4	4／17	表現体験Ⅰ 「線で表す」①	線による表現①［立体感・遠近感］ （　〃　）		〃
5 6	4／24	表現体験Ⅰ 「線で表す」②	線による表現②［一コマまんが］① （　〃　）		〃
7 8	5／8	表現体験Ⅰ 「線で表す」③	線による表現③［一コマまんが］② （　〃　）		〃
9 10	5／15	表現体験Ⅰ 「線で表す」④	線による表現④［四コマまんが］① （　〃　）		〃
11 12	5／22	表現体験Ⅰ 「線で表す」⑤	線による表現⑤［四コマまんが］②， 作品鑑賞 （　〃　）		〃
13 14	5／29	表現体験Ⅱ 「色で表す」①	色の性質とデザインの要素 色の性質を生かした色紙による「四季」の平面構成①［構想］ （スケッチブック・色鉛筆・色紙）		〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
15 16	6／5	表現体験Ⅱ 「色で表す」②	色の性質を生かした色紙による「四季」の平面構成② ［表現］ （　〃　）		①
17 18	6／12	表現体験Ⅱ 「色で表す」③	色の性質を生かした色紙による「四季」の平面構成③ ［表現］ （　〃　）		〃
19 20	6／19	表現体験Ⅱ 「色で表す」④	色の性質を生かした色紙による「四季」の平面構成④ ［表現・完成］ 作品鑑賞 （　〃　）		〃
21 22	6／26	表現体験Ⅱ 「色で表す」⑤	色の性質を生かした色紙による「四季」の平面構成⑤ ［表現・完成］ 作品鑑賞 （　〃　）		〃
23 24	7／3	表現体験Ⅲ 「紙で表す」①	紙による建物の立体表現① ［構想］ （カッターナイフ・木工用接着剤）		〃
25 26	7／10	表現体験Ⅲ 「紙で表す」②	紙による建物の立体表現② ［成形］ （　〃　）		〃
27 28	7／17	表現体験Ⅲ 「紙で表す」③	紙による建物の立体表現③ ［成形］ （　〃　）		〃
29 30	7／24	表現体験Ⅲ 「紙で表す」④	紙による建物の立体表現④ 「完成」作品鑑賞授業総括レポート作成 （　〃　）		〃

統計数理学（通年・２単位）

D②A-a2-1103(D1103)

科目責任者：荒木　　威（物理・准教授）
科目担当者：①荒木　　威（物理）

１．科目の概要

例えば新たに開発した薬が有効であるか否かや，ある病気の発症頻度に地域差があるか否かなど，医療の現場では推測を行う機会が多々あることが想像できます。経験や感覚に基づく判断で十分な場合もあるかもしれませんが，客観的な根拠に基づいた推測を行うことも重要です。後者の手法を与えるのが統計学あり，具体的には「推定」や「検定」という手法がそれに当たります。統計数理学ではこれらの手法の基本的な考え方と，初歩的な問題への応用を学びます。またその準備として，データの記述方法および確率の基礎についても学びます。これらを通じディプロマポリシーの「探求力と解決力」の基礎づくりを行います。

２．一般目標

ディプロマポリシー「探求力と解決力」の基礎づくりとして以下を目標とする。

・統計学に基づいたデータの記述方法を修得する。
・統計学に基づいた推測方法を取得する。
・論理的思考に基づいた問題解決能力を養う。

３．到達目標

・データの代表値や分散を計算できる。
・データをもとに度数分布表とヒストグラムを作成することができる。
・確率の基本的な性質を理解し計算できる。
・初歩的な問題に対して区間推定と仮説検定を行うことができる。

４．履修の進め方

プロジェクターを用いて解説を行うとともに，適宜，演習問題に取り組みながら理解を深める。解説に用いるスライドと演習問題およびその解答はすべてユニバーサル・パスポート上で公開する。

５．準備学修

・前回配布された講義資料を教科書と照らし合わせながら復習する（60分）。
・教科書の該当箇所を予習する（60分）。

６．評価方法

課題提出（30点），前期定期試験（35点），後期定期試験（35点）に基づき100点満点で評価する。最終評価が65点以上を合格とする。課題には提出期限を設け，提出期限を過ぎた課題は０点とする。

最終評価において65点未満の者に対して，願い出に応じて再試験を行う。再試験において正解率65％以上を合格とし，再試験合格者の最終評価を65点とする。

疾病その他やむを得ない理由により定期試験を欠席した者に対して，願い出に応じて追試験を行う。やむを得ない理由であったことを鑑み，追試験は定期試験と同じ規準で評価する。

課題と試験の問題および解答はユニバーサル・パスポート上に公開する。課題と試験の結果は個別にメールで配信する。

７．教本

基本統計学，宮川公男著，有斐閣

８．参考書

・統計解析がわかる，涌井良幸，涌井貞美，技術評論社
・統計学入門，東京大学教養学部統計学教室編，東京大学出版

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／9	ガイダンス	授業の目的と進め方	C-6-2／必12-イ	①
2	4／16	記述統計学	データの可視化①	C-6-2／必12-イ	〃
3	4／23		データの可視化②	C-6-2／必12-イ	〃
4	5／7		代表値①	C-6-2／必12-イ	〃
5	5／14		代表値②	C-6-2／必12-イ	〃
6	5／21		データの散らばり①	C-6-2／必12-イ	〃
7	5／28		データの散らばり②	C-6-2／必12-イ	〃
8	6／4		相関関係	C-6-2／必12-イ	〃
9	6／11	確率論	確率の基礎①	C-6-2／必12-イ	〃
10	6／18		確率の基礎②	C-6-2／必12-イ	〃
11	6／25		確率変数と確率分布①	C-6-2／必12-イ	〃
12	7／2		確率変数と確率分布②	C-6-2／必12-イ	〃
13	7／9		二項分布とポアソン分布①	C-6-2／必12-イ	〃
14	7／16		二項分布とポアソン分布②	C-6-2／必12-イ	〃
15	7／23		正規分布①	C-6-2／必12-イ	〃
16	9／3	推測統計学	正規分布②	C-6-2／必12-イ	〃
17	9／10	区間推定	比率の区間推定①	C-6-2／必12-イ	〃
18	9／17		比率の区間推定②	C-6-2／必12-イ	〃
19	9／24		大数の法則①	C-6-2／必12-イ	〃
20	10／1		大数の法則②	C-6-2／必12-イ	〃
21	10／8		母集団分布と標本分布	C-6-2／必12-イ	〃
22	10／15		平均値の区間推定(大標本)①	C-6-2／必12-イ	〃
23	10／22		平均値の区間推定(大標本)②	C-6-2／必12-イ	〃
24	10／29		ここまでの復習	C-6-2／必12-イ	〃
25	11／5		平均値の区間推定(小標本)①	C-6-2／必12-イ	〃
26	11／12		平均値の区間推定(小標本)②	C-6-2／必12-イ	〃
27	11／19	仮説検定	比率の検定①	C-6-2／必12-イ	〃
28	11／26		比率の検定②	C-6-2／必12-イ	〃
29	12／3		平均値の検定①	C-6-2／必12-イ	〃
30	12／10		平均値の検定②	C-6-2／必12-イ	〃

情報リテラシーⅠ（通年・１単位）

D②A-b1-1104(D1104)

科目責任者：古山　　昭（生理・講師）

科目担当者：①古山　　昭（生理），②芹川　雅光（解剖），③齋藤　龍一（材料）

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

情報化社会また，歯科医療においてもコンピュータを操作できる基礎能力は必須である。情報リテラシーⅠではネット社会における適切な情報の取り扱い方法，ワードプロセッサによる文章の作成，表計算ソフトによる表とグラフの作成，プレゼンテーションソフトによるスライド作成，画像処理ソフトや生成 AI による画像加工を習得する。

また，後期試験後に学生自ら多肢選択問題の作問を行う。総合試験や CBT の出題形式についての理解が深まり，コンピュータを使った試験形式に早期から対応できる。

２．一般目標

医療に対して探求力，解決力，発信力を獲得するために，コンピュータやインターネットの操作に習熟することを目的とする。

３．到達目標

1）メール作法に習熟し，著作権や肖像権に配慮した情報の適切な取り扱いができる。
2）コンピュータを操作できる。
3）Word を用いて文書を作成できる。
4）Excel を用いて表およびグラフを作成できる。
5）PowerPoint を用いてプレゼンテーション用のスライドを作成できる。
6）GIMP を用いて画像加工ができる。
7）生成 AI を用いた画像加工ができる。
8）課題に対しての問題作成とプレゼンテーションを行うことができる。

４．履修の進め方

コンピュータの基本操作，ネット接続，ソフトウェアの操作を実際にコンピュータを使用して学習する。一学年主要科目の重要事項について問題作成を行う。

５．準備学修

講義の最後に，次回の講義に必要な学習項目および，目を通すべき資料を提示し，簡単な宿題を課す。学習内容は10～30分で遂行可能なものとする。宿題は講義の前日までにユニバーサルパスポートまたは Google Classroom で提出させ，教員がチェックして学生の習熟度を把握した上で講義を行う。

６．評価方法

前期後期１回ずつの試験（課題の作成，20％×２＝40％），単元別まとめ課題提出（８％×５回，計40％），宿題（予習課題）提出（20％×提出率）により評価を行う。再試験は希望者を対象に前期後期１回ずつ行う（最大26％）。課題提出は，提出期限に遅れた場合，点数を減点する。

７．教本

定平　誠著「例題50＋演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint＋情報・AI リテラシー標準テキスト Microsoft365office2024対応版」技術評論社

Noa 出版編集部　編「情報倫理ハンドブック」noa 出版

土屋 徳子著「すぐに作れる ずっと使える GIMP のすべてが身に付く本［改訂新版］GIMP 3.0対応」技報堂出版

８．参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／8	オリエンテーション	授業の概要説明，個人情報保護，著作権の保護		①～③
2	4／15	情報倫理	コンピュータの基本操作，ウィルス対策ネット接続など		〃
3	4／22	ワードプロセッサ①	Word の基本操作，文書作成		〃
4	5／13	ワードプロセッサ②	文書デザインとレイアウト書式設定		〃
5	5／20	ワードプロセッサ③	オブジェクトの設定，図の応用		〃
6	5／27	ワードプロセッサ④	ラベルの作成		〃
7	6／3	表計算①	Excel の基本操作，表の作成		〃
8	6／10	表計算②	計算式の入力関数の応用		〃
9	6／17	表計算③	グラフの作成		〃
10	6／24	表計算④	データの整理と検索		〃
11	7／1	表計算⑤	表計算弱点補強		〃
12	7／8	プレゼンテーション①	PowerPoint の基本操作スライドの作成		〃
13	7／15	プレゼンテーション②	スライドのデザイン，スライドの編集		〃
14	7／22	試験	前期試験		〃
15	7／29	プレゼンテーション③	自分の趣味をプレゼンテーション		〃
16	9／1	プレゼンテーション④	自分の趣味をプレゼンテーション		〃
17	9／8	プレゼンテーション⑤	自分の趣味をプレゼンテーション		〃
18	9／15	プレゼンテーション⑥	自分の趣味をプレゼンテーション		〃
19	9／29	プレゼンテーション⑦	自分の趣味をプレゼンテーション		〃
20	10／6	プレゼンテーション⑧	自分の趣味をプレゼンテーション		〃
21	10／13	画像処理①	画像加工（1）		〃
22	10／20	画像処理②	画像加工（2）		①～③
23	10／27	画像処理③	画像加工（3）		〃
24	11／10	画像処理④	画像加工（4）		〃
25	11／17	画像処理⑤	画像加工（5）		〃
26	11／24	画像処理⑥	画像加工（6）		〃
27	12／1	試験	後期試験		〃
28	12／8	問題作成①	問題作成		〃
29	12／15	問題作成②	問題のブラッシュアップ		〃
30	12／18	問題作成③	問題のプレゼンテーション		〃

英語基礎（通年・１単位）

D①②A-b1-1106(D1106)

科目責任者：長峯　英樹（英語・講師）
科目担当者：①長峯　英樹（英語）
※この科目は，一般企業勤務経験のある教員が担当する

１．科目の概要

当講義は，文化や価値観の多様性を理解できる歯科医師となるために，英語の基礎力向上を第一の目的としている。

２．一般目標

英語の理解スピードと精度を向上させるために基礎的な語彙と文法を復習する。自分の意見を述べるときに役立つ表現を数多く覚える。

３．到達目標

１）基礎的な文法を復習し，表現方法の細かなニュアンスを理解できるようにする。
２）国内外の社会問題の背景を英語で学び，語彙・構文，時事表現を覚える。
３）論争テーマに関する賛成・反対の争点を英語で理解できるようにする。
４）英語で発信するための基礎スキルを身につける。

４．履修の進め方

英文の音読とサイトトランスレーションを丁寧に行うことにより，頻出語彙や時事表現，基礎文法を学ぶ。次に，テーマに対する賛否とその根拠を整理・理解するとともに頻出の表現パターンを覚える。

５．準備学修

＜予習＞
①各 Unit の英文の音声を聞いて，発音やリズムを確認（20分）
②英文を読み，語彙の意味を確認（30分）
③講義で質問すべき点をリストアップ（10分）
＜復習＞
講義で学んだ英文の音声を，発音やリズム，意味などを確認しながらリスニング（30分）
＜その他＞
日常的に，映画や雑誌・新聞など，できるだけ多く英語に触れるよう心がけること。

６．評価方法

筆記試験（100％）により評価し，100点満点中65点以上を合格とする。
なお，筆記試験は①前期定期試験，②後期定期試験，③Review Test（全６回）の合計を平均した点数で評価される。筆記試験のフィードバックは基本的に次回講義時に解説する。

７．教本

Mark Jewel『議論伯仲：ふたつの意見 Pros and Cons − Arguing Different Points of View』朝日出版社

８．参考書

特になし。必要に応じて，新聞や雑誌などを活用する。

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／8	Chapter 1	Food Additives	C-7-1／必12-ウ	①
2	4／15	Chapter 2	Body Image and Photoshopping	C-7-1／必12-ウ	〃
3	4／22		Review (1-2)	C-7-1／必12-ウ	〃
4	5／13		Review Test (1-2)	C-7-1／必12-ウ	①
5	5／20	Chapter 3	Undergrounding	C-7-1／必12-ウ	〃
6	5／27	Chapter 4	Do We Need the Olympics?	C-7-1／必12-ウ	〃
7	6／3		Review (3-4)	C-7-1／必12-ウ	〃
8	6／10		Review Test (3-4)	C-7-1／必12-ウ	〃
9	6／17	Chapter 5	Mobile Ads	C-7-1／必12-ウ	〃
10	6／24	Chapter 6	SIM-Free Smartphones	C-7-1／必12-ウ	〃
11	7／1		Review (5-6)	C-7-1／必12-ウ	〃
12	7／8		Review Test (5-6)	C-7-1／必12-ウ	〃
13	7／15	歯学部・薬学部合同授業	Today's Controversial Issue 1	C-7-1／必12-ウ	〃
14	7／22		Review (TCI 1)	C-7-1／必12-ウ	〃
15	7／29		Review (Apr-Jul)	C-7-1／必12-ウ	〃
16	9／2	Chapter 8	Barrier-Free Everywhere?	C-7-1／必12-ウ	〃
17	9／9	Chapter 9	Elderly Drivers	C-7-1／必12-ウ	〃
18	9／16		Review (8-9)	C-7-1／必12-ウ	〃
19	9／30		Review Test (8-9)	C-7-1／必12-ウ	〃
20	10／7	Chapter 11	The NIMBY Syndrome	C-7-1／必12-ウ	〃
21	10／14	Chapter 12	Electric Voting	C-7-1／必12-ウ	〃
22	10／21		Review (11-12)	C-7-1／必12-ウ	〃
23	10／28		Review Test (11-12)	C-7-1／必12-ウ	〃
24	11／4	Chapter 13	Aid in Dying	C-7-1／必12-ウ	〃
25	11／11	Chapter 15	Animal Testing	C-7-1／必12-ウ	〃
26	11／18		Review (13&15)	C-7-1／必12-ウ	〃
27	11／25		Review Test (13&15)	C-7-1／必12-ウ	〃
28	12／2	歯学部・薬学部合同授業	Today's Controversial Issue 2	C-7-1／必12-ウ	〃
29	12／9		Review (TCI 2)	C-7-1／必12-ウ	〃
30	12／16		Review (Sep-Dec)	C-7-1／必12-ウ	〃

英語Ⅰ（通年・１単位）

D②A-b1-1107(D1107)

科目責任者：長峯　英樹（英語・講師）
科目担当者：①長峯　英樹（英語）
※この科目は，一般企業勤務経験のある教員が担当する

１．科目の概要

本講義は,「英語基礎」の科目で学んだ内容の応用編である。グループワークを中心に，課題テーマについてグループで調査し，英語での発表を経験する。

２．一般目標

国内外で論争となっている様々な社会問題の背景知識について英語で学び，論理的に自分の意見を述べる基礎的なライティング力とスピーキング力を身につける。

３．到達目標

１）「英語基礎」科目で学んだテーマについて，テキスト以外の資料を読むことで理解を深める。
２）大手メディアで報道される海外の時事ニュースに慣れる。
３）関心テーマについてグループで調査し，英語で発表する経験を積む。

４．履修の進め方

「英語基礎」で学んだ知識をもとに，プレゼンテーションスキルの向上を目的とした講義内容となる。グループワークが中心となる。

５．準備学修

予習については基本的に「英語基礎」と同じであるため，下記の復習に力を入れること。

＜復習＞

「英語基礎」の復習（リスニング）に加え，講義で指摘された重要語句・表現を含む英文を何度も音読したり，書いたりしながら覚える（約30分）

＜その他＞

「英語基礎」で使用するテキストの英文を習熟すること。また，映画や雑誌・新聞など，日常的にできるだけ多く英語に触れるよう心がけること。

６．評価方法

筆記試験（100％）により評価し，100点満点中65点以上を合格とする。

なお，筆記試験は①前期定期試験，②後期定期試験の平均点で評価される。筆記試験のフィードバックは基本的に次回講義時に解説する。

７．教本

「英語基礎」と同じ（Mark Jewel『議論伯仲：ふたつの意見 Pros and Cons − Arguing Different Points of View』朝日出版社）

８．参考書

特になし。必要に応じて，新聞や雑誌などを活用する。

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／8	Chapter 1	Food Additives	C-7-1／必12-ウ	①
2	4／15	Chapter 2	Body Image and Photoshopping	C-7-1／必12-ウ	〃
3	4／22		Review (1-2)	C-7-1／必12-ウ	〃
4	5／13		Review Test (1-2)	C-7-1／必12-ウ	①
5	5／20	Chapter 3	Undergrounding	C-7-1／必12-ウ	〃
6	5／27	Chapter 4	Do we need the Olympics?	C-7-1／必12-ウ	〃
7	6／3		Review (3-4)	C-7-1／必12-ウ	〃
8	6／10		Review Test (3-4)	C-7-1／必12-ウ	〃
9	6／17	Chapter 5	Mobile Ads	C-7-1／必12-ウ	〃
10	6／24	Chapter 6	SIM-Free Smartphones	C-7-1／必12-ウ	〃
11	7／1		Review (5-6)	C-7-1／必12-ウ	〃
12	7／8		Review Test (5-6)	C-7-1／必12-ウ	〃
13	7／15	歯学部・薬学部合同授業	Today's Controversial Issue 1	C-7-1／必12-ウ	〃
14	7／22		Review (TCI 1)	C-7-1／必12-ウ	〃
15	7／29		Review (Apr-Jul)	C-7-1／必12-ウ	〃
16	9／2	Chapter 8	Barrier-Free Everywhere?	C-7-1／必12-ウ	〃
17	9／9	Chapter 9	Elderly Drivers	C-7-1／必12-ウ	〃
18	9／16		Review (8-9)	C-7-1／必12-ウ	〃
19	9／30		Review Test (8-9)	C-7-1／必12-ウ	〃
20	10／7	Chapter 11	The NIMBY Syndrome	C-7-1／必12-ウ	〃
21	10／14	Chapter 12	Electric Voting	C-7-1／必12-ウ	〃
22	10／21		Review (11-12)	C-7-1／必12-ウ	〃
23	10／28		Review Test (11-12)	C-7-1／必12-ウ	〃
24	11／4	Chapter 13	Aid in Dying	C-7-1／必12-ウ	〃
25	11／11	Chapter 15	Animal Testing	C-7-1／必12-ウ	〃
26	11／18		Review (13&15)	C-7-1／必12-ウ	〃
27	11／25		Review Test (13&15)	C-7-1／必12-ウ	〃
28	12／2	歯学部・薬学部合同授業	Today's Controversial Issue 2	C-7-1／必12-ウ	〃
29	12／9		Review (TCI 2)	C-7-1／必12-ウ	〃
30	12／16		Review (Sep-Dec)	C-7-1／必12-ウ	〃

心理学（前期・１単位）

D①②A-a1-1109(D1109)

科目責任者：佐藤　　歩（心理・講師）
科目担当者：①佐藤　　歩（心理）
※この科目は，公認心理師である教員が担当する

１．科目の概要

心理学はその対象となる人間存在の複雑さや曖昧さ，多様性をそのまま引き受けざるを得ず，一義的・一般的知見を抽出しにくいという学問でもある。本講義では心理学の基本的な立場を通して，人間理解の特性を学習する。また歯科医療との摺り合わせを鑑み，臨床家として他者を理解・援助するにあたっての心理学的な手がかりや方法を探る。そして心理テスト等を通し，自己理解が他者理解・援助と相即することを学ぶ。

２．一般目標

先ず，心理学の代表的な理論や人間理解の方法について説明するために，心の探究の歴史を理解する。続いて，病む人の心理ならびにその援助法にあたり，医療従事者として配慮すべきことを考えるために，心理学を習得する。

３．到達目標

１）カウンセリングの技法を説明できる。
２）現代における心の問題を説明できる。
３）心理学の基本的な立場を説明できる。
４）性格を分類できる。
５）心身症，歯科心身症を説明できる。

４．履修の進め方

講義形式でスライドとプリントを使用して履修する。

５．準備学修

予　習：シラバスにて次回講義内容箇所を確認し，予め関連する内容について参考書を熟読し，さらに新聞やニュースを活用し理解を深めること（30分）。
復　習：重要箇所をプリントで確認し，質問等があれば，積極的にオフィスアワーを利用すること（30分）。

６．評価方法

随時実施される課題を期日内にすべて提出した上で評価する。定期試験（100％）で評価し，65点未満の者に再試を行う。最終評価は定期試験の本試・追試・再試の全ての平均点を算出し，平均が65点以上の者を合格とする。全授業範囲を記述，選択式で実施する。

７．教本

なし。下記参考書と，毎回科目担当者がプリントを配布する。

８．参考書

ベーシック心理学　第２版　二宮克美編著　医歯薬出版

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／9	オリエンテーション	講義の主題と進行について		①
2	4／16	心の声を聴く	カウンセリングの技法	D-2-1)／総Ⅶ-9-コ	〃
3	4／23	現代における心の問題①	虐待の分類と対応Ⅰ	D-5-6)，D-5-7)／総Ⅰ-2-アg	〃
4	5／7	現代における心の問題①	虐待の分類と対応Ⅱ	D-5-6)，D-5-7)／総Ⅰ-2-アg	〃
5	5／14	現代における心の問題②	依存症	D-5-9)／必6-アj	①
6	5／21	現代における心の問題③	アダルトチルドレン	A-2-2)／必6-アj	〃
7	5／28	心理学の基本的な立場	行動療法および認知療法（認知行動療法）Ⅰ	D-5-9)／総Ⅶ-9コ	〃
8	6／4	心理学の基本的な立場	行動療法および認知療法（認知行動療法）Ⅱ	D-5-9)／総Ⅶ-9コ	〃
9	6／11	心理学の基本的な立場	行動療法および認知療法（認知行動療法）Ⅲ	D-5-9)／総Ⅶ-9コ	〃
10	6／18	臨床心理学入門①	精神医学と主な精神疾患	D-5-9)／各Ⅲ-シef	〃
11	6／25	臨床心理学入門②	心身症と歯科心身症	D-5-9)／各Ⅲ-ソb	〃
12	7／2	心の発達	発達課題と危機（幼年期～高齢期）	A-2-2)／必5-イab	〃
13	7／9	性格とその把握①	エゴグラムの活用	D-5-9)／総Ⅱ-7イc	〃
14	7／16	性格とその把握②	性格の分類と測定法	D-5-9)／総Ⅱ-7イc	〃
15	7／23	まとめ	全体の振り返り，ポイントの整理	D-5-9)／総Ⅶ9-コ	〃

経営学（後期・１単位）

D②A-a1-1110(D1110)

科目責任者：長峯　英樹（英語・講師）
科目担当者：①長峯　英樹（英語）
※この科目は，一般企業勤務経験のある教員が担当する

１．科目の概要

本講義では，将来，経営や組織運営に関する課題に直面した時に，個人的な経験や直感のみに頼るのではなく，様々な企業の事例や経営学的な思考をもとに論理的に分析・考察できる基礎スキルを身につけることを目的としている。

２．一般目標

多様な業界における注目企業の事例を学ぶことにより，企業経営に興味をもつことが第一の目標である。

３．到達目標

１）基礎的なフレームワークおよびビジネスモデルの概要が理解できる。
２）固定観念や思い込みにとらわれない独自の視点を示すことができる。
３）将来的な経営イメージ構築のために，日常的に経営関連の書籍や文献を読み，新たな視点を発見し続けることができる。

４．履修の進め方

いくつかの企業事例を取り上げ，理論やフレームワークを通して考察・分析する。単なる講義形式に終始することなく，各設定テーマに関する分析と議論をグループワークや発表を通じて深めていく。当科目では学生の積極的な発言や議論を歓迎する。

５．準備学修

＜予習＞
シラバスで次回講義内容を確認し，論点や質問事項などを整理しておく（60分）
＜復習＞
講義で学んだ経営理論やビジネスモデルが歯科業界に応用できないか考察してみる（30分）
＜その他＞
講義で取り上げた企業の商品やサービスを実際に体験したり，新聞や雑誌，経営書を読んだり，日常的に経営に関する知識と考察を深めてほしい。

６．評価方法

後期定期試験（80%），課題提出（10%），グループによる事例研究発表（10%）の合計により評価し，100点満点中65点以上を合格とする。

７．教本

なし。毎回の講義で関連テーマの資料や記事・レポートなどを配布する。

８．参考書

なし

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／2	イントロダクション	経営学で学ぶこと		①
2	9／9	事業アイディア１	事業構想		〃
3	9／16	事業アイディア２	事業構想の検証－採算性の観点から		〃
4	9／30	イノベーション１	イノベーションとは		〃
5	10／7	イノベーション２	イノベーションのジレンマ		①
6	10／14	分析視点１	成長企業の収益モデル		〃
7	10／21	分析視点２	市場環境分析		〃
8	10／28	分析視点３	想定顧客と課題仮説		〃
9	11／4	分析視点４	独自の価値提案とソリューション		〃
10	11／11	分析視点５	利益の創出と事業拡大に向けた再投資		〃
11	11／18	グループワーク１	事例研究１		〃
12	11／25	グループワーク２	事例研究２		〃
13	12／2	グループワーク３	事例研究発表１		〃
14	12／9	グループワーク４	事例研究発表２		〃
15	12／16	考察	経営理論をいかに歯科医療分野に活用するか		〃

日本語学Ⅰ（通年・４単位）

D②A-a4-1111(D1111)

科目責任者：本多　真史（日本語・准教授）
科目担当者：①本多　真史（日本語）

１．科目の概要

「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師になる」ため，「大学で何を学ぶべきなのか」を理解し，歯学の学びに欠かせない知識・姿勢の他，倫理観をも養成しつつ，他者とのコミュニケーションが円滑にいくような技能を修得する。また，文章を正確に読み・書き，他者の意見をきちんと理解し，自らの考えを整理し，それを正しく・わかりやすく伝えることができるようにする。様々な角度から「日本語について」学び，歯学の専門学習の基礎となる日本語運用能力を養う。

２．一般目標

「大学で学ぶ」ことに必要な，「読む，聞く，話す，書く，考える」の基本姿勢，知識，技能を身につける。また，図書館利用術や書籍・論文・資料の読解法といったリサーチ，プレゼンテーション技法，さらには論理的な文章・レポートの書き方の技能も身につける。加えて，日本語コミュニケーション能力，文章表現能力などを高め，上記の基本姿勢の他，まとめる力，伝える力をも向上させる。

３．到達目標

1）歯科医療人となるための「読む，聞く，話す，書く，考える」の基礎力を身につける。
2）正確，かつ，わかりやすい日本語を用いて，説得力のある文章を作ることができる。
3）論理構造を理解しつつ，書籍・論文を正確に読むことができる。
4）講義及び他者の発表をきちんと聞くことができる。
5）敬語を正しく使い，コミュニケーション力及びマナー力を向上させる。
6）手紙，メールの正式な書き方，電話のかけ方・対応の仕方がきちんとできる。
7）図書館を効果的に利用でき，情報収集能力を高める。
8）歯学の専門学習に必要な「学習法」を理解できる。

４．履修の進め方

1）教本及び講義資料をもとに，参加型・実践形式で展開していく。
2）演習形式により，各回の内容に関連した読解力の育成を随所で行う。
3）各自ノートを作り，板書を適宜書き込むことを基本とする。
4）口頭での重要点は，プリントや教科書への書き込みやマーキングを行う。

５．準備学修

講義受講前に，シラバスで内容を確認し，それに関する事柄を理解しておくことが望ましい（所要時間30分前後）。日本語分野で培われる読解力，ならびに聞く力・読む力，考える力・思う力，話す力・書く力は，国家試験を解く際はもちろん，医療関係の仕事では必ず必要になる。そのため，講義受講後は，その内容を復習（所要時間30分前後）し，日頃から自然に実践できるように心がける。

６．評価方法

定期試験（60％），ワークシート等（30回）の提出状況及びその内容（40％）で評価し，65点以上を合格とする。試験問題は，多肢選択方式と記述式が含まれる。定期試験のフィードバックは，講義内で行う。また，ワークシート等については，評価して個人へ返却する。

７．教本

『大学生のための日本語表現トレーニング・スキルアップ編』，『読解現代文必携　キーワードの卵』，『１日10分の言語力ドリル　聞く・話す』，『１日10分の言語力ドリル　読む』

８．参考書

『質問力』，『「質問力」の教科書』，『大学生のための社会人入門トレーニング』，『文章力の基本』，『あたりまえだけどなかなかできない敬語のルール』，『コミュニケーションの教科書』

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／8	オリエンテーション	大学で日本語を学ぶ意義を理解しよう	PR-01～06, LL-01～05, RE-01～06, CM-01～05, C-2-1, C-2-3～C-2-6, D-2-1-1-1／必-8-ウ-abcde	①
2	4／8	〃	〃	〃	〃
3	4／15	読解力向上演習（１）	「読解力」とは何かを理解しよう	PR-04, LL-01, LL-03～05, RE-01, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3～C-2-6	〃
4	4／15	自己紹介	具体的に話そう	〃	〃
5	4／22	読解力向上演習（２）	「論理的思考力」とは何かを理解しよう	〃	〃
6	4／22	大学でのノートの取り方	授業を再現できるノートを作ろう	〃	〃
7	5／13	図書館利用術	図書館の利用の仕方〈基礎・実践〉		〃
8	5／13	〃	〃		〃
9	5／20	読解力向上演習（３）	「言い換える力（同等関係整理力）」とは何かを理解しよう	PR-04, LL-01, LL-03～05, RE-01, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3～C-2-6	〃
10	5／20	読解の仕方	論文の読み方を学ぼう	〃	〃
11	5／27	読解力向上演習（４）	文章読解問題の，読み解くべき対象について理解しよう	〃	〃
12	5／27	様々な文章の読み取り方	論理的に考える力を身につけよう	〃	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
13	6／3	グループ議論1	〈実践演習〉議論してまとめる力を養おう	PR-01～06, LL-01～05, RE-01～06, PS-12, CM-01～05, C-1-3-1・1-3-2, C-2-1, C-2-3～C-2-7	①
14	6／3	〃	〃	〃	〃
15	6／10	読解力向上演習(5)	「読解問題における主要な設問」について理解しよう	PR-04, LL-01, LL-03～05, RE-01, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3～C-2-6	〃
16	6／10	説明のコツ	「全体⇒部分（部分⇒全体）」で説明しよう	〃	〃
17	6／17	読解力向上演習(6)	「比べる力（対比関係整理力）」とはどのようなものなのかを理解しよう	〃	〃
18	6／17	アンケートの取り方	アンケート用紙の3大要素をおさえよう	〃	〃
19	6／24	読解力向上演習（7）	生きていく上で読解力は必要であることを理解しよう	〃	〃
20	6／24	確実なメモ	5W1Hでチェックしよう	〃	〃
21	7／1	読解力向上演習(8)	「分かる」とは「分ける」ことであることを知ろう	〃	〃
22	7／1	伝えるコミュニケーション	その重要性・必要性を理解しよう	〃	〃
23	7／8	読解力向上演習(9)	文章中の対比の関係を読み取ろう	〃	〃
24	7／8	資料の読み取り	表・図・グラフから情報を抽出しよう	〃	〃
25	7／15	読解力向上演習(10)	譲歩構文とは何かを理解しよう	〃	〃
26	7／15	堅実なレポートの書き方	具体的な手順体裁を身につけよう	〃	〃
27	7／22	読解力向上演習(11)	「たどる力（因果関係整理力）」とはどのようなものかを理解しよう	PR-04, LL-01, LL-03～05, RE-01, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3～C-2-6	①
28	7／22	大学生になるということ	読む力・書く力・聞く力・議論する力を身につけよう〈まとめ1〉	〃	〃
29	7／29	グループ議論2	〈実践演習〉議論してまとめる力を養おう	PR-01～06, LL-01～05, RE-01～06, PS-12, CM-01～05, C-1-3-1・1-3-2, C-2-1, C-2-3～C-2-7	〃
30	7／29	〃	〃	〃	〃
31	9／2	読解力向上演習(12)	主張・具体例を見分けられるようになろう	PR-04, LL-01, LL-03～05, RE-01, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3～C-2-6	〃
32	9／2	メールの書き方	依頼メールの基本を学ぼう	〃	〃
33	9／9	読解力向上演習(13)	理由説明について学ぼう	〃	〃
34	9／9	敬語基礎	基本ルールをマスターしよう	〃	〃
35	9／16	読解力向上演習(14)	指示語についての理解を深めよう	〃	〃
36	9／16	履歴書の書き方	しっかりとした履歴書を書こう	〃	〃
37	9／30	読解力向上演習(15)	「要点把握の仕方」について学ぼう	〃	〃
38	9／30	面接の受け方	質問内容を予想して準備しよう	〃	〃
39	10／7	読解力向上演習(16)	複数の該当箇所のまとめ方について学ぼう	〃	〃
40	10／7	手紙の書き方	書式とマナーの基本を身につけよう	〃	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
41	10／14	読解力向上演習(17)	要点の抜き取り方について学ぼう	PR-04, LL-01, LL-03～05, RE-01, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3～C-2-6	①
42	10／14	電話の応対	電話のかけ方・受け方・アポのとり方を身につけよう	〃	〃
43	10／21	グループ議論3	〈実践演習〉 議論してまとめる力を養おう	PR-01～06, LL-01～05, RE-01～06, PS-12, CM-01～05, C-1-3-1・ 1-3-2, C-2-1, C-2-3～C-2-7	〃
44	10／21	〃	〃	〃	〃
45	10／28	読解力向上演習(18)	段落区分について学ぼう	PR-04, LL-01, LL-03～05, RE-01, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3～C-2-6	〃
46	10／28	要約の仕方	文章の構成を考えよう	〃	〃
47	11／4	読解力向上演習(19)	要旨の整理とまとめ方について学ぼう	〃	〃
48	11／4	相手を納得させるコツ	説得力のある文章の書き方を身につけよう	〃	〃
49	11／11	読解力向上演習(20)	主張・理由・具体例のつかみ方について学ぼう	〃	〃
50	11／11	効果的なプレゼンテーション	レジュメ・視覚資料を作成しよう	〃	〃
51	11／18	読解力向上演習(21)	要旨を読み取ろう	〃	〃
52	11／18	ディベートの仕方	総合的な力を身につけよう	〃	〃
53	11／25	読解力向上演習(22)	主張・理由・具体例が区別しにくい文章に触れよう	〃	〃
54	11／25	(小)論文の書き方	予め型を決めておこう（卒業論文を含む）	〃	〃
55	12／2	歯科医療人になるということ	歯科医師に必要な能力を理解しよう 〈まとめ2〉	PR-04, LL-01, LL-03～05, RE-01, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3～C-2-6	①
56	12／2	〃	〃	〃	〃
57	12／9	グループ討論4	〈実践演習〉 討論して総合的な力を養おう	PR-01～06, LL-01～05, RE-01～06, PS-12, CM-01～05, C-1-3-1・ 1-3-2, C-2-1, C-2-3～C-2-7	〃
58	12／9	〃	〃	〃	〃
59	12／16	グループ討論5	〈実践演習〉 討論して総合的な力を養おう	〃	〃
60	12／16	〃	〃	〃	〃

医療倫理学（後期・１単位）

D①②③A-a1-1202(D1202)

科目責任者：長岡　正博（薬理・講師）
科目担当者：①長岡　正博（薬理）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

医療倫理学は，医療の担い手である医療従事者（医師・歯科医師など）と医療の受け手である患者との関係の在り方とその関係を良好に保つためのルールを学ぶ学問である。またその基盤となる人間の道徳的・倫理的・法的規範についての問題意識を養うことを学ぶ学問である。医療はそもそも「倫理」すなわち「人間同士がお互い相手のことを考えて自分を律する規範」と一体となり行われてきたため切り離しては成立しない。講義の各単元は相互に密接に関連しており，独立したものではない。そのため，単に暗記するだけの科目であってはならず，しっかり理解した上で問題意識を持ちながら臨み学ぶことが必要である。

２．一般目標

医療行為の特殊性を踏まえて歯科医師は職業固有かつ道徳的な規範と自律倫理が求められることを理解し，全ての医療従事者の職業上の義務と社会における医療のあり方について検討し，問題解決のための具体的指針を習得する。

３．到達目標

１）倫理学および倫理原則について概説できる。
２）医療倫理とは何かについて説明できる。
３）医療倫理に関する規範とバイオエシックスについて説明できる。
４）患者の権利について説明できる。
５）現代医療の倫理問題について説明できる。

４．履修の進め方

講義形式で板書およびスライドと資料を使用して履修する。

５．準備学修

予　習：新聞等から医療に関わる社会情勢や社会問題について考えること。(30分)
復　習：講義内容の資料を復習しておくこと。(30分)

６．評価方法

試験形式は記述式で行う。定期試験（100％）で評価し100％点満点中65点以上を合格とする。追再試験は希望者を対象に実施する。

７．教本

なし

８．参考書

関東医学哲学倫理学会　編　医療倫理Ｑ＆Ａ（新版）太陽出版

９．授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／1	なぜ医療倫理学を学ぶか	医療倫理概論 歯科医師に求められる医療倫理	PR-1, 2／必1-ア-a	①
2	9／8	倫理学とは何か①	倫理とは何か，倫理の原理，倫理的行為の原則	GE-1／必1-ア-a	〃
3	9／15	倫理学とは何か②	法と倫理の成り立ち，法と倫理・倫理と道徳の関係	GE-2／必1-ア-a	〃
4	9／29	生命・医療倫理①	バイオエシックスの誕生，生命・医療倫理の相違	C-1-1-1／必1-ア-a, b	①
5	10／6	生命・医療倫理②	医の倫理の変遷，パターナリズム	C-1-2-1／必1-ア-a, b	〃
6	10／13	生命・医療倫理③	人を対象とする医学研究の倫理規範	C-1-1-5／必2-エ-a, b	〃
7	10／20	患者中心の医療①	患者の権利①	C-1-1-1／必1-ア-a	〃
8	10／27	患者中心の医療②	患者の権利②	C-1-1-1／必1-ア-a	〃
9	11／10	患者中心の医療③	インフォームド・コンセント	C-1-1-4／必1-イ-a	〃
10	11／17	医療面接①	医療面接の目的・基本	D-2-1／必8-ウ-a	〃
11	11／24	医療面接②	医療面接の技法	D-2-1／必8-ウ-a	〃
12	12／1	現代医療の倫理問題①	生と死に関する倫理的問題	C-1-1-2／総Ⅲ-3-ア, イ	〃
13	12／8	現代医療の倫理問題②	脳死と臓器移植・死に関する声明	C-1-1-2／総Ⅶ-5-ア, イ	〃
14	12／15	現代医療の倫理問題③	末期患者の苦痛と心理，ターミナルケア	C-1-3-6／総Ⅶ-5-ア, イ	〃
15	12／18	まとめ	全体の振り返り，問題演習	C-1-1-1／必1-ア-a	〃

基礎物理学（通年・４単位）

D③A-a4-1301（D1301）

科目責任者：荒木　　威（物理・准教授）
科目担当者：①荒木　　威（物理）

１．科目の概要

基礎物理学では歯学部学生にとって物理学が身近に感じられるように授業を進めていきます。一般教養としての物理学だけでなく，歯科医師を目指す学生にとって必須となる内容も多く含みます。例えば，身体動作の力学的な理解，材料の力学的・熱的性質，物質中の X 線強度の減衰，放射性崩壊現象の基礎などについて学びます。また演習問題を通じて，暗記だけに頼らず論理的な思考に基づき問題解決を図る習慣を養います。これらを通じディプロマポリシーの「探求力と解決力」の基礎づくりを行います。

２．一般目標

ディプロマポリシー「探求力と解決力」の基礎づくりとして以下を目標とする。

・物理学の基本的な知識を修得する。
・医学や歯学に関連する物理学の知識を修得する。
・論理的思考に基づいた問題解決能力を養う。

３．到達目標

・力の性質が理解できる。
・運動とエネルギーの関係が理解できる。
・エネルギーと熱の関係が理解できる。
・X 線と放射線の基本的な性質が理解できる。
・初等関数を含んだ基本的な計算ができる。

４．履修の進め方

前半にプロジェクターを用いて解説を行い，後半に演習問題を通じて理解を深める。解説に用いるスライドと演習問題およびその解答はすべてユニバーサル・パスポート上で公開する。

５．準備学修

・前回行った演習の自己採点を行う（60分）。
・前回の講義スライドを読んで内容を復習する（60分）。
・次回の講義スライドを読んで内容を予習する（60分）。

６．評価方法

課題提出（20点），中間試験（40点），定期試験（40点）に基づき，前期と後期それぞれ100点満点で評価し，前期と後期の平均点を最終評価とする。最終評価が65点以上を合格とする。課題には提出期限を設け，提出期限を過ぎた課題は０点とする。

前期の成績が65点未満の者に対して追加の試験を行う。この試験において正解率65％以上を合格とし，合格者の前期成績を65点とする。

最終評価において65点未満の者に対して，願い出に応じて再試験を行う。再試験において正解率65％以上を合格とし，再試験合格者の最終評価を65点とする。

疾病その他やむを得ない理由により定期試験を欠席した者に対して，願い出に応じて追試験を行う。やむを得ない理由であったことを鑑み，追試験は定期試験と同じく40点満点で評価する。その他の試験に関しても同様に対処する。

課題と試験の問題および解答はユニバーサル・パスポート上に公開する。課題と試験の結果は個別にメールで配信する。

７．教本

なし。必要な資料は毎回配布する。

８．参考書

・高校で使用していた物理学の教科書
・医療系のための物理学入門，木下順二，講談社
・医歯系の物理学，赤野松太郎・鮎川武二・藤城敏幸・村田治，東京教学社

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／9	ガイダンス	授業の目的と進め方	RE-02／必12-イ	①
2	4／9		物理学の意義	RE-02／必12-イ	〃
3	4／16	物理数学１	ベクトルと三角比①	RE-02／必12-イ	〃
4	4／16		ベクトルと三角比②	PS-12, C-2-4／必12-イ	〃
5	4／23	力の釣り合い	身の回りの力①	B-1-1／必12-イ	〃
6	4／23		身の回りの力②	PS-12, C-2-4／必12-イ	〃
7	5／7		力の合成と釣り合い①	B-1-1／必12-イ	〃
8	5／7		力の合成と釣り合い②	PS-12, C-2-4／必12-イ	〃
9	5／14		力のベクトル表示①	B-1-1／必12-イ	〃
10	5／14		力のベクトル表示②	PS-12, C-2-4／必12-イ	〃
11	5／21		骨格筋の釣り合い①	B-1-1／必12-イ	〃
12	5／21		骨格筋の釣り合い②	PS-12, C-2-4／必12-イ	〃
13	5／28		力のモーメントと回転①	B-1-1／必12-イ	〃
14	5／28		力のモーメントと回転②	PS-12, C-2-4／必12-イ	〃
15	6／4		人体における梃子①	B-1-1／必12-イ	〃
16	6／4		人体における梃子②	PS-12, C-2-4／必12-イ	〃
17	6／11		重心と人体の安定性①	B-1-1／必12-イ	〃
18	6／11		重心と人体の安定性②	PS-12, C-2-4／必12-イ	〃
19	6／18	運動とエネルギー	１次元の運動①	B-1-1／必12-イ	〃
20	6／18		１次元の運動②	PS-12, C-2-4／必12-イ	〃
21	6／25		運動方程式①	B-1-1／必12-イ	〃
22	6／25		運動方程式②	PS-12, C-2-4／必12-イ	〃
23	7／2		２次元の運動①	B-1-1／必12-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
24	7／2		2次元の運動②	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	①
25	7／9		仕事と運動エネルギー①	B-1-1／ 必12-イ	〃
26	7／9		仕事と運動エネルギー②	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	〃
27	7／16		位置エネルギーと力学的エネルギー保存則①	B-1-1／ 必12-イ	〃
28	7／16		位置エネルギーと力学的エネルギー保存則②	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	〃
29	7／23		非保存力の仕事と全エネルギー保存則①	B-1-1／ 必12-イ	〃
30	7／23		非保存力の仕事と全エネルギー保存則②	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	〃
31	9／4	流体力学	液体と気体の性質①	B-1-1／ 必12-イ	〃
32	9／4		液体と気体の性質②	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	〃
33	9／11	熱の物理学	熱と温度①	B-1-1／ 必12-イ	〃
34	9／11		熱と温度②	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	〃
35	9／18		熱の伝わりと熱平衡①	B-1-1／ 必12-イ	〃
36	9／18		熱の伝わりと熱平衡②	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	〃
37	9／25		熱力学第1法則①	B-1-1／ 必12-イ	〃
38	9／25		熱力学第1法則②	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	〃
39	10／2		理想気体の状態方程式と状態変化①	B-1-1／ 必12-イ	〃
40	10／2		理想気体の状態方程式と状態変化②	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	〃
41	10／9		サイクルと熱機関①	B-1-1／ 必12-イ	〃
42	10／9		サイクルと熱機関②	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	〃
43	10／16		熱力学第2法則とエントロピー①	RE-02／ 必12-イ	〃
44	10／16		熱力学第2法則とエントロピー②	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	〃
45	10／23	物理数学2	指数関数と対数関数①	B-1-1／ 必12-イ	①
46	10／23		指数関数と対数関数②	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	〃
47	10／30	振動と波動	単振動①	B-1-1／ 必12-イ	〃
48	10／30		単振動②	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	〃
49	11／6		波①	B-1-1／ 必12-イ	〃
50	11／6		波②	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	〃
51	11／13		電磁波①	D-2-5／ 必12-イ	〃
52	11／13		電磁波②	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	〃
53	11／20		X線①	A-1-1／ 必12-イ	〃
54	11／20		X線②	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	〃
55	11／27	原子核物理学	物質の構造①	D-2-5／ 必12-イ	〃
56	11／27		物質の構造②	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	〃
57	12／4		原子核の崩壊と放射線①	D-2-5／ 必12-イ	〃
58	12／4		原子核の崩壊と放射線②	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	〃
59	12／11		核分裂と核融合①	RE-02／ 必12-イ	〃
60	12／11		核分裂と核融合②	PS-12, C-2-4／ 必12-イ	〃

物理学実験（後期・１単位）

D③A-c1-1303(D1303)

科目責任者：荒木　　威（物理・准教授）
科目担当者：①荒木　　威（物理），②原田　卓哉（物理）
※この科目は，主に診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

物理学が対象とするのは自然そのものです。そこで起こる様々な現象を人間の理性に則して，例えば，法則と言う形に焼き直して理解するのが物理学です。しかし現象から法則を引き出す事は，目の前で起こる現象そのままからでは多くの二次的な要素が含まれていて困難です。そこでガリレオ以来，理性が問いかける問題点を端的に表す実験を企画しそれを通して自然を眺める事で，我々は物理学を発展させてきました。物理学実験の第一の目的は，物理学のそのような性格を実感する事です。さらに，歯科医師となった時に有用な物理実験を積極的に取り入れます。これらを通じディプロマポリシーの「探求力と解決力」の基礎づくりを行います。

２．一般目標

物理学が記述している事柄が現実の自然現象を表現していることを理解するために，様々な実験を実施する。その経験を通し，将来直面する問題を理性的に判断するために，合理的に解決できる能力を養う。自分の判断，解決を理路整然と文章にまとめ，他者へ説明する能力も養う。これらを通じディプロマポリシーの「探求力と解決力」の基礎づくりを行う。

３．到達目標

・自然現象を説明する。
・機器を正しく取り扱う。
・報告書を分かり易く書く。

４．履修の進め方

２つの班に分け実験と演習を交互に実施する。実験の割り当ては毎回変わる。実験を実施する前に担当する実験について実験書で予習し安全に実験を進める。実験結果を，他者に分かり易く伝えることを意識して報告書にまとめる。

５．準備学修

次の実験の割り当てを確認して予習をする（60分）。

６．評価方法

実験の実施状況（45％），提出された報告書（55％）に基づき，100点満点で評価し65点以上を合格とする。なお検印付きの実験ノートの提出をもって実験を実施したとみなす。報告書には提出期限を設け，提出期限を過ぎた報告書は０点とする。

７．教本

なし。実験書はガイダンス時に配布する。

８．参考書

なし

９．授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	９／３	ガイダンス／準備実験	実験実施における注意と評価方法／対数グラフの描き方	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	① ②
4 5 6	９／10	準備実験	ノギスとマイクロメーターの使い方	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
7 8 9	９／17	実験／演習	重力加速度の測定	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	① ②
10 11 12	９／24		交流回路とコイル	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
13 14 15	10／１		弾性率の測定	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
16 17 18	10／８		交流回路とコンデンサ	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
19 20 21	10／15	レポートの書き方	レポート点検①	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
22 23 24	10／22		レポート点検②	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
25 26 27	10／29	実験／演習	物質の熱的性質	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
28 29 30	11／５		データと相関関係	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
31 32 33	11／12		交流回路と共振	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
34 35 36	11／19		データと回帰関係	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
37 38 39	11／26		ガンマ線線量測定	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
40 41 42	12／３		データの回帰直線	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
43 44 45	12／10		実験のまとめ	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃

基礎化学（通年・４単位）

D③A-a4-1304(D1304)

科目責任者：斎藤昇太郎（化学・講師）
科目担当者：①斎藤昇太郎（化学）

１．科目の概要

化学は生活や産業・医療と密接な関連があり，歯学においても基本的な知識として身につけることが求められます。化学を学修していない方にも理解しやすいように，身の回りの現象や物質などの例をあげながら，大学の化学として入門・基礎的な事項を中心に講義を行います。

２．一般目標

自然科学の基本である化学を学修することで，科学への興味・理解を深める。教養としてだけでなく，生命科学分野の知識を得ることで，基礎系科目・臨床系科目の理解・修得のために必要な知識・計算技術，および物質の構造や名称・性質を理解し説明できるようにする。

３．到達目標

1）原子構造を理解し，元素名，元素記号，原子番号を記述できる。
2）重要な化合物の構造式と名称，性質を理解し記述・説明できる。
3）基本的な化学反応を記述・説明できる。
4）例題・演習を通して計算問題を解くことができる。
5）IUPAC 命名法を理解し，構造式から有機化合物名を，有機化合物名から構造式を記述できる。
6）生体関連物質の構造や機能を説明し，名称や標記を示すことができる。

４．履修の進め方

講義の内容は概ね教科書に沿って進めますが，講義の時間内により理解するためには予習が必要です。また，教科書に記載されていない重要な内容も解説しますので復習も重要です。講義中の演習あるいは課題により，学習が不足している要素の把握，および総合的な理解を促します。

５．準備学修

講義前に教科書を読み，用語や概要を確認し，「自分が知らないこと」を把握する。(60分)

講義後は配布される課題等を活用し，講義内容を充分に復習の上，「予習時に自分が知らなかったこと」を理解できたか確認する。(180分)

６．評価・フィードバックの方法

筆記による定期試験（80点，再試験・追試験を含む）および提出物等（20点）で評価し，65点以上で合格とする。フィードバックとして，提出物は採点して返却する。

７．教本

前期：Molly M.Bloomfield 著　伊藤俊洋　他訳「生命科学のための基礎化学－無機物理化学編」丸善出版
後期：Molly M.Bloomfield 著　伊藤俊洋　他訳「生命科学のための基礎化学－有機・生化学編」丸善出版

８．参考書

＜初学者向け＞

大宮理 著 『大宮理の化学「理論化学編」が面白いほどわかる本』中経出版

青野貴行 著 『大学生のための　やさしい化学入門』化学同人

小島一光 著 『基礎固め 化学』化学同人

野島高彦 著 『医療・看護系のための　やさしく学べる化学』裳華房

齋藤勝裕 ら著 『メディカル化学』裳華房

岡崎三代，奈良雅之 著 『臨床検査学講座 化学』医歯薬出版

＜既学者向け＞

原田義也 著 『生命科学のための基礎化学』東京大学出版会

原田義也 著 『生命科学のための有機化学Ⅰ・Ⅱ』東京大学出版会

田宮信雄 ら訳 『ヴォート基礎生化学』東京化学同人

９．授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／7	ガイダンス	講義の内容と進め方について，化学の概説	A-1-1)／必12-イ	①
2	4／7	物質の分類と性質	組成と種類，定義	A-1-1)／必12-イ	〃
3	4／14	測定(１)	精確さと誤差 有効数字	A-1-1)／必12-イ	〃
4	4／14	測定(２)	換算と SI 単位系	A-1-1)／必12-イ	〃
5	4／21	エネルギー(１)	定義と種類	A-1-1)／必12-イ	〃
6	4／21	エネルギー(２)	保存則，エントロピー	A-1-1)／必12-イ	〃
7	4／28	原子の構造	原子の構成要素と原子番号	A-1-1)／必12-イ	〃
8	4／28	電子配置	化学的性質との関連	A-1-1)／必12-イ	〃
9	5／12	周期表	周期表の見方と重要性	A-1-1)／必12-イ	〃
10	5／12	生命元素	生命活動と微量元素	A-1-1)／必12-イ	〃
11	5／19	化学結合	イオン結合，共有結合	A-1-1)／必12-イ	〃
12	5／19	電気陰性度	極性と非極性 水素結合	A-1-1)／必12-イ	〃
13	5／26	化学反応式	基本的な化合物と反応	A-1-1)／必12-イ	〃
14	5／26	酸化と還元	酸化還元反応とイオン化	A-1-1)／必12-イ	〃
15	6／2	モル	アボガドロ数とモルの概念	A-1-1)／必12-イ	〃
16	6／2	モル計算	モル計算の演習	A-1-1)／必12-イ	〃
17	6／9	物質の状態と変化	物質の三態と運動量	A-1-1)／必12-イ	〃
18	6／9	気体	圧力と理想気体の法則	A-1-1)／必12-イ	〃
19	6／16	放射能(１)	放射線と半減期	A-1-1)，D-2-5)／必9-カ，必12-イ，総Ⅵ-2-ア	〃
20	6／16	放射能(２)	身近な放射能と生物への影響	A-1-1)，D-2-5)／必9-カ，必12-イ，総Ⅵ-2-ア	〃
21	6／23	反応速度	エネルギーと反応速度の変化	A-1-1)／必12-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
22	6／23	化学平衡	ルシャトリエの原理	A-1-1)／必12-イ	①
23	6／30	コロイド	界面活性剤と性質	A-1-1)／必12-イ	〃
24	6／30	溶質・溶媒・溶液	電解質と非電解質	A-1-1)／必12-イ	〃
25	7／7	濃度(1)	%，モル濃度当量	A-1-1)／必12-イ	〃
26	7／7	濃度(2)	濃度計算の演習	A-1-1)／必12-イ	〃
27	7／14	酸と塩基(1)	定義と pH	A-1-1)／必12-イ	〃
28	7／14	酸と塩基(2)	pH の計算，脱灰と再石灰化	A-1-1)／必12-イ，各Ⅱ-1-ア	〃
29	7／21	酸と塩基(3)	中和反応と滴定，緩衝溶液	A-1-1)／必12-イ	〃
30	7／21	前期の復習	演習	A-1-1)，D-2-5)／必9-カ，必12-イ，総Ⅵ-2-ア	〃
31	9／3	前期試験の講評	解説と要点の確認	A-1-1)，D-2-5)／必9-カ，必12-イ，総Ⅵ-2-ア	〃
32	9／3	有機化合物	炭素原子の特異性と構造式の示し方	A-1-1)／必12-イ	〃
33	9／10	飽和炭化水素(1)	アルカン	A-1-1)／必12-イ	〃
34	9／10	飽和炭化水素(2)	炭素骨格，構造異性体	A-1-1)／必12-イ	〃
35	9／17	不飽和炭化水素(1)	アルケン・アルキン	A-1-1)／必12-イ	〃
36	9／17	不飽和炭化水素(2)	シス・トランス異性体	A-1-1)／必12-イ	〃
37	9／24	環式炭化水素(1)	シクロ化合物	A-1-1)／必12-イ	〃
38	9／24	環式炭化水素(2)	立体異性体と表記	A-1-1)／必12-イ	〃
39	10／1	芳香族炭化水素	ベンゼン置換体	A-1-1)／必12-イ	〃
40	10／1	有機演習(1)	炭化水素の命名・構造と性質の確認	A-1-1)／必12-イ	〃
41	10／8	含酸素有機化合物(1)	アルコール	A-1-1)／必12-イ	〃
42	10／8	含酸素有機化合物(2)	エーテル	A-1-1)／必12-イ	〃
43	10／15	含酸素有機化合物(3)	アルデヒドとケトン	A-1-1)／必12-イ	〃
44	10／15	含酸素有機化合物(4)	カルボン酸	A-1-1)／必12-イ	〃
45	10／22	含酸素有機化合物(5)	エステル	A-1-1)／必12-イ	〃
46	10／22	有機演習(2)	含酸素有機化合物の命名・構造と性質の確認	A-1-1)／必12-イ	〃
47	10／29	含窒素有機化合物(1)	アミンとイミン	A-1-1)／必12-イ	①
48	10／29	含窒素有機化合物(2)	アミドとイミド	A-1-1)／必12-イ	〃
49	11／5	含窒素有機化合物(3)	複素環式化合物	A-1-1)／必12-イ	〃
50	11／5	有機演習(3)	含窒素有機化合物の命名・構造と性質の確認	A-1-1)／必12-イ	〃
51	11／12	炭水化物(1)	単糖類の種類と構造	A-1-1)，A-1-2)／必4-ア，必12-イ	〃
52	11／12	炭水化物(2)	不斉炭素と生理活性	A-1-1)，A-1-2)／必4-ア，必12-イ	〃
53	11／19	炭水化物(3)	グリコシド結合と二糖類	A-1-1)，A-1-2)／必4-ア，必12-イ	〃
54	11／19	炭水化物(4)	多糖類	A-1-1)，A-1-2)／必4-ア，必12-イ	〃
55	11／26	脂質(1)	脂質と脂肪酸および単純脂質	A-1-1)，A-1-2)／必4-ア，必12-イ	〃
56	11／26	脂質(2)	複合脂質と誘導脂質	A-1-1)，A-1-2)／必4-ア，必12-イ	〃
57	12／3	タンパク質(1)	アミノ酸	A-1-1)，A-1-2)／必4-ア，必12-イ	〃
58	12／3	タンパク質(2)	構造と変性	A-1-1)，A-1-2)／必4-ア，必12-イ	〃
59	12／10	核酸	塩基と DNA の構造	A-1-1)，A-1-3)／必4-ア，必12-イ	〃
60	12／10	後期の復習	演習	A-1-1)，A-1-2)，A-1-3)／必4-ア，必12-イ	〃

化学実験（後期・１単位）

D③A-c1-1306(D1306)

科目責任者：阿部　匡聡（化学・講師）
科目担当者：①阿部　匡聡（化学），②斎藤昇太郎（化学）

１．科目の概要

歯科医学を学んでいくうえで，生命現象や物質の変化を分子機構的に捉えていく素養を身に着けることは重要である。化学実験は，基本的な化合物について，構造・性質・反応を理解するとともに，物質の濃度を測定するしくみを理解する目的で，定量分析と有機定性分析で構成されている。定量分析では，化学反応や測定機器を利用し，試料中の目的成分の定量を行う。有機定性分析では，定性反応による化合物中の特定の官能基の検出や，生成した化合物の性質・機能の解析を行う。

２．一般目標

ディプロマポリシー③病態解析と治療概念のため，

１）学修者は，教本を読んで実験操作・手順を理解する。
２）学修者は，定量分析・有機定性分析についての基本的知識，基本的技能を習得する。

３．到達目標

１）学修者は，教本に示された手順通りに，実験を行う。
２）学修者は，実験器具を正しく取り扱う。
３）学修者は，精密測容器具の目盛りを，正確に読み取る。
４）学修者は，行った実験の過程で進行した反応を説明する。
５）学修者は，得られた測定データや観察結果を，正確に記録する。
６）学修者は，記録に基づいて，正確なレポートを作成する。

４．履修の進め方

実験実習により進める。無機定量分析では，３～４人のグループ単位で行い，得られた数値データを整理し，各人が計算やグラフ作成を行い，結論を導き出し，レポートとして記述し，提出する。有機定性分析では，個人単位で行い，得られた観察結果について，試料として用いた化合物の構造・性質に基づいた考察を行い，レポートとして記述し，提出する。

５．準備学修

基礎化学の内容を修得しておくことが望ましい。本科目の内容は，２年次で履修する化学に接続する。さらに，歯科基礎医学に関連し，特に，口腔生化学Ⅰ，Ⅱ，生体材料・歯科材料学Ⅰ，Ⅱ，歯科薬理学Ⅰ，Ⅱの履修に役立つ。

事前学習（15分）：教本の，当該項目のページを読み，実験操作の流れを把握し，記録すべき事柄チェックしておく。
事後学習（45分）：実験ノートに書いたデータ，観察結果を用いて，レポートを作成する。

６．評価・フィードバックの方法

提出物（レポートおよび演習課題）の評価（90点），実習態度（実習への参加，携帯・着装品）（10点）で評価（合計100点満点）し，65点以上で合格とする。

７．教本

奥羽大学歯学部生体材料学講座化学分野編「化学実験テキスト」および配布プリント

８．参考書

基礎化学の講義で使用する教科書
化学同人編集部 編「実験を安全に行うために」化学同人

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	9／4	ガイダンス	化学実験の概要；化学実験での注意事項	A-1-1／ 必12-イ	① ②
4 5 6	9／11	実験準備-１：有機定性分析	有機定性分析の概要；器具の確認，取り扱いの練習	A-1-1／ 必12-イ	〃
7 8 9	9／18	炭化水素の反応	アルケンの臭素化；バイヤー試験；ベンゼンのニトロ化，スルホン化	A-1-1／ 必12-イ	〃
10 11 12	9／25	アルコールの反応	アルコールの酸化，脱水，エステル化；ルーカス試験；ヨードホルム反応	A-1-1／ 必12-イ	〃
13 14 15	10／2	フェノール類の反応	フェノールのアルカリに対する溶解性；フェノール類の臭素化，エステル化，塩化鉄(Ⅲ)反応；フェノールフタレインの生成と性質	A-1-1／ 必12-イ	〃
16 17 18	10／9	アルデヒドおよびケトンの反応	アルデヒド・ケトンのフェーリング反応，銀鏡反応，2,4-ジニトロフェニルヒドラジンとの反応；ベンズアルデヒドの酸化	A-1-1／ 必12-イ	〃
19 20 21	10／16	アミンの反応	アミンの塩基性；アミン塩酸塩の溶解性；カルボン酸アミドの生成；アリザリンイエローRの生成と性質；パラレッドの生成と染色	A-1-1／ 必12-イ	〃
22 23 24	10／23	糖質の反応	モーリッシュ反応；バーフォード反応；セリワノフ反応；フェーリング反応；ヨウ素・デンプン反応	A-1-1, A-1-2／ 必4-ア, 必12-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
25 26 27	10／30	実験準備－２：定量分析	定量分析の概要；実験器具取り扱い練習（１）	A-1-1／必12-イ	① ②
28 29 30	11／６	実験準備－２：定量分析	定量分析の概要；実験器具取り扱い練習（２）	A-1-1／必12-イ	〃
31 32 33	11／13	中和滴定	水酸化ナトリウム水溶液の標定；塩酸の標定（１）	A-1-1／必12-イ	〃
34 35 36	11／20	中和滴定	水酸化ナトリウム水溶液の標定；塩酸の標定（２）	A-1-1／必12-イ	〃
37 38 39	11／27	キレート滴定	Ca^{2+}，Mg^{2+}混合溶液の分別定量（１）	A-1-1／必12-イ	〃
40 41 42	12／４	キレート滴定	Ca^{2+}，Mg^{2+}混合溶液の分別定量（２）	A-1-1／必12-イ	〃
43 44 45	12／11	演習	化学実験の内容全般についての演習	A-1-1，A-1-2／必4-ア，必12-イ	〃

基礎生物学（体制生物学・発生生物学）（通年・４単位）

D③A-a4-1307（D1307）

科目責任者：今井　　元（解剖・教授）
科目担当者：①今井　　元（解剖）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

歯科医師を目指す学生は，物質の科学を基礎として，生体の構成要素である細胞，細胞によって構成された個体の機能を理解し，生物がどのように地球上で進化適応してきたか，現在どのような相互関係にあるかを修得する必要がある。本科目では，生命体の基本となる個体の階層性「細胞→組織→器官→器官系→個体」及び「その構造と機能」を歯学教育で行う系統的な体系（解剖生理学的体系）の中で理解し，さらに，「発生過程」「進化過程」などを学ぶことにより，長期記憶を形成する。履修方法は，学習効果ピラミッドに準じて行う。具体的には，「細胞の構造」・「脊椎動物の組織」・「刺激の受容と反応」・「体内環境の維持」・「生物の個体発生と系統発生」・「生態と行動」についての講義を聴講・理解し，各講義に対する課題（問題形式）や形成的試験（効果的学習法）について討議した後，課題の解答をサブノートにまとめ，教え合うことによって長期記憶を形成する。

２．一般目標

「人間性豊かな歯科医師」を目指すために，初期段階として生命科学の基礎及び生物学的なものの見方・考え方を通じて，科学的にものを観察・理解をする姿勢を修得する。また，専門課程で学習する高度で専門的な知識をいれる「頭の中の引き出し（脳内コンテンツ：目次）」を確立するために，脊椎動物の「体制」と「発生」を系統的に説明できるようにする。

３．到達目標

１）生命体の基本となる階層性「細胞→組織→器官→器官系→個体」を説明できる。
２）生物（原核生物・真核生物など）における「細胞の構造と機能」を説明できる。
３）脊椎動物における「四大組織の基本構造と機能」を分類し，系統的に説明できる。
４）人体の「器官・器官系の構造と機能」を分類し，その全体像を包括的に説明できる。
５）「刺激の受容と反応」における，各器官の役割の全体像を説明できる。
６）「体内環境の調節と恒常性の維持」における，各器官の役割の全体像を説明できる。
７）脊椎動物と人体の「生殖と初期発生」について説明できる。
８）脊椎動物と人体の「各器官の発生過程」について説明できる。
９）脊椎動物の「進化と多様性」「生態と行動」について説明できる。

４．履修の進め方

履修方法は，学習効果ピラミッドに準じて行う。講義では，講義プリントを使用して履修する。項目ごとに問題形式の課題（サブノート）を用いて形成的評価をしながら進み，サブノートを作成することで履修する。また，サブノートの問題を学生自身が討議し，教え合うことで完成し，能動的に修得する。

５．準備学修

事前学習：配布プリント，および，実習で用いる教科書（得意になる解剖生理学 / ラングマン人体発生

学）を復習・熟読し，高校生物学との違いを理解しておく（30分）。

事後学習：講義後にサブノートを完成し，講義内容のポイントを確認する。それによって，医療系大学における脊椎動物の体（人体と構造と機能）の全体像を理解し，２～３年次の高度で専門的な歯科基礎医学の科目（解剖学・組織学・生理学など）に備える（120分）。

６．評価方法

総括的評価は，前期と後期の中間試験と定期試験（計４区分）の総合評価点で評価する。試験の実施は，中間試験は，６月～７月（前期），11～12月（後期）の月曜日１限の試験枠で行い，定期試験は，学期末の試験期間（前期：８月／後期：１月）に行う。各区分の試験範囲は，第１区分【前期中間試験：基礎生物学１～16】，第２区分【前期定期試験：基礎生物学14～30】，第３区分【後期中間試験：基礎生物27～45】，第４区分【後期定期試験：基礎生物学46～60】とし，前期中間試験（25%）・前期定期試験（25%）・後期中間試験（25%）・後期定期試験（25%）の４区分の得点を合算し，総合評価点（100%）を算出して最終評価点とし，65点以上を合格とする。また，１月下旬～２月上旬に行う後期定期試験の追・再試験ついては，再試験（上限65点）は，上記４区分の試験の総合評価点が，65点未満の学生に対して行い，また，追試験（上限100点）は，学校が認める理由で，後期定期試験の本試験を欠席した学生に対して行い，それらの結果を基に，再度，最終評価点を算出し，65点以上を合格とする。尚，学校が認める理由（忌引き，または，学校感染症など）で，各区分の試験範囲の講義を欠席した学生で，各区分の試験の点が基準点を下回る学生については，試験の評価点（80%）と各試験日に提出するサブノート（GW／形成的試験）の課題点（20%）を用いて，式【評価点＝試験の評価点×0.8＋課題点×0.2】を用いて，評価点を算出する場合がある（但し，課題の提出が提出期限に遅れた場合は，課題点は０点となる）。

７．教本

下記の教科書と参考書を基に作成した配布プリントに沿って進める。

１）得意になる解剖生理：美田誠二（著）照林社…生物学実験で購入済

２）ラングマン人体発生学 第12版：T.W.Sadler（著），安田峯生（翻訳）MEDSi 社

８．参考書

１）人体の正常構造と機能　改訂５版：坂井建雄，河合克雅 総編集 日本医事新報社

２）カラー図解　アメリカ版大学生物学の教科書　第１巻～第３巻：デイヴィッド・サダヴァ（著）講談社

３）最新歯科衛生士教本 生物学：河合進次郎，高畑悟朗（著）医歯薬出版株式会社

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／9	細胞の構造と機能❶	原核細胞・真核細胞	A-1-1, -4／必4-ア-a	①
2	4／9	細胞の構造と機能❷	細胞膜・核・細胞内小器官	A-1-2, -4／必4-ア-b	〃
3	4／16	細胞の構造と機能❸	細胞骨格・細胞外基質(1)	A-1-3, -4／必4-ア-c	〃
4	4／16	細胞の構造と機能❹	細胞骨格・細胞外基質(2)	A-1-4, 5-／必4-ア-c	〃
5	4／23	細胞の構造と機能❺	細胞分裂（体細胞分裂／減数分裂）	A-1-4, -5／必4-ア-a～c	①
6	4／23	細胞の構造と機能❻	細胞周期（分裂期／分裂間期）	A-1-4, -5, A-2-3／必5-ア-a	〃
7	5／7	脊椎動物の組織１：～上皮組織	上皮と腺の全体像と役割	A-3-1-1／必4-ア-d, 総Ⅱ-1-ア	〃
8	5／7	脊椎動物の組織２：～結合組織１	結合（支持）組織の全体像と役割	A-3-1-2／必4-ア-d, g, 総Ⅱ-1-ウ	〃
9	5／14	脊椎動物の組織３：～結合組織２	軟骨の全体像と役割	A-3-1-2／必4-ア-d, e, 総Ⅱ-1-イ	〃
10	5／14	脊椎動物の組織４：～結合組織３	骨の全体像と役割	A-3-1-2／必4-ア-d, e, 総Ⅱ-1-イ, 総Ⅱ-8-ウ	〃
11	5／21	脊椎動物の組織５：～筋組織	筋の全体像と役割	A-3-1-3／必4-ア-d, e, 総Ⅱ-1-イ	〃
12	5／21	脊椎動物の組織６：～神経組織１	神経組織と神経系の全体像と役割	A-3-1-5／必4-ア-d, e, 総Ⅱ-1-ク	〃
13	5／28	脊椎動物の組織７：～神経組織２	末梢神経と中枢神経の構造と機能の違い	A-3-1-5／必4-ア-d, e, 総Ⅱ-1-ク	〃
14	5／28	刺激の受容と反応１：～神経系１	神経の伝導と伝達１：静止膜電位・活動電位	A-3-1-5／必4-ア-d, e, 総Ⅱ-1-ク	〃
15	6／4	刺激の受容と反応２：～神経系２	神経の伝導と伝達２：神経の伝導と伝達	A-3-1-5／必4-ア-d, e, 総Ⅱ-1-ク	〃
16	6／4	刺激の受容と反応３：～神経系３	神経の伝導と伝達３：神経の興奮から効果器の作動までの流れ	A-3-1-5／必4-ア-d, e, 総Ⅱ-1-ク	〃
17	6／11	刺激の受容と反応４：～感覚器１	感覚と感覚受容器の全体像	A-3-1-6／必4-ア-d, e, 総Ⅱ-1-ク, 総Ⅱ-6-ア	〃
18	6／11	刺激の受容と反応５：～感覚器２	体性感覚：皮膚感覚・深部感／頭頸部の感覚	A-3-1-6／必4-ア-d, e, 総Ⅱ-1-ク, 総Ⅱ-4-カ, 総Ⅱ-5-ア, イ	〃
19	6／18	刺激の受容と反応６：～感覚器３	特殊感覚１：視覚１・視覚器の構造と機能の全体像	A-3-1-6／必4-ア-d, e, 総Ⅱ-1-ク	〃
20	6／18	刺激の受容と反応７：～感覚器４	特殊感覚１：視覚２・焦点調節，眼の保護，眼球の動きの調節	A-3-1-6／必4-ア-d, e, 総Ⅱ-1-ク	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
21	6／25	刺激の受容と反応８：～感覚器５	特殊感覚２：平衡聴覚１・平衡聴覚器の構造と機能の全体像	A-3-1-6／必4-ア-d, e, 総Ⅱ-1-ク	①
22	6／25	刺激の受容と反応９：～感覚器６	特殊感覚２：平衡聴覚２・コルチ器，平衡斑，膨大部稜の構造と機能	A-3-1-6／必4-ア-d, e, 総Ⅱ-1-ク	〃
23	7／2	刺激の受容と反応10：～感覚器７	特殊感覚３：嗅覚・嗅覚器の構造と機能の全体像	A-3-1-6／必4-ア-d, e, 総Ⅱ-1-ク, 総Ⅱ-6-ア	〃
24	7／2	刺激の受容と反応11：～感覚器８	特殊感覚４：味覚・味覚器の構造と機能の全体像	A-3-1-6／必4-ア-d, e, 総Ⅱ-1-ク, 総Ⅱ-6-ア	〃
25	7／9	体内環境の維持１：～内分泌系１	内分泌器官の全体像と役割及び発生過程	A-3-1-9／必4-ア-e, 総Ⅱ-1-ケ, 各Ⅲ-4-ア	〃
26	7／9	体内環境の維持２：～内分泌系２	体温・血糖の調節	A-3-1-9／必4-ア-e, 総Ⅱ-1-ケ	〃
27	7／16	体内環境の維持３：～消化器系１	消化器系の全体像と役割	A-3-1-7／必4-ア-e, f, 総Ⅱ-1-オ, コ	〃
28	7／16	体内環境の維持４：～消化器系２	口腔・咽頭と機械的消化の概要：咀嚼・嚥下・蠕動	A-3-1-7, A-3-2～4／必4-ア-e, f, 総Ⅱ-4-ア～カ, 総Ⅱ-6-ア, エ, カ	〃
29	7／23	体内環境の維持５：～消化器系３	消化管による消化と吸収の概要：管腔内消化と膜消化	A-3-1-7／必4-ア-e, f, 総Ⅱ-1-オ, コ	〃
30	7／23	体内環境の維持６：～消化器系４	外分泌腺：胃・肝臓・胆嚢・膵臓による消化	A-3-1-7／必4-ア-e, f, 総Ⅱ-1-オ, コ	〃
31	9／1	体内環境の維持７：～呼吸器系１	呼吸器系の全体像と役割	A-3-1-8／必4-ア-e, 総Ⅱ-1-エ	〃
32	9／1	体内環境の維持８：～呼吸器系２	呼吸のしくみの調節	A-3-1-8／必4-ア-e, 総Ⅱ-1-エ	〃
33	9／8	体内環境の維持９：～泌尿器系１	泌尿器系の全体像と役割及び発生過程	A-3-1-10／必4-ア-e, Ⅱ-1-キ	〃
34	9／8	体内環境の維持10：～泌尿器系２	濾過・再吸収・浸透圧の調節（１）	A-3-1-10／必4-ア-e, 総Ⅱ-1-キ	〃
35	9／15	体内環境の維持11：～泌尿器系３	濾過・再吸収・浸透圧の調節（２）	A-3-1-10／必4-ア-e, 総Ⅱ-1-キ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
36	9／15	体内環境の維持12：～生殖器系１	生殖器の全体像と役割及び発生過程	A-3-1-11／必4-ア-e, 必5-ア-a, 総Ⅱ-1-キ	①
37	9／29	体内環境の維持13：～生殖器系２	生殖器のホルモン調節機構	A-3-1-11／必4-ア-e, 必5-ア-a, 総Ⅱ-1-キ	〃
38	9／29	体内環境の維持14：～循環器系１	循環器系の全体像と役割及び発生過程	A-3-1-4／必4-ア-e, 総Ⅱ-1-ウ	〃
39	10／6	体内環境の維持15：～循環器系２	心臓と血管の役割	A-3-1-4／必4-ア-e, 総Ⅱ-1-ウ	〃
40	10／6	体内環境の維持16：～循環器系３	心拍数の調節（刺激伝導系と心周期・心音）	A-3-1-4／必4-ア-e, 総Ⅱ-1-ウ	〃
41	10／13	体内環境の維持17：～循環器系４	血圧の調節（神経性調節・液性調節）	A-3-1-4／必4-ア-e, 総Ⅱ-1-ウ	〃
42	10／13	体内環境の維持18：～血液１	血球の全体像及び造血	A-3-1-4／必4-ア-e, Ⅱ-1-カ, 総Ⅱ-3-ア	〃
43	10／20	体内環境の維持19：～生体防御系１	赤血球・白血球・血小板の役割の概要	A-3-1-4／必4-ア-d, g, 総Ⅱ-1-カ, 総Ⅱ-3-ア～オ	〃
44	10／20	体内環境の維持20：～生体防御系２	生体防御系の全体像・自然免疫と獲得免疫	A-3-1, -4, A-4-2／必4-ア-g, 総Ⅱ-3-ア～オ	〃
45	10／27	体内環境の維持21：～生体防御系３	一次リンパ性器官・二次リンパ性器官	A-3-1-4, A-4-2／必4-ア-e, g, 総Ⅱ-3-ア～オ, 総Ⅲ-1-ク	〃
46	10／27	生殖と初期発生⑴：～発生学－総論①	生殖子形成：体細胞分裂・減数分裂	A-2-1-1～7, A-3-1-11, A-5-1／必5-ア-a, 必6-ア-b, 必6-イ-h, p, 各Ⅲ-4-ア	〃
47	11／10	生殖と初期発生⑵－１：～発生学－総論②－１	生殖器系の調節機構：視床下部-下垂体-性腺系の役割	A-2-1-1, A-3-1-11／必4-ア-e, 必5-ア-a	〃
48	11／10	生殖と初期発生⑶－２：～人体発生学－総論②－２	排卵～着床の過程：排卵・受精・卵割・着床と性ホルモン	A-2-1-1, A-3-1-11／必4-ア-e, 必5-ア-a	〃
49	11／17	生殖と初期発生⑶：～人体発生学－総論③	２層性胚盤の形成：内（部）細胞塊の分化（胚盤葉の形成）・外（部）細胞塊の分化（胎盤の形成）	A-2-1-1, A-3-1-11／必4-ア-e, 必5-ア-a	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
50	11／17	生殖と初期発生⑷：～人体発生学－総論④	３胚葉の形成：２層性胚盤から３層性胚盤へ	A-2-1-1, A-3-1-11／ 必5-ア-a	①
51	11／24	生殖と初期発生⑸－１：～人体発生学－総論⑤－１	３胚葉の分化運命－１：内胚葉・中胚葉・外胚葉の分化の法則	A-2-1-1／ 必5-ア-a	〃
52	11／24	生殖と初期発生⑸－２：～人体発生学－総論⑤－２	３胚葉の分化運命－２：器官原基の形成と初期発生に関わる遺伝子	A-2-1-1／ 必5-ア-a, 総Ⅱ-8-イ	〃
53	12／１	器官発生と進化⑴：～人体発生学－各論①	頭頸部の発生：頭頸部と内分泌腺の器官発生の概要（鰓弓・鰓溝・咽頭嚢の形成と分化の全体像）	A-2-1-2／ 総Ⅱ-8-ア, 各Ⅲ-4-ア	〃
54	12／１	器官発生と進化⑵：～人体発生学－各論②	頭頸部の発生：口腔と顔面の器官発生と先天異常の概要（第１～３鰓弓領域と前頭鼻隆起の分化）	A-2-1-2／ 総Ⅱ-8-ア, 各Ⅲ-1-ア	〃
55	12／８	器官発生と進化⑶：～人体発生学－各論③	呼吸器系の発生：喉頭・気管・気管支・肺の器官発生の概要（第４～６鰓弓領域の分化）	A-2-1-4／ 必4-ア, 必5-ア, 総Ⅱ-1-エ	〃
56	12／８	器官発生と進化⑷：～人体発生学－各論④	消化器系の発生：消化管と付属器官の器官発生の概要（原始腸管と側板中胚葉の分化）	A-2-1-4／ 必4-ア, 必5-ア, 総Ⅱ-1-オ, コ	〃
57	12／15	器官発生と進化⑸：～人体発生学－各論⑤	泌尿器系の発生：腎臓・尿管・膀胱・尿道の器官発生の概要（中間中胚葉と排泄腔の分化）	A-2-1-4／ 必4-ア, 必5-ア, 総Ⅱ-1-キ	〃
58	12／15	器官発生と進化⑹：～人体発生学－各論⑥	生殖器系の発生：生殖器系の器官発生の概要（男性と女性の構造的性分化のしくみ）	A-2-1-4／ 必4-ア, 必5-ア, 総Ⅱ-1-キ	〃
59	12／18	器官発生と進化⑺－１：～人体発生学－各論⑦－１	神経系の発生－１：中枢神経系の器官発生の概要（神経管の分化）	A-2-1-4／ 必4-ア, 必5-ア-a, 総Ⅱ-1-キ	①
60	12／18	器官発生と進化⑺－２：～人体発生学－各論⑦－２	神経系の発生－２：末梢神経系の器官発生の概要（神経堤と外胚葉性プラコードの分化）	A-2-1-4／ 必4-ア, 必5-ア, 総Ⅱ-1-ク	〃

生物学実験（前期・１単位）

D③A-c1-1309(D1309)

科目責任者：今井　　元（解剖・教授）
科目担当者：①今井　　元（解剖），②加藤 靖正（生化），
③古山　　昭（生理）
※この科目は，主に診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

生命体の基本単位である細胞は，それぞれ様々な細胞小器官（オルガネラ）から構成されている。さらに，細胞が機能的な集団をなし組織系となり，その組織系の複合体が，器官となる。本科目においては，まず，動物愛護の精神（３R）を学んだ上で，植物，動物，微生物を材料とした顕微鏡観察から細胞の基本構造を把握する。また，カエルを材料とした肉眼解剖により，個体（脊椎動物）における各器官の構造と配列，さらには，基本的体制を把握する。また，これらの実験を通して，実験での心構えやルール，レポートの作成法等を学び，さらに，人体の正常構造と機能における学修項目について議論する。

２．一般目標

生命科学教育を受け，得た知識をさらに深めるため，実際に生命体の基本構造を視覚的に理解するとともに，今後も必要になる対象の観察方法を，顕微鏡操作や解剖により修得する。

３．到達目標

１）動物愛護の精神（３つのR）を理解し，実践できる。
２）顕微鏡・解剖器具が適切に使用できる。
３）観察のための試料を適切に準備できる。
４）構造の概要を説明できる。
５）細胞分裂における染色体の動態を説明できる。
６）セントラルドグマについて説明できる。
７）DNA の構造と半保存的複製について説明できる。
８）胚の発生過程を説明できる。
９）各器官系を適切に分類できる。
10）実験結果を正確，かつ，適切にまとめることができる。

４．履修の進め方

①実習用と輪読用のプリントを班毎に輪読し予習する。
②ガイダンス（映像やスライド）において，実験を行う前に取り扱う生命体についての基礎知識及び実習手順を理解する（60分）。
③顕微鏡を適正に用いて，様々な細胞あるいはオルガネラ構造などを詳細に観察し，正しくスケッチする。また，器具を適正に用いて解剖を行い，各器官の構成や体内での配列などを詳細に観察し，スケッチする（180分）。
④実習で学ぶべき学習項目について，グループディスカッション（SGD）により議論し，グループワーク（GW）プロダクトを提出する。
⑤各自，実習内容をレポートやスケッチ課題にまとめ，提出期限日（原則，次の実習日）の朝８：30までに基礎医学研究棟４階の所定の提出場所に提出する。

５．準備学修

事前学修：実習用と輪読用のプリントを班毎に輪読し，実習に関連する項目を調べ予習する。
予習課題やグループワークがある場合は，自習し生物学の試験の際に提出する。(30分)
事後学修：実験観察で得られたスケッチやデータをもとに，レポート課題やスケッチ課題を期日までに作成し提出する。この際，結果を下記の教本１）～３）等で得た情報をもとに解釈し，与えられた課題の意義を理解する。(120分)

６．評価方法

総括的評価の最終評価点は，リクワイアメント【＝レポート課題（100点×10回分）＋スケッチ課題（100点×２回分）＝総点（1200点)】を基に算定する。つまり，最終評価点は，計12回のレポート課題とスケッチ課題の総点から，評価点が悪い２回分の点を除き，10回分の課題点の平均点，すなわち，式【最終評価（点）＝（課題12回の総点数－点が悪い課題２回分の点数）÷10】で算定し，65点以上を合格とする。各課題は，原則，実習実施日の１週間後の朝８：15までに提出する。期限に遅れた場合は，課題点が遅延１日ごとに25％減ぜられる。

尚，無断欠席の場合や未提出課題がある場合も，レポートやスケッチの総点から悪い方の課題点２回分を除いて10で割る。したがって，１回の無断欠席／未提出があると90点満点（９回分），２回で80点満点（８回分），３回で70点満点（７回分）となり，４回あると，60点満点（６回分）となり，不合格となる。但し，大学が認めて，公欠になった学生（忌引き，または，学校感染症で欠席した学生など）は，公欠の日のレポート点やスケッチ点は考慮し（総点から引く課題点や割る数を調整し），100点満点になるように換算する。また，全ての課題を提出した学生に限り，GW／形成的試験（15回全て）の提出や実習再試験などにより，最終評価が65点になるまで加点されることがある。

７．教本

下記の教科書と参考書を基に作成したプリント（第１～15回生物学実験ガイダンス）で進める。

１）得意になる解剖生理学：美田誠二（著）照林社
２）ラングマン人体発生学 第12版：T.W.Sadler（著），安田峯生（翻訳）MEDSi 社

８．参考書

１）高校の生物基礎・生物学の教科書，または，参考書（各自，購入を推奨）
２）基礎から学ぶ生物学・細胞生物学第２版：和田勝（著）羊土社
３）人体の正常構造と機能改訂２版：坂井建雄，河合克雅総編集 日本医事新報社
４）アメリカ版大学生物学の教科書第１巻～第３巻：デイヴィッド・サダヴァ（著）
５）最新歯科衛生士教本 生物学：河合進次郎，高畑悟朗（著）医歯薬出版株式会社（各自，購入を推奨）

９．授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	４／10	第１回オリエンテーション：動物愛護の精神	実験目的・実験上の注意・動物愛護の精神（３R）／SGD・GW・３R の確認試験	A-1-1, 4／必4-アa	① 〜 ③
4 5 6	４／17	第２回生物学実験：顕微鏡の使い方とレポート作成	光学顕微鏡の操作法／SGD・GW・スケッチ・レポートの書き方の練習	A-1-2, 4／必4-ア-a〜c	〃
7 8 9	４／24	第３回生物学実験：細胞と細胞小器官の観察Ⅰ	タマネギ鱗茎葉の表皮細胞の観察／SGD・GW・レポート（１）の作成	A-1-3, 4／必4-ア-a〜c	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
10 11 12	5／8	第４回生物学実験：細胞と細胞小器官の観察Ⅱ	ユスリカの唾腺染色体の観察／SGD・GW・レポート(２)の作成	A-1-4, 5／必4-ア-a～c	① ～ ③
13 14 15	5／15	第５回生物学実験：細胞と細胞小器官の観察Ⅲ	ラットの血球細胞の観察／SGD・GW・レポート(３)の作成	A-1-4, A-3-1-4, A-4-2／ 必4-ア-d, g	〃
16 17 18	5／22	第６回生物学実験：細胞分裂①－体細胞分裂	タマネギ根端細胞の体細胞分裂の観察／SGD・GW・レポート(４)の作成	A-1-4／ 必5-ア	〃
19 20 21	5／29	第７回生物学実験：細胞分裂②－減数分裂	パラフィン切片とH-E染色法：精巣または卵巣の染色／SGD・GW・レポート(５)-１の作成	A-2-1, A-3-1-11／ 必5-ア-a, 総Ⅱ-1-キ	〃
22 23 24	6／5	第８回生物学実験：細胞分裂③－生殖子形成	生殖子形成減数分裂（精細管と卵胞）の観察／SGD・GW・レポート(５)-２の作成	A-2-1, A-3-1-11/ 必5-ア-a, 総Ⅱ-1-キ	〃
25 26 27	6／12	第９回生物学実験：細胞分裂④－卵割と初期発生	カエルの卵割と初期発生の観察／SGD・GW・レポート(６)の作成	A-2-1, A-3-1-11／ 必5-ア-a, 総Ⅱ-1-キ	〃
28 29 30	6／19	第10回生物学実験：動物の組織	動物の組織：…四大組織のスケッチの練習／SGD・GW・スケッチ課題Ⅰの作成	A-3-1-1～6／ 必4-ア-d	〃
31 32 33	6／26	第11回生物学実験：器官系の分類Ⅰ（カエルの解剖１）	外形と消化器官系・呼吸器系の観察／SGD・GW・レポート(９)の作成	A-3-1-7, -8, A-3-3, 4／ 必4-ア-e, f, 総Ⅱ-1-ア, エ	〃
34 35 36	7／3	第12回生物学実験：器官系の分類Ⅱ（カエルの解剖２）	心臓と泌尿生殖器系・脈管系の観察／SGD・GW・レポート(８)の作成	A-3-1-4, 10, 11／ 必4-ア-e, 総Ⅱ-1-ウ, キ	〃
37 38 39	7／10	第13回生物学実験：器官系の分類Ⅲ（カエルの解剖３）	筋肉系と神経系の観察と神経筋標本の作成／SGD・GW・レポート(９)の作成	A-3-1-3, 5／ 必4-ア-e, 総Ⅱ-1-イ, ク	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
40 41 42	7／17	第14回生物学実験：器官系の分類Ⅳ（カエルの解剖４）	頭骨と神経孔の観察／SGD・GW・レポート(10)の作成	A-3-2／ 必4-ア-e, 総Ⅱ-1-イ, ク, 総Ⅱ-4-イ, カ	① ～ ③
43 44 45	7／24	第15回生物学実験：歯の機能の違い	さまざまな動物の頭骨と歯の観察／SGD・GW・スケッチ課題Ⅱの作成	A-3-2, 4／ 必4-ア-e, 総Ⅱ-5-ア	〃

歯科医学演習（前期・１単位）

D①②③A-b1-1203（D1203）

科目責任者：羽鳥　弘毅（冠橋・教授）

科目担当者：①羽鳥　弘毅（冠橋），②菊井　徹哉（修復），
③佐藤　穏子（歯内），④臼井　通彦（歯周），
⑤西　　祐也（口外），⑥池田　敏和（有床），
⑦川合　宏仁（麻酔），⑧山野辺晋也（矯正），
⑨神庭　優衣（小児），⑩川原　一郎（放射），
⑪高橋　昌宏（**歯周**），⑫風間　咲美（医学）

※この科目は，主に診療経験のある歯科医師と医師が担当する

１．科目の概要

歯科医学および歯科医療を学ぶ者にとって，歯科医学と歯科医療における知識，歯科医療の技術および歯科医師としての態度を習得することは必須の要件である。歯科医学と歯科医療の知識は一般教養科目，基礎歯科医学，社会歯科学及び臨床歯科医学の各科目を通して修得し，歯科医療の技術と歯科医師としての態度は，臨床歯科医学の模型実習と臨床実習や社会歯科学と倫理学等を通して学習する。このなかで，技術の学習は歯科医療にとって重要であり，歯科医学で学んだ理論を実践するうえで不可欠である。

歯科医学演習は，歯科医療の技術を学ぶために必要な基礎技術の訓練とともに，これから６年間にわたって歯科医学を学習する動機付けとして位置づけられる科目である。学習方法には，手指の動作を訓練するために日常生活のなかから選ばれた身近なテーマや，臨床歯科医学の教育内容と密接な「道具と手」に係わる演習が主体となる。

教育スタッフは，本学の臨床系科目を担当する講座から選出された教員によって組織されている。楽しみながら手指の動作や歯科医療に使用する器具とその使い方等を学び，歯科学生としての自覚を芽生えさせて欲しい。

２．一般目標

専門課程における各科実習を行うために，基礎的な技術訓練に係る知識，技能および態度を習得する（ディプロマポリシー１～３）。

３．到達目標

１）口腔内写真から歯式を記録する。
２）歯の硬組織治療を模倣して，歯冠修復における造形的治療を理解する。
３）歯内治療で用いる器具の操作を模倣する。
４）プラークコントロール，とりわけ歯周病患者のブラッシング方法を習得する。
５）彫刻刀を利用して，石膏を実際に彫刻する。
６）外科手術の縫合を想定した糸結びを実践する。
７）クラスプワイヤーの屈曲を体験する。
８）マネキンで一次救命処置を実践する。
９）顔の形態を評価する。
10）小児の治療を想定した器具の使用法を実践する。
11）エックス線検査および超音波検査を実践する。
12）インプラント治療の特徴と意義を説明する。
13）口腔内状態を正確に診療録に記載する。
14）手洗いを実践する。
15）バイタルサインの測定を習得する。

４．履修の進め方

スライドと資料を使用し，各分野の特徴的な技術を演習形式で履修する。

５．事前学習：科目の概要，一般目標，到達目標および授業内容を認識しておく。（15分）
事後学習：授業内容を確認し十分に理解する。（30分）

６．評価方法

各担当教員から100点満点として提出された点数を合計し，担当教員数で割った点数を評価点として65点以上の者を合格とする。

７．教本

なし

８．参考書

なし

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2	4／7	口腔診断	口腔内検査を体験する	E-2-2)／ 必9-ア～エ， 10-イ	①
3 4	4／14	保存修復学	歯の治療における窩洞とその形態を知る	E-3-3)-(1)／ 各Ⅲ-5-イ，ウ	②
5 6	4／21	歯内療法学	根管治療器具の基本操作を実践する	D-5-2-2 各Ⅱ-2-ア，イ	③
7 8	4／28	歯周病学	プラークコントロール，とりわけ歯周病患者のブラッシング方法の習得	E-5-3-3-1／ 各Ⅱ-3-イ	④
9 10	5／12	冠橋義歯学	彫刻刀を用いて石膏棒を削る	E-5-3-4-1／ 各Ⅳ-3-アイウ	①
11 12	5／19	口腔外科学	手術器材を知り，縫合を体験する	D-5-4)／ 総Ⅶ-4-ア	⑤
13 14	5／26	有床義歯学	クラスプワイヤーの屈曲を体験する	D-5-3-2／ 総Ⅶ-2-ア	⑥
15 16	6／2	歯科麻酔学	マネキンで一次救命処置（BLS）を実践する	D-1-1／ 必10， 総Ⅶ-3， 各Ⅲ-4-ソ	⑦
17 18	6／9	歯科矯正学	自己顔の形態を評価する	E-5-4)／ 各Ⅰ-5，6	⑧
19 20	6／16	小児歯科学	小児の治療を想定した器具を理解する	D-5-6／ 総Ⅴ-2	⑨
21 22	6／23	歯科放射線学	エックス線の撮影・画像処理をする	D-2-5， E-2-5／ 必修-9-カ， 総Ⅵ-2-ア～コ	⑩
23 24	6／30	口腔インプラント学	インプラント治療の意義と特徴を理解する	D-5-3-3／ 各Ⅳ-6	⑪
25 26	7／7	臨床総合演習①	口腔内状態の記録	E-4-1 必修-8-キ-a	①
27 28	7／14	臨床総合演習②	手指の消毒を実践する	E-1-1)／ 必-11	⑤
29 30	7／21	総合臨床医学	バイタルサインを実践する	D-6-1)／ 総Ⅶ-1-エ	⑦ ⑫

歯科医療概論（前期・１単位）

D①②③A-a1-1204(D1204)

科目責任者：髙田　　訓（口外・教授）
科目担当者：①髙田　　訓（口外）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

歯科医師を志して歯学部に入学した学生にとって，歯科医学を学び，歯科医療ならびに保健指導を行う上で必要な心構えと６年間の学習の目標を設定することは重要である。また，患者中心の歯科医療を実践するために，プロフェッショナリズムを身に付ける必要がある。

２．一般目標

歯学部学生としての心構えと目標を設定するために歯科医学と歯科医療の概要を理解する。

３．到達目標

１）歯科医師の使命，魅力について説明する。
２）歯科医学教育について説明する。
３）歯科学生に必要な学修態度，学修方法を説明する。
４）歯科医師として求められる基本的な資質について説明する。
５）歯科医療と社会との関わりについて説明する。

４．履修の進め方

文書視覚媒体と投影視覚媒体および配布資料を用いて履修する。

５．準備学修

事前学習：配布資料を熟読しておくこと。(10分)
事後学習：受講後に，その内容を復習すること。(15分)

６．評価方法

講義内容に関連した筆記試験を行い，65点以上（100点満点）を合格とする。

７．教本

なし

８．参考書

日本歯科医学教育学会編「よき歯科医療人になるための倫理・プロフェッショナリズム教育　プロフェッションワークブック」 医歯薬出版　2019年

９．授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／7	序　説	奥羽大学の理念と歴史	－	①
2	4／14	教育目標	奥羽大学歯学部の歯学教育と教育システム	－	〃
3	4／21	基本事項１	医の倫理と歯科医療の意義	C-1-1／必1-ア	〃
4	4／28	基本事項２	歯科医師の責務	C-1-2／必1-イ	〃
5	5／12	基本事項３	インフォームドコンセント	C-1-1／必1-イ	〃
6	5／19	歯学史	世界，日本の歯学史①	C-4-3／必-12-ア	〃
7	5／26	歯学史	世界，日本の歯学史②	A-2-2)／必-12-ア	〃
8	6／2	地域保健活動	日本の歯科保健活動の変遷	C-4-3／総Ⅰ-1-オ	〃
9	6／9	医療安全１	安全な医療の確保	C-3-1／必2-カ	①
10	6／16	医療安全２	医療上の事故等への対処と予防	C-3-2／必2-カ	〃
11	6／23	医療安全３	医療事故と医事過誤	C-3-2／必2-ク	〃
12	6／30	チーム歯科医療	医療連携・チーム医療①	C-1-3／必2-ウ	〃
13	7／7	チーム歯科医療	医療連携・チーム医療②	C-1-3／必2-ウ	〃
14	7／14	超高齢社会への歯科医学的対応	フレイルとオーラルフレイル	D-5-7／総2-オ	〃
15	7／21	歯科医師のプロフェッショナリズム	事例に学ぶプロフェッショナリズム	C-2-3, 4／必12-イ	〃

基礎歯学概論Ⅰ（通年・２単位）

D②A-a2-1205(D1205)

科目責任者：安部　仁晴（組織・教授）
科目担当者：①安部　仁晴（組織），②森山　　光（組織），
③宇佐美晶信（解剖），④芹川　雅光（解剖），
⑤山崎　信也（生理），⑥大須賀謙二（生理），
⑦古山　　昭（生理），⑧山家　尚仁（感染）
※この科目は，主に診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

歯科医師として身につけなければならない知識を習得する上で，専門基礎科目は特に重要となる。その中で，２年時の履修科目となる専門基礎科目を中心に，履修前に予備知識として知っておくべき概論や要点について早期に学習する。

２．一般目標

ディプロマ・ポリシー（３）の病態を解析するための基礎となる第２学年時の履修科目である専門基礎科目を中心に，その知識を習得する。

３．到達目標

１）歯と歯周組織の種類とそれらの微細構造を説明する。
２）口腔顎顔面の形態の概要について説明する。
３）からだの基本的なはたらきを説明できる。
４）微生物の構造とその病原性を説明する。
５）歯の発生と加齢変化について説明する。
６）微生物感染に対するヒトの免疫応答を説明する。

４．履修の進め方

講義主体でスライド，プリント，板書で適宜進める。ノートをとり，プリントに追記する。

５．準備学修

講義担当者から配布される資料や，図書館の資料を用いる。また，事前に次回プリントを配布される場合は，講義前にプリントを熟読しておくこと（事前学習：15分）。加えて，講義受講後に，その内容を復習すること（事後学習：30分）。

６．評価方法

MCQ による定期試験（100％）で評価する。前期，後期定期試験の平均が65点以上を合格とする。追・再試験は前期，後期の全範囲で行い，結果は65点を上限とする。

７．教本

講義担当者から配布される資料を用いる。

８．参考書

なし

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／10	口腔組織学概論①	歯の構造（エナメル質）	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ5-イ	①
2	4／17	口腔組織学概論②	歯の構造（象牙質）	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ5-イ	②
3	4／24	口腔組織学概論③	歯の構造（歯髄）	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ5-イ	①
4	5／8	口腔組織学概論④	歯周組織の構造（１）	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ5-イ	②
5	5／15	口腔解剖学概論①	骨　学	A-3-4／必4-ア	④
6	5／22	口腔解剖学概論②	脈管学	A-3-4／必4-ア	〃
7	5／29	口腔解剖学概論③	歯の解剖（総論）	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ5-ア	③
8	6／5	口腔解剖学概論④	歯の解剖（各論）	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ5-ア	〃
9	6／12	口腔生理学概論①	体　液	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-カ	⑤
10	6／19	口腔生理学概論②	循環と呼吸	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-ウ, エ	⑥
11	6／26	口腔生理学概論③	神経線維の種類と機能	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-ク	⑦
12	7／3	口腔生理学概論④	口腔感覚	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-ク	〃
13	7／10	口腔感染免疫学概論①	微生物の種類	A-4-1-1／必4-イ	⑧
14	7／17	口腔感染免疫学概論②	細菌の病原性について	A-4-1-2／総Ⅲ1- キ	〃
15	7／24	口腔感染免疫学概論③	滅菌の種類とその特徴	A-4-1-8／必11-エ	〃
16	9／4	口腔組織学概論⑤	歯周組織の構造（２）	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ5-イ	②
17	9／11	口腔組織学概論⑥	歯の発生	A-3-4／必5-ウ 総Ⅱ8-イ	〃
18	9／18	口腔組織学概論⑦	歯と歯周組織の加齢変化	A-2-4／必5-エ 総Ⅱ7-エ 各Ⅴ3-イ	①
19	9／25	口腔解剖学概論⑤	神経学	A-3-1／必4-ア	④
20	10／2	口腔解剖学概論⑥	筋　学	A-3-1／必4-ア	③
21	10／9	口腔解剖学概論⑦	機能解剖学	A-3-2／総Ⅱ6-エ	〃
22	10／16	口腔生理学概論⑤	自律機能	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-ク	⑥
23	10／23	口腔生理学概論⑥	内分泌	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-ケ	〃
24	10／30	口腔生理学概論⑦	排　泄	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-キ	〃
25	11／6	口腔感染免疫学概論④	消毒薬の種類とその特徴	A-4-1-8／必11-エ	⑧
26	11／13	口腔感染免疫学概論⑤	細菌の病原因子	A-4-1-2／総Ⅲ1-キ	〃
27	11／20	口腔感染免疫学概論⑥	自然免疫と獲得免疫	A-4-2-1, 2／総Ⅱ3-エ, オ	〃
28	11／27	口腔感染免疫学概論⑦	新たな感染症	A-4-1-4／総Ⅲ1-キ	〃
29	12／4	口腔感染免疫学概論⑧	ワクチンによる感染予防	A-4-2-7／総Ⅱ3-オ	〃
30	12／11	口腔組織学概論⑧	歯と歯周組織の構造	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ5-イ	①

臨床歯学概論（前期・１単位）

D①②③A-a1-1207（D1207）

科目責任者：羽鳥　弘毅（冠橋・教授）

科目担当者：①羽鳥　弘毅（冠橋），②菊井　徹哉（修復），
③佐藤　穏子（歯内），④臼井　通彦（歯周），
⑤西　　祐也（口外），⑥高津　匡樹（有床），
⑦川合　宏仁（麻酔），⑧山野辺晋也（矯正），
⑨神庭　優衣（小児），⑩川原　一郎（放射），
⑪高橋　昌宏（歯周），⑫鈴木　史彦（高齢），
⑬吉田　健司（障害），⑭風間　咲美（医学）

※この科目は，主に診療経験のある歯科医師と医師が担当する

１．科目の概要

歯科医師を目指して歯学部に入学した直後に歯科医療の現場を知ることは，これから６年間の勉強の目標を設定するうえで重要なことである。歯科医師に求められる資質には，①社会人として信頼できること，②歯科医療に対する知識・技能を有すること，③保健に関する助言・援助ができること，④生涯にわたり研修意欲を持ち続けること，⑤患者に対して十分な説明を行い，同意を得るという考え方を尊重すること，などがある。

２．一般目標

歯科医学・歯科医療を学ぶ目標を設定するために，先進的かつ近未来の歯科医療の現場を視覚的に理解し，歯科医療を行う上での問題を発見し，解決に必要な情報を収集・分析・整理し，その問題を解決できる力を身につける（ディプロマポリシー１～３）。

３．到達目標

１）歯科の臨床を視て今後の学習の目標を認識する。
２）う蝕・非う蝕性硬組織疾患の種類と歯冠修復治療の概要を把握する。
３）歯内治療の概要を説明する。
４）歯周病学について概説する。
５）クラウンブリッジにより補綴治療を説明する。
６）口腔外科領域で行われる小手術を列挙する。
７）有床義歯による欠損補綴の概要を説明する。
８）歯科麻酔科の仕事内容を説明する。
９）歯科矯正治療の手順を説明する。
10）乳幼児期の特徴について概論を理解する。
11）画像検査法の目的と意義を説明する。
12）インプラントによる補綴治療を説明する。
13）摂食嚥下リハビリテーションを説明する。
14）障がい者の概要を説明する。
15）歯科医師に必要な医学知識を習得する。

４．履修の進め方

基本的には講義形式でスライドと資料を使用して履修する。

５．事前学習：科目の概要，一般目標，到達目標および授業内容を認識しておく。（15分）
事後学習：授業内容を確認し十分に理解する。（30分）

６．評価方法

各担当教員から100点満点として提出された点数を合計し，担当教員数で割った点数を評価点として65点以上の者を合格とする。

７．教本

なし

８．参考書

なし

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／7	科目の説明	基本的診療技能	E-2-2)／必9-ア～エ，10-イ	①
2	4／14	歯冠修復治療	歯の硬組織疾患の診断，治療と身体の健康保持	E-3-3)(1)／各Ⅲ-2-ア，イ，B-3-2)-①②③④	②
3	4／21	歯内治療	歯髄・根尖歯周疾患の診断と治療	D-5-2-2 各Ⅱ-2-ア，イ	③
4	4／28	歯周治療	歯周疾患の病態，診断および治療	E-3-3)(3)／各Ⅲ-8-ア，9-イ	④
5	5／12	冠橋義歯治療	クラウンブリッジの治療	E-5-3-4-1／各Ⅳ-3-アイウ	①
6	5／19	口腔外科治療	小手術の基本	D-5-4)／総Ⅶ-4-ア	⑤
7	5／26	有床義歯治療	有床義歯による欠損補綴の概要	D-5-3-2／総Ⅶ-2-ア	⑥
8	6／2	歯科麻酔治療	歯科麻酔の基本	D-1-2／必11-カ，総Ⅶ-4	⑦
9	6／9	歯科矯正治療	不正咬合の治療	E-5-4)／各Ⅰ-5,6	⑧
10	6／16	小児歯科治療	小児の歯科治療	D-5-6／総Ⅴ-2	⑨
11	6／23	歯科放射線治療	画像検査	D-2-5，E-2-5／必修-9-カ，総Ⅵ-2-ア～コ	⑩
12	6／30	インプラント治療	インプラントによる補綴治療	D-5-3-3／各Ⅳ-6	⑪
13	7／7	摂食嚥下治療	摂食嚥下リハビリテーションの基本	D-5-7-8／総Ⅶ-6-イ-a	⑫
14	7／14	障がい者歯科診療	スペシャルニーズを有する人への対応	E-5-7)／必-2-ア，総Ⅴ-3	⑬
15	7／21	歯科と医学の知識	歯科と医学の知識	D-6-1)／総Ⅶ-1-エ	⑭

臨床心理学（後期・１単位）

D①②③A-a1-1201（D1201）

科目責任者：佐藤　　歩（心理・講師）
科目担当者：①佐藤　　歩（心理）
※この科目は，公認心理師である教員が担当する

１．科目の概要

臨床心理学とは，様々な心の悩みを乗り越えようとする人間を心理学的に支援する学問である。人間存在が持つ様々な悩み，悩みに陥る心の構造とプロセス，支援の方法を学んでいく。臨床心理学では，代表的な精神疾患および心理的問題を項目別に学んでいく。

２．一般目標

臨床心理学の基礎を学び，人間が人間を心理的に支援することの意味と患者の立場や背景を理解する（ディプロマ・ポリシー「１」に該当する）。

臨床心理学を学ぶことで，医療者として患者に思いやりを持った言動に心がけると共に，患者を尊重することの重要性を理解する（ディプロマ・ポリシー「１」に該当する）。

臨床心理学の知識を生かし，自己のパーソナリティ特性を理解する。

３．到達目標

１）ストレスについて説明できる。
２）うつ病について説明できる。
３）統合失調症について説明できる。
４）不安症について説明できる。
５）摂食症について説明できる。
６）神経発達症について説明できる。
７）PTSD について説明できる。
８）適応反応症，身体症状症について説明できる。
９）自殺，自傷行為について説明できる。

４．履修の進め方

講義形式でスライドとプリントを使用して履修する。

５．準備学修

予　習：次時のテーマについて，歯科医療の場面で自分であれば，どのように対応するかを具体的に考えておく。（15分）
復　習：授業中の思考，講義の内容を自分の問題としてまとめておく。（15分）

６．評価方法

随時実施される課題を期日内にすべて提出した上で評価する。定期試験（100％）で評価し，65点未満の者に再試を行う。最終評価は定期試験の本試・追試・再試の全ての平均点を算出し，平均が65点以上の者を合格とする。全授業範囲を記述，選択式で実施する。

７．教本

なし。毎回科目担当者がプリントを配付する。

８．参考書

ベーシック心理学　第２版　二宮克美編著　医歯薬出版

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／2	ストレス対応と PTSD	ストレッサーとストレス反応，ストレスコーピング，PTSD の理解	D-5-9)／各Ⅲ-4-シc	②
2	9／9	うつ病の理解①	うつ病の心理特性と対応及び予防	D-5-9)／各Ⅲ-4-シa	②
3	9／16	うつ病の理解②	うつ病の心理特性と対応及び予防	D-5-9)／各Ⅲ-4-シa	〃
4	9／30	自殺の理解	自殺の心理特性と対応及び予防	D-5-9)／各Ⅲ-4-シ	〃
5	10／7	自傷行為の理解	自傷行為の心理特性と対応及び予防	D-5-9)／各Ⅲ-4-シ	〃
6	10／14	統合失調症	統合失調症の症状と対応	D-5-9)／総Ⅶ-1-エg	〃
7	10／21	摂食症	摂食症の分類及び心理特性と対応	D-5-9)／必6-アj	〃
8	10／28	不安症①	不安症の心理特性と対応	D-5-9)／各Ⅲ-4-シb	〃
9	11／4	不安症②	不安症の心理特性と対応	D-5-9)／各Ⅲ-4-シb	〃
10	11／11	不安症③パニック症	パニック症の心理特性と対応	D-5-9)／各Ⅲ-4-シb	〃
11	11／18	その他の精神疾患	適応反応症，身体症状症等	D-5-9)／各Ⅲ-4-シ	〃
12	11／25	神経発達症①	神経発達症の分類及び心理特性と対応	D-5-8)／総Ⅴ-2-オabc	〃
13	12／2	神経発達症②	神経発達症の分類及び心理特性と対応	D-5-8)／総Ⅴ-2-オabc	〃
14	12／9	神経発達症③	神経発達症の分類及び心理特性と対応	D-5-8)／総Ⅴ-2-オabc	〃
15	12／16	まとめ	全体の振り返り，ポイントの整理	D-5-9)／必6-アi，必6-イr	〃

歯科医療人間学Ⅰ（後期・２単位）

D①A-a2-1401(D1401)

科目責任者：中川　敏浩（衛生・准教授）
科目担当者：①中川　敏浩（衛生），②吉田いくよ（非常勤），
③鈴木　俊子（非常勤），④本多　真史（日本語），
⑤前田　豊信（生化）

※この科目は，主に一般企業勤務経験のある教員が担当する

１．科目の概要

歯科医療人間学（Dental Practice Human Science）は，本学歯学部の目的である「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師の養成」を実践する学問であり，高度専門職業人（プロフェッショナル）としての歯科医師である前に社会人としての素養，教養および社会適応能力を高揚し，自らのホスピタリティマインドに加えて，患者中心の医療を全人的に捉えるため，身体面，心理面，社会面，倫理面の各要素を総合的かつ包括的に理解し，「歯科医療の安全・安心・信頼の文化」を醸成することにある。

２．一般目標

人間性豊かな優れた歯科医師となるために，大学で学ぶ目的を明確化し，歯学医療現場にふれ，基本的なコミュニケーションや日常習慣の重要性を認識する態度，知識および技能を修得する。

３．到達目標

1）医療人として謙虚な態度と傾聴力を養う。
2）患者の訴えを正確に聞き取る。
3）平易な言葉で順序立てて説明する。
4）医療現場で必要な言葉でコミュニケートする。

４．履修の進め方

グループおよびペアによる学修を行う。授業形態はプリントを配布し，レポート提出形式をとることもあるので受動的な学習でなく，必ず参加が義務づけられる能動的学習である。

５．準備学修

予　習：シラバスで内容を確認する。また，人と接する時は状況を把握し，意識をして対応することを日頃から心がける。(30分)
復　習：プリント学修や実演したことを自然に実践できるように日々訓練をする。

６．評価方法

プレゼンテーション（50%），記述式試験（50%）により評価を行い，65点以上を合格とする。

７．教本

日本学術振興会編　「科学の健全な発展のために第２版：－誠実な科学者の心得－」

８．参考書

なし

９．授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2	9／1	パフォーマンス学総論①	自分をどのように表現するかを実感する	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1／ 必8-ウ-a～e	① ② ③
3 4	9／8	コミュニケーションの基礎①	コミュニケーションに必要なことを演習する	CM-01～05, E-2-1／ 必8-ウ-a～e	④
5 6	9／15	あいさつについて	あいさつの重要性を実感し信頼関係の重要性について演習する	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1／ 必8-ウ-a～e	① ② ③
7 8	9／29	エニアグラム－表現・自他の理解の為に－	エニアグラムにより自他のタイプを知り人間関係の構築に役立てる	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1／ 必8-ウ-a～e	① ② ③
9 10	10／6	コミュニケーションの基礎②	コミュニケーションに必要なことを演習する	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1／ 必8-ウ-a～e	④
11 12	10／13	説明力－伝わる話し方－	伝えるではなく伝わる論理的な会話の仕方を学ぶ	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1／ 必8-ウ-a～e	① ② ③
13 14	10／20	医療と敬語について①	医学用語と一般用語の関連	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1／ 必8-ウ-a～e	④
15 16	10／27	グループディスカッション	文章から事実を理解要約し考えや意見を伝える	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1／ 必8-ウ-a～e	① ② ③
17 18	11／10	医療と敬語について②	医学用語と一般用語の関連	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1／ 必8-ウ-a～e	④
19 20	11／17	医療人の恕・態度・傾聴力	痛みに対する歯科医師の態度表現を会得する	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1／ 必8-ウ-a～e	④
21 22	11／24	ビジネスマナー	社会人としてのマナーの基礎を学ぶ	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1／ 必8-ウ-a～e	① ② ③
23 24	12／1	歯科診療とアサーション①	患者の訴えをソフトな言葉で会話する	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1／ 必8-ウ-a～e	④
25 26	12／8	表現・自分を知る	演習を通し，自分の表現を客観視する	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1／ 必8-ウ-a～e	① ② ③
27 28	12／15	歯科診療とアサーション②	患者の訴えをソフトな言葉で会話する	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1／ 必8-ウ-a～e	④
29	12／18	研究倫理	研究者に求められる研究倫理と研究不正防止の試み	E-01, 04／ 必2-エ-a	⑤
30	12／18	試験評価	評価試験を行う	CM-01～05, CS-D-2-1, E-2-1／ 必8-ウ-a～e	① ～ ④

第２学年

教養系教育・基礎科学教育科目

社　　会　　学 …… 91
情報リテラシーⅡ …… 92
英　　語　　Ⅱ …… 93
日 本 語 学 Ⅱ …… 94
物　　理　　学 …… 96
化　　学 …… 97
生物学(分子細胞生物学) …… 99
基礎歯学概論Ⅱ …… 101
歯科医療人間学Ⅱ …… 102

教養系教育・基礎科学教育科目

口 腔 解 剖 学 …… 104
口腔解剖学実習 …… 105
解　　剖　　学 …… 106
解 剖 学 実 習 …… 108
口 腔 組 織 学 …… 109
口腔組織学実習 …… 111
口 腔 生 理 学 Ⅰ …… 112
口腔生理学実習 …… 114
口 腔 生 化 学 Ⅰ …… 115
口腔感染免疫学Ⅰ …… 117
歯 科 薬 理 学 Ⅰ …… 118
生体材料・歯科材料学Ⅰ …… 119
公 衆 衛 生 学 …… 121

社会学（前期・１単位）

D①②A-a1-2102(D2102)

科目責任者：高橋　嘉代（非常勤）
科目担当者：①高橋　嘉代（非常勤）
※この科目は，一般企業勤務経験のある教員が担当する

１．科目の概要

この授業においては，現代社会で発生する社会現象に対する客観的な分析視角を身につけることを目的とする。社会学的な視角と社会学の基礎理論を学ぶことを目標として，社会学の領域において特に議論が深められてきた分野を多角的に取り上げ，本学ディプロマポリシー１の「倫理とコミュニケーション」の実現をめざす。更に，今とこれからの医療・福祉について重要な論点を提示するトピックに関する議論について学び，本講義における学習を通して，本学ディプロマポリシー６「奥羽プロフェッショナリズム」の「超高齢社会の問題と課題を分析し，ニーズを抽出して解決策を立案できる」社会学的な思考力・分析力の獲得をめざす。

２．一般目標

現代社会における様々な課題への関心と分析力を涵養するために，社会学の基礎知識を学び，現代社会の基本的構造，様々な集団・組織の構成原理，人々のつながりに関する今日的な課題について分析・考察できるようになる。

３．到達目標

１）社会学の基礎概念を学び，理解する。
２）社会学の成立過程について学ぶことを通して，近代社会の形成過程についての認識を深める。
３）医療者および生活者として，社会学的な分析力及び考察力を身につける。

４．履修の進め方

授業は講義形式で行う。毎回の授業の際に簡単な課題（所要時間10分程度）を課す。

５．準備学修

講義科目は社会学だが，法学，心理学，文化人類学等の他の社会科学領域との関連は深い。また，授業の内容に関連した各種政府統計（人口動態調査など）についても紹介する予定である。事前の予習はとくに必要はないが，授業中に紹介した事項について学修後に再度確認されたい。

授業内容として紹介した各種統計のソースを確認しておくこと（20分）。

６．評価方法

記述式の定期試験による（100%）。試験時は授業で配布した資料に限り持ち込み可。100点満点中65点以上を合格とする。

７．教本

なし。教員作成の資料を配布する。

８．参考書

なし。

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／8	近代社会の形成と社会学の誕生	近代社会と社会学の形成過程を学ぶ。		①
2	4／15	社会の作りをどう見るか	社会学の基礎理論を学ぶ。		〃
3	4／22	相互行為と自己	相互行為論，自我論，役割論について学ぶ。		〃
4	5／13	社会集団と組織	社会集団と組織についての理論を学ぶ。		①
5	5／20	社会変動と情報化	社会変動の概念と情報社会の定義について学ぶ。		〃
6	5／27	家族の構造と機能	家族類型と家族の機能について学ぶ。		〃
7	6／3	地域社会とその変動	地域社会の構造と変動について学ぶ。		〃
8	6／10	人口と社会	人口とその構造が社会に及ぼす影響を学ぶ。		〃
9	6／17	教育と労働	社会における教育と労働の機能を学ぶ。		〃
10	6／24	社会的役割としての性別	ジェンダー（社会的役割としての性）について学ぶ。		〃
11	7／1	環境と生活	環境と人間との関わり方，社会の持続可能性について学ぶ。		〃
12	7／8	現代社会と災害	社会の「脆弱性」と「回復力」について学ぶ。		〃
13	7／15	社会的格差	社会的格差発生の理論と近年の動向を学ぶ。		〃
14	7／22	社会問題と逸脱	社会問題と逸脱についての理論を学ぶ。		〃
15	7／29	グローバリゼーションとリスク社会	グローバリゼーションの展開と影響を学ぶ。		〃

情報リテラシーⅡ（通年・１単位）

D①②A-b1-2105（D2105）

科目責任者：宇佐美　晶信（解剖・教授）
科目担当者：①宇佐美晶信（解剖），②阿部　匡聡（化学），
③荒木　啓吾（組織），④大木　達也（材料），
⑤大須賀謙二（生理），⑥柴田　達也（薬理），
⑦芹川　雅光（解剖），⑧茂呂祐利子（放射）
※この科目は，主に診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

コンピュータの操作を習熟し，学習にも応用することは必須である。そこで，学生個人がコンピュータを用いて，歯学基礎系科目の問題作成を行う。次に，他の学生が作成した問題のブラッシュアップを行う。最後に教員が選択したブラッシュアップ問題について解説を行い，フィードバックするとともに形成的評価を行う。各科目の内容について講義３回を１つのセッションとして演習を中心とした学習を行う。

２．一般目標

コンピュータを駆使して問題作成，ブラッシュアップを行い，さらに教員からの問題解説を受講することで歯学基礎科目の「知識」をより深く理解する。

３．到達目標

１）各科目の課題に対して的確な問題を作成する。
２）問題を的確に説明する。
３）他学生が作成した問題に対して的確な意見を述べる。
４）学修者は，知識習得のための情報の活用を説明する。
５）学修者は，多肢選択式問題の構成原理を説明する。

４．履修の進め方

コンピュータを用いて，出された課題について学生個人で問題を作成し，その問題に対するブラッシュアップを行う。学生により選択された問題ファイルはポータルサイトの「授業資料」にアップロードする。各セッション最終回で学生により選択されたブラッシュアップ問題に対して教員から解説を行うとともに，教員による更なるブラッシュアップを行った問題により試験を行う。

５．準備学修

問題作成およびブラッシュアップはいずれも講義時間内に行う。各回の授業内容項目について，事前学習として教本の該当部分を読むこと（15分）。選択されたブラッシュアップ問題はポータルサイトの「課題管理」にアップロードするので，事後学習としてすべての課題について確認すること（30分）。

６．評価方法

３コマ毎に１回20点のテストを各期でそれぞれ５回行い，合計が「可（65点）」以上を合格とする。各期それぞれ追・再試験を行う。再試験は上限65点，追試験は上限80点とする。CBT-Medical で正答を開示するので，講義時間内に各自でフィードバックを行う。

７．教本

なし

８．参考書

岩田幸一 他編「基礎歯科生理学」第７版　医歯薬出版　2020
吉垣純子 他編「ビジュアル生理学・口腔生理学」第４版　学建書院　2025
安部仁晴 他著「組織学・口腔組織学」第５版　わかば出版　2024
磯川桂太郎 他著「カラーアトラス　口腔組織発生学」第４版　わかば出版　2016
伊與田正彦 他著「基礎から学ぶ有機化学」朝倉書店　2013
安孫子宣光 他著「スタンダード生化学・口腔生化学」第３版　学建書院　2016
中嶌　裕 他著「スタンダード歯科理工学」第８版　学建書院　2023
井出吉信 編「図説　歯の形態学・実習」第６版　わかば出版　2026
前田健康 他著 「口腔解剖学」第３版　医歯薬出版　2024
鈴木邦明 監修 「現代歯科薬理学」第７版　医歯薬出版　2024

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／10	人体の構造	人体の構造に関する問題作成	A-3-1／必4-ア	①②⑧
2	4／17	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
3	4／24	〃	問題解説	〃	〃
4	5／8	生体分子	生体分子の構造と性質に関する問題作成	A-1-1, A-1-2, A-1-3, A-1-5／必4-ア, 必12-イ	〃
5	5／15	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
6	5／22	〃	問題解説	〃	〃
7	5／29	人体の微細構造	人体の微細構造に関する問題作成	A-1-4-1, A-3-1-1～5／必4-ア, 総Ⅱ-1-ア～ウ, ク	①②③⑧
8	6／5	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
9	6／12	〃	問題解説	〃	〃
10	6／19	人体の生理	人体の機能に関する問題作成	A-3-1, 2, 3／必4-ア, 総Ⅱ1ア-ケ, 6-ア-カ	①②⑤⑧
11	6／26	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
12	7／3	〃	問題解説	〃	〃
13	7／10	歯の形態	歯の形態に関する問題作成	A-3-4／必4-ア, 総Ⅱ-5-ア	①②⑦⑧
14	7／17	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
15	7／24	〃	問題解説	〃	〃
16	9／4	口腔の微細構造	口腔の微細構造に関する問題作成	A-3-3, 4／総Ⅱ-4-オ, 5-イ, 8-イ	①③⑧
17	9／11	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
18	9／18	口腔の微細構造	問題解説	A-3-3, 4／総Ⅱ-4-オ, 5-イ, 8-イ	①③⑧
19	9／25	口腔の生理	口腔の生理に関する問題作成	A-3-1, 2, 3／必4-ア, 総Ⅱ1ア-ケ, 6-ア-カ	①⑤⑧
20	10／2	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
21	10／9	〃	問題解説	〃	〃
22	10／16	頭頚部の構造	頭頚部の構造に関する問題作成	A-3-1, 2／必4-ア, 総Ⅱ-4-ア～キ	①⑦⑧
23	10／23	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
24	10／30	〃	問題解説	〃	〃
25	11／6	薬物の作用と薬物動態	薬物の作用と薬物動態に関する問題作成	A-6-2, 3／必11-コ, 総Ⅷ-8-ア	①⑥⑧
26	11／13	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
27	11／20	〃	問題解説	〃	〃
28	11／27	歯科材料の諸性質	歯科材料の諸性質に関する問題作成	B-1, 2, 3／総Ⅷ-1～7	①④⑧
29	12／4	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
30	12／11	〃	問題解説	〃	〃

英語Ⅱ（通年・1単位）

D①②A-b1-2108（D2108）

科目責任者：長峯　英樹（英語・講師）
科目担当者：①長峯　英樹（英語）
※この科目は，一般企業勤務経験のある教員が担当する

1．科目の概要

本講義の目的は，異なる文化や価値観の多様性を理解できる歯科医師となるために，歯科医療分野における専門用語や頻出語彙表現，文法，そして読解力の基礎を学び，英語で専門知識を吸収できるスキルを習得することである。

2．一般目標

英語の理解スピードと精度，そして発信力を向上させるために不可欠な基礎的な語彙と文法を復習すると同時に，歯科医療分野の英語表現および自分の意見を述べるときに役立つ表現を数多く覚える。

3．到達目標

1）歯科医療英語の基本的な語彙と表現，接頭辞，接尾辞を覚える。
2）基礎文法を復習し，表現方法の細かなニュアンスを理解できるようになる。
3）歯科医療分野の英文を「訳せる」だけで満足せず，英語で知識を「吸収できる」ようになる。

4．履修の進め方

まず，テキストに基づきながら歯科医療分野の専門用語や頻出語彙表現，接頭辞，接尾辞を覚えると同時に，読解力の基礎を学ぶ。次に，医療機関の英語ウェブサイトや記事・レポートを読むことにより実践的な読解力を習得する。

5．準備学修

＜予習＞
①各 Unit の語彙や英文の意味を確認（45分）
②理解できない部分を把握し，講義で確認すべきリストを作成（10分）
＜復習＞
①講義で学んだ語彙や英文の意味を再確認（20分）
②講義で学んだ英文を再度熟読（40分）
＜その他＞
日常的に，映画や雑誌・新聞など，できるだけ多く英語に触れるよう心がけること。

6．評価方法

筆記試験（100％）により評価し，100点満点中65点以上を合格とする。

なお，筆記試験は①前期定期試験，②後期定期試験，③ Review Test（全6回）の合計を平均した点数で評価される。フィードバックは基本的に次回講義時に解説する。

7．教本

影山幾男編著『歯科学生のための医学英語 第2版』学建書院

8．参考書

なし。

9．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／10	1. Dental Terminology	Reading	C-7-1／必12-ウ	①
2	4／17	2. Toothache	Review	C-7-1／必12-ウ	〃
3	4／24		Review (1-2)	C-7-1／必12-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
4	5／8		Review Test (1-2)	C-7-1／必12-ウ	①
5	5／15	3. Severe Dental Anxiety	Reading	C-7-1／必12-ウ	〃
6	5／22	4. Oral Hygiene	Reading	C-7-1／必12-ウ	〃
7	5／29		Review (3-4)	C-7-1／必12-ウ	〃
8	6／5		Review Test (3-4)	C-7-1／必12-ウ	〃
9	6／12	5. Periodontal Disease	Reading	C-7-1／必12-ウ	〃
10	6／19	6. Dental Implants	Reading	C-7-1／必12-ウ	〃
11	6／26		Review (5-6)	C-7-1／必12-ウ	〃
12	7／3		Review Test (5-6)	C-7-1／必12-ウ	〃
13	7／10	7. Cleft Lip	Reading	C-7-1／必12-ウ	〃
14	7／17		Review (7)	C-7-1／必12-ウ	〃
15	7／24		Review (1-7)	C-7-1／必12-ウ	〃
16	9／4	8. Leukoplakia	Reading	C-7-1／必12-ウ	〃
17	9／11	9. Herpes Simplex	Reading	C-7-1／必12-ウ	〃
18	9／18		Review (8-9)	C-7-1／必12-ウ	〃
19	9／25		Review Test (8-9)	C-7-1／必12-ウ	〃
20	10／2	10. The Temporomandibular Joint	Reading	C-7-1／必12-ウ	〃
21	10／9	11. Sialolithiasis	Reading	C-7-1／必12-ウ	〃
22	10／16		Review (10-11)	C-7-1／必12-ウ	〃
23	10／23		Review Test (10-11)	C-7-1／必12-ウ	〃
24	10／30	12. Inferior Alveolar Nerve Block	Reading	C-7-1／必12-ウ	〃
25	11／6	13. Trigeminal Neuralgia	Reading	C-7-1／必12-ウ	〃
26	11／13		Review (12-13)	C-7-1／必12-ウ	〃
27	11／20		Review Test (12-13)	C-7-1／必12-ウ	〃
28	11／27	14. Paranasal Sinusitis	Reading	C-7-1／必12-ウ	〃
29	12／4		Review (14)	C-7-1／必12-ウ	〃
30	12／11		Review (8-14)	C-7-1／必12-ウ	〃

日本語学Ⅱ（前期・１単位）

D②A-a1-2112(D2112)

科目責任者：本多　真史（日本語・准教授）
科目担当者：①本多　真史（日本語）

１．科目の概要

歯科医師免許という「高度な資格」を取得するためには，国家試験への合格が必要不可欠とされている。歯科医師国家試験問題を解く際には，問題を正確に読み，内容をきちんと理解し，自らの考えを整理し，正しく答えられる力が必要になる。

本講義では，歯科医師国家試験問題を解く際に必要とされる「読解力」を培うことを目指す。１年時に習得した内容をもとに，より実践的な読解方法を身につける演習を行う。

２．一般目標

問題を解く際に必要な「筋道を立てる」という基本姿勢，論理的な思考，記号読解などの技能を身につける。また，「問題文を読み，理解し，思考して問題を解く」という一連の行為が円滑にいくような能力を体得させる。加えて，国家試験で要求される「問題を時間内に正確に解く」力をも向上させる。

３．到達目標

１）重要語句等の，問題を解くために必要な基礎的な知識を身につける。
２）論理構造を理解しつつ，問題を正確に読むことができる。
３）問われている内容をきちんと理解することができる。
４）自らの考えを整理し，解答への筋道を立てることができる。
５）客観的に判断し，問題を解決することができる。

４．履修の進め方

１）講義資料をもとに，講義および演習形式で読解力の育成を行う。
２）各自ノートを作り，板書を適宜書き込むことを基本とする。

５．準備学修

講義受講前にシラバスで内容を確認し，それに関する事柄を理解しておくことが望ましい（所要時間30分前後）。また講義受講後は，その内容を復習（所要時間30分前後）し，日頃から自然に実践できるように心がける。

６．評価方法

記述式試験（60%），ワークシート等（13回）の提出状況及びその内容（40%）により評価し，65点以上を合格とする。試験問題は，多肢選択方式と記述式が含まれる。ワークシート等については，評価して個人に返却する。フィードバックは，講義内で適宜行う。

７．教本

指定しない。プリントを配布し，それに沿って進める。

８．参考書

『AI vs 教科書が読めない子どもたち』，『日本語練習帳』，『「ロンリ」の授業』，『「考える技術」と「地頭力」がいっきに身につく東大思考』など

9．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／10	オリエンテーション	練習問題を通して，「なんとなく解く」ことから脱却しよう	PR-04, LL-01, LL-03～05, RE-01･02, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3～C-2-6	①
2	4／17	読解力向上演習（1）	単語に敏感になろう	〃	〃
3	4／24	読解力向上演習（2）	文の構造をしっかりとらえられるようになろう	〃	〃
4	5／8	読解力向上演習（3）	段落と段落の「つながり方」を意識してみよう	〃	〃
5	5／15	読解力向上演習（4）	「印つけ」読解法を確実に身につけよう	〃	〃
6	5／22	読解力向上演習（5）	文章を要約してみよう【要約実践演習①】	〃	〃
7	5／29	読解力向上演習（6）	文章を要約してみよう【要約実践演習②】	〃	〃
8	6／5	読解力向上演習（7）	文章を縮約してみよう【縮約実践演習①】	〃	〃
9	6／12	読解力向上演習（8）	文章を縮約してみよう【縮約実践演習②】	〃	〃
10	6／19	読解力向上演習（9）	きちんとした解答を作成しよう【記述式問題実践演習①】	〃	〃
11	6／26	読解力向上演習(10)	きちんとした解答を作成しよう【記述式問題実践演習②】	〃	〃
12	7／3	読解力向上演習(11)	「論理思考」を駆使し，実践力を高めよう【マーク式問題実践演習①】	〃	〃
13	7／10	読解力向上演習(12)	「論理思考」を駆使し，実践力を高めよう【マーク式問題実践演習②】	〃	〃
14	7／17	読解力向上演習(13)	「論理思考」を駆使し，実践力を高めよう【マーク式問題実践演習③】	PR-04, LL-01, LL-03～05, RE-01･02, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3～C-2-6	①
15	7／24	形成的評価	形成的評価試験を行う	関連範囲	〃

物理学（前期・２単位）

D③A-a2-2302(D2302)

科目責任者：原田　卓哉（物理・教授）
科目担当者：①原田　卓哉（物理）
※この科目は，主に診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

物理学は自然界の最も基本的な現象について記述する学問です。それゆえ歯科医学でも物理学の知識を基にそれを応用している分野が多いです。１年生の物理学の教養科目「基礎物理学」を基に，歯科医学で物理学が応用されていることがらについて歯科の専門的な知識と関係つけながら授業を進めます。基礎物理学で学んだことを復習しながら，具体的には歯科材料学と歯科放射線学への応用事項について発展させます。

歯科材料学では物質の弾性の大きさについての理解が大切になります。国家試験でも歪み・応力曲線に関しての問題が多く出されています。基礎物理学で学んだ原子の構造をもとに，クーロン力についての電磁気学を新たに学んで物質の弾性について理解を深めます。

歯科ではレントゲン写真は言うに及ばず，最近はCTやPETなどの断層写真による診断も使われています。これらの歯科放射線学の技術を安全にまた正しく使う上でやはり原子と原子核の構造や電子と電磁波について思い出すことが必要になります。陽子，中性子，電子，さらには陽電子などの物質の基本的な構成粒子について理解を深め，歯科への応用を知るようにします。これらを通じて，ディプロマポリシーの「知識と診断」の基礎づくりを行います。

２．一般目標

ディプロマポリシー「知識と診断」の基礎づくりとして以下を目標とする。

物理学の基礎的な内容の歯科医学への応用を理解する。

３．到達目標

１）クーロンの法則で表される原子核と電子の静電気力の効果を理解する。
２）電磁波の発生と物質との相互作用を説明する。
３）物質の弾性を分子・原子間力で説明する。
４）陽子，中性子，電子という基本粒子の存在を説明し，放射線との相互作用を理解する。

４．履修の進め方

プロジェクターを用いた解説と板書による解説を適宜組み合わせて進める。授業で用いる講義スライドはすべてユニバーサル・パスポート上で公開する。

５．準備学修

・前回の講義内容を復習する（60分）。
・次回の講義スライドを予習する（60分）。

６．評価方法

定期試験において65点以上取得した者を合格とする。65点未満の者に対して，願い出に応じて再試験を行う。再試験は65点満点とする。

疾病その他やむを得ない理由により定期試験を欠席した者に対して，願い出に応じて追試験を行う。やむを得ない理由であったことを鑑み，追試験は定期試験と同じ規準で評価する。

講義や試験に関する連絡事項，およびフィードバックはすべてユニバーサル・パスポート上で行う。

７．教本

なし

８．参考書

・シップマン自然科学入門　新物理学，J. T. シップマン，学術図書出版
・医療系のための物理学入門，木下順二，講談社
・医歯系の物理学，赤野松太郎・鮎川武二・藤城敏幸・村田治，東京教学社

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／7	ガイダンス	科目の内容を歯科との関係で説明する。	A-1-1, B-1-1, D-2-5／必12-イ	①
2	4／7		科目の内容を歯科との関係で説明する。	A-1-1, B-1-1, D-2-5／必12-イ	〃
3	4／14	応力と歪み	内力	A-1-1, B-1-1, D-2-5／必12-イ	〃
4	4／14		外力	A-1-1, B-1-1, D-2-5／必12-イ	〃
5	4／21		応力と歪み	A-1-1, B-1-1, D-2-5／必12-イ	〃
6	4／21		歪みエネルギー	A-1-1, B-1-1, D-2-5／必12-イ	〃
7	4／28		粘弾性	A-1-1, B-1-1, D-2-5／必12-イ	〃
8	4／28		応力緩和とクリープ	A-1-1, B-1-1, D-2-5／必12-イ	〃
9	5／12		せん断荷重	A-1-1, B-1-1, D-2-5／必12-イ	〃
10	5／12		ねじり荷重	A-1-1, B-1-1, D-2-5／必12-イ	〃
11	5／19		曲げ荷重と応力	A-1-1, B-1-1, D-2-5／必12-イ	〃
12	5／19		棒のたわみ及び座屈	A-1-1, B-1-1, D-2-5／必12-イ	〃
13	5／26	熱力学	熱膨張	A-1-1, B-1-1, D-2-5／必12-イ	〃
14	5／26		熱応力	A-1-1, B-1-1, D-2-5／必12-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
15	6／2		問題演習	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	①
16	6／2	放射能と放射線	放射性核種	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	②
17	6／9		放射能の種類と原因	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
18	6／9		放射能の強さと半減期	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
19	6／16		人工放射能の社会影響，医学応用	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
20	6／16	原子の構造	原子模型	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
21	6／23		電子配置と周期表	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
22	6／23		電磁波と光量子	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
23	6／30		X 線管	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
24	6／30		光電効果とコンプトン散乱	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
25	7／7		放射線被曝	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
26	7／7		放射線被曝	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
27	7／14		MRI と PET	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
28	7／14		問題演習	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
29	7／21		問題演習	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃
30	7／21		まとめ	A-1-1, B-1-1, D-2-5／ 必12-イ	〃

化学（前期・２単位）

D③A-a2-2305（D2305）

科目責任者：阿部　匡聡（化学・講師）
科目担当者：①阿部　匡聡（化学）

１．科目の概要

生体内で働く物質や，私たちの身近にある物質（燃料，塗料，プラスチック製品，衣類，食品，医薬品など）には，多くの有機化合物が存在している。さらに，歯科医学で用いられる，抗炎症薬・鎮痛薬・抗菌薬・麻酔薬などの薬物の大部分は有機化合物であり，印象剤や歯冠用硬質レジンなどの歯科材料にも有機高分子化合物が利用されている。代謝過程での種々の生体反応も，基本的な有機化合物の反応と根本的な機構は同じであり，有機化学の知識・概念は，生命現象の分子機構的理解，歯科医学関連薬物・材料の構造・性質の理解に不可欠である。本科目では，基本的な有機化合物の構造・性質・合成・反応について解説する。本科目の履修を通じ，生命現象や，物質の変化を，分子機構的に探究する志向性を抱いてほしい。

２．一般目標

学修者は，ディプロマポリシー③病態解析と治療概念のため，基本的な有機化合物の構造・性質・反応についての知識・概念を習得する。

３．到達目標

1）学修者は，官能基の種類により化合物を分類し，各化合物の性質・反応を説明できる。
2）学修者は，異性体について説明し，構造式で示すことができる。
3）学修者は，誘起効果と共鳴効果について説明できる。
4）学修者は，置換反応，付加反応，脱離反応，転位反応を説明し，反応式を記述できる。
5）学修者は，反応の進行過程における求核剤と求電子剤の働きを説明できる。
6）学修者は，芳香族化合物の性質・反応について，脂肪族化合物との違いを示し，説明できる。

４．履修の進め方

教科書の内容編成に沿い，主に板書により講義する。ミニマムリクワイアメントを口頭試問で確認しながら進める。レポートにより，形成的評価を行う。適宜，プリントを用いた問題演習を導入する。

５．準備学修

１年次で履修する基礎化学の内容を修得しておくことが望ましい。本科目の内容は，歯科基礎医学，歯科基礎病態治療学区分に関連し，特に，口腔生化学Ⅰ，Ⅱ，歯科薬理学Ⅰ，Ⅱ，生体材料・歯科材料学Ⅰ，Ⅱの履修に役立つ。

事前学習（10分）：教科書の当該箇所を読んでおく。
事後学習（30分）：教科書やノートを読み返し，学習内容の理解を深め，知識・概念を覚えるよう努める。内容を理解し覚える上で，構造式や反応式を書いてみることが特に有効である。

６．評価・フィードバックの方法

中間試験（６月中旬）と定期試験を，いずれも多肢選択方式問題（50％），記述式問題（50％）で実施する。中間試験（45点）と定期試験（55点）による評価（合計100点満点）を科目成績とし，65点以上で合格とする。

レポート，試験については，解説資料をユニバーサルパスポートに掲示し，フィードバックを行う。

７．教本

伊與田正彦 他著「基礎から学ぶ有機化学」 朝倉書店

2013年

8．参考書

中川徹夫著「化学の基礎　－元素記号からおさらいする化学の基本－」 化学同人　2010年

9．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／8	原子の構造と電子配置	原子の構造；電子配置；価電子	A-1-1／必4-ア，必12-イ	①
2	4／8	共有結合と分子の形成	共有結合；混成軌道	A-1-1／必4-ア，必12-イ	〃
3	4／15	有機分子の形と構造異性体	構造式；官能基；構造異性体	A-1-1／必4-ア，必12-イ	〃
4	4／15	立体異性体	不斉炭素と光学異性体；アミノ酸・糖の構造；cis-trans 異性体	A-1-1，A-1-2／必4-ア，必12-イ	〃
5	4／22	分子の中の電子の偏りと非局在化１	結合の分極；結合の開裂と電子の流れ	A-1-1／必4-ア，必12-イ	〃
6	4／22	分子の中の電子の偏りと非局在化２	形式電荷；誘起効果と共鳴効果；共鳴安定化と芳香族性	A-1-1／必4-ア，必12-イ	〃
7	5／13	分子間力	ファンデルワールス力；双極子－双極子相互作用；水素結合	A-1-1／必4-ア，必12-イ	〃
8	5／13	アルカン	アルカンの構造・性質・反応	A-1-1／必4-ア，必12-イ	〃
9	5／20	アルケンとアルキン１	アルケンとアルキンの構造・性質；アルケンの合成	A-1-1／必4-ア，必12-イ	〃
10	5／20	アルケンとアルキン２	アルケンの反応	A-1-1／必4-ア，必12-イ	〃
11	5／27	アルケンとアルキン３	アルキンの合成・反応	A-1-1／必4-ア，必12-イ	〃
12	5／27	ハロゲン化アルキル１	ハロゲン化アルキルの構造・性質・合成	A-1-1／必4-ア，必12-イ	〃
13	6／3	ハロゲン化アルキル２	ハロゲン化アルキルの求核置換反応・脱離反応	A-1-1／必4-ア，必12-イ	〃
14	6／3	アルコールとエーテル１	アルコールの構造・性質・合成	A-1-1／必4-ア，必12-イ	〃
15	6／10	アルコールとエーテル２	アルコールの反応	A-1-1／必4-ア，必12-イ	〃
16	6／10	アルコールとエーテル３	エーテルの構造・性質・合成・反応	A-1-1／必4-ア，必12-イ	①
17	6／17	ベンゼンと芳香族炭化水素１	ベンゼンの構造；アルケンとベンゼンの反応性の違い	A-1-1／必4-ア，必12-イ	〃
18	6／17	ベンゼンと芳香族炭化水素２	芳香族化合物とヒュッケル則；芳香族求電子置換反応	A-1-1／必4-ア，必12-イ	〃
19	6／24	ベンゼンと芳香族炭化水素３	求電子置換反応における配向効果と活性化効果	A-1-1／必4-ア，必12-イ	〃
20	6／24	置換ベンゼン類の合成と反応１	フェノールの性質・合成；フェノール類，ハロゲン化アリールの反応	A-1-1／必4-ア，必12-イ，総Ⅶ-8-ウ	〃
21	7／1	置換ベンゼン類の合成と反応２	アニリンの反応；ジアゾニウム塩の合成と反応	A-1-1／必4-ア，必12-イ	〃
22	7／1	カルボニル化合物１	カルボニル化合物の構造・性質・合成	A-1-1／必4-ア，必12-イ	〃
23	7／8	カルボニル化合物２	カルボニル化合物の求核付加反応，酸化還元	A-1-1／必4-ア，必12-イ	〃
24	7／8	カルボニル化合物３	エノールおよびエノラートイオンの反応；アルドール縮合	A-1-1／必4-ア，必12-イ	〃
25	7／15	カルボン酸	カルボン酸の構造・性質・合成；弱酸の解離定数；酸塩基平衡	A-1-1，A-1-2／必4-ア，必12-イ	〃
26	7／15	カルボン酸誘導体１	エステル，カルボン酸塩化物の合成・反応	A-1-1，A-1-2／必4-ア，必12-イ	〃
27	7／22	カルボン酸誘導体２	カルボン酸無水物，アミド，ニトリルの合成・反応	A-1-1，A-1-2／必4-ア，必12-イ	〃
28	7／22	アミン１	アミンの構造・性質・合成；局所麻酔薬とアミン	A-1-1／必4-ア，必11-カ，必12-イ	〃
29	7／29	アミン２	アミンの反応	A-1-1／必4-ア，必12-イ	〃
30	7／29	高分子	高分子化合物の分類；歯科材料と高分子；重合反応	A-1-1，B-1-2／総Ⅷ-1	〃

生物学（分子細胞生物学）
（前期・２単位）

D③A-a2-2308（D2308）

科目責任者：加藤　靖正（生化・教授）
科目担当者：①加藤　靖正（生化）

１．科目の概要

本科目では，動物細胞を対象とした生物の成り立ちおよび生体恒常性について分子および細胞単位で学修する。分子細胞生物学は，細胞生物学，分子生物学，生化学の３領域で構成されている。

２．一般目標

遺伝情報の流れ，細胞を構成する器官，組織を構成する物質，物質代謝とエネルギー代謝について，細胞単位あるいは分子レベルで理解することを目標とする。細胞や細胞小器官までは，光学顕微鏡像として得られるが，分子レベルになると見ることはできない領域となるので，文章で説明されている物質代謝や反応のメカニズムなどを各自がイメージできるようになることを目標とする。

３．到達目標

1）生体を構成している主な物質の分子構造と機能，生体恒常性について説明できる。
2）遺伝情報の保存と発現について説明できる。
3）遺伝子産物の機能を説明できる。
4）遺伝情報の変化や物質代謝の変化による疾病発症や発症予防の代表例について説明できる。
5）教科書を読んで理解できる。
6）模式図を理解，または，模式図を作図できる（イメージトレーニング）。

４．履修の進め方

予　習：教科書（該当箇所のページ）を読み，講義内容の概略を把握するとともに疑問点を見出しておく。
講　義：予習内容の確認と知識の整理を行う。また，予習中に見出された疑問点を解決する。講義は教科書を読み込み，重要なポイントを解説する。各自が購入した教科書の図やオリジナル資料について，解説の都合上，ユニバーサルパスポート上にアップロードし，スライド投影するが，別途印刷・配布はしないので，各自でノートに重要事項について確実にメモを取ることが肝要である。復習時に書き込めるように余白を設定するなど，工夫する。なお，ユニバーサルパスポート上にアップロードした資料は，絶対に第三者に配布してはならない。
復　習：学修内容を整理するとともに，事前に生じた疑問点について解決したかを確認する。
その他：新たに生じた疑問点などについては，教科書の利用や教員への質問等により早期に克服する。

５．準備学修

本学部は高校で生物を選択しなくても入学できるが，生化学，生理学，組織学，薬理学を学ぶ上で高校生物の基礎知識は必須である。本科目では，高校生物の範囲の復習も含めて講義するが，生物未履修者だけでなく苦手意識のある諸氏においては，高校生物の教科書を一読するなど一層の自学自習が必要である。授業内容には教科書の該当ページが記載してあるので，受講前に該当箇所を読み，予め疑問点を見出しておく必要がある（15分）。復習（20分）。１回の講義（60分）を欠席し，自学自習で補うには何倍もの時間を要すので，欠席した場合は一層の工夫と努力が必要であることを忘れないでほしい。質問は，休み時間を利用するだけでなく，メールにて問い合わせが可能です。また，LINE 希望者は別途招待してください（こちらから招待することはありません）。

６．評価方法

定期試験（多肢選択形式，100点満点）で65点以上を合格とする。追・再試験は，65点以上を合格とする。再試験の評価は，65点以上を65点とし，追試験の評価は，90点以上を90点とする。追再試験後に別途適宜試験は実施しない。

７．教本

生物・生化学・分子生物学　第２版（南山堂），スタンダード生化学・口腔生化学　第４版（学研書院）。講義で使用するため，持参のこと。下記の授業内容に記載のページ数の表記は，南山堂：㊟ xx-xx，学研書院：㋹ xxx-xxx である。

８．参考書

口腔生化学　第６版（医歯薬出版）

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／8	イントロダクション	学ぶ意義と範囲・コアカリと国試出題基準における位置づけ 生物多様性条約，名古屋議定書		①
2	4／8	細胞生物学（Ⅰ）	生物の最小単位・細胞膜・細胞小器官の種類と役割（㊟3-19；㋹132-134）	A-1-4／必4-ア	〃
3	4／15	細胞生物学（Ⅱ）	膜タンパク質・細胞骨格・細胞の接着・細胞の生存と極性（㊟25-27，㋹147-148，196-197）	A-1-4／必4-ア	〃
4	4／15	細胞生物学（Ⅲ）	物質の取り込みと排出・細胞内消化（㊟24-25；㋹135-137，144-146）	A-1-4／必4-ア	〃
5	4／22	細胞生物学（Ⅳ）	結合組織の位置づけ・構成成分と役割①（㊟39-40；㋹178-189）	A-1-4／必4-ア	〃
6	4／22	細胞生物学（Ⅴ）	結合組織の構成成分と役割②（㊟41；㋹190-201）	A-1-5／必4-ア	〃
7	5／13	細胞生物学（Ⅵ）	血液・骨・軟骨（㊟41-45；㋹202-219，344-347）	A-1-5，A-3-1-2／必4-ア	〃
8	5／13	細胞生物学（Ⅶ）	主なホルモン／サイトカインの種類とその受容体，機能（㊟22-23，176-189；㋹156-177）	A-1-5／必4-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
9	5／20	細胞生物学（Ⅷ）	細胞膜受容体と細胞内受容体・細胞内シグナル伝達①（㊓22-24；㊔160-161, 164-166, 174-175）	A-1-5／必4-ア	①
10	5／20	細胞生物学（Ⅸ）	細胞内シグナル伝達②（㊓22-24；㊔160-161, 164-166, 174-175）	A-1-5／必4-ア	〃
11	5／27	分子生物学（Ⅰ）	細胞周期とその調節機構・がん遺伝子・がん抑制遺伝子①（㊓19-22；㊔138-140, 318-321）	A-1-4／必4-ア	〃
12	5／27	分子生物学（Ⅱ）	細胞周期とその調節機構・がん遺伝子・がん抑制遺伝子②（㊓19-22；㊔316-321）	A-1-4／必4-ア	〃
13	6／3	分子生物学（Ⅲ）	遺伝子・DNAの構造（㊓167-171, 205-220；㊔102-109）	A-1-3／必4-ア	〃
14	6／3	分子生物学（Ⅳ）	DNAの複製（㊓227-232；㊔104-105）	A-1-3／必4-ア	〃
15	6／10	分子生物学（Ⅴ）	テロメアの短縮・細胞老化（㊓229-232；㊔348-349）	A-1-4／必4-ア	〃
16	6／10	分子生物学（Ⅵ）	細胞死（㊓272-273；㊔142-143）	A-1-4／必4-ア	〃
17	6／17	分子生物学（Ⅶ）	変異と修復（㊓277, 260-268；㊔118-119, 124-125, 318-321）	A-1-3／必4-ア	〃
18	6／17	分子生物学（Ⅷ）	RNAの種類と機能（㊓；㊔30-31, 114-115）	A-1-3／必4-ア	〃
19	6／24	分子生物学（Ⅸ）	遺伝子発現・タンパク質合成（㊓237-238, 259；㊔106-117）	A-1-3／必4-ア	〃
20	6／24	分子生物学（Ⅹ）	遺伝子組み換え，Genetics と Epigenetics・遺伝・メンデルの法則（㊓46-56；㊔116-129）	A-1-3／必4-ア	①
21	7／1	生化学（Ⅰ）	糖の分類（㊓96-105, 105-112；㊔12-17）	A-1-2／必4-ア	〃
22	7／1	生化学（Ⅱ）	糖代謝・呼吸（㊓112-127；㊔56-62, 98-101）	A-1-2／必4-ア	〃
23	7／8	生化学（Ⅲ）	糖新生（㊓112-119；㊔62-65）	A-1-2／必4-ア	〃
24	7／8	生化学（Ⅳ）	脂質の分類（㊓128-136；㊔18-23）	A-1-2／必4-ア	〃
25	7／15	生化学（Ⅴ）	脂質代謝（㊓136-143；㊔74-92）	A-1-2／必4-ア	〃
26	7／15	生化学（Ⅵ）	リポタンパク質（㊓144-147；㊔74-77）	A-1-2／必4-ア	〃
27	7／22	生化学（Ⅶ）	ヌクレオチド（㊓167-170；㊔30-31, 93-95）	A-1-2／必4-ア	〃
28	7／22	生化学（Ⅷ）	アミノ酸の分類と代謝・ポルフィリン代謝（㊓148-166, 171-175；㊔24-29, 343）	A-1-2／必4-ア	〃
29	7／29	生化学（Ⅷ）	ビタミンと酵素（㊓82-95, 187；㊔49-55）	A-1-2／必4-ア	〃
30	7／29	生化学（Ⅸ）	酵素反応速度論（㊓84-87；㊔38-45）	A-1-2／必4-ア	〃

基礎歯学概論Ⅱ（前期・２単位）

D②A-a2-2206（D2206）

科目責任者：遊佐　淳子（病理・教授）

科目担当者：①遊佐　淳子（病理），②小林美智代（衛生），
③柴田　達也（薬理），④山﨑　幹子（非常勤），
⑤石田　喜紀（材料），⑥加藤　靖正（生化），
⑦神林　直大（生化）

※この科目は，主に診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

歯科医師として身につけなければならない知識を習得する上で，専門基礎科目は特に重要となる。その中で，２年時の後期から３年時の履修科目となる専門基礎科目を中心に，履修前に予備知識として知っておくべき概論や要点について早期に学習し，理解することを目標としており，ディプロマポリシー（３）に関連する。

２．一般目標

ディプロマ・ポリシー（３）の病態を解析するための基礎となる第２学年時の後期から第３学年時の履修科目である専門基礎科目を中心に，その知識を習得する。

３．到達目標

１）生体を構成する成分と機能を説明できる。
２）歯と歯周組織の疾患の病因と病態を説明できる。
３）健康の保持・増進の方策を説明できる。
４）社会保障の概要を理解する。
５）地域保健における歯科医師の役割を説明できる。
６）疫学と調査について概念を説明できる。
７）歯科材料，診療用機械について基本的な事項を説明できる。
８）食品衛生と栄養摂取基準を説明できる。
９）薬理作用の分類，薬物療法の種類，医薬品の開発と薬害を説明できる。

４．履修の進め方

講義主体でスライド，プリント，板書で適宜進める。ノートをとり，プリントに追記する。

５．準備学修

講義担当者から配布される資料や，図書館の資料を用いる。

新聞やTVニュースなどから保健・医療・福祉に関する社会の流れを把握すること（事前学習15分）。加えて，講義受講後に，その内容を復習すること（事後学習30分）。

６．評価方法

多肢選択方式問題による定期試験（100％）で評価し，65点以上を合格とする。再試験は65点未満の不合格者に実施する。再試験は上限65点，追試験は上限90点とする。定期試験のフィードバックは，答案を開示して適宜行う。

７．教本

講義担当者から配布される資料を用いる。口腔衛生学概論ではスタンダード衛生・公衆衛生，口腔生化学概論ではスタンダード生化学口腔生化学を持参のこと。

８．参考書

田村隆明著「生物・生化学・分子生物学　第２版」南山堂 2018年

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／10	口腔病理学概論①	病理組織検査	D-2-6-1／総Ⅳ-3-ア	①
2	4／10	口腔病理学概論②	齲蝕	D-3-2-1／総Ⅲ-2-ア	〃
3	4／17	公衆衛生学概論①	公衆衛生学序論 社会変化と健康	C-5-1, 2, 3／総１-ア～オ	②
4	4／17	公衆衛生学概論②	疾病構造と健康問題 国際保健協力	C-5-1, 2, 3／総１-ア～オ	〃
5	4／24	公衆衛生学概論③	健康の保持増進 健康増進法 健康日本21（第三次） 歯科口腔保健の推進に関する法律	C-5-1, 2, 3／必3-イ，総１-ア～オ	〃
6	4／24	公衆衛生学概論④	統計学の基礎-１	C-6-1，C-6-2／必9-ウ，総Ⅰ-6-ア	〃
7	5／8	公衆衛生学概論⑤	統計学の基礎-２	C-6-1，C-6-2／必9-ウ，総Ⅰ-6-ア	〃
8	5／8	公衆衛生学概論⑥	統計学の基礎-３	C-6-1，C-6-2／必9-ウ，総Ⅰ-6-ア	〃
9	5／15	口腔病理学概論③	歯周病１	D-3-2-3／総Ⅲ-2-ア	④
10	5／15	口腔病理学概論④	歯周病２	D-3-2-3／総Ⅲ-2-ア	〃
11	5／22	歯科薬理学概論①	薬物と医薬品１	A-6-2-1／必11-コ	③
12	5／22	歯科薬理学概論②	薬物と医薬品２	A-6-1-1／必2-イ	〃
13	5／29	歯科薬理学概論③	薬理作用の分類	A-6-2-1／必11-コ	〃
14	5／29	歯科薬理学概論④	薬物療法の種類	A-6-2-1／必11-コ	〃
15	6／5	公衆衛生学概論⑦	食生活と健康-１	E-5-2／総Ⅰ-8-ア，イ	②
16	6／5	公衆衛生学概論⑧	食生活と健康-２	E-5-2／総Ⅰ-8-ア，イ	〃
17	6／12	生体材料学概論①	歯科修復用材料（１）	B-1, 2, 3／総Ⅷ-1～11	⑤
18	6／12	生体材料学概論②	歯科修復用材料（２）	B-1, 2, 3／総Ⅷ-1～11	〃
19	6／19	生体材料学概論③	歯科修復用材料（３）	B-1, 2, 3／総Ⅷ-1～11	〃
20	6／19	生体材料学概論④	歯科修復用材料（４）	B-1, 2, 3／総Ⅷ-1～11	〃
21	6／26	生体材料学概論⑤	歯科修復用材料（５）	B-1, 2, 3／総Ⅷ-1～11	〃
22	6／26	生体材料学概論⑥	歯科修復用材料（６）	B-1, 2, 3／総Ⅷ-1～11	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
23	7／3	口腔生化学概論①	アミノ酸基本構造・アミノ酸残基の修飾アミノ酸代謝	A-1-2／必4-ア	⑥⑦
24	7／3	口腔生化学概論②	タンパク質の基本構造・フォールディング，翻訳	A-1-2／必4-ア	〃
25	7／10	口腔生化学概論③	ビタミンの種類，機能，欠乏症	A-1-2／総Ⅷ-8-ウ	〃
26	7／10	口腔生化学概論④	補酵素とその役割	A-1-2／必4-ア	〃
27	7／17	口腔生化学概論⑤	栄養素の相互変換とエネルギー代謝①	A-1-2／必4-ア	〃
28	7／17	口腔生化学概論⑥	栄養素の相互変換とエネルギー代謝②	A-1-2-8／必4-ア	〃
29	7／24	口腔生化学概論⑦	酵素反応速度論Ⅰ：ミカエリスメンテンの式	A-1-2／必4-ア	〃
30	7／24	口腔生化学概論⑧	酵素反応速度論Ⅱ：アロステリック酵・酵素反応阻害様式	A-1-2／必4-ア	〃

歯科医療人間学Ⅱ（前期・1単位）

D①A-a1-2402（D2402）

科目責任者：中川　敏浩（衛生・准教授）
科目担当者：①中川　敏浩（衛生），②吉田いくよ（非常勤），③鈴木　俊子（非常勤），④本多　真史（日本語）
※この科目は，診療経験のある歯科医師及び一般企業勤務経験のある教員が担当する

1．科目の概要

歯科医療人間学（Dental Practice Human Science）は，本学歯学部の目的である「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師の養成」を実践する学問であり，高度専門職業人（プロフェッショナル）としての歯科医師である前に社会人としての素養，教養および社会適応能力を高揚し，自らのホスピタリティマインドに加えて，患者中心の医療を全人的に捉えるため，身体面，心理面，社会面，倫理面の各要素を総合的かつ包括的に理解し，「歯科医療の安全・安心・信頼の文化」を醸成することにある。

2．一般目標

人間性豊かな優れた歯科医師となるために，大学で学ぶ目的を明確化し，歯学医療現場にふれ，基本的なコミュニケーションや日常習慣の重要性を認識する態度，知識および技能を修得する。

3．到達目標

1）医療人として謙虚な態度と傾聴力を養う。
2）患者の訴えを正確に聞き取る。
3）平易な言葉で順序立てて説明する。
4）医療現場で必要な言葉でコミュニケートする。

4．履修の進め方

グループワークおよびペアによる Active Learning を行う。授業形態はプリントを配布し，レポート提出形式をとることもあるので受動的な学習でなく，必ず参加が義務づけられる能動的学習である。

5．準備学修

予　習：シラバスで内容を確認する。また，人と接する時は状況を把握し，意識をして対応することを日頃から心がける（30分）。
復　習：プリント学習や実演したことを自然に実践できるように日々訓練をする。

6．評価方法

態度教育（パフォーマンス学）の評価方法としてビデオ撮影を実施し，基準点（60点），言語表現（15点），非言語表現（15点），全体印象（10点）の100点満点で評価する。コミュニケーション技能の評価方法として記述式試験を実施し，100点満点で評価する。両者の平均値で65点以上を合格とする。

7．教本

なし。

8．参考書

なし。

9．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／8	2－A 歯科医療とホスピタリティ	医療の基本を考える	PR／必-1-ア-a	①
〃	〃	2－B 歯科医療とホスピタリティ	医療の基本を考える	PR／必-1-ア-a	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
2	4／15	2－A 医療人とアサーション①	医療コミュニケーションの進行の仕方	CS／ 必-8-ウ-C	④
〃	〃	2－B 聞き手の基本的な態度①	傾聴力とホスピタリティ能力	CM／ 必-8-ウ-C	① ② ③
3	4／22	2－A 医療人とアサーション②	医療コミュニケーションの進行の仕方	CS／ 必-8-ウ-C	⑤
〃	〃	2－B 聞き手の基本的な態度②	傾聴力とホスピタリティ能力	CM／ 必-8-ウ-C	① ② ③
4	5／13	2－A 聞き手の基本的な態度①	傾聴力とホスピタリティ能力	CM／ 必-8-ウ-C	〃
〃	〃	2－B 医療人とアサーション①	医療コミュニケーションの進行の仕方	CS／ 必-8-ウ-C	④
5	5／20	2－A 聞き手の基本的な態度②	傾聴力とホスピタリティ能力	CM／ 必-8-ウ-C	① ② ③
〃	〃	2－B 医療人とアサーション②	医療コミュニケーションの進行の仕方	CS／ 必-8-ウ-C	④
6	5／27	2－A 表現・自分自身を知るⅡ－1①	自分の表現の仕方基礎	CM／ 必-8-ウ-C	① ② ③
〃	〃	2－B 医療面接と傾聴力①	好感度，信頼度を上げる会話とは？	E-2-1-1／ 必-8-ウ-C	④
7	6／3	2－A 表現・自分自身を知るⅡ－1②	自分の表現の仕方基礎	CM／ 必-8-ウ-C	① ② ③
〃	〃	2－B 医療面接と傾聴力②	好感度，信頼度を上げる会話とは？	E-2-1-1／ 必-8-ウ-C	④
8	6／10	2－A 医療面接と傾聴力①	好感度，信頼度を上げる会話とは？	E-2-1-1／ 必-8-ウ-C	〃
〃	〃	2－B 表現・自分自身を知るⅡ－1①	自分の表現の仕方基礎	CM／ 必-8-ウ-C	① ② ③
9	6／17	2－A 医療面接と傾聴力②	好感度，信頼度を上げる会話とは？	E-2-1-1／ 必-8-ウ-C	④
〃	〃	2－B 表現・自分自身を知るⅡ－1②	自分の表現の仕方基礎	CM／ 必-8-ウ-C	① ② ③
10	6／24	2－A 表現・自分自身を知るⅡ－2①	自分の表現の仕方実践	CM／ 必-8-ウ-C	〃
〃	〃	2－B 医療面接の実践トレーニング①	話す・傾聴・状況判断・クレーム処理 ＜グループワーク＞	E-2-1-1／ 必-8-ウ-C	④
11	7／1	2－A 表現・自分自身を知るⅡ－2②	自分の表現の仕方実践	CM／ 必-8-ウ-C	① ② ③
〃	〃	2－B 医療面接の実践トレーニング②	話す・傾聴・状況判断・クレーム処理 ＜グループワーク＞	E-2-1-1／ 必-8-ウ-C	④
12	7／8	2－A 医療面接の実践トレーニング①	話す・傾聴・状況判断・クレーム処理 ＜グループワーク＞	E-2-1-1／ 必-8-ウ-C	〃
〃	〃	2－B 表現・自分自身を知るⅡ－2①	自分の表現の仕方実践	CM／ 必-8-ウ-C	① ② ③
13	7／15	2－A 医療面接の実践トレーニング②	話す・傾聴・状況判断・クレーム処理 ＜グループワーク＞	E-2-1-1／ 必-8-ウ-C	④
〃	〃	2－B 表現・自分自身を知るⅡ－2②	自分の表現の仕方実践	CM／ 必-8-ウ-C	① ② ③
14	7／22	形成的評価	形成的評価実技試験 （撮影）	C-3-1／ 必-2-カ-f	① ～ ④
15	7／29	形成的評価	形成的評価試験（記述式）	C-3-1／ 必-2-カ-	〃

口腔解剖学（通年・３単位）

D③B-a3-2503（D2503）

科目責任者：宇佐美晶信（解剖・教授）
科目担当者：①宇佐美晶信（解剖），②芹川　雅光（解剖），
③櫻井　裕子（解剖）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

臨床歯科医学を学修するのに先立ち，歯および口腔領域の正常な形態と構造について講義で学ぶ。

２．一般目標

歯科医学を学修していくために必要な歯や口腔周囲の構造についての「知識」を身に付けるために，ヒトの歯および口腔領域の正常な形態と構造について理解する。

３．到達目標

１）永久歯，乳歯の形態を説明する。
２）歯列・咬合について説明する。
３）口腔領域の筋・神経・脈管について説明する。
４）口腔内臓について説明する。
５）顎関節の構造と機能について説明する。

４．履修の進め方

プリントを用いた講義を行う。前回講義内容を CBT-Medical による小テストで形成的評価を行いながら講義を進めていく。これにより学修するすべての項目についての理解を確実なものとして，項目間の関連について理解できることを目標とする。

５．準備学修

講義プリントを事前に確認しておくとともに（15分），小テストのために前回講義内容の復習をしておく（30分）。

６．評価方法

多肢選択問題（MCQ）形式の定期試験（90％）と講義時間内で行う CBT-Medical による前回講義内容の試験（10％）の平均が「可（65点）」以上を合格とする。再試験は上限65点，追試験は上限80点で採点する。フィードバックは解答を開示して適宜行う。

７．教本

井出吉信 編「図説　歯の形態学・実習」第６版　わかば出版　2026

８．参考書

松村譲児ら編 著「イラスト顎顔面解剖学」中外医学社

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／9	口腔解剖学総論１	口腔解剖学とは	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	①
2	4／9	口腔解剖学総論２	歯の種類，歯列，歯式と方向用語	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	〃
3	4／16	永久歯の形態①	切歯の形態	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	〃
4	4／16	永久歯の形態②	スケッチ方法論	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	〃
5	4／23	永久歯の形態③	犬歯の形態	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	〃
6	4／23	永久歯の形態④	歯の彫刻の実際	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	〃
7	5／7	永久歯の形態⑤	上顎小臼歯の形態	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	③
8	5／7	永久歯の形態⑥	下顎小臼歯の形態	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	〃
9	5／14	永久歯の形態⑦	上顎第一大臼歯の形態	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	③
10	5／14	永久歯の形態⑧	上顎第二大臼歯の形態	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	〃
11	5／21	永久歯の形態⑨	下顎第一大臼歯の形態	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	〃
12	5／21	永久歯の形態⑩	下顎第二大臼歯の形態	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	〃
13	5／27	慰霊式説明	慰霊式説明，死体解剖保存法	C-1-1)／必1-ア	①
14	5／27	慰霊式	慰霊式	A-3-4／必1-ア	〃
15	6／4	永久歯の形態⑪	永久歯のまとめ	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	〃
16	6／4	乳歯の形態①	乳歯総論	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	②
17	6／11	乳歯の形態②	乳歯の形態１	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	〃
18	6／11	乳歯の形態③	乳歯の形態２歯齢	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	〃
19	6／18	歯の形態異常	歯の形態異常	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	〃
20	6／18	歯列，咬合	歯列，咬合	A-3-3／総Ⅱ-5-ア	〃
21	6／25	乳歯の形態④	乳歯のまとめ	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	〃
22	6／25	臨床と口腔解剖	臨床からみた口腔解剖	A-3-3／総Ⅱ-5-ア	①
23	7／2	神経学①	神経学総論	A-3-1／必5-ア	②
24	7／2	神経学②	中枢神経１・総論	A-3-1／必4-ア	〃
25	7／9	神経学③	中枢神経２・大脳	A-3-1／必4-ア	〃
26	7／9	口腔の解剖①	口腔内臓総論	A-3-3／総Ⅱ-4-ア	①
27	7／16	神経学④	中枢神経３・脳幹，小脳	A-3-1／必4-ア	②
28	7／16	口腔の解剖②	口蓋，口峡，喉頭	A-3-3／総Ⅱ-4-オ	①
29	7／23	神経学⑤	中枢神経４・脊髄	A-3-1／必4-ア	②
30	7／23	口腔の解剖③	咽頭・唾液腺	A-3-3／総Ⅱ-4-オ	①
31	9／1	神経学⑥	末梢神経１・脳神経総論	A-3-1／総Ⅱ-4-カ	〃
32	9／8	神経学⑦	末梢神経２・脳神経（Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅵ，Ⅷ）	A-3-1／総Ⅱ-1-キ	〃
33	9／15	神経学⑧	末梢神経３・第Ⅶ脳神経	A-3-1／総Ⅱ-4-カ	〃
34	9／29	神経学⑨	末梢神経４・第Ⅶ脳神経，第Ⅻ脳神経	A-3-1／総Ⅱ-4-カ	〃
35	10／6	神経学⑩	末梢神経５・第Ⅴ脳神経	A-3-1／総Ⅱ-4-カ	〃
36	10／13	神経学⑪	末梢神経６・第Ⅴ脳神経	A-3-1／総Ⅱ-4-カ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
37	10／20	神経学⑫	末梢神経７・第Ⅸ脳神経，第Ⅹ脳神経，第Ⅺ脳神経	A-3-1／総Ⅱ-4-カ	①
38	10／27	神経学⑬	末梢神経８・自律神経	A-3-1／総Ⅱ-1-ク	〃
39	11／10	神経学⑭	末梢神経９・脊髄神経	A-3-1／総Ⅱ-4-カ	〃
40	11／17	頭頚部の筋①	顔面筋と咀嚼筋	A-3-2／総Ⅱ-4-ウ	〃
41	11／24	頭頚部の筋②	舌筋，舌骨上筋，舌骨下筋	A-3-2／総Ⅱ-4-ウ	〃
42	12／1	神経学⑮	末梢神経まとめ	A-3-1／総Ⅱ-4-カ	〃
43	12／8	嚥下	嚥下関連の解剖学	A-3-2／総Ⅱ-6-エ	〃
44	12／15	筋膜隙	臨床関連の解剖学	A-3-2／総Ⅱ-4-キ	〃
45	12／18	顎関節	顎関節の機能と構造	A-3-2／総Ⅱ-4-イ	②

口腔解剖学実習（前期・１単位）

D②③B-c1-2504（D2504）

科目責任者：宇佐美晶信（解剖・教授）
科目担当者：①宇佐美晶信（解剖），②芹川　雅光（解剖），
③櫻井　裕子（解剖）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

前半の７回で歯の形態についてスケッチおよび彫刻実習により理解する。後半の８回で骨の形態と構造について骨標本を用いた実習により理解する。

２．一般目標

歯の形態と全身の骨の構造を理解することにより歯科医師として必要な歯と骨に関連した「知識」を身に付ける。

３．到達目標

１）歯の形態を２次元的にスケッチする。
２）歯の形態を３次元的に彫刻する。
３）頭蓋骨や全身の骨の形態および構造を説明できる。

４．履修の進め方

永久歯の３倍大のスケッチと彫刻の実習を行う。骨学実習ではテキストの内容を骨標本で確認する。

５．準備学修

歯の彫刻実習には歯種に応じた大きさの石膏棒を用意するとともに歯の形態を事前に確認しておく（15分）。

骨学実習では「口腔顎顔面ノート」の該当部分を事前に確認しておく（30分）。

実習後に歯のスケッチ又は「口腔顎顔面ノート」を復習しておく（15分）。

６．評価方法

各回の提出物の評価（60％），骨学実習まとめ（25％），態度評価（15％：欠席１回につき５％減点）の100点満点の評価で，「可（65点）」以上を合格とする。提出物の評価基準については実習の第１回目で説明する。フィードバックは提出物返却時に適宜行う。

７．教本

井出吉信 監修「口腔顎顔面解剖ノート」第３版　学建書院

８．参考書

なし。

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3 4	４／９	口腔解剖学実習①	評価基準の説明，Ｗax 棒彫刻	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	① ② ③
5 6 7 8	４／16	口腔解剖学実習②	切歯のスケッチ，彫刻	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	〃
9 10 11 12	４／23	口腔解剖学実習③	犬歯のスケッチ，彫刻	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	〃
13 14 15 16	５／７	骨学実習①	骨の貸出と確認	A-3-4／総Ⅱ-4-イ	〃
17 18 19 20	５／14	口腔解剖学実習④	小臼歯のスケッチ，彫刻	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
21 22 23 24	5／21	口腔解剖学実習⑤	上顎大臼歯のスケッチ，彫刻	A-3-4／ 総Ⅱ-5-ア	① ② ③
25 26 27 28	5／27	慰霊式	慰霊式	C-1-1／ 必1-ア	〃
29 30 31 32	6／4	口腔解剖学実習⑥	下顎大臼歯のスケッチ，彫刻	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
33 34 35 36	6／11	骨学実習②	頭蓋冠，頭蓋底	A-3-2／ 総Ⅱ-4-イ	〃
37 38 39 40	6／18	骨学実習③	蝶形骨，側頭骨，眼窩	A-3-2／ 総Ⅱ-4-イ	〃
41 42 43 44	6／25	骨学実習④	上顎骨，口蓋骨，鼻腔	A-3-2／ 総Ⅱ-4-イ	〃
45 46 47 48	7／2	骨学実習⑤	下顎骨，舌骨	A-3-2／ 総Ⅱ-4-イ	〃
49 50 51 52	7／9	骨学実習⑥	体幹と四肢の骨	A-3-1／ 総Ⅱ-1-イ	〃
53 54 55 56	7／16	骨学実習⑦	頭蓋底の孔・管と翼口蓋窩	A-3-1／ 総Ⅱ-1-イ	〃
57 58 59 60	7／23	骨学実習⑧	骨学実習まとめ	A-3-1, 2／ 総Ⅱ-1-イ， 総Ⅱ-4-イ	〃

解剖学（通年・３単位）

D③B-a3-2501(D2501)

科目責任者：宇佐美晶信（解剖・教授）
科目担当者：①宇佐美晶信（解剖），②芹川　雅光（解剖），
③櫻井　裕子（解剖），④阿部　伸一（客員），
⑤佐藤　功二（非常勤），⑥井出　吉昭（非常勤）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

歯科医学を学修するのに先立ち，肉眼解剖による人体の正常構造を講義により学ぶ。

２．一般目標

歯科医学を学修していくために必要な肉眼解剖学の「知識」を身に付けるために，人体の正常な形態と構造について理解する。

３．到達目標

1）身体の部位と方向用語を説明する。
2）身体を構成する器官系について説明する。
3）人体の骨，脈管，筋，内臓，神経の形態と構造を説明する。
4）鰓弓および顎顔面の発生を説明する。

４．履修の進め方

プリントを用いた講義を行う。前回の講義内容を形成的評価を行いながら講義を進めていく。また，各項目終了時にも形成的評価を行う。これによりすべての項目についての理解を確実なものとして，項目間の関連について理解できることを目標とする。

５．準備学修

講義プリントを事前に確認しておくとともに（15分），形成的評価のために前回講義内容の復習をしておく（30分）。

６．評価方法

多肢選択問題（MCQ）形式の定期試験（90%）と講義時間内で行う CBT-Medical による前回講義内容の試験（10%）の100点満点の評価が「可（65点）」以上を合格とする。再試験は上限65点，追試験は上限80点で採点する。フィードバックは解答を開示して適宜行う。

７．教本

前田健康　他監修「口腔解剖学」第３版　医歯薬出版　2024年

８．参考書

松村譲兒 著「イラスト解剖学」第10版　中外医学社　2021年

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／7	解剖学総論	解剖学とは，方向用語	A-3-1／ 総Ⅱ-4-ア～キ	①
2	4／14	骨学①	骨学総論	A-3-1／ 総Ⅱ-4-イ	〃
3	4／21	骨学②	頭蓋冠・外頭蓋底	A-3-2／ 総Ⅱ-4-イ	〃
4	4／28	骨学③	内頭蓋底	A-3-2／ 総Ⅱ-4-イ	〃
5	5／12	骨学④	蝶形骨１	A-3-2／ 総Ⅱ-4-イ	③
6	5／19	骨学⑤	蝶形骨２	A-3-2／ 総Ⅱ-4-イ	〃
7	5／26	骨学⑥	側頭骨	A-3-2／ 総Ⅱ-4-イ	①

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
8	6／2	骨学⑦	上顎骨	A-3-2／総Ⅱ-4-イ	①
9	6／9	骨学⑧	下顎骨	A-3-2／総Ⅱ-4-イ	〃
10	6／16	骨学⑨	体幹の骨	A-3-1／総Ⅱ-1-イ	〃
11	6／23	骨学⑩	体肢の骨	A-3-1／総Ⅱ-1-イ	〃
12	6／30	骨学⑪	骨学のまとめ	A-3-1,A-3-2／総Ⅱ-4-イ	〃
13	7／7	脈管学①	脈管学総論	A-3-1／総Ⅱ-1-ウ	②
14	7／14	脈管学②	動脈	A-3-2／総Ⅱ-4-エ	〃
15	7／21	脈管学③	静脈，リンパ	A-3-2／総Ⅱ-4-エ	〃
16	9／3	内臓学①	筋学１	A-3-1／総Ⅱ-1-イ	①
17	9／3	局所解剖学１	人体解剖学実習１のための解説 献体の倫理指針について	A-3-1／必5-ア	②
18	9／10	内臓学②	筋学２	A-3-1／総Ⅱ-1-イ	①
19	9／10	局所解剖学２	人体解剖学実習２のための解説	A-3-1／必5-ア	②
20	9／17	内臓学③	消化器１	A-3-1／総Ⅱ-1-オ	①
21	9／17	局所解剖学３	人体解剖学実習３のための解説	A-3-1／必5-ア	②
22	9／24	内臓学④	消化器２	A-3-1／総Ⅱ-1-オ	①
23	9／24	局所解剖学４	人体解剖学実習４のための解説	A-3-1／必5-ア	②
24	10／1	内臓学⑤	呼吸器	A-3-1／総Ⅱ-1-エ	①
25	10／1	局所解剖学５	人体解剖学実習５のための解説	A-3-1／総Ⅲ-2-ア,ウ,エ,キ	②
26	10／8	内臓学⑥	感覚器１	A-3-1／総Ⅱ-1-ク	①
27	10／8	局所解剖学６	人体解剖学実習６のための解説	A-3-1／総Ⅲ-2-ア,エ,キ	②
28	10／15	内臓学⑦	感覚器２	A-3-1／総Ⅱ-1-ク	①
29	10／15	局所解剖学７	人体解剖学実習７のための解説	A-3-1／総Ⅲ-2-ア,イ,エ,キ	②
30	10／22	内臓学⑧	泌尿生殖器	A-3-1／総Ⅱ-1-キ	①
31	10／22	局所解剖学８	人体解剖学実習８のための解説	A-3-1／必5-ア	②
32	10／29	内臓学⑨	内分泌器	A-3-1／総Ⅱ-1-ケ	①
33	10／29	局所解剖学９	人体解剖学実習９のための解説	A-3-1／必5-ア	②
34	11／5	内臓学⑩	内臓学のまとめ	A-3-1／総Ⅱ-1-ア～ケ	①
35	11／5	局所解剖学10	人体解剖学実習10のための解説	A-3-1／必5-ア	②
36	11／12	発生①	鰓弓	A-2-4／総Ⅱ-8-ア	〃
37	11／12	局所解剖学11	人体解剖学実習11のための解説	A-3-1／必5-ア	〃
38	11／19	発生②	顎顔面の発生	A-2-4／総Ⅱ-8-ア	〃
39	11／19	局所解剖学12	人体解剖学実習12のための解説	A-3-1／必5-ア	〃
40	11／26	局所解剖学13	人体解剖学実習13のための解説	A-3-1／必5-ア	②④
41	11／26	臨床解剖①	咀嚼嚥下の機能解剖	A-3-2／総Ⅱ-4-キ	〃
42	12／3	局所解剖学14	人体解剖学実習14のための解説	A-3-1／必5-ア	②⑤
43	12／3	発生③	舌	A-2-4／総Ⅱ-8-ア	〃
44	12／10	局所解剖学15	人体解剖学実習15のための解説	A-3-1／必5-ア	②⑥
45	12／10	臨床解剖②	頭頚部の臨床解剖	A-3-2／総Ⅱ-4-キ	〃

解剖学実習（後期・１単位）

D②③B-c1-2502(D2502)

科目責任者：宇佐美晶信（解剖・教授）
科目担当者：①宇佐美晶信（解剖），②芹川　雅光（解剖），
③櫻井　裕子（解剖），④佐藤　功二（非常勤）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

人体を用いた肉眼解剖学の実習を行う。この実習は「死体解剖保存法」に則って行われる。人体の構造についての知識を深めるだけでなく，医の倫理を考え，死者に対する尊厳を学ぶ場でもある。

本実習においては献体の倫理指針を遵守すること。
（https://www.anatomy.or.jp/file/pdf/guideline/ethics_202503.pdf）

不適切な行動が認められた場合は解剖学実習の参加を認めない。

２．一般目標

歯科医学を学修していくために必要な解剖学の「知識」を関連付けて理解するだけでなく，実習期間中に各班がプレゼンテーションを行うことにより「研究志向と解決力」を涵養する。

３．到達目標

１）身体の部位と方向用語を説明する。
２）身体を構成する器官系について説明する。
３）人体の骨，脈管，筋，内臓，神経の形態と構造を説明する。
４）献体への礼意をもって実習に臨む。

４．履修の進め方

特に頭頚部を中心とした人体解剖実習を行う。各回の内容手順は事前にプリントをポータルサイトの「授業資料」にアップロードしておくとともに，実習前に講義により手順の解説を行う。また，班ごとに指定された課題について期間中に１回のプレゼンテーションを行う。

５．準備学修

事前に教科書，プリントで解剖手順を確認しておくとともに（15分），総括的評価のために前回実習内容の復習をしておく（30分）。実習の第１回目に各班の課題を提示するので発表日までに班ごとにプレゼンテーションの準備を行う。

６．評価方法

毎回講義前に行う前回内容の CBT-Medical による小テスト（70%），各班１回のプレゼンテーション（15%）と出席点（15%：欠席１回につき５%減点）の100点満点の評価で，「可（65点）」以上を合格とする。フィードバックは CBT-Medical において正答を開示する。プレゼンテーション評価基準については発表内容，発表時間，質問対応，準備状況，その他の５項目について評価する。

７．教本

寺田春水，藤田恒太郎 著「解剖実習の手引き」南山堂
佐藤達夫 訳「あたらしい人体解剖学アトラス」第１版 MEDSi

８．参考書

上條雍彦著「口腔解剖学１～５」アナトーム社

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3 4	９／３	人体解剖学実習１	解剖実習オリエンテーション，体表観察頚部皮神経・皮静脈	A-3-1, 2／必4-ア	① ② ③
5 6 7 8	９／10	人体解剖学実習２	頚部浅層・中層の筋・脈管・神経浅胸筋，腹部の筋	A-3-1, 2／必4-ア	〃
9 10 11 12	９／17	人体解剖学実習３	頚部深層の筋・脈管・神経，甲状腺，腋窩，大腿伸筋，大腿三角	A-3-1, 2／必4-ア	〃
13 14 15 16	９／24	人体解剖学実習４	耳下腺，顔面神経，鎖骨下動静脈，腕神経叢，上肢屈筋	A-3-1, 2／必4-ア	〃
17 18 19 20	10／１	人体解剖学実習５	顔面筋，顔面動静脈，開胸，肺	A-3-1, 2／必4-ア	〃
21 22 23 24	10／８	人体解剖学実習６	耳下腺神経叢顔面動静脈，後縦隔，心臓	A-3-1, 2／必4-ア	〃
25 26 27 28	10／15	人体解剖学実習７	顔面神経，舌骨上筋，開腹腹部動脈	A-3-1, 2／必4-ア	〃
29 30 31 32	10／22	人体解剖学実習８	後頭筋浅層，背部の浅層・中層の筋	A-3-1, 2／必4-ア	〃
33 34 35 36	10／29	人体解剖学実習９	後頭下三角，頭部切断，脊髄，殿部深層	A-3-1, 2／必4-ア	〃
37 38 39 40	11／５	人体解剖学実習10	咽頭，頭部矢状断，腹部内臓	A-3-1, 2／必4-ア	〃
41 42 43 44	11／12	人体解剖学実習11	眼窩，舌，鼻腔，後腹壁，横隔膜腰神経叢	A-3-1, 2／必4-ア	〃
45 46 47 48	11／19	人体解剖学実習12	咀嚼筋，顎動脈，骨盤内臓	A-3-1, 2／必4-ア	〃
49 50 51 52	11／26	人体解剖学実習13	顎関節，側頭下窩，下顎管中枢神経	A-3-1, 2／必4-ア	〃
53 54 55 56	12／３	人体解剖学実習14	口蓋，舌下神経管，三叉神経，喉頭，気管	A-3-1, 2／必4-ア	① ② ③ ④
57 58 59 60	12／10	人体解剖学実習15	三叉神経，副鼻腔，後片付け及び納棺	A-3-1, 2／必4-ア	① ② ③

口腔組織学（通年・４単位）

D③B-a4-2505(D2505)

科目責任者：安部　仁晴（組織・教授）
科目担当者：①安部　仁晴（組織），②荒木　啓吾（組織），
③森山　　光（組織），④山本　　仁（客員）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

組織学は，細胞・組織・器官について，正常構造の微細形態を明らかにする学問である。この組織学の一部として，細胞を総合的に分子レベルでとらえる細胞生物学と，受精に始まり，死に至るまでの継続的過程を明らかにする発生学があり，この二つの分野を包括的に捉えて講義する。口腔組織学の理解なくして口腔諸器官における疾患ならびに全身に至る疾病を把握することは不可能である。口腔組織学において，如何に知識を融合させて修得できるか否かが，歯科医師としての成否を握っているといっても過言ではない。本教科は，他の基礎科目の基盤であり，さらに診断や治療方針のエビデンスとして役立てなければならない学問である。

２．一般目標

疾病を治療対象とした基礎知識を得るために，細胞，組織，人体諸器官，さらに歯と歯周組織をはじめ口腔諸器官の正常構造と微細構造を機能と結びつけ，それらの発生過程，加齢変化を理解する。

３．到達目標

１）細胞および上皮，結合，軟骨，骨，筋，神経組織の構造と機能を説明する。
２）消化器，呼吸器，循環器，免疫性器官，内分泌器，泌尿生殖器，感覚器，中枢神経系各器官の構造と機能を説明する。
３）歯と歯周組織および口腔周囲器官の微細構造と機能を説明する。
４）顔面と口腔の発生および加齢変化を説明する。

４．履修の進め方

講義を主体として，媒体には穴埋めプリント，スライド，コンピュター画像，教科書，参考図書を用いて，細胞や組織像について説明を加える。

５．準備学修

事前に当日の授業内容に関して，教科書を一読してくる(事前学習：20分)。講義後は，ノートとアトラスや教科書を照らし合わせ，細胞や組織の特徴と機能を把握する（事後学習：20分)。また，疑問点は，オフィスアワーを活用して解決する。

６．評価方法

組織学では総論（前期中間試験）と各論（前期定期試験)，口腔組織学では発生学，歯の三硬組織と歯髄（後期中間試験)，歯周組織，口腔諸器官，歯の発生および加齢変化（後期定期試験）において，計４回の記述試験（各25％）を行い，65点以上で合格とする。フィードバックは，不合格者に答案を開示して解説を行う。追・再試験は，願い出により各１回ずつ行い，得点は本試験，追・再試験のどちらか高い方とする。ただし，後期定期試験は本学試験規程に従う。

７．教本

安部仁晴，磯川桂太郎 他著「組織学・口腔組織学」第５版　わかば出版　2024

８．参考書

藤田尚男，藤田恒夫 著「標準組織学」総論　各論　第６版 医学書院　2022

Alan Stevens 著　内山安男 他訳「人体組織学」原書　第２版　南江堂　2004

脇田　稔 他編「口腔組織・発生学」第２版　医歯薬出版 2015

９．授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／7	組織学総論，細胞学（1）	組織学の研究手法，核の構造と機能	A-1-4／必4-ア	①
2	4／7	細胞学（2）	細胞小器官の構造と機能（1）	A-1-4／必4-ア	〃
3	4／14	細胞学（3）	細胞小器官の構造と機能（2）	A-1-4／必4-ア	〃
4	4／14	細胞学（4）	細胞骨格の構造，細胞膜の構造と機能	A-1-4／必4-ア	〃
5	4／21	細胞学（5）	細胞周期と細胞分裂，接着装置	A-1-4, -5／必4-ア	〃
6	4／21	上皮組織（1）	上皮の形態的分類とその特徴，機能	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-ア	〃
7	4／28	上皮組織（2）	上皮の機能的分類，基底膜	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-ア	〃
8	4／28	腺組織	外分泌腺の構造と分泌様式	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ6-オ	〃
9	5／12	結合組織（1）	結合組織の分類と存在する線維の種類	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-ア	〃
10	5／12	結合組織（2）	結合組織に存在する細胞の特徴と機能	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-ア	〃
11	5／19	軟骨組織	軟骨組織の分類と特徴および微細構造	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-イ	〃
12	5／19	骨組織（1）	骨組織の組織学的特徴とリモデリング	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-イ	〃
13	5／26	骨組織（2）	骨芽細胞，骨細胞，破骨細胞の特徴と機能	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-イ, 8-ウ	〃
14	5／26	骨組織（3）	骨の発生と石灰化機序	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ8-ウ	〃
15	6／2	血液	血液とリンパの成分	A-3-1／必4-ア	〃
16	6／2	造血器	造血器と血球の形成過程	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-カ	〃
17	6／9	筋組織（1）	骨格筋の構造と収縮機構	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-イ	③
18	6／9	筋組織（2）	心筋と平滑筋の特徴と微細構造	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-イ	〃
19	6／16	神経組織（1）	神経細胞の分類と微細構造	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-ク	①

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
20	6／16	神経組織（2）	シナプスの形態学的特徴と神経伝達物質	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-ク	①
21	6／23	神経系	中枢神経と末梢神経の組織学的特徴	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-ク	〃
22	6／23	循環器系	血管系の構造と特徴および差異	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-ウ	〃
23	6／30	消化器系（1）	食道，胃の組織学的特徴と機能	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-オ	〃
24	6／30	消化器系（2）	小腸，大腸の組織学的特徴と機能	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-オ	〃
25	7／7	消化器系（3）	肝臓，膵臓の組織学的特徴と機能	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-オ	〃
26	7／7	呼吸器系	鼻腔，気管，肺の組織学的特徴と機能	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-エ	〃
27	7／14	泌尿器系	腎臓，膀胱の組織学的特徴と機能	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-キ	〃
28	7／14	内分泌系（1）	下垂体，甲状腺の構造と分泌するホルモン	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-ケ	〃
29	7／21	内分泌系（2）	副腎，副甲状腺，松果体の構造と分泌するホルモン	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-ケ	〃
30	7／21	免疫系	リンパ節，胸腺，脾臓の特徴と機能	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ3-ア，イ	〃
31	9／1	感覚器系（1）	嗅覚器の特徴と機能	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-ク	②
32	9／1	感覚器系（2）	視覚器の組織学的特徴と機能	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-ク	〃
33	9／8	感覚器系（3）	聴覚・平衡感覚器の特徴と機能	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-ク	〃
34	9／8	生殖器系（1）	男性生殖器の構造と機能 精子形成過程	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-キ	〃
35	9／15	生殖器系（2）	女性生殖器の構造と機能 卵子形成過程	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-キ	〃
36	9／15	顎・顔面の発生（1）	個体発生，器官発生	A-2-1／必5-ア	〃
37	9／29	顎・顔面の発生（2）	鰓弓，鰓嚢，鰓溝から形成される組織	A-2-1，-4／必5-ア 総Ⅱ8-ア	〃
38	9／29	顎・顔面の発生（3）	顔面と口蓋の形成	A-2-4／必5-ア 総Ⅱ8-ア	〃
39	10／6	顎・顔面の発生（4）	舌，唾液腺，甲状腺，下垂体の発生	A-2-4／必5-ア 総Ⅱ8-ア	〃
40	10／6	エナメル質（1）	エナメル質の基本構造	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ5-イ	①
41	10／13	エナメル質（2）	エナメル質の成長線と構造物	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ5-イ	①
42	10／13	象牙質（1）	象牙質の基本構造と石灰化機構	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ5-イ	③
43	10／20	象牙質（2）	象牙質の成長線と構造物	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ5-イ	〃
44	10／20	歯髄（1）	歯髄にみられる細胞と線維	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ5-イ	①
45	10／27	歯髄（2）	歯髄表層の構造，歯髄の脈管と神経	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ5-イ	〃
46	10／27	セメント質	セメント質の基本構造，分類と形成過程	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ5-イ	〃
47	11／10	歯根膜（1）	歯根膜の細胞と機能	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ5-イ	〃
48	11／10	歯根膜（2）	歯根膜線維の種類と走行	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ5-イ	〃
49	11／17	歯肉	歯肉の分類と上皮の組織学的特徴	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ5-イ	〃
50	11／17	歯槽骨	歯槽骨の区分と形態学的特徴	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ5-イ	〃
51	11／24	皮膚と粘膜，口腔粘膜	皮膚と粘膜の基本構造，口腔粘膜の分類	A-3-1，-3／必5-ア 総Ⅱ4-オ	〃
52	11／24	顎関節と扁桃	顎関節，扁桃の構造と組織学的特徴	A-3-2／必4-ア 総Ⅱ4-イ，オ	〃
53	12／1	舌，口蓋	舌，硬口蓋と軟口蓋の組織学的特徴	A-3-3／必4-ア 総Ⅱ4-オ	〃
54	12／1	唾液腺	大唾液腺，小唾液腺の組織学的特徴	A-3-3／必4-ア 総Ⅱ4-オ	〃
55	12／8	歯の発生（1）	歯胚の構造と分化	A-3-4／必5-ウ 総Ⅱ8-イ	④
56	12／8	歯の発生（2）	歯根および歯周組織の発生	A-3-4／必5-ウ 総Ⅱ8-イ	〃
57	12／15	歯の発生（3）	エナメル質の形成と石灰化	A-3-1／必5-ウ 総Ⅱ8-イ	①
58	12／15	歯の発生（4）	象牙質の形成と石灰化	A-3-1／必5-ウ 総Ⅱ8-イ	〃
59	12／18	口腔の加齢変化（1）	歯と歯周組織の加齢変化	A-2-4／必5-エ 総Ⅱ7-エ 各Ⅴ3-イ	〃
60	12／18	口腔の加齢変化（2）	唾液腺，舌，顎関節の加齢変化	A-2-4／必5-エ 総Ⅱ7-エ 各Ⅴ3-イ	〃

口腔組織学実習（後期・１単位）

D②③B-c1-2506（D2506）

科目責任者：安部　仁晴（組織・教授）

科目担当者：①安部　仁晴（組織），②荒木　啓吾（組織），
③森山　　光（組織），④齊藤　大輔（組織），
⑤山本　　仁（客員），⑥釜田　　朗（非常勤）

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

近年の歯科医学は，疾患の原因，病状の把握，更にはエビデンスに基づいた治療方針と病状の転帰を理解することが求められている。人体の正常構造と機能の理解なくしては，病変さらには治療方針を理解し把握することは不可能なことから，その基盤となる組織学，口腔組織学の修得が重要となる。本実習は，上皮，結合，筋，神経などの総論，消化器，呼吸器，循環器，内分泌などの各論，歯，歯周組織，舌，唾液腺，口蓋，扁桃，歯の発生などの口腔組織について実習する。本実習は，講義で学んだ内容を自分自身の目で確認し，理解を深めることが主たる目的である。

２．一般目標

人体と口腔諸器官における特徴と機能を理解するために，光学顕微鏡を用いて，細胞，組織の正常構造，歯と歯周組織をはじめとする口腔諸器官の正常微細構造，それらの発生過程の知識を修得する。

３．到達目標

１）上皮，腺，軟骨，骨，筋，血液，血管，神経の各細胞と組織について，各部の名称と機能を説明する。

２）消化器系，呼吸器系，内分泌系，泌尿生殖器系，感覚器系，中枢神経系の器官について，組織の構造と機能を説明する。

３）歯の研磨標本と脱灰標本を観察し，エナメル質，象牙質，セメント質の微細構造を説明する。

４）歯周組織の微細構造と組織学的特徴を説明する。

５）歯の発生の標本からエナメル質，象牙質，セメント質，歯周組織の形成機構を説明する。

６）口腔粘膜，唾液腺，舌，口蓋，扁桃など口腔諸器官の微細構造と機能を説明する。

４．履修の進め方

毎回画像説明を中心とした実習前講義を受け，各種細胞，組織の形態学的特徴を把握し，スケッチを行う。なお，媒体は光学顕微鏡を使う。さらに教科書，参考図書，スライド，PC 画像，講義プリント等を使用する。

５．準備学修

「組織学・口腔組織学実習の指針」を一読し，当日の実習内容を把握しておく（事前学習：30分）。実習後は，実習で描いた図と教科書やアトラスの図とを比較し，講義で学んだ内容の理解を深める（事後学習：20分）。

６．評価方法

一般組織学（10/27）と口腔組織学（12/18）の実習終了時に行う実習試験にて評価する。試験の合計点数（80%）に，リクワイアメント（20%）を加え最終評価とし，65点以上で合格とする。実習試験の追・再試験は，願い出により各１回ずつ行い，得点は本試験，追・再試験のどちらか高い方とする。また，フィードバックは，答案を開示して行う。

７．教本

磯川桂太郎 他編「カラーアトラス口腔組織発生学」第４版　わかば出版　2016

「組織学・口腔組織学実習の指針」教室作成

８．参考書

Paul R. Wheater 著　柴崎晋 監訳「カラーアトラス組織学」西村書店　2010

相磯貞和 訳「人体組織図譜」原書第11版　南江堂　2011

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	９／１	上皮組織・筋組織	単層円柱，多列線毛，重層扁平上皮，平滑筋，骨格筋，心筋	A-3-1／ 必4-ア 総Ⅱ1-ア，イ	① 〜 ④
4 5 6	９／８	軟骨組織・骨組織・骨の発生	硝子，弾性，線維軟骨 骨の研磨標本と骨化様式	A-3-1／ 必4-ア 総Ⅱ1-イ， 8-ウ	〃
7 8 9	９／15	消化器系①	食道，胃，小腸，大腸	A-3-1／ 必4-ア 総Ⅱ1-オ	〃
10 11 12	９／29	消化器系②・泌尿器系	肝臓，膵臓，腎臓	A-3-1／ 必4-ア 総Ⅱ1-オ，キ	〃
13 14 15	10／６	呼吸器系・中枢神経系	気管，肺，小脳，脊髄	A-3-1／ 必4-ア 総Ⅱ1-エ，ク	〃
16 17 18	10／13	血液・免疫系	血液の塗抹標本とリンパ節，脾臓，胸腺	A-3-1／ 必4-ア 総Ⅱ3-イ	〃
19 20 21	10／20	内分泌系	副腎，甲状腺 下垂体	A-3-1／ 必4-ア 総Ⅱ1-ケ	〃
22 23 24	10／27	一般組織のまとめ	各組織と各器官系のまとめ	A-3-1／ 必4-ア 総Ⅱ1-ア〜ケ 総Ⅱ3-イ	〃
25 26 27	11／10	歯の研磨標本 脱灰標本	エナメル質，象牙質，セメント質の微細構造，歯髄の構造と細胞	A-3-4／ 必4-ア 総Ⅱ5-イ	① 〜 ④ ⑥
28 29 30	11／17	歯周組織	歯根膜，歯肉 歯槽骨の微細構造	A-3-4／ 必4-ア 総Ⅱ5-イ	① 〜 ④
31 32 33	11／24	口唇，扁桃	口唇，舌扁桃 口蓋扁桃の組織学的特徴	A-3-3／ 必4-ア 総Ⅱ4-オ	〃
34 35 36	12／１	軟口蓋，舌	軟口蓋，舌乳頭（味蕾）の組織学的特徴	A-3-3／ 必4-ア 総Ⅱ4-オ	〃
37 38 39	12／８	唾液腺	耳下腺，顎下腺，舌下腺の組織学的差異	A-3-3／ 必4-ア 総Ⅱ4-オ	① 〜 ⑤
40 41 42	12／15	歯の発生	蕾状期，帽状期，鐘状期歯胚とエナメル質，象牙質の形成	A-3-4／ 必5-ウ 総Ⅱ8-イ	① 〜 ④ ⑥
43 44 45	12／18	口腔組織学のまとめ	歯と歯周組織および口腔諸器官のまとめ	A-3-3，-4／ 必4ア，5-ウ 総Ⅱ4-オ， 5-イ，8-イ	① 〜 ④

口腔生理学Ⅰ（通年・３単位）

D③B-a1-2507(D2507)

科目責任者：山崎　信也（生理・教授）
科目担当者：①山崎　信也（生理），②大須賀謙二（生理），
③古山　　昭（生理）
※この科目は，主に診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

生理学は，細胞から個体の行動にいたる各レベルの種々の生体機能および機構を対象として正常な状態における生命現象の機序について学ぶことを目的とした科目である。ヒトは生命を維持するための生体恒常性が乱され，その修復が困難な時に病気となる。それゆえ，正しい治療や予防措置を施すためには，病気の原因や患者の状態を正確に把握していなければならない。そのためには生体の正常な基本的機能を学び知っておくことが不可欠であり，それらの知識なくして病理学や薬理学などを正しく理解することはできないと言ってよい。講義には，近年の分子生物学や細胞生物学の著しい進展にともなった新しい内容が随時盛り込まれる。講義の各論は相互に密接な関連をもち，独立したものではないことを銘記すべきである。また生体機能は合理的に構成され，多くの場合に論理的に説明できる。

歯科医として，生理学は必要不可欠な科目である。生理学を知ることなく麻酔学や補綴学，あるいは口腔外科学を学ぶことはできない。この授業では，臨床医として最低限の正常な体の仕組みを理解し，把握することを目標とする。したがって，学習に際しては，基礎的事項を必ず記憶してから「理解」をすることが大切である。

本科目では，顎・口腔・顔面領域の器官およびそれらと密接な関係をもつ器官の機能に関する基本的事項については重点的に充分な理解をすることが肝要である。

本科目の行動目標としては，種々の生命現象を営む生体の機構，特に顎・口腔・顔面領域の機構について適切な生理学用語を用いて説明でき，また，各器官の協調活動によって個体の健康が維持されていること，および歯科診療において対象となる疾患の病態生理学の基礎を理解できるようにすることである。

２．一般目標

臨床歯科学を学習する基盤を構築するために，生体機能，生命現象の機序を理解する。

３．到達目標

１）生命現象を営む生体の機構を説明できる。
２）各器官の協調活動を説明できる。
３）歯科疾患の病態生理を説明できる。

４．履修の進め方

講義を主体として，適宜，プリントやスライドを用いた視覚的素材を活用し，人体の構造，詳細な構築およびそれらの機能に関して説明を加えながら進めていく。

５．準備学修

生物学や解剖学が生理学の基礎となるため，これらの科目と連動させて学習すること。予習は，シラバスで内容を確認して，教科書・参考書で学習する（10分）。復習は，講義内容について講義ノート（プリント）・教科書・参考書で学習する（40分）。履修後は，すべての科目につながるため，繰り返し学習することが重要である。

６．評価方法

前期の定期試験，および後期の中間試験と定期試験の各試験において，65点以上を合格とする。65点未満の場合には再試験を行う。65点未満の再試験受験該当者は，再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。追試験該当者に対しては，100点満点として試験を行い，65点以上を合格とする。前期の定期試験，および後期の中間試験と定期試験の合計３回の平均点が，65点以上獲得した者を進級とする。なお，試験問題の内容に関しては，多肢選択問題と記述式問題の出題を行う。

後期の中間試験の施行日に関しては，講義の進行具合をみて，変更することがあるので注意すること。

７．教本

吉垣純子他 編「ビジュアル生理学・口腔生理学」第４版 学建書院　2025

岩田幸一・井上富雄ほか 編　第７版「基礎歯科生理学」医歯薬出版　2020

８．参考書

なし。

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／7	口腔生理学総論	口腔生理機能の意義および特徴	A-3-1／総Ⅱ-1-ク，総Ⅱ-1-ク	③
2	4／14	興奮性組織（Ⅰ）	興奮性細胞の基本動作	A-1-4／総Ⅱ-1-ク	〃
3	4／21	興奮性組織（Ⅱ）	刺激と興奮のしくみ	A-3-1／必-4-ア	〃
4	4／28	興奮性組織（Ⅲ）	興奮伝導のメカニズム	A-3-1／総Ⅱ-1-ク	〃
5	5／12	シナプス伝達	シナプスの種類と構造，伝達の特徴，神経伝達物質	A-3-1／総Ⅱ-1-ク	〃
6	5／19	骨格筋収縮	骨格筋の構造と興奮収縮連関	A-3-1／総Ⅱ-1-イ	〃
7	5／26	感覚（Ⅰ）	感覚受容器と感覚の種類，感覚神経	A-3-1／必-4-ア 総Ⅱ-1-ク	②
8	6／2	感覚（Ⅱ）	体性感覚（触・圧・温度・痛覚）	A-3-1／必-4-ア 総Ⅱ-1-ク	〃
9	6／9	感覚（Ⅲ）	特殊感覚（視覚，聴覚，平衡感覚・嗅覚）	A-3-1／必-4-ア 総Ⅱ-1-ク	〃
10	6／16	咀嚼（Ⅰ）	咀嚼の生理的意義，咀嚼運動	A-3-2／必-4-ア，総Ⅱ-6-ウ	〃
11	6／23	咀嚼（Ⅱ）	咀嚼運動の神経・筋機構	A-3-2／必-4-ア，総Ⅱ-6-ウ	〃
12	6／30	顎・口腔・顔面の体性感覚（Ⅰ）	歯髄感覚と歯痛，歯根膜感覚	A-3-3／総Ⅱ-6-ア	③
13	7／7	顎・口腔・顔面の体性感覚（Ⅱ）	顎顔面領域・口腔領域の体性感覚と顎反射	A-3-2，A-3-3／総Ⅱ-6-ア，総Ⅱ-6-イ	〃
14	7／14	自律機能（Ⅰ）	自律神経系の構造，性質	A-3-1／必-4-e，総Ⅱ-1-ク	②
15	7／21	自律機能（Ⅱ）	自律神経の中枢性調節	A-3-1／必-4-e，総Ⅱ-1-ク	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
16	9／2	神経束の興奮伝導	末梢神経伝導検査・局所麻酔	A-2-3, D-1-2／ 総Ⅱ-1-ア, 総Ⅱ-6-ク	③
17	9／2	血液(Ⅰ)	血液の役割	A-3-1／ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-カ	①
18	9／9	血液(Ⅱ)	細胞成分の種類と役割	A-3-1／ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-カ	〃
19	9／9	血液(Ⅲ)	血漿成分と機能	A-3-1／ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-カ	〃
20	9／16	循環(Ⅰ)	体循環と肺循環，血管の特性	A-3-1／ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-ウ	〃
21	9／16	循環(Ⅱ)	心臓の構造と心筋の特性	A-3-1／ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-ウ	〃
22	9／30	循環(Ⅲ)	刺激興奮伝達系	A-3-1／ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-ウ	〃
23	9／30	循環(Ⅳ)	血圧と心拍の調節	A-3-1／ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-ウ	〃
24	10／7	呼吸(Ⅰ)	呼吸器の形態と呼吸運動	A-3-1／ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-エ	〃
25	10／7	呼吸(Ⅱ)	ガスの交換・運搬，酸塩基平衡	A-3-1／ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-エ	〃
26	10／14	呼吸(Ⅲ)	呼吸器の形態と呼吸運動	A-3-1／ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-エ	〃
27	10／14	呼吸(Ⅳ)	スパイロメーターと肺気量	A-3-1／ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-エ	〃
28	10／21	味覚(Ⅰ)	味覚受容機構と中枢機序	A-3-1／ 総Ⅱ-6-ア, 総Ⅱ-7-ウ	③
29	10／21	味覚(Ⅱ)	味覚障害と歯科臨床における味覚	A-3-1, D-3-1／ 総Ⅱ-6-ア, 総Ⅱ-7-ウ, 総Ⅳ-1-イ	〃
30	10／28	心筋・平滑筋の収縮	心筋・平滑筋の構造，効果器としての役割	A-3-1／ 総Ⅱ-1-イ，ウ	〃
31	10／28	内分泌(Ⅰ)	ホルモンの種類と受容・作用機序	A-3-1／ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-ケ	②
32	11／4	内分泌(Ⅱ)	ホルモンの働きと機能，生体恒常性の液性調節	A-3-1／ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-ケ	〃
33	11／4	内分泌(Ⅲ)	神経－液性調節の仕組み	A-3-1／ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-ケ	〃
34	11／11	咬合・下顎位	生理的咬合・下顎位の種類	A-3-2, D-5-5／ 総Ⅱ-6-イ	③
35	11／11	顎運動(Ⅰ)	咀嚼筋と顎関節の役割	A-3-1	③
36	11／18	内分泌(Ⅳ)	内分泌のまとめ	A-3-1／ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-ケ	②
37	11／18	消化と吸収(Ⅰ)	胃腸の構造と運動および神経支配	A-3-1／ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-オ	〃
38	11／25	顎運動(Ⅱ)	顎運動の神経機構，顎反射Ⅰ 顎運動の筋機構，顎反射Ⅱ	A-3-1, D-5-5／ 総Ⅱ-6-イ	③
39	11／25	口唇・頬・顔面・舌運動	口唇・頬・顔面筋運動の神経・筋機構 舌反射，舌運動の神経・筋機構	A-3-2, A-3-2, A-3-3／ 総Ⅱ-6-イ	〃
40	12／2	消化と吸収(Ⅱ)	消化液と栄養分の吸収	A-3-1／ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-オ	②
41	12／2	唾液(Ⅰ)	唾液腺，唾液の種類と性状	A-3-3／ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-ク	〃
42	12／9	唾液(Ⅱ)	唾液腺の分泌機構と機能，唾液の生成機序	A-3-3／ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-ク	〃
43	12／9	唾液(Ⅲ)	唾液腺の代謝と血流，唾液と口腔疾患	A-3-3／ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-ク	〃
44	12／16	受容体	自律神経のシナプスと受容体	A-1-5, A-3-1／ 必-4-ア	③
45	12／16	まとめ	興奮性組織のまとめ	A-3-1, A-3-1／ 総Ⅱ-1-ア～コ, 総Ⅱ-4-ア～キ	〃

口腔生理学実習（後期・１単位）

D②③B-c1-2509(D2509)

科目責任者：山崎　信也（生理・教授）
科目担当者：①山崎　信也（生理），②大須賀謙二（生理），
③古山　　昭（生理），④川合　宏仁（麻酔），
⑤安部　将太（麻酔），⑥佐藤　　光（麻酔），
⑦若松慶一郎（麻酔），⑧富田　祐介（非常勤），
※この科目は，主に診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

生理学実習の意義は，学生が講義で学んだことを目でみて理解することにある。講義で習得した知識を自ら実習で実証し，体系化した知識にして一層の理解を深めることである。

実習では，動物あるいはヒトを対象に，いろいろな道具を用いて生物現象，運動および感覚機序がどのようなものであるかを体験し，教科書や講義の内容を十分に理解することが重要である。

実習を通じて，創意工夫を養い，注意深い観察，記録，考察ができるように努力することが必要である。

２．一般目標

生体機能と生命機能の理解を深めるために，全身および口腔の機能について実体験する。

３．到達目標

１）心電図を測定できる。
２）呼吸機能を測定できる。
３）神経の興奮伝導速度を測定できる。
４）筋の収縮機能を説明できる。
５）咀嚼筋筋電図を測定できる。
６）血圧を測定できる。
７）味覚閾値を測定できる。
８）感覚点を測定できる。
９）２点弁別閾を測定できる。
10）咀嚼能率を測定できる。
11）出血時間を測定できる。
12）血液型を判定できる。

４．履修の進め方

本実習では，一般生理学と口腔生理学に関する実習を12コマ行う。学生は，大きく４グループに分かれ各グループ毎に実習する。内容は，臨床に結びつく内容のため，実習と講義を織り交ぜながら学習する。実習後は，レポート作成を行い，復習を兼ねて，学生自ら知識の総まとめを行う。

５．準備学修

オリエンテーション時に配布する実習予定表を確認して実習内容の予習を行う（10分）。実習後に課せられた課題について復習し，分からない点は解決するように努力する（60分）。

６．評価方法

全出席をすることが実習試験の受験資格となる。

各グループで行う到達目標１）～11）をクリアした場合，40点満点として評価する。

各グループで課せられたレポートを30点満点として評価する。

各グループから出題された実習試験の結果を30点満点として評価する。

各グループ毎に，採点された結果を平均して，65点以上を合格とする。

レポートのフィードバックは添削して個人へ返却する。

７．教本

「歯科生理学実習書」奥羽大学歯学部口腔生理学教室編
令和４年度版

８．参考書

「ビジュアル　生理学・口腔生理学　第４版」学建書院
「基礎歯科生理学　第７版」医歯薬出版

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	９／２	オリエンテーション	生理学実習を行う際の心構え，留意事項レポート提出方法を伝達し動物実験の３Ｒについて説明する。	C-1-1, C-2-1, C-2-3, C-2-4, C-2-6, C-2-7／ 必1-ア, 総Ⅰ-6-ア	① ～ ⑧
4 5 6	９／９ ～ 10／14	口腔内体性感覚	刺激毛，針，熱伝導子を用いて口腔内体性感覚の種類と分布を調べる。また，歯牙の触域値と位置感覚についても検査する。	A-3-1, A-3-3／ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-ク, 総Ⅱ-6-ア, 総Ⅵ-5-ア	〃
7 8 9	９／９ ～ 10／21	咀嚼機能	篩分法により咀嚼能率を求め，咀嚼能率に影響する因子を考える。	A-3-2, A-3-2／ 必-4-ア, 総Ⅱ-6-ウ, 総Ⅵ-1-イ	〃
10 11 12	９／９ ～ 10／21	血圧測定	触診法，聴診法による血圧測定を学ぶ。	A-3-1, D-2-3, E-2-3／ 必-4-ア, 必-8-エ, 総Ⅱ-1-ウ, 総Ⅴ-1-カ	〃
13 14 15	９／９ ～ 10／21	出血時間測定と血液型判定	出血時間の測定方法と血液型判定法を行い，そのしくみと判定する機序について学ぶ。	A-3-1／ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-カ, 総Ⅵ-3-ア	〃
16 17 18	９／９ ～ 10／21	神経束の興奮伝導	カエルの坐骨神経標本による活動電位を記録後，興奮伝導速度を測定し，不応期および麻酔効果について学ぶ。	A-3-1, D-1-2／ 必4-ア, 総Ⅱ-1-ク	〃
19 20 21					
22 23 24	10／28	実習試験１回目	実習内容に対する筆記試験		〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
25 26 27	11／4 〜 12／9	換気機能	スパイロメータを用いて，時間肺活量を測定後，努力性肺活量や1秒率を評価し換気機能障害について考察する。	A-3-1／ 必-4-ア， 総Ⅱ-1-エ， 総Ⅵ-4-ア	① 〜 ⑧
28 29 30	11／4 〜 12／9	骨格筋の収縮	ヒトとカエルの骨格筋の収縮を観察し，筋収縮機構について考察する。	A-3-1， A-3-2／ 総Ⅱ-1-イ， 総Ⅱ-4-ウ， 総Ⅱ-6-イ	〃
31 32 33	11／4 〜 12／9	味覚	味覚感受性について，全口腔法，ろ紙法あるいは電気味覚法により閾値を調べ，個人差を検討する。	A-3-1／ 総Ⅱ-6-ア， 総Ⅱ-7-ウ， 総Ⅵ-1-イ	〃
34 35 36	11／4 〜 12／9	心電図	心電図を採得し，臨床生理学的意味を考察する。	A-3-1／ 必-4-ア， 総Ⅱ-1-ウ， 総Ⅵ-4-ア	〃
37 38 39					
40 41 42					
43 44 45	12／16	実習試験２回目	実習内容に対する筆記試験		〃

口腔生化学Ⅰ（後期・１単位）

D③B-a1-2510(D2510)

科目責任者：加藤　靖正（生化・教授）
科目担当者：①加藤　靖正（生化）

１．科目の概要

生化学は代謝という化学的な側面から生体の成り立ちを理解する学問である。暗号化され細胞の核に保存されている遺伝情報は基本的にタンパク質の一次構造でしかないが，生体には脂質や糖質などたくさんの物質から成り立っている。遺伝情報を司る核酸そのものさえ，糖やアミノ酸，リン酸などから合成されているのである。前期までに学修した生物学の知識を基に，口腔生化学Ⅰでは，一般生化学として代謝を中心に学修し，医師やコメディカルスタッフとの間における共通知識の習得を目的とする。また，３年次で行われる口腔生化学Ⅱを理解するのに必要な知識の整理を行う。

２．一般目標

生体を構成する成分や機能について，個々に理解を深めるとともに，異なる成分同士のつながりやホルモンなどにより巧妙に調節された機能などの分子メカニズムなどを理解する。また，代謝の破たんが原因となる疾患については，その成り立ちを生化学的側面から学ぶ。

３．到達目標

１）生体を構成している主な物質の分子構造と機能について説明できる。
２）遺伝情報の保存と発現について説明できる。
３）代謝における酵素の働きを説明できる。
４）糖代謝と脂肪酸代謝によるエネルギー産生機序が説明できる。
５）糖新性，脂質合成の機序を説明できる。
６）代謝の破たんと疾病の成り立ちについて例を挙げて説明できる。

４．履修の進め方

予　習：教科書（該当箇所のページ）を読み，講義内容の概略を把握するとともに疑問点を見出しておく。
講　義：板書主体の講義で予習内容の確認と知識の整理を行う。また，予習中に見出された疑問点を解決する。教科書の該当ページについて解説するので，教科書は必ず持参のこと。
復　習：学修内容を整理するとともに，事前に生じた疑問点について解決したかを確認する。
その他：新たに生じた疑問点などについては，教科書の利用や教員への質問等により早期に克服する。時間内に板書をノートに写すことが困難な場合は，板書の写真撮影を許可する。解説をより聞けるように工夫する。質問は，直接もしくはメール，LINE でもよい。LINE 希望者は別途招待してください（こちらから招待することはありません）。

５．準備学修

講義の項に該当する内容についてスタンダード生化学・口腔生化学　第４版（学研書院）を読み，予め疑問点を見出しておく（15分）。復習（20分）。

６．評価方法

定期試験（多肢選択形式，100点満点）で65点以上を合格とする。追・再試験は，65点以上を合格とする。再試験の評価は，65点以上を65点とし，追試験の評価は，90点以上を90点とする。追・再試験後の適宜試験は実施しない。

７．教本

スタンダード生化学・口腔生化学　第４版（学研書院）を基本とするが，生物・生化学・分子生物学　第２版（南山

堂）も利用すると理解が深まる。講義で使用するため，持参のこと。下記の授業内容に記載のページ数の表記は，学研書院：㋭ xxx-xxx，南山堂：㊒ xx-xx である。

8．参考書

口腔生化学　第6版（医歯薬出版）

9．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／2	核酸Ⅰ	核酸の種類と構造（㋭30-31；㊒213-220）	A-1-3／必4-ア	①
2	9／9	核酸Ⅱ	ゲノム，染色体，細胞老化（㋭102-103；㊒221-232）	A-1-3／必4-ア	〃
3	9／16	核酸Ⅲ	半保存的複製，PCR の原理，RNA の種類と働き，遺伝子発現（㋭104-113；㊒237-249）	A-1-3／必4-ア	〃
4	9／30	核酸Ⅳ	タンパク質合成，ヌクレオチド代謝（*de novo* 合成）ヌクレオチド代謝（Salvage 経路），痛風，Lesch-Nyhan 症候群（㋭114-117，93-95；㊒250-259，167-171）	A-1-2／必4-ア	〃
5	10／7	糖質Ⅰ	糖の定義，構造，分類（単糖・多糖），グリコシド結合とグリコシダーゼ（㋭12-17，191；㊒96-105）	A-1-2／必4-ア	〃
6	10／14	糖質Ⅱ	解糖系（嫌気的，好気的），糖新生（㋭56-66；㊒105-107，108-114）	A-1-2／必4-ア	〃
7	10／21	糖質Ⅲ	糖の完全燃焼，シャトル経路，TCA サイクル，酸化的リン酸化，電子伝達系（㋭56-63，96-101；㊒120-127）	A-1-2／必4-ア	〃
8	10／28	糖質Ⅳ	基質準位のリン酸化，エネルギー収支，ペントースリン酸経路，von Gierke 病（㋭57，58，61，67，363；㊒114-115，120-123）	A-1-2／必4-ア	①
9	11／4	糖質Ⅴ	血糖調節（㋭66；㊒114）	A-1-2，A-3-1／必4-ア	〃
10	11／11	脂質Ⅰ	脂質の分類，細胞膜とリン脂質，糖脂質と ABO 式血液型物質（㋭18-23；㊒44，116，50，51，118，128-136）	A-1-2／必4-ア	〃
11	11／18	脂質Ⅱ	流動モザイクモデル，脂質の分解酵素（㋭21，90；㊒15，133，132-134，141-142，145）	A-1-2／必4-ア	〃
12	11／25	脂質Ⅲ	脂質の消化吸収，脂質の輸送・リポ蛋白質，粥状動脈硬化（㋭74-78；㊒144-147）	A-1-2／必4-ア	〃
13	12／2	脂質Ⅳ	飢餓と糖尿病とアシドーシス，脂肪酸代謝（β酸化），グルコースと脂肪酸の貯蔵エネルギーの比較（㋭80-83；㊒137-139）	A-1-2／必4-ア･7-ウ	〃
14	12／9	脂質Ⅴ	脂質の合成（㋭84-92；㊒139-143）	A-1-2／必4-ア	〃
15	12／16	脂質Ⅵ	アラキドン酸代謝，エイコサノイド，炎症，血栓（㋭286-287；㊒131）	A-1-2／必4-ア	〃

口腔感染免疫学Ⅰ（通年・２単位）

D③④B-a2-2601（D2601）

科目責任者：玉井利代子（感染・教授）
科目担当者：①玉井利代子（感染），②山家　尚仁（感染），
③眞島いづみ（感染）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物について講義を行う。さらに微生物の感染に対してヒトは免疫応答と呼ばれる宿主反応を起こすことで病原微生物を排除する。この免疫応答を担う白血球の様々な働きや抗体の作用について分子レベルまで掘り下げて詳しく説明する。

２．一般目標

口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物とそれに対する免疫応答に関する知識を身につける。具体的には以下のことである。

１）微生物の種類とその特性を理解する。
２）病原微生物の病原性を理解する。
３）滅菌，消毒及び化学療法について理解する。
４）齲蝕と歯周病の原因菌を理解する。
５）微生物感染に対するヒトの免疫応答を理解する。

３．到達目標

１）微生物の種類とその特性を説明する。
２）病原微生物の病原性を説明する。
３）滅菌，消毒及び化学療法について説明する。
４）微生物感染に対するヒトの免疫応答を説明する。

４．履修の進め方

講義形式で教科書・配布プリントを使用して履修する。講義中に学習者に質問し，それに対する応答を求めて授業の理解度を確認する。

５．準備学修

毎回の講義終了時に次回の講義予定を説明するので，当該部分の配布プリント・教科書を読んでおくこと（15分）。

６．評価方法

定期試験（100点満点）で評価する。65点以上を合格とする。試験問題は記述式と多肢選択方式が含まれる。定期試験後に学生全員に模範解答を配布し，学生から意見があれば対応する。追試験は100点満点で採点し，その点数を評価とする。再試験は100点満点で採点し，65点以上は「65点」とする。

７．教本

口腔微生物学－感染と免疫－　第８版　学建書院　2024年

８．参考書

標準微生物学　第15版　医学書院　2024年

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／10	微生物概論	微生物の種類とその特徴	A-4-1-1／必-4-イ-a	①
2	4／17	細菌の形態	細菌の形態と構造	A-4-1-1／必-4-イ-a	〃
3	4／24	細菌の毒素	細菌の毒素	A-4-1-2／総Ⅲ-1-キ-a	〃
4	5／8	特殊な細菌	芽胞・リケッチア・クラミジア	A-4-1-1／必-4-イ-a	〃
5	5／15	細菌の遺伝学と生理学	細菌の遺伝子伝達と増殖メカニズム	A-4-1-1, 2／必-4-イ-a	〃
6	5／22	ウイルスの種類と特徴	ウイルスの特徴と種類	A-4-1-1／必-4-イ-a	①
7	5／29	感染症	新興感染症・再興感染症・輸入感染症・院内感染	A-4-1-3, 4, 5, 9／総Ⅲ-1-キ-b	〃
8	6／5	細菌の病原因子	細菌の病原因子の特徴とその発現メカニズム	A-4-1-2／総Ⅲ-1-キ-a	〃
9	6／12	細菌感染症Ⅰ	AMRのメカニズムと感染症	A-4-1-7, 9／総Ⅲ-1-キ-a	③①　①
10	6／19	細菌感染症Ⅱ	結核とその他の抗酸菌感染症	A-4-1-2, 3／各Ⅲ-4-ウ-c	①
11	6／26	細菌感染症Ⅲ	レンサ球菌感染症	A-4-1-2, 3／各Ⅴ-2-エ-k	〃
12	7／3	細菌感染症Ⅳ	大腸菌・赤痢菌・マイコプラズマ感染症	A-4-1-2, 3／各Ⅴ-2-エ-k	〃
13	7／10	細菌感染症Ⅴ	その他の細菌感染症	A-4-1-2, 3／各Ⅲ-4-ウ-a, b, 各Ⅴ-2-エ-k	〃
14	7／17	真菌感染症	カンジダ症などの真菌感染症	A-4-1-2, 3, 5／各Ⅴ-2-エ-k	〃
15	7／24	滅菌	滅菌法の種類とその特徴	A-4-1-8／必-11-エ-a	〃
16	9／4	消毒	消毒法の種類とその特徴	A-4-1-8／必-11-エ-a	〃
17	9／11	ヘルペスウイルス	ヘルペスウイルスとその病原性	A-4-1-2, 3／各Ⅴ-2-エ-k	〃
18	9／18	Ｂ型肝炎ウイルス	Ｂ型肝炎ウイルスとその病原性	A-4-1-2, 3／各Ⅴ-2-エ-k	〃
19	9／25	Ｃ型肝炎ウイルス	Ｃ型肝炎ウイルスとその病原性	A-4-1-2, 3／各Ⅴ-2-エ-k	〃
20	10／2	ヒト免疫不全ウイルス	ヒト免疫不全ウイルスとその病原性	A-4-1-2, 3／各Ⅴ-2-エ-k	〃
21	10／9	ヒトＴ細胞白血病ウイルス	ヒトＴ細胞白血病ウイルスとその病原性	A-4-1-2, 3／各Ⅴ-2-エ-k	〃
22	10／16	動物介在ウイルス	節足動物などの動物を介するウイルスとその病原性	A-4-1-2, 3／各Ⅴ-2-エ-k	〃
23	10／23	寄生虫感染症	原虫を含む寄生虫とその病原性	A-4-1-2, 3／各Ⅴ-2-エ-k	〃
24	10／30	病原微生物と感染症法	１～５類感染症の原因微生物とその病原性	A-4-1-2, 3／総Ⅲ-1-キ-b	〃
25	11／6	微生物に対する化学療法	化学療法薬の種類と作用メカニズム	A-4-1-6, 9／必-2-キ-c	〃
26	11／13	自然免疫	自然免疫の役割とその特徴	A-4-2-1／総Ⅱ-3-エ-a, b	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
27	11／20	獲得免疫	獲得免疫の役割とその特徴	A-4-2-2, 3／総Ⅱ-3-オ-a, b	①
28	11／27	抗原	抗原の種類とその特徴	A-4-2-3／総Ⅱ-3-ウ	〃
29	12／4	抗体Ⅰ	IgG と IgA について	A-4-2-2, 3, 4／総Ⅱ-3-オ-a	②①
30	12／11	抗体Ⅱ	IgM と IgD 及び IgE について	A-4-2-2, 3／総Ⅱ-3-オ-a	〃

歯科薬理学Ⅰ（後期・１単位）

D③④B-a1-2602（D2602）

科目責任者：柴田　達也（薬理・教授）
科目担当者：①柴田　達也（薬理），②長岡　正博（薬理），③髙橋文太郎（薬理）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

歯科臨床では様々な薬物を使用・処方する。また，医科で処方された薬を使用している患者の診療にもあたる。そのため歯科薬理学では解剖学・生理学・生化学などの知識を基盤として薬物と生体との関わりを学ぶことを目標とする。本科目はディプロマポリシー３．病態解析と治療概念に関連する。

２．一般目標

歯科臨床における薬物治療の位置づけを理解すると共に薬物の投与方法・作用機序，薬物動態などの基本的事項（ディプロマポリシー３の治療概念）を修得することを目標とする。

３．到達目標

１）薬物療法の目的と分類及び作用機序を説明できる。
２）薬理作用を規定する要因（用量と反応，感受性）を説明できる。
３）薬物動態（吸収，分布，代謝，排泄）を説明できる。
４）薬物の投与方法の種類と特徴を説明できる。
５）薬物の併用による影響（協力作用，拮抗作用）を説明できる。
６）薬物の連用による影響（耐性，蓄積，及び，薬物依存）を説明できる。
７）医薬品を適用する際の注意点を説明できる。
８）医薬品の分類，表示と保管を説明できる。
９）医薬品の開発プロセスと臨床試験における医薬品の評価を説明できる。

４．履修の進め方

講義主体で，スライドと配布プリントを使用して履修する。

５．準備学修

事前に各回の授業内容を確認し，教科書の該当部分を読むこと。その際，授業内容に関連する基礎知識（既に他科目で学修した事項）で不確実な事項があれば，確認しておくこと(30分)。授業後は，配布プリントの復習課題に取り組み，毎回の授業内容を確実にすること（30分)。

６．評価方法

多肢選択問題（MCQ）形式の定期試験（100％）で評価する。秀（100～90点），優（89～80点），良（79～70点），可(69～65点），不可（64点以下）に分類し，秀，優，良，可は合格とし，不可は不合格とする。追試験該当者は，追試験の点数が80点以上でも80点の採点結果とする。再試験該当者は，再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。試験のフィードバックは，正答の掲示等により適宜行う。

７．教本

鈴木邦明 監修「現代歯科薬理学」第７版　医歯薬出版　2024

８．参考書

鈴木邦明ほか 監修「疾病の成り立ち及び回復過程の促進３　薬理学」医歯薬出版　2023

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	９／４	薬理学総論１：薬物の作用１	薬理作用の目的と分類	A-6-2／必11-コ，総Ⅶ-8-ア	①②③
2	９／11	薬理学総論２：薬物の作用２	用量－反応関係	A-6-2／必11-コ，総Ⅶ-8-イ	〃
3	９／18	薬理学総論３：薬物の作用３	受容体を介する／介さない薬物の作用	A-6-2／必11-コ，総Ⅶ-8-ア	〃
4	９／25	薬理学総論４：薬物の作用４	受容体を介する／介さない薬物の作用	A-6-2／必11-コ，総Ⅶ-8-ア	〃
5	10／２	薬理学総論５：薬物の投与方法	薬物の投与方法の種類と特徴	A-6-3／必11-コ，総Ⅶ-8-イ	〃
6	10／９	薬理学総論６：薬物動態１	薬物動態（吸収・分布・代謝・排泄）	A-6-3／必11-コ，総Ⅶ-8-ア	〃
7	10／16	薬理学総論７：薬物動態２	薬物動態（吸収・分布・代謝・排泄）	A-6-3／必11-コ，総Ⅶ-8-ア	〃
8	10／23	薬理学総論８：薬物の併用	薬物の併用と相互作用	A-6-2／必11-コ，総Ⅶ-8-イ	〃
9	10／30	薬理学総論９：医薬品適用上の注意	服薬指導，ライフステージと薬物	A-6-3／必11-コ，総Ⅶ-8-イ	〃
10	11／６	薬理学総論10：薬物の連用	薬物の耐性，蓄積及び依存	A-6-4／必11-コ，総Ⅶ-8-イ	〃
11	11／13	薬理学総論11：医薬品の開発・薬害	医薬品の開発・薬害	A-6-1／必2-ケ	〃
12	11／20	薬理学総論12：薬物の副作用	薬物による副作用・有害作用・有害事象	A-6-4／必11-コ，総Ⅶ-8-イ	〃
13	11／27	薬理学総論13：薬物と法律	医薬品の分類，表示と保管	A-6-1，C-4-2／必2-イ	〃
14	12／４	薬理学総論14：薬理学総論のまとめ１	問題演習と解説	A-6-1～4／必11-コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃
15	12／11	薬理学総論15：薬理学総論のまとめ２	問題演習と解説	A-6-1～4／必11-コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃

生体材料・歯科材料学Ⅰ

（後期・２単位）

D③④B-a2-2603（D2603）

科目責任者：石田　喜紀（材料・教授）

科目担当者：①石田　喜紀（材料），②齋藤　龍一（材料），③大木　達也（材料）

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

歯科材料には金属材料，無機材料，有機材料，およびこれらを複合した材料があり，印象用，模型用，義歯床用など多様な形で応用されている。生体材料・歯科材料学は，これらの材料の成り立ちの基礎的な理論や特性および実際の取り扱い技術を学習する科目である。総論で物理学，化学，および生物学などの基礎的学力をもとに種々の歯科材料の特徴を学ぶ。各論では臨床で使用される材料であることを踏まえて，材料毎に所要性質，構成成分，その役割，物理化学的および機械的性質などを理解するとともに，それらの取り扱い法について学ぶ。

２．一般目標

歯科医師となるうえで，治療に必要な機材，材料の知識を当該科目にて学修する。

３．到達目標

１）歯科修復物を構成する各種の生体材料を説明できる。
２）成形加工に用いる歯科材料と器具の特性および使用法について説明できる。
３）さまざまな症例に適応した歯科材料や器具が選定できる。

４．履修の進め方

要点はスライドと配布資料を活用し，問題解説の時間を多くとることで学修内容をより深く理解できるようにする。視覚素材を使用することで極力図案として記憶出来るようにする。また，学生は板書の内容，教科書およびレジュメにて理解を深める。各項目終了後に問題集を配布し，各学生が自学自習後に知識の確認をさせる。

５．準備学修

各回の授業内容項目について，教科書の該当部分を読むこと（15分）。

授業内容について教科書にある図表を確認する（15分）。

６．評価方法

多肢選択問題（MCQ）形式の定期試験（80％）と記述形式の中間試験（10％×２回）の合計を100点とし，65点以上を合格とする。追試験は上限を80点，再試験は上限を65点で採点する。中間試験の追・再試験は必要に応じて適宜行う。フィードバックは問題を開示して適宜行う。

７．教本

中嶌　裕 他「スタンダード歯科理工学第８版」学建書院 2024年

８．参考書

なし。

9．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／4	歯科材料学総論（1）	歯科材料，生体材料の物理的化学的性質について	B-1-1, 2, 3／総Ⅷ-1-ア，イ	①
2	9／4	歯科材料学総論（2）	歯科材料，生体材料の物理的化学的性質について	B-1-1, 2, 3／総Ⅷ-1-ア，イ	〃
3	9／11	歯科材料学総論（3）	歯科材料，生体材料の物理的化学的性質について	B-1-1, 2, 3／総Ⅷ-1-ア，イ	〃
4	9／11	歯科材料学総論（4）	歯科材料，生体材料の物理的化学的性質について	B-1-1, 2, 3／総Ⅷ-1-ア，イ	〃
5	9／18	歯科材料学総論（5）	歯科材料，生体材料の物理的化学的性質について	B-1-1, 2, 3／総Ⅷ-1-ア，イ	〃
6	9／18	歯質の切削－1	歯質切削の理論と使用する機械・器材	B-3-2／総Ⅷ-2-ア，イ	〃
7	9／25	歯質の切削－2	歯質切削の理論と使用する機械・器材	B-3-2／総Ⅷ-2-ア，イ	〃
8	9／25	成形修復材－1	成形修復材の分類と所要性質	B-2-1／総Ⅷ-5-ア	②
9	10／2	成形修復材－2	コンポジットレジンの成分特性および操作法（1）	B-2-1／総Ⅷ-5-ア	〃
10	10／2	成形修復材－3	コンポジットレジンの成分特性および操作法（2）	B-2-1／総Ⅷ-5-ア	〃
11	10／9	成形修復材－4	歯質接着理論	B-2-1／総Ⅷ-5-ア	〃
12	10／9	成形修復材－5	酸処理剤	B-2-1／総Ⅷ-5-ア	〃
13	10／16	成形修復材－6	接着性モノマー	B-2-1／総Ⅷ-5-ア	〃
14	10／16	成形修復材－7	歯質に対する接着操作	B-2-1／総Ⅷ-5-ア	〃
15	10／23	予防填塞材料	予防材料の成分と特性	B-2-1／総Ⅷ-5-イ	〃
16	10／23	歯科用印象材－1	印象採得概説印象材の分類および所要性質	B-3-1／総Ⅷ-3	③
17	10／30	歯科用印象材－2	弾性印象材の種類，成分および性質（1）	B-3-1／総Ⅷ-3	〃
18	10／30	歯科用印象材－3	弾性印象材の種類，成分および性質（2）	B-3-1／総Ⅷ-3	〃
19	11／6	歯科用印象材－4	弾性印象材の種類，成分および性質（3）	B-3-1／総Ⅷ-3	〃
20	11／6	歯科用印象材－5	弾性印象材の種類，成分および性質（4）	B-3-1／総Ⅷ-3	③
21	11／13	歯科用印象材－6	非弾性印象材の種類，成分および性質	B-3-1／総Ⅷ-3	〃
22	11／13	歯科用模型材	模型材料の成分，特性および使用法	B-3-1／総Ⅷ-4-ア	〃
23	11／20	歯科用合金－1	歯科用合金の種類と特性	B-2-1／総Ⅷ-6-ウ	①
24	11／20	歯科用合金－2	貴金属合金－1	B-2-1／総Ⅷ-6-ウ	〃
25	11／27	歯科用合金－3	貴金属合金－2	B-2-1／総Ⅷ-6-ウ	〃
26	11／27	歯科用合金－4	非貴金属合金	B-2-1／総Ⅷ-6-ウ	〃
27	12／4	歯科用合金－5	金属の熱処理加工硬化	B-2-1／総Ⅷ-6-ウ	〃
28	12／4	歯科用合金－6	金属の接合	B-2-1／総Ⅷ-7-ウ-b	〃
29	12／11	矯正用材料	矯正用材料の成分と特性	B-2-4／総Ⅷ-10	〃
30	12／11	まとめ・中間試験	まとめ・中間試験	B-1, 2, 3／総Ⅷ-10	① ② ③

公衆衛生学（後期・１単位）

D③B-a1-2515(D2515)

科目責任者：小林美智代（衛生・准教授）
科目担当者：①小林美智代（衛生）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

公衆衛生学は個人ではなく「集団」を主な対象とし，社会全体の健康増進と疾病予防に対する解決策を求めていく学問である。歯科医師は，公衆衛生の向上・増進に寄与することが求められる。本科目では，その基礎となる公衆衛生学の基本としくみ，疫学的手法による疾病への関わり，生活環境対策および人口問題などについて講義を行う。

２．一般目標

学修者が歯科医師として必要な公衆衛生学的な考え方を学び，社会や環境が求める必要性に対して，的確に対応し解決できる能力を身につける。

３．到達目標

１）健康，障害，疾病と死の概念を理解している。
２）疫学と根拠に基づいた医療（EBM）を実践するための概念と応用法を理解している。
３）統計学の有用性と限界を踏まえながら，保健医療統計とその応用を理解している。
４）公衆衛生の視点から見た感染症と予防対策を理解している。
５）疾病予防や健康を保持増進する環境条件を見出すことの重要性を理解している。
６）食品衛生と栄養摂取基準を理解している。
７）主な人口統計（人口静態と人口動態），疾病の分類・統計（ICD 等），生命曲線を理解している。

４．履修の進め方

予習：教科書（該当ページ）を読み，講義内容の概略を把握しておくこと。
講義：講義内容に関するプリントを配布するので，必要に応じて該当プリントに記録を取りながら履修する。
復習：学習内容を整理するとともに，講義中に行った練習問題の見直しを行う。もし疑問点があった際には教員への質問等により早期に克服する。

５．準備学修

各回の講義範囲について教科書該当部分を読み，内容の概略を把握する（15分）。復習（20分）。

６．評価方法

定期試験（100％）で評価し，65点以上を合格とする。追試験100点満点で採点し，その点数を評価する。再試験は100点満点で採点し，65点以上を「65点」として評価する。

定期試験の形式は，多肢選択式（56問，84点）および記述式（２問，16点）で行う。

７．教本

安井利一 他編　スタンダード衛生・公衆衛生　第18版　学建書院　2023

８．参考書

なし。

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	8／31	公衆衛生概論	公衆衛生学概要，公衆衛生学の歴史	C-4-1, 3, C-5-3, 5／必2-ア，必3-ア，総Ⅰ-1-ア，オ	①
2	9／7	公衆衛生と健康の概念	健康と疾病の概念，疾病の自然史，健康保持増進対策	C-4-1, 3, C-5-1, 5／必2-ア，必3-ア，総Ⅰ-1-ア	〃
3	9／14	国際医療と日本	世界の保健・医療問題。日本の医療の特徴，国際社会への貢献協力	C-7-3, 4／総論Ⅰ-5-ア	〃
4	9／28	疫学Ⅰ	疫学の研究方法（記述疫学）	C-6-1／必9-ア，ウ，総論Ⅰ-6-ア，イ	〃
5	10／5	疫学Ⅰ	疫学の研究方法（分析疫学，実験疫学，臨床疫学）	C-6-1／必9-ア，ウ，総論Ⅰ-6-ア，イ	〃
6	10／19	疫学Ⅱ	疫学研究の実際（スクリーニング検査，統計手法）	C-6-1／必9-ア，ウ，総論Ⅰ-6-ア，イ	〃
7	10／26	疫学Ⅲ	根拠に基づいた医療（EBM）の実践，バイアスおよびエビデンスレベル	C-6-1／必9-ア，ウ，総論Ⅰ-6-ア，イ	〃
8	11／2	疾病予防と健康管理Ⅰ	感染性疾患と非感染性疾患の予防。感染症関連法規，院内感染の予防	C-4-2, C-5-4, C-7-5／必2-キ，総Ⅰ-7-ア	〃
9	11／9	疾病予防と健康管理Ⅱ	生活習慣病の予防，保健医療の統計調査	C-5-4, C-6-2／必3-ア，総Ⅰ-6-ウ	〃
10	11／16	環境と健康Ⅰ	環境問題と環境関連法規，水，大気と環境	C-4-5／総Ⅰ-9-ア	〃
11	11／30	環境と健康Ⅱ	温熱環境，放射線，廃棄物	C-4-5／総Ⅰ-9-ア	〃
12	12／7	食生活と健康Ⅰ	日本人の食事摂取基準，食品保健	E-5-2, C-6-2／総Ⅰ-8-ア，イ	〃
13	12／14	食生活と健康Ⅱ	食中毒の予防	E-5-2, C-6-2／総Ⅰ-8-ア，イ	〃
14	12／17	人口問題Ⅰ	人口静態統計，人口指数，人口割合，生命表	C-6-2／総Ⅰ-6-ウ	〃
15	12／21	人口問題Ⅱ	人口動態統計（出生，死亡の指標）	C-6-2／総Ⅰ-6-ウ	〃

第３学年

教養系教育・基礎科学教育科目

歯科医療管理学 …… 125
社会歯科学 …… 126
歯科医療人間学Ⅲ …… 127

生命科学教育科目

口腔生理学Ⅱ …… 128
口腔生化学Ⅱ …… 129
口腔生化学実習 …… 130
口腔病理学 …… 131
口腔病理学実習 …… 134
口腔感染免疫学Ⅱ …… 135
口腔感染免疫学実習 …… 136
歯科薬理学Ⅱ …… 137
歯科薬理学実習 …… 139
生体材料・歯科材料学Ⅱ …… 140
生体材料・歯科材料学実習 …… 141
口腔衛生学 …… 142
口腔衛生学実習 …… 144

口腔科学教育科目

保存修復学Ⅰ …… 145
冠橋義歯補綴学Ⅰ …… 147
有床義歯補綴学Ⅰ …… 148
有床義歯補綴学Ⅰ実習 …… 150
口腔外科学Ⅰ …… 151
口腔内科学 …… 153
歯科放射線学Ⅰ …… 154
高齢者歯科学Ⅰ …… 156
災害歯科医学 …… 157
総合臨床医学 …… 158

歯科医療管理学（後期・１単位）

D①②A-a1-3209（D3209）

科目責任者：南　健太郎（衛生・教授）
科目担当者：①南　健太郎（衛生）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

歯科医療管理学は，歯科医療を社会に適応するための環境および条件への考察を理論管理論で捉え，それを基本とする手段・行動を実践管理論でとらえる医療の管理学で歯科医療を社会に提供する社会歯科学系の学問である。そこで，本科目では質の高い歯科医療サービスを安定して供給し，患者満足度を高めることにより，地域社会に貢献していくための実践的な知識を総合的に講義する。

２．一般目標

安心・安全な良質の歯科医療を提供するために必要な歯科医療管理の基礎的事項を理解して，実践できるようにする。

３．到達目標

１）歯科医療管理の概要について説明できる。
２）歯科医師の義務について説明できる。
３）診療記録・情報の意義および法令で定められた取り扱いについて説明できる。
４）医療安全確保，医療事故の回避及び発生後の原因追及について説明できる。
５）歯科診療所の開設・管理について説明できる。
６）感染の予防と管理について説明できる。
７）社会保障制度について説明できる。
８）国民医療費について説明できる。

４．履修の進め方

スライド，配布資料を使用して，教科書の内容をより分かりやすく解説する。

５．準備学修

前期に履修する社会歯科学と関連があるので，履修済みの内容に関しては復習しておくこと（30分）。

６．評価方法

定期試験（100％）で評価し，65点で合格とする。再試験は65点を上限とし，追試験は100点を上限とする。なお，試験形式はすべて多肢選択方式（MCQ：Multiple Choice Question）とする。

７．教本

［新版］歯科医療管理学　安全・安心・信頼の歯科医療を提供するために　第１版　医歯薬出版株式会社　2018

８．参考書

スタンダード社会歯科学　第７版　学健書院

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／4	歯科医療管理学総論，歯科医師法①	歯科医療管理学とは，歯科医師法	C-1-1／必2-イ	①
2	9／11	歯科医療	歯科医療と患者の権利，歯科医療とコンプライアンス，DOS と POS	C-4-2／必2-イ，必2-キ	〃
3	9／18	歯科医療の法的性格	歯科医療と医療法，医療法の目的と理念	C-1-2／必2-イ	〃
4	9／25	歯科医療と医療法	医療機関の開設と管理，医業等に関する広告制限，広告可能な診療科名	C-4-2／必2-イ	①
5	10／2	歯科診療所の開設	歯科診療所の従業員，設備，建物管理	C-4-2／必2-イ	〃
6	10／9	歯科医療安全	医療安全，感染予防管理，医療機器の管理	C-3-1／必2-カ	〃
7	10／16	診療所管理と医療監視	医療廃棄物の処理・管理	C-3-3／必2-キ	〃
8	10／23	歯科医療事故の対応	医療機器管理，医療過誤の民事・刑事責任・行政責任	C-3-2／必2-カ	〃
9	10／30	医療情報管理	診療録，電子診療録，個人情報保護	D-4-1／必2-サ	〃
10	11／6	医事紛争と処理	医事紛争の原因，防止，解決	C-3-2／必2-カ	〃
11	11／13	医療制度	日本の医療制度	C-4-3／総Ⅰ-1-ウ	〃
12	11／20	介護保険	介護保険，セカンドオピニオン	C-4-3／必2-イ，総Ⅰ-1-ウ	〃
13	11／27	生活保護	生活保護制度，医療券，申請保護の原則	C-4-3／総Ⅰ-1-ウ	〃
14	12／4	医療連携	地域完結型医療の背景，チーム医療，地域包括ケアシステム	C-3-2／必2-イ	〃
15	12／11	かかりつけ歯科医	かかりつけ歯科医の機能	C-1-1／総Ⅰ-1-オ	〃

社会歯科学（前期・１単位）

D①②A-a1-3208（D3208）

科目責任者：南　健太郎（衛生・教授）
科目担当者：①南　健太郎（衛生）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

社会歯科学は，歯科医師が歯科医療と保健指導を実施するための制度を学ぶ学問である。本科目では，歯科医師として当然具備すべき法律の知識や社会情勢の変遷について学ぶ。

２．一般目標

学修者は歯科医師として稼働するのに必要な法的知識と社会保障制度について学び，社会の変化やニーズに対応できる基礎的能力を習得する。

３．到達目標

学修者は以下の到達目標を説明できる。
１）わが国の行政機構を説明できる。
２）歯科医師の刑事・民事・行政責任を説明できる。
３）歯科医療関連法規を説明できる。
４）社会保障制度を説明できる。
５）医療保険制度と国民医療費を説明できる。
６）わが国の社会構造の変化に伴う歯科医療・保健の変化を説明できる。

４．履修の進め方

スライド，配布資料を使用して，教科書の内容をより分かりやすく解説する。

５．準備学修

教科書（シラバスより授業内容を確認）をよく読み，講義の内容を把握しておくこと（15分）学習した内容を整理し，疑問点がないか確認すること。（30分）

６．評価方法

定期試験で評価し，65点以上で合格とする。試験形式は多肢選択方式50問とする。再試験は65点を上限とし，追試験は100点を上限とする。

７．教本

石井拓男 他　編　スタンダード社会歯科学　第８版　学研書院

８．参考書

なし

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／13	社会歯科学概論	歯科医師の責務と倫理	C-1-1／必1-ア	①
2	4／20	医事衛生法規１	歯科医師法，歯科衛生士法，歯科技工士法	C-4-2／必2-イ	〃
3	4／27	医事衛生法規２	医療法	C-4-3／必2-イ	〃
4	5／11	医療連携，チーム医療	医療関係職種，医長機関でのチームワーク，地域医療でのチームワーク	C-1-3／必2-ウ	〃
5	5／18	診療情報・診療記録	診療情報，診療録・医療記録，診断書	C-3-1／必2-サ	〃
6	5／25	医療の質と安全の確保	医療の質の確保，医療事故防止，院内感染対策，医事裁判	C-3-1)／必2-カ，キ	①
7	6／1	薬事衛生法規	医薬品，医療機器等の品質，有効性及び安全性の確保に関する法律，臨床試験と倫理	C-4-2／必2-ケ	〃
8	6／8	衛生行政とその他の衛生法規１	地域保健法，健康増進法	C-4-5／総Ⅰ-1-オ，総Ⅰ-8-イ	〃
9	6／15	衛生行政とその他の衛生法規２	学校保健安全法，母子保健法，労働安全衛生法，歯科口腔保健の推進に関する法律	C-5-5／総Ⅰ-2-ア，イ，ウ，	〃
10	6／22	社会保険１	医療保険	C-4-3／総Ⅰ-1-ウ	〃
11	6／29	社会保険２	介護保険，地域包括ケアシステム	C-4-3／総Ⅰ-1-ウ，カ	〃
12	7／6	社会保障制度	年金保険，雇用保険	C-4-3／総Ⅰ-4-ア	
13	7／13	公的扶助	生活保護法	C-4-3／総Ⅰ-1-ウ	〃
14	7／27	社会福祉	精神保健福祉法，障害者総合支援法	C-4-3／総Ⅰ-2-カ，総Ⅰ-1-オ	〃
15	7／28	国民医療費	国民医療費	C-4-3／総Ⅰ-4-ア	〃

歯科医療人間学Ⅲ（前期・１単位）

D①A-a1-3403(D3403)

科目責任者：中川　敏浩（衛生・准教授）
科目担当者：①中川　敏浩（衛生），②長岡　正博（薬理），
③吉田いくよ（非常勤），④鈴木　俊子（非常勤），
⑤本多　真史（日本語）
※この科目は，診療経験のある歯科医師及び一般企業勤務経験のある教員が担当する

１．科目の概要

歯科医療人間学（Dental Practice Human Science）は，本学歯学部の目的である，「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師の養成」を実践する学問であり，高度専門職業人（プロフェッショナル）としての歯科医師である前に社会人としての素養，教養および社会適応能力を高揚し，自らのホスピタリティマインドに加えて，患者中心の医療を全人的に捉えるため，身体面，心理面，社会面，倫理面の各要素を総合的かつ包括的に理解し，「歯科医療の安全・安心・信頼の文化」を醸成することにある。

２．一般目標

人間性豊かな優れた歯科医師となるために，大学で学ぶ目的を明確化し，歯学医療現場にふれ，基本的なコミュニケーションや日常習慣の重要性を認識する態度，知識および技能を修得する。

３．到達目標

１）医療現場でのルールを理解する。
２）医療人として謙虚な態度を示す。
３）患者の訴えを正確に聞き取る。
４）基本的な会話で診療室情報を尋ねる。

４．履修の進め方

講義形式で教本に準じてスライドと資料を用いて履修する。

５．準備学修

事前にシラバスで内容を確認する。また，人と接する時は状況を把握し，意識をして対応することを日頃から心がける。参考書や参考資料は特にないが配付したプリントを活用して自然に実践できるように日々訓練をする。(30分)

６．評価方法

最終日のビデオ撮影（言語表現・非言語表現・全体印象評価）や記述式試験，客観的試験により平均値を算出し65点以上を合格とする。

７．教本

特になし

８．参考書

なし

９．授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／13	オリエンテーション	歯科医療人間学Ⅲの講義内容と予定	CM-01～05／総Ⅴ-1-ア，必８-ウ-a，b，c，d，e	①～⑤
2	4／20	コミュニケーションとパフォーマンス	これまでのまとめと復習	CM-01～05／総Ⅴ-1-ア，必８-ウ-a，b，c，d，e	〃
3	4／27	聴くこと・伝えることⅠ	如何に正確に伝わるか，伝えるか	CM-01～05／総Ⅴ-1-ア，必８-ウ-a，b，c，d，e	〃
4	5／11	聴くこと・伝えることⅡ	如何に正確に伝わるか，伝えるか	CM-01～05／総Ⅴ-1-ア，必８-ウ-a，b，c，d，e	①～⑤
5	5／22	チーム医療について	チーム医療の意義 医療チームと各構成員の役割分担と連携	IP-1～4／総Ⅰ-1-エ-i，必2-ウ-a，b	①
6	5／25	パワーパフォーマンスを身に付けようⅠ	印象的な非言語コミュニケーションを会得する	CM-01～05／総Ⅴ-1-ア，必８-ウ-a，b，c，d，e	②③④
7	6／1	パワーパフォーマンスを身に付けようⅡ	ソーシャルスキルを会得する	CM-01～05／総Ⅴ-1-ア，必８-ウ-a，b，c，d，e	〃
8	6／8	チーム医療について	チーム医療における歯科の役割，情報提供	IP-1～4／総Ⅰ-1-エ-i，必2-ウ-a，b	①
9	6／15	伝わる話し方Ⅰ	小児，保護者，高齢者への話し方，伝え方	CM-01～05／総Ⅴ-1-ア，必8-ウ-a，b，c，d，e	②③④
10	6／22	伝わる話し方Ⅱ	治療計画の提示，インフォームド・コンセントの伝え方	CM-01～05／総Ⅴ-1-ア，必8-ウ-a，b，c，d，e	〃
11	6／29	医療面接について	知識と範囲１	CM-01～05／総Ⅴ-1-ア，必8-ウ-a，b，c，d，e	①～⑤
12	7／6	医療面接について	あいさつ，会話の際の言葉遣い，気配り	CM-01～05／総Ⅴ-1-ア，必8-ウ-a，b，c，d，e	〃
13	7／13	医療面接について	医療人としてのふるまい，動作について	CM-01～05／総Ⅴ-1-ア，必8-ウ-a，b，c，d，e	〃
14	7／27	形成的評価	形成的評価実技試験（撮影）	C-3-１／必-2-カ-f	〃
15	7／28	形成的評価	形成的評価試験（記述式）	関連範囲	〃

口腔生理学Ⅱ（前期・１単位）

D③B-a1-3508(D3508)

科目責任者：山崎　信也（生理・教授）
科目担当者：①山崎　信也（生理），②大須賀謙二（生理），
③古山　　昭（生理）
※この科目は，主に診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

生理学は，細胞から個体の行動にいたる各レベルの種々の生体機能および機構を対象として正常な状態における生命現象の機序について学ぶことを目的とした科目である。ヒトは生命を維持するための生体恒常性が乱され，その修復が困難な時に病気となる。それゆえ，正しい治療や予防措置を施すためには，病気の原因や患者の状態を正確に把握していなければならない。そのためには生体の正常な基本的機能を学び知っておくことが不可欠であり，それらの知識なくして病理学や薬理学などを正しく理解することはできないと言ってよい。講義には，近年の分子生物学や細胞生物学の著しい進展にともなった新しい内容が随時盛り込まれる。講義の各論は相互に密接な関連をもち，独立したものではないことを銘記すべきである。また生体機能は合理的に構成され，多くの場合に論理的に説明できる。

歯科医として，生理学は必要不可欠な科目である。生理学を知ることなく麻酔学や補綴学，あるいは口腔外科学を学ぶことはできない。この授業では，臨床医として最低限の正常な体の仕組みを理解し，把握することを目標とする。従って，学習に際しては，基礎的事項を必ず記憶してから「理解」をすることが大切である。

本科目では，顎・口腔・顔面領域の器官およびそれらと密接な関係をもつ器官の機能に関する基本的事項については重点的に充分な理解をすることが肝要である。

本科目の行動目標としては，種々の生命現象を営む生体の機構，特に顎・口腔・顔面領域の機構について適切な生理学用語を用いて説明でき，また，各器官の協調活動によって個体の健康が維持されていること，および歯科診療において対象となる疾患の病態生理学の基礎を理解できるようにすることである。

２．一般目標

臨床歯科学を学習する基盤を構築するために，生体機能，生命現象の機序を理解する。

３．到達目標

１）生命現象を営む生体の機構を説明できる。
２）各器官の協調活動を説明できる。
３）歯科疾患の病態生理を説明できる。

４．履修の進め方

講義を主体として，適宜，プリントやスライドを用いた視覚的素材を活用し，人体の構造，詳細な構築およびそれらの機能に関して説明を加えながら進めていく。

５．準備学修

生物学や解剖学が生理学の基礎となるため，これらの科目と連動させて学習すること。予習は，シラバスで内容を確認して，教科書・参考書で学習する（10分）。復習は，講義内容について講義ノート（プリント）・教科書・参考書で学習する（40分）。履修後は，すべての科目につながるため，繰り返し学習することが重要である。

６．評価方法

前期の定期試験において，65点以上を合格とする。65点未満の場合には再試験を行う。65点未満の再試験受験該当者は，再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。追試験該当者に対しては，100点満点として試験を行い，65点以上を合格とする。なお，試験問題の内容に関しては，多肢選択問題と記述式問題を出題する。

７．教本

吉垣純子他 編「ビジュアル生理学・口腔生理学」第４版 学建書院　2025

岩田幸一・井上富雄ほか 編「基礎歯科生理学」第７版 医歯薬出版　2020

８．参考書

なし

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／8	排泄(Ⅰ)	ネフロンの働き，尿の生成，再吸収と分泌	A-3-1／必4-ア-e，総Ⅱ-1-キ	②
2	4／15	排泄(Ⅱ)	細胞外液量の調節と浸透圧の調節	A-3-1／必4-ア-e，総Ⅱ-1-キ	〃
3	4／22	排泄(Ⅲ)	ホルモン，排尿の神経機序	A-3-1／必4-ア-e，総Ⅱ-1-キ	〃
4	5／13	運動(Ⅰ)	随意運動，脊髄反射と姿勢反射	A-3-1／総Ⅱ-1-ク	③
5	5／20	運動(Ⅱ)	運動制御のしくみ，運動中枢と大脳基底核	A-3-1／総Ⅱ-1-ク	〃
6	5／27	運動(Ⅲ)連合系	脳幹と小脳の機能，大脳皮質感覚－運動連合系の役割	A-3-1／総Ⅱ-1-ク	〃
7	6／3	脳と行動(Ⅰ)	大脳皮質の機能局在，情動と本能行動	A-3-1／総Ⅱ-1-ク	〃
8	6／10	脳と行動(Ⅱ)	大脳辺縁系，視床下部，意識	A-3-1／総Ⅱ-1-ク	〃
9	6／17	脳の統合機能	脳波，睡眠，記憶	A-3-1／総Ⅱ-1-ク	〃
10	6／24	構音と発声(Ⅰ)	喉頭の構造と発声のしくみ 発声器官としての口腔	A-3-2／総Ⅵ-1-イ	②
11	7／1	構音と発声(Ⅱ)	言語音形成のしくみ	A-3-2／総Ⅵ-1-イ	〃
12	7／8	摂食・嚥下	嚥下運動の特徴と中枢性機序	A-3-1，A-3-2，D-5-7／必-6-イ，総Ⅱ-6-エ	①
13	7／15	嘔吐	嘔吐の特徴と発生機序	A-3-2／必-7-ア，総Ⅳ-1-エ	〃
14	7／22	体温調節と代謝(Ⅰ)	体温調節と代謝	A-3-1／必4-ア-e，総Ⅱ-1-ク，ケ	②
15	7／29	体温調節と代謝(Ⅱ)	体温調節と中枢	A-3-1／必4-ア-e，総Ⅱ-1-ク，ケ	〃

口腔生化学Ⅱ（前期・２単位）

D③B-a2-3511（D3511）

科目責任者：前田　豊信（生化・教授）
科目担当者：①前田　豊信（生化），②神林　直大（生化）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

生化学は代謝という化学的な側面から生体の成り立ちを理解する学問である。暗号化され細胞の核に保存されている遺伝情報は基本的にタンパク質の一次構造でしかないが，生体には脂質や糖質などたくさんの物質から成り立っている。遺伝情報を司る核酸そのものさえ，糖やアミノ酸，リン酸などから合成されているのである。口腔生化学Ⅱでは，歯科・口腔領域に特化した生化学について専門的に学ぶ。また，癌やメタボリックシンドロームなど社会的に問題となっている病態について生化学的側面から理解を深めるとともに，遺伝学の一端として，先天性疾患について臨床科目での講義に先立ち，これらの発症原因となっている障害遺伝子の本来の役割などを通じて病態との関連性に対する理解を深める。

２．一般目標

歯科・口腔領域として，細胞外マトリックス分子，骨，軟骨，歯，唾液，及び齲蝕について焦点を絞り，構造と機能について学修する。また，染色体異常，結合組織の異常，色素沈着のみられる疾患，新生児のマススクリーニング対象疾患などについて焦点を絞り，遺伝形式と病態の基本的事項について学ぶ。

３．到達目標

1）細胞外マトリックス分子の構造と機能について説明できる。
2）硬組織の構造と機能を説明できる。
3）血清カルシウムのホメオスタシスについて説明できる。
4）唾液・プラーク・齲蝕の分子機構について説明できる。
5）細胞内情報伝達機構について説明できる。
6）DNA の損傷と修復について説明できる。
7）遺伝病・遺伝子病の成因について例を挙げて説明できる。
8）生活習慣病の成因について説明できる。

４．履修の進め方

予　習：教科書（該当箇所のページ）を読み，講義内容の概略を把握するとともに疑問点を見出しておく。
講　義：板書やパワーポイントを使用した解説を聴講し，予習内容の確認と知識の整理を行うとともに，予習中に見出された疑問点を解決する。
復　習：学修内容を整理するとともに，事前に生じた疑問点について解決したかを確認する。
その他：新たに生じた疑問点などについては，教科書の利用や教員への質問等により早期に克服する。

５．準備学修

講義の項に該当する内容についてスタンダード生化学・口腔生化学　第４版（学研書院）を用いて内容を把握するとともに，予め疑問点を見出しておく（15分）。復習（20分）。

６．評価方法

定期試験（多肢選択形式，100点満点）にて実施する。65点以上を合格とする。追試験は定式試験（本試験）に準じて得点をそのまま使用するが，再試験では65点以上を65点とする。単位の認定は次に従う。秀：90点以上，優：89～80点，良：79～70点，可：69～65点，不可：64点以下

７．教本

スタンダード生化学・口腔生化学　第４版（学研書院）

８．参考書

なし

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／10	細胞外マトリックス分子Ⅰ	コラーゲンの構造，分布 コラーゲンの合成	A1-5, A-3-1／必4-ア	①
2	4／10	細胞外マトリックス分子Ⅱ	弾性繊維・エラスチン・フィブリリン，Marfan 症候群	A1-5, A-3-1／必4-ア	〃
3	4／17	細胞外マトリックス分子Ⅲ	細胞接着性糖蛋白質，種類と分布	A1-5, A-3-1／必4-ア	〃
4	4／17	細胞外マトリックス分子Ⅳ	細胞外マトリックスとインテグリン，細胞外マトリックスの分解	A1-5, A-3-1／必4-ア	〃
5	4／24	細胞外マトリックス分子Ⅴ	グリコサミノグリカンとプロテオグリカン	A1-5, A-3-1／必4-ア	〃
6	4／24	硬組織Ⅰ	歯牙硬組織のタンパク質	A1-5, A-3-1／必4-ア	〃
7	5／8	硬組織Ⅱ	骨のタンパク質	A1-5, A-3-1／必4-ア，総Ⅱ-8-ウ	〃
8	5／8	硬組織Ⅲ	石灰化機構，軟骨細胞の分化，骨芽細胞の分化	A-3-1／必4-ア，総Ⅱ-8-ウ	〃
9	5／15	硬組織Ⅳ	破骨細胞の分化，生理的骨吸収，炎症性骨吸収	A-3-1／必4-ア，総Ⅱ-8-ウ	〃
10	5／15	硬組織Ⅴ	骨のリモデリング	A-3-1／必4-ア，総Ⅱ-9-ウ	〃
11	5／22	血清カルシウム，リン濃度の調節機構Ⅰ	血清カルシウム濃度の調節機構	A-3-1／必4-ア，総Ⅱ-9-ウ	〃
12	5／22	血清カルシウム，リン濃度の調節機構Ⅱ	ホルモンと骨吸収	A-3-1／必4-ア，総Ⅱ-8-ウ	〃
13	5／29	血清カルシウム濃度の調節機構Ⅲ	副甲状腺機能亢進症，慢性腎不全	A-3-1／必4-ア，総Ⅱ-8-ウ	〃
14	5／29	唾液の機能Ⅰ	唾液中の無機質	A-3-3／必4-ア，総Ⅱ-6-カ	〃
15	6／5	唾液の機能Ⅱ	唾液中の有機質	A-3-3／必4-ア，総Ⅱ-6-カ	〃
16	6／5	歯の堆積物Ⅰ	ペリクルの成因	D-3-2／必5-ア，イ，総Ⅱ-6-カ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
17	6／12	歯の堆積物Ⅱと口臭	プラークの成因と酸産生	D-3-2／必4-イ，総Ⅱ-2-イ，総Ⅲ-2-ア	①
18	6／12	齲蝕	アパタイトの崩壊，ステファン曲線，再石灰化，酸抵抗性，軟化象牙質	D-3-2／必4-イ，総Ⅱ-2-イ，総Ⅲ-2-ア	〃
19	6／19	細胞の情報伝達機構Ⅰ	分泌様式，細胞内情報伝達機構（Gタンパク質共役型受容体）	A-1-5／必4-ア，総Ⅱ-8-ウ	〃
20	6／19	細胞の情報伝達機構Ⅱ	細胞内情報伝達機構（チロシンキナーゼ型受容体，セリンスレオニン型受容体）	A-1-5／必4-ア，総Ⅱ-8-ウ	〃
21	6／26	細胞の老化	細胞複製とテロメア	A-1-3／必4-ア	②
22	6／26	細胞周期の制御機構	チェックポイント	A-1-4／必4-ア	〃
23	7／3	アポトーシスの分子機構	TNF α，FasL，カスパーゼ，CAD，プログラム細胞死	A-1-4，A-5-2／必4-ア	〃
24	7／3	DNAの損傷・修復	DNAの損傷，化学発癌物質，付加体形成，修復機構	A-1-3，A-5-6／必4-ア	〃
25	7／10	発癌機構と癌の特性	癌遺伝子，癌抑制遺伝子，発癌ウイルス，多段階発癌	A-1-3，A-5-6／必4-ア･7-ウ，総Ⅲ-1-コ	〃
26	7／10	遺伝性疾患	遺伝，染色体異常症，色素沈着を伴う疾患	A-5-1／必4-ア A-1-3／必4-ア･6-ア	〃
27	7／17	エネルギー代謝と臓器	肝臓・腎臓の機能	A-1-2，A-3-1，D-2-3／総Ⅱ-8-ウ	①
28	7／17	疾患と生化学的検査	AST，ALT，ALP，γ-GTPなど	A-1-2，A-3-1，D-2-3／総Ⅱ-8-ウ	〃
29	7／24	生活習慣病の成因基盤Ⅰ	メタボリックシンドローム（診断基準，成因），摂食ホルモン	A-5-2，D-2-3／各Ⅱ-3-ア	〃
30	7／24	生活習慣病の成因基盤Ⅱ	糖尿病（診断基準，成因，病態），動脈硬化，痛風	A-5-2／各Ⅱ-3-ア	〃

口腔生化学実習（前期・１単位）

D③B-c1-3512(D3512)

科目責任者：前田　豊信（生化・教授）
科目担当者：①前田　豊信（生化），②加藤　靖正（生化），③神林　直大（生化），④羽鳥　智也（非常勤），⑤鈴木　厚子（非常勤）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

生化学は，物質代謝の面から生命の成り立ちを理解する学問である。そこから発生した分子生物学や遺伝子工学などは，核酸を主として扱うことに特化した学問で，生化学との深い関わりの中で発展してきた。ヒトゲノム計画終了により，染色体上の遺伝子配列が全て決定されたのも，分子生物学や遺伝子工学といった分野の進歩が大きく寄与している。そこで，本実習では，生体を構成する基本的な物質，医学的に重要な血液検査項目，さらに遺伝子の解析方法まで幅広く実体験してもらい，座学での知識をさらに深めることを目的としている。

２．一般目標

１）測定機器の取り扱い方を習得する。
２）測定法の原理と特異性を理解する。
３）解析方法の理論と技術を習得する。
４）データベースからデータを取得して応用できる。

３．到達目標

１）測定機器の基本的な取り扱いができる。
２）生体構成物質の基本的な取り扱いができる。
３）測定法の原理を説明できる。
４）測定領域を決定するにあたり，オンラインデータベースを活用できる。
５）測定した結果をまとめることができる。
６）測定した値の意味を考察できる。

４．履修の進め方

予　習：教科書の該当箇所を読み，当日の実習内容に関連した項目を把握しておく。
実　習：配布されるプリントに従って実習を行い，予習内容の知識を用いて考察する。
復　習：学修内容を整理するとともに，疑問点などについては，教科書の利用や教員への質問等により早期に克服する。

５．準備学修

該当する内容についてスタンダード生化学・口腔生化学第４版（学研書院）を用いて内容を把握するとともに，予め疑問点を見出しておく（10分）。復習（15分）。

６．評価方法

実習内容と関連知識を問う試験３回の平均（60％）と９回の実習冒頭で実施する復習小試験（10％）とレポート（30％）により評価し，65点以上を合格とする。レポートは，項目ごとに配布された記入用紙に，実習中に記載し即日提出する。記載項目がすべて網羅されていることをミニマムリクワイアメントとする。また，欠席者は，日数に応じた課題の提出を必須とする。

７．教本

スタンダード生化学・口腔生化学　第４版（学研書院）

８．参考書

なし

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	４／７	吸光度	測定機器の取扱い方	総Ⅵ-3-ア， 必9-ア～エ	① 〃 ⑤
4 5 6	４／14	タンパク質Ⅰ（血清蛋白質）	血清蛋白質の分離とその意義	A-1-2／ 必4-ア， 必9-ア～エ， 総Ⅵ-3-ア	〃
7 8 9	４／21	タンパク質Ⅱ（酵素）	AST，ALT活性の測定とその意義	A-1-2／ 必4-ア， 必9-ア～エ， 総Ⅵ-3-ア	〃
10 11 12	４／28	糖	血糖と血中ホルモン濃度測定	A-1-2／ 必4-ア， 総Ⅵ-3-ア	〃
13 14 15	５／12	解説講義	糖，蛋白質，酵素（Ⅰ，Ⅱ）についてのまとめ	A-1-2／ 必4-ア， 必9-ア～エ， 総Ⅵ-3-ア	〃
16 17 18	５／19	振返り学習：試験①	自学習（知識の整理）：学習効果を確認する	A-1-2／ 必4-ア， 必9-ア～エ， 総Ⅵ-3-ア	〃
19 20 21	５／26	石灰化Ⅰ	ALPの測定と石灰化	A-3-1／ 必9-ア～エ， 総Ⅱ-8-ウ	〃
22 23 24	６／２	石灰化Ⅱ	血中CaとPの測定	A-3-1／ 必9-ア～エ， 総Ⅱ-8-ウ	〃
25 26 27	６／９	唾液	ホスホホリンの検出	A-3-4／ 必4-ア， 必9-ア～エ， 総Ⅱ-8-イ	〃
28 29 30	６／16	解説講義	石灰化（Ⅰ，Ⅱ）についてのまとめ	A-3-1･-4／ 必4-ア， 必9-ア～エ， 総Ⅱ-8-イ･ウ	〃
31 32 33	６／23	振返り学習：試験②	自学習（知識の整理）：学習効果を確認する	A-3-1･-4／ 必4-ア， 必9-ア～エ， 総Ⅱ-8-イ･ウ	〃
34 35 36	６／30	核酸Ⅰ	DNAの取り扱い方 PCR法 PCRプライマー設計	A-1-3／ 必4-ア， 総Ⅵ-3-ア	〃
37 38 39	７／７	核酸Ⅱ	RT-qPCRによるオステオカルシン遺伝子検出	A-1-3／ 必4-ア， 総Ⅵ-3-ア	〃
40 41 42	７／14	核酸Ⅲ	リアルタイムPCR	A-1-3／ 必4-ア， 総Ⅵ-3-ア	〃
43 44 45	７／21	振返り学習：試験③	自学習（知識の整理）：学習効果を確認する	A-1-3／ 必4-ア， 総Ⅵ-3-ア	〃

口腔病理学（通年・４単位）

D③④B-a4-3604（D3604）

科目責任者：遊佐　淳子（病理・教授）

科目担当者：①遊佐　淳子（病理），②山﨑　幹子（非常勤），③河西　敬子（非常勤）

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

口腔病理学は病気の原因，経過およびその結果生じる形態的・機能的変化を学ぶことによって，病気の本質を理解することを目標としており，ディプロマポリシー（３）に関連する。口腔病理学の講義ではまず病理学総論として，細胞傷害と細胞の適応現象，代謝障害，循環障害，炎症，免疫異常，遺伝性疾患と奇形，および腫瘍について講義する。病理学総論に引き続き，齲蝕を初めとする歯牙硬組織疾患，歯髄，根尖部歯周組織，辺縁部歯周組織，顎骨，口腔粘膜，唾液腺等の顎口腔領域に発生する疾患について，分類，原因，病理発生，臨床像および病理組織像などを講義する。口腔病理学は臨床歯学に深く関連することから，臨床歯学を学ぶ前に口腔病理学を充分理解しなければならない。

２．一般目標

１）疾病を総括的に理解するために病理学総論として，細胞の傷害と細胞の適応現象，代謝障害，循環障害，免疫異常，炎症，腫瘍，遺伝性疾患と奇形について概略を学ぶ。

２）歯科臨床における疾病を理解するために，病理学各論（口腔病理学）として，齲蝕をはじめとする歯牙硬組織疾患，歯髄，根尖部および辺縁部の歯周組織，顎骨，口腔粘膜，唾液腺等の顎口腔領域全般における疾患について，分類，原因，病理発生，臨床像および病理組織像の特徴などを学ぶ。

３．到達目標

１）細胞傷害と細胞の適応現象を説明する。
２）代謝障害の病変を説明する。
３）循環障害の病変を説明する。
４）炎症の原因と分類を説明する。
５）免疫異常による病変を説明する。
６）遺伝性疾患の病変を説明する。
７）腫瘍の特徴と病変を説明する。
８）顎口腔領域疾患の分類，原因および病変を説明する。

４．履修の進め方

スライド投影を用いた説明を主体とした講義を行う。また，講義プリントを配布する。

５．準備学修

事前学習（30分）：第２学年の解剖学・組織学・感染免疫学で履修した事項で，各回の口腔病理学講義に関連することを事前に復習する。

事後学習（１時間）：講義プリント，教本および参考書を使って各回講義の内容の理解を深める。

６．評価方法

前期定期試験（50%）と後期定期試験（50%）で評価し，65点以上を合格とする。試験形式は記述式で行う。再試験は65点未満の不合格者に実施する。再試験は上限65点，追試験は上限80点とする。フィードバックは，解答を開示して適宜行う。

７．教本

高田隆ら編「歯学生のための基礎病理学」第１版　医歯薬出版　2024年

下野正基ら編「新口腔病理学」第３版　医歯薬出版　2021年

８．参考書

北川昌伸 監修「標準病理学」第７版　医学書院　2023年

青笹克之 監修「解明 病理学」第４版　医歯薬出版　2021年

髙木　實 監修「口腔病理アトラス」第３版　文光堂　2018年

下野正基ら 監修「新編口腔外科・病理診断アトラス」医歯薬出版　2017年

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／13	病理学概論，病因論	病理学とは何かについて説明し，内因と外因について述べる	A-5-1／総Ⅲ-1-ア	①
2	4／13	細胞傷害（Ⅰ）	細胞傷害のメカニズムと細胞傷害によって生じる変性について述べる	A-5-2／総Ⅲ-1-イ	〃
3	4／20	細胞傷害（Ⅱ）	脂肪変性，硝子変性，石灰変性，萎縮を説明する	A-5-2／総Ⅲ-1-イ	〃
4	4／20	細胞死	ネクローシスとアポトーシスの形態学的特徴を説明する	A-5-2／総Ⅲ-1-イ	〃
5	4／27	細胞の適応現象（Ⅰ）	刺激に対する細胞の適応現象である肥大と過形成を説明する	A-5-3／総Ⅲ-1-エ	〃
6	4／27	細胞の適応現象（Ⅱ）	刺激に対する細胞の適応現象である化生を説明する	A-5-3／総Ⅲ-1-エ	〃
7	5／11	組織の再生と修復	細胞の分裂周期と組織の再生，修復を説明する	A-5-3／総Ⅲ-1-ウ	〃
8	5／11	肉芽組織と創傷治癒	肉芽組織の構成要素，役割，および創傷治癒，器質化を説明する	A-5-3／総Ⅲ-1-ウ	〃
9	5／18	物質代謝障害	脂質，タンパク質，糖質，血色素の代謝異常に基づく疾患を概説する	A-5-2／総Ⅲ-1-イ	〃
10	5／18	循環障害（Ⅰ）	虚血，充血，うっ血の徴候，原因，転帰を説明する	A-5-4／総Ⅲ-1-オ	〃
11	5／25	循環障害（Ⅱ）	出血の原因，種類，転帰を説明する	A-5-4／総Ⅲ-1-オ	①
12	5／25	循環障害（Ⅲ）	血栓症，塞栓症，梗塞を説明する	A-5-4／総Ⅲ-1-オ	〃
13	6／1	循環障害（Ⅳ）	水腫，ショック，高血圧を説明する	A-5-4／総Ⅲ-1-オ	〃
14	6／1	炎症（Ⅰ）	炎症の定義，原因，分類を説明する	A-5-5／総Ⅲ-1-カ	〃
15	6／8	炎症（Ⅱ）	急性炎症および慢性炎症での組織反応の特徴を説明する	A-5-5／総Ⅲ-1-カ	〃
16	6／8	炎症（Ⅲ）	滲出性炎の各型を説明する	A-5-5／総Ⅲ-1-カ	〃
17	6／15	炎症（Ⅳ）	肉芽腫性炎の特徴とその代表例を説明する 炎症反応に関わる細胞，ケミカルメディエーターを説明する	A-5-5／総Ⅲ-1-カ	〃
18	6／15	感染症	各種病原体による感染症について病理学的立場から概説する	A-4-1-3／総Ⅲ-1-キ	〃
19	6／22	免疫異常	アレルギーと自己免疫疾患を説明する	A-4-2／総Ⅲ-1-ク	③
20	6／22	遺伝と疾患，奇形	遺伝性疾患の代表例を説明し，奇形について概説する	A-5-1／総Ⅲ-2-ア	〃
21	6／29	腫瘍（Ⅰ）	腫瘍の定義，形態と基本構造を説明する	A-5-6／総Ⅲ-1-コ	①
22	6／29	腫瘍（Ⅱ）	良性腫瘍と悪性腫瘍の生物学的性状を比較説明する	A-5-6／総Ⅲ-1-コ	〃
23	7／6	腫瘍（Ⅲ）	上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の特徴と分類について説明する	A-5-6／総Ⅲ-1-コ	〃
24	7／6	腫瘍（Ⅳ）	腫瘍と遺伝子異常の関連について説明する	A-5-6／総Ⅲ-1-コ	〃
25	7／13	歯の機械的・化学的損傷，歯の発育異常	歯の発育異常，咬耗症，磨耗症，酸蝕症，歯折，脱臼について説明する	D-3-2-4／各Ⅱ-1-ア	③

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
26	7／13	歯の沈着物，着色，変色	沈着物としての歯垢・歯石，歯の着色・変色について説明する	D-3-2-1／各Ⅱ-1-ア	③
27	7／27	齲蝕症（Ⅰ）	概論（定義），疫学，病因について述べる臨床所見に基づく分類（部位，急性と慢性，二次齲蝕）を説明する	D-3-2-1／各Ⅱ-1-ア	①
28	7／27	齲蝕症（Ⅱ）	エナメル質初期齲蝕の組織学的特徴を説明する	D-3-2-1／各Ⅱ-1-ア	〃
29	7／28	齲蝕症（Ⅲ）	象牙質，セメント質各齲蝕病変の組織像を説明する	D-3-2-1／各Ⅱ-1-ア	〃
30	7／28	まとめ	病理学総論のまとめ	A-5-1／総Ⅲ-1	〃
31	9／3	象牙質・セメント質の増生と吸収	第二・第三象牙質，セメント質増殖症，歯の内部吸収を説明する	D-3-2-1／各Ⅱ-2-ア	②
32	9／3	歯髄の病変（Ⅰ）	加齢による変化，変性，歯髄充血，急性漿液性歯髄炎について説明する	D-3-2-2／各Ⅱ-2-ア	〃
33	9／10	歯髄の病変（Ⅱ）	化膿性歯髄炎（急性，慢性）について説明する	D-3-2-2／各Ⅱ-2-ア	〃
34	9／10	歯髄の病変（Ⅲ）	潰瘍性歯髄炎，増殖性歯髄炎について説明する	D-3-2-2／各Ⅱ-2-ア	〃
35	9／17	根尖部歯周組織の病変（Ⅰ）	根尖性歯周炎，歯根肉芽腫，歯根嚢胞について互いの関連性を説明する	D-3-2-2／各Ⅱ-2-ア	〃
36	9／17	根尖部歯周組織の病変（Ⅱ）	歯槽膿瘍の継発症として骨髄炎，頭頸部膿瘍および蜂窩織炎を説明する	D-3-2-2／各Ⅱ-2-ア	〃
37	9／24	辺縁部歯周組織の病変（Ⅰ）	歯周疾患の概念，疫学，病因について説明する	D-3-2-3／各Ⅱ-3-ア	〃
38	9／24	辺縁部歯周組織の病変（Ⅱ）	プラーク性歯肉炎・慢性歯周炎の病理発生と病理組織像を詳説する	D-3-2-3／各Ⅱ-3-ア	②
39	10／1	辺縁部歯周組織の病変（Ⅲ）	非プラーク性歯肉病変，侵襲性歯周炎，壊死性歯周疾患について説明する	D-3-2-3／各Ⅱ-3-ア	〃
40	10／1	辺縁部歯周組織の病変（Ⅳ）	外傷性咬合に伴う組織変化を説明する 歯肉の増殖性病変（エプーリスを含む）について説明する	D-3-2-3／各Ⅱ-3-ア	〃
41	10／8	口腔領域の嚢胞（Ⅰ）	嚢胞の定義，発生メカニズム，分類を説明する	D-3-1-5／各Ⅲ-1-エ，各Ⅲ-2-オ	①
42	10／8	口腔領域の嚢胞（Ⅱ）	歯原性嚢胞の臨床的特徴・病理組織学的特徴を説明する	D-3-1-5／各Ⅲ-1-エ，各Ⅲ-2-オ	〃
43	10／15	口腔領域の嚢胞（Ⅲ）	非歯原性嚢胞の臨床的特徴・病理組織学的特徴を説明する	D-3-1-5／各Ⅲ-1-エ，各Ⅲ-2-オ	〃
44	10／15	口腔領域の腫瘍（Ⅰ）	歯原性腫瘍の分類を説明する	D-3-1-6／各Ⅲ-1-オ，各Ⅲ-2-カ	〃
45	10／22	口腔領域の腫瘍（Ⅱ）	歯原性腫瘍各論（エナメル上皮腫など）を説明する	D-3-1-6／各Ⅲ-1-オ，各Ⅲ-2-カ	〃
46	10／22	口腔領域の腫瘍（Ⅲ）	歯原性腫瘍各論（エナメル上皮線維腫など）と顎骨腫瘍について説明する	D-3-1-6／各Ⅲ-1-オ，各Ⅲ-2-カ	〃
47	10／29	口腔領域の腫瘍（Ⅳ）	顎骨の非歯原性腫瘍と腫瘍様病変について説明する	D-3-1-6／各Ⅲ-1-オ，各Ⅲ-2-カ	〃
48	10／29	口腔領域の腫瘍（Ⅴ）	非歯原性良性上皮性腫瘍について説明する	D-3-1-6／各Ⅲ-1-オ，各Ⅲ-2-カ	〃
49	11／5	口腔領域の腫瘍（Ⅵ）	非歯原性悪性上皮性腫瘍について説明する	D-3-1-6／各Ⅲ-1-オ，各Ⅲ-2-カ	〃
50	11／5	口腔領域の腫瘍（Ⅶ）	非歯原性良性非上皮性腫瘍と非歯原性悪性非上皮性腫瘍について説明する	D-3-1-6／各Ⅲ-1-オ，各Ⅲ-2-カ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
51	11／12	口腔潜在的悪性疾患	口腔潜在的悪性疾患を説明する	D-3-1-6／各Ⅲ-1-オ	①
52	11／12	口腔粘膜の病変(Ⅰ)	水疱性病変について説明する	D-3-1-4／各Ⅲ-1-ク，各Ⅲ-4-オ	〃
53	11／19	口腔粘膜の病変(Ⅱ)	潰瘍性病変，赤色病変について説明する	D-3-1-4／各Ⅲ-1-ク	〃
54	11／19	口腔粘膜の病変(Ⅲ)	白色病変について説明する	D-3-1-4／各Ⅲ-1-ク	〃
55	11／26	口腔粘膜の病変(Ⅳ)	色素沈着，感染症（細菌，真菌，ウイルス）を説明する	D-3-1-4／各Ⅲ-1-ク，各Ⅲ-4-イ	〃
56	11／26	唾液腺の非腫瘍性病変	化生，唾石症唾液腺炎，シェーグレン症候群，IgG4関連疾患について説明する	D-3-1-8／各Ⅲ-3-ア	〃
57	12／3	唾液腺腫瘍(Ⅰ)	良性唾液腺腫瘍について説明する	D-3-1-8／各Ⅲ-3-ア	〃
58	12／3	唾液腺腫瘍(Ⅱ)	悪性唾液腺腫瘍について説明する	D-3-1-8／各Ⅲ-3-ア	〃
59	12／10	顎骨の病変(Ⅰ)	顎骨骨髄炎，遺伝性顎骨疾患について説明する	D-3-1-3／各Ⅲ-2-エ	③
60	12／10	顎骨の病変(Ⅱ)	線維骨性病変について説明する	D-3-1-3／各Ⅲ-2-カ	〃

口腔病理学実習（後期・１単位）

D③④B-c1-3605(D3605)

科目責任者：遊佐　淳子（病理・教授）
科目担当者：①遊佐　淳子（病理），②山﨑　幹子（非常勤）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

人体の病変から作製された病理組織標本を顕微鏡で観察することにより，講義で説明された病変がどのような病理組織像を示すかを理解することを目標としており，ディプロマポリシー（３）に関連する。本実習の前半では病理学総論で学んだ各病変を諸臓器において観察し，その組織像を理解する。それをもとに後半では，顎口腔領域の病変を観察し，他臓器での病変との共通性や特異性を検討する。

２．一般目標

顎口腔領域の病変を的確に診断できるようになるために，諸病変の病理組織像を理解し，かつ，それを説明できる能力を習得することを目標とする。

３．到達目標

１）病変の組織像を正確に理解することができる。
２）スケッチと文により，病理組織像を説明することができる。
３）病変の組織像を観察して，その病変の病理組織診断名を述べることができる。

４．履修の進め方

病理組織像を観察したのち，観察した組織像の説明を書いた実習レポートを作製する。

５．準備学修

事前学習：第２学年で講義された口腔組織学の事項で，各回実習に関連するものを再確認する（10分）。各回実習に関連する，口腔病理学講義の事項を，教本，講義プリント，講義ノートなどを読んで再確認する（20分）。
事後学習：各回実習の内容を実習プリント，実習レポート，教本，参考書で復習する（60分）。

６．評価方法

病理学と口腔病理学の実習終了後に行う実習試験で評価する。実習試験（病理学30%，口腔病理学50%）に課題レポート（20%）を加えて最終評価とし，65点以上を合格とする。フィードバックは実習試験終了後，解説を行う。

７．教本

高田隆ら 編「歯学生のための基礎病理学」第１版　医歯薬出版　2024年
下野正基ら 編「新口腔病理学」第３版　医歯薬出版　2021年
髙木　實 監修「口腔病理アトラス」第３版　文光堂　2018年

８．参考書

北川昌伸 監修「標準病理学」第７版　医学書院　2023年
下野正基ら 監修「新編口腔外科・病理診断アトラス」 医歯薬出版　2017年

９．授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	9／3	変性，代謝障害	硝子変性，脂肪変性，黄疸，粥状動脈硬化症	A-5-2／総Ⅲ-1-イ	① ②

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
4 5 6	9／10	壊死，組織の増殖	凝固壊死，融解壊死，肉芽組織	A-5-2, 3／総Ⅲ-1-イ, ウ	① ②
7 8 9	9／17	循環障害	出血，うっ血，水腫，梗塞	A-5-4／総Ⅲ-1-オ	〃
10 11 12	9／24	炎症	線維素性炎，化膿性炎，肉芽腫性炎	A-5-5／総Ⅲ-1-カ	〃
13 14 15	10／1	感染症，免疫異常	アスペルギルス症，巨大細胞封入体症，橋本病，結節性多発動脈炎	A-4-1, 2／総Ⅲ-1-キ, ク	〃
16 17 18	10／8	腫瘍	上皮性良性腫瘍，上皮性悪性腫瘍，非上皮性良性腫瘍，非上皮性悪性腫瘍	A-5-6／総Ⅲ-1-コ	〃
19 20 21	10／15	実習試験（1）（病理学）齲蝕	エナメル質齲蝕，象牙質齲蝕	D-3-2／総Ⅲ-2-ア，各Ⅱ-1-ア，各Ⅱ-2-ア	〃
22 23 24	10／22	歯髄炎，根尖性歯周炎，歯周病，エプーリス	化膿性歯髄炎，開放性歯髄炎，プラーク単独性歯肉炎，慢性歯周炎，エプーリス	D-3-2／総Ⅲ-2-ア，各Ⅱ-3-ア	〃
25 26 27	10／29	歯原性嚢胞	歯根嚢胞，含歯性嚢胞，歯原性角化嚢胞	D-3-1-5／総Ⅲ-1-ケ，各Ⅲ-2-オ	〃
28 29 30	11／5	非歯原性嚢胞，歯原性腫瘍（1）	鼻口蓋管嚢胞，類表皮嚢胞，腺腫様歯原性腫瘍，セメント質骨形成線維腫	D-3-1-5, 6／総Ⅲ-1-ケ，各Ⅲ-2-オ, カ	〃
31 32 33	11／12	歯原性腫瘍（2）	濾胞型エナメル上皮腫，網状型エナメル上皮腫，エナメル上皮線維腫	D-3-1-6／各Ⅲ-2-カ	〃
34 35 36	11／19	非歯原性腫瘍	乳頭腫，扁平上皮癌，悪性リンパ腫	D-3-1-6／総Ⅲ-1-コ，各Ⅲ-1-オ	〃
37 38 39	11／26	粘膜疾患	天疱瘡，口腔扁平苔癬，白板症（上皮過形成，上皮性異形成），口腔カンジダ症	D-3-1-4／総Ⅲ-1-コ 総Ⅲ-2-ア，各Ⅲ-1-オ, ク	〃
40 41 42	12／3	唾液腺疾患	慢性硬化性唾液腺炎，多形腺腫，腺様嚢胞癌，粘液瘤	D-3-1-8／総Ⅲ2-ア，各Ⅲ3-ア	〃
43 44 45	12／10	実習試験（2）（口腔病理学）			〃

口腔感染免疫学Ⅱ（前期・２単位）

D③④B-a2-3701（D3701）

科目責任者：玉井利代子（感染・教授）
科目担当者：①玉井利代子（感染），②山家　尚人（感染）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物とそれに対するヒトの免疫応答について講義を行う。特に免疫応答については２年次における口腔感染免疫学Ⅰの講義を基に掘り下げて詳しく解説する。さらにヒトの二大口腔感染症である齲蝕と歯周病の原因菌とその性状を説明する。

２．一般目標

口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物とそれに対する免疫応答に関する知識を身につける。具体的には以下のことである。

1）微生物感染に対する免疫応答を理解する。
2）免疫応答に関係する細胞性因子を理解する。
3）免疫応答に関係する液性因子を理解する。
4）齲蝕と歯周病の原因菌を理解する。
5）齲蝕と歯周病の起こるメカニズムを理解する。

３．到達目標

1）微生物感染に対する免疫応答を説明する。
2）免疫応答に関係する細胞性因子を説明する。
3）免疫応答に関係する液性因子を説明する。
4）齲蝕と歯周病の原因菌を説明する。
5）齲蝕と歯周病の起こるメカニズムを説明する。

４．履修の進め方

講義形式で教科書・配布プリントを使用して履修する。講義中に，学習者に質問し，それに対する応答を求めて授業の理解度を確認する。

５．準備学修

毎回の講義終了時に次回の講義予定を説明するので当該部分の配布プリント・教科書を読んでおくこと（15分）。

６．評価方法

定期試験（50点）及び中間試験（50点）で評価する。65点以上を合格とする。定期試験及び中間試験の試験問題はどちらも記述式と多肢選択方式が含まれる。定期試験後に学生全員に模範解答を配布し，学生から意見があれば対応する。追試験は100点満点で採点し，その点数を評価とする。再試験は100点満点で採点し，65点以上は「65点」とする。

７．教本

口腔微生物学－感染と免疫－　第８版　学建書院　2024年

８．参考書

標準微生物学　第15版　医学書院　2024年

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／9	補体	補体の種類と活性化経路	A-4-2-1, 2／必4-ア-g	①
2	4／9	補体	補体産物の役割	A-4-2-1, 2／必4-ア-g	〃
3	4／16	免疫担当細胞	免疫担当細胞の種類	A-4-2-1, 2, 3／総Ⅱ-3-ア	②
4	4／16	サイトカインⅠ	サイトカインの種類	A-4-2-1, 2, 3／必4-ア-g	〃
5	4／23	サイトカインⅡ	サイトカインの病態への影響	A-4-2-1, 2, 3／必4-ア-g	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
6	4／23	抗原認識Ⅰ	T細胞による外来性抗原の認識	A-4-2-2, 3／総Ⅱ-3-ウ	②
7	5／7	抗原認識Ⅱ	T細胞による内在性抗原の認識	A-4-2-2, 3／総Ⅱ-3-ウ	〃
8	5／7	アレルギーⅠ	Ⅰ型・Ⅱ型アレルギーのメカニズム	A-4-2-6／総Ⅶ-1-エ-j	〃
9	5／14	アレルギーⅡ	Ⅲ型・Ⅳ型・Ⅴ型アレルギーのメカニズム	A-4-2-6／総Ⅶ-1-エ-j	〃
10	5／14	免疫寛容	免疫寛容のメカニズム	A-4-2-5／総Ⅶ-1-エ-j	〃
11	5／21	自己免疫疾患と免疫不全	自己免疫疾患と免疫不全のメカニズム	A-4-2-6／総Ⅶ-1-エ-j	〃
12	5／21	粘膜免疫	粘膜免疫のメカニズム	A-4-2-4／総Ⅱ-3-オ	〃
13	5／28	ワクチンⅠ	生ワクチン	A-4-2-7／総Ⅱ-3-オ-a, b	〃
14	5／28	ワクチンⅡ	不活化ワクチン	A-4-2-7／総Ⅱ-3-オ-a, b	〃
15	6／4	免疫応答の全体像	免疫応答の全体像とその役割	A-4-2-1～7／総Ⅱ-3-ア～オ	①
16	6／4	口腔微生物学概論	口腔微生物の役割と病原性	A-4-1-5／総Ⅱ-2-イ-a, b	〃
17	6／11	プラークの形成と口腔細菌	口腔細菌のプラーク形成における役割	A-4-1-5／総Ⅱ-2-イ-a, b	〃
18	6／11	口腔レンサ球菌	口腔内のレンサ球菌の種類と役割	A-4-1-5／総Ⅱ-2-イ-a, b	〃
19	6／18	齲蝕原性細菌Ⅰ	齲蝕の原因菌とその種類	A-4-1-5／総Ⅱ-2-ア-a	〃
20	6／18	齲蝕原性細菌Ⅱ	齲蝕の発症メカニズム	A-4-1-5／総Ⅱ-2-ア-a	〃
21	6／25	歯周病原性細菌Ⅰ	歯周病原性細菌の種類	A-4-1-5／総Ⅱ-2-ア-b	〃
22	6／25	歯周病原性細菌Ⅱ	歯周病原性細菌の病原性	A-4-1-5／総Ⅱ-2-ア-b	〃
23	7／2	口腔細菌の総括	口腔細菌の種類とその役割	A-4-1-5／総Ⅱ-2-イ-a, b	〃
24	7／2	急性呼吸器感染症	急性呼吸器感染症を起こす微生物とその病原性	A-4-1-2, 3／各Ⅴ-2-エ-k	〃
25	7／9	口腔真菌と原虫	口腔原虫の病原性	A-4-1-2, 5／各Ⅴ-2-エ-k	〃
26	7／9	口腔ウイルスⅠ	口腔内のウイルスの種類	A-4-1-2, 5／各Ⅴ-2-エ-k	〃
27	7／16	口腔ウイルスⅡ	口腔内のウイルスの病原性	A-4-1-2, 5／各Ⅴ-2-エ-k	〃
28	7／16	口腔ウイルスⅢ	口腔内のウイルスの感染症	A-4-1-2, 5／各Ⅴ-2-エ-k	〃
29	7／23	口腔真菌・原虫・ウイルスの総括	口腔内の細菌以外の微生物の病原性	A-4-1-2, 5／各Ⅴ-2-エ-k	〃
30	7／23	薬剤耐性菌	抗菌薬に対する耐性のメカニズム	A-4-1-7, 9／総Ⅲ-1-キ-a	〃

口腔感染免疫学実習（前期・１単位）

D③④B-c1-3702（D3702）

科目責任者：玉井利代子（感染・教授）
科目担当者：①玉井利代子（感染），②山家　尚仁（感染），③眞島いづみ（感染）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

口腔感染免疫学の講義内容を実際に自分で確認してその理解を深めることで，歯科医師としての日常に応用できる感染免疫学の知識とその手技を修得するために行う。

２．一般目標

口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物とそれに対する免疫応答に関する知識と技術を身につける。具体的には以下のことである。

1）細菌と真菌の取り扱いに関する手技を習得する。
2）細菌と真菌の基本的な形態を理解する。
3）薬剤の細菌への効果を知ることで，化学療法の原理を理解する。
4）齲蝕と歯周病の原因菌の性状を理解する。
5）ヒトの生体防御のメカニズムを理解する。

３．到達目標

1）細菌と真菌の取り扱いに関する手技を説明する。
2）細菌と真菌の基本的な形態を説明する。
3）薬剤の細菌への効果を知ることで，化学療法の原理を説明する。
4）齲蝕と歯周病の原因菌の性状を説明する。
5）ヒトの生体防御のメカニズムを説明する。

４．履修の進め方

実習の内容に関する講義を行ってから，実習テキストに従って実習を行っていく。原則として当日の実習結果を指定されたレポート形式で記載して次回の実習時に提出する。

５．準備学修

毎回の実習終了時に次回の実習予定を説明するので当該部分の配布プリント・教科書を読んでおくこと（15分）。

６．評価方法

筆記試験と実技試験の成績（40点），提出されたレポートの採点結果（50点），出席点（10点）で評価する。65点以上を合格とする。筆記試験及び実習試験終了後，学生全員を対象に解説を行う。レポートは，採点後に記載内容についての講評を学生全員に対して行う。学生から意見があれば対応する。

７．教本

口腔微生物学－感染と免疫－　第８版　学建書院　2024年
講義・実習解説書　2026年

８．参考書

標準微生物学　第15版　医学書院　2024年

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	4／9	オリエンテーション	口腔感染免疫学実習の特色とその注意点	A-4-1-1／総Ⅲ-1キ-a	① ～ ③
4 5 6	4／16	グラム染色	細菌のグラム染色法の理論とその実技	A-4-1-1／総Ⅲ-1キ-a	〃
7 8 9	4／23	細菌のコロニー	細菌のコロニーの観察	A-4-1-1／総Ⅲ-1キ-a	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
10 11 12	5／7	特殊染色	特殊染色による細菌の染色	A-4-1-1／ 総Ⅲ-1キ-a	① 〜 ③
13 14 15	5／14	消毒と無菌試験	各種消毒薬に対する細菌の感受性	A-4-1-8／ 必11-エ-a	〃
16 17 18	5／21	抗菌薬感受性試験	各種抗菌薬に対する細菌の感受性	A-4-1-7／ 総Ⅶ-8-ウ-c	〃
19 20 21	5／28	実習筆記試験	実習内容に関する筆記試験		〃
22 23 24	6／4	歯垢細菌	歯垢中の細菌の観察	A-4-1-3／ 必4-イ-c	〃
25 26 27	6／11	齲蝕原性細菌	齲蝕原性細菌の観察	A-4-1-3／ 総Ⅱ-2-イ-a	〃
28 29 30	6／18	歯周病原性細菌	歯周病原性細菌の観察	A-4-1-3／ 総Ⅱ-2-イ-a, b	〃
31 32 33	6／25	口腔真菌	口腔真菌の観察	A-4-1-3／ 必4-イ-b	〃
34 35 36	7／2	抗原抗体反応	ゲル拡散法による沈降反応	A-4-2-2／ 必-4-ア-g	〃
37 38 39	7／9	口腔微生物のまとめ	口腔微生物の総括	A-4-1-3／ 必4-イ-c	〃
40 41 42	7／16	実習実技試験	細菌のグラム染色法の実技試験		〃
43 44 45	7／23	実習筆記試験	実習内容に関する筆記試験		〃

歯科薬理学Ⅱ（前期・２単位）

D③④B-a2-3703（D3703）

科目責任者：柴田　達也（薬理・教授）
科目担当者：①柴田　達也（薬理），②長岡　正博（薬理），
③髙橋文太郎（薬理）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

歯科薬理学Ⅰ（薬理学総論）で学修した薬物治療の基本的知識を基に，歯科薬理学Ⅱ（薬理学各論・歯科薬理学）では，全身疾患および歯科疾患の治療に用いられる個々の薬物について作用機序，薬物動態，副作用・相互作用などを理解することを目標とする。本科目はディプロマポリシー 4. 知識と診断ならびに 5. 技能と治療に関連する。

２．一般目標

適切な歯科治療計画を立案（ディプロマポリシー４の知識）し，高度な歯科医療を実践（ディプロマポリシー５の治療）するための基盤として

１）全身疾患の治療に用いられる薬物の特徴を理解する。
２）歯科医療現場で使用・処方される薬物の特徴を理解する。

３．到達目標

１）薬理学各論：神経系，循環器系，呼吸器系，消化器系，血液および造血器，内分泌系，代謝系，免疫系に作用する薬物，抗腫瘍薬の特徴を説明できる。
２）歯科薬理学：歯科医療現場で使用頻度が高い薬物（局所麻酔薬，抗炎症薬，鎮痛薬，抗感染症薬，唾液腺作用薬，神経疾患治療薬，消毒薬）の特徴を説明できる。

４．履修の進め方

講義主体でスライドと資料を使用して履修する。

５．準備学修

事前に，各回の授業内容を確認し，教科書の該当部分を読むこと（30分）。授業後は，配布プリントや教科書を見直して，毎回の授業内容を確実にすること（30分）。

６．評価方法

試験は多肢選択問題形式の定期試験（50％）と中間試験（50％）で評価し，100点満点とする。秀（100〜90点），優（89〜80点），良（79〜70点），可（69〜65点），不可（64点以下）に分類し，秀，優，良，可は合格とし，不可は不合格とする。追試験該当者は，追試験の点数が80点以上でも80点の採点結果とする。再試験該当者は，再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。試験のフィードバックは，総合演習３D，科目選択ゼミナールにおける講義や，配布物等により適宜行う。

７．教本

鈴木邦明 監修「現代歯科薬理学」第７版　医歯薬出版　2024

伊豆津宏二 他編「今日の治療薬2026」南江堂　2026

８．参考書

笠原正貴 他編「シンプル歯科薬理学」第３版　永末書店　2023

鈴木邦明 他編「疾病の成り立ち及び回復過程の促進３薬理学」医歯薬出版　2023

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／8	薬理学各論１：末梢神経系に作用する薬物①	末梢神経系，神経伝達物質	A-6-2, 3, 4／ 必11コ， 総Ⅶ-8-ア，イ	① ② ③

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
2	4／8	薬理学各論２：末梢神経系に作用する薬物②	自律神経系に作用する薬物，筋弛緩薬	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ア，イ	①②③
3	4／15	薬理学各論３：中枢神経系に作用する薬物①	全身麻酔薬，睡眠薬・抗不安薬，抗てんかん薬	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃
4	4／15	薬理学各論４：中枢神経系に作用する薬物②	抗精神病薬，抗うつ薬，気分安定薬	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃
5	4／22	薬理学各論５：中枢神経系に作用する薬物③	中枢神経系興奮薬，Parkinson 病治療薬，認知症治療薬	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃
6	4／22	薬理学各論６：循環器系に作用する薬物①	高血圧治療薬，心不全治療薬，抗不整脈薬	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃
7	5／13	薬理学各論７：循環器系に作用する薬物②	狭心症治療薬，利尿薬，脂質異常症治療薬	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃
8	5／13	薬理学各論８：呼吸器系，消化器系に作用する薬物	気管支喘息・COPD 治療薬，鎮咳薬，上部・下部消化管疾患治療薬，肝疾患治療薬	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃
9	5／20	薬理学各論９：血液および造血器系に作用する薬物	貧血治療薬，止血線溶機構，抗血栓薬・止血薬	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ウ	〃
10	5／20	薬理学各論10：抗腫瘍薬	抗腫瘍薬	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ウ	〃
11	5／27	薬理学各論11：内分泌系に作用する薬物	糖尿病治療薬，性ホルモン関連薬	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ウ	〃
12	5／27	薬理学各論12：代謝系に作用する薬物	カルシウム代謝調節機構，骨粗鬆症治療薬，ビタミン	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ウ	〃
13	6／3	薬理学各論13：免疫系に作用する薬物	抗アレルギー薬，免疫抑制薬	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ウ	〃
14	6／3	薬理学各論14：まとめ	薬理学各論のまとめ	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ア，イ，ウ	〃
15	6／10	歯科薬理学１：局所麻酔薬①	局所麻酔薬総論	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃
16	6／10	歯科薬理学２：局所麻酔薬②	局所麻酔薬各論	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ア，イ	①②③
17	6／17	歯科薬理学３：抗炎症薬①	炎症の発症機序，ステロイド性抗炎症薬	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ウ	〃
18	6／17	歯科薬理学４：抗炎症薬②	非ステロイド性抗炎症薬	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ウ	〃
19	6／24	歯科薬理学５：鎮痛薬①	鎮痛薬総論	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ウ	〃
20	6／24	歯科薬理学６：鎮痛薬②	鎮痛薬各論	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ウ	〃
21	7／1	歯科薬理学７：抗感染症薬①	抗菌薬総論・抗菌薬各論１	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ウ	〃
22	7／1	歯科薬理学８：抗感染症薬②	抗菌薬各論２，抗真菌薬・抗ウイルス薬	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ウ	〃
23	7／8	歯科薬理学９：消毒薬	消毒薬	A-6-2, 3, 4／必11エ	〃
24	7／8	歯科薬理学10：唾液腺作用薬，漢方薬	口腔乾燥の原因となる薬物，口腔乾燥症治療薬，歯科における漢方薬	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ウ	〃
25	7／15	歯科薬理学11：神経疾患治療薬	神経痛治療薬，神経麻痺治療薬	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ウ	〃
26	7／15	歯科薬理学12：薬物の副作用・有害反応①	薬物の一般的な副作用・有害反応	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃
27	7／22	歯科薬理学13：薬物の副作用・有害反応②	薬物の顎口腔領域に現れる副作用・有害反応	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃
28	7／22	歯科薬理学14：薬物相互作用①	薬力学的相互作用	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃
29	7／29	歯科薬理学15：薬物相互作用②	薬物動態学的相互作用	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃
30	7／29	歯科薬理学16：まとめ	歯科薬理学のまとめ	A-6-2, 3, 4／必11コ，総Ⅶ-8-ア，イ	〃

歯科薬理学実習（前期・１単位）

D③④B-c1-3704（D3704）

科目責任者：柴田　達也（薬理・教授）
科目担当者：①柴田　達也（薬理），②長岡　正博（薬理），
③髙橋文太郎（薬理）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

近年，動物愛護の精神を遵守することが強く求められており，動物実験に替わる方法によって目的が達成されるならば，積極的に代替法を採用するべきであるとされている。歯科薬理学実習では，コンピュータ・シミュレーションプログラム，骨粗鬆症モデル動物から採取した標本のデジタルデータならびに医薬品インタビューフォームを用いて，歯科薬理学Ⅰ・歯科薬理学Ⅱで学修した知識を確かなものにすることを目標としており，ディプロマポリシー 4. 知識と診断ならびに 5. 技能と治療に関連する。

２．一般目標

適切な歯科治療計画を立案（ディプロマポリシー 4. の知識）し，高度な歯科医療を実践（ディプロマポリシー 5. の治療）するための基盤として，個々の薬物の作用機序や薬物動態を様々なグラフや表などの視覚素材を通して理解する。

３．到達目標

１）薬物によって，適した投与方法があることを説明できる。
２）有病者・高齢者における薬物動態の変化について説明できる。
３）骨格筋や腸管平滑筋に作用する薬物を例に，薬物相互作用について説明できる。
４）歯科診療の際に遭遇する機会の多い循環動態の変動に関わる受容体と，それらに作用する薬物について説明できる。
５）卵巣摘出動物の骨形成能の評価を通じて，骨粗鬆症の病態を説明できる。

４．履修の進め方

実習形式によって履修する。但し，理解を深めるための解説講義・問題演習の回を含む。

５．準備学修

実習項目について，歯科薬理学Ⅰ及びⅡで使用している教科書や配布プリントの該当箇所を読んで予習しておくこと（30分）。

６．評価方法

提出課題（40％）と実習内容に関する多肢選択問題試験（60％）で評価し，100点満点とする。規定に則り，秀（100～90点），優（89～80点），良（79～70点），可（69～65点），不可（64点以下）に分類し，秀，優，良，可は合格とし，不可は不合格とする。試験のフィードバックは，解説講義等により適宜行う。

７．教本

伊豆津宏二 他編「今日の治療薬 2026」南江堂　2026

８．参考書

鈴木邦明 監修「現代歯科薬理学」第７版　医歯薬出版　2024

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	4／8	薬物動態１	薬物動態に関する基礎知識の確認	A-6-3／ 必11-コ， 総Ⅶ-8-ア，イ	① ② ③
4 5 6	4／15	薬物動態２	健康成人の薬物血中濃度シミュレーション	A-6-3／ 必11-コ， 総Ⅶ-8-ア，イ	〃
7 8 9	4／22	薬物動態３	腎機能・肝機能低下患者の薬物血中濃度シミュレーション	A-6-3／ 必11-コ， 総Ⅶ-8-ア，イ	〃
10 11 12	5／13	薬物動態のまとめ	問題演習	A-6-3／ 必11-コ， 総Ⅶ-8-ア，イ	〃
13 14 15	5／20	薬物相互作用１	薬力学的薬物相互作用に関する基礎知識の確認	A-6-2～4／ 11-コ， 総Ⅶ-8-ア，イ	〃
16 17 18	5／27	薬物相互作用２	ラット横隔膜の神経－筋標本のシミュレーション	A-6-2～4／ 必11-コ， 総Ⅶ-8-ア，イ	〃
19 20 21	6／3	薬物相互作用３	モルモット摘出腸管標本のシミュレーション	A-6-2～4／ 必11-コ， 総Ⅶ-8-ア，イ	〃
22 23 24	6／10	薬物相互作用のまとめ	問題演習	A-6-2～4／ 必11-コ， 総Ⅶ-8-ア，イ	〃
25 26 27	6／17	循環器系に作用する薬物１	血圧と心拍数の調節に関する基礎知識の確認	A-6-2～4／ 必11-コ， 総Ⅶ-8-ア，イ	〃
28 29 30	6／24	循環器系に作用する薬物２	麻酔下ラットの血圧と心拍数に影響する薬物のシミュレーション１	A-6-2～4／ 必11-コ， 総Ⅶ-8-ア，イ	〃
31 32 33	7／1	循環器系に作用する薬物３	麻酔下ラットの血圧と心拍数に影響する薬物のシミュレーション２	A-6-2～4／ 必11-コ， 総Ⅶ-8-ア，イ	〃
34 35 36	7／8	循環器系に作用する薬物のまとめ	問題演習	A-6-2～4／ 必11-コ， 総Ⅶ-8-ア，イ	〃
37 38 39	7／15	試験	実習内容（薬物動態，薬物相互作用，循環器系に作用する薬物）に関する筆記試験と解説	A-6-2～4／ 必11-コ， 総Ⅶ-8-ア，イ	〃
40 41 42	7／22	硬組織の薬理	卵巣摘出動物の骨形成能の評価 （標本データの解析）	A-6-2～4／ 必11-コ， 総Ⅶ-8-ウ	〃
43 44 45	7／29	歯科薬理学実習のまとめ	実習総括	A-6-2～4／ 必11-コ， 総Ⅶ-8	〃

生体材料・歯科材料学Ⅱ
（前期・２単位）

D③④B-a2-3705（D3705）

科目責任者：石田　喜紀（材料・教授）
科目担当者：①石田　喜紀（材料），②大木　達也（材料），
③齋藤　龍一（材料），④覚本　嘉美（非常勤）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

歯科材料には金属材料，無機材料，有機材料，およびこれらを複合した材料があり，印象用，模型用，義歯床用など多様な形で応用されている。生体材料・歯科材料学は，これらの材料の成り立ちの基礎的な理論や特性および実際の取り扱い技術を学習する科目である。総論で物理学，化学，および生物学などの基礎的学力をもとに種々の歯科材料の特徴を学ぶ。各論では臨床で使用される材料であることを踏まえて，材料毎に所要性質，構成成分，その役割，物理化学的および機械的性質などを理解するとともに，それらの取り扱い法について学ぶ。

２．一般目標

歯科医師となるうえで，治療に必要な機材，材料の知識を当該科目にて学修する。

３．到達目標

１）歯科修復物を構成する各種の生体材料を説明できる。
２）成形加工に用いる歯科材料と器具の特性および使用法について説明できる。
３）さまざまな症例に適応した歯科材料や器具が選定できる。

４．履修の進め方

要点はスライドと配布資料を活用し，問題解説の時間を多くとることで学修内容をより深く理解できるようにする。視覚素材を使用することで極力図案として記憶出来るようにする。また，学生は板書の内容，教科書およびレジュメにて理解を深める。各項目終了後に問題集を配布し，各学生が自学自習後に知識の確認をさせる。

５．準備学修

各回の授業内容項目について，教科書の該当部分を読むこと（15分）
授業内容について教科書にある図表を確認する（15分）

６．評価方法

多肢選択問題（MCQ）形式の定期試験（80％）と記述形式の中間試験（10％×２回）の合計を100点とし，65点以上を合格とする。追試験は上限を80点，再試験は上限を65点で採点する。中間試験の追・再試験は必要に応じて適宜行う。フィードバックは問題を開示して適宜行う。

７．教本

中嶌　裕 他「スタンダード歯科理工学第８版」学建書院 2024年

８．参考書

なし

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／7	義歯用材料－1	床用アクリルレジンの特性	B-2-2／総Ⅷ-6-ア	②
2	4／7	義歯用材料－2	アクリルレジンによる義歯床の作製方法	B-2-2／総Ⅷ-6-ア，7-ア	〃
3	4／14	義歯用材料－3	床用材料の比較	B-2-2／総Ⅷ-6-ア，7-ア	②
4	4／14	義歯用材料－4	人工歯とノンクラスプデンチャー	B-2-2／総Ⅷ-6-ア，7-ア，6-オ	〃
5	4／21	義歯用材料－5	義歯裏装材，義歯洗浄剤について	B-2-2／総Ⅷ-6-ア，7-ア，6-カ	〃
6	4／21	歯科精密鋳造－1	歯科用ワックスの成分，特性および使用法	B-3-1／総Ⅷ-4-イ，7-ウ-a	①
7	4／28	歯科精密鋳造－2	埋没材の種類性質，役割および操作法	B-3-1／総Ⅷ-7-ウ-a	〃
8	4／28	歯科精密鋳造－3	歯科精密鋳造の基礎理論	B-3-1／総Ⅷ-7-ウ-a	〃
9	5／12	歯科精密鋳造－4	歯科精密鋳造の工程と器械	B-3-1／総Ⅷ-7-ウ-a	〃
10	5／12	歯科精密鋳造－5	鋳造体の製作工程－埋没法，鋳造法	B-3-1／総Ⅷ-7-ウ-a	〃
11	5／19	歯科精密鋳造－6	鋳造欠陥の成因とその対策	B-3-1／総Ⅷ-7-ウ-a	〃
12	5／19	歯科精密鋳造－7	鋳造欠陥の成因とその対策	B-3-1／総Ⅷ-7-ウ-a	〃
13	5／26	歯冠用材料－1	歯科用陶材の臨床応用と所要性質	B-3-4／総Ⅷ-6-イ	〃
14	5／26	歯冠用材料－2	歯科用陶材の理工学的性質	B-3-4／総Ⅷ-6-イ	〃
15	6／2	歯冠用材料－3	陶材焼付鋳造冠の特性と作製法	B-3-4／総Ⅷ-6-イ，7-イ	〃
16	6／2	歯冠用材料－4	歯科用陶材冠の作製法－１	B-3-4／総Ⅷ-6-イ，7-イ，エ	〃
17	6／9	歯冠用材料－5	歯科用陶材冠の作製法－２	B-3-4／総Ⅷ-6-イ，7-イ，エ	〃
18	6／9	歯冠用材料－6	硬質レジン前装冠の特性	B-3-4／総Ⅷ-6-エ，7-エ	〃
19	6／16	歯科用合着材－1	歯科用合着材の用途	B-2-3／総Ⅷ-9-ア	③
20	6／16	歯科用合着材－2	歯科用合着材の成分と特性－1	B-2-3／総Ⅷ-9-ア	〃
21	6／23	歯科用合着材－3	歯科用合着材の成分と特性－2	B-2-3／総Ⅷ-9-ア	〃
22	6／23	歯科用合着材－4	歯科用合着材の成分と特性－3	B-2-3／総Ⅷ-9-ア	〃
23	6／30	歯内療法関連材料－1	裏層材，覆髄材および根管充填材の特性－1	B-2-5／総Ⅷ-5-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
24	6／30	歯内療法関連材料－2	裏層材，覆髄材および根管充填材の特性－2	B-2-5／総Ⅷ-5-ウ	③
25	7／7	歯内療法関連材料－3	支台築造用材料	B-2-5／総Ⅷ-5-ウ	〃
26	7／7	歯科用インプラント	歯科用インプラントの概要と理工学的性質	B-2-6／総Ⅷ-11	④
27	7／14	生体材料	組織工学用材料の種類と特性	B-2-6／総Ⅷ-11	①
28	7／14	修復物の研磨－1	研磨に関する理論，研磨用工具の種類と特性	B-3-2／総Ⅷ-2	②
29	7／21	修復物の研磨－2	切削研磨用機械の種類と特性	B-3-2／総Ⅷ-2	〃
30	7／21	まとめ・中間試験	まとめ・中間試験	B-1, 2, 3／総Ⅷ-10	① ② ③

生体材料・歯科材料学実習
（前期・１単位）

D③④B-c1-3706（D3706）

科目責任者：石田　喜紀（材料・教授）
科目担当者：①石田　喜紀（材料），②大木　達也（材料），
③齋藤　龍一（材料），④倉品　先秀（材料），
⑤覚本　嘉美（非常勤），⑥泉　　俊郎（非常勤），
⑦五月女　稔（非常勤）

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

歯科理工学という科目は単に材料の特性や機器の構造を学ぶのみではない。歯科補綴学，保存修復学をはじめ，その他臨床で使用する材料や機器を，化学的法則に基づいてより効率的に取り扱う手法を学ぶことにある。したがって，歯科理工学の実習では講義で学んだ理論を実証し，講義で理解が不十分であったところを実際に自らの手で扱い，目で観察することによってその材料の基本的な性質および正しい使用法を学ぶ。

２．一般目標

歯科臨床で取り扱う材料と器材を正しく使用するために，その特性と操作法を理解する。

３．到達目標

１）印象材と模型材の種類および特性を理解し操作できる。
２）義歯床と鋳造物について関連材料の特性を理解し，操作法を習得する。
３）切削・研磨用材料の種類および特性を理解する。
４）成形修復材および歯科用セメントの種類と特性を理解し操作できる。
５）金属の熱処理について操作法と性質の変化を理解する。

４．履修の進め方

実習書を基にビデオ映像や実技のデモなどで説明し，実際に材料・器具に触れる。実習を進めるにあたりチェック項目を設け，各項目で担当教員がチェックを行う（その際に口頭試問を行う）。また，知識の習得と技術の向上のために試験を行う。実習中は疑問点を聞き出し解説を行う。実習内容についてグループディスカッションを行い，材料の分類，性質や取扱い手順などをレポートとして提出する。また，試験のフィードバックは科目選択ゼミナールなどで解説を行う。

５．準備学修

実習内容や使用機材を実習書にて確認し，準備することで実習をスムーズに行えるようにする（10分）。また，実習書の各項目に記載されている「実習の目的」について教科書や講義ノートを基にまとめる（10～20分）。

６．評価方法

①実習の各項目に対するチェック，作品の提出および作品の評価（40％），②小試験（MCQ）（20％），③総合試験（MCQ）と実技試験（40％）により評価する。①＋②＋③の合計で65点以上を合格とする。追・再試験は必要に応じて適宜行う。

７．教本

①中嶌　裕 他編「スタンダード歯科理工学第８版」 学建書院　2024

８．参考書

なし

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	4／10	オリエンテーション，印象材・模型材（1）	器材チェック，印象用関連機材の操作法	B-3-2／ 総Ⅷ-3-イ	① ～ ⑦
4 5 6	4／17	印象材・模型材（2）	口腔模型の印象採得と模型製作	B-2-1／ 総Ⅷ-3-イ，エ，オ，4-ア，イ	〃
7 8 9	4／24	印象材・模型材（3）	義歯床用模型の製作	B-2-1／ 総Ⅷ-4-ア	〃
10 11 12	5／8	印象材・模型材（4）	支台歯原形の印象採得と作業用模型製作	B-2-1／ 総Ⅷ-3-イ，エ，オ，4-ア，イ	〃
13 14 15	5／15	床用レジン－1	ワックスパターンの作製，人工歯の配列	B-3-1／ 総Ⅷ-4-イ，6-オ	〃
16 17 18	5／22	床用レジン－2	埋没と流ロウ	B-2-2／ 総Ⅷ-7-ア	〃
19 20 21	5／29	床用レジン－3	レジン混和物の填入と重合	B-2-2／ 総Ⅷ-7-ア	〃
22 23 24	6／5	床用レジン－4	適合性の測定と重合体の研磨	B-2-2／ 総Ⅷ-2-ア，イ，6-ア	〃
25 26 27	6／12	歯科精密鋳造－1	ワックスパターンの製作	B-3-1／ 総Ⅷ-4-イ	〃
28 29 30	6／19	歯科精密鋳造－2	ワックスパターンの埋没	B-2-1／ 総Ⅷ-7-ウ	〃
31 32 33	6／26	歯科精密鋳造－3	鋳造操作と鋳造体の掘り出し，小試験①	B-2-1／ 総Ⅷ-7-ウ	〃
34 35 36	7／3	歯科精密鋳造－4	適合性の測定と鋳造体の研磨	B-2-1／ 総Ⅷ-2-ア，イ，6-ウ	〃
37 38 39	7／10	成形修復材成	形修復材の充填と硬さの測定	B-2-1／ 総Ⅷ-5-ア，7-ア	〃
40 41 42	7／17	合着用セメント，金属の熱処理	セメントの被膜厚さの測定，鋳造体の熱処理，小試験②	B-2-3／ 総Ⅷ-7-ウ，9-ア	〃
43 44 45	7／24	実習試験	総合試験，実技試験，補講	B-2-1～3， B-3-1～4／ 総Ⅷ-2～9	〃

口腔衛生学（通年・２単位）

D③B-a2-3513（D3513）

科目責任者：南　健太郎（衛生・教授）

科目担当者：①南　健太郎（衛生），②小林美智代（衛生）

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

口腔衛生学は，他の臨床歯科医学と異なり，学問の出発点が疾病ではなく健康にあること，そして，その対象は集団を主としているところに大きな特徴を持つ。また，歯科医師法第１条にあるように，歯科医師は保健指導を掌り，公衆衛生の向上・増進に寄与するとある。よって，この基礎となる本科目では，前期では主に２年生で履修した衛生学の応用的内容を実施することでより実践的な地域保健について学ぶ。そして後期は主に口腔疾患の予防を目的とした予防歯科学について学ぶ。

２．一般目標

歯科医師として具備すべき公衆衛生学・口腔衛生学の知識を履修し，地域口腔保健支援及び予防歯科診療を根拠に基づき適切に対応できる基礎を修得する。

３．到達目標

1）健康の概念と予防の段階を理解している。
2）疫学の研究方法とその活用を理解している。
3）感染症の成り立ちと予防対策を理解している。
4）公害や地球環境破壊と健康との関りを理解している。
5）食品衛生と栄養摂取基準を理解している。
6）人口構造の変化と疾病構造との関連を理解している。
7）地域保健法と健康増進法の実施事業等について理解している。
8）地域保健（母子・学校・成人・老人・産業・精神・障害者）のあらましを理解している。
9）口腔疾患の成り立ちとその予防法を理解している。
10）口腔疾患の予防をライフコースアプローチの視点をもって理解している。
11）国際保健協力機構について理解している。
12）口腔疾患の成り立ちと予防法を理解している。
13）口腔保健支援活動の実施内容と方法およびその法的枠組みを理解している。
14）国家統計とその活用方法を理解している。

４．履修の進め方

教科書を傍用した講義で履修する。

５．準備学修

シラバスを参照し，教科書の該当頁を読んでおくこと（15分）。

６．評価方法

定期試験が65点以上で合格とする。定期試験を欠席した者及び65点未満の者には追・再試験を行い，その得点が65点以上で合格とする。試験形式は多肢選択式問題及び計算問題とする。追試験は素点を評価点とする。再試験は65点以上を65点として評価する。

７．教本

安井利一　他編　口腔保健・予防歯科学　医歯薬出版　2024

安井利一　他編　スタンダード衛生・公衆衛生　第18版　学建書院　2023

８．参考書

なし

9．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／10	口腔衛生学概論	健康の概念，プライマリヘルスケア，ヘルスプロモーション，行動変容	C-5-3／必2-ア，必3-ア，総Ⅰ-1-ア，オ	①
2	4／17	口腔の組織と発育・機能	口腔の組織と発育，口腔の機能	A-2-4／必4-ア	〃
3	4／24	口腔バイオフィルムの形成と病原性	ペリクル，プラーク，歯石，舌苔	D-3-2-4／必4-ア，イ	〃
4	5／8	齲　蝕	齲蝕の概念，齲蝕の発生要因	D-5-1-2／必3-ウ，総Ⅰ-6-エ	〃
5	5／15	フッ化物応用	フッ化物の応用法，齲蝕予防機序，代謝，為害作用	D-5-1-2／必3-ウ，総Ⅰ-6-エ	〃
6	5／18	歯周病	歯周病の定義と分類，発生要因	D-5-2-3／必2-ア，総Ⅰ-1-ア，総Ⅰ-7-ア	〃
7	5／29	口　臭	口臭の定義と分類，その他の口腔疾患と予防	D-5-1-1／必9-オ	〃
8	6／5	口腔と全身の健康	ライフスタイルと口腔保健，全身の疾患（糖尿病，メタボリックシンドローム）	C-4-1／必3-ア，必6-ア	〃
9	6／12	行動科学と健康教育	行動科学の意義，プリシード・プロシードモデル，ヘルスリテラシー，健康教育	C-4-3-1／必3-ア	〃
10	6／19	口腔保健と疫学	疫学の定義と目的，記述疫学，分析疫学	C-6-1-1／総Ⅰ-6-ア～エ	〃
11	6／26	口腔保健と疫学	口腔疾患の疫学的特徴，スクリーニング	C-6-1-3／総Ⅰ-6-ア～エ	〃
12	7／3	口腔保健の指標（齲蝕の指標）	DMF，RID，ICDAS 基準，OHI，OHI-S	C-6-1-3／総Ⅰ-6-エ	〃
13	7／10	口腔保健の指標（歯周疾患の指標）	PMA，GI，PDI，CPI	C-6-1-3／総Ⅰ-6-エ	〃
14	7／17	国民の口腔保健状況	口腔保健の統計調査	C-6-2-21／必3-イ，総Ⅰ-2-イ	〃
15	7／24	齲蝕予防	宿主要因，食事の要因，微生物の要因，齲蝕活動性試験	D-5-1-1／必3-ウ，各Ⅱ-1-ア，イ	①
16	9／2	人口問題Ⅰ	人口静態統計，人口指数，人口割合，生命表	C-6-2／総Ⅰ-6-ウ	②
17	9／9	人口問題Ⅱ	人口動態統計（出生，死亡の指標）	C-6-2／総Ⅰ-6-ウ	〃
18	9／16	疫学	分析疫学（患者対照研究，オッズ比），スクリーニング	C-6-1／必9-ア，ウ，総Ⅰ-6-ア，イ	〃
19	9／30	疫学	バイアス，介入研究，メタアナリシス，EBM	C-6-1／必2-エ，必9-ア，ウ，総Ⅰ-6-ア，イ	〃
20	10／7	疾病予防と健康管理	院内感染予防，医療廃棄物	C-5-1，4／総Ⅰ-1-ア，総Ⅰ-7-ア	〃
21	10／14	地域保健	ヘルスプロモーション，PDCA サイクル，保健行政	C-4-2，C-5-1，3／必3-イ，総Ⅰ-1-オ	〃
22	10／21	母子保健・母子保健統計	母子保健統計，母子保健の動向，女性の就労と育児支援，児童虐待	C-4-2，3／必3-イ，総Ⅰ-2-ア	〃
23	10／28	母子保健・児童虐待	女性の就労と育児支援，児童虐待の防止	C-4-2，3／必3-イ，総Ⅰ-2-ア	〃
24	11／4	学校保健	学校保健の概要，学校保健活動	C-4-2，3／必3-イ，総Ⅰ-2-イ	〃
25	11／11	母子歯科保健・学校歯科保健	妊産婦歯科健康診査，１歳６か月児歯科健康診査，３歳児歯科健康診査学校保健管理，学校歯科健康診断	C-4-3／必3-イ，総Ⅰ-2-イ	〃
26	11／18	成人保健	関連法規，健康増進法事業，特定健康診査，特定保健指導	C-4-2，3／必3-イ，総Ⅰ-1-オ，総Ⅰ-2-エ	〃
27	11／25	高齢者保健	関連法規，介護予防，地域支援事業，フレイル対策	C-4-2，3／必3-イ，総Ⅰ-1-オ，総Ⅰ-2-オ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
28	12／2	産業保健	産業保健の概要，産業保健活動	C-4-2, 3／必3-イ，総Ⅰ-2-ウ	②
29	12／9	精神保健	精神保健福祉対策	C-4-2, 3／必3-イ，総Ⅰ-2-カ	〃
30	12／16	社会保障	社会保障の機能，社会保障，生活保護	C-4-2, 3／必2-イ，総Ⅰ-1-ウ，エ	〃

口腔衛生学実習（後期・１単位）

D③B-c1-3514(D3514)

科目責任者：南　健太郎（衛生・教授）
科目担当者：①南　健太郎（衛生），②小林美智代（衛生），③相馬　親良（非常勤），④窪田　明久（非常勤），⑤佐藤　涼一（非常勤）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

本実習では，人間の健康に影響を与える環境要因の測定と，地域歯科保健活動の主軸をなす歯科疫学指標の収集の実際と，さらには予防歯科臨床で多用される小窩裂溝填塞とフッ化物応用について実技を通しその基本を習得することを目的に実施する。

２．一般目標

環境要因を測定するための基本的技能と，集団における口腔疾患の状況を正しく分析・評価し，疾病予防のための方策を立案するための基本的技能を習得する。

３．到達目標

１）環境測定を行い評価できる。
２）口腔内を適切な指標で評価できる。
３）口腔清掃状況を評価し適切な指導を実施できる。
４）フッ化物応用と小窩裂溝填塞の基本的手技を実施できる。
５）統計分析の意義を説明し解析を実施できる。
６）各測定資料から個人及び集団の口腔内状況を評価し予防対策を立案できる。
７）実習で習得したことをスライドにまとめ発表できる。

４．履修の進め方

実習実技についての説明，実技を取り入れた実習及び実習成果のスライドを作成し発表，この３つを柱として履修する。

５．準備学修

実習項目に関連する項目について，実習書，教科書及び講義ノートを読むこと（15分）。

６．評価方法

出席（10%），レポート（20%），効果測定（70%）の合計で65点以上を合格とする。

出席点は次に定める方法に従う。

45回全出席：10点
42回出席　：６点
39回出席　：３点
36回出席　：０点
35回以下　：未修了

７．教本

荒川浩久 他編 「生活と健康－測定と評価法－」 学建書院　2021.

８．参考書

末高武彦 他編　スタンダード衛生学・公衆衛生学　学建書院　2022

安井利一 他編　口腔保健・予防歯科学　医歯薬出版　2023

９．授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	９／２	環境衛生実習オリエンテーション	環境衛生実習概説	C-4-5／総Ⅰ-9-ア	①～⑤
4 5 6	９／９	水の衛生	水質検査	C-4-5／総Ⅰ-9-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
7 8 9	9／16	1. 空気の衛生 2. 騒音と疲労	２グループ編成で，１～２の内容を２週ローテーションで行う。	C-4-5／ 総Ⅰ-9-ア	① ～ ⑤
10 11 12	9／30	1. 空気の衛生 2. 騒音と疲労	３グループ編成で，１～２の内容を２週ローテーションで行う。	C-4-5／ 総Ⅰ-9-ア	〃
13 14 15	10／7	環境衛生実習 効果測定	効果測定	C-4-5／ 総Ⅰ-9-ア	〃
16 17 18	10／14	予防歯科実習 オリエンテーション	予防歯科実習概説	D-5-1／ 必3-ウ, エ, 各Ⅱ-1-イ	〃
19 20 21	10／21	齲蝕活動性試験	宿主要因と寄生体要因についての検査	D-5-1／ 必3-ウ, エ, 各Ⅱ-1-イ	〃
22 23 24	10／28	小窩裂溝填塞	実際の小窩裂溝填塞の手技を行う。	D-5-1／ 必3-ウ, エ	〃
25 26 27	11／4	口腔診査（硬組織），DMF 関連，計算演習	DMF 関連指標	C-6-1-3／ 必9-ア, 総Ⅰ-6-イ	〃
28 29 30	11／11	口腔診査（歯周組織），歯周組織関連指標，計算演習	PMA，GI	C-6-1-3／ 必9-ア, 総Ⅰ-6-イ	〃
31 32 33	11／18	口腔診査（歯口清掃）	OHI, OHI-S, PHP，PCR, PII	C-6-1-3／ 必9-ア, 総Ⅰ-6-イ, 各Ⅱ-1-イ	〃
34 35 36	11／25	保健統計演習	疫学統計実習	C-6-2, 4／ 総Ⅰ-6-イ, ウ	②
37 38 39	12／2	フッ化物基礎実習	総合評価	D各Ⅱ-1-イ	① ～ ⑤
40 41 42	12／9	口腔内総合評価効果測定	効果測定	C-6-2, 4, D-5-1／ 必3-ウ, エ, 総Ⅰ-6-イ, ウ, 各Ⅱ-1-イ	〃
43 44 45	12／16	全実習の総括および再効果測定	統括演習，再効果測定	実施全範囲	〃

保存修復学Ⅰ（後期・２単位）

D③④C-a2-3802（D3802）

科目責任者：山田　嘉重（修復・教授）
科目担当者：①山田　嘉重（修復），②菊井　徹哉（修復），
③大木　英俊（修復）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

齲蝕，歯の破折および摩耗などにより生じた自然治癒しない硬組織実質欠損に対して，病変の進行を阻止して歯の生理学的機能を回復させるとともに，審美的にも調和する生体親和性のある修復方法を研究する分野が保存修復学である。

保存修復学Ⅰでは総括的項目や各種修復法に共通する原理と技術，特に齲蝕の診断，処置方法，窩洞形成の理論ならびにその問題点を講義する。板書，スライド，配布資料を用いた講義が主体となる。

２．一般目標

齲蝕，非齲蝕性硬組織疾患による実質欠損を適切に治療するために，基礎知識として疾患の診断と処置方法，窩洞および各種修復方法に共通する原理や基本的技術の理論を習得する。ディプロマ・ポリシーの２：探求力と解決力，４：知識と診断能力を養い各種硬組織疾患の診断や処置法など歯科治療の基礎となる項目を確実に履修することを目標とする。

３．到達目標

１）齲蝕，非齲蝕性硬組織疾患の病因と病態が説明できる。
２）エナメル質齲蝕，象牙質齲蝕，根面齲蝕の診査方法および治療方法が説明できる。
３）切削機器，器具の名称と用途が説明できる。
４）窩洞の分類，特徴および形成方法が説明できる。
５）象牙質知覚過敏症，変色歯，破折歯の処置法が説明できる。
６）歯髄障害の原因と対策を説明できる。
７）コンポジットレジン修復法の特徴・適応症や処置手順が説明できる。
８）グラスアイオノマーセメント修復法の特徴・適応症や処置手順が説明できる。

４．履修の進め方

１）講義は教科書の内容をシラバスの予定に従って行う。
２）板書，スライド，配布資料等を使用して教科書の内容をよりわかりやすく解説する。
３）学生は板書，スライドおよび配付資料に沿って独自に授業ノート等を作成し，要点および追加事項を記入する。
４）学生は理解が不十分な点について，適宜教員に質問して理解を深める。
５）学生の授業の予習・復習の確認のため，授業の前後で小試験を行うこともある。

５．準備学修

シラバスを確認して，授業内容について事前に教科書を用いて予習を行う（30分）。授業終了後，講義ノートや配布資料を用いてその日のうちに当日の講義内容の要点をノートにまとめて復習する（30分から１時間程度）。

６．評価方法

合計が65％（65点）以上の得点で合格とする。

MCQ 形式（40～50問）で出題する。（記述問題の出題も加わることもある。）

追・再試験については，追試験は上限100点，再試験は上限65点とし，追・再試験ともに65点以上の得点で合格とする。

７．教本

田上順次，奈良陽一郎，山本一世，斎藤隆史（編）「保存

修復学21　第６版」永末書店　2022年版
　千田　彰，宮崎真至，林美加子，向井義晴，斎藤隆史（編）「保存修復学　第７版」医歯薬出版　2019年版

８．参考書

なし

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	8／31	保存修復法概論①	保存修復学の概念と目的，歴史，修復材料の一般的性質，治療器械の変遷	D-3-2-1／必-12-ア，総Ⅷ-2-ア	①
2	8／31	保存修復法概論②	保存修復の種類と適応症．歯の構造と機能，硬組織の加齢に伴う変化	D-3-2-1／総Ⅱ-5-ア-c，総Ⅱ-7-エ-a，	〃
3	9／7	硬組織疾患①	齲蝕の病因と病態①，エナメル質齲蝕・象牙質齲蝕	D-3-2-1／必-6-イ-a，総Ⅲ-2-ア-b，各Ⅱ-1-ア-a	〃
4	9／7	硬組織疾患②	齲蝕の病因と病態②，根面齲蝕・二次齲蝕	D-3-2-1／必-6-イ-a 総Ⅲ-2-ア-b，各Ⅱ-1-ア-a	〃
5	9／14	硬組織疾患③	非齲蝕性硬組織疾患．変色歯，象牙質知覚過敏	D-3-2-1／必-7-イ-b 総Ⅲ-2-ア-b，各Ⅱ-1-ア-d	②
6	9／14	診断と治療計画①	医療面接，硬組織疾患の検査法，問題点の抽出	E-5-3-1／総Ⅴ-1-ア，Ⅵ-1-ア-a，各-4-2-ア，各-4-2-エ	〃
7	9／28	診断と治療計画②	治療計画，インフォームドコンセント	E-5-3-1／総Ⅶ-1-ア，各-4-2-ア，各-4-2-エ	〃
8	9／28	硬組織切削	診療設備，姿勢，切削器具，医療用レーザー等	B-3-2／総Ⅷ-2-ア-b，総-7-9-エ，各Ⅱ-1-ア-a	〃
9	10／5	齲蝕の処置①	初期エナメル質齲蝕，エナメル質齲蝕の処置法	E-5-3-1／必-11-ケ-b，総-7-2-ア-b，各Ⅱ-1-ウ-a	①
10	10／5	齲蝕の処置②	象牙質齲蝕，根面齲蝕の処置法	E-5-3-1／必-11-ケ-b，総-7-2-ア-b，各Ⅱ-1-ウ-a	〃
11	10／19	窩洞①	窩洞の分類，窩洞の構造と各部の名称，窩洞の具備すべき条件①	E-5-3-1／必-11-ケ-b，総-7-2-ア-b，各Ⅱ-1-ウ-a	③
12	10／19	窩洞②	窩洞の具備すべき条件②，接着性修復と非接着性修復での窩洞の違い	E-5-3-1／必-11-ケ-b，総-7-2-ア-b，各Ⅱ-1-ウ-a	〃
13	10／26	修復時の留意点①	象牙質・歯髄複合体の保護，裏層・覆髄および仮封	B-2-1／必-11-ケ-b，総-7-2-ア-b，各Ⅱ-1-ウ-a	②
14	10／26	修復時の留意点②	修復物の具備すべき条件	B-2-1／必-11-ケ-b，総-7-2-ア-b，各Ⅱ-1-ウ-a	〃
15	11／2	齲蝕の処置③	回転切削器具を使用しない齲蝕処置	E-5-3-1／必-11-ケ-b，総-7-2-ア-b，各Ⅱ-1-ウ-a	①
16	11／2	非齲蝕性硬組織疾患の処置①	くさび状欠損，咬耗症	E-5-3-1／必-11-ケ-b，総-7-2-ア-b，各Ⅱ-1-ウ-a	〃
17	11／9	非齲蝕性硬組織疾患の処置②	摩耗症，酸蝕症，象牙質知覚過敏症	E-5-3-1／必-11-ケ-b，総-7-2-ア-b，各Ⅱ-1-ウ-a	〃
18	11／9	非齲蝕性硬組織疾患の処置③	変色歯，形成異常，破折歯の処置	E-5-3-1／必-11-ケ-b，総-7-2-ア-b，各Ⅱ-1-ウ-a	〃
19	11／16	直接修復①	従来型グラスアイオノマーセメント修復①	E-5-3-1-3／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-b，各Ⅱ-1-ウ-a	③
20	11／16	直接修復②	従来型グラスアイオノマーセメント修復②	E-3／必-11-ケ-b，総-7-2-ア-b，各Ⅱ-1-ウ-a	〃
21	11／30	直接修復⑧	レジン添加型グラスアイオノマーセメント修復①	E-5-3-1-3／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-b，各Ⅱ-1-ウ-a	〃
22	11／30	直接修復⑨	レジン添加型グラスアイオノマーセメント修復②	E-3／必-11-ケ-b，総-7-2-ア-b，各Ⅱ-1-ウ-a	〃
23	12／7	歯冠修復法各論	歯冠修復方法の分類・特徴治療の前準備・修復補助法	E-5-3-1／各Ⅱ-1-ウ-a	②
24	12／7	歯科の接合技術①	歯科用セメントの種類と用途	B-2-4／必-11-セ-f，総Ⅷ-8，各Ⅱ-1-ウ-a	〃
25	12／14	歯科の接合技術②	歯質接着システムの分類と接着補助材	B-2-4／必-11-セ-f，総Ⅷ-8，各Ⅱ-1-ウ-a	〃
26	12／14	直接修復③	コンポジットレジン修復①	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-a	〃
27	12／17	直接修復④	コンポジットレジン修復②	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-a	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
28	12／17	直接修復⑤	コンポジットレジン修復③	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b,総Ⅷ-5-ア-a,各Ⅱ-1-ウ-a	②
29	12／21	直接修復⑥	コンポジットレジン修復④	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b,総Ⅷ-5-ア-a,各Ⅱ-1-ウ-a	〃
30	12／21	直接修復⑦	コンポジットレジン修復⑤	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b,総Ⅷ-5-ア-a,各Ⅱ-1-ウ-a	〃

冠橋義歯補綴学Ⅰ（後期・１単位）

D③④C-a1-3803（D3803）

科目責任者：羽鳥　弘毅（冠橋・教授）
科目担当者：①羽鳥　弘毅（冠橋），②冨士　岳志（冠橋），③内田　光洋（冠橋）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

冠橋義歯補綴は歯科治療の中でも高頻度な治療方法であることから，安全かつ確実な治療を施すためには，顎口腔系諸器官の機能や形態に関する知識の修得のみならず，使用する機械の特徴や材料の性質についても把握する必要があり，かつ歯学全般の幅広い知識と熟練した技能が必要とされる。そこで，冠橋義歯補綴学Ⅰでは冠橋義歯の歴史と総論およびクラウンの種類，ブリッジの種類と構成などについて教授する。

本科目は，冠橋義歯補綴学について学ぶことで冠橋義歯補綴学を理解し，冠橋義歯治療を実践することを目標としており，ディプロマポリシー「３．病態解析と治療概念」，「４．知識と診断」及び「５．技能と治療」に関連する。

２．一般目標

歯冠部歯質欠損および少数歯欠損による咬合・咀嚼障害や審美障害を治療できるようになるために，クラウンおよびブリッジを応用した補綴法に必要な知識を修得する。

３．到達目標

１）クラウンブリッジの歴史を説明する。
２）冠橋義歯補綴学の意義と目的を説明する。
３）クラウンブリッジの要件を説明する。
４）クラウンの種類を説明する。
５）ブリッジの種類と校正を説明する。
６）インフォームドコンセントの考え方と成立要件を説明する。
７）冠橋義歯補綴治療に先立ち実施する前処置を説明する。
８）支台歯形成の目的と原則，手順を説明する。

４．履修の進め方

講義主体で教科書を中心としたスライドによる視覚素材を使用して履修する。履修に先立ち講義内容を理解するために講義に使用するスライドを講義前にユニパに掲示する。

５．準備学修

予習として，シラバスを確認して，講義内容についてスライドデータを参考に教科書を読むこと（30分）。

復習として，教科書とスライドデータを確認して講義内容を十分に理解すること（60分）。

６．評価方法

後期の定期試験において点数が65点以上を合格とする。定期試験は多肢選択式問題と記述式問題の筆記試験とする。点数が65点未満の場合には再試験を行う。点数が65点未満の再試験該当者は，再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。出席率80％未満は「定期試験及び追再試験」の受験資格を失います。出席率80％未満の学生は「定期試験及び追再試験」の受験資格を失います。

７．教本

矢谷博文ら 編「クラウンブリッジ補綴学第７版」医歯薬出版

石橋寛二ら 編「クラウンブリッジテクニック第２版」医歯薬出版

８．参考書

なし

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／4	クラウンブリッジ補綴学の意義と目的	クラウンブリッジ補綴学の目的と意義，利点と欠点	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	①
2	9／11	咬合・歯周組織の正常像	咬合・歯周組織の正常像	E-5-3／必5-ア	〃
3	9／18	咬合，咬合異常・咀嚼障害	咬合，咬合異常・咀嚼障害	E-5-3／各Ⅳ-1-ア，イ，ウ，エ，オ	〃
4	9／25	診察・診断	医療面接と診察，検査	E-5-3／各Ⅳ-2-ア，イ，ウ	〃
5	10／2	治療計画を左右する因子	口腔内因子，全身的因子，社会・心理学的因子	E-5-3／各Ⅳ-2-エ	②
6	10／9	クラウンブリッジの要件	生物学的・機能的・力学的・審美的・材料学的要件	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	〃
7	10／16	クラウンの種類①	全部被覆冠の種類と分類	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	③
8	10／23	クラウンの種類②	部分被覆冠の種類と分類	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	②
9	10／30	ブリッジの種類と構成	ブリッジの臨床的意義，適応症，種類，構成要素	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	〃
10	11／6	クラウンブリッジの設計	支台歯，欠損歯，支台装置とポンティックの選択	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	〃
11	11／13	インフォームドコンセント前処置①	基本理念，プロセス，治療の選択 予防的・外科的処置	E-5-3／必1-イ，各Ⅳ-3-イ	①
12	11／20	前処置②	保存的・矯正的・補綴的処置	E-5-3／各Ⅳ-3-イ	②
13	11／27	支台歯形成①	支台歯形成の目的と原則，支台歯の基本形態	E-5-3／各Ⅳ-3-イ	①
14	12／4	支台歯形成②	全部被覆冠の支台歯形成	E-5-3／各Ⅳ-3-イ	③
15	12／11	支台歯形成③感染予防	部分被覆冠の支台歯形成 治療における感染対策	E-5-3／各Ⅳ-3-イ	①

有床義歯補綴学Ⅰ（後期・３単位）

D③④C-a3-3804（D3804）

科目責任者：髙津　匡樹（有床・教授）

科目担当者：①髙津　匡樹（有床），②池田　敏和（有床），③内山　梨夏（有床）

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

有床義歯には歯の部分欠損に対する部分床義歯と無歯顎に対する全部床義歯がある。本科目では，無歯顎症例に対して全部床義歯を装着することで，顎顔面および口腔の失われた形態と機能，外観を回復するとともに，全身の身体的，精神的健康を維持・増進するための理論を学ぶ。

本科目は，無歯顎患者の補綴治療について学ぶことでその理論と術式を理解し，全部床義歯の装着と管理に関する知識の習得を目標としており，ディプロマシーポリシー３，４，５，に関連する。

２．一般目標

無歯顎患者の全身および局所的情報を把握し，系統的な診断と治療計画立案にもとづく全部床義歯の装着および継続的な管理を実施するために必要な知識を修得する。

３．到達目標

１）無歯顎者の特徴と無歯顎の病態を説明する。
２）全部床義歯が具備すべき要件を説明する。
３）無歯顎患者の診察，検査，診断を説明する。
４）全部床義歯製作の治療過程を説明する。
５）全部床義歯製作における技工操作を説明する。
６）全部床義歯の装着と指導を説明する。
７）全部床義歯装着後の経過観察を説明する。
８）特殊な全部床義歯による治療を説明する。

４．履修の進め方

講義を主体とした授業において，教科書，スライドおよび配付資料を用いて履修する。必要な内容は配付資料等にメモをとりながら履修する。毎週実施する小テストで形成的評価をしながら進み，最終講義時に行う演習で理解度を確認する。

５．準備学修

予　習：関連する基礎科目である口腔解剖学，口腔生理学，生体材料学の講義・実習を通して学んだ内容や，前回の講義までに学んだ内容を確認して講義に臨む。（60分）

復　習：講義内容を当日中に必ず復習し，講義中に指示のあった箇所および理解が不十分な項目については配布資料と教科書を用いて自己学習を行う。（60分）

６．評価方法

毎週授業時に小テストで形成的評価を行う。小テストのフィードバックは講義内にて行う。最終評価は定期試験で行い，65点以上を合格（単位認定）とする。なお，再試験受験者は65点を上限として評価する。定期試験および追再試験の問題形式は，多肢選択式，記述式（論述・短答・長文穴埋めなど）とする。

７．教本

市川哲雄 他編：無歯顎補綴治療学　第４版　医歯薬出版　2022

配付資料

８．参考書

日本補綴歯科学会編：歯科補綴学専門用語集　第６版　医歯薬出版　2023

9．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／1	全部床義歯補綴学概論	無歯顎の特徴，全部床義歯の構成要素	D-5-3-2／総Ⅲ-2-イ，総Ⅶ-2-ア，各Ⅳ-5-ア	①
2	9／1	全部床義歯補綴学概論	全部床義歯製作の流れ	D-5-3-2／各Ⅳ-5-アイウ	〃
3	9／4	補綴学総論	顎口腔系の機能，下顎運動	D-5-3-2／総Ⅱ-6-イ	〃
4	9／8	全部床義歯の維持・支持・安定	物理的維持力	D-5-3-2／各Ⅳ-5-ア	〃
5	9／8	全部床義歯の維持・支持・安定	生理的維持力，解剖学的因子	D-5-3-2／各Ⅳ-5-ア	〃
6	9／11	補綴学総論	下顎位，咬合様式	D-5-3-2／総Ⅱ-6-イ	〃
7	9／15	全部床義歯の維持・支持・安定	全部床義歯の支持，全部床義歯の安定	D-5-3-2／各Ⅳ-5-ア	〃
8	9／15	診察・検査・診断	一般的な診察，局所的な診察と検査	D-5-3-2／総Ⅵ-1-アイ，必7-イ，各Ⅳ-2-アイ	③
9	9／18	診察・検査・診断	無歯顎補綴治療における診断，治療計画の立案	D-5-3-2／各Ⅳ-2-ウエ	〃
10	9／25	前処置	補綴前処置，外科的前処置	D-5-3-2／各Ⅳ-5-イ	〃
11	9／29	印象採得	印象採得の流れ，印象採得用材料，印象法の種類	D-5-3-2／各Ⅳ-5-イウ，総Ⅷ-3-アイウエ	①
12	9／29	印象採得	概形印象採得，研究用模型の製作，個人トレーの製作	D-5-3-2／各Ⅳ-5-イウ	〃
13	10／2	印象採得	筋圧形成，精密印象採得，作業用模型の製作	D-5-3-2／各Ⅳ-5-イウ	〃
14	10／6	顎間関係の記録（咬合採得）	咬合採得の目的，咬合採得の流れ	D-5-3-2／各Ⅳ-5-イウ	②
15	10／6	顎間関係の記録(咬合採得)	作業用模型の調整，咬合床の製作	D-5-3-2／各Ⅳ-5-イウ	〃
16	10／9	顎間関係の記録(咬合採得)	仮想咬合平面の決定	D-5-3-2／各Ⅳ-5-イ	〃
17	10／13	顎間関係の記録(咬合採得)	垂直的顎間関係(咬合高径)の決定	D-5-3-2／各Ⅳ-5-イ	①
18	10／13	顎間関係の記録(咬合採得)	特殊な器具を必要としない水平的顎間関係記録法	D-5-3-2／各Ⅳ-5-イ	〃
19	10／16	顎間関係の記録(咬合採得)	特殊な器具を使用する水平的顎間関係記録法	D-5-3-2／各Ⅳ-5-イ	①
20	10／20	顎間関係の記録(咬合採得)	標示線の記入，デンチャースペースの記録	D-5-3-2／各Ⅳ-5-ウ	〃
21	10／20	下顎運動の記録と咬合器装着	下顎運動の記録，咬合器	D-5-3-2／各Ⅳ-5-イウ	〃
22	10／23	下顎運動の記録と咬合器装着	咬合器装着，咬合器調節	D-5-3-2／各Ⅳ-5-ウ	〃
23	10／27	人工歯の選択と排列	前歯部人工歯の選択	D-5-3-2／各Ⅳ-5-ウ，総Ⅷ-6-オ	〃
24	10／27	人工歯の選択と排列	前歯部人工歯の排列	D-5-3-2／各Ⅳ-5-ウ	〃
25	10／30	人工歯の選択と排列	臼歯部人工歯の選択	D-5-3-2／各Ⅳ-5-ウ	〃
26	11／6	人工歯の選択と排列	臼歯部人工歯の排列	D-5-3-2／各Ⅳ-5-ウ	〃
27	11／10	人工歯の選択と排列	全部床義歯に付与する咬合様式	D-5-3-2／各Ⅳ-5-ウ	〃
28	11／10	歯肉形成とろう義歯試適	歯肉形成	D-5-3-2／各Ⅳ-5-ウ	〃
29	11／13	歯肉形成とろう義歯試適	ろう義歯試適時の検査，ろう義歯試適後の流れ	D-5-3-2／各Ⅳ-5-イウ	〃
30	11／17	埋没，重合，研磨	ろう義歯の埋没法	D-5-3-2／各Ⅳ-5-ウ	③
31	11／17	埋没，重合，研磨	流ろう，レジン塡入，レジン重合法	D-5-3-2／各Ⅳ-5-ウ，総Ⅷ-6-ア	〃
32	11／20	埋没，重合，研磨	義歯の取り出し，研磨	D-5-3-2／各Ⅳ-5-ウ	〃
33	11／24	咬合器再装着・咬合調整	重合した義歯の咬合器再装着	D-5-3-2／各Ⅳ-5-ウ	②
34	11／24	咬合器再装着・咬合調整	人工歯の削合	D-5-3-2／各Ⅳ-5-ウ	〃
35	11／27	義歯装着	完成義歯の試適・調整	D-5-3-2／各Ⅳ-5-ウ	〃
36	12／1	義歯装着	装着時の指導，装着直後の調整	D-5-3-2／各Ⅳ-5-ウ，各Ⅳ-8-イ	〃
37	12／1	義歯装着後の経過観察	装着後の生体と義歯の変化	D-5-3-2／各Ⅳ-8-オ	〃
38	12／4	義歯装着後の経過観察	定期検査，義歯の修理	D-5-3-2／各Ⅳ-8-オ	〃
39	12／8	義歯装着後の経過観察	リライン，リベース，咬合面再形成	D-5-3-2／各Ⅳ-8-オ，総Ⅷ-6-カ	①
40	12／8	特殊な義歯	金属床義歯	D-5-3-2／各Ⅳ-5-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
41	12／11	特殊な義歯	暫間義歯，即時義歯，治療用義歯，移行義歯，診断用義歯	D-5-3-2／各Ⅳ-5-ア	①
42	12／15	特殊な義歯	オーバーデンチャー	D-5-3-2／各Ⅳ-5-ア	〃
43	12／15	特殊な義歯	顎補綴，舌接触補助床	D-5-3-2／各Ⅳ-7-アウ	〃
44	12／18	演習と解説	全部床義歯補綴学に関する演習	D-5-3-2／上記すべて	〃
45	12／18	演習と解説	全部床義歯補綴学に関する演習の解説	D-5-3-2／上記すべて	〃

有床義歯補綴学Ⅰ実習
（後期・１単位）

D④⑤C-c1-31005（D31005）

科目責任者：髙津　匡樹（有床・教授）
科目担当者：①髙津　匡樹（有床），②池田　敏和（有床），③内山　梨夏（有床），④浅井　政一（非常勤），⑤佐久間隆章（非常勤），他
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

上下顎全部床義歯の製作過程を実践することで，有床義歯補綴学Ⅰで学修した無歯顎補綴治療の知識と理論を深めるとともに，全部床義歯の製作に必要な基本的技能を修得する。

本科目は，無歯顎患者の補綴治療について学ぶことでその理論と術式を理解し，全部床義歯製作に関する知識と技能の習得を目標としており，ディプロマシーポリシー３，４，５，に関連する。

２．一般目標

全部床義歯製作における作業過程をチェアサイドとラボサイドに分けて理解し，全部床義歯を製作し装着するために必要な知識と技能を習得する。

３．到達目標

１）精密印象採得と作業用模型の製作を説明する。
２）作業用模型を調整し咬合床を製作する。
３）咬合採得の手順について説明する。
４）作業用模型の咬合器装着と顆路調節を行う。
５）標示線の記入と人工歯選択を説明する。
６）前歯部および臼歯部人工歯を排列する。
７）歯肉形成を行う。
８）ろう義歯試適，レジン重合，咬合器再装着，人工歯削合，研磨を説明する。

４．履修の進め方

基礎棟２階の実習室において，小人数のグループに分かれて履修する。毎開始時に行う小テストを受けてから実習に臨む。実習は担当教員の指導を受けながら実習マニュアルに沿って進め，履修した項目は随時検印を受ける。

５．準備学修

予　習：関連科目である口腔解剖学，口腔生理学，生体材料学の講義・実習，有床義歯学Ⅰ講義を通して学んだ内容を良く理解する。また，実習マニュアル，教科書の関連範囲を熟読して実習に臨む。（30分）
復　習：実習内容を当日中に必ず復習し，理解が不十分な項目については実習マニュアル，教科書により自己学習を行う。（30分）

６．評価方法

毎回行う小テスト（20％），実技（30％）および製作物（50％）により100点満点で評価し，「可（65点）」以上を合格とする。小テストの平均が65％未満の場合，レポート課題の提出を必須とする。

７．教本

実習マニュアル
細井紀雄 他編：コンプリートデンチャーテクニック　第６版　医歯薬出版　2011年

８．参考書

日本補綴歯科学会編：歯科補綴学専門用語集　第６版　医歯薬出版　2023年

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	９／１	咬合床の製作	外形線と歯槽頂線の記入，リリーフとブロックアウト領域の明示	D-5-3-2／ 各Ⅳ-5-ウ	① ～ ⑤ 他
4 5 6	９／８	咬合床の製作２	ポストダムの形成，咬合床製作	D-5-3-2／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
7 8 9	９／15	上顎作業用模型の咬合器装着	スプリットキャスト形成，上顎模型の咬合器装着	D-5-3-2／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
10 11 12	９／29	下顎作業用模型の咬合器装着	スプリットキャスト形成，下顎模型の咬合器装着，標示線の記入	D-5-3-2／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
13 14 15	10／６	前歯部人工歯排列１	上顎前歯部の人工歯排列	D-5-3-2／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
16 17 18	10／13	前歯部人工歯排列２	上顎前歯部の人工歯排列，下顎前歯部の人工歯排列	D-5-3-2／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
19 20 21	10／20	前歯部人工歯排列３	下顎前歯部の人工歯排列	D-5-3-2／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
22 23 24	10／27	臼歯部人工歯排列１	上顎臼歯部の人工歯排列	D-5-3-2／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
25 26 27	11／10	臼歯部人工歯排列２	上顎臼歯部の人工歯排列，下顎臼歯部の人工歯排列	D-5-3-2／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
28 29 30	11／17	臼歯部人工歯排列３	下顎臼歯部の人工歯排列	D-5-3-2／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
31 32 33	11／24	歯肉形成１	上顎唇・頬側の歯肉形成	D-5-3-2／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
34 35 36	12／１	歯肉形成２	上顎口蓋側の歯肉形成	D-5-3-2／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
37 38 39	12／８	歯肉形成３	下顎唇・頬側の歯肉形成	D-5-3-2／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
40 41 42	12／15	歯肉形成４	下顎舌側の歯肉形成	D-5-3-2／ 各Ⅳ-5-ウ	〃
43 44 45	12／18	実技試験	製作物提出，実技試験	D-5-3-2／ 各Ⅳ-5-ウ	〃

口腔外科学Ⅰ（通年・２単位）

D③④C-a2-3809（D3809）

科目責任者：金　　秀樹（口外・教授）

科目担当者：①金　　秀樹（口外），②小嶋　忠之（口外），
③髙橋文太郎（薬理），④西　　祐也（口外），
⑤山崎　北斗（口外），⑥濵田　智弘（非常勤）

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

口腔外科学とは顎・口腔領域（口唇，頬粘膜，歯肉，口底，舌，口蓋など）の軟組織と上・下顎骨とそれに植立する歯などの硬組織および隣接する顎関節，唾液腺，所属リンパ節などに生じる各種疾患（先天異常，後天異常，損傷，炎症，嚢胞，腫瘍，血液疾患，顎関節疾患，唾液腺疾患，口腔粘膜疾患，神経疾患など）を正しく診断し，外科療法を主体とした適切な治療法を行うとともに，失われた形態と口腔機能の回復を図るための理論と技術を研究する学問であり，臨床歯科医学のなかで特に広範囲な診療科目として体系づけられている。したがって，口腔および口腔に関連する組織・器官の正常な形態と機能を理解するとともに，技能を獲得するための基礎と臨床を含めた歯科医学と隣接医学の幅広い知識が必要である。

２．一般目標

口腔外科学Ⅰでは，顎・口腔領域の疾患に罹患した患者の健康維持・増進を図るために，１）手術総論，小手術の知識，２）症性疾患，３）腔粘膜疾患，４）血液疾患，５）損傷，６）全身疾患と口腔病態（口腔・顔面に症状を現す全身疾患）の基礎的および臨床的な知識を習得する。

３．到達目標

１）消毒法および切開，止血，縫合の種類と器具，基本術式を説明する。
２）外科処置と全身疾患との関連を理解し説明する。
３）炎症性疾患の分類と症状を説明する。
４）口腔粘膜疾患の分類と特徴を概説し診断と治療法を説明する。
５）血液疾患の分類と特徴を概説し診断と治療法を説明する。
６）損傷の分類と症状を概説し診断と治療法を説明する。
７）全身疾患と口腔病態の種類と症状を概説し診断と治療法を説明する。

４．履修の進め方

講義主体でスライドと配布資料を使用して履修する。

５．準備学修

各回の授業内容項目について事前に教科書の該当範囲を読んでおくこと。（30分）

６．評価方法

前期と後期の講義終了後，講義内容についてMCQおよび記述式試験を実施し理解度を評価する。再試験は65点未満の不合格者に実施する。最終評価は前期・後期の本試験，追・再試験の全平均点で65点以上を合格とする。

７．教本

野間弘康，瀬戸晥一 監修「標準口腔外科学」第５版　医学書院　2024年

８．参考書

なし

9．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／7	手術総論および小手術１	手術用器具と材料の滅菌，術者の手指の消毒	E-1-4／総Ⅶ-4-ア	②
2	4／14	手術総論および小手術２	切開の器具，切開法，縫の材料・器具，縫合法	E-1-4／総Ⅶ-4-ア	⑤
3	4／21	手術総論および小手術３	出血の種類，止血法	E-1-4／総Ⅶ-4-ア	〃
4	4／28	手術総論および小手術４	有病者（全身疾患を有する患者）に対する観血処置の問題点	E-1-4／総Ⅶ-4-ア	〃
5	5／12	炎症性疾患１	歯冠周囲炎，歯周組織炎，蜂巣炎，所属リンパ節炎の診断	E-2-4／各Ⅲ-1-ウ	①
6	5／19	炎症性疾患２	歯冠周囲炎，歯周組織炎，蜂巣炎，所属リンパ節炎の治療	E-2-4／各Ⅲ-1-ウ	〃
7	5／26	炎症性疾患３	顎骨炎，歯性上顎洞炎の診断	E-2-4／各Ⅲ-2-エ	〃
8	6／2	炎症性疾患４	顎骨炎，歯性上顎洞炎の治療	E-2-4／各Ⅲ-2-エ	〃
9	6／9	炎症性疾患５	骨髄炎，放射線性骨壊死と放射線性骨髄炎の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-2-エ	〃
10	6／16	炎症性疾患６	顎部放線菌症口腔結核，口腔梅毒の口腔症状と診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-1-ウ	〃
11	6／23	炎症性疾患７	菌血症，敗血症の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-1-ウ	〃
12	6／30	損傷１	歯の脱臼，歯の破折に対する診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-2-ウ	④
13	7／7	損傷２	軟組織損傷に対する診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-2-ウ	〃
14	7／14	損傷３	骨折の診断	E-2-4／各Ⅲ-2-ウ	〃
15	7／21	損傷４	骨折の治療	E-2-4／各Ⅲ-2-ウ	〃
16	9／1	血液疾患１	造血と血液機能，止血機能，血液検査と鑑別，診断	E-2-4／各Ⅲ-4-サ	③
17	9／8	血液疾患２	貧血の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-4-ク	③
18	9／15	血液疾患３	白血病の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-4-ケ	〃
19	9／29	血液疾患４	血小板，凝固因子，血管，線溶系異常の各疾患の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-4-コ	〃
20	10／6	口腔粘膜疾患１	水疱，紅斑・びらんを主徴とする疾患の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-1-ク	②
21	10／13	口腔粘膜疾患２	潰瘍，白斑，色素沈着を主徴とする疾患の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-1-ク	〃
22	10／20	口腔粘膜疾患３	舌炎および類似疾患の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-1-ク	〃
23	10／27	口腔粘膜疾患４	口唇炎および類似疾患の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-1-ク	〃
24	11／10	全身疾患と口腔病態１	口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群	E-2-4／各Ⅲ-4-ア	⑥
25	11／17	全身疾患と口腔病態２	感染症の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-4-イ	〃
26	11／24	全身疾患と口腔病態３	免疫不全，免疫疾患の診断	E-2-4／各Ⅲ-4-エ	①
27	12／1	全身疾患と口腔病態４	免疫不全，免疫疾患の治療	E-2-4／各Ⅲ-4-オ	〃
28	12／8	全身疾患と口腔病態５	内分泌障害の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-4-カ	〃
29	12／15	全身疾患と口腔病態６	代謝異常の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-4-カ	〃
30	12／18	全身疾患と口腔病態７	栄養障害の診断と治療	E-2-4／各Ⅲ-4-キ	〃

口腔内科学（通年・２単位）

D③④C-a2-3808（D3808）

科目責任者：髙田　　訓，森　　一将（口外・教授）
科目担当者：①髙田　　訓（口外），②森　　一将（口外），
③髙橋文太郎（薬理），④西　　祐也（口外），
⑤中江　次郎（非常勤），⑥菅野　勝也（非常勤），
⑦安彦　善裕（非常勤）

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

全身疾患や心身医学的疾患に関する知識，口腔機能や栄養サポート，院内感染や感染予防，様々な臨床検査や放射線学的診断，口腔病理診断も加えた広範囲で総合的な医学的知識による診断能力を必要とする科目であり，内科的治療の必要性が高い超高齢社会の我が国にとって必要不可欠な科目である。

２．一般目標

社会の変化や新知見に伴って概念が変わりつつある口腔疾患を広い視野で診断し，全身疾患を把握して他職種と連携して患者個々のニーズに合わせた治療方針を立案できるようになるために，各種疾患を理解して診査・診断・治療法を学ぶ。

３．到達目標

１）口腔内科学の定義・役割を学ぶ。
２）診断の進め方を理解する。
３）臨床検査とその意義を理解する。
４）口腔疾患に対する治療法を理解する。
５）全身疾患と口腔疾患との関連を理解する。
６）医療連携と他職種連携を理解する。
７）器質的変化を伴う疾患を理解し，診断する。
８）器質的変化を伴わない疾患を理解し，診断する。
９）口腔機能を理解し，患者のニーズを知る。
10）医療安全と感染対策を理解する。

４．履修の進め方

歯学教育モデル・コア・カリキュラムには臨床実習に必要な内容として記載されている。前期15コマは口腔領域に関連した疾患の概要を理解し，様々な疾患名を記憶に残すことを目的に講義形式で履修を進める。後期15コマも講義形式で行うが，臨床における口腔内科の現状を供覧する。30コマを通じて口腔内科学の教本に沿って授業をすすめる。

５．準備学修

基礎系科目の口腔解剖，口腔組織，口腔生化，口腔生理，歯科薬理，口腔病理，口腔感染免疫などの基本的な知識とともに修得していく必要がある。特に口腔粘膜疾患や口腔外科学で履修する各疾患，更に歯科口腔心身症や全身疾患とも密接に関連するので，口腔外科学や標準口腔外科学も参考に履修するのが望ましい。また，口腔疾患の診断のために必要な臨床検査や心身医学的検査，放射線診断能力や口腔病理学的診断能力など，広い知識をバランス良く頭に入れておく必要がある。履修日前日に30分程度の事前学修が望ましい。

６．評価方法

MCQ（40～50問）を８割以上，論述を２割未満の形式で満点を100点とする定期試験を行い評価する。65点未満の者に再試を行う。追試験は正式な欠席理由による届出を要し，追試験に対する再試は実施しない。最終評価は定期試験の本試・追試・再試の全ての平均点を算出し，平均が65点以上の者を合格とする。

７．教本

口腔内科学　第３版　末永書店

８．参考書

口腔外科学　第４版　医歯薬出版
標準口腔外科学　第５版　医学書院

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／9	口腔内科	口腔内科の定義と役割	E-1-1)／総Ⅳ-1-ア	①②
2	4／16	診査・診断－1	診査・診断の進め方	E-1-1)／総Ⅳ-1-ア	〃
3	4／23	診査・診断－2	医療連携	E-6／総Ⅳ-6-カ	〃
4	5／7	臨床検査	血液検査・検体検査	E-1-3／総Ⅵ-3-ア	④
5	5／14	臨床現状－1	外部講師による講演	E-2-4／総Ⅳ-2-ケ	④⑤
6	5／21	臨床現状－2	外部講師による講演	E-2-4／総Ⅳ-2-ケ	〃
7	5／28	臨床現状－3	外部講師による講演	E-2-4／総Ⅳ-2-ケ	〃
8	6／4	臨床現状－4	外部講師による講演	E-2-4／総Ⅳ-2-ケ	〃
9	6／11	臨床現状－5	外部講師による講演	E-2-4／総Ⅳ-2-ケ	④⑥
10	6／18	臨床現状－6	外部講師による講演	E-2-4／総Ⅳ-2-ケ	〃
11	6／25	臨床現状－7	外部講師による講演	E-2-4／総Ⅳ-2-ケ	〃
12	7／2	臨床現状－8	外部講師による講演	E-2-4／総Ⅳ-2-ケ	〃
13	7／9	顎口腔機能検査	唾液・味覚検査	E-2-4／総Ⅵ-1-イ	①②
14	7／16	治療学－1	薬物療法・理学療法	E-2-4／総Ⅶ-8, 9	〃
15	7／23	治療学－2	有病者の治療・終末医療	E-2-4／総Ⅶ-1-エ	〃
16	9／3	前期復習	前期総括	E-1, 2／総Ⅳ, Ⅵ, Ⅶ	〃
17	9／10	全身疾患との関連－1	血液疾患・脳卒中	E-6／総Ⅴ-6-ア	④⑦
18	9／17	全身疾患との関連－2	循環器・呼吸器・内臓疾患	E-6／総Ⅴ-6-ア	〃
19	9／24	全身疾患との関連－3	代謝・内分泌疾患	E-6／総Ⅴ-6-ア	〃
20	10／1	全身疾患との関連－4	アレルギー・自己免疫	E-6／総Ⅴ-6-ア	〃
21	10／8	口腔疾患各論－1	炎症性疾患	E-2-4)／各Ⅲ-1	③⑦
22	10／15	口腔疾患各論－2	皮膚・粘膜疾患	E-2-4)／各Ⅲ-1	〃
23	10／22	口腔疾患各論－3	唾液腺疾患１	E-2-4)／各Ⅲ-3-ア	〃
24	10／29	口腔疾患各論－4	唾液腺疾患２	E-2-4)／各Ⅲ-2	〃
25	11／5	口腔疾患各論－5	神経疾患	E-2-4)／各Ⅲ-3-イ	①②
26	11／12	口腔疾患各論－6	歯科口腔心身症	E-2-4)／各Ⅲ-4-シ	〃
27	11／19	口腔疾患各論－7	顎関節疾患１	E-2-4)／各Ⅲ-3-ウ	〃
28	11／26	口腔疾患各論－8	顎関節疾患２	E-2-4)／各Ⅲ-3-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
29	12／3	医療現場と環境－1	口腔機能と睡眠障害	E-2-4)／各Ⅳ-1-ク	①②
30	12／10	医療現場と環境－2	医療安全と感染症対策	E-2-4)／必2-オ，カ	〃

歯科放射線学Ⅰ（後期・２単位）

D③④C-a2-3811（D3811）

科目責任者：川原　一郎（放射・教授）
科目担当者：①川原　一郎（放射），②原田　卓哉（物理），③茂呂祐利子（放射），④臼田　真浩（放射），⑤矢口　剛士（放射）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

放射線の医学利用には放射線診断や放射線治療があり，患者に利益をもたらしている一方で，被曝による危険も共存しています。放射線利用には，知識や技術的なことはもちろん，良識のある放射線診療・インフォームドコンセントも重要になります。

歯科放射線学は基礎放射線学として放射線物理学，放射線生物学，放射線化学を，また臨床放射線学として放射線診断学，放射線治療学，放射線防護学を学びます。基礎放射線学では，放射線の基礎的知識やその生物学的影響を学び，臨床放射線学では放射線を利用した画像診断，放射線治療に必要な撮影技術，腫瘍治療学さらに放射線防護について学びます。

２．一般目標

１）的確な画像診断を行うために，歯科領域の画像所見における特徴を理解する。
２）口腔領域悪性腫瘍の放射線治療および治療患者の口腔管理を実施するために，放射線治療の基礎と実際を理解する。

３．到達目標

１）電離放射線の種類，性質および単位について述べる。
２）放射線の生体に対する影響について述べる。
３）エックス線画像形成について述べる。
４）口内法エックス線撮影について述べる。
５）パノラマエックス線撮影について述べる。
６）口外法エックス線撮影について述べる。
７）特殊撮影について述べる。
８）腫瘍の放射線治療について述べる。
９）放射線治療患者の口腔管理について述べる。

４．履修の進め方

１）講義，示説で学習する。
２）文書，視覚媒体を用いる。
３）投影視覚媒体を用いる。

５．準備学修

予　習：教科書の熟読を中心に予習する。（60分）
復　習：教科書および講義ノートの振り返りにより復習する。（60分）

６．評価方法

定期試験で評価する。定期試験は筆記試験（多肢選択式問題と記述式問題）にて実施し，100点満点で評価する。再試験は定期試験65点未満の者に対して実施する。なお，追試験に対する再試験は実施しない。最終評価は65点以上を合格とする。

７．教本

岡野友宏 他「歯科放射線学　第７版」医歯薬出版　2024年

８．参考書

金田　隆 他著「新歯科放射線学」医学情報社　2017年
日本歯科放射線学会編「歯科臨床における画像診断アトラス　第２版」医歯薬出版　2020年

9．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／4	歯科放射線学総論1	歯科放射線学とは 放射線とその性質 X線と投影画像の形成	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア～コ, 総Ⅶ-7-ア～ウ	①
2	9／4	歯科放射線学総論2	X線撮影法と画像検査 画像診断 がんの放射線治療	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア～コ, 総Ⅶ-7-ア～ウ	④
3	9／11	X線撮影法と画像検査1	口内法X線撮影	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-エ	③
4	9／11	X線撮影法と画像検査2	パノラマX線撮影	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-エ	⑤
5	9／18	放射線とその性質1	放射線の物理	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア	①
6	9／18	放射線とその性質2	放射線の物理	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア	〃
7	9／25	X線撮影法と画像検査3	顔面頭蓋部撮影	D-2-5, E-2-5／ 総Ⅵ-2-エ	③
8	9／25	X線撮影法と画像検査4	画像検査における医療安全 医療情報とデジタル画像の融合 IVRと内視鏡	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-イ,ケ, 総Ⅶ-9-キ	〃
9	10／2	X線と投影画像の形成1	X線撮影装置とX線像の形成	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア,エ	①
10	10／2	X線と投影画像の形成2	X線撮影装置とX線像の形成	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア,エ	〃
11	10／9	X線撮影法と画像検査5	CT 歯科用コーンビームCT	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-オ	⑤
12	10／9	X線撮影法と画像検査6	CT 歯科用コーンビームCT	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-オ	〃
13	10／16	X線と投影画像の形成3	X線撮影装置とX線像の形成	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア,エ	①
14	10／16	X線と投影画像の形成4	X線撮影装置とX線像の形成	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア,エ	①
15	10／23	X線撮影法と画像検査7	MRI	D-2-5, E-2-5／ 総Ⅵ-2-カ	②
16	10／23	X線撮影法と画像検査8	MRI	D-2-5, E-2-5／ 総Ⅵ-2-カ	〃
17	10／30	X線と投影画像の形成5	フイルムによる撮影	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-イ	①
18	10／30	X線と投影画像の形成6	デジタル撮影 医療情報とデジタル画像	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-イ	〃
19	11／6	X線撮影法と画像検査9	超音波検査	D-2-5, E-2-5／ 総Ⅵ-2-ク	②
20	11／6	X線撮影法と画像検査10	超音波検査法	D-2-5, E-2-5／ 総Ⅵ-2-ク	〃
21	11／13	放射線とその性質3	放射線の量・単位とその測定	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア	①
22	11／13	放射線とその性質4	放射線の生物学的影響	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア,ウ	〃
23	11／20	X線撮影法と画像検査11	核医学検査	D-2-5, E-2-5／ 総Ⅵ-2-キ	④
24	11／20	X線撮影法と画像検査12	核医学検査	D-2-5, E-2-5／ 総Ⅵ-2-キ	〃
25	11／27	放射線とその性質5	人体に対する放射線影響	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア,ウ	①
26	11／27	放射線とその性質6	医療における放射線防護	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア,ウ	〃
27	12／4	X線撮影法と画像検査13	造影検査 IVR	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ケ, 総Ⅶ-9-キ	④
28	12／4	がんの放射線治療1	腫瘍に対する放射線の作用	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅶ-7-ア, イ,ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
29	12／11	がんの放射線治療２	放射線治療の概念と治療機器 頭頚部放射線治療の実際	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅶ-7-ア, イ,ウ	④
30	12／11	がんの放射線治療３	放射線治療に伴う有害事象と患者の管理	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅶ-7-ア, イ,ウ	〃

高齢者歯科学Ⅰ（後期・１単位）

D③④C-a1-3806（D3806）

科目責任者：鈴木　史彦（高齢・教授）
科目担当者：①鈴木　史彦（高齢），②北條健太郎（高齢），
③渡邉　　聡（高齢），④本間　達也（客員），
⑤宮尾　益佳（非常勤）

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

現在の日本は高齢化率29.3％の超高齢社会である。超高齢社会の問題点の一つは有病・要介護高齢者の増加である。高齢者特有の身体的・心理的特徴を考慮した歯科治療のみならず，オーラルフレイルや口腔機能低下症等の口腔機能管理と，誤嚥性肺炎予防のための口腔衛生管理を併せた口腔健康管理が必須となる。また，医療・介護・福祉分野による多職種協働において，歯科の果たすべき役割についても理解する必要がある。高齢者歯科学Ⅰでは高齢者の特徴を理解するとともに，要介護の原因疾患を学習することで，通院が困難な要介護高齢者の在宅歯科医療や訪問歯科診療に必要な基本的知識を学習していく。本科目は高齢者歯科学の総論に位置するものである。各論として，４年前期に高齢者歯科学Ⅱで摂食嚥下リハビリテーションを学習する。

２．一般目標（コンピテンス）

高齢者の身体的，精神的及び心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解する（ディプロマポリシー３と４）。

３．到達目標（コンピテンシー）

１）高齢者の生理的，精神心理的及び行動的特徴（認知症を含む）を理解している。
２）高齢者に多く見られる疾患及び服用薬剤を理解している。
３）高齢者の口腔機能検査と口腔機能管理を理解している。
４）口腔機能低下症を理解している。
５）高齢者における口腔衛生管理の用具と処置を理解している。
６）高齢者の歯科治療時の全身管理を理解している。
７）要介護高齢者（在宅要介護者を含む）の歯科治療時の注意点を理解している。
８）高齢者の虐待の徴候と対応を理解している。

４．履修の進め方

講義形式でスライド，資料および教科書を使用して履修する。

５．準備学修

一般的な身体的特徴を理解していないと，老化の身体的特徴の理解は難しい。本科目の履修準備として生物学と口腔生理学の内容を復習しておくこと。

本科目で履修する内容のうち，他分野と関係が深い科目は次の通りである。高齢者で多くみられる全身疾患：総合臨床医学，口腔粘膜疾患：口腔外科学，介護保険：口腔衛生学，チーム医療：チーム医療学，高齢者で高頻度となる歯科治療：有床義歯学Ⅰ・Ⅱ，保存修復学Ⅰ・Ⅱ，歯内療法学，歯周病学。

事前学習は教科書の該当箇所の重要語句（赤文字・青文字）と国家試験頻出項目（びっくりマーク）を確認しておくこと（15分）。事後学習は配布資料と授業中に確認した教科書の図表について復習しておくこと（15分）。理解が不十分な項目については担当教員に質問すること。

６．評価方法

定期試験は，論述試験80点と客観試験20点の合計が，65点以上の者を合格とする。なお，講義開始時に実施するGoogle フォームによる小テストの正答を５点満点に換算し

て，定期試験の結果に100点満点を上限として加点する。定期試験65点未満の者と定期試験欠席者に対しては追・再試験を実施し，定期試験と同様に評価する。定期試験と追・再試験のフィードバックは正答を全員へ配布する。

７．教本

よくわかる高齢者歯科学　第２版　永末書店

８．参考書

老年歯科医学　第２版　医歯薬出版

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	９／２	高齢者歯科学	概論高齢者の特性	D-5-7／総Ⅰ-2-オ-b	①
2	９／９	社会保障	介護保険，高齢者医療	C-4-3-6／総Ⅰ-1-ウ-c	〃
3	９／16	全身の加齢変化	身体・精神・心理の加齢変化	D-5-7-1／必5エ-b	〃
4	９／30	口腔の加齢変化	顎・口腔・嚥下機能の加齢変化	D-5-7-4／総Ⅱ-7-エ	〃
5	10／７	高齢患者の臨床評価	全身の評価，口腔機能の評価	D-5-7-3／各Ⅴ-4-ア	②
6	10／14	高齢者に多い口腔疾患	硬組織疾患，軟組織疾患	D-5-7-2／各Ⅴ-6-ア～エ	〃
7	10／21	高齢者に多い全身疾患Ⅰ	脳血管障害	D-5-7-2／総Ⅶ-1-エ	〃
8	10／28	高齢者に多い全身疾患Ⅱ	認知症	D-5-7-2／総Ⅶ-1-エ	〃
9	11／４	高齢者に多い全身疾患Ⅲ	その他の全身疾患	D-5-7-2／総Ⅶ-1-エ	〃
10	11／11	各ステージでの歯科の役割	急性期，回復期，終末期	D-5-7-7／総Ⅶ-1-ウ-c	〃
11	11／18	介護施設	介護老人保健施設，介護老人福祉施設，多職種連携	D-5-7-6，D-6-2／必2-ウ，総Ⅰ-1-エ-g	④
12	11／25	歯科訪問診療	歯科訪問診療の基本，器具・器材，実際	D-5-7-7／総Ⅰ-1-オ	①
13	12／２	臨床	歯科診療所での高齢者の治療	D-5-7／各Ⅴ	⑤
14	12／９	口腔健康管理	口腔衛生管理，口腔ケア口腔ケア	D-5-7-5／必3-エ	③
15	12／16	臨床・まとめ	臨床例と講義のまとめ	D-5-7／各Ⅴ	①

災害歯科医学（後期・１単位）

D③④C-a1-3805（D3805）

科目責任者：中川　敏浩（衛生・准教授）

科目担当者：①中川　敏浩（衛生），②佐藤　　歩（心理），③岩原　香織（非常勤）

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

今から14年前の未曾有の災害，東日本大震災を経験した本学において，災害時の医療体制・歯科的個人識別等，災害発生時の歯科医師の役割について学び，社会に貢献できる歯科医師となることを目標とする。

２．一般目標

社会における歯科医師の役割を理解し，個人の尊厳と個人情報を遵守し，将来起こり得る大規模災害等に際して社会に貢献できる歯科医師となるために，災害時の歯科医療について学ぶ。（本学ディプロマポリシー１，２および６）

３．到達目標

１）災害時における歯科医師の役割を説明できる。
２）災害時の医療体制について説明できる。
３）歯科的個人識別について説明できる。
４）歯科法医学の基本について説明できる。

４．履修の進め方

講義形式でスライドと資料を使用して履修する。

５．準備学修

各回の授業内容項目について，教科書および授業プリントの該当部分を読むこと（15分）

６．評価方法

定期試験（100％）により評価し，65点以上で合格とする（多肢選択形式）。追・再試験においては，追試験の評価は90点以上を90点とし，再試験の評価は65点以上を65点とする。

７．教本

災害歯科医学　槻木恵一・中久木康一 編著：医師薬出版

８．参考書

災害時の歯科保健医療対策　～連携と標準化に向けて～
日本災害時公衆衛生歯科研究会 編：一世出版
法歯科医学　高橋雅典監修　都筑民幸他編：永末書店
臨床法医学テキスト　第２版　佐藤喜宣編著：中外医学社

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	９／２	総論／災害歯科各論１	災害の種類と歴史／大規模災害時における歯科医師の役割	C-4-3／総Ⅰ-1-オ，総Ⅰ-3-ア	①
2	９／９	災害歯科各論２	災害時の医療体制／CSCATTT・トリアージ	C-4-3／総Ⅰ-1-オ	〃
3	９／16	災害歯科各論３	口腔ケアと誤嚥性肺炎	C-4-3／各Ⅴ-1-エ	〃
4	９／30	災害歯科各論４	東日本大震災における本学の社会支援活動１	C-4-3／総Ⅰ-1-オ，総Ⅰ-3-ア	〃
5	10／７	災害歯科各論５	東日本大震災における本学の社会支援活動２	C-4-3／総Ⅰ-1-オ，各Ⅴ-1-エ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
6	10／14	災害歯科各論6	災害時における心のケア１	C-4-3／必7-ア，各Ⅲ4-シ	①②
7	10／21	災害歯科各論7	災害時における心のケア２	C-4-3／必7-ア，各Ⅲ4-シ	〃
8	10／28	災害歯科各論8	歯科法医学１／個人識別／性別判定，年齢推定	C-4-4／総Ⅰ-3-ア	①③
9	11／4	災害歯科各論9	歯科法医学２／歯科的個人識別	C-4-4／総Ⅰ-3-ア	①
10	11／11	災害歯科各論10	歯科法医学３／虐待・虐待の歯科所見	C-4-3／総Ⅰ-2-ア	①③
11	11／18	災害歯科各論11	歯科法医学４／創傷，死後変化	C-4-4／総Ⅰ-3-ア，総Ⅲ-3-ア，イ	①
12	11／25	災害歯科各論12	歯科法医学５／死の判定	C-4-4／総Ⅲ-3-イ	①③
13	12／2	災害歯科各論13	歯科法医学６／死因究明制度，死体解剖	C-4-4／総Ⅰ-3-ア	①
14	12／9	災害歯科各論14	災害から中長期後の歯科医療支援体制	C-4-3／総Ⅰ-1-オ	〃
15	12／16	総　括	災害歯科医学のまとめ	C-4-3，-4／総Ⅰ-1-オ，総Ⅰ-3-ア，Ⅲ-3-ア，イ	〃

総合臨床医学（後期・１単位）

D③④C-a1-3801（D3801）

科目責任者：風間　咲美（医学・教授）
科目担当者：①風間　咲美（医学）
※この科目は，診療経験のある医師が担当する

１．科目の概要

歯科治療を行う上で，医学領域との連携が必要な場合は少なくない。感染症，糖尿病，抗凝固療法を行っている患者など，枚挙に暇がない。従って，眼の前の疾患のみではなく，患者の背景，基礎疾患，処方されている薬などにも気を配り，総合的に患者を診療していかなくてはならない。さらに，心理的な側面にも配慮したうえで，全人的な医療が必要とされる。

歯科医師となる学生には，症候や疾患の病態を理解したうえで，治療についても知識が要求される。

これらを踏まえ，歯科医師となる学生に対し，内科学を中心に，全身の疾患の概念につき講義を行うとともに，歯科治療に際し，留意すべきことを医学の面から解説する。

２．一般目標

臨床歯学の土台となる内科学・外科学の内容を概観し，病の病態，診断，治療に関する知識を修得する。

３．到達目標

１）基本となる症候および，その病態を理解する。
２）疾患の病態およびその治療法につき理解する。

４．履修の進め方

講義形式でスライドと資料を使用して履修する。

５．出席

第２回講義より，その前の回の講義内容につき確認テスト（５題）を行う。確認テストの提出を以て出席とする。なお，講義の途中で正当な理由が無く退出した学生は出席と見做さない。

６．評価方法

定期試験（100％）で評価する。評価基準：65点以上を合格とする。追・再試験は各々１回のみとする。追・再試験において65点以上を合格とする。なお追々試験および再々試験は行わない。試験方法：マークシート40問，範囲：講義内容。なお，定期試験のフィードバックは正答を掲示して示す。

７．教本

千葉俊美　山田浩之「歯科医師のための内科学」 医歯薬出版

８．参考書

馬場秀夫「わかりやすい外科学」文光堂

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／4	総論（診察，症候）	発熱，全身倦怠感，食思〈欲〉不振，体重減少・増加，ショック，意識障害，失神，けいれん，めまい，脱水，浮腫	D-6-1)／必-７-ア，総-Ⅳ-ア	①
2	9／11	循環器疾患１	循環器疾患総論，心不全，心筋梗塞，狭心症，不整脈，高血圧，高血圧緊急症	D-6-1)／総Ⅳ-1-ウ，総Ⅴ-6-アb，総Ⅶ-1-エc，各Ⅴ-2-エc，各Ⅲ-4-ス	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
3	9／18	循環器疾患２	感染性心内膜炎，弁膜症，先天性心疾患，深部静脈血栓	D-6-1)／総Ⅳ-1-ウ，総Ⅴ-6-アb，総Ⅶ-1-エc，各Ⅴ-2-エc	①
4	9／25	呼吸器疾患	慢性閉塞性肺疾患〈COPD〉，気管支喘息，呼吸不全，誤嚥性肺炎	D-6-1)／総Ⅳ-1-ウ，総-Ⅴ-6-アa，総Ⅶ-1-エb，各Ⅴ-2-エb	〃
5	10／2	腎・泌尿器・生殖器疾患	乏尿，無尿，多尿，慢性腎臓病〈CKD〉，腎不全	D-6-1)／総Ⅳ-1-カ，総-Ⅴ-6-アe，総Ⅶ-1-エf，各Ⅴ-2-エf	〃
6	10／9	消化器疾患（消化管疾患）	消化管疾患総論，消化性潰瘍，Gardner 症候群，Peutz-Jeghers 症候群	D-6-1)／総Ⅳ-1-エ，総-Ⅴ-6-アc，総Ⅶ-1-エd，各Ⅲ-4-ア，各Ⅴ-2-エd	〃
7	10／16	消化器疾患（肝臓・胆嚢・膵臓疾患）	肝硬変，ウイルス性肝炎	D-6-1)／総Ⅳ-1-エ，総-Ⅴ-6-アc，総Ⅶ-1-エd，各Ⅴ-2-エd	〃
8	10／23	アレルギー疾患	アレルギー疾患，アナフィラキシー，金属アレルギー，関節リウマチ，全身性エリテマトーデス〈SLE〉，IgA 血管炎〈アレルギー性紫斑病〉，IgG4 関連疾患，Sjögren 症候群	D-6-1)／総Ⅶ-1-エj，総-Ⅴ-6-アk，各Ⅲ-4-エ，各Ⅴ-2-エj	〃
9	10／30	内分泌疾患	骨粗鬆症，先端巨大症，成長ホルモン分泌不全性低身長，甲状腺機能亢進症（Basedow 病），甲状腺機能低下症（粘液水腫，クレチン病，慢性甲状腺炎〈橋本病〉），副甲状腺機能亢進症・低下症，副腎皮質機能亢進症（Cushing 病，Cushing 症候群），副腎皮質機能低下症（Addison 病）	D-6-1)／総Ⅶ-1-エi，総Ⅴ-6-アh，各Ⅲ-4-カ，各Ⅴ-2-エi	〃
10	11／6	糖尿病	糖尿病，低血糖，脂質異常症，アミロイドーシス	D-6-1)／総-Ⅳ-1-ケ，総Ⅶ-1-エi，各Ⅲ-Ⅳ-オ，各Ⅴ-2-エi	①
11	11／13	神経疾患	頭痛，高次脳機能障害，運動麻痺，脳血管疾患（脳内出血，脳梗塞，くも膜下出血），認知症，てんかん，脳性麻痺，Parkinson 病，重症筋無力症，筋ジストロフィ，筋萎縮性側索硬化症，不随意運動（ジストニア，ジスキネジア）	D-6-1)／総-Ⅳ-1-ク，総-Ⅴ-6-アf･g，総Ⅶ-1-エh，各Ⅴ-2-エh	〃
12	11／20	血液疾患 赤血球系疾患 白血球系疾患	貧血（鉄欠乏性貧血，巨赤芽球性貧血（悪性貧血），再生不良性貧血，溶血性貧血），赤血球増多症，白血病，骨髄異形成症候群，無顆粒球症，悪性リンパ腫，多発性骨髄腫	D-6-1)／総-Ⅳ-1-オ，総-Ⅴ-6-アd，総Ⅶ-1-エe，各Ⅲ-4-ク･ケ，各Ⅴ-2-エe	〃
13	11／27	血液疾患 出血性素因	Osler 病，壊血病，特発性血小板減少性紫斑病〈免疫性血小板減少性紫斑病〉〈ITP〉，血小板無力症，血友病 A・B，播種性血管内凝固症候群〈DIC〉	D-6-1)／総Ⅳ-1-オ，総-Ⅴ-6-アd，総Ⅶ-1-エe，各Ⅲ-4-キb，各Ⅲ-4-コ，各Ⅴ-2-エe	〃
14	12／4	復習１	復習		〃
15	12／11	復習２	復習		〃

第４学年

口腔科学教育科目

保存修復学Ⅱ …… 163
保存修復学実習 …… 164
歯内療法学 …… 166
歯内療法学実習 …… 168
歯周病学 …… 170
歯周病学実習 …… 172
冠橋義歯補綴学Ⅱ …… 173
冠橋義歯補綴学実習 …… 175
有床義歯補綴学Ⅱ …… 176
有床義歯補綴学Ⅱ実習 …… 178
口腔インプラント学 …… 179
口腔インプラント学実習 …… 180
口腔外科学Ⅱ …… 181
口腔外科学Ⅲ …… 182
歯科麻酔学 …… 183
歯科矯正学 …… 186
歯科矯正学実習 …… 188
小児歯科学 …… 189
小児歯科学実習 …… 191
歯科放射線学Ⅱ …… 193
高齢者歯科学Ⅱ …… 194
障害者歯科学 …… 195
臨床総合演習 …… 196

保存修復学Ⅱ（前期・１単位）

D③④C-a2-4802（D4802）

科目責任者：山田　嘉重（修復・教授）
科目担当者：①山田　嘉重（修復），②菊井　徹哉（修復），
③大木　英俊（修復）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

齲蝕，破折および摩耗などにより生じた自然治癒しない硬組織実質欠損に対して，病変の進行を阻止して歯の生理学的機能を回復させるとともに，審美的にも調和する生体親和性のある修復方法を研究する分野が保存修復学である。保存修復学Ⅱでは，保存修復学Ⅰで学んだ事項を基本として新たな歯冠修復法についての講義を行う。板書，スライド，配布資料を用いた講義が主体となり，同時期に行われる保存修復学実習の修得が容易になるよう適切な単位数と履修時間で構成されている。

２．一般目標

齲蝕を含む様々な硬組織疾患より生じた歯質の変色や実質欠損等の疾患に対する適切な診断と処置方法の習得をめざす。ディプロマ・ポリシーの２：探求力と解決力，４：知識と診断能力を養い適切な歯冠修復処置法とその手技や必要な器具が的確に選択できることを目標とする。

３．到達目標

1）コンポジットレジン修復に必要な治療用具，材料の名称と用途が説明できる。
2）コンポジットレジン修復窩洞の分類と特徴および形成方法が説明できる。
3）直接修復法と間接修復法の種類，特徴と臨床手順が説明できる。
4）裏層法と覆髄法の意義・種類と特徴が説明できる。
5）裏層法と覆髄法の適応症・使用薬剤と処置手順が説明できる。
6）メタルインレー修復の適応症，窩洞の特徴が説明できる。
7）メタルインレー修復の利点・欠点および修復手技が説明できる。
8）コンポジットレジンインレー修復の適応症と窩洞の特徴を説明できる。
9）セラミックインレー修復窩洞の適応症と窩洞の特徴を説明できる。
10）ラミネートベニア修復の特徴，適応症，臨床手技が説明できる。
11）修復物装着後の術後管理について説明できる。

４．履修の進め方

1）講義は教科書の内容をシラバスの予定に従って行う。
2）板書，スライド，配布資料等を使用して教科書の内容をよりわかりやすく解説する。
3）学生は板書，スライドおよび配布資料に沿って独自に授業ノートを作成し，要点および追加事項を記入する。
4）学生は理解が不十分な点について適宜教員に質問して理解を深める。
5）学生の授業の予習・復習の確認のため，授業の前後で小試験を行うこともある。

５．準備学修

シラバスを確認して，授業内容について事前に教科書を用いて予習を行う（30分）。授業終了後，講義ノートや配布資料を用いて，その日のうちに当日の講義内容の要点をノートにまとめて復習する（30分から１時間程度）。

６．評価方法

合計が65％（65点）以上の得点で合格とする。
MCQ 形式（40～50問）で出題する。（記述問題の出題も加わることもある。）
追・再試験については，追試験は上限100点，再試験は上限65点とし，追・再試験ともに65点以上の得点で合格とする。

７．教本

田上順次，奈良陽一郎，山本一世，斎藤隆史（編）「保存修復学21　第６版」永末書店　2022年版
千田　彰，宮崎真至，林美加子，向井義晴，斎藤隆史（編）「保存修復学　第７版」医歯薬出版　2019年版

８．参考書

なし

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／7	コンポジットレジン修復総括①	コンポジットレジン修復，各窩洞形態と修復の手順	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-a	①
2	4／14	コンポジットレジン修復総括②	コンポジットレジンの組成および前処置	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-a	〃
3	4／21	コンポジットレジン修復総括③	コンポジットレジン修復補助器具と修復後の問題点	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-a	〃
4	4／28	メタルインレー修復①	メタルインレー修復の特徴，鋳造用合金	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-b	②
5	5／12	メタルインレー修復②	メタルインレー修復窩洞の特徴	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-b	〃
6	5／19	メタルインレー修復③	メタルインレー修復の臨床手技	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-b	〃
7	5／26	歯科の接合技術 補修修復	修復法の種類と臨床手技	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-b	〃
8	6／2	コンポジットレジン／セラミックインレー①	コンポジットレジンインレー修復の特徴，製作法，窩洞と臨床手技	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-b	③
9	6／9	コンポジットレジン／セラミックインレー②	セラミックインレー修復の特徴，適応症，窩洞と臨床手技	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-b	〃
10	6／16	コンポジットレジン／セラミックインレー③	セラミックインレーの製作方法・手技，歯科用 CAD／CAM 製作	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-b	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
11	6／23	歯質の漂白とベニア修復①	歯質漂白の種類と適応症 ベニア修復の特徴と適応症	E-5-3-1-1／ 必-11-ケ-b, 総Ⅷ-5-ア-a, 各Ⅱ-1-ウ-b	②
12	6／30	ベニア修復②	ベニア修復の臨床手技	E-5-3-1-1／ 必-11-ケ-b, 総Ⅷ-5-ア-a, 各Ⅱ-1-ウ-b	〃
13	7／7	歯冠修復法総括	合着材と接着材の種類，所用性質	B-2-4／ 必-11-セ-f, 総Ⅷ-8, 各Ⅱ-1-ウ-a	〃
14	7／14	修復治療の術後管理	メンテナンス，補修修復，修復物の具備条件	E-5-3-1-1／ 必-11-ケ-b, 総Ⅷ-5-ア-a, 各Ⅱ-1-ウ-b	〃
15	7／21	保存修復学復習	問題演習	E-5-3-1-1／ 必-11-ケ-b, 総Ⅷ-5-ア-a, 各Ⅱ-1-ウ-a	〃

保存修復学実習（前期・１単位）

D③④C-c2-41001（D41001）

科目責任者：菊井　徹哉（修復・准教授）

科目担当者：①山田　嘉重（修復），②菊井　徹哉（修復），
③大木　英俊（修復），④影山　　直（修復），
⑤永井　春菜（修復），⑥藤山　修平（修復），
⑦佐藤　正文（非常勤），⑧大塩　健司（非常勤），
⑨塩崎　洋堂（非常勤）

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

保存修復学の講義で習得した齲蝕・硬組織疾患の治療方法に関する手技を模型実習により具体的に体験し，歯硬組織修復に必要な基本的な理論を確実に定着させる。

履修方法は初めに４倍大人工歯（石膏模型）での窩洞彫刻により窩洞の基本形態を理解する。次にマネキン内に装着した顎模型上の等倍大人工歯において，臨床を模擬した形で硬組織欠損の治療手技を行い，硬組織修復における窩洞形成，修復方法および器材の使用方法を習得する。

２．一般目標

本実習ではディプロマポリシー５にある“将来の歯科医師として歯の硬組織治療に必要な知識と技能”のために模型実習において必要な治療技術を修得する。

３．到達目標

１）歯の硬組織治療および修復物製作に必要な機械と器具を適切に操作する。
２）治療部位に適した診察位置と姿勢をとり，適切に器具を保持し操作する。
３）病的歯質を適切に判別し感染歯質の除去を施術する。
４）硬組織疾患の病態に適した修復方法を選択し，窩洞設計と窩洞形成を施術する。
５）必要な歯髄保護処置を適切に施術する。
６）コンポジットレジン修復およびグラスアイオノマーセメント修復における修復前準備，窩洞形成，窩洞の填塞，修復物の仕上げ研磨を適切に施術する。
７）メタルインレー修復，レジン・セラミックインレー修復における修復前準備，窩洞形成，窩洞の印象，咬合採得，仮封，インレー体の口腔内試適・装着および必要な仕上げ研磨を適切に施術する。
８）メタルインレー修復，レジン・セラミックインレー修復における咬合模型の製作，インレーの蝋原型の製作と鋳造，レジン・セラミックインレーの製作（重合，CAD／CAM 加工），各修復物の研磨作業などの一連の技工操作を適切に施術する。

４．履修の進め方

１）実習前日までに講義で学習した内容と実習の内容を照らし合わせ理解する（30分程度）。
２）実習は指導員による内容の説明と注意事項を聴取し，手順を把握してから作業を開始する。
３）実習開始時までに実習が遅滞なく遂行できるように器材を準備する。
４）窩洞基本設計と形態の理解は４倍大人工歯（石膏模型）を用いて行う。
５）実臨床に則した窩洞形成，歯冠修復はマネキンに装着した顎模型上の等倍大人工歯で行う。
６）各課題の段階ごとに指導教員の確認と検印を受けながら的確に課題内容を習得する。

５．準備学修

実習前日までに保存修復学Ⅰ・Ⅱの講義内容を復習して実習に臨む。実習終了後は十分理解ができなかった箇所を抽出

して教科書や講義ノートで復習する（１時間）。

６．評価方法

実習における評価の配分は①実習課題の完成度の評価（50%），②実習試験の評価（30%），③実習への出席（20%）とする。

評価法の詳細

⑴実習課題の点数は実習書に記載されている内容の遵守の程度により決定する。

⑵４倍大人工歯（石膏模型）を用いた窩洞形成及び等倍大人工歯を用いた形成窩洞と製作物の評価は最大50点として評価する。

⑶最終日に実技試験を行い実習内容が十分に理解され確実に施術できることを確認する。

実習試験は①窩洞設計に関するペーパーサージェリーと②等倍大人工歯を用いた窩洞形成実技を行い，ブラックの窩洞要件に照らして評価して最大30点とする。

⑷実習への出席も評価して最大20点（全出席）とする。

これらを合計して100点とし，65点以上の成績者を合格とする。

７．教本

2021年度保存修復学模型実習指針（実習書：教室編集）

８．参考書

１）田上順次，奈良陽一郎，山本一世，斎藤隆史（編）「保存修復学21　第６版」 永末書店　2022年版

２）千田　彰，宮崎真至，林美加子，向井義晴，斎藤隆史（編）「保存修復学　第７版」 医歯薬出版　2019年版

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	４／８	実習器材の点検 窩洞設計①	メタルインレー修復 Class Ⅱ， 窩洞の設計・形成：４倍大石膏歯の彫刻	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-b	① 〜 ⑨
4 5 6	４／15	窩洞設計②	コンポジットレジン修復 Class Ⅲ， Class Ⅴ 窩洞の設計・形成：４倍大石膏歯の彫刻	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-a	〃
7 8 9	４／22	窩洞設計③	レジン（セラミック）インレー修復 Class Ⅱ 窩洞の設計・形成：４倍大石膏歯の彫刻	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-b	〃
10 11 12	５／13	直接修復Ⅰ コンポジットレジン修復①	窩洞付き人工歯での修復操作：３窩洞，隔壁装着 Class Ⅱ：A55AN-244 Class Ⅳ：A55AN-214 Class Ⅲ：A50AN-433	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-a	〃
13 14 15	５／20	齲蝕歯質の除去 コンポジットレジン修復②	小窩裂溝齲蝕：齲蝕歯質の検知・除去および修復 人工歯：A16A-35B	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-a	① 〜 ⑨
16 17 18	５／27	間接修復法Ⅰ メタルインレー修復①	① class Ⅱ窩洞の設計と形成：等倍大人工歯16歯 ②窩洞付き人工歯の印象：A50AN-166（MOD；メタルインレー）	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-b	〃
19 20 21	６／３	間接修復法Ⅰ メタルインレー修復②	印象採得〜歯列模型製作	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-b	〃
22 23 24	６／10	間接修復法Ⅰ メタルインレー修復③	咬合模型〜鑞原型製作	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-b	〃
25 26 27	６／17	間接修復法Ⅰ メタルインレー修復④	鋳型製作〜鋳造・研磨	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-b	〃
28 29 30	６／24	間接修復法Ⅰ メタルインレー修復⑤	口腔内試適〜インレー装着	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-b	〃
31 32 33	７／１	間接修復法Ⅱ レジンインレー修復①	窩洞形態の変換と印象採得（メタルインレー⇒レジンインレー）：A55AN-464（MO；メタルインレー）	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-b	〃
34 35 36	７／８	間接修復法Ⅱ レジンインレー修復②	印象採得〜咬合模型製作	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-b	〃
37 38 39	７／15	間接修復法Ⅱ レジンインレー修復③	インレー体の調整〜口腔内装着	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-b	〃
40 41 42	７／22	直接修復Ⅱ グラスアイオノマーセメント修復	窩洞付き人工歯での修復操作：２窩洞 Class Ⅰ：A55AN-343 Class Ⅴ：A55AN-115	E-3／必-11-ケ-b，総-7-2-ア-b，各Ⅱ-1-ウ-a	〃
43 44 45	７／29	実習試験作品提出	実習試験 提出物の確認	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-a，各Ⅱ-1-ウ-a	〃

歯内療法学（通年・３単位）

D③④C-a3-4901（D4901）

科目責任者：佐藤　穏子（准教授）
科目担当者：①佐藤　穏子（歯内），②長﨑　慶太（歯内），
③金澤　朋昭（歯内）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

歯内療法学とは，歯の硬組織，歯髄および根尖歯周組織などの疾病に対する診断と治療に関する研究を行う学問である。歯の硬組織疾患は，そのまま放置すれば歯質欠損を生じ，歯髄の露出をきたすとともに歯髄が感染に陥り，その結果として軽重さまざまな歯髄疾患が発症し，さらに根尖周囲に炎症が波及して根尖性歯周組織疾患を継発することになる。したがって，本講義では歯内療法に関する診査，診断，処置，予防を講義主体に行う。

２．一般目標

歯の硬組織，歯髄および根尖歯周組織などの疾病に対する診査，診断，処置，予防を行うことができるようになるために，必要な知識を習得する（ディプロマポリシー５）。

３．到達目標

１）歯・歯周組織の発生，構造と機能を説明する。
２）歯の硬組織疾患，歯髄疾患を分類して原因，臨床症状，進行と経過，診査・検査法および処置法を説明する。
３）根尖性歯周組織疾患を分類し，原因，進行と経過，診査・検査法および処治法を説明する。
４）根管処置（髄室開拡，根管長測定法と作業長の決定，機械的・化学的清掃，根管貼薬，内容物検査，補助療法）を説明する。
５）根管充塡の目的と意義，時期，根管充塡材の所要性質と種類，根管充塡の術式および根管充塡後の治癒経過を説明する。
６）根未完成歯の歯髄疾患および根尖性歯周疾患の治療法および歯髄再生療法を説明する。
７）歯根の病的吸収の原因，診断，処置法を説明する。
８）外傷歯の分類，診断と治療法を説明する。
９）外科的歯内治療の適応症と種類，術式および治癒機転と予後について説明する。
10）歯科用実体顕微鏡を応用した歯内治療の特徴と適応症を説明する。
11）変色歯の原因と漂白法を説明する。
12）歯内 - 歯周疾患の分類と診断および治療法を説明する。
13）高齢者・有病者の歯内治療についてその特徴，健常者の治療との違いおよび留意点を説明する。
14）歯内治療における偶発事故の種類とその安全対策を説明する。

４．履修の進め方

講義はシラバスに従って教科書を中心に進めていく。必要に応じてスライドや配布資料を使用して内容を分かりやすく説明する。

５．準備学修

各回の授業内容項目について，教科書の該当部分を読み予習する（15分）。授業終了後に授業中に配布した資料等を用いて復習しポイントをまとめる記憶を定着させる（30分）。

６．評価方法

講義内容について論述問題または多肢選択問題による試験を実施し，理解度に関する評価を行う。評価は中間試験（50%）と定期試験（50%）により行う。最終評価は100点満点で65点以上を合格とする。不合格の場合は再試験を行い，65点以上を合格とする。

７．教本

興地隆史，石井信之，前田英史，鈴木規元 編　第６版「歯内治療学」医歯薬出版（教科書）

８．参考書

興地隆史，石井信之，北村知昭，林美加子 編集主幹，第６版「エンドドンティクス」永末書店

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／13	歯内療法学の概念	歯内療法学の定義，意義と目的，ならびに歴史	D-5-2／各Ⅱ-2-ア，イ	①
2	4／20	歯・歯周組織の構造と機能（１）	歯の硬組織の構造と発生，歯髄の構造と機能	A-3-4-4，5／総Ⅱ-5-ア，イ	〃
3	4／27	歯・歯周組織の構造と機能（２）	歯周組織の構造と機能，歯根と歯髄腔の形態と変化	A-3-4-6，7／総Ⅱ-5-ア，イ	〃
4	5／11	歯の硬組織疾患（１）	歯と歯髄腔の形態異常	D-3-2-1／総Ⅱ-5-ア	②
5	5／18	歯の硬組織疾患（２）	歯の形成不全，歯の損耗（トゥースウェア）	D-3-2-1／各Ⅱ-1-ア，イ，ウ	〃
6	5／25	歯の硬組織疾患（３）	齲蝕症，象牙質知覚過敏症	D-3-2-1／各Ⅱ-1-ア，イ，ウ	〃
7	6／1	歯内治療の基本術式の概要（１）	各種の口腔診査法（１）	D-2-2-1／必8-イ-a，総Ⅵ-1-ア-a，b	③
8	6／8	歯内治療の基本術式の概要（２）	各種の口腔診査法（２）	D-2-2-2／必8-イ-a，総Ⅵ-1-ア-a，b	〃
9	6／15	歯内治療の基本術式の概要（３）	無菌的処置法	D-2-2-2，E-1-1／総Ⅵ-1-ア-a，b	〃
10	6／22	歯内治療の基本術式の概要（４）	除痛法	D-1-2-1／必11-カ-a，総Ⅶ-4-ウ-a	〃
11	6／29	歯髄疾患（１）	歯髄疾患の概要，原因，分類と臨床症状	D-5-2-2／必6-イ-b，必7-イ-c，各Ⅱ-2-ア-a	②
12	7／6	歯髄疾患（２）	歯髄疾患の特徴と経過，歯髄疾患の診断	D-5-2-2／必6-イ-b，必7-イ-c，各Ⅱ-2-ア-a	〃
13	7／13	歯髄疾患（３）	歯髄疾患の診断，歯痛錯誤と関連痛，治療方針	D-5-2-2／必6-イ-b，必7-イ-c，各Ⅱ-2-ア-a，イ-a，b，c	〃
14	7／27	歯髄疾患（４）	歯髄疾患の治療法（１）（保存療法）	D-5-2-2／必6-イ-b，必7-イ-c，各Ⅱ-2-ア-a，イ-a	①

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
15	7／28	歯髄疾患（5）	歯髄疾患の治療法（2）（保存療法）	D-5-2-2／必6-イ-b, 必7-イ-c, 各Ⅱ-2-ア-a, イ-a	①
16	9／1	歯髄疾患（6）	歯髄疾患の治療法（3）（保存，除去療法）	D-5-2-2／必6-イ-b, 必7-イ-c, 各Ⅱ-2-ア-a, イ-a, b	〃
17	9／1	歯髄疾患（7）	歯髄疾患の治療法（4）（除去療法），緊急処置	D-5-2-2／必6-イ-b, 必7-イ-c, 各Ⅱ-2-イ-b, c	〃
18	9／8	根尖性歯周疾患（1）	根尖性歯周疾患の概要，原因	D-5-2-2／必6-イ-b, 必7-イ-c, 各Ⅱ-2-ア-b, イ-c	〃
19	9／8	根尖性歯周疾患（2）	根尖性歯周疾患の分類と臨床症状	D-5-2-2／必6-イ-b, 必7-イ-c, 各Ⅱ-2-ア-b, イ-c	〃
20	9／15	根尖性歯周疾患（3）	根尖性歯周疾患の特徴と経過，診査・検査	D-5-2-2／必6-イ-b, 必7-イ-c, 各Ⅱ-2-ア-b, イ-c	〃
21	9／15	根尖性歯周疾患（4）	根尖性歯周疾患の診査・検査	D-5-2-2／必6-イ-b, 必7-イ-c, 各Ⅱ-2-ア-b, イ-c	〃
22	9／29	根尖性歯周疾患（5）	根尖性歯周疾患の診断法と治療方針	D-5-2-2／必6-イ-b, 必7-イ-c, 各Ⅱ-2-ア-b, イ-c	〃
23	9／29	根尖性歯周疾患（6）	根尖性歯周疾患の診断法と治療方針と緊急処置	D-5-2-2／必6-イ-b, 必7-イ-c, 各Ⅱ-2-ア-b, イ-c	〃
24	10／6	根管処置（1）	髄室開拡	D-5-2-2／各Ⅱ-2-イ-d	〃
25	10／6	根管処置（2）	根管長測定法と作業長の決定	D-5-2-2／各Ⅱ-2-イ-d	〃
26	10／13	根管処置（3）	根管形成（1）	D-5-2-2／各Ⅱ-2-イ-d	〃
27	10／13	根管処置（4）	根管形成（2）	D-5-2-2／各Ⅱ-2-イ-d	〃
28	10／20	根管処置（5）	根管の化学的清掃，根管の消毒（根管貼薬）	D-5-2-2／各Ⅱ-2-イ-d	〃
29	10／20	根管処置（6）	根管内容物の検査，根管治療の補助療法	D-5-2-2／各Ⅱ-2-イ-d	〃
30	10／27	根管充塡（1）	根管充塡の目的，時期，根管充塡材の所要性質	D-5-2-2-2／各Ⅱ-2-イ-e	③
31	10／27	根管充塡（2）	根管充塡材の種類	B-2-5, D-5-2-2-2／各Ⅱ-2-イ-e	〃
32	11／10	根管充塡（3）	根管充塡の術式	D-5-2-2-2／各Ⅱ-2-イ-e	〃
33	11／10	根管充塡（4）	根管充塡後の治癒経過	D-5-2-2-2／各Ⅱ-2-イ-e	〃
34	11／17	根未完成歯の治療	アペキソゲネーシスとアペキシフィケーション	D-5-6-4／各Ⅱ-2-イ-f	〃
35	11／17	歯根の病的吸収	内部吸収と外部吸収	D-5-2-2-7／各Ⅱ-2-ア-e, イ-h	〃
36	11／24	外傷歯の診断と処置	外傷歯の分類，診査・検査，治療	D-3-1-2-3／各Ⅰ-4-ア-b, 各Ⅱ-2-ア-d	②
37	11／24	外科的歯内治療（1）	外科的歯内治療の適応症と種類，術式	D-5-2-2-5／各Ⅱ-2-イ-g	〃
38	12／1	外科的歯内治療（2）	外科的歯内治療の術式および治癒機転と予後	D-5-2-2-5／各Ⅱ-2-イ-g	〃
39	12／1	歯科用実体顕微鏡を応用した歯内治療	顕微鏡による検査，処置の特徴，適応症	D-5-2-2-5／各Ⅱ-2-イ-g	〃
40	12／8	変色歯の漂白	変色歯の分類，漂白	D-5-2-2-6／各Ⅱ-1-ウ-f	〃
41	12／8	歯内・歯周疾患	歯内疾患と歯周疾患の関連性	D-5-2-2／各Ⅱ-2-ア-c	〃
42	12／15	高齢者・有病者の歯内治療	高齢者の心身における特徴	D-5-2-2/総Ⅴ-5,6, 各Ⅴ-6-ア	〃
43	12／15	根管処置後の歯冠修復	コロナルリーケージと支台築造	D-5-2-2／各Ⅳ-3-イ-c	〃
44	12／18	歯内治療における安全対策（1）	髄室壁・根管壁の穿孔，小器具の根管内破折など	D-5-2-2／各Ⅱ-2-イ-j	〃
45	12／18	歯内治療における安全対策（2）	皮下気腫，歯性上顎洞炎，根管処置時の全身管理	D-5-2-2／各Ⅱ-2-イ-j	〃

歯内療法学実習（後期・１単位）

D④⑤C-c2-41002(D41002)

科目責任者：佐藤　穏子（歯内・准教授）
科目担当者：①佐藤　穏子（歯内），②長﨑　慶太（歯内），
③金澤　朋昭（歯内），④山崎　信夫（非常勤），
⑤森田　　聡（非常勤），⑥吉野　浩正（非常勤）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

講義で修得した知識を整理しながら，基本的な歯内治療の術式を実践することを目的とする。最初に根管形態を目視できる透明根管模型を用いて根管形成と根管充塡を実施し，各自の技術的な欠点を十分に理解し納得させる。その後，複製根髄腔模型歯を植立した顎模型をマネキンに装着して水平位診療姿勢でラバーダム防湿を実施した後，一連の根管治療を行い，エックス線画像を撮影して根管充塡の良否を判断できるようにする。講義で修得した知識やこの実習で修得した技能，態度をより完全にして臨床実習に望むためにこの実習を行う。

２．一般目標

臨床において根管治療を行うために必要なラバーダム防湿，根管形成および根管充塡に関する基本的な知識と技術を確認し，さまざまな模型歯を植立した顎模型をマネキンに装着し，患者とみなして修得する。また，マネキンを患者とみなしているので，患者に対する態度も修得する（ディプロマポリシー６）。透明根管模型を用いて Ni-Ti ロータリーファイルによる根管形成に関する基本的な知識と技術を修得する（ディプロマポリシー５）。

３．到達目標

1）根管の形態を図示し，説明する。
2）根管形成に必要な器具を準備し，器具の名称と使用法を説明する。
3）根管充塡に必要な器具を準備し，器具の名称と使用法を説明する。
4）根管治療に必要な器具の名称とそれぞれの器具の操作法を説明し，使用する。
5）ラバーダム防湿に必要な器具を準備し，器具の名称と手順を述べ，実施する。
6）根管形成の手順を述べ，術式を実施する。
7）根管充塡の術式を述べ，実施する。
8）エックス線画像を撮影し根管充塡の良否を判断する。
9）根管充塡後に仮封をし，咬合調整を実施する。
10）全実習に出席し，基本的な術式を実施する。

４．履修の進め方

７～８名の学生に１～２名の教員が指導する。ステップごとにチェック，検印を受ける。あらかじめ実習内容について予習し，必要な器材を準備する。また実習中に疑問点があれば質問する。実習では正しい器具を選択して使用し，実習書や教科書に記載してある術式通りに行う。

５．準備学修

各回の実習内容項目について，実習書と教科書の該当部分を読むこと（15分）。

実習内容について復習し，重要な項目をまとめること（30分）。

６．評価方法

それぞれの課題のステップごとに基準を満たしているものに対して各インストラクターが評価して検印し，さらにそれぞれの課題が終了するごとに作品を提出させ，実習責任者が全作品を採点し，技能評価とする。技能評価（60%），小テスト（15%），実習試験（筆記試験25%）を総合して評価する。

７．教本

Practice in root canal preparation and filling（実習書）および手技の動画を電子媒体にて配布

興地隆史，石井信之，前田英史，鈴木規元 編　第６版「歯内治療学」医歯薬出版（教科書）

８．参考書

興地隆史，石井信之，北村知昭，林美加子 編集主幹，第６版「エンドドンティクス」永末書店

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	9／1	器材チェックと透明根管模型の根管形成	歯の模型の植立（部位11，24，35），窩洞外形の設定（部位26）	E-5-3-2／ 必-11-ケ-c， 各Ⅱ2-イ-d	① ～ ⑥
4 5 6	9／8	透明根管模型の根管形成	チャンバーオープン，便宜形態の形成，根管口明示，アピカルシート形成（部位26）	E-5-3-2／ 必-11-ケ-c， 各Ⅱ2-イ-d	〃
7 8 9	9／15	透明根管模型の根管形成	チャンバーオープン，便宜形態の形成，根管口明示，アピカルシート，アピカルカラー，フレアー形成，アピカルシートの確認（部位26）	E-5-3-2／ 必-11-ケ-c， 各Ⅱ2-イ-d	〃
10 11 12	9／29	透明根管模型の根管形成，透明根管模型の根管充塡	アピカルシート，アピカルカラー，フレアー形成，アピカルシートの確認（部位26），マスターポイントの試適，側方加圧根管充塡，二重仮封	E-5-3-2／ 必-11-ケ-c， 各Ⅱ2-イ-d，e	〃
13 14 15	10／6	透明根管模型の根管充塡	マスターポイントの試適，側方加圧根管充塡，二重仮封（部位26）	E-5-3-2／ 必-11-ケ-c， 各Ⅱ2-イ-d，e	〃
16 17 18	10／13	複製根髄腔模型歯を用いた根管形成	ラバーダム防湿，チャンバーオープン，根管口明示，根管長測定，エックス線写真撮影（リーマー試適）根管形成（部位11，24）	E-5-3-2／ 必-11-ケ-c， 各Ⅱ2-イ-d	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
19 20 21	10／20	複製根髄腔模型歯を用いた根管形成	ラバーダム防湿，チャンバーオープン，根管口明示，根管長測定，エックス線写真撮影（リーマー試適）根管形成（部位11，24）	E-5-3-2／必-11-ケ-c，各Ⅱ2-イ-d	① 〜 ⑥
22 23 24	10／27	複製根髄腔模型歯を用いた根管形成	ラバーダム防湿，チャンバーオープン，根管口明示，根管長測定，エックス線写真撮影（リーマー試適）根管形成（部位11，24） Ni-Ti ファイルを用いた根管形成（透明根管模型）	E-5-3-2／必-11-ケ-c，各Ⅱ2-イ-d，e	〃
25 26 27	11／10	複製根髄腔模型歯を用いた根管形成	ラバーダム防湿，アピカルシートの確認，根管形成完了の確認（部位11，24） Ni-Ti ファイルを用いた根管形成（透明根管模型）	E-5-3-2／必-11-ケ-c，各Ⅱ2-イ-d	〃
28 29 30	11／17	複製根髄腔模型歯を用いた根管充塡	ラバーダム防湿，マスターポイントの試適，側方加圧根管充塡，エックス線写真撮影（根管充塡の良否確認），二重仮封（部位11，24） Ni-Ti ファイルを用いた根管形成（透明根管模型）	E-5-3-2／必-11-ケ-c，各Ⅱ2-イ-d，e	〃
31 32 33	11／24	複製根髄腔模型歯を用いた根管充塡	ラバーダム防湿，マスターポイントの試適，側方加圧根管充塡，エックス線写真撮影（根管充塡の良否確認），二重仮封（部位11，24）	E-5-3-2／必-11-ケ-c，各Ⅱ2-イ-d，e	〃
34 35 36	12／1	複製根髄腔模型歯を用いた根管充塡材除去	ラバーダム防湿，仮封材と根管充塡材の除去，エックス線写真撮影（根管充塡材除去の確認）（部位11）	E-5-3-2／必-11-ケ-c，各Ⅱ2-イ-d，e	① 〜 ⑥
37 38 39	12／8	ラバーダム防湿法の実施手順	実施内容の説明，ラバーダム防湿，（部位11）	E-5-3-2／必-11-ケ-c，各Ⅱ2-イ-d	〃
40 41 42	12／15	根管洗浄の実施手順	実施内容の説明，根管洗浄，（部位11）	E-5-3-2／必-11-ケ-c，各Ⅱ2-イ-d	〃
43 44 45	12／18	透明根管模型を用いた根管形成と実習試験	ラバーダム防湿，根管口明示，根管形成（部位35）と実習試験（筆記試験）	E-5-3-2／必-11-ケ-c，各Ⅱ2-イ-d	〃

歯周病学（通年・３単位）

D③④C-a3-4902（D4902）

科目責任者：臼井　通彦（歯周・教授）
科目担当者：①臼井　通彦（歯周），②齋藤　　淳（客員），
③大塩　薫里（非常勤），④田中　真喜（非常勤）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

多くの歯科学は治療学から発展してきた。一方，歯周病学は「歯周病」という疾患名を冠する臨床分野であり，病態学（疾患学）に基づいて治療学が発展してきた。したがって，まず歯周病という病気を学ぶことが先決で，その後に治療学を学ぶように講義を構成している。歯周病は「感染症」から「生活習慣病」あるいは「慢性炎症」へと疾患の位置づけが変化した。歯周病は多因子性の慢性炎症性疾患であり，患者ごとに複数のリスク因子が関わるため，歯周治療では患者教育・支援に基づく患者の行動変容を促し，原因除去およびリスク評価に基づくリスク管理を主眼においた歯周基本治療が基本になる。再評価後に必要に応じた歯周外科療法および口腔機能回復治療，そしてメインテナンスあるいはSPTが行われる。講義では歯周組織の構造と機能，歯周疾患の病因と病態，歯周疾患の診断，歯周治療の術式と適応症等を学ぶ。さらに，歯周病学の研究と臨床の軸足が「歯周医学」「歯周組織再生療法」および「口腔インプラント治療」へとシフトしているため，３つの項目についても講義を行う。

２．一般目標

歯周病の診断，治療および予防を行うために，歯周組織の常態，疾患，診断および治療方法を理解する（ディプロマポリシー５）

３．到達目標

１）歯周組織の発生，構造および機能を説明できる。
２）歯周疾患の病因と病態を説明できる。
３）病因としての口腔細菌，歯垢および歯石を説明できる。
４）歯周疾患の分類を説明できる。
５）歯周疾患の診断と治療方針を説明できる。
６）歯周治療の術式と適応症を説明できる。
７）歯周外科手術の種類と適応症を説明できる。
８）歯周治療後の組織の治癒機転と予後を説明できる。
９）歯周疾患の緊急処置の種類と方法を説明できる。
10）歯周疾患の予防法を説明できる。

４．履修の進め方

教科書とスライドを用いて講義を行う。スライド内容はあらかじめ授業提示システムに掲載しており，講義で該当する領域の教科書範囲とともに予習することを可能にしている。寺子屋方式で知識を一方向的に伝授するだけではなく，双方向的な講義形成をとり，能動的に学ぶ姿勢の育成を支援する。

５．準備学修

本科目は臨床歯学の一分野であり，基礎歯学（解剖学，病理学，生化学，感染免疫学，生理学，薬理学，歯科理工学）を基盤にしている。また，臨床科目（保存修復学，歯内療法学，小児歯科学，歯科補綴学，歯科矯正学，歯科放射線学，口腔外科学，口腔インプラント学，臨床医学）に繋がる領域を含んでいるため，狭い領域に集中しがちな「垂直思考」に「水平思考」を加えた学習が望まれる。事前学習および事後学習を30分ずつ程度行うことが望ましい。分からない領域をそのままにせず，説明できるレベルまで理解を深める努力が求められる。教科書や参考書以外にも人工知能を活用した自主学習が出来る環境にあるので，自主的に学ぶ習慣を身に着けることが肝要である。

６．評価方法

出席率は80％以上を必須とする。前期および後期の講義終了後，講義内容について多肢選択式問題および記述式試験を実施し，点数が65点未満の場合には再試験を行う。定期試験欠席者に対しては追試験を行う。また，追・再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。最終評価は全試験結果から総合的に決定する。

７．教本

臨床歯周病学　第４版　医歯薬出版
ザ・ペリオドントロジー　第４版　永末書店

８．参考書

エンド・ペリオ病変の臨床　歯内－歯周複合病変　診断と治療のストラテジー　医歯薬出版　2009.
歯周治療　失敗回避のためのポイント33　クインテッセンス出版　2011.
考えるペリオドンティクス　クインテッセンス出版　2018.

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	４／９	歯周病学の概要	歯周病学と歯周治療学の概要，病因論のパラダイムシフト	E-5-3-3／	①
2	４／16	歯周組織の構造と機能	正常および病的な歯周組織の解剖学	A-3-4／総Ⅱ5-イ-b，総Ⅳ２-イ	〃
3	４／23	歯周病の病因論	プラーク，バイオフィルム歯垢と歯石	D-3-2-3／総Ⅲ２-アb	〃
4	５／７	歯周病の病因論	各種の修飾因子	D-3-2-3／総Ⅵ-6ウ	〃
5	５／14	リスクファクター	喫煙，糖尿病，肥満，ストレス，歯ぎしり	D-3-2-3／各論Ⅱ3-ア-a，b	〃
6	５／21	リスクファクター	遺伝的素因，全身疾患	D-5-2-3-1／各論Ⅱ3-ア-a，b	
7	５／28	歯周病の分類	歯肉炎，歯周炎の特徴，欧米の新分類	D-5-2-3-1／各論Ⅱ3-ア-a，b，c	〃
8	６／４	歯周病の分類	非プラーク性歯肉病変，特殊な歯周疾患	D-5-2-3-1／各論Ⅱ3-ア-a，c	〃
9	６／11	炎症，免疫応答および骨代謝	自然免疫，生体防御細胞，細胞性および体液性免疫応答，骨代謝	E-3-3)-(3)-②／総Ⅵ-11イ	〃
10	６／18	歯周医学	歯周病と全身疾患の関連性，糖尿病，肥満	D-5-2-3-1／各論Ⅱ3-ア-h	〃
11	６／25	歯周医学	歯周病と心血管疾患，誤嚥性肺炎，早産，腎疾患等	D-5-2-3-1／各論Ⅱ3-ア-h	〃
12	７／２	歯周検査	PCR，歯肉炎指数，歯周ポケットプロービング，アタッチメントレベル，BOP等	E-2-2-5（Ⅰa）／総Ⅵ-1ア-c／各Ⅲ-9ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
13	7／9	歯周検査	画像診断，骨吸収指数，前臨床的検査	E-2-2-5(Ia)／総Ⅸ-1エ／総Ⅵ-3ア-e	①
14	7／16	歯周基本治療	患者教育・支援，行動変容，口腔衛生指導	E-5-3-3-1（Ⅰa)／各論Ⅱ3-イ-a, b, c, d, e,各論Ⅱ3-ウ-b	〃
15	7／23	歯周基本治療	救急処置	D-1-1／各論Ⅱ3-ウ-a	〃
16	9／2	歯周基本治療	スケーリング，ルートプレーニング	D-5-3-3-2／各論Ⅱ3-ウ-b	〃
17	9／2	歯周基本治療	抗菌療法，局所薬物配送システム（LDDS）	D-5-3-3-3／総Ⅶ8-イ，各論Ⅱ3-ウ-i	〃
18	9／9	歯周基本治療	咬合治療，暫間固定，暫間義歯	D-5-2-3-5／各論Ⅱ3-ウ-c	〃
19	9／9	歯周基本治療	咬合性外傷，ブラキシズムの病態と対処法	D-5-2-3-3／各論Ⅱ3-ウ-c	〃
20	9／16	歯周外科療法総論	分類，特徴および術式	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-e	②
21	9／16	歯周外科療法総論	分類，特徴および術式	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-e	〃
22	9／30	骨移植	人工骨，異種骨，同種骨および自家骨の特徴と治療成績	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-e	①
23	9／30	歯周外科療法	ポケット除去療法，新付着術，臨床的歯冠長延長術など	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-d	〃
24	10／7	歯周外科療法	フラップ手術の原理と術式	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-d	〃
25	10／7	歯周外科療法	組織再生誘導法（GTR 法）再生の原理と術式	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-e	〃
26	10／14	歯周組織再生療法	エナメルマトリックスタンパク質，FGF－2 製剤の応用	D-5-2-3-4／総Ⅶ2-ア-c,各論Ⅱ3-ウ-e	〃
27	10／14	再生医療	組織工学（Tissue engineering）	E-3-3)-(3)-④／総Ⅺ-16エ	〃
28	10／21	創傷治癒	切除型，歯周組織再生誘導法による治癒過程	D-5-2-3-5／各論Ⅱ3-ウ-d	〃
29	10／21	歯周形成外科	遊離歯肉移植術，歯肉弁根尖側移動術，小帯切除術など	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-f	〃
30	10／28	歯周形成外科	根面被覆	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-f	①
31	10／28	歯周外科療法	歯周外科療法のまとめ	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-d, e, f	〃
32	11／4	歯周矯正療法	歯周－矯正治療，PAOO	D-5-2-3-4,D-5-5-1／各論Ⅲ-9イ	④
33	11／4	レーザー治療	歯周治療におけるレーザーの活用	D-5-2-3-4,／総Ⅶ9-エ,各Ⅲ-6ケ, 8ケ	〃
34	11／11	根分岐部病変	根分岐部病変の分類	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-g	③
35	11／11	根分岐部病変	根分岐部病変の治療	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-g	〃
36	11／18	歯周－歯内複合病変	Simon の分類ごとの治療法と予後	D-5-2-3-4,／各Ⅲ-9カ	①
37	11／18	口臭，口呼吸	口臭および口呼吸の原因と治療法	E-3-3)-(3)-⑥／総Ⅵ-1ア-f	〃
38	11／25	臨床推論	診断の暗黙知，SOAP	E-3-1, 2／総Ⅴ-1ア	〃
39	11／25	臨床推論	診断時の思考法，帰納法，アブダクション	E-3-1, 2／必須3-ケa, b, c	〃
40	12／2	歯周病に関する臨床疫学歯周治療の EBM	歯周疾患を表す指数と指数評価歯周治療の EBM と NBM，ガイドライン，GRADE	E-3-3)-(3)-⑤／総Ⅴ-1オ／総Ⅹ-1ア, イ, ウ, エ	〃
41	12／2	口腔機能回復治療	歯周補綴，永久固定	D-5-2-3-5,／各論Ⅱ3-ウ-h	〃
42	12／9	歯周病患者に対するインプラント治療	インプラント周囲粘膜炎，インプラント周囲炎	D-5-3-3-8／各Ⅲ-9ケ	〃
43	12／9	歯周病の診断と治療計画	一口腔単位の診断および治療計画の立案包括的な歯周治療	D-5-2-3-2,／必12-アc, ウa	〃
44	12／16	SPT，メインテナンス	意義と実際，電動歯ブラシの効果，口腔管理	D-5-3-3-6／各論Ⅱ3-ウ-j	〃
45	12／16	高齢者，有病者の歯周治療講義のまとめ	講義の総括	D-5-6-2, 3／総Ⅵ-11イ各論Ⅱ3-ウ-k	〃

歯周病学実習（後期・１単位）

D④⑤C-c1-41003(D41003)

科目責任者：臼井　通彦（歯周・教授）
科目担当者：①臼井　通彦（歯周），②高橋　昌宏（歯周），
③〆谷　暁子（非常勤），④杉　　祐紀（非常勤），
⑤大塩　薫里（非常勤），⑥田中　真喜（非常勤）
※この科目は，診療経験のある歯科医師および一般企業勤務経験のある教員が担当する

１．科目の概要

歯周病学講義の内容を踏まえて，基本的な歯周治療の知識と手技を習得することを目的とする。すなわち，歯周病の診査・診断，一口腔単位の治療計画の立案，歯周基本治療，修正治療および各種歯周外科手術に必要な術式を修得し，SPTあるいはメインテナンスに移行できるようにする。また，歯周病が「生活習慣病」であることから，歯周治療において術者による適切な患者教育（行動変容）および治療，さらに患者自身による口腔管理を確立させるような指導力，説明能力およびコミュニケーション能力が要求される。

２．一般目標

歯周治療を実践するために，基本となる知識，技術，態度を修得する。(ディプロマポリシー５)

３．到達目標

１）歯周診査を実施できる。
２）歯周病の状態を診断できる。
３）一口腔単位の治療計画を立案できる。
４）プラークコントロールレコードの記載と患者への説明ができる。
５）プラークの付着部位に適したブラッシング方法を患者に指導できる。
６）スケーリングとルートプレーニングを実施できる。
７）咬合調整を実施できる。
８）暫間固定を実施できる。
９）基本的な歯周外科手術の適応症を説明できる。
10）基本的な歯周外科手術を実施できる。

４．履修の進め方

教員のデモや動画を視聴させて内容を説明後に学生に実習させ，ステップ・バイ・ステップで検印をする。コロナ感染対策が必要な状況であれば，今年度と同様の対応を検討する。

５．準備学修

臨床歯周病学　第４版　医歯薬出版
ザ・ペリオドントロジー　第４版　永末書店
歯周治療　失敗回避のためのポイント33　クインテッセンス出版
エンド・ペリオ病変の臨床　歯内－歯周複合病変　診断と治療のストラテジー　医歯薬出版
事前および事後学習を30分ずつ程度行うことが望ましい。

６．評価方法

全出席を原則とする。実習中の実習態度，各ステップごとの習得度に対するインストラクターの評価（30%）および中間テストと実習試験の結果（70%）を総合判定して合否を決める。

７．教本

歯周病学実習マニュアル2026 奥羽大学歯学部歯科保存学講座（歯周）

８．参考書

なし

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	９／２	歯周診査	購入器具の確認，歯肉模型を用いた歯周診査	E-2-2-5 (Ⅰa)／ 総Ⅸ-1エ	①
4 5 6	９／９	口腔衛生指導・ルートプレーニング	口腔衛生指導（つまようじ法，バス法），電動歯ブラシの実習	E-5-3-3-1 (Ⅰa)／ 各Ⅲ-9イ	① ～ ⑥
7 8 9	９／16	歯周治療	歯肉模型を用いた歯肉縁上スケーリング，歯肉縁下ルートプレーニング（上顎）	D-5-3-3-2／ 各Ⅲ-9イ	〃
10 11 12	９／30	歯周治療	歯肉模型を用いた歯肉縁下ルートプレーニング（上下顎）スケーラーのシャープニング	D-5-3-3-2／ 各Ⅲ-9イ	〃
13 14 15	10／７	歯周治療	歯肉縁下ルートプレーニング（下顎），スケーラーのシャープニング	D-5-3-3-2／ 各Ⅲ-9イ	〃
16 17 18	10／14	歯周治療	暫間固定（咬合調整），歯周外科の基本手技，切開，縫合（オペガム）	D-5-2-3-5／ 各Ⅲ-9イ	〃
19 20 21	10／21	歯周病の病態説明	歯周病の病態説明（相互実習），縁上スケーリング(CSX対策)	E-5-3-3-1 (Ⅰa)／ 必12-アc, ウa	〃
22 23 24	10／28	歯周外科	歯肉切除術（模型）	D-5-2-3-4／ 各Ⅲ-9イ	〃
25 26 27	11／４	歯周外科	フラップ手術（模型）	D-5-2-3-4／ 各Ⅲ-9エ	〃
28 29 30	11／11	歯周外科	ブタ下顎骨を用いたフラップ手術	D-5-2-3-4／ 各Ⅲ-9エ	〃
31 32 33	11／18	歯周外科	ブタ下顎骨を用いたGTR法	D-5-2-3-4／ 各Ⅲ-9エ	〃
34 35 36	11／25	歯周外科	ブタ下顎骨を用いた遊離歯肉移植術，根面被覆	D-5-2-3-4／ 各Ⅲ-9エ, オ	〃
37 38 39	12／２	診断・治療計画	歯周病の診断に基づく一口腔単位の治療計画の立案	D-5-2-3-2／ 必12-アc, ウa	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
40 41 42	12／9	診断・治療計画	診断および治療方針の記載あるいは発表担当教員とのディスカッション	D-5-2-3-2／必12-アc, ウa	① ～ ⑥
43 44 45	12／16	実習試験	実習試験		① ②

冠橋義歯補綴学Ⅱ（前期・２単位）

D③④C-a2-4904（D4904）

科目責任者：羽鳥　弘毅（冠橋・教授）
科目担当者：①羽鳥　弘毅（冠橋），②冨士　岳志（冠橋），
③内田　光洋（冠橋），④秋葉　陽介（非常勤）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

冠橋義歯補綴は歯科治療の中でも高頻度な治療方法であることから，安全かつ確実な治療を施すためには，顎口腔系緒器官の機能や形態に関する知識の修得のみならず，使用する機械の特徴や材料の性質についても把握する必要があり，かつ歯学全般の幅広い知識と熟練した技能が必要とされる。そこで，冠橋義歯補綴学Ⅱでは冠橋義歯補綴装置の実際の製作法から予後管理に至るまでの，治療の流れの中で重要な項目について教授する。

本科目は，冠橋義歯補綴学について学ぶことで冠橋義歯補綴学を理解し，冠橋義歯治療を実践することを目標としており，ディプロマポリシー「３．病態解析と治療概念」，「４．知識と診断」及び「５．技能と治療」に関連する。

２．一般目標

歯冠部歯質欠損および少数歯欠損による咬合・咀嚼障害や審美障害を治療できるようになるために，クラウンおよびブリッジを応用した補綴法に必要な知識を修得する。

３．到達目標

１）印象採得法と印象用器材を説明する。
２）顎間関係の記録法とその重要性を説明する。
３）作業用模型の種類と要件を説明する。
４）ワックスパターン形成の要件と形成法の種類を説明する。
５）レジン前装冠の臨床的意義と特徴，製作法を説明する。
６）陶材焼付冠の臨床的意義と特徴，製作法を説明する。
７）ハイブリッド型コンポジットレジンクラウンの特徴を説明する。
８）オールセラミッククラウンの特徴を説明する。
９）従来型ブリッジと接着ブリッジの特徴を説明する。
10）鋳造法と CAD／CAM による補綴装置製作の特徴を説明する。
11）クラウンブリッジの試適・装着手順を説明する。
12）装着後に発生する問題とその対応を説明する。
13）高齢者・要介護者のクラウンブリッジ補綴治療の要件を説明する。

４．履修の進め方

講義主体で教科書を中心としたスライドによる視覚素材を使用して履修する。履修に先立ち講義内容を理解するために講義に使用するスライドを講義前にユニパに掲示する。

５．準備学修

予習として，シラバスを確認して，講義内容についてスライドデータを参考に教科書を読むこと（30分）。
復習として，教科書とスライドデータを確認して講義内容を十分に理解すること（60分）。

６．評価方法

前期の定期試験において点数が65点以上を合格とする。定期試験は多肢選択式問題と記述式問題の筆記試験とする。点数が65点未満の場合には再試験を行う。点数が65点未満の再試験該当者は，再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。出席率80％未満の学生は「定期試験及び追再試験」の受験資格を失います。

７．教本

矢谷博文 ら編「クラウンブリッジ補綴学第７版」医歯薬

出版

石橋寛二 ら編「クラウンブリッジテクニック第２版」医歯薬出版

８．参考書

なし

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／9	印象採得①	印象材の種類，印象用器材 印象の前準備	E-5-3／ 各Ⅳ-3-イ	①
2	4／9	印象採得②	印象法，印象後の処理	E-5-3／ 各Ⅳ-3-イ	〃
3	4／16	顎間関係の記録①	咬合関係の決定と記録	E-5-3／ 各Ⅳ-3-イ	〃
4	4／16	顎間関係の記録②	頭蓋に対する上顎歯列の三次元的位置記録の記録	E-5-3／ 各Ⅳ-3-イ	〃
5	4／23	ロストワックス法による製作①	作業用模型の構成と要件	E-5-3／ 各Ⅳ-3-ウ	〃
6	4／23	ロストワックス法による製作②	咬合器の種類と選択 咬合器装着と調節	E-5-3／ 各Ⅳ-3-ウ	〃
7	5／7	ワックスアップ（ワックスパターン形成）	ワックスパターンの要件 ワックスアップの種類	E-5-3／ 各Ⅳ-3-ウ	②
8	5／7	埋没・鋳造	埋没材の種類・埋没法，鋳造と鋳造収縮の補償	E-5-3／ 各Ⅳ-3-ウ	〃
9	5／14	熱処理・研磨	鋳造欠陥，鋳造後処理，熱処理，研磨	E-5-3／ 各Ⅳ-3-ウ	〃
10	5／14	患者情報の記録と伝達	患者情報の記録と伝達	E-5-3／ 各Ⅳ-3-イ	①
11	5／21	レジン前装冠①	レジン前装冠の臨床的意義と適応症	E-5-3／ 各Ⅳ-3-ア	〃
12	5／21	レジン前装冠②	レジンと金属の結合 レジン前装冠の製作法	E-5-3／ 各Ⅳ-3-ウ	〃
13	5／28	陶材焼付冠①	陶材焼付冠の臨床的意義，適応症と禁忌症	E-5-3／ 各Ⅳ-3-ア	〃
14	5／28	陶材焼付冠②	陶材と金属の結合	E-5-3／ 各Ⅳ-3-ウ	〃
15	6／4	陶材焼付冠③	陶材焼付冠の製作法	E-5-3／ 各Ⅳ-3-ウ	〃
16	6／4	CAD／CAMによるクラウンブリッジの製作	臨床的意義，歯科におけるCAD／CAM	E-5-3／ 各Ⅳ-3-ウ	③
17	6／11	ハイブリッド型コンポジットレジンクラウン	臨床的意義，適応症と禁忌症，種類，製作法	E-5-3／ 各Ⅳ-3-ア	〃
18	6／11	オールセラミック修復	修復法の臨床的意義，適応症と禁忌症	E-5-3／ 各Ⅳ-3-ア	①
19	6／18	ブリッジ（従来型ブリッジ）①	臨床的意義，適応症と禁忌症，支台歯形成	E-5-3／ 各Ⅳ-3-ア	②
20	6／18	ブリッジ（従来型ブリッジ）②	印象採得・咬合採得，ブリッジの製作	E-5-3／ 各Ⅳ-3-ウ	〃
21	6／25	接着ブリッジ①	接着ブリッジの歴史と基本デザイン	E-5-3／ 各Ⅳ-3-ア	④
22	6／25	接着ブリッジ②	接着ブリッジの臨床的意義，適応症，製作法	E-5-3／ 各Ⅳ-3-ウ	〃
23	7／2	支台築造①	支台築造の臨床的意義，種類・選択基準	E-5-3／ 各Ⅳ-3-イ	①
24	7／2	支台築造②	支台築造の方法	E-5-3／ 各Ⅳ-3-イ	〃
25	7／9	プロビジョナルレストレーション	プロビジョナルレストレーションの臨床的意義，種類，製作方法	E-5-3／ 各Ⅳ-3-イ	③
26	7／9	装　着	口腔内試適と装着	E-5-3／ 各Ⅳ-3-イ	〃
27	7／16	術後管理（メインテナンス）	術後管理の重要性，プラークコントロール，ケア	E-5-3／ 各Ⅳ-3-イ	②
28	7／16	装着後に発生する問題とその対応	支台装置，支台歯，歯周組織，残存歯列（咬耗）	E-5-3／ 各Ⅳ-3-イ	〃
29	7／23	オーラルアプライアンス（口腔内装置）	オーラルアプライアンスの使用目的，種類と特徴	E-5-3／ 各Ⅳ-3-ア，イ，ウ	〃
30	7／23	高齢者・要介護者におけるクラウンブリッジ治療	高齢者・要介護者を対象にしたクラウンブリッジ治療	E-5-3／ 各Ⅳ-3-ア，イ，ウ	①

冠橋義歯補綴学実習（前期・１単位）

D ④⑤ C-c1-41004（D41004）

科目責任者：羽鳥　弘毅（冠橋・教授）
科目担当者：①羽鳥　弘毅（冠橋），②冨士　岳志（冠橋），
③内田　光洋（冠橋），④小野崎　裕（非常勤），
⑤加藤　　崇（非常勤），⑥白井やよい（非常勤），
⑦菊池　利也（非常勤），⑧佐々木具文（非常勤），
⑨秋葉　陽介（非常勤），他
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

講義で学んだ知識を基に，クラウンブリッジを実際に自分で製作し，支台歯形成，印象採得，咬合採得，作業用模型の製作，ワックスパターン形成，埋没，鋳造，前装材料築盛，研磨といった各製作過程における技術的な要点および生体に調和した補綴装置の要件について学ぶ。また，実際に製作に使用する器具の特徴や性質などについても学ぶ。

本科目は，冠橋義歯補綴学実習について学ぶことで冠橋義歯補綴学を理解し，冠橋義歯治療を実践することを目標としており，ディプロマポリシー「３．病態解析と治療概念」，「４．知識と診断」及び「５．技能と治療」に関連する。

２．一般目標

歯質欠損や少数歯欠損による咬合・咀嚼障害を回復できるようになるために，クラウンブリッジを製作，装着する技術と知識を修得する。

３．到達目標

１）全部金属冠とレジン前装冠の支台歯形成を行う。
２）シリコーンゴム印象材により支台歯の精密印象採得を行う。
３）精密な作業用模型を製作する。
４）歯型上で精度の高いワックスパターンを製作する。
５）ワックスパターンを変形させずに埋没する。
６）鋳造欠陥を生じさせずに鋳造を行う。
７）前装用レジンで天然歯の色調と形態を再現する。
８）歯冠補綴装置を口腔内装着可能なまで滑沢に研磨する。

４．履修の進め方

マネキンおよび歯列模型を用いてクラウンブリッジを製作する。その各ステップで使用する器械や材料の扱い方に習熟し，緻密で正確な技工操作ができる技術を磨くとともに知識を修得する。

５．準備学修

実習内容を実習書で予習する（30分）。

実習内で毎回実施する小テストで，間違った問題等を再度，学習する（30分）。

６．評価方法

実習製作物評価（25％），小テスト結果（25％），実習実技試験（25％）及び実習筆記試験（25％）を総合して評価する。点数が65点以上を合格とする。点数が65点未満の場合には再試験を行う。点数が65点未満の再試験該当者は，再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。出席率80％未満の学生は「定期試験及び追再試験」の受験資格を失います。

７．教本

奥羽大学歯学部歯科補綴学講座　編「冠橋義歯補綴学実習マニュアル」

８．参考書

矢谷博文 ら編「クラウンブリッジ補綴学第７版」医歯薬出版

石橋寛二 ら編「クラウンブリッジテクニック第２版」医歯薬出版

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	４／９	オリエンテーション，下顎臼歯部ブリッジ	実習の進め方および材料の取り扱い方，支台歯形成	E-5-3／各Ⅳ-3-ア，イ，ウ	① ～ ⑨
4 5 6	４／16	下顎臼歯部ブリッジ	支台歯形成印象採得	E-5-3／各Ⅳ-3-ア，イ，ウ	〃
7 8 9	４／23	下顎臼歯部ブリッジ	支台歯形成印象採得	E-5-3／各Ⅳ-3-ア，イ，ウ	〃
10 11 12	５／７	下顎臼歯部ブリッジ	支台歯形成作業用模型製作	E-5-3／各Ⅳ-3-ア，イ，ウ	〃
13 14 15	５／14	下顎臼歯部ブリッジ	支台歯形成咬合採得	E-5-3／各Ⅳ-3-ア，イ，ウ	〃
16 17 18	５／21	下顎臼歯部ブリッジ	模型の咬合器付着	E-5-3／各Ⅳ-3-ア，イ，ウ	〃
19 20 21	５／28	下顎臼歯部ブリッジ	ワックスパターン形成①	E-5-3／各Ⅳ-3-ア，イ，ウ	〃
22 23 24	６／４	下顎臼歯部ブリッジ	ワックスパターン形成②埋没，鋳造	E-5-3／各Ⅳ-3-ア，イ，ウ	〃
25 26 27	６／11	下顎臼歯部ブリッジ	研磨，仕上げ	E-5-3／各Ⅳ-3-ア，イ，ウ	〃
28 29 30	６／18	レジン前装冠	支台歯形成ワックスパターン形成①	E-5-3／各Ⅳ-3-ア，イ，ウ	〃
31 32 33	６／25	レジン前装冠	支台歯形成ワックスパターン形成②	E-5-3／各Ⅳ-3-ア，イ，ウ	〃
34 35 36	７／２	レジン前装冠	支台歯形成窓開け，埋没，鋳造	E-5-3／各Ⅳ-3-ア，イ，ウ	〃
37 38 39	７／９	レジン前装冠	支台歯形成鋳造，調整，研磨	E-5-3／各Ⅳ-3-ア，イ，ウ	〃
40 41 42	７／16	レジン前装冠	レジン前装，仕上げ	E-5-3／各Ⅳ-3-ア，イ，ウ	〃
43 44 45	７／23	実習試験	筆記試験，実技試験	E-5-3／各Ⅳ-3-ア，イ，ウ	〃

有床義歯補綴学Ⅱ（前期・３単位）

D③④C-a3-4905（D4905）

科目責任者：髙津　匡樹（有床・教授）
科目担当者：①髙津　匡樹（有床），②池田　敏和（有床），
③内山　梨夏（有床）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

歯列の部分欠損症例に対して有床義歯である部分床義歯を装着することで，顎顔面および口腔の失われた形態と機能，外観を回復するとともに，全身の身体的，精神的健康を維持・増進するための理論を学ぶ。

本科目は，部分床義歯による補綴治療について学ぶことでその理論と術式を理解し，全部床義歯の装着と管理に関する知識の習得を目標としており，ディプロマシーポリシー３，４，５，に関連する。

２．一般目標

少数歯欠損から１歯残存に至る多様性に富む欠損症例に対して，全身および局所的情報を把握し，系統的な診断と治療計画立案にもとづく部分床義歯の装着および継続的な管理を実施するために必要な知識を修得する。

３．到達目標

１）部分床義歯の特徴と臨床的意義を説明する。
２）部分床義歯の支持・維持・把持に対する考え方を説明する。
３）部分床義歯の構成要素を説明する。
４）部分床義歯の設計に対する基本的原則を説明する。
５）部分床義歯製作の治療過程を説明する。
６）部分床義歯製作における技工操作を説明する。
７）部分床義歯装着後の経過観察を説明する。

４．履修の進め方

講義を主体とした授業において，教科書，スライドおよび配付資料を用いて履修する。必要な内容は配付資料等にメモをとりながら履修する。毎週実施する小テストで形成的評価をしながら進み，最終講義時に行う演習で理解度を確認する。

５．準備学修

予　習：関連科目である口腔解剖学，口腔生理学，生体材料学，有床義歯補綴学Ⅰの講義・実習を通して学んだ内容や，前回の講義までに学んだ内容を復習して講義に臨む。（60分）
復　習：講義内容を当日中に必ず復習し，講義中に指示のあった箇所および理解が不十分な項目については配布資料と教科書を用いて自己学習を行う。（60分）

６．評価方法

毎週授業時に小テストで形成的評価を行う。小テストのフィードバックは講義内にて行う。最終評価は定期試験で行い，65点以上を合格（単位認定）とする。なお，再試験受験者は65点を上限として評価する。定期試験および追再試験の問題形式は，多肢選択式，記述式（論述・短答・長文穴埋めなど）とする。

７．教本

藍　　稔 編：スタンダードパーシャルデンチャー補綴学第４版　学建書院　2024
配付資料

８．参考書

日本補綴歯科学会編：歯科補綴学専門用語集　第６版　医歯薬出版　2023

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／10	部分床義歯補綴学概論	部分床義歯の特徴と臨床的意義	D-5-3-2／総Ⅶ-2-ア	①
2	4／10	部分床義歯補綴学概論	部分床義歯製作の流れ	D-5-3-2／各Ⅳ-4-アイウ	〃
3	4／13	部分的な歯の欠損	部分的な歯の欠損の病態と継発症	D-5-3-2／総Ⅲ-2-イ，各Ⅳ-1-アイウエ	②
4	4／17	歯の欠損様式と義歯の分類	歯の欠損様式の分類	D-5-3-2／各Ⅳ-2-イ	〃
5	4／17	歯の欠損様式と義歯の分類	部分床義歯の分類	D-5-3-2／各Ⅳ-2-イ	〃
6	4／20	部分床義歯の構成要素	構成要素の種類と役割	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ア	〃
7	4／24	部分床義歯に加わる力への対応	部分床義歯の安定に関わる生体の要素	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ア	①
8	4／24	部分床義歯に加わる力への対応	部分床義歯の支持，把持，維持機構	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ア	〃
9	4／27	部分床義歯に加わる力への対応	部分床義歯の支持，把持，維持機構	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ア	〃
10	5／8	支台装置	レスト，隣接面板	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ア	②
11	5／8	支台装置	クラスプの構造と分類	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ア	〃
12	5／11	支台装置	各種クラスプの特徴	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ア	〃
13	5／15	支台装置	アタッチメント，テレスコープクラウン	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ア	③
14	5／15	連結子と義歯床	大連結子	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ア	〃
15	5／18	連結子と義歯床	小連結子	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ア	〃
16	5／22	連結子と義歯床	義歯床	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ア	②
17	5／22	診察と検査	一般的な診察	D-5-3-2／各Ⅳ-2-アイ	〃
18	5／25	診察と検査	局所的な診察と検査	D-5-3-2／各Ⅳ-2-アイ	〃
19	5／29	診断と治療計画	顎口腔系の把握，補綴学的診断	D-5-3-2／各Ⅳ-2-ウ	①
20	5／29	診断と治療計画	治療計画の立案，支台歯の選択基準	D-5-3-2／各Ⅳ-2-エ	〃
21	6／1	部分床義歯の設計	設計の原則，設計の種類	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ウ	〃
22	6／5	部分床義歯の設計	研究用模型のサベイング，設計の手順	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ウ	②

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
23	6／5	前処置	外科的前処置，矯正的前処置，保存的前処置	D-5-3-2／各Ⅳ-4-イ	②
24	6／8	前処置	補綴的前処置	D-5-3-2／各Ⅳ-4-イ	〃
25	6／12	印象採得	印象採得の手順，印象採得の種類	D-5-3-2／各Ⅳ-4-イウ	③
26	6／12	印象採得	負担様式に基づく印象採得の考え方	D-5-3-2／各Ⅳ-4-イ	〃
27	6／15	作業用模型製作と本設計	作業用模型の製作，設計線の記入	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ウ	〃
28	6／19	咬合採得	部分床義歯の咬合	D-5-3-2／各Ⅳ-4-イ，総Ⅱ-6-イ	〃
29	6／19	咬合採得	咬合支持と顎間関係の記録	D-5-3-2／各Ⅳ-4-イウ	〃
30	6／22	人工歯の選択	人工歯の種類，人工歯の選択基準	D-5-3-2／各Ⅳ-4-イ	〃
31	6／26	フレームワーク	金属床義歯，フレームワークの構造	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ウ	②
32	6／26	フレームワーク	フレームワークの製作，フレームワークの試適	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ウ	〃
33	6／29	人工歯排列とろう義歯	人工歯排列	D-5-3-2／各Ⅳ-4-イウ	〃
34	7／3	人工歯排列とろう義歯	歯肉形成，ろう義歯試適	D-5-3-2／各Ⅳ-4-イウ	〃
35	7／3	義歯の重合・研磨	レジンの種類と重合法，ろう義歯の埋没	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ウ	〃
36	7／6	義歯の重合・研磨	レジンの重合，研磨	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ウ	〃
37	7／10	義歯の装着・調整	義歯の装着と調整	D-5-3-2／各Ⅳ-4-イ	〃
38	7／10	義歯の装着・調整	義歯装着時の指導，義歯装着直後の調整	D-5-3-2／各Ⅳ-4-イ，各Ⅳ-8-イ	①
39	7／13	義歯装着後の管理	義歯装着後の変化と対応	D-5-3-2／各Ⅳ-8-オ	〃
40	7／17	義歯装着後の管理	義歯装着後の変化と対応，義歯の修理	D-5-3-2／各Ⅳ-8-オ	〃
41	7／17	義歯装着後の管理	リライン，リベース	D-5-3-2／各Ⅳ-8-オ	〃
42	7／24	特殊な義歯	即時義歯，オーバーデンチャー	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ア	〃
43	7／24	特殊な義歯	顎義歯	D-5-3-2／各Ⅳ-7-ア	〃
44	7／27	演習と解説	部分床義歯補綴学に関する演習	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ア，イ，ウ	〃
45	7／28	演習と解説	部分床義歯補綴学に関する演習の解説	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ア，イ，ウ	①

有床義歯補綴学Ⅱ実習

（前期・１単位）

D④⑤C-c1-41006（D41006）

科目責任者：髙津　匡樹（有床・教授）

科目担当者：①髙津　匡樹（有床），②池田　敏和（有床），③内山　梨夏（有床），④和田　裕一（非常勤），⑤伊藤　　隼（非常勤），他

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

上顎レジン床義歯と下顎金属床義歯における製作過程を自ら実践する。これにより，有床義歯補綴学Ⅱの講義で学修した知識と理論に対する理解を深めるとともに，チェアサイドとラボサイドにおける基本的技能を修得する。

本科目は，部分床義歯による補綴治療について学ぶことでその理論と術式を理解し，部分床義歯製作に関する知識と技能の習得を目標としており，ディプロマシーポリシー３，４，５，に関連する。

２．一般目標

歯列部分欠損症例に対して部分床義歯の設計を行い，その製作過程を実践するために必要な知識と技能を修得する。

３．到達目標

１）精密印象採得と作業用模型の製作を説明する。
２）サベイングと義歯の設計を行う。
３）ガイドプレーンとレストシートを形成する。
４）ワイヤークラスプを製作する。
５）エーカースクラスプを製作する。
６）咬合床を製作して咬合採得を行う。
７）咬合器装着，人工歯の選択と排列，レジン重合，研磨を説明する。
８）金属床義歯のワックスアップを行う。

４．履修の進め方

基礎棟２階の実習室において，小人数のグループに分かれて履修する。毎開始時に行う小テストを受けてから実習に臨む。実習は担当教員の指導を受けながら実習マニュアルに沿って進め，履修した項目は随時検印を受ける。

５．準備学修

予　習：関連科目である口腔解剖学，口腔生理学，生体材料学，有床義歯補綴学Ⅰの講義・実習，有床義歯学Ⅱ講義を通して学んだ内容を良く理解する。また，実習マニュアル，教科書の関連範囲を熟読して実習に臨む。（30分）

復　習：実習内容を当日中に必ず復習し，理解が不十分な項目については実習マニュアル，教科書により自己学習を行う。（30分）

６．評価方法

毎回行う小テスト（20％），筆記試験（30％）および製作物（50％）により100点満点で評価し，「可（65点）」以上を合格とする。小テストの平均が65％未満の場合，レポート課題の提出を必須とする。

７．教本

実習マニュアル

五十嵐順正 他編：パーシャルデンチャーテクニック　第６版　医歯薬出版　2022

８．参考書

日本補綴歯科学会編：歯科補綴学専門用語集　第５版　医歯薬出版　2018

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	4／10	上顎模型の設計	上顎模型のサベイング，設計線記入	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ア	①～⑤他
4 5 6	4／17	前処置とワイヤークラスプの製作	ガイドプレーンとレストシート形成，カウントゥア修正，作業用模型修正，ワイヤークラスプ屈曲	D-5-3-2／各Ⅳ-4-イ，ウ	〃
7 8 9	4／24	ワイヤークラスプの製作	上顎右側第一小臼歯のワイヤークラスプ屈曲	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ウ	〃
10 11 12	5／8	ワイヤークラスプの製作	上顎左側第一小臼歯のワイヤークラスプ屈曲	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ウ	〃
13 14 15	5／15	キャストクラスプの製作	作業用模型修正，複印象，耐火模型の製作	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ウ	〃
16 17 18	5／22	キャストクラスプの製作	ワックスアップ，埋没	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ウ	〃
19 20 21	5／29	キャストクラスプの製作と咬合床の製作	鋳造，研磨，基礎床と咬合堤製作	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ウ	〃
22 23 24	6／5	咬合床の製作と咬合採得	基礎床と咬合堤の製作，咬合採得	D-5-3-2／各Ⅳ-4-イ，ウ	〃
25 26 27	6／12	実技試験	製作物提出，実技試験	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ウ	〃
28 29 30	6／19	下顎模型のサベイングと設計	下顎模型のサベイング，設計線記入	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ア	〃
31 32 33	6／26	前処置と耐火模型の製作	ガイドプレーン・レストシート形成，作業用模型修正，複印象，耐火模型製作	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ウ	〃
34 35 36	7／3	フレームワークワックスアップ	フレームワークのワックスアップ	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ウ	〃
37 38 39	7／10	フレームワークワックスアップ	フレームワークのワックスアップ	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ウ	〃
40 41 42	7／17	フレームワークワックスアップ	フレームワークのワックスアップ	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ウ	〃
43 44 45	7／24	筆記試験	製作物提出，筆記試験	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ウ	〃

口腔インプラント学（前期・１単位）

D③④C-a1-4906（D4906）

科目責任者：高橋　昌宏（歯周・講師）
科目担当者：①高橋　昌宏（歯周），②保田　　穣（イン），
③石田　喜紀（材料），④宇佐美晶信（解剖），
⑤羽鳥　弘毅（冠橋），⑥川鍋　　仁（矯正），
⑦今　　一裕（非常勤），⑧西郷　慶悦（非常勤）

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

口腔インプラントを用いた欠損補綴治療は，予知性のある治療法の一つとして広く実践されている。口腔インプラント治療を成功させるためには，口腔インプラントの特性と臨床的意義を十分に理解し，適切な治療計画を立案することが重要である。また口腔インプラント治療には，種々の前処置，顎骨へのインプラント体埋入，上部構造の製作・装着など多様な処置が含まれるため，広範な基礎的，臨床的知識が求められる。それぞれの系統科目で学んだ知識とインプラント治療の結びつきを理解することが口腔インプラント学を修得する近道である。

２．一般目標

歯の欠損を有する患者の機能的，形態的回復によって健康の維持・増進をはかるために，口腔インプラント治療の基本的知識を修得する。

３．到達目標

１）口腔インプラント治療の歴史と概要を説明する。
２）口腔インプラント治療のための診察・検査・診断・治療計画立案を説明する。
３）口腔インプラント治療に必要な手術を説明する。
４）口腔インプラント治療のための基礎的知識を整理する。
５）口腔インプラント治療のための補綴的処置を説明する。
６）口腔インプラント治療の失敗の原因と対処法を説明する。

４．履修の進め方

教科書を中心に，配布資料とスライドを用いて講義する。

５．準備学修

予　習：指定された教科書を熟読し，予備知識を得る（15分）。
復　習：小テストによる形成的評価で指摘された点を，教科書，講義ノートにて確認する（15分）。

６．評価方法

定期試験（100％）で評価し，65点以上で合格とする。なお履修態度に応じて10％を上限とする加点を行う。

７．教本

赤川安正 ら編「よくわかる口腔インプラント学第４版」医歯薬出版
公益社団法人日本口腔インプラント学会編「口腔インプラント治療指針2024」
公益社団法人日本口腔インプラント学会編「口腔インプラント学術用語集第５版」

８．参考書

公益社団法人日本口腔インプラント学会編「口腔インプラント学実習書」

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／13	口腔インプラント学総論	インプラント治療の歴史と種類，臨床的意義と治療過程	D-5-3-3／各Ⅳ-6-ア	①
2	4／13	リスク要因	口腔インプラントに対するリスク要因	D-5-3-3／各Ⅳ-6-ア	〃
3	4／13	検査・診断	口腔インプラントのための診察，検査，診断	D-5-3-3／各Ⅳ-6-ア	②
4	4／20	治療計画の立案	治療計画立案の原則とチーム医療	D-5-3-3／各Ⅳ-6-ア	①
5	4／20	手術基本手技-1	基本的な手術術式と手技	D-5-3-3／各Ⅳ-6-イ	〃
6	4／20	手術基本手技-2	骨造生術，軟組織形成術	D-5-3-3／各Ⅳ-6-イ	〃
7	4／27	基礎学（１）	口腔インプラントのための生体材料学	B-2-6／総Ⅷ-11	③
8	4／27	〃	〃	〃	〃
9	4／27	基礎学（２）	口腔インプラントのための臨床解剖学	D-5-3-3／各Ⅳ-6-ア	④
10	5／11	上部構造（１）	上部構造の種類と特徴	D-5-3-3／各Ⅳ-6-ウ	⑥
11	5／11	上部構造（２）	上部構造装着までの基本的術式	D-5-3-3／各Ⅳ-6-ウ	①
12	5／11	口腔インプラントの応用（１）	矯正歯科治療への応用	D-5-5／各Ⅰ-8	⑥
13	5／18	口腔インプラントの応用（２）	デジタル機器の応用	D-5-3-3／各Ⅳ-6-ア	⑦
14	5／18	〃	〃	〃	〃
15	5／18	口腔インプラントの応用（３）	インプラント治療の変遷	D-5-3-3／各Ⅳ-6-イ，ウ	⑧
16	5／25	試験対策講義（１）	診察，検査，診断	D-5-3-3／各Ⅳ-6-ア	①
17	5／25	試験対策講義（２）	手術術式，上部構造	D-5-3-3／各Ⅳ-6-イ，ウ	〃
18	5／25	試験対策講義（３）	手術術式，上部構造	D-5-3-3／各Ⅳ-6-イ，ウ	〃

口腔インプラント学実習
（前期・１単位）

D④⑤C-c1-41007（D41007）

科目責任者：高橋　昌宏（歯周・講師）
科目担当者：①高橋　昌宏（歯周），②羽鳥　弘毅（冠橋），③保田　　穣（イン），④佐藤　　篤（非常勤），⑤君　　賢司（非常勤），他
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

口腔インプラントを用いた欠損補綴治療は，予知性のある治療法の一つとして広く実践されている。口腔インプラント治療を成功させるためには，口腔インプラントの特性と臨床的意義を十分に理解し，適切な治療計画を立案することが重要である。また口腔インプラント治療には，種々の前処置，顎骨へのインプラント体埋入，上部構造の製作・装着，メインテナンスなど多様な処置が含まれるため，広範な基礎的，臨床的知識が求められる。

２．一般目標

歯の欠損を有する患者の機能的，形態的回復によって健康の維持・増進をはかるために，口腔インプラント治療の手技およびその理論的背景を修得する。

３．到達目標

１）口腔インプラント治療の治療計画を立案する。
２）インプラント体埋入に関する外科的治療を模型上で実施する。
３）インプラント上部構造製作に関わる補綴的治療を模型上で実施する。
４）口腔インプラント治療の流れを説明する。

４．履修の進め方

提供された資料や顎模型による実習，演習を行う。

５．準備学修

予　習：配布される実習指針を熟読し，実習内容を理解する（30分）。
復　習：実習した内容について該当する箇所の教科書を熟読する（30分）。

６．評価方法

実習筆記試験（50％），実習中の提出物（50％）で評価し，65点以上で合格とする。

７．教本

配付資料
赤川安正 ら編「よくわかる口腔インプラント学第４版」医歯薬出版

８．参考書

公益社団法人日本口腔インプラント学会編「口腔インプラント治療指針2024」
公益社団法人日本口腔インプラント学会編「口腔インプラント学術用語集第５版」
公益社団法人日本口腔インプラント学会編「口腔インプラント学実習書」

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	６／１	外科実習（１）	切開，フラップ形成，術野の確保 インプラント体埋入窩形成	D-5-3-3／ 各Ⅳ-6-イ	① ～ ⑤ 他
4 5 6	６／８	外科実習（２）	インプラント体埋入，縫合	D-5-3-3／ 各Ⅳ-6-イ	〃
7 8 9	６／15	診断学実習（１）	トレースとインプラントポジショニング他	D-5-3-3／ 各Ⅳ-6-ア	〃
10 11 12	６／22	診断学実習（２）	トレースとインプラントポジショニング他	D-5-3-3／ 各Ⅳ-6-ア	〃
13 14 15	６／29	シミュレーション実習（１）	インプラント体埋入計画シミュレーション：第一症例	D-5-3-3／ 各Ⅳ-6-ア	〃
16 17 18	７／６	シミュレーション実習（２）	インプラント体埋入計画シミュレーション：第二症例	D-5-3-3／ 各Ⅴ-6-ア	〃
19 20 21	７／13	補綴実習（１）	アバットメント・セレクション	D-5-3-3／ 各Ⅳ-6-イ	〃
22 23 24	７／27	補綴実習（２）	印象採得：クローズドトレー法とオープントレー法	D-5-3-3／ 各Ⅳ-6-イ	〃
25 26 27	７／28	実習総括	実習試験，問題解説とフィードバック	D-5-3-3／ 各Ⅳ-6-ア，イ	〃

口腔外科学Ⅱ（通年・２単位）

D③④C-a2-4908（D4908）

科目責任者：金　秀樹（口外・教授）
科目担当者：①金　　秀樹（口外），②小嶋　忠之（口外），
③髙橋文太郎（薬理），④西　　祐也（口外），
⑤渡邊　　輝（口外）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

口腔外科学とは顎・口腔領域（口唇，頬粘膜，歯肉，口底，舌，口蓋などの軟組織と上・下顎骨とそれに植立する歯などの硬組織および隣接する顎関節，唾液腺，所属リンパ節など）に生じる各種疾患（先天異常，後天異常，損傷，炎症，嚢胞，腫瘍，血液疾患，顎関節疾患，唾液腺疾患，口腔粘膜疾患，神経疾患など）を正しく診断し，外科療法を主体とした適切な治療法を行うとともに，失われた形態と口腔機能の回復を図るための理論と技術を研究する学問であり，臨床歯科医学のなかで特に広範囲な診療科目として体系づけられている。したがって，口腔および口腔に関連する組織・器官の正常な形態と機能を理解するとともに，技能を獲得するための基礎と臨床を含めた歯科医学と隣接医学の幅広い知識が必要である。

２．一般目標

顎・口腔領域の疾患に罹患した患者の健康維持・増進を図るために，口腔外科学Ⅱでは，①抜歯術，小手術学の知識，②嚢胞および類似疾患，③唾液腺疾患，④腫瘍および類似疾患の知識を習得する。

３．到達目標

１）抜歯術および小手術の種類を概説し，適応症，禁忌症，術式，偶発症を説明する。
２）嚢胞および類似疾患の種類と症状を概説し，検査法と治療法を説明する。
３）唾液腺疾患の種類，特徴，症状を概説し，診断と治療法を説明する。
４）腫瘍および類似疾患の種類と特徴，症状を概説し，診断と治療法を説明する。

４．履修の進め方

文書視覚媒体と投影視覚媒体を用いて履修する。

５．準備学修

口腔外科学の理解には，基礎系科目（口腔解剖・口腔組織・口腔生理・口腔生化学・口腔感染免疫・歯科薬理・口腔病理等）の知識が必須である。口腔外科学の勉強時に上記基礎系科目も一緒に勉強する事が，口腔外科学と基礎系科目の更なる知識の定着に繋がる。事前学習では，各授業内容項目について教科書の該当部分を読むこと（15分）。事後学習では，授業で説明した内容について教科書や配布資料で勉強すること（15分）。

６．評価方法

定期試験で評価する。定期試験は筆記試験（多肢選択式問題と記述式問題）にて前期・後期に実施する。追試験は定期試験欠席者に対して実施する。再試験は定期試験65点未満の者に対して実施する。最終評価は，前期・後期の定期試験と再試験の平均点で65点以上を合格とする。

７．教本

「口腔外科学」第４版　医歯薬出版　2020年
「標準口腔外科学」第４版　医学書院　2015年

８．参考書

なし

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／10	抜歯術および小手術学（１）抜歯術１	抜歯の適応症，禁忌症	D-5-4／総Ⅶ-4-ア	①
2	4／17	抜歯術および小手術学（２）抜歯術２	抜歯の術式	D-5-4／総Ⅶ-4-ア	〃
3	4／24	抜歯術および小手術学（３）抜歯術３	抜歯の偶発症	D-5-4／総Ⅶ-4-ア	⑤
4	5／8	抜歯術および小手術学（４）小手術学１	歯根端切除術，歯槽骨整形術，歯の移植術	D-5-4／総Ⅶ-4-ア	①
5	5／15	抜歯術および小手術学（５）小手術学２	舌および上唇小帯形成術，浮動粘膜切除術	D-5-4／総Ⅶ-4-ア	⑤
6	5／22	嚢胞（１）顎骨１	顎骨に発生する嚢胞１	D-3-1／各Ⅲ-2-オ	②
7	5／29	嚢胞（２）顎骨２	顎骨に発生する嚢胞２	D-3-1／各Ⅲ-2-オ	〃
8	6／5	嚢胞（３）軟組織１	軟組織に発生する嚢胞１	D-3-1／各Ⅲ-1-エ	〃
9	6／12	嚢胞（４）軟組織２	軟組織に発生する嚢胞２	D-3-1／各Ⅲ-1-エ	〃
10	6／19	唾液腺疾患（１）総論１	唾液腺の解剖および機能	D-3-1／各Ⅲ-3-ア	③
11	6／26	唾液腺疾患（２）各論１	唾液腺疾患１	D-3-1／各Ⅲ-3-ア	〃
12	7／3	唾液腺疾患（３）各論２	唾液腺疾患２	D-3-1／各Ⅲ-3-ア	〃
13	7／10	唾液腺疾患（４）各論３	唾液腺疾患３	D-3-1／各Ⅲ-3-ア	〃
14	7／17	唾液腺疾患（５）各論４	唾液腺疾患４	D-3-1／各Ⅲ-3-ア	〃
15	7／24	前期　まとめ	抜歯術・小手術学，嚢胞，唾液腺疾患のまとめ	D-3-1，D-5-4／総Ⅶ-4-ア，各Ⅲ-1-エ，各Ⅲ-2-オ，各Ⅲ-3-ア	①
16	9／4	腫瘍および類似疾患（１）総論	腫瘍の定義，分類，症状，診断，治療	D-3-1／各Ⅲ-1-オカキ，各Ⅲ-2-カキ	②
17	9／11	腫瘍および類似疾患（２）各論１	良性腫瘍１歯原性腫瘍１	D-3-1／各Ⅲ-2-カキ	〃
18	9／18	腫瘍および類似疾患（３）各論２	良性腫瘍２歯原性腫瘍２	D-3-1／各Ⅲ-2-カキ	〃
19	9／25	腫瘍および類似疾患（４）各論３	良性腫瘍３非歯原性腫瘍	D-3-1／各Ⅲ-1-オカ	〃
20	10／2	腫瘍および類似疾患（５）各論４	良性腫瘍４腫瘍類似疾患	D-3-1／各Ⅲ-1-オカ，各Ⅲ-2-カキ	〃
21	10／9	腫瘍および類似疾患（６）各論５	口腔潜在的悪性疾患（前癌病変と前癌状態）	D-3-1／各Ⅲ-1-オカ	①

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
22	10／16	腫瘍および類似疾患（７）各論６	悪性腫瘍１口腔癌の分類	D-3-1／各Ⅲ-1-オカキ，各Ⅲ-2-カキ	①
23	10／23	腫瘍および類似疾患（８）各論７	悪性腫瘍２口腔癌の診断	D-3-1／各Ⅲ-1-オカキ，各Ⅲ-2-カキ	〃
24	10／30	腫瘍および類似疾患（９）各論８	悪性腫瘍３口腔癌の治療	D-3-1／各Ⅲ-1-オカキ，各Ⅲ-2-カキ	②
25	11／６	腫瘍および類似疾患(10)各論９	悪性腫瘍４肉腫悪性黒色腫	D-3-1／各Ⅲ-1-オカキ，各Ⅲ-2-カキ	③
26	11／13	腫瘍および類似疾患(11)各論10	悪性腫瘍５造血器腫瘍１	D-3-1／各Ⅲ-1-オカキ	〃
27	11／20	腫瘍および類似疾患(12)各論11	悪性腫瘍６造血器腫瘍２	D-3-1／各Ⅲ-1-オカキ	〃
28	11／27	腫瘍および類似疾患(13)各論12	唾液腺腫瘍１良性腫瘍	D-3-1／各Ⅲ-3-ア	④
29	12／４	腫瘍および類似疾患(14)各論13	唾液腺腫瘍２悪性腫瘍	D-3-1／各Ⅲ-3-ア	〃
30	12／11	腫瘍および類似疾患(15)まとめ	腫瘍のまとめ	D-3-1／各Ⅲ-1-オカキ，各Ⅲ-2-カキ	①

口腔外科学Ⅲ（後期・１単位）

D③④C-a1-4909（D4909）

科目責任者：髙田　　訓（外科・教授）
科目担当者：①髙田　　訓（外科），②山崎　北斗（口外），
③須賀賢一郎（非常勤），④宮島　　久（非常勤）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

顎口腔領域に生じる様々な疾患は，いくつかの各論に分類されている。口腔外科学ⅠおよびⅡと同様に，口腔外科学Ⅲにおいても，顎口腔領域の疾患を一つ一つ履修する。特に先天異常や発育異常，顎関節疾患，神経疾患について診断と治療に必要な最低限の知識を教本から修得する授業である。

２．一般目標

先天異常や発育異常，顎関節疾患，神経疾患の概要を説明し，診断に必要な検査，治療方針，治療法を患者さんに説明できるようになるために，各疾患の定義，特徴，診断に必要な検査，治療方針と治療法の種類を理解する。

３．到達目標

１）先天異常・発育異常の疾患を分類し，定義と概要，診断，検査を理解し，確定診断できる。
２）先天異常・発育異常の治療法を理解し，治療方針を立案できる。
３）顎関節疾患を分類し，定義と概要，診断，検査を理解し，確定診断できる。
４）顎関節疾患の治療法を理解し，治療方針を立案できる。
５）神経疾患を分類し，定義と概要，診断，検査を理解し，確定診断できる。
６）神経疾患の治療法を理解し，治療方針を立案できる。

４．履修の進め方

歯学教育モデル・コア・カリキュラムにおいて必要とされる口腔外科領域に生じる疾患の診査，診断能力を養い，診療参加型臨床実習で実践できるスキルを得るために，口腔外科学（第４版）の教本を主体に講義形式で授業をすすめる。

５．準備学修

口腔内科学，口腔外科学Ⅰ・Ⅱに関連した科目なので，その科目のフィードバックとともに，関連基礎科目（口腔解剖，口腔組織，口腔生化，口腔生理，歯科薬理，口腔病理，口腔感染免疫など）も熟知しなければならない。これらの科目の関連分野について復習時間（60分／週）を設けること。また，口腔外科Ⅲの該当部分は教本を熟読しておくこと（15分／前日）。

６．評価方法

満点を100点とする定期試験で評価する。試験形式はMCQ（40～50問）を８割以上，論述を２割未満の配点で作成する。65点未満の者に再試験を行う。追試験は正式な欠席理由による届出を要し，追試験に対する再試は実施しない。最終評価は受験した定期試験の本試・追試・再試のすべての平均を算出し，平均が65点以上の者を合格とする。

７．教本

口腔外科学　第４版　医歯薬出版　2020年

８．参考書

標準口腔外科学　第５版　医学書院　2024年

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	９／４	口腔外科学Ⅲ概要	15時間の授業概要と評価	D-3-1／必6-イ，総Ⅲ-2-ア，各Ⅲ-1-ア，イ，ウ，シ	①
2	９／11	先天異常，後天異常，発育異常，顎変形症	先天異常，発育異常，後天異常の総括	D-3-1／必6-イ，総Ⅲ-2-ア	②
3	９／18	先天異常－１	口唇裂・口蓋裂－１	D-3-1／必6-イ，総Ⅲ-2-ア，各Ⅲ-1-ア	②③
4	９／25	先天異常－２	口唇裂・口蓋裂－２	D-3-1／必6-イ，総Ⅲ-2-ア，各Ⅲ-1-ア	〃
5	10／２	発育異常－１	後天異常，症候群	D-3-1／必6-イ，総Ⅲ-2-ア，各Ⅲ-4-ア	〃
6	10／９	発育異常－２	発育異常，顎変形症	D-3-1／必6-イ，総Ⅲ-2-ア，各Ⅲ-2-ア，イ	〃
7	10／16	顎関節疾患－１	顎関節の構造と疾患総論	D-3-1／必6-イ，総Ⅲ-2-ア，各Ⅲ-3-ウ	②④
8	10／23	顎関節疾患－２	発育異常，外傷，炎症性，退行性疾患	D-3-1／必6-イ，総Ⅲ-2-ア，各Ⅲ-3-ウ	〃
9	10／30	顎関節疾患－３	腫瘍性，顎関節強直症	D-3-1／必6-イ，総Ⅲ-2-ア，各Ⅲ-3-ウ	〃
10	11／６	顎関節疾患－４	顎関節症の診断と治療	D-3-1／必6-イ，総Ⅲ-2-ア，各Ⅲ-3-ウ	〃
11	11／13	神経疾患－１	末梢神経の解剖と疾患総論	D-3-1／必6-イ，総Ⅲ-2-ア，各Ⅲ-3-イ	①
12	11／20	神経疾患－２	疼痛性疾患	D-3-1／必6-イ，総Ⅲ-2-ア，各Ⅲ-3-イ	〃
13	11／27	神経疾患－３	麻痺性疾患	D-3-1／必6-イ，総Ⅲ-2-ア，各Ⅲ-3-イ	〃
14	12／４	神経疾患－４	心因性疾患，認知症，高次脳機能障害	D-3-1／必6-イ，総Ⅲ-2-ア，各Ⅲ-3-イ，シ	〃
15	12／11	口腔外科学Ⅲ総括	先天異常，後天異常，顎関節疾患，神経疾患	D-3-1／必6-イ，総Ⅲ-2-ア	〃

歯科麻酔学（通年・４単位）

D③④C-a4-4810（D4810）

科目責任者：川合　宏仁（麻酔・教授）

科目担当者：①川合　宏仁（麻酔），②吉田　健司（障害），③安部　将太（麻酔），④佐藤　　光（麻酔）

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

歯科麻酔学は，医科の麻酔学と共通する学問であり，医療，処置，手術，侵襲などにおける種々なストレスから生体を防御することを主とした学問である。その範囲は，呼吸循環管理，局所麻酔，精神鎮静法，全身麻酔法，術前術後管理，救急処置，心肺蘇生法などにおよび，さらに，歯科治療で問題となる高血圧，糖尿病，心疾患など，種々の合併疾患患者の管理や，疼痛管理としてのペインクリニックも網羅する。また，歯科麻酔学は，基礎医学としての解剖学，薬理学，生理学，生化学や，臨床医学としての外科学，内科学，循環器科学，呼吸器科学など，多くの学問を含むことで広範な知識が要求され，臨床医学の中で最も応用範囲の広い学科目である。

２．一般目標

学修者は当科目で病態を解析し，治療の要素を把握できるようにする。すなわち，広く基礎医学と臨床医学を理解することで，的確に患者の全身状態を評価し，その上で安全で適切な患者の生体管理を実践するために必須である歯科麻酔学の知識を修得する。

３．到達目標

１）歯科麻酔学の概念，歴史，特徴，法的問題を説明する。
２）全身管理に必要な呼吸，循環，神経，代謝，内分泌生理を説明する。
３）術前管理や全身状態評価，患者管理上，問題となる疾患を説明する。
４）局所麻酔，精神鎮静，全身麻酔，日帰り全身麻酔を説明する。
５）心身障害者，小児，障害者，高齢者の麻酔を説明する。
６）周術期管理を説明する。
７）痛みの治療やペインクリニックを説明する。
８）歯科治療時の全身的偶発症，および救急救命処置を説明する。

４．履修の進め方

１）板書とプリントを主体とし，実演，DVD，スライドを適宜併用する。
２）各自ノートを作り板書を書き込むことを基本とする。
３）口頭での重要点はプリントや教科書への書き込み，マーキングを行う。

５．準備学修

１）基礎医学の，生理，薬理，解剖との関連が深く，予習と復習が必要である。
２）予習は，各回の授業内容項目について，教科書の該当部分を読むこと（15分）。
３）復習は，授業内容についてのポイントをまとめること（15分）。

６．評価方法

前期・後期の中間試験と前期・後期の定期試験を合わせ，合計４回の試験において，それぞれ100点満点として，65点以上を合格とする。なお，各試験は，１回のみ追再試験を設定する。試験のフィードバックは，必要な場合に，個別にオフィスアワーを利用して行う。４つの試験の平均65点以上を合格とし，単位を認定する。

７．教本

山崎信也，川合宏仁ほか，スタンダード全身管理・歯科麻

酔学，学建書院

8．参考書

山崎信也，川合宏仁ほか，歯科麻酔学第８版，医歯薬出版

9．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／7	歯科麻酔学概論	歯科麻酔の概念／歴史，種類特徴，法的問題	D-1-2／必11-カ，総Ⅶ-4	①②③④
2	4／7	呼吸生理（1）	呼吸器系の構造，呼吸の調節	A3-1／必4-ア-e，総Ⅱ-1-エ	〃
3	4／14	呼吸生理（2）	換気，ガス交換，換気への影響因子	A3-1／必4-ア-e，総Ⅱ-1-エ	〃
4	4／14	呼吸生理（3）	酸素の運搬，二酸化炭素の運搬	A3-1／必4-ア-e，総Ⅱ-1-エ	〃
5	4／21	呼吸生理（4）	酸塩基平衡	A3-1／必4-ア-e，総Ⅱ-1-エ	〃
6	4／21	呼吸生理（5）	呼吸機能検査	A3-1／必4-ア-e，総Ⅱ-1-エ	〃
7	4／28	循環生理（1）	心臓	A3-1／必4-ア-e，総Ⅱ-1-ウ-a	〃
8	4／28	循環生理（2）	心臓	A3-1／必4-ア-e，総Ⅱ-1-ウ-a	〃
9	5／12	循環生理（3）	循環の調節	A3／必4-ア-e，総Ⅱ-1-ウ-b	〃
10	5／12	循環生理（4）	血管に対する調節	A3／必4-ア-e，総Ⅱ-1-ウ-b	〃
11	5／19	循環生理（5）	体液	A3／必4-ア-e，総Ⅱ-1-ウ-b	〃
12	5／19	循環生理（6）	重要臓器の血流分布と自己調節能	A3／必4-ア-e，総Ⅱ-1-ウ-b	〃
13	5／26	神経・代謝・内分泌生理	神経，代謝，内分泌	A3-1-9／必4-ア-e，総Ⅱ-1-ク，総Ⅱ-1-ケ	〃
14	5／26	神経・代謝・内分泌生理	神経，代謝，内分泌	A3-1-9／必4-ア-e，総Ⅱ-1-ク，総Ⅱ-1-ケ	〃
15	6／2	全身疾患（1－1）	循環器系疾患	D6／総Ⅶ-1-エ-c	〃
16	6／2	全身疾患（1－2）	循環器系疾患	D6／総Ⅶ-1-エ-c	〃
17	6／9	全身疾患（2－1）	循環器系疾患	D6／総Ⅶ-1-エ-c	〃
18	6／9	全身疾患（2－2）	循環器系疾患	D6／総Ⅶ-1-エ-c	〃
19	6／16	全身疾患（3－1）	呼吸器系疾患	D6／総Ⅶ-1-エ-b	〃
20	6／16	全身疾患（3－2）	呼吸器系疾患	D6／総Ⅶ-1-エ-b	①②③④
21	6／23	全身疾患（4－1）	その他の疾患	D6／総Ⅶ-1-エ-d～m	〃
22	6／23	全身疾患（4－2）	その他の疾患	D6／総Ⅶ-1-エ-d～m	〃
23	6／30	局所麻酔法-1	概要，構造，種類	D-1-2-1／必11-カ-c，総Ⅶ-4-ウ-c	〃
24	6／30	局所麻酔法-2	作用機序	D-1-2-1／必11-カ-c，総Ⅶ-4-ウ-c	〃
25	7／7	局所麻酔法-3	全身への影響剤形，器材	D-1-2-1／必11-カ-c，総Ⅶ-4-ウ-c	〃
26	7／7	局所麻酔法-4	解剖，局所麻酔法	D-1-2-1／必11-ア-c，総Ⅶ-4-ウ-c	〃
27	7／14	ペインクリニック（1）	痛覚伝導路，痛みの分類	D-3-1-9／必11-ア-b，総Ⅶ-5，各Ⅲ-1-キ	〃
28	7／14	ペインクリニック（2）	代表的な疼痛疾患，痙攣	D-3-1-10-11／必11-ア-b，総Ⅶ-5，各Ⅲ-1-キ	〃
29	7／21	救急救命処置-1	救急蘇生法の目的一次救命処置，窒息の解除	D-1-1／必10，総Ⅶ-3，各Ⅲ-4-ソ	〃
30	7／21	救急救命処置-2	二次救命処置，蘇生後のサポート	D-1-1／必10，総Ⅶ-3，各Ⅲ-4-ソ	〃
31	9／4	術前管理（1）	術前診察，臨床検査手術危険度	D2-3／総Ⅶ-4-イ	〃
32	9／4	術前管理（2）	管理方法の選択術前処置，麻酔前投薬	D2-3／総Ⅶ-4-イ	〃
33	9／11	術中管理（1）	呼吸，循環管理輸液，輸血モニター，ショック	D1-2-3／総Ⅶ-4-イ-d	〃
34	9／11	術中管理（2）	術後管理，術後合併症，疼痛管理	D1-2-3／総Ⅶ-4-イ-d	〃
35	9／18	全身麻酔法-1	全身麻酔の理論	D1-2-3／総Ⅶ-4-ウ-b	〃
36	9／18	全身麻酔法-2	吸入麻酔法，麻酔深度	D1-2-3／総Ⅶ-4-ウ-b	〃
37	9／25	全身麻酔法-3	吸入麻酔薬の種類	D1-2-3／総Ⅶ-4-ウ-b	〃
38	9／25	全身麻酔法-4	麻酔器と麻酔法，必要な器具	D1-2-3／総Ⅶ-4-ウ-b	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
39	10／2	全身麻酔法－5	静脈麻酔法，特殊な麻酔法	D1-2-3／総Ⅶ-4-ウ-b	①②③④
40	10／2	全身麻酔法－6	筋弛緩薬，口腔外科手術の麻酔	D1-2-3／総Ⅶ-4-ウ-b	〃
41	10／9	日帰り全身麻酔（1）	症例の選択，術前管理，麻酔前投薬	D1-2-3／総Ⅶ-4-ウ-b	〃
42	10／9	日帰り全身麻酔（2）	麻酔薬や麻酔補助薬，麻酔法，術後管理	D1-2-3／総Ⅶ-4-ウ-b	〃
43	10／16	障害者の麻酔－1	障害者の特徴，術前管理	D1-2-3／総Ⅶ-4-ウ-b	〃
44	10／16	障害者の麻酔－2	術中管理，術後管理，疾患各論	D1-2-3／総Ⅶ-4-ウ-b	〃
45	10／23	小児の麻酔	小児の特徴，術前／麻酔／術後管理	D2-3-8／必11-カ，総論Ⅱ-7	〃
46	10／23	高齢者の麻酔	高齢者の特徴，術前／麻酔／術後管理	D2-3-8／必11-イ，各Ⅴ-5，総Ⅰ-2-オ	
47	10／30	精神鎮静法－1	概念	D-1-2-2／必11-カ-c，総Ⅶ-4-ウ-c	〃
48	10／30	精神鎮静法-2	使用薬剤	D-1-2-2／必11-カ-c，総Ⅶ-4-ウ-c	〃
49	11／6	精神鎮静法-3	使用薬剤	D-1-2-2／必11-カ-c，総Ⅶ-4-ウ-c	〃
50	11／6	精神鎮静法－4	精神鎮静法の実際	D-1-2-1／必11-カ-c，総Ⅶ-4-ウ-c	〃
51	11／13	全身的偶発症－1	バイタルサイン	D-2-3, E6／必8-エ, 11 総Ⅴ-1-カ	〃
52	11／13	全身的偶発症－2	偶発症の対応	D-1-1-1／必8, 10，総Ⅶ-1, 3，各Ⅲ-4-ソ	〃
53	11／20	全身的偶発症－3	神経性ショック，過換気症候群	D-1-1-1／必8, 10，総Ⅶ-1, 3，各Ⅲ-4-ソ	〃
54	11／20	全身的偶発症－4	高血圧緊急症，アナフィラキシー	D-1-1-1／必8, 10，総Ⅶ-1, 3，各Ⅲ-4-ソ	〃
55	11／27	全身的偶発症－5	局所麻酔中毒，メトヘモグロビン血症	D-1-1-1／必8, 10，総Ⅶ-1, 3，各Ⅲ-4-ソ	〃
56	11／27	全身的偶発症－6	虚血性疾患脳卒中	D-1-1-1／必8, 10，総Ⅶ-1, 3，各Ⅲ-4-ソ	〃
57	12／4	全身的偶発症－7	循環器疾患	D-1-1-1／必8, 10，総Ⅶ-1, 3，各Ⅲ-4-ソ	①②③④
58	12／4	全身的偶発症－8	呼吸器疾患	D-1-1-1／必8, 10，総Ⅶ-1, 3，各Ⅲ-4-ソ	〃
59	12／11	全身的偶発症－9	肝，腎疾患	D-1-1-1／必8, 10，総Ⅶ-1, 3，各Ⅲ-4-ソ	〃
60	12／11	全身的偶発症-10	代謝，内分泌疾患	D-1-1-1／必8, 10，総Ⅶ-1, 3，各Ⅲ-4-ソ	〃

歯科矯正学（通年・３単位）

D③④C-a3-4910（D4910）

科目責任者：川鍋　　仁（矯正・教授）
科目担当者：①川鍋　　仁（矯正），②山野辺晋也（矯正），
③松村　賢史（矯正），④須田　直人（非常勤），
⑤根本奈央子（矯正），⑥荻野　早紀（矯正）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する。

１．科目の概要

歯科矯正学は，歯，歯周組織，顎，さらにそれらを包含する顔の正常な成長発育を研究し，それら諸機能の不正による成長発育から引き起こされる不正咬合や顎の異常な関係を改善して，顎口腔系の正しい機能の獲得と同時に顔貌の改善を図り，社会的・心理的に個人の福祉に寄与し，延いては不正咬合の発現を予防するための研究と技術とを含む歯科の一分科である。

２．一般目標

デュプロマポリシーの知識と診断能力を身につけるため，矯正歯科治療に係わる総論および診断学，治療学を理解するために歯科矯正学の意義，成長発育，正常咬合と不正咬合の基礎を知り，矯正歯科治療における生体反応，診察，検査，診断，矯正装置，矯正力と固定，材料と器械・器具，不正咬合の治療について学習する。

３．到達目標

1）不正咬合による障害を説明する。
2）身体と顎顔面の成長発育を説明する。
3）正常咬合の概念と不正咬合の分類を記述する。
4）統計学的評価について述べる。
5）ツイード分析から抜歯の必要性を推論する。
6）総合診断の進め方を具体的に述べる。
7）矯正力と顎整形力，固定法について説明する。
8）線材料の特徴を比較し歯の移動と関連づける。
9）矯正装置の構造を具体的に述べる。
10）不正咬合の矯正治療とその偶発症，および保定について説明する。

４．履修の進め方

予定されている授業項目および課題について予習プリントと講義プリントを配布し，板書および示説を行い，毎回の確認試験により到達度の自己判定を行う。不正咬合の模擬治療については，事前に各ステータス毎の診断資料を配布し，各講義までに分析と症例のまとめを課し，その後の実習において口頭試問を行う。

５．準備学修

本講義は解剖学分野における口腔解剖学，生理学における歯槽骨の吸収添加のメカニクス，生体材料における歯科用金属およびレジンに関する物性に関する知識を活用して授業を行う。また，本講義は主に小児歯科学，口腔外科学と関連を持ち，履修後には５年次の臨床実習，６年次の臨床総合講義へと繋がる。

予　習：各講義内容に対し歯科矯正学第７版を用い各自で内容の確認を行う。課題については事前に配布し，各自で調べる（30分）。
復　習：授業内で配布したプリント，歯科矯正学第７版，新しい歯科矯正学を参考に知識の確認を行う（30分）。

６．評価方法

中間試験および後期定期試験の平均点にて評価する。不合格の場合は不合格範囲の再試験を行い，65点以上を合格とする。

７．教本

後藤滋巳 他編「歯科矯正学　第７版」医歯薬出版2024年
新井一仁 他編「新しい歯科矯正学　第３版」永末書店2012年

８．参考書

三浦廣行 他編「矯正歯科臨床ヒント集カラーアトラスハンドブック」クインテッセンス出版

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／7	歯科矯正学概論および歴史	矯正歯科治療の定義と目的意義を理解する。	D-5-5／必12-ア	①
2	4／14	成長発育（全身の成長発育）	身体の成長発育について理解する。	A-2-4／総Ⅱ-7-イ，総Ⅱ-8-ア	〃
3	4／21	頭蓋の発生および成長発育	頭骨の発生と脳頭蓋の成長発育を理解する。	A-2-4／総Ⅱ-8-ウ	〃
4	4／28	顔面頭蓋の成長発育	顔面頭蓋の発生と成長発育を理解する。	A-2-4／総Ⅱ-8-エ	〃
5	5／12	歯・歯列および咬合の成長	歯の形成及び萌出，咬合の変化を理解する。	A-2-4／総Ⅱ-8-エ	〃
6	5／19	咬合概論	咬合に関する諸構造の解剖学および機能を理解する。	E-2-2-4／各Ⅰ-5-ア	②
7	5／26	正常咬合	正常咬合の概念，成立とその保持条件を講義する。	E-2-2-4／各Ⅰ-5-ア	〃
8	6／2	不正咬合の疫学および定義	不正咬合の疫学，定義について講義する。	E-5-5-1／各Ⅰ-5-イ	〃
9	6／9	不正咬合の分類	不正咬合の分類について講義する。	E-5-5-3／各Ⅰ-5-イ	〃
10	6／16	不正咬合の先天的原因	不正咬合の先天的原因について講義する。	E-5-5-5／各Ⅰ-5-ウ	①
11	6／23	不正咬合の後天的原因	不正咬合の後天的原因について講義する。	E-5-5-5／各Ⅰ-5-ウ	〃
12	6／30	不正咬合の予防	口腔顎顔面における異常の要因，機序を解説する。	E-5-5-6／各Ⅰ-3-エ	②
13	7／7	矯正力と生体反応	矯正歯科治療による生体反応について講義する。	D-5-5／各Ⅰ-8	①
14	7／14	〃	〃	D-5-5／各Ⅰ-8	〃
15	7／21	口腔機能の発達	口腔機能の発達を理解する。	A-2-4／総Ⅱ-6-ウ，エ，オ	④

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
16 17	9／3	矯正歯科治療におけるPOS，診査と検査－1	矯正歯科治療におけるPOSと一般診査（全身，写真）を講義する。	E-5-5-1／ 各Ⅰ-6 E-5-4／ 各Ⅰ-6	④
18 19	9／10	診査と検査－2，3	エックス線検査の種類，模型分析法および頭部エックス線規格写真分析について講義する。	E-5-4／ 各Ⅰ-6	〃
20 21	9／17	診査と検査－4 抜歯法(1)，治療方針の立案，治療学概論	各種機能検査，分析法および矯正治療の抜歯の意義，部位，総合的診断，治療方針の立案および連続抜去法について講義する	E-5-4／ 各Ⅰ-6 D-5-5-3／ 各Ⅰ-6	〃
22 23	9／24	矯正力と固定	矯正力の種類，大きさと作用様式および歯の移動様式，矯正歯科治療の固定の講義を行う。	D-5-5-1／ 各Ⅰ-6	〃
24 25	10／1	矯正装置(1)，(2)	矯正装置の分類および構成，適応症の講義を行う。	D-5-5-4／ 各Ⅰ-9-ア～キ	②
26 27	10／8	矯正装置(3)，(4)	矯正装置の分類および構成，適応症の講義を行う。	D-5-5-4／ 各Ⅰ-9-ア～キ	〃
28 29	10／15	矯正材料，器具	矯正歯科治療に使用される材料，器具の講義を行う。	D-5-5-4／ 総Ⅷ-10-ア～オ	③
30 31	10／22	不正咬合の治療(1)	叢生の治療を通じ，抜歯判定を含めた理解を深める。	D-5-5-3／ 各Ⅰ-10	①
32 33	10／29	不正咬合の治療(2)	機能性と骨格性反対咬合について理解を深める。	D-5-5-3／ 各Ⅰ-10	① ⑤
34 35	11／5	不正咬合の治療(3)	上顎前突症例の機能分析，成長発育を理解する。	D-5-5-3／ 各Ⅰ-10	②
36 37	11／12	不正咬合の治療(4)	顎変形症の総合診断	D-5-5-3／ 各Ⅰ-10-オ D-5-5-3／ 各Ⅰ-10	① ⑤
38 39	11／19	不正咬合の治療(5)	矯正歯科治療時の偶発症について理解を深める。	D-5-5-3／ 各Ⅰ-10-オ D-5-5-3／ 各Ⅰ-10	① ⑥
40 41	11／26	不正咬合の治療(6)	口唇・口蓋裂の診断と矯正歯科治療を理解する。	D-5-5-3／ 各Ⅰ-10エ	〃
42 43	12／3	不正咬合の治療(7) 不正咬合の治療(8)	筋機能療法(MFT)と保定の意義，種類，再発防止策について理解する。	D-5-5-3／ 各Ⅰ-10	②
44 45	12／10	総まとめ	重要項目に対する総まとめを行う。	E-5-4	①

歯科矯正学実習（後期・１単位）

D④⑤C-c1-41008(D41008)

科目責任者：川鍋　　仁（矯正・教授）
科目担当者：①川鍋　　仁（矯正），②山野辺晋也（矯正），
③松村　賢史（矯正），④根本奈央子（矯正），
⑤荻野　早紀（矯正），⑥海老澤聡一（非常勤），
⑦渡辺　　敦（非常勤）

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

歯科医療における矯正歯科の役割はますます高まっている。叢生歯列でブラッシングをいくら努力しても，傾斜歯に対してそのままブリッジを装着しても，歯科治療には限界があろう。上下歯列の良い咬合が保たれて，口腔の健康が維持されていることを考えれば，矯正歯科治療は歯科医療にとって最も基本的な医療として位置づけることができる。実習では，歯科矯正学の臨床的な面に関して，講義や参考書からでは理解しにくい部分を，実技を通して修得する。

２．一般目標

デュプロマポリシーの技能と治療能力を身につける。歯が移動する原理について理解するために，舌側弧線装置およびマルチブラケット装置で歯の移動をシミュレートし，学習する。

３．到達目標

１）基本手技の線屈曲，自在ろう接を正しく行なうことができる。
２）矯正診断に必要な資料を分析できる。
３）舌側弧線装置を製作し補助弾線の作用と歯の移動様相を理解することができる。
４）マルチブラケット装置で個々の歯の移動，臼歯の直立化を行うことができる。
５）タイポドント模型上で矯正力が発現するメカニズムや歯の移動様式を理解することができる。

４．履修の進め方

実習前に示説を行う。各矯正装置を作製し，作用と歯の移動様相を観察する。歯の移動様相の観察には，デジタルカメラを使用し，各自のコンピュータにて画像データをPowerPoint にまとめ，歯の移動について考察する。各単元ごとに小試験を行い確認しながら履修する。

５．準備学修

第３学年までに得た知識のうち口腔解剖学の骨学，歯の形態，生体材料学の印象材の種類，セメントの特性，金属の特性を復習しておくこと（30分）。実習内容は実習書およびコンピュータビデオに収録されているので，自身で確認し，必ず予習すること（15分）。本実習で得た知識は第５年時の臨床実習時に活用されることとなる。

６．評価方法

リクワイアメントで評価する。到達目標に記載した５項目を以下の内容から100点を満点として評価し，65点以上を合格とする。

「点数配分の内訳」

実習の態度（５％），小試験（３回）（15％），総合試験〔実技（35％），筆記（35％）〕および口頭試問（10％）により行う。

７．教本

歯科矯正学実習マニュアルおよび手技の動画を電子媒体にて配布

８．参考書

後藤滋巳 他編「歯科矯正学　第７版」 医歯薬出版2024年

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	９／３	実習を始めるにあたって基本手技（１） 線屈曲	可撤式装置の製作に必要な基本手技である線屈曲を習得する。	D-5-5-4／ 各論Ⅰ-9-アウ	① ② ③
4 5 6	９／10	基本手技（２），（３） 自在ろう接，線屈曲	矯正歯科独特の基本手技である自在ろう接の必要性を理解し，手技を習得する。	D-5-5-4／ 各論Ⅰ-9-ア	②
7 8 9	９／17	セファロ分析模型分析小試験	症例の分析に必要な資料，分析項目を習得する。	E-5-4-1／ 各論Ⅰ-10-ウ	⑦
10 11 12	９／24	舌側弧線装置	バンドの適合，チューブの電気溶接の方法を習得する。	D-5-5-4／ 各論Ⅰ-9-ア	〃
13 14 15	10／１	舌側弧線装置	舌側弧線装置の作業用模型の作製手順を習得する。	D-5-5-4／ 各論Ⅰ-9-ア	〃
16 17 18	10／８	舌側弧線装置	維持装置の作製手順を習得する。	D-5-5-4／ 各論Ⅰ-9-ア	〃
19 20 21	10／15	舌側弧線装置	主線を鑞着し，舌側弧線装置のセメント合着の手順を習得する。	D-5-5-4／ 各論Ⅰ-9-ア	〃
22 23 24	10／22	舌側弧線装置小試験	舌側弧線装置へ補助弾線を鑞着し，舌側転位歯の移動様式を理解する。	D-5-5-4／ 各論Ⅰ-9-ア	〃
25 26 27	10／29	マルチブラケット装置	マルチブラケット装置について口頭試問形式で習得する。	D-5-5-4／ 各論Ⅰ-9-ウ	〃
28 29 30	11／５	マルチブラケット装置	適切なブラケットの装着方法を習得する。	D-5-5-4／ 各論Ⅰ-9-ウ	〃
31 32 33	11／12	マルチブラケット装置	ニッケルチタンのアーチワイヤーによる歯列のレベリング法を習得する。	D-5-5-4／ 各論Ⅰ-9-ウ	〃
34 35 36	11／29	マルチブラケット装置	歯の排列に必要な空隙獲得の方法を習得する。	D-5-5-4／ 各論Ⅰ-9-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
37 38 39	11／26	マルチブラケット装置	オープンバーチカルループを用いて舌側転位歯の移動の方法を習得する。	D-5-5-4／ 各論Ⅰ-9-ウ	⑦
40 41 42	12／3	マルチブラケット装置小試験	アップライトスプリングを用いて下顎臼歯の整直法を習得する。	各論Ⅰ-9-ウ	〃
43 44 45	12／10	総合試験	矯正装置の製作方法，作用様式に関する修練度，理解度を試験する。	D-5-5-4／ 各論Ⅰ-9-アウ	① ③ ⑦

小児歯科学（通年・３単位）

D③④C-a3-4911（D4911）

科目責任者：島村　和宏（小児・教授）
科目担当者：①島村　和宏（小児），②神庭　優衣（小児）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

小児歯科学は，成長発育の過程にある小児を対象にした歯学の一分野である。小児の口腔領域（歯，歯列，咬合，歯周組織，顎顔面頭蓋）の疾患や異常の診断，治療，予防について学ぶことで，小児の特性を理解し，継続的に成長発育している小児の口腔管理や将来の健全な永久歯列咬合を育成していくことを目的としている。ディプロマポリシー１～５に関連する。

２．一般目標

小児の口腔健康維持，歯列・咬合の育成をはかるために，ディプロマポリシーの１～５における，患児や保護者とのコミュニケーションな病態を理解し以後の問題点を探求するとともに，疾患の診断と治療法についての知識と技術を習得する。

３．到達目標

１）小児の心身の発育の特徴，成長発育の評価法について説明する。
２）小児の歯・歯列咬合，顎顔面頭蓋発育と障害・異常について説明する。
３）乳歯・幼若永久歯・歯周組織の特徴と異常，予防について説明する。
４）小児の情動の特徴および患児への歯科的対応について説明する。
５）小児患者の治療方針，治療計画，口腔管理について説明する。
６）乳歯・幼若永久歯の歯冠修復法，歯内療法について説明する。
７）小児の外科的疾患，軟組織疾患，外傷について説明する。
８）小児の咬合誘導処置（保隙，動的咬合誘導処置）について説明する。
９）障害児，小児疾患およびその歯科治療について説明する。

４．履修の進め方

講義形式で，教科書，参考書およびプリント資料を活用して講義を行う。講義中に示される視覚教材や補助教材も活用し理解を深め，習得する。

５．準備学修

小児歯科学は，解剖学，生理学をはじめとする基礎科目や歯科保存学，口腔外科学など臨床科目と関連がある。３年生までの履修内容を復習すると，小児歯科学の理解はより深まる。事前にシラバス，教科書，参考書に目を通し講義内容を確認する（30分）。毎回の講義終了後，板書内容，配布プリントに目を通し，教科書と照らし合わせ内容を確認する（60分）。

６．評価方法

１）前，後期の定期試験（多肢選択）で，それぞれ65点以上を合格とする。フィードバックは講義において概説する。
２）前，後期の定期試験において，定期試験欠席者または65点未満の者に対し追再試験を行った場合は65点以上を合格とする。追試験は80点，再試験は65点を上限とする。
３）前，後期の評価を各50点，合計100点として最終評価

とし，65点以上を合格とする。

7．教本

新谷誠康 他編：小児歯科学
ベーシックテキスト　第２版　永末書店　2023年
クリニカルテキスト　第２版　永末書店　2023年

8．参考書

白川哲夫 他編：小児歯科学基礎・臨床実習　第３版４医歯薬出版　2021年

9．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／7	小児の成長発育概論	小児歯科学の特徴，発育概論	D-5-6／必-5-イウ，総Ⅱ-7，Ⅴ-1，2	①
2	4／7	小児の成長発達①	身体の成長，評価	A-2-2-2／必-5-イウ，総Ⅱ-7，Ⅴ-1，2	〃
3	4／14	小児の成長発達②	小児の発達運動・言語・情緒	A-2-2-2／必-5-イウ，総Ⅱ-7，Ⅴ-1，2	〃
4	4／14	小児の成長発達③	小児の発達運動・言語・情緒	A-2-2-2／必-5-イウ，総Ⅱ-7，Ⅴ-1，2	〃
5	4／21	小児の成長発達④	小児の生理的特徴・栄養	A-2-2-2／必-5-イウ，総Ⅱ-7，Ⅴ-1，2	〃
6	4／21	頭蓋と顎の発育	頭蓋・顎の発育	A-2-2-1／必-5-イウ，総Ⅱ-7	〃
7	4／28	頭蓋と顎の発育	頭蓋・顎の発育，顎関節の発育	A-2-2-1／必-5-イウ，総Ⅱ-7	〃
8	4／28	口腔機能の発達	摂食嚥下の発達，顎顔面発育の評価	A-2-2-1／必-5-イウ，総Ⅱ-7-ウ	〃
9	5／12	歯の発育と異常	歯の形成，異常の原因	A-3-4／必-5，総Ⅱ-8-イ，各Ⅰ-2，3	〃
10	5／12	歯の形成異常	歯数，形態，歯質の異常	A-3-4／必-5，総Ⅱ-8-イ，各Ⅰ-2，3	〃
11	5／19	歯の形成異常	歯数，形態，歯質の異常	A-3-4／必-5，総Ⅱ-8-イ，各Ⅰ-2，3	〃
12	5／19	歯列咬合発育と異常	歯の萌出と異常，歯列咬合の発育変化	A-3-4／必-5，総Ⅱ-8-エ	〃
13	5／26	歯列咬合発育と異常	歯列咬合の発育変化・異常	A-3-4／必-5，総Ⅱ-8-エ，Ⅳ-2-ウ	〃
14	5／26	歯列咬合発育と異常	歯列咬合の発育変化・異常	A-3-4／必-5，総Ⅱ-8-エ，Ⅳ-2-ウ	〃
15	6／2	乳歯・幼若永久歯の特徴	乳歯の特徴	A-3-4／必-5，総Ⅱ-5，Ⅳ-2	①
16	6／2	乳歯・幼若永久歯の特徴	幼若永久歯の特徴	A-3-4／必-5，総Ⅱ-5，Ⅳ-2	〃
17	6／9	小児の歯周組織と歯周疾患	歯周組織の特徴，歯周疾患と予防	D-5-6-5／必-5，総Ⅳ-2，各Ⅱ-3	〃
18	6／9	小児の齲蝕	小児期の齲蝕の特徴，為害作用，検査，診断	D-5-6-1，2／必-7-イ-b，総Ⅲ-2-ア-b，各Ⅱ-1	〃
19	6／16	小児の齲蝕	小児期の齲蝕の特徴，為害作用，検査，診断	D-5-6-1，2／必-7-イ-b，総Ⅲ-2-ア-b，各Ⅱ-1	〃
20	6／16	小児への歯科的対応	小児の心理，歯科的対応の実際	D-5-6／必-8，総Ⅴ-2	〃
21	6／23	小児への歯科的対応	年齢別対応，行動変容法	D-5-6／必-8，総Ⅴ-2	〃
22	6／23	小児への歯科的対応	前投薬法，精神鎮静法，全身麻酔法	D-5-6／必-11，総Ⅶ-4	〃
23	6／30	診察・検査・診断	診察，検査法診療計画	D-5-6／必-8，総Ⅴ-2，Ⅵ-1，2，Ⅶ-1	〃
24	6／30	診察・検査・診断	診察，検査法診療計画	D-5-6／必-8，総Ⅴ-2，Ⅵ-1，2，Ⅶ-1	〃
25	7／7	齲蝕予防と進行抑制	齲蝕予防法，進行抑制	D-5-6-1／必-3-ウ，各Ⅱ-1-イ	〃
26	7／7	小児の歯冠修復	齲蝕治療の基本，歯冠修復の種類	D-5-6-3／必-11，各Ⅱ-1	〃
27	7／14	小児の歯冠修復	歯冠修復の種類，形成時の注意	D-5-6-3／必-11，各Ⅱ-1	〃
28	7／14	小児の歯冠修復	歯冠修復法	D-5-6-3／必-11，各Ⅱ-1	〃
29	7／21	小児の歯冠修復	幼若永久歯の歯冠修復	D-5-6-3／必-11，各Ⅱ-1	〃
30	7／21	小児の歯内療法	乳歯の歯髄疾患	D-5-6-4／必-11，総Ⅳ-2，Ⅵ-1，Ⅶ-1，各Ⅱ-2	②
31	9／1	小児の歯内療法	乳歯の歯髄疾患	D-5-6-4／必-11，総Ⅳ-2，Ⅵ-1，Ⅶ-1，各Ⅱ-2	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
32	9／8	小児の歯内療法	幼若永久歯の歯内療法，根尖性歯周炎の診断と処置	D-5-6-4／必-11，総Ⅳ-2，Ⅵ-1，Ⅶ-1，各Ⅱ-2	②
33	9／15	外科的処置	疼痛管理，局所麻酔，偶発症	D-5-6／必-11，総Ⅶ-4	①
34	9／29	乳歯の抜歯	抜歯の適応症，器具・器材	D-5-6／必-11，総Ⅶ-4	〃
35	10／6	リスクマネージメント	リスクマネージメント，薬物療法	D-5-6／必-2-カ，11-コ	〃
36	10／13	顎・軟組織疾患	顎骨の炎症，腫瘍，嚢胞	D-5-6／必-6，7，8，総Ⅳ-2，Ⅵ，Ⅶ，各Ⅰ，Ⅲ	〃
37	10／20	軟組織疾患	軟組織の異常処置	D-5-6／必-6，7，8，総Ⅳ-2，Ⅵ，Ⅶ，各Ⅰ，Ⅲ	〃
38	10／27	口腔外傷	外傷の疫学，分類，検査と診断	D-5-6-6／各Ⅰ-4	〃
39	11／10	口腔外傷	外傷歯の処置と予防	D-5-6-6／各Ⅰ-4	〃
40	11／17	咬合誘導	咬合誘導の目的，診察，検査，診断，保隙	D-5-6-8／総Ⅵ-1，各Ⅰ-5	②
41	11／24	咬合誘導	保隙，動的誘導，習癖	D-5-6-9／総Ⅵ-1，各Ⅰ-5	①
42	12／1	小児の摂食嚥下障害・顎関節症，心身障害児	摂食嚥下障害，顎関節症，心身障害児	D-5-8／必7-イ，11，総Ⅲ-2，Ⅴ-3，各Ⅴ-2，各-8	〃
43	12／8	心身障害児	心身障害児への対応，障害の特徴	D-5-8／必-11，総Ⅴ-3，各-8	〃
44	12／15	心身障害児・注意する全身疾患	障害の特徴，全身疾患と口腔所見	D-5-8／必-11，総Ⅴ-3，8	〃
45	12／18	注意すべき全身疾患児童虐待まとめ	全身疾患と口腔所見，児童虐待，まとめ	D-5-6，D-5-6-10／必-11，総Ⅰ-2，Ⅴ-3，各Ⅴ-8	〃

小児歯科学実習（前期・１単位）

D④⑤C-c1-41009（D41009）

科目責任者：島村　和宏（小児・教授）

科目担当者：①島村　和宏（小児），②神庭　優衣（小児），③金子　知弘（非常勤），④原　憲司（非常勤），⑤春山　博貴（非常勤），⑥岡　琢弓（非常勤），⑦山内　旬美（非常勤），⑧関野　貴大（非常勤），他

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

小児歯科学実習では講義で学んだ知識をもとに，小児患者の各種歯科疾患に対する治療法の理論を理解し，その基本的手技，装置作製の技術を習得することを目的としている。ディプロマポリシー１～５に関連する

２．一般目標

小児の口腔健康維持，歯科疾患の治療を行うために，ディプロマポリシーの１～５における，齲蝕予防，齲蝕治療，咬合誘導処置の理論と技術を習得する。

３．到達目標

１）小児歯科治療について必要な各種器具・機材について説明する。
２）ラバーダム防湿をする。
３）乳歯の歯髄処置（生活歯髄切断）をする。
４）乳臼歯の既製金属冠修復をする。
５）乳前歯の歯冠修復をする。
６）クラウンループ保隙装置を設計，製作する。
７）可撤保隙装置を設計，製作する。
８）舌側弧線装置を設計，製作する。
９）予防填塞をする。
10）フッ化物歯面塗布をする。
11）咬合誘導装置（保隙装置）の説明をする。
12）保護者に対するブラッシング指導をする。

４．履修の進め方

実習書，配布資料に基づき，小児歯科学教科書も参考にして各種処置法・装置製作法の理論を学ぶ。また視覚教材（VTR・スライドの映像など），班ごとのデモンストレーションから，実際の使用器材，作業手順＜術式＞，注意点を理解し技術習得の助けにする。また各班でのインストラクターから実習途中でのチェック，アドバイスを受け，実習予定に従って各実習項目を完了させる。項目ごとに小試験で評価を受け，レポートを提出する。

５．準備学修

シラバス，教科書，実習書に目を通し，実習内容を確認して小テストに備える（60分）。毎回の実習終了後，教科書，実習書を用いて復習をする（30分）。その他，疑問点があれば科目担当者や担当教員に質問する。

６．評価方法

到達目標をすべてミニマムリクワイヤメントとして評価する。模型実習の各項目＜８項目＞・演習＜２課題＞について，指導医の指示のもとスムースに実施し，各製作物は患児に装着できるレベルで作製・提出する。これらを80%，また実習試験・小テストを20%とし，すべてを総合して100点として評価する。総合評価で65点を合格とする。

７．教本

新谷誠康 他編：小児歯科学
ベーシックテキスト　第３版　永末書店2023年
クリニカルテキスト　第３版　永末書店2023年

８．参考書

白川哲夫 他編：小児歯科学基礎・臨床実習　第３版　医

歯薬出版　2021年

9．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

＊本年度は実習場所が複数個所に分かれるため，同日の実習日であってもグループによって内容が異なる。各自，事前に実習内容を確認し，指示に従って準備・実習を行うこと。

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	4／8	器材説明…顎模型ナンバリング・ラバーダム防湿	使用器材の確認 顎模型にナンバリング ラバーダム防湿	B-1／ 総Ⅳア， D-1-2)， D-5／ 必11-セ， 総Ⅷ-5， 各Ⅱ-1-ウ	① 〜 ⑧
4 5 6	4／15	1）石膏模型の装着 2）保護者へのブラッシング指導	石膏歯列模型の咬合器への装着	B-1， E-5-5-2／ 必5，7， 総Ⅰ-2-ア， 総Ⅳア， D-1-2)， D-5／ 必11-セ， 総Ⅷ-5， 各Ⅱ-1-イ-e， 3-エウ	〃
7 8 9	4／22	フッ化物応用法	フッ化物塗布	E-5-5-5，6／ 必5，7， 総Ⅰ-2-ア， 各Ⅱ-1-イ-e， 3-エ	〃
10 11 12	5／13	1）生活歯髄切断法 2）既製乳歯冠修復法	生活歯髄切断法…Ｅ；水酸化カルシウム法による生活断髄処置 乳臼歯の既製金属冠修復法 Ｅ；断髄後の支台歯形成	D-5／ 必11， 総Ⅳ-2，ア， Ⅷ1， 各Ⅱ-2， 各Ⅱ-1-ウ	〃
13 14 15	5／20	保隙装置の説明	保隙装置についての説明	D-5-6／ 必7， 総Ⅵ-1， 各Ⅰ-10	〃
16 17 18	5／27	保隙装置 1）クラウンループ製作 2）可撤保隙装置製作 3）リンガルアーチ装置製作	咬合誘導の概要 クラウンループ保隙装置の設計と製作可撤保隙装置およびリンガルアーチの外形線設定	D-5-6／ 必7， 総Ⅵ-1， 各Ⅰ-10	〃
19 20 21	6／3	クラウンループ作成	クラウンループの屈曲および蝋着	D-5-6／ 必7， 総Ⅵ-1， 各Ⅰ-10	〃
22 23 24	6／10	クラウンループ作成可撤保隙装置(2)単純鈎	単純鈎の屈曲	D-5-6／ 必7， 総Ⅵ-1， 各Ⅰ-10	〃
25 26 27	6／17	可撤保隙装置 (3)アダムスクラスプ	単純鈎，アダムスクラスプの屈曲	D-5-6／ 必7， 総Ⅵ-1， 各Ⅰ-10	① 〜 ⑧
28 29 30	6／24	可撤保隙装置 (4)レジン床の形成 人工歯排列	レジン床の形成，人工歯排列	D-5-6／ 必7， 総Ⅵ-1， 各Ⅰ-10	〃
31 32 33	7／1	可撤保隙装置 (5)レジン床の研磨 リンガルアーチの屈曲	レジン床の形態修正研磨 リンガルアーチの屈曲	D-5-6／ 必7， 総Ⅵ-1， 各Ⅰ-10	〃
34 35 36	7／8	予防塡塞	第一大臼歯の予防塡塞	E-5-5-5，6／ 必5，7， 総Ⅰ-2-ア， 各Ⅱ-1-イ-e， 3-エ	〃
37 38 39	7／15	乳歯の歯冠修復／コンポジットレジン冠修復	乳中切歯の支台歯形成とCR冠修復	D-1-2)， D-5／ 必12-セ， 総Ⅷ-4， 各Ⅱ-1-ウ	〃
40 41 42	7／22	模型計測	歯列模型計測	E-5-5-5，6／ 必5，7， 総Ⅰ-2-ア， 各Ⅱ-1-イ-e， 3-エ	〃
43 44 45	7／29	実習試験・総括実習	総括試験		〃

歯科放射線学Ⅱ（後期・１単位）

D③④C-a1-4912（D4912）

科目責任者：川原　一郎（放射・教授）
科目担当者：①川原　一郎（放射），②原田　卓哉（物理），
③茂呂祐利子（放射），④臼田　真浩（放射），
⑤矢口　剛士（放射）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

放射線の医学利用には放射線診断や放射線治療があり，患者に利益をもたらしている一方で，被曝による危険も共存しています。放射線利用には，知識や技術的なことはもちろん，良識のある放射線診療・インフォームドコンセントも重要になります。

歯科放射線学は基礎放射線学として放射線物理学，放射線生物学，放射線化学を，また臨床放射線学として放射線診断学，放射線治療学，放射線防護学を学びます。基礎放射線学では，放射線の基礎的知識やその生物学的影響を学び，臨床放射線学では放射線を利用した画像診断，放射線治療に必要な撮影技術，腫瘍治療学さらに放射線防護について学びます。

２．一般目標

１）的確な画像診断を行うために，歯科領域の画像所見における特徴を理解する。
２）口腔領域悪性腫瘍の放射線治療および治療患者の口腔管理を実施するために，放射線治療の基礎と実際を理解する。

３．到達目標

１）画像診断について述べる。
２）歯と歯周組織の病変について述べる。
３）口腔顎顔面領域の疾患について述べる。

４．履修の進め方

１）講義，示説で学習する。
２）文書，視覚媒体を用いる。
３）投影視覚媒体を用いる。

５．準備学修

予　習：教科書の熟読を中心に予習する。（60分）
復　習：教科書および講義ノートの振り返りにより復習する。（60分）

６．評価方法

定期試験で評価する。定期試験は筆記試験（多肢選択式問題と記述式問題）にて実施し，100点満点で評価する。再試験は定期試験65点未満の者に対して実施する。なお，追試験に対する再試験は実施しない。最終評価は65点以上を合格とする。

７．教本

岡野友宏 他「歯科放射線学　第７版」医歯薬出版　2024年

８．参考書

金田　隆 他著「新歯科放射線学」医学情報社　2017年
日本歯科放射線学会編「歯科臨床における画像診断アトラス　第２版」医歯薬出版　2020年

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／2	画像診断１	診断入門	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア～コ, 総Ⅶ-7-ア～ウ	④
2	9／9	画像診断２	正常画像解剖 口内法Ｘ線撮影	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅱ-4-キ, 総Ⅵ-2-エ，コ	③
3	9／16	画像診断３	正常画像解剖 パノラマＸ線撮影	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅱ-4-キ, 総Ⅵ-2-エ，コ	⑤
4	9／30	画像診断４	正常画像解剖 CT MRI	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅱ-4-キ, 総Ⅵ-2-オ, カ，コ	②
5	10／7	画像診断５	歯および歯周組織の疾患	D-2-5, E-2-5／ 総Ⅵ-2-コ, 各Ⅱ-1～3, 各Ⅲ-1～5	④
6	10／14	歯科放射線学Ⅰの復習１	放射線とその性質	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア～コ	①
7	10／21	画像診断６	炎症	D-2-5, E-2-5／ 総Ⅵ-2-コ, 各Ⅱ-1～3, 各Ⅲ-1～5	④
8	10／28	画像診断７	嚢胞	D-2-5, E-2-5／ 総Ⅵ-2-コ, 各Ⅱ-1～3, 各Ⅲ-1～5	〃
9	11／4	歯科放射線学Ⅰの復習２	放射線とその性質	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア～コ	①
10	11／11	画像診断８	良性腫瘍 腫瘍類似疾患	D-2-5, E-2-5／ 総Ⅵ-2-コ, 各Ⅱ-1～3, 各Ⅲ-1～5	④
11	11／18	画像診断９	悪性腫瘍	D-2-5, E-2-5／ 総Ⅵ-2-コ, 各Ⅱ-1～3, 各Ⅲ-1～5	〃
12	11／25	歯科放射線学Ⅰの復習３	Ｘ線投影画像の形成	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア～コ	①
13	12／2	画像診断10	唾液腺 上顎洞 顎関節の疾患	D-2-5, E-2-5／ 総Ⅵ-2-コ, 各Ⅱ-1～3, 各Ⅲ-1～5	④
14	12／9	画像診断11	外傷 全身に関連する疾患	D-2-5, E-2-5／ 総Ⅵ-2-コ, 各Ⅱ-1～3, 各Ⅲ-1～5	〃
15	12／16	歯科放射線学Ⅰの復習４	Ｘ線撮影法と画像検査	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア～コ	①

高齢者歯科学Ⅱ（後期・１単位）

D③④C-a1-4907（D4907）

科目責任者：鈴木　史彦（高齢・教授）
科目担当者：①鈴木　史彦（高齢），②北條健太郎（高齢），
③植田耕一郎（客員），④阪口　英夫（非常勤）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

摂食嚥下障害は脳血管障害，認知症，神経筋疾患，頭頸部癌，加齢等により，食物の取り込みや嚥下に障害をきたしたものである。嚥下障害の合併症として誤嚥性肺炎，窒息，低栄養，脱水等が挙げられる。高齢者にとっては死亡の原因ともなる合併症であるため，嚥下機能を適切に評価して，リハビリテーションによって機能の向上や維持を図るのか，より安全な栄養管理を実施するのかといった選択が必要となる。高齢者歯科学Ⅱでは摂食嚥下モデルの概念，評価方法，訓練方法，嚥下補助床等について理解し，歯科医師として摂食嚥下リハビリテーションの臨床にどのように関わるのかを学習する。

２．一般目標（コンピテンス）

高齢者の摂食嚥下障害（成人の中途障害を含む）の原因と，障害に応じた適切なアプローチ法の実践に必要な留意点を理解する（ディプロマポリシー３と４）。

３．到達目標（コンピテンシー）

１）リハビリテーションの概念について理解している。
２）摂食嚥下器官の解剖と生理について理解している。
３）摂食嚥下モデルと各時期の摂食嚥下障害について理解している。
４）摂食嚥下障害に関係する諸因子について理解している。
５）摂食嚥下障害の合併症について理解している。
６）摂食嚥下障害の検査方法について理解している。
７）摂食嚥下障害に対する間接・直接訓練について理解している。
８）摂食嚥下障害に対する食事指導について理解している。
９）嚥下補助床について理解している。
10）高齢者の栄養状態の評価と栄養指導を理解している。

４．履修の進め方

講義形式でスライド，資料および教科書を使用して履修する。

５．準備学修

本科目の履修準備として摂食嚥下障害の原因疾患である脳血管障害，認知症，神経筋疾患等については高齢者歯科学Ⅰと総合臨床医学の内容を復習しておくこと。また，摂食嚥下に関係する生理と解剖については口腔生理学と口腔解剖学の内容を復習しておくこと。

本科目で履修する内容のうち，他分野と関係が深い科目は次の通りである。リハビリテーションの理念：障害者歯科学，評価と訓練での多職種連携：チーム医療学，嚥下補助床：有床義歯学Ⅰ・Ⅱ，在宅歯科診療や訪問歯科診療：高齢者歯科学Ⅰ。

事前学習は教科書の該当箇所の図表を確認しておくこと（15分）。事後学習は配布資料と授業中に確認した教科書の図表について復習しておくこと（15分）。理解が不十分な項目については担当教員に質問すること。

６．評価方法

定期試験は，論述試験80点と客観試験20点の合計が，65点以上の者を合格とする。なお，講義開始時に実施するGoogle フォームによる小テストの正答を５点満点に換算して，定期試験の結果に100点満点を上限として加点する。定期試験65点未満の者と定期試験欠席者に対しては追・再試験を実施し，定期試験と同様に評価する。定期試験と追・再試験のフィードバックは正答を全員へ配布する。

７．教本

新版　歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学　医歯薬出版

８．参考書

摂食嚥下リハビリテーション学　第３版　医歯薬出版，よくわかる高齢者歯科学　第２版永末書店

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	９／３	障害学	リハビリテーションの理念ICF，アプローチ法	C-4-3-4／必2-ア-d	①
2	９／10	構造と機能	摂食嚥下器官の解剖と生理	A-3-2／総Ⅱ-7-ウ-a	〃
3	９／17	摂食嚥下モデルと摂食嚥下障害	３期，４期，５期モデルとプロセスモデルと各期の障害	D-5-7-8／総Ⅱ-6-エ-a	〃
4	９／24	原因と病態１	摂食嚥下に関与する諸因子構音障害	D-5-7-8／各Ⅳ-1-イ，ウ	〃
5	10／１	原因と病態２	合併症（誤嚥性肺炎・窒息・低栄養・脱水）	D-5-7-8／各Ⅳ-1-イ	〃
6	10／８	評価・検査１	スクリーニングテスト	D-3-1-11-2／各Ⅴ-4-イ-a	②
7	10／15	評価・検査２	嚥下造影，嚥下内視鏡検査	D-3-1-11-2／各Ⅴ-4-イ-a	①
8	10／22	訓練１	間接訓練	D-5-7-8／各Ⅴ-7-ア-a	〃
9	10／29	訓練２	直接訓練，段階的摂食訓練	D-5-7-8／各Ⅴ-7-ア-b	〃
10	11／５	食事指導	食事指導，食事介助	D-5-7-8／各Ⅴ-7-ア-b	〃
11	11／12	歯科的アプローチ	摂食嚥下障害のための補助装置	D-5-7-8／各Ⅴ-7-ア～オ	〃
12	11／19	高齢者と栄養	栄養状態の評価，栄養管理	D-5-7-9／必11-サ-a	②
13	11／26	臨床１	摂食嚥下リハビリテーションの臨床	D-5-7-8／各Ⅴ-7-ア～オ	③
14	12／３	臨床２	摂食嚥下リハビリテーションの臨床	D-5-7-8／各Ⅳ-7-ア～エ	④
15	12／10	ライフサイクルと摂食嚥下障害・まとめ	発達期・成人期・老年期の摂食嚥下障害・講義のまとめ	D-5-7-8／総Ⅶ-1-ウ	①

障害者歯科学（後期・１単位）

D③④C-a1-4807（D4807）

科目責任者：吉田　健司（障害・准教授）
科目担当者：①吉田　健司（障害），②加川千鶴世（障害），
③赤穂　麗子（障害）
※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

障害者歯科学は，口腔や歯の健康を守っていくために，心身に障害のある人に対して歯科保健指導や歯科治療を行う歯科医療学であり，その障害には個人個人で特異的な問題が付随することから，生理学的，身体的，心理的特徴を十分に理解し，全身管理上の問題点と顎・口腔の生理学的な機能の回復・維持を学ぶ必要がある。さらに，ノーマライゼーションの観点から，障害を有する患者の QOL（Quality of life）の向上を考えた歯科医療をどのように実践していくのかを学ぶ。

２．一般目標

近年必要性が増加している障害者に対する医療より歯科領域における保健医療を障害者に提供するために，社会保障制度などの法的側面と障害の程度に合わせた顎・口腔機能の維持・増進に関する歯科な基本的知識を修得する。さらに，障害者の社会的環境や身体的・心理的特徴，各障害に伴う顎口腔系の変化や全身疾患と歯科治療との関係についての基礎的知識を修得する。

３．到達目標

１）障害者に関する概念を説明する。
２）歯科治療に配慮すべき疾患・症候群を説明する。
３）障害者の歯科治療における行動調整について説明する。
４）障害者の歯科治療に必要な注意点を説明する。
５）障害者の障害に合わせた歯科的管理を説明する。
６）障害者歯科における安全管理を説明する。

４．履修の進め方

講義主体でスライドと資料（プリント）を使用して履修する。次回の講義において前回の重要な項目を再度提示する。

５．準備学修

障害者歯科学における障害の特異性に関しては口腔衛生学，小児歯科学，口腔外科学，歯科麻酔学と関連性が深い。障害者歯科学の講義ではいままでに習った知識の確認事項であるものや新たな知識を知ることによってより研鑽を積む内容も多い。よって，授業前に授業項目における教科書の該当項目について目を通すこと（15分）。また，授業後は当日の内容について配布されたプリントなどの資料を見直す（30分）ことが肝要である。

６．評価方法

定期試験で評価する。評価基準：定期試験100％により評価し，65点以上を合格とする。試験形式：多肢選択式。範囲：講義内容全範囲。65点未満の場合には再試験を行う。定期試験65点未満の再試験受験該当者は，再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。また，再試験の試験形式，範囲は定期試験に準じる。

７．教本

日本障害者歯科学会編　スペシャルニーズデンティストリー 障害者歯科　第２版　医歯薬出版

８．参考書

スペシャルニーズデンティストリーハンドブック　障害者歯科医療ハンドブック改訂版　東京都立心身障害者口腔保健センター　一世印刷

９．授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／4	歯科医療におけるスペシャルニーズ	QOL，ノーマライゼーション，バリアフリー，ユニバーサルデザイン	C-4-3-4)／必2-ア-C，総Ⅰ-1-ア-d	①～③
2	9／11	スペシャルニーズと社会保障	障害者福祉，医療制度，ADL，IADL チーム医療	C-1-3)，D-6)／総Ⅰ-2-カ，総Ⅴ-5-イ-a, b	〃
3	9／18	精神発達・心理的発達と行動の障害	発達遅滞，精神遅滞，自閉症スペクトラム障害，注意欠陥多動性障害，学習障害	D-5-8)，D-5-9)／総Ⅴ-2-オ	〃
4	9／25	神経・運動障害（１）	脳性麻痺，筋ジストロフィー，脊髄損傷，関節リウマチ，Parkinson 病	D-5-8)，D-5-9)／総Ⅴ-3-オ，総Ⅴ-6-ア-g	〃
5	10／2	神経・運動障害（２），感覚障害	脳血管障害，筋萎縮性側索硬化症，てんかん，視覚・聴覚障害	D-5-8)，D-5-9)／総Ⅴ-6-ア-g	〃
6	10／9	摂食嚥下障害	摂食嚥下障害，摂食嚥下リハビリテーション，咀嚼障害	D-5-8-5)必11-シ-a，総Ⅱ-7-ウ-a，総Ⅶ-6-イ-a	〃
7	10／16	精神および行動の障害	統合失調症，うつ病，不安心身症，認知症，摂食障害	D-5-8)，D-5-9)／総Ⅴ-6-ア-f	〃
8	10／23	歯科治療時に配慮すべき疾患	内科的疾患（循環器・呼吸器・消化器腎尿路内分泌・血液疾患）	D-5-8)，D-5-9)／総Ⅴ-6-ア	〃
9	10／30	歯科治療時に配慮すべき疾患・症候群－１	（口腔に症状がみられる）遺伝性疾患	D-5-8)，D-5-9)／総Ⅴ-3-オ，各Ⅰ-1	〃
10	11／6	歯科治療時に配慮すべき疾患・症候群－２	（頭蓋・顎顔面に症状がみられる）遺伝性疾患，染色体異常	D-5-8)，D-5-9)／総Ⅴ-3-オ，各Ⅰ-1	〃
11	11／13	歯科治療時に配慮すべき疾患・難病	炎症性腸疾患，心筋症，エリテマトーデス，サルコイドーシス	D-5-8)，D-5-9)／総Ⅴ-6-ア-k，各Ⅲ-1-ク，各Ⅲ-4-オ	〃
12	11／20	行動調整	コミュニケーション法，行動療法，薬物的行動調整，体動の調整法	D-5-8)，D-5-9)／総Ⅴ-3-ウ，オ，各Ⅴ-8-ア-b	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
13	11／27	スペシャルニーズのある人の歯科治療－1	医療面接，歯髄処置，歯周治療，歯冠修復	D-5-8)，D-5-9)／各Ⅴ-8-ウ	①～③
14	12／4	スペシャルニーズのある人の歯科治療－2	補綴的対応，顎顔面領域の外傷	D-5-8)，D-5-9)／各Ⅴ-8-ウ	〃
15	12／11	リスク評価と安全管理	リスク評価，医療安全管理体制，医療事故の予防，ターミナルケア	D-5-8)，D-5-9)／必2-オ，総Ⅶ-5-イ	〃

臨床総合演習（後期・２単位）

D②③④⑤C-b2-41101(D41101)

科目責任者：川原　一郎（放射・教授）

科目担当者：（修復）山田　嘉重，菊井　徹哉，大木　英俊，影山　直，永井　春菜，藤山　修平
（歯内）佐藤　穏子，長﨑　慶太，金澤　朋昭，神庭　一郎，橋本　有加
（冠橋）羽鳥　弘毅，冨士　岳志，内田　光洋，雨宮　幹樹，伊藤　歩，大友　悠資，山口　雄大
（有床）髙津　匡樹，池田　敏和，内山　梨夏，飯島　康基，佐々木慎一，橋原　楓，嶋田　伊吹，髙橋　泰我
（口外）金　秀樹，小島　忠之，髙橋文太郎，西　祐也，山崎　北斗，渡邊　輝，澤　弘平，伊澤　輝
（矯正）川鍋　仁，山野辺晋也，松村　賢史，笹谷　哲郎，根本奈央子，荻野　早紀，小須田一剛，北村　裕紀，住谷　雅，松木　孝介
（麻酔）川合　宏仁，安部　将太，佐藤　光，若松慶一郎

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

臨床歯科学においては，知識のみならず技能と態度の学習が要求される。次年度に履修する臨床実習では，これまでに学習してきた知識と技能をさらに発展させて，実際の臨床に即した診療参加型の実習を行うことになる。本科目では講義・模型実習で学習した事項と診療参加型臨床実習を段階的に結びつけ，臨床実習へ円滑に移行するための内容を学習する。

２．一般目標

臨床実習において指導医とともに診療に携わるために，基本的歯科疾患に対する診察・検査・診断・治療計画立案および歯科治療の実践に必要な知識・技能・態度を習得する。

３．到達目標

1）初診患者の医療面接を実施する。(E-2-1／必-8-ウ)
2）バイタルサインを測定する。(E-2-3／必-8-エ-C)
3）頭頸部の診察を実施する。(E-2-2／必-8-オ)
4）口腔内状態の記録を実施する。(E-4-1／必-8-キ)
5）手指消毒を実施する。(E-1-1／必11-エ)
6）滅菌手袋の装着と廃棄を実施する。(E-1-1／必11-エ)
7）ラバーダム防湿を実施する。(E-5-3／各Ⅱ-2-イ)
8）局所麻酔を実施する。(E-1-3／必-11-カ)
9）概形印象採得を実施する。(E-5-3／各Ⅳ-4-イ)
10）齲蝕罹患歯質の除去を実施する。(E-5-3／必-11-ケ／各Ⅱ-1-ウ)
11）コンポジットレジン修復（単純窩洞・複雑窩洞）を実施する。(E-5-3／各Ⅱ-1-ウ)
12）感染根管治療を実施する。(E-5-3／各Ⅱ-2-イ)
13）支台歯形成を実施する。(E-5-3／各Ⅳ-3-イ)
14）プロビジョナルレストレーションの基本的操作を実施する。(E-5-3／各Ⅳ-3-イ)
15）補綴前処置（ガイドプレーン及びレストシート形成）を実施する。(E-5-3／各Ⅵ-4-イ)
16）単純抜歯を実施する。(E-5-3／必11-ケ)
17）切開・縫合・抜糸を実施する。(E-5-3／必11-キ)
18）一次救命処置（basic life support<BLS>）を実施する。(E-1-2／総Ⅶ-3-ア)

＊歯学生診療参加型臨床実習に必要とされる技能と態度についての学修・評価項目（第２版）参照

４．履修の進め方

学年を７グループに分けて病院棟にて演習を行う。グループ毎に課題を実施し，別紙日程表に準じてローテーションする。１課題につき２コマ，合計14課題（28コマ）の演習を行う。演習中は指定の服装を着用し，課題毎に指定された器材，教科書を持参する。なお，12／17(木)は病院棟での演習は実施しない。

５．準備学修

シラバス等により事前に提示された課題内容に関して，これまでの講義，模型実習で履修した事項を整理して，歯学生診療参加型臨床実習に必要とされる技能と態度についての学修・評価項目（第３版）で確認する（各課題毎に15分×14課題）。そして，当日実施した課題に関して，配布資料や各自のノート・メモ等を見直し，トレーニングを実施する。（各課題毎に15分×14課題）

６．評価方法

各課題毎に評価（出席・実習態度・到達度）を行う。欠席は１コマにつき８点減点，態度不良・明らかな到達目標未達は１コマにつき４点減点とする（例：１日欠席（２コマ）で16点減点）。定期試験は実施しない。100点を最高得点とし，合計点数で65点以上を合格とする。65点未満で出席率80％以上を満たす者に対しては１回のみ試験を実施する。

７．教本

なし

８．参考書

歯学生診療参加型臨床実習に必要とされる技能と態度についての学修・評価項目（第３版）

2026年度 第４学年 臨床総合演習　日程表

【演習課題】

	No	課　　題	担当	実施場所
演習Ⅰ	A	手指消毒・滅菌手袋の装着廃棄・頭頸部の診察	口外	病院棟４階　総合歯科２
	B	ラバーダム防湿・根管治療	歯内	病院棟４階　総合歯科２
	C	齲蝕罹患歯質の除去	修復	病院棟４階　総合歯科２
	D	概形印象採得	有床	病院棟４階　総合歯科２
	E	プロビジョナルレストレーションの基本的操作	冠橋	病院棟４階　総合歯科２
	F	バイタルサイン	麻酔	病院棟４階　総合歯科２
	G	初診患者の医療面接（急性）	矯正	病院棟５階　東 EV 前ホール
演習Ⅱ	H	局所麻酔・単純抜歯・切開縫合抜糸の基本	口外	病院棟４階　総合歯科２
	I	口腔内状態の記録	歯内	病院棟４階　総合歯科２
	J	コンポジットレジン修復 (単純窩洞・複雑窩洞）	修復	病院棟４階　総合歯科２
	K	補綴前処置（ガイドプレーン及びレストシート形成）	有床	病院棟４階　総合歯科２
	L	支台歯形成	冠橋	病院棟４階　総合歯科２
	M	一次救命処置	麻酔	病院棟５階　東 EV 前ホール
	N	初診患者の医療面接（慢性）	矯正	病院棟５階　東 EV 前ホール

【日程】＊12月17日（木）は病院棟での演習は実施しない。

日時 ＼ 班	演　習　Ⅰ							演　習　Ⅱ						
	8月31日	9月７日	9月14日	9月28日	10月５日	10月19日	10月26日	11月２日	11月９日	11月16日	11月30日	12月７日	12月14日	12月21日
	5・6限	5・6限	5・6限	5・6限	5・6限	5・6限	5・6限	5・6限	5・6限	5・6限	5・6限	5・6限	5・6限	5・6限
1	A	G	F	E	D	C	B	H	N	M	L	K	J	I
2	B	A	G	F	E	D	C	I	H	N	M	L	K	J
3	C	B	A	G	F	E	D	J	I	H	N	M	L	K
4	D	C	B	A	G	F	E	K	J	I	H	N	M	L
5	E	D	C	B	A	G	F	L	K	J	I	H	N	M
6	F	E	D	C	B	A	G	M	L	K	J	I	H	N
7	G	F	E	D	C	B	A	N	M	L	K	J	I	H

第５学年

臨　　床　　実　　習 …… 201

臨床実習（通年・30単位）

D①②③④C-c30-51201（D51201）

科目責任者：羽鳥　弘毅（附属病院長・教授）
金　　秀樹（口外・教授）
科目担当者：歯学部臨床科目担当教員

１．科目の概要

歯科医師として適切な歯科医療を提供するために，奥羽大学歯学部附属病院で診療参加型臨床実習を行う。本実習を通して，歯科臨床に必要な知識・技能・態度を身につける。

２．一般目標

人間性および倫理観を備えた歯科医師としての職責を果たすことができ，かつ患者中心の視点から地域医療やチーム医療に貢献できる資質を有する総合的臨床能力を身につけた歯科医療に必要な知識・技能・態度を習得する（ディプロマポリシー１～４）。

３．到達目標

１）信頼される安全・安心な歯科医療を提供するために，救急処置法を身に付けるとともに，患者安全対策に配慮した医療を実践し，処置時には適切な疼痛管理（除痛法）を実践する。
２）臨床において患者から症状や異常を聴取し，適切な診察や検査を選択して診断できる技能を身に付ける。
３）口腔・顎顔面領域の主な症候・病態から原因疾患を鑑別診断できる基本的能力を身に付ける。
４）患者から得られた医療情報の取り扱いを理解し，得られた情報を基にする患者中心の治療計画の立案法を身に付ける。
５）安全・安心な歯科医療を提供するために，基本的治療技能を身に付ける。
６）医療チームの一員として地域医療に参画する。
７）超高齢社会の問題と課題を分析し，ニーズを抽出して解決策を立案できる。
８）地域特性を踏まえた医療連携を構築し，他職種とともに包括医療を実践できる。
９）生涯にわたり歯科医師として自己研鑽ができる。

４．履修の進め方

１）プレクリニック
各診療科・診療室において歯科医療に必要な基本事項を確認し，診療参加型実習を安全に実施するために必要な基本的臨床能力を確認する（４週間）。
２）診療参加型臨床実習（各科ローテーション方式と一口腔単位の組み合わせ）
指導歯科医のもとで医療チームの一員として歯科医療に携わり，歯科教育モデル・コア・カリキュラムに記載されている「E 診療・診断と治療技能」および「診療参加型臨床実習の水準」を到達目標として履修し，歯科医療に必要な知識・技能・態度を身につける（36週間）。スチューデントデンティストとして初診から自験を行う患者については，一口腔単位での実習を行う。
３）総合演習５Ｄ
生命科学の基本的知識，人体の構造や機能，薬物や医療技術の基礎的成果などを確認し，病因や病態の解明ならびに安心・安全な医療の発展に結びつく研究マインドを涵養するために総合演習５Ｄを実施し，客観試験による総括的評価を行う。実施日は偶数月の第一金曜日午後３コマ（１コマ60分）を年間で６回に分けた合計18コマとする。
４）選択実習
Ⅴ期では臨床能力をさらに向上させるためと国家試験対策を重視し，希望する臨床系科目へ出向し，アドバンス的な知識・技能を取得するとともに問題解決能力の強化を実践する（４週間）。

５．準備学修

各科のローテーションにおいて，臨床実習必携に記載されている内容や，スチューデントデンティストとして担当する患者の疾患や治療法について教科書等を用いて予習を行う（30分）。また，その日に実施した実習内容について，同様に復習を行う（30分）。

６．評価方法

１）各科での臨床実習評価
各科で知識点30点，技能点50点，態度点10点，出席点10点の合計100点満点で評価し，65点以上を合格とする。なお，技能点では必須ケースはすべて満たすこと。必須ケースが未了の場合は技能点を０点として評価する。態度点と出席点の詳細は臨床実習必携を参照のこと。
２）終了試験（総合学力試験）
第Ⅰ期～第Ⅳ期に行われる終了試験を100点満点に換算し，平均65.00点以上を合格とする。なお，各期での出席率80％以上を終了試験の受験要件とする。
３）歯学系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験（Post-CC PX）
臨床実地試験（CPX）と一斉技能試験（CSX）に合格すること。なお，CPX は異なる系での２課題合格を CSX の受験要件とする。
４）総合試験５Ｄ
総合試験５Ｄで100点満点中72.00％以上を合格とする。なお，朝礼，総合演習５Ｄ，終礼（フィードバック）の各出席率が全て80％であることを総合試験５Ｄの受験要件とする。

７．教本

第４学年までに購入した教本を用いる。各科で別途購入が必要なものは臨床実習必携を参照のこと。

８．参考書

第４学年までに購入した参考書を用いる。

９．授業内容と日程

2026年度　臨床実習年間予定表を参照のこと。

2026（令和８）年度　臨床実習年間予定表

2026-27	行事／予定	臨床実習　A 班　ローテーション						臨床実習　B 班　ローテーション					
日程		A－1	A－2	A－3	A－4	A－5	A－6	B－1	B－2	B－3	B－4	B－5	B－6
4／1(水)													
4／2(木)													
4／3(金)													
4／4(土)													
4／5(日)													
4／6(月)	登院式／オリエンテーション	担当 全科臨床実習実務者（臨床講義室）											
4／7(火)	Ⅰ期 プレクリ１	補綴系			保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正
4／8(水)	Ⅰ期 プレクリ２	補綴系			保存系			放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児
4／9(木)	Ⅰ期 プレクリ３	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外
4／10(金)	Ⅰ期１クール１日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	地域１
4／11(土)													
4／12(日)													
4／13(月)	Ⅰ期１クール２日目 AM	補綴系			保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	地域１
4／14(火)	Ⅰ期１クール２日目 PM	総合演習５D①　４限：衛生，５限：感染，６限：生理，７限：保険診療ミニセミナー											
	Ⅰ期１クール３日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	地域１
4／15(水)	Ⅰ期１クール４日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	地域１
4／16(木)	Ⅰ期１クール５日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	地域１
4／17(金)	Ⅰ期１クール６日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	地域１
4／18(土)													
4／19(日)													
4／20(月)	Ⅰ期１クール７日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正
4／21(火)	Ⅰ期１クール８日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正
4／22(水)	Ⅰ期１クール９日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正
4／23(木)	Ⅰ期１クール10日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	地域１	口外	小児	矯正
4／24(金)	Ⅰ期１クール11日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	地域１	口外	小児	矯正
4／25(土)													
4／26(日)													
4／27(月)	Ⅰ期１クール12日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	地域１	口外	小児	矯正
4／28(火)	Ⅰ期１クール13日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	地域１	口外	小児	矯正
4／29(水)													
4／30(木)													
5／1(金)													
5／2(土)													
5／3(日)													
5／4(月)													
5／5(火)													
5／6(水)													
5／7(木)	Ⅰ期１クール14日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	地域１	口外	小児	矯正
5／8(金)	Ⅰ期１クール15日目	補綴系			保存系			口外	麻酔	地域１	口外	小児	矯正
5／9(土)													
5／10(日)													
5／11(月)	Ⅰ期２クール１日目	補綴系			保存系			放射	口外	麻酔	地域１	口外	小児
5／12(火)	Ⅰ期２クール２日目	補綴系			保存系			放射	口外	麻酔	地域１	口外	小児
5／13(水)	Ⅰ期２クール３日目	補綴系			保存系			放射	口外	麻酔	地域１	口外	小児
5／14(木)	Ⅰ期２クール４日目	補綴系			保存系			放射	口外	麻酔	地域１	口外	小児
5／15(金)	Ⅰ期２クール５日目	補綴系			保存系			放射	口外	麻酔	地域１	口外	小児
5／16(土)													
5／17(日)													
5／18(月)	Ⅰ期２クール６日目	補綴系			保存系			放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児
5／19(火)	Ⅰ期２クール７日目	補綴系			保存系			放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児
5／20(水)	Ⅰ期２クール８日目	補綴系			保存系			放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児
5／21(木)	Ⅰ期２クール９日目	補綴系			保存系			放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児
5／22(金)	Ⅰ期２クール10日目	補綴系			保存系			放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児
5／23(土)													
5／24(日)													

2026-27	行事／予定	臨床実習　A班　ローテーション						臨床実習　B班　ローテーション					
日程		A－1	A－2	A－3	A－4	A－5	A－6	B－1	B－2	B－3	B－4	B－5	B－6
5／25(月)	Ⅰ期２クール11日目	補綴系			保存系			地域１	口外	麻酔	矯正	口外	小児
5／26(火)	Ⅰ期２クール12日目	補綴系			保存系			地域１	口外	麻酔	矯正	口外	小児
5／27(水)	Ⅰ期２クール13日目	補綴系			保存系			地域１	口外	麻酔	矯正	口外	小児
5／28(木)	Ⅰ期２クール14日目	補綴系			保存系			地域１	口外	麻酔	矯正	口外	小児
5／29(金)	Ⅰ期２クール15日目	補綴系			保存系			地域１	口外	麻酔	矯正	口外	小児
5／30(土)													
5／31(日)													
6／1(月)	Ⅰ期３クール１日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	地域１	口外
6／2(火)	Ⅰ期３クール２日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	地域１	口外
6／3(水)	Ⅰ期３クール３日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	地域１	口外
6／4(木)	Ⅰ期３クール４日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	地域１	口外
6／5(金)	Ⅰ期３クール５日目 AM	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	地域１	口外
	Ⅰ期３クール５日目 PM	総合演習５Ｄ②　４限：材料 ５限：薬理 ６限：組織，７限：保険診療ミニセミナー											
6／6(土)													
6／7(日)													
6／8(月)	Ⅰ期３クール６日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外
6／9(火)	Ⅰ期３クール７日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外
6／10(水)	Ⅰ期３クール８日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外
6／11(木)	Ⅰ期３クール９日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外
6／12(金)	Ⅰ期３クール10日目	補綴系			保存系			麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外
6／13(土)													
6／14(日)													
6／15(月)	Ⅰ期３クール11日目	補綴系			保存系			麻酔	地域１	口外	小児	矯正	口外
6／16(火)	Ⅰ期３クール12日目	補綴系			保存系			麻酔	地域１	口外	小児	矯正	口外
6／17(水)	Ⅰ期３クール13日目	補綴系			保存系			麻酔	地域１	口外	小児	矯正	口外
6／18(木)	Ⅰ期３クール14日目	補綴系			保存系			麻酔	地域１	口外	小児	矯正	口外
6／19(金)	Ⅰ期３クール15日目	補綴系			保存系			麻酔	地域１	口外	小児	矯正	口外
6／20(土)													
6／21(日)													
6／22(月)	Ⅰ期 終了試験												
6／23(火)	Ⅱ期 プレクリ１	保存系			補綴系			口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射
6／24(水)	Ⅱ期 プレクリ２	保存系			補綴系			矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔
6／25(木)	Ⅱ期 プレクリ３	保存系			補綴系			小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外
6／26(金)	予備日												
6／27(土)													
6／28(日)													
6／29(月)	Ⅱ期１クール１日目	保存系			補綴系			口外	小児	地域２	口外	麻酔	放射
6／30(火)	Ⅱ期１クール２日目	保存系			補綴系			口外	小児	地域２	口外	麻酔	放射
7／1(水)	Ⅱ期１クール３日目	保存系			補綴系			口外	小児	地域２	口外	麻酔	放射
7／2(木)	Ⅱ期１クール４日目	保存系			補綴系			口外	小児	地域２	口外	麻酔	放射
7／3(金)	Ⅱ期１クール５日目	保存系			補綴系			口外	小児	地域２	口外	麻酔	放射
7／4(土)													
7／5(日)													
7／6(月)	Ⅱ期１クール６日目	保存系			補綴系			口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射
7／7(火)	Ⅱ期１クール７日目	保存系			補綴系			口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射
7／8(水)	Ⅱ期１クール８日目	保存系			補綴系			口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射
7／9(木)	Ⅱ期１クール９日目	保存系			補綴系			口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射
7／10(金)	Ⅱ期１クール10日目	保存系			補綴系			口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射
7／11(土)													
7／12(日)													
7／13(月)	Ⅱ期１クール11日目	保存系			補綴系			口外	小児	矯正	口外	麻酔	地域２
7／14(火)	Ⅱ期１クール12日目	保存系			補綴系			口外	小児	矯正	口外	麻酔	地域２
7／15(水)	Ⅱ期１クール13日目	保存系			補綴系			口外	小児	矯正	口外	麻酔	地域２
7／16(木)	Ⅱ期１クール14日目	保存系			補綴系			口外	小児	矯正	口外	麻酔	地域２
7／17(金)	Ⅱ期１クール15日目	保存系			補綴系			口外	小児	矯正	口外	麻酔	地域２
7／18(土)													
7／19(日)													

2026-27	行事／予定	臨床実習　A班　ローテーション						臨床実習　B班　ローテーション					
日程		A－1	A－2	A－3	A－4	A－5	A－6	B－1	B－2	B－3	B－4	B－5	B－6
7／20(月)													
7／21(火)	Ⅱ期２クール１日目	保存系			補綴系			地域２	口外	小児	放射	口外	麻酔
7／22(水)	Ⅱ期２クール２日目	保存系			補綴系			地域２	口外	小児	放射	口外	麻酔
7／23(木)	Ⅱ期２クール３日目	保存系			補綴系			地域２	口外	小児	放射	口外	麻酔
7／24(金)	Ⅱ期２クール４日目	保存系			補綴系			地域２	口外	小児	放射	口外	麻酔
7／25(土)													
7／26(日)													
7／27(月)	Ⅱ期２クール５日目	保存系			補綴系			矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔
7／28(火)	Ⅱ期２クール６日目	保存系			補綴系			矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔
7／29(水)	Ⅱ期２クール７日目	保存系			補綴系			矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔
7／30(木)	Ⅱ期２クール８日目	保存系			補綴系			矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔
7／31(金)	Ⅱ期２クール９日目	保存系			補綴系			矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔
8／1(土)													
8／2(日)													
8／3(月)	Ⅱ期２クール10日目	保存系			補綴系			矯正	口外	小児	地域２	口外	麻酔
8／4(火)	Ⅱ期２クール11日目	保存系			補綴系			矯正	口外	小児	地域２	口外	麻酔
8／5(水)	Ⅱ期２クール12日目	保存系			補綴系			矯正	口外	小児	地域２	口外	麻酔
8／6(木)	Ⅱ期２クール13日目	保存系			補綴系			矯正	口外	小児	地域２	口外	麻酔
8／7(金)	Ⅱ期２クール14日目AM	保存系			補綴系			矯正	口外	小児	地域２	口外	麻酔
	Ⅱ期２クール14日目PM	総合演習５D③　４限：生化 ５限：解剖 ６限：病理，７限：保険診療ミニセミナー											
8／8(土)													
8／9(日)													
8／10(月)	Ⅱ期３クール１日目	保存系			補綴系			小児	地域２	口外	麻酔	放射	口外
8／11(火)													
8／12(水)													
8／13(木)													
8／14(金)													
8／15(土)													
8／16(日)													
8／17(月)													
8／18(火)	Ⅱ期３クール２日目	保存系			補綴系			小児	地域２	口外	麻酔	放射	口外
8／19(水)	Ⅱ期３クール３日目	保存系			補綴系			小児	地域２	口外	麻酔	放射	口外
8／20(木)	Ⅱ期３クール４日目	保存系			補綴系			小児	地域２	口外	麻酔	放射	口外
8／21(金)	Ⅱ期３クール５日目	保存系			補綴系			小児	地域２	口外	麻酔	放射	口外
8／22(土)													
8／23(日)													
8／24(月)	Ⅱ期３クール６日目	保存系			補綴系			小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外
8／25(火)	Ⅱ期３クール７日目	保存系			補綴系			小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外
8／26(水)	Ⅱ期３クール８日目	保存系			補綴系			小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外
8／27(木)	Ⅱ期３クール９日目	保存系			補綴系			小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外
8／28(金)	Ⅱ期３クール10日目	保存系			補綴系			小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外
8／29(土)													
8／30(日)													
8／31(月)	Ⅱ期３クール11日目	保存系			補綴系			小児	矯正	口外	麻酔	地域２	口外
9／1(火)	Ⅱ期３クール12日目	保存系			補綴系			小児	矯正	口外	麻酔	地域２	口外
9／2(水)	Ⅱ期３クール13日目	保存系			補綴系			小児	矯正	口外	麻酔	地域２	口外
9／3(木)	Ⅱ期３クール14日目	保存系			補綴系			小児	矯正	口外	麻酔	地域２	口外
9／4(金)	Ⅱ期３クール15日目	保存系			補綴系			小児	矯正	口外	麻酔	地域２	口外
9／5(土)													
9／6(日)													
9／7(月)	Ⅱ期 終了試験												
9／8(火)	Ⅲ期 プレクリ１	口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
9／9(水)	Ⅲ期 プレクリ２	放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
9／10(木)	Ⅲ期 プレクリ３	麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
9／11(金)	予備日												
9／12(土)													
9／13(日)													

2026-27	行事／予定	臨床実習　A班　ローテーション						臨床実習　B班　ローテーション					
日程		A－1	A－2	A－3	A－4	A－5	A－6	B－1	B－2	B－3	B－4	B－5	B－6
9／14(月)	Ⅲ期1クール1日目	口外	麻酔	放射	口外	小児	地域1	補綴系			保存系		
9／15(火)	Ⅲ期1クール2日目	口外	麻酔	放射	口外	小児	地域1	補綴系			保存系		
9／16(水)	Ⅲ期1クール3日目	口外	麻酔	放射	口外	小児	地域1	補綴系			保存系		
9／17(木)	Ⅲ期1クール4日目	口外	麻酔	放射	口外	小児	地域1	補綴系			保存系		
9／18(金)	Ⅲ期1クール5日目	口外	麻酔	放射	口外	小児	地域1	補綴系			保存系		
9／19(土)													
9／20(日)													
9／21(月)													
9／22(火)													
9／23(水)													
9／24(木)	Ⅲ期1クール6日目	口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
9／25(金)	Ⅲ期1クール7日目	口外	麻酔	放射	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
9／26(土)													
9／27(日)													
9／28(月)	Ⅲ期1クール8日目	口外	麻酔	地域1	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
9／29(火)	Ⅲ期1クール9日目	口外	麻酔	地域1	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
9／30(水)	Ⅲ期1クール10日目	口外	麻酔	地域1	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
10／1(木)	Ⅲ期1クール11日目	口外	麻酔	地域1	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
10／2(金)	Ⅲ期1クール12日目	口外	麻酔	地域1	口外	小児	矯正	補綴系			保存系		
10／3(土)													
10／4(日)													
10／5(月)	Ⅲ期2クール1日目	放射	口外	麻酔	地域1	口外	小児	補綴系			保存系		
10／6(火)	Ⅲ期2クール2日目	放射	口外	麻酔	地域1	口外	小児	補綴系			保存系		
10／7(水)	Ⅲ期2クール3日目	放射	口外	麻酔	地域1	口外	小児	補綴系			保存系		
10／8(木)	Ⅲ期2クール4日目	放射	口外	麻酔	地域1	口外	小児	補綴系			保存系		
10／9(金)	Ⅲ期2クール5日目	放射	口外	麻酔	地域1	口外	小児	補綴系			保存系		
10／10(土)													
10／11(日)													
10／12(月)													
10／13(火)	Ⅲ期2クール6日目	放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
10／14(水)	Ⅲ期2クール7日目	放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
10／15(木)	Ⅲ期2クール8日目	放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
10／16(金)	Ⅲ期2クール9日目	放射	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
10／17(土)													
10／18(日)													
10／19(月)	Ⅲ期2クール10日目	地域1	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
10／20(火)	Ⅲ期2クール11日目	地域1	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
10／21(水)	Ⅲ期2クール12日目	地域1	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
10／22(木)	Ⅲ期2クール13日目	地域1	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
10／23(金)	Ⅲ期2クール14日目 AM	地域1	口外	麻酔	矯正	口外	小児	補綴系			保存系		
	Ⅲ期2クール14日目 PM	総合演習5D④　4限：衛生 5限：感染 6限：生理，7限：保険診療ミニセミナー											
10／24(土)													
10／25(日)													
10／26(月)	Ⅲ期3クール1日目	麻酔	放射	口外	小児	地域1	口外	補綴系			保存系		
10／27(火)	Ⅲ期3クール2日目	麻酔	放射	口外	小児	地域1	口外	補綴系			保存系		
10／28(水)	Ⅲ期3クール3日目	麻酔	放射	口外	小児	地域1	口外	補綴系			保存系		
10／29(木)	Ⅲ期3クール4日目	麻酔	放射	口外	小児	地域1	口外	補綴系			保存系		
10／30(金)	Ⅲ期3クール5日目	麻酔	放射	口外	小児	地域1	口外	補綴系			保存系		
10／31(土)													
11／1(日)													
11／2(月)	Ⅲ期3クール6日目	麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11／3(火)													
11／4(水)	Ⅲ期3クール7日目	麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11／5(木)	Ⅲ期3クール8日目	麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11／6(金)	Ⅲ期3クール9日目	麻酔	放射	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11／7(土)													
11／8(日)													

2026-27	行事／予定	臨床実習　A班　ローテーション						臨床実習　B班　ローテーション					
日程		A－1	A－2	A－3	A－4	A－5	A－6	B－1	B－2	B－3	B－4	B－5	B－6
11／9(月)	Ⅲ期３クール10日目	麻酔	地域１	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11／10(火)	Ⅲ期３クール11日目	麻酔	地域１	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11／11(水)	Ⅲ期３クール12日目	麻酔	地域１	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11／12(木)	Ⅲ期３クール13日目	麻酔	地域１	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11／13(金)	Ⅲ期３クール14日目	麻酔	地域１	口外	小児	矯正	口外	補綴系			保存系		
11／14(土)													
11／15(日)													
11／16(月)	Ⅲ期 終了試験												
11／17(火)	Ⅳ期 プレクリ１	口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
11／18(水)	Ⅳ期 プレクリ２	矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
11／19(木)	Ⅳ期 プレクリ３	小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
11／20(金)	予備日												
11／21(土)													
11／22(日)													
11／23(月)													
11／24(火)	Ⅳ期１クール１日目	口外	小児	地域２	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
11／25(水)	Ⅳ期１クール２日目	口外	小児	地域２	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
11／26(木)	Ⅳ期１クール３日目	口外	小児	地域２	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
11／27(金)	Ⅳ期１クール４日目	口外	小児	地域２	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
11／28(土)													
11／29(日)													
11／30(月)	Ⅳ期１クール５日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
12／1(火)	Ⅳ期１クール６日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
12／2(水)	Ⅳ期１クール７日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
12／3(木)	Ⅳ期１クール８日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
12／4(金)	Ⅳ期１クール９日目 AM	口外	小児	矯正	口外	麻酔	放射	保存系			補綴系		
	Ⅳ期１クール９日目 PM	総合演習５Ｄ⑤　４限：材料 ５限：薬理 ６限：組織，７限：保険診療ミニセミナー											
12／5(土)													
12／6(日)													
12／7(月)	Ⅳ期１クール10日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	地域２	保存系			補綴系		
12／8(火)	Ⅳ期１クール11日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	地域２	保存系			補綴系		
12／9(水)	Ⅳ期１クール12日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	地域２	保存系			補綴系		
12／10(木)	Ⅳ期１クール13日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	地域２	保存系			補綴系		
12／11(金)	Ⅳ期１クール14日目	口外	小児	矯正	口外	麻酔	地域２	保存系			補綴系		
12／12(土)													
12／13(日)													
12／14(月)	Ⅳ期２クール１日目	地域２	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／15(火)	Ⅳ期２クール２日目	地域２	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／16(水)	Ⅳ期２クール３日目	地域２	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／17(木)	Ⅳ期２クール４日目	地域２	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／18(金)	Ⅳ期２クール５日目	地域２	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／19(土)													
12／20(日)													
12／21(月)	Ⅳ期２クール６日目	矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／22(火)	Ⅳ期２クール７日目	矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／23(水)	Ⅳ期２クール８日目	矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／24(木)	Ⅳ期２クール９日目	矯正	口外	小児	放射	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／25(金)	Ⅳ期２クール10日目	矯正	口外	小児	地域２	口外	麻酔	保存系			補綴系		
12／26(土)													
12／27(日)													
12／28(月)													
12／29(火)													
12／30(水)													
12／31(木)													
1／1(金)													
1／2(土)													
1／3(日)													

2026-27	行事／予定	臨床実習　A班　ローテーション						臨床実習　B班　ローテーション					
日程		A－1	A－2	A－3	A－4	A－5	A－6	B－1	B－2	B－3	B－4	B－5	B－6
1／4(月)													
1／5(火)													
1／6(水)													
1／7(木)	Ⅳ期２クール11日目	矯正	口外	小児	地域２	口外	麻酔	保存系			補綴系		
1／8(金)	Ⅳ期２クール12日目	矯正	口外	小児	地域２	口外	麻酔	保存系			補綴系		
1／9(土)													
1／10(日)													
1／11(月)													
1／12(火)	Ⅳ期２クール13日目	矯正	口外	小児	地域２	口外	麻酔	保存系			補綴系		
1／13(水)	Ⅳ期２クール14日目	矯正	口外	小児	地域２	口外	麻酔	保存系			補綴系		
1／14(木)	Ⅳ期２クール15日目	矯正	口外	小児	地域２	口外	麻酔	保存系			補綴系		
1／15(金)	Ⅳ期２クール16日目	矯正	口外	小児	地域２	口外	麻酔	保存系			補綴系		
1／16(土)													
1／17(日)													
1／18(月)	Ⅳ期３クール１日目	小児	地域２	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
1／19(火)	Ⅳ期３クール２日目	小児	地域２	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
1／20(水)	Ⅳ期３クール３日目	小児	地域２	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
1／21(木)	OSCE 病院立入り禁（仮）												
1／22(金)	OSCE 病院立入り禁（仮）												
1／23(土)													
1／24(日)													
1／25(月)	Ⅳ期３クール４日目	小児	地域２	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
1／26(火)	Ⅳ期３クール５日目	小児	地域２	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
1／27(水)	Ⅳ期３クール６日目	小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
1／28(木)	Ⅳ期３クール７日目	小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
1／29(金)	Ⅳ期３クール８日目	小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
1／30(土)													
1／31(日)													
2／1(月)	Ⅳ期３クール９日目	小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
2／2(火)	Ⅳ期３クール10日目	小児	矯正	口外	麻酔	放射	口外	保存系			補綴系		
2／3(水)	Ⅳ期３クール11日目	小児	矯正	口外	麻酔	地域２	口外	保存系			補綴系		
2／4(木)	Ⅳ期３クール12日目	小児	矯正	口外	麻酔	地域２	口外	保存系			補綴系		
2／5(金)	Ⅳ期３クール13日目AM	小児	矯正	口外	麻酔	地域２	口外	保存系			補綴系		
	Ⅳ期３クール13日目PM	総合演習５Ｄ⑥　４限：生化 ５限：解剖 ６限：病理，７限：保険診療ミニセミナー											
2／6(土)													
2／7(日)													
2／8(月)	Ⅳ期 終了試験												
2／9(火)	総合試験５Ｄ	試験監督１限：修復／歯内２限：歯周／冠橋３限：イン／有床４限：口外／麻酔５限：小児／矯正６限：放射／地域（臨床講義室）											
2／10(水)	Ⅴ期選択実習１日目												
2／11(木)													
2／12(金)	Ⅴ期選択実習２日目												
2／13(土)													
2／14(日)													
2／15(月)	Ⅴ期選択実習３日目												
2／16(火)	一斉技能試験 CSX												
2／17(水)	Ⅴ期選択実習４日目												
2／18(木)	Ⅴ期選択実習５日目												
2／19(金)	Ⅴ期選択実習６日目												
2／20(土)													
2／21(日)													
2／22(月)	Ⅴ期選択実習７日目												
2／23(火)													
2／24(水)	Ⅴ期選択実習８日目												
2／25(木)	Ⅴ期選択実習９日目												
2／26(金)	Ⅴ期選択実習10日目	総合試験５Ｄ再試験監督１限：修復／歯内２限：歯周／冠橋３限：イン／有床４限：口外／麻酔５限：小児／矯正６限：放射／地域（臨床講義室）											
2／27(土)													
2／28(日)													

2026-27	行事／予定	臨床実習　A 班　ローテーション						臨床実習　B 班　ローテーション					
日程		A－1	A－2	A－3	A－4	A－5	A－6	B－1	B－2	B－3	B－4	B－5	B－6
3／1(月)	V期選択実習11日目												
3／2(火)	V期選択実習12日目	PM：CSX 追試験											
3／3(水)	V期選択実習13日目												
3／4(木)	V期選択実習14日目												
3／5(金)	V期選択実習15日目												
3／6(土)													
3／7(日)													
3／8(月)	V期選択実習16日目												
3／9(火)	V期選択実習17日目												
3／10(水)	V期選択実習18日目												
3／11(木)	V期選択実習19日目	PM：CSX 再試験											
3／12(金)	V期選択実習20日目												
3／13(土)													
3／14(日)													
3／15(月)	V期選択実習21日目												
3／16(火)	V期選択実習22日目												
3／17(水)	V期選択実習23日目	16：30～ 臨床実習 終了式（臨床講義室）											
3／18(木)													
3／19(金)	進級予定者発表												
3／20(土)													

第６学年

臨 床 総 合 講 義 …… 211

臨床総合講義（通年・10単位）

D③④－3300

科目責任者：川鍋　　仁（矯正・教授）
科目担当者：各科目教員
※この科目は，主に診療経験のある歯科医師が担当する

１．科目の概要

歯科医師国家試験の出題傾向および出題基準を基に各科目の講義が構成されているので，歯科医師国家試験の合格に必要な全ての履修内容を総復習して確実な知識を得る。

本科目は，臨床総合講義について学ぶことで歯科医学を理解し，臨床歯科医療を実践することを目標としており，ディプロマポリシー「１．倫理とコミュニケーション」，「２．探究力と解決力」，「３．病態解析と治療概念」，「４．知識と診断」及び「５．技能と治療」に関連する。

２．一般目標

歯科医師国家試験に合格するため，国家試験出題基準に関わる全ての内容を理解し，卒業する。

３．到達目標

１）講義は全て出席し，講義内容を全て理解する。
２）卒業試験では正解率80％以上を獲得する。
３）外部模擬試験を全て受験し，全国上位50％以内を目指し維持する。

４．履修の進め方

第１回卒業試験のＡ～Ｄ分冊は過去５年の歯科医師国家試験から360問出題されるので，歯科医師国家試験の過去問を全て復習して臨む。第１回卒業試験のＥ～Ｐ分冊は時間割に示した講義内容から各分冊90問出題されるので，講義内容をしっかりと理解して臨む。第２回および第３回卒業試験は歯科医師国家試験の出題範囲に応じて出題されるので，過去の授業を復習して臨む。時間割には模擬試験も含まれているので，全国順位を把握しながら不足している知識を確認する。

５．準備学修

時間割を把握し，必要な資料を準備して授業に臨む。当日の授業内容は当日中に再確認し，確実に理解する。歯科医師国家試験に受験するまでは，授業以外に６時間以上／日の学修時間を設ける。実力試験，模擬試験，卒業試験の結果を自己分析する。

６．評価方法

卒業試験で評価する。

１）３回の卒業試験で平均72.00％以上を合格とする。
・ただし，第１回卒業試験はＡ～Ｐ分冊の平均とする。
２）出題範囲は，歯科医師国家試験出題基準の全範囲から出題する。
３）卒業試験の受験資格は，①各科目の講義（通年の回数），②朝礼（ガイダンスを含む），③模擬試験，①～③の出席率が全て80％以上であること。

●口腔解剖学

担当者：①宇佐美晶信（解剖）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／15	解剖学総論	器官系	A-3-1／必4-ア，総Ⅱ-1-ア～コ	①
2	〃	顔面・口腔	口腔の構造	A-3-3／必4-ア，総Ⅱ-4-オ	〃
3	4／27	歯の解剖①	歯の解剖（総論）	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	〃
4	4／27	歯の解剖②	歯の解剖（各論）	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	①
5	5／25	骨学①	頭頸部の骨学１	A-3-2／必4-ア，総Ⅱ-4-イ	〃
6	〃	骨学②	頭頸部の骨学２	A-3-2／必4-ア，総Ⅱ-4-イ	〃
7	6／17	筋学①	筋学総論，各論１	A-3-2／必4-ア，総Ⅱ-4-ウ	〃
8	〃	筋学②	筋学各論２	A-3-2／必4-ア，総Ⅱ-4-ウ	〃
9	7／1	筋学③	筋膜隙	A-3-2／総Ⅱ-4-ウ	〃
10	〃	脈管学	頭頸部の脈管	A-3-2／必4-ア，総Ⅱ-4-エ	〃
11	7／15	神経学①	神経学総論，脳神経１	A-3-2／必4-ア，総Ⅱ-4-カ	〃
12	〃	神経学②	脳神経２，脊髄神経	A-3-2／必4-ア，総Ⅱ-4-カ	〃
13	8／5	神経学③	神経節	A-3-2／必4-ア	〃
14	〃	口腔内臓学	唾液腺	A-3-3／必4-ア，総Ⅱ-4-オ	〃
15	8／26	顎関節	顎関節の構造	A-3-2／必4-ア，総Ⅱ-4-イ	〃
16	〃	フィードバック①	演習問題，解説	A-3-1, 2, 3／必4-ア，総Ⅱ-4-ア～キ	〃
17	9／9	嚥下関連の解剖	咽頭，喉頭の解剖	A-3-2／必4-ア，総Ⅱ-4-オ	〃
18	〃	画像解剖	頭頚部の画像解剖	A-3-1, 2, 3／必4-ア，総Ⅱ-4-ア～キ	〃
19	9／30	歯の異常，歯列咬合	歯列・咬合	A-3-3／総Ⅱ-5-ア	〃
20	〃	加齢変化	成長・発育，加齢変化	A-2-4／必5-ウ，エ，総Ⅱ-7-エ	〃
21	10／21	歯の解剖③	歯の解剖まとめ	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	〃
22	〃	フィードバック②	実力確認試験まとめ	A-3-1, 2, 3／必4-ア，総Ⅱ-4-ア～キ	〃
23	11／11	局所解剖学	頭頸部の局所解剖学	A-3-1, 2, 3／必4-ア，総Ⅱ-4-ア～キ	〃
24	〃	フィードバック③	必修まとめ	A-3-1, 2, 3／必4-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
25	11／25	フィードバック④	頭頸部の解剖まとめ	A-3-1, 2, 3／必4-ア, 総Ⅱ-4-ア～キ	①
26	〃	神経学④	神経学と臨床	A-3-1, 2, 3／必4-ア	〃
27	12／16	歯の解剖③	歯の解剖まとめ	A-3-4／総Ⅱ-5-ア	〃
28	〃	フィードバック⑤	頭頸部の解剖フィードバック	A-3-1, 2, 3／必4-ア, 総Ⅱ-4-ア～キ	〃

●口腔組織学

担当者：①安部　仁晴（組織）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／16	エナメル質	エナメル質の組織学的特徴	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ-5-イ	①
2	〃	象牙質	象牙質の組織学的特徴	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ-5-イ	〃
3	5／7	歯　髄	歯髄の組織学的特徴	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ-5-イ	〃
4	〃	歯周組織（1）	セメント質，歯根膜の組織学的特徴	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ-5-イ	〃
5	5／21	歯周組織（2）	歯肉，歯槽骨の組織学的特徴	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ-5-イ	〃
6	〃	歯と歯周組織	演習問題	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ-5-イ	〃
7	6／11	歯の発生（1）	歯胚の形成，歯根の形成	A-3-4／必5-ウ 総Ⅱ-8-イ	〃
8	〃	歯の発生（2）	エナメル質，象牙質の形成	A-3-1, -4／必5-ウ 総Ⅱ-8-イ	〃
9	6／25	初期発生	生殖と胚発生，鰓弓から形成される組織	A-2-1, -4／必5-ア 総Ⅱ-8-ア	〃
10	〃	顔面の発生	顔面，口蓋の発生	A-2-4／必5-ア 総Ⅱ-8-ア	〃
11	7／9	細胞の構造と機能（1）	核，細胞小器官の構造と機能	A-1-4／必4-ア	〃
12	〃	細胞の構造と機能（2）	細胞膜，細胞骨格および細胞接着装置	A-1-4, -5／必4-ア	〃
13	7／23	人体の正常構造（1）	上皮の構造と組織学的特徴	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ-1-ア	〃
14	〃	人体の正常構造（2）	結合組織の構造と組織学的特徴	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ-1-ア	〃
15	8／20	人体の正常構造（3）	軟骨，筋組織の構造と組織学的特徴	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ-1-イ	①
16	〃	人体の正常構造（4）	血液と血球の組織学的特徴	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ-1-カ	〃
17	9／3	人体の正常構造（5）	骨組織の組織学的特徴と発生様式	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ-1-イ, -8-ウ	〃
18	〃	人体の正常構造（6）	骨に存在する細胞の組織学的特徴	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ1-イ, -8-ウ	〃
19	10／1	人体の正常構造（7）	神経組織の構造と組織学的特徴	A-3-1／必4-ア 総Ⅱ-1-ク	〃
20	〃	唾液腺	唾液腺の組織学的特徴	A-3-3／必4-ア 総Ⅱ-4-オ	〃
21	10／15	口腔周囲器官の発生	舌，唾液腺，甲状腺，下垂体，顎関節の発生	A-2-4／必5-ア 総Ⅱ-8-ア	〃
22	〃	舌，扁桃，顎関節	舌，扁桃，顎関節の組織学的特徴	A-3-2, -3／必4-ア 総Ⅱ-4-イ, オ	〃
23	10／29	加齢変化	加齢による歯，口腔，顎顔面の変化	A-2-4／必5-エ 総Ⅱ-7-エ 各Ⅴ-3-イ	〃
24	〃	歯と歯周組織	演習問題	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ-5-イ	〃
25	11／19	歯と歯周組織（1）	歯と歯周組織の組織学的特徴	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ-5-イ	〃
26	〃	歯と歯周組織（2）	歯と歯周組織の組織学的特徴	A-3-4／必4-ア 総Ⅱ-5-イ	〃
27	12／24	口腔周囲器官	口腔周囲器官の組織学的特徴	A-3-2, -3／必4-ア 総Ⅱ-4-イ, オ	〃
28	〃	発生学のまとめ	胚発生および歯を含む口腔の発生のまとめ	A-2-1, -4／必5-ア 総Ⅱ-8-ア	〃

●口腔感染免疫学

担当者：①玉井利代子（感染）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／22	微生物学概論	微生物の種類とその特性	A-4-1-1／必-4-イ-a	①
2	〃	細菌の病原因子	細菌の持つ病原因子について	A-4-1-2／必-4-イ-a	〃
3	5／20	細菌の毒素	細菌の内毒素と外毒素	A-4-1-2／総Ⅲ-1-キ-a	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
4	5／20	細菌感染症	感染症の種類とその原因菌	A-4-1-3／総Ⅲ-1-キ-b	①
5	6／10	ウイルスの構造と種類	ウイルスの構造の特徴	A-4-1-1／総Ⅲ-1-キ-a	〃
6	〃	ウイルス感染症	感染症の種類とその原因ウイルス	A-4-1-3／総Ⅲ-1-キ-b, 各Ⅲ-4-イ	〃
7	6／24	真菌感染症	感染症の種類とその原因菌	A-4-1-3／総Ⅲ-1-キ-b	〃
8	〃	感染の種類	微生物感染の種類とそのメカニズム	A-4-1-3／総Ⅲ-1-キ-b	〃
9	7／8	再興感染症と新興感染症	感染症の種類と原因微生物	A-4-1-4／総Ⅲ-1-キ-b	〃
10	〃	滅菌と消毒	その種類とその特性	A-4-1-8／必-11-エ-a	〃
11	7／22	自然免疫	特性とその作用メカニズム	A-4-2-1／総Ⅱ-3-エ-a, b	〃
12	〃	獲得免疫	特性とその作用メカニズム	A-4-2-2／総Ⅱ-3-オ-a, b	〃
13	8／19	抗原	抗原の定義とその種類	A-4-2-3／総Ⅱ-3-オ-a, b	〃
14	〃	抗体	抗体の種類とその特性	A-4-2-3／総Ⅱ-3-オ-a	〃
15	9／2	免疫担当細胞Ⅰ	免疫担当細胞の種類	A-4-2-1, 2, 3／総Ⅱ-3-ア	〃
16	〃	免疫担当細胞Ⅱ	免疫担当細胞の特性	A-4-2-1, 2, 3／総Ⅱ-3-ア	〃
17	9／16	サイトカイン	サイトカインの種類	A-4-2-1, 2, 3／必4-ア-g	〃
18	〃	アレルギーⅠ	アレルギーの種類	A-4-2-6／総Ⅲ-1-ク-c	〃
19	10／14	アレルギーⅡ	アレルギーの発症メカニズム	A-4-2-6／総Ⅲ-1-ク-c	〃
20	〃	自己免疫疾患	自己免疫疾患の種類とその発症メカニズム	A-4-2-6／総Ⅲ-1-ク-b	〃
21	11／4	免疫寛容	免疫寛容のメカニズム	A-4-2-5／総Ⅱ-3-オ-a, b	〃
22	〃	粘膜免疫	粘膜免疫の機能と役割	A-4-2-4／総Ⅱ-3-オ-a, b	〃
23	11／18	ワクチン	ワクチンの種類とその役割	A-4-2-7／総Ⅱ-3-オ-a, b	〃
24	〃	口腔細菌	口腔細菌の種類	A-4-1-5／必4-イ-c	〃
25	12／9	齲蝕原性細菌	原因菌の種類とそのメカニズム	A-4-1-5／各Ⅱ-1-ア-a	〃
26	〃	歯周病原性細菌Ⅰ	歯周病原性細菌の種類	A-4-1-5／総Ⅱ-2-イ-b	〃
27	12／23	歯周病原性細菌Ⅱ	歯周病原性細菌の病原性	A-4-1-5／総Ⅱ-2-イ-b	〃
28	〃	口腔真菌・原虫・ウイルス	口腔内の細菌以外の微生物の病原性	A-4-1-5／総Ⅱ-2-イ-b	〃

●口腔病理学

担当者：①遊佐　淳子（病理），村上　　聡（非常勤）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2	4／21	病理学総論（1）	代謝障害，細胞死	A-5-2／総Ⅲ-1-イ	①
3	5／12	腫瘍	腫瘍総論	A-5-6／総Ⅲ-1-コ	〃
4	〃	口腔領域の腫瘍（1）	歯原性腫瘍	D-3-1-6／各Ⅲ-1-オ, 各Ⅲ-2-カ	〃
5	5／26	口腔領域の腫瘍（2）	歯原性腫瘍	D-3-1-6／各Ⅲ-1-オ, 各Ⅲ-2-カ	〃
6	〃	口腔領域の腫瘍（3）	非歯原性腫瘍	D-3-1-6／各Ⅲ-1-オ, 各Ⅲ-2-カ	〃
7	6／16	口腔領域の腫瘍（4）	非歯原性腫瘍	D-3-1-6／各Ⅲ-1-オ, 各Ⅲ-2-カ	〃
8	〃	口腔領域の腫瘍（5）	腫瘍類似疾患，口腔潜在的悪性疾患	D-3-1-6／総Ⅲ-1-コ, 各Ⅲ-1-オ	〃
9 10	6／30	唾液腺疾患（1）	唾液腺腫瘍	D-3-1-8／各Ⅲ-3-ア	〃
11	7／14	唾液腺疾患（2）	唾液腺の非腫瘍性疾患	D-3-1-8／各Ⅲ-3-ア	〃
12	〃	口腔粘膜疾患（1）	口腔粘膜疾患	D-3-1-4／各Ⅲ-1-ク	〃
13 14	8／4	口腔粘膜疾患（2）	口腔粘膜疾患	D-3-1-4／各Ⅲ-1-ク	〃
15 16	9／1	嚢胞（1）	嚢胞	D-3-1-5／各Ⅲ-1-エ, 各Ⅲ-2-オ	〃
17	9／15	嚢胞（2）	嚢胞	D-3-1-5／各Ⅲ-1-エ, 各Ⅲ-2-オ	〃
18	〃	顎骨疾患	顎骨疾患	D-3-1-2, 3／各Ⅲ-2-エ, カ	〃
19 20	10／13	病理学検査	細胞診，組織診	D-2-6／総Ⅵ-3-ア	① ②
21 22	11／10	病理学総論（2）	炎症，循環障害	A-5-4, 5／総Ⅲ-1-オ, カ	〃
23 24	11／24	まとめ（1）	問題演習	A-5, D-3／各Ⅲ-1～4	①
25 26	12／8	まとめ（2）	問題演習	A-5, D-3／各Ⅲ-1～4	〃
27 28	12／22	まとめ（3）	問題演習	A-5, D-3／各Ⅲ-1～4	〃

●歯科薬理学

担当者：①柴田　達也（薬理），②長岡　正博（薬理）
③髙橋文太郎（薬理）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／14	薬物療法の基本（和漢薬を含む）①	薬物療法の種類，投与方法，薬物動態	A-6-2, 3／必11-コ, 総Ⅶ-8-ア, イ	① ② ③
2	4／28	薬物療法の基本②	用量と反応，薬物適用の注意	A-6-2～4／必11-コ, 総Ⅶ-8-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
3	5／19	薬物療法の基本③	作用部位・作用機序	A-6-2／必11-コ，総Ⅶ-8-ア	①②③
4	6／9	薬物療法の基本④	服薬計画・指導，ライフステージと薬物投与	A-6-3／必11-コ，総Ⅶ-8-イ	〃
5	6／23	疾患に応じた薬物療法①	抗感染症薬	A-6／総Ⅶ-8-ウ	〃
6	7／7	疾患に応じた薬物療法②	抗炎症薬	A-6／総Ⅶ-8-ウ	〃
7	7／21	疾患に応じた薬物療法③	鎮痛薬	A-6／総Ⅶ-8-ウ	〃
8	8／25	疾患に応じた薬物療法④	代謝改善薬，ビタミン	A-6／総Ⅶ-8-ウ	〃
9	9／8	疾患に応じた薬物療法⑤	抗腫瘍薬	A-6／総Ⅶ-8-ウ	〃
10	9／29	疾患に応じた薬物療法⑥	止血薬，抗血栓薬	A-6／総Ⅶ-8-ウ	〃
11	10／20	薬物（和漢薬を含む）の有害事象	薬物の副作用と有害反応，薬害	A-6／必7-エ，総Ⅶ-8-イ	〃
12	11／17	まとめ１	国試頻出事項の再確認	A-6／必11-コ，総Ⅶ-8	〃
13	12／1	まとめ２	国試頻出事項の再確認	A-6／必11-コ，総Ⅶ-8	〃
14	12／15	まとめ３（和漢薬を含む）	国試頻出事項の再確認	A-6／必11-コ，総Ⅶ-8	〃

●口腔生理学

担当者：①山崎　信也（生理），②大須賀謙二（生理），③古山　　昭（生理）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／17	循　環	心臓，血管とその調節	A-3-1-4／総Ⅱ-1-ウ	①
2	5／8	呼　吸	呼吸器とその調節	A-3-1-8／総Ⅱ-1-エ	〃
3	5／22	自律神経	交感神経と副交感神経の働き	A-3-1-5／総Ⅱ-1-ク	②
4	6／5	内分泌	ホルモンの産生，分泌，働き	A-3-1-9／総Ⅱ-1-ケ	〃
5	6／19	神経と筋	興奮性細胞の基礎知識	A-3-1-3／必Ⅳ-ア	③
6	7／10	顎反射	顎反射に関わる神経・筋のまとめ	A-3-2-9／総Ⅱ-6-イ	〃
7	7／24	口腔体性感覚	口腔粘膜の体性感覚，味覚	A-3-3-9／総Ⅱ-6-ア	〃
8	8／7	唾　液	唾液分泌調節のメカニズム	A-3-3-6, 7／総Ⅱ-6-カ	②
9	8／28	反射復習	摂食嚥下に関わる生理学的問題対策	A-3-1-5／総Ⅱ-6-イ	③
10	9／25	筋の生理	骨格筋と心筋の頻出問題対策	A-3-1-3／総Ⅱ-1-イ	〃
11	10／16	自律機能要点①	循環・呼吸の調節，頻出項目おさらい	A-3-1-4, 8／総Ⅱ-1-ウ，エ	①
12	10／30	発声と構音	発声・構音のメカニズム要点	A-3-2-14／総Ⅱ-6-ア	②
13	11／20	自律機能要点②	内分泌・消化頻出項目おさらい	A-3-1-5, 9／総Ⅱ-1-ク，ケ	〃
14	12／4	興奮性組織要点	神経・筋基礎項目の国家試験対策	A-3-1／必4-ア	③

●口腔生化学

担当者：①前田　豊信（生化）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／16	細胞外マトリックスⅠ	コラーゲン，接着性糖蛋白質	必4-ア，総Ⅱ-1-ア，イ･-5-イ	①
2	5／7	細胞外マトリックスⅡ	インテグリン，プロテオグリカン	必4-ア，総Ⅱ-1-イ･-5-イ	〃
3	5／21	骨のリモデリングと血清カルシウムⅠ	石灰化，骨吸収，軟骨内骨化	必4-ア，総Ⅱ-1-ケ･-8-ウ	〃
4	6／11	骨のリモデリングと血清カルシウムⅡ	血清カルシウム濃度の調節機構，慢性腎不全	必4-ア，総Ⅱ-1-ケ･-8-ウ	〃
5	6／25	唾液・ペリクル・プラーク	唾液蛋白質の機能，菌体外多糖，プラーク	必4-イ，総Ⅱ-2-イ，-6-カ	〃
6	7／9	血漿蛋白質	肝機能と代謝	必4-ア, 9-エ，総Ⅱ-1-ケ･6-カ，総Ⅵ-4-ア	〃
7	7／23	生体構成成分と代謝Ⅰ	ビタミンと欠乏症	必4-ア，総Ⅳ-1-ケ	〃
8	8／20	生体構成成分と代謝Ⅱ	代謝と血中マーカー	必4-ア，総Ⅵ-4-ア	〃
9	9／3	細胞の老化とアポトーシス細胞周期の制御	テロメラーゼ，アポトーシス	必4-ア･7-ア，総Ⅲ-1-イ	〃
10	10／1	癌	癌遺伝子，癌抑制遺伝子	必4-ア･7-ア	〃
11	10／15	遺伝子検査	検体検査方法	必9-エ，総Ⅵ-3-ア	〃
12	10／29	代謝	エネルギー代謝	必4-ア，総Ⅱ-1-ケ･8-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
13	11／19	核酸	DNA の複製／転写・翻訳	必4-ア，総Ⅲ-1-イ	①
14	12／24	臨床検査値	肝疾患，腎疾患	必9-エ，総Ⅳ-3-ア	〃

●生体材料・歯科材料学

担当者：①石田　喜紀（材料），②齋藤　龍一（材料），③大木　達也（材料）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／9	歯科材料の基本事項（1）	歯科材料の分類と特性	B-1／総Ⅷ-1	①
2	〃	歯科材料の基本事項（2）	歯科材料の分類と特性	B-1／総Ⅷ-1	〃
3	4／23	歯科材料の基本事項（3）	歯科材料の分類と特性	B-1／総Ⅷ-1	〃
4	〃	歯科材料の基本事項（4）	歯科材料の分類と特性	B-1／総Ⅷ-1	〃
5	5／14	成形修復材料（1）	特性と接着性	B-2-1／総Ⅷ-5-ア	②
6	〃	成形修復材料（2）	特性と接着性	B-2-1／総Ⅷ-5-ア	〃
7	5／28	接着・合着材（1）	成分と特性	B-2-3／総Ⅷ-8, 9	〃
8	〃	接着・合着材（2）	成分と特性	B-2-3／総Ⅷ-8, 9	〃
9	6／18	印象材（1）	成分と特性	B-3-4／総Ⅷ-3, 4	③
10	〃	印象材（2）と模型材	成分と特性	B-3-4／総Ⅷ-3, 4	〃
11	7／2	金属の成形技術（1）	鋳造関連材料の特性	B-3-1／総Ⅷ-7-ウ	①
12	〃	金属の成形技術（2）	鋳造関連材料の特性	B-3-1／総Ⅷ-7-ウ	〃
13	7／16	金属材料（1）	金属材料の特性	B-3-1／総Ⅷ-6-ウ	〃
14	〃	金属材料（2）	金属材料の特性	B-3-1／総Ⅷ-6-ウ	〃
15	8／6	診療用器械	各機械の特性	B-3-2, 3／総Ⅷ-2	②
16	〃	歯内療法用材料	組成と特性	B-2-5／総Ⅷ-5-ウ	〃
17	8／27	歯冠色材料（1）	歯冠材料の性質と成形	B-3-1, 4／総Ⅷ-6, 7	①
18	〃	歯冠色材料（2）	歯冠材料の性質と成形	B-3-1, 4／総Ⅷ-6, 7	〃
19	9／24	歯冠色材料（3）	歯冠材料の性質と成形	B-3-1, 4／総Ⅷ-6, 7	〃
20	〃	歯冠色材料（4）	歯冠材料の性質と成形	B-3-1, 4／総Ⅷ-6, 7	〃
21	10／8	義歯用材料（1）	成分，特性および成形法	B-2-2／総Ⅷ-6, 7	③
22	〃	義歯用材料（2）	成分，特性および成形法	B-2-2／総Ⅷ-6, 7	〃
23	10／22	インプラント用材料	各材料の特性	B-2-6／総Ⅷ-11	①
24	〃	矯正用材料	各材料の特性	B-2-4／総Ⅷ-10	〃
25	11／12	総合講義（1）	材料のまとめ	B-1～3／総Ⅷ	②
26	〃	総合講義（2）	材料のまとめ	B-1～3／総Ⅷ	〃
27	11／26	総合講義（3）	材料のまとめ	B-1～3／総Ⅷ	〃
28	〃	総合講義（4）	材料のまとめ	B-1～3／総Ⅷ	〃

●保存修復学

担当者：①山田　嘉重（修復），②菊井　徹哉（修復）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／14	保存修復学概論	硬組織疾患および歯質の保護と修復の目的	D-3-2-1／必-5-ウ-a，総Ⅷ-2-ア-a，各Ⅱ-1-ウ	②
2	〃	歯の診査・診断治療計画	歯の診査方法，検査機器，治療計画	D-4-2，E-2-2-3／必9-オ-a，総Ⅷ-2-ア-a，各Ⅱ-1-ウ	〃
3	〃	総括 第1回卒業試験の解説	問題演習および第1回卒業試験－1の解説	D-3-2-1，D-4-2，必-5-ウ-a，総Ⅷ-2-ア-a	〃
4	4／28	齲蝕・齲蝕病巣	齲蝕の病因，発症要因，エナメル質齲蝕の特徴	D-3-2-1／必-6-ィ-a，総Ⅲ-2-ア-b，各Ⅱ-1-ア-a，各Ⅱ-1-ウ	①
5	〃	齲蝕・齲蝕病巣	象牙質齲蝕，根面齲蝕の特徴	D-3-2-1／必-6-ィ-a，総Ⅲ-2-ア-b，各Ⅱ-1-ア-a Ⅱ-1	〃
6	〃	齲蝕の処置	齲蝕病巣の病理，齲蝕歯質の検知	D-3-2-1／必-6-ィ-a，総Ⅲ-2-ア-b，各Ⅱ-1-ア-a	〃
7	5／19	窩洞形成・印象採得	窩洞の具備条件，窩洞形成法，印象採得・材料	E-5-3-1-2，E-5-3-1-4／必-11-ケ-b，総-7-2-ア-b，各Ⅱ-1-ウ-a	②
8	〃	齲蝕以外の硬組織疾患	咬耗症，磨耗症，酸蝕症，硬組織の加齢変化等による疾患	D-3-2-1／必-7-ィ-b 総Ⅲ-2-ア-b，各Ⅱ-1-ア-d	〃
9	〃	総括	問題演習および解説	D-3-2-1／必-7-ィ-b 総Ⅲ-2-ア-b，各Ⅱ-1-ア-d	〃
10	6／9	歯科用セメント概要	合着用および修復用歯科用セメントの種類と特徴	B-2-1／必-11-ケ-b，総Ⅷ-5-ア-b，各Ⅱ-1-ウ-a	①

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
11	6／9	従来型グラスアイオノマーセメントセメント修復	従来型グラスアイオノマーセメントの特徴	E-5-3-1-3／必-11-ケ-b, 総Ⅷ-5-ア-b, 各Ⅱ-1-ウ-a	①
12	〃	レジン添加型グラスアイオノマーセメント修復	レジン添加型グラスアイオノマーセメントの特徴	E-5-3-1-3／必-11-ケ-b, 総Ⅷ-5-ア-b, 各Ⅱ-1-ウ-a, 8	〃
13	6／23	歯冠修復に用いる補助器具	修復補助法と補助器具	B-3-2／必-11-ケ-b, 総Ⅷ-5-ア-a, 各Ⅱ-1-ウ-a	②
14	〃	硬組織切削	器具手用切削器具，回転切削器具，その他の切削方法	B-3-2／総Ⅷ-2-ア-b, 総-7-9-エ, 各Ⅱ-1-ア-a	〃
15	〃	総括	問題演習および解説	B-3-2／総Ⅷ-2-ア-b, 総-7-9-エ, 各Ⅱ-1-ア-a	〃
16	7／7	メタルインレー修復	メタルインレー修復の特徴	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b, 総Ⅷ-5-ア-a, 各Ⅱ-1-ウ-b	〃
17	〃	メタルインレー修復	メタルインレー修復の臨床	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b, 総Ⅷ-5-ア-a, 各Ⅱ-1-ウ-b	〃
18	〃	総括	問題演習および解説	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b, 総Ⅷ-5-ア-a, 各Ⅱ-1-ウ-b	〃
19	7／21	コンポジットレジン修復①	コンポジットレジンとMMAレジンの差異と物性的特徴	B-2-1／必-11-セ-e, 総Ⅷ-5-ア-a, 各Ⅱ-1-ウ-a	①
20	〃	コンポジットレジン修復②	コンポジットレジン修復に必要な歯面処理	B-2-4／必-11-セ-f, 総Ⅷ-8, 各Ⅱ-1-ウ-a	〃
21	〃	コンポジットレジン修復③	コンポジットレジン修復の手順および必要器具	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b, 総Ⅷ-5-ア-a, 各Ⅱ-1-ウ-a	〃
22	8／25	コンポジットレジン修復④	歯冠修復前の前処置（裏層と覆髄）	B-2-1／必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各Ⅱ-1-ウ-a1	〃
23	〃	コンポジットレジン修復⑤	歯冠修復後に生じる問題への対応法	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b, 総Ⅷ-5-ア-a, 各Ⅱ-1-ウ-a	〃
24	〃	コンポジットレジン修復⑥	国試および過去の模試問題の解説	E-5-3-1-1／必-11-ケ-b, 総Ⅷ-5-ア-a, 各Ⅱ-1-ウ-a	〃
25	9／8	歯冠修復に用いる接着技術	各種接着面処置，歯質接着材の種類，特徴	B-2-4／必-11-セ-f, 総Ⅷ-8, 各Ⅱ-1-ウ-a	②
26	〃	補修修復	補修修復処置（金属，セラミックプライマー等）	E-5-3-1-6/総Ⅶ-2-ア-a, 各Ⅱ-1-ウ	〃
27	〃	総括	問題演習	E-5-3-1／必-11-ケ-b, 総Ⅶ-2-ア-a, 各Ⅱ-1-ウ	〃
28	9／29	レジンインレー修復	レジンインレーの特徴および窩洞の具備条件	E-5-3-1-5／必-11-ケ-b, 総Ⅶ-2-ア-a, 各Ⅱ-1-ウ	①
29	〃	セラミックインレー修復	セラミックインレーの特徴および窩洞の具備条件	E-5-3-1-5／必-11-ケ-b, 総Ⅶ-2-ア-a, 各Ⅱ-1-ウ	〃
30	〃	ラミネートベニア修復	ラミネートベニア修復の種類と処置法	E-5-3-1-5／必-11-ケ-b, 各Ⅱ-1	〃
31	10／20	合着材	従来型歯科用セメントの種類と適応症	B-2-4／必-11-セ-f, 総Ⅷ-8, 各Ⅱ-1-ウ-a	②
32	〃	合着材	レジン系歯科用セメントの種類と適応症	B-2-4／必-11-セ-f, 総Ⅷ-8, 各Ⅱ-1-ウ-a	〃
33	〃	歯冠修復法の総括 第１回卒業試験の解説	問題演習および第２回卒業試験の解説	B-2-4／必-11-セ-f, 総Ⅷ-8, 各Ⅱ-1-ウ-a	〃
34	11／17	外部模試解説（１）	１回目から４回目まで	E-5-3-1／必-11-ケ-b, 総Ⅶ-2-ア-a, 各Ⅱ-1-ウ	〃
35	〃	外部模試解説（２）	１回目から４回目まで	D-3-2-1／必-7-ィ-b 総Ⅲ-2-ア-b, 各Ⅱ-1-ア-d	〃
36	〃	第２回卒業試験対策（１）	第２回卒業試験に向けての対策講義－１	B-3-2／総Ⅷ-2-ア-b, 総-7-9-エ, 各Ⅱ-1-ア-a	〃
37	12／1	保存修復学のまとめ①	過去の外部模試を含めた問題解説①	E-5-3-1／必-11-ケ-b, 総Ⅷ-5-ア-a, 各Ⅱ-1-ウ	①
38	〃	保存修復学のまとめ②	過去の外部模試を含めた問題解説②	E-5-3-1／必-11-ケ-b, 総Ⅶ-2-ア-a, 各Ⅱ-1-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
39	12／1	第２回卒業試験対策（２）	第２回卒業試験に向けての対策講義－２	E-5-3-1／必-11-ケ-b,総Ⅶ-2-ア-a,各Ⅱ-1-ウ	①
40	12／15	第３回卒業試験対策（１）	第３回卒業試験対策に向けての講義（１）	E-5-3-1／必-11-ケ-b,総Ⅶ-2-ア-a,各Ⅱ-1-ウ	②
41	〃	歯科用得レーザー	歯科用レーザー装置の種類，特徴，適応症	E-5-3-1／必-11-ケ-b,総Ⅶ-2-ア-a,各Ⅱ-1-ウ	〃
42	〃	保存修復学のまとめ②	国家試験直前対策	E-5-3-1／必-11-ケ-b,総Ⅶ-2-ア-a,各Ⅱ-1-ウ	〃

●歯内療法学

担当者：①佐藤　穏子（歯内），②長﨑　慶太（歯内），
③金澤　朋昭（歯内）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／22	歯内療法学概論	総論	D-5-2／各Ⅱ-2-ア，イ	①
2	〃	歯の構造	歯・歯周組織の構造と機能	A-3-4-4, 5, 6／総Ⅱ-5-ア，イ	〃
3	〃	硬組織疾患	硬組織疾患	D-3-2-1／各Ⅱ-1-ア，イ，ウ	〃
4	5／20	診査法	歯内治療における基本術式の概要（診査・検査）	D-2-2-1／必8-イ-a,総Ⅵ-1-ア-a, b	〃
5	〃	診査法	歯内治療における基本術式の概要（診査・検査）	D-2-2-1／必8-イ-a,総Ⅵ-1-ア-a, b	〃
6	〃	診査法	歯内治療における基本術式の概要（診査・検査）	D-2-2-1／必8-イ-a,総Ⅵ-1-ア-a, b	〃
7	6／10	歯髄疾患	歯髄疾患の原因	D-5-2-2／必6-イ-b,必7-イ-c,各Ⅱ-2-ア-a,イ-b, c	〃
8	〃	歯髄疾患	歯髄疾患の診断	D-5-2-2／必6-イ-b,必7-イ-c,各Ⅱ-2-ア-a,イ-b, c	〃
9	〃	歯髄疾患	歯髄疾患の治療	D-5-2-2／必6-イ-b,必7-イ-c,各Ⅱ-2-ア-a,イ-b, c	〃
10	6／24	根尖性歯周疾患	根尖性歯周疾患の原因	D-5-2-2／必6-イ-b,必7-イ-c,各Ⅱ-2-ア-b,イ-c	①
11	〃	根尖性歯周疾患	根尖性歯周疾患の診断	D-5-2-2／必6-イ-b,必7-イ-c,各Ⅱ-2-ア-b,イ-c	〃
12	〃	根尖性歯周疾患	根尖性歯周疾患の治療	D-5-2-2／必6-イ-b,必7-イ-c,各Ⅱ-2-ア-b,イ-c	〃
13	7／8	根管処置	髄室開拡	D-5-2-2／各Ⅱ-2-イ-d	②
14	〃	根管処置	根管形成	D-5-2-2／各Ⅱ-2-イ-d	〃
15	〃	根管処置	清掃，消毒等	D-5-2-2／各Ⅱ-2-イ-d	〃
16	7／22	根管充塡	根管充塡の時期	D-5-2-2-2／各Ⅱ-2-イ-e	①
17	〃	根管充塡	根管充塡材の所用性質	D-5-2-2-2／各Ⅱ-2-イ-e	〃
18	〃	根管充塡	根管充塡の術式	D-5-2-2-2／各Ⅱ-2-イ-e	〃
19	8／19	臨床実地問題	歯髄疾患，根尖性歯周組織疾患に関する臨実	D-5-2-2／必6-イ-b,必7-イ-c,各Ⅱ-2-ア-a,イ-b, c	〃
20	〃	臨床実地問題	歯髄疾患，根尖性歯周組織疾患に関する臨実	D-5-2-2／必6-イ-b,必7-イ-c,各Ⅱ-2-ア-b,イ-c	〃
21	〃	臨床実地問題	歯髄疾患，根尖性歯周組織疾患に関する臨実	D-5-2-2／必6-イ-b,必7-イ-c,各Ⅱ-2-ア-b,イ-c	〃
22	9／2	根未完成歯と外傷歯	根未完成歯	D-5-6-4／各Ⅱ-2-イ-f	③
23	〃	根未完成歯と外傷歯	歯根の病的吸収	D-5-2-2-7／各Ⅱ-2-ア-e,イ-h	〃
24	〃	根未完成歯と外傷歯	外傷歯	D-3-1-2／各Ⅰ-4-ア-b,各Ⅱ-2-ア-d	〃
25	9／16	外科的歯内治療	外科的歯内治療と顕微鏡を応用した歯内治療	D-5-2-2-5／各Ⅱ-2-イ-g	②
26	〃	外科的歯内治療	外科的歯内治療と顕微鏡を応用した歯内治療	D-5-2-2-5／各Ⅱ-2-イ-g	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
27	9／16	外科的歯内治療	外科的歯内治療と顕微鏡を応用した歯内治療	D-5-2-2-5／各Ⅱ-2-イ-g	②
28	10／14	臨床実地問題	根未完成歯と外科的歯内治療に関する臨実	D-5-6-4／各Ⅱ-2-イ-f	③
29	〃	臨床実地問題	根未完成歯と外科的歯内治療に関する臨実	D-3-1-2／各Ⅰ-4-ア-b, 各Ⅱ-2-ア-d	〃
30	〃	臨床実地問題	根未完成歯と外科的歯内治療に関する臨実	D-5-2-2-5／各Ⅱ-2-イ-g	〃
31	11／4	漂白，歯内－歯周疾患	漂白法	D-5-2-2-6／各Ⅱ-1-ウ-f	②
32	〃	漂白，歯内－歯周疾患	歯内－歯周疾患	D-5-2-2／各Ⅱ-2-ア-c	〃
33	〃	漂白，歯内－歯周疾患	高齢者の歯内治療	D-5-2-2／総Ⅴ-5, 6, 各Ⅴ-6-ア	〃
34	11／18	偶発症	根管処置後の歯冠修復	D-5-2-2／各Ⅱ-2-イ-j	〃
35	〃	偶発症	安全対策	D-5-2-2／各Ⅱ-2-イ-j	〃
36	〃	偶発症	安全対策	D-5-2-2／各Ⅱ-2-イ-j	〃
37	12／9	臨床実地問題	漂白，歯内－歯周疾患，偶発症に関する臨実	D-5-2-2-6／各Ⅱ-1-ウ-f	〃
38	〃	臨床実地問題	漂白，歯内－歯周疾患，偶発症に関する臨実	D-5-2-2／各Ⅱ-2-ア-c	〃
39	〃	臨床実地問題	漂白，歯内－歯周疾患，偶発症に関する臨実	D-5-2-2／総Ⅴ-5, 6, 各Ⅴ-6-ア	〃
40	12／23	総まとめ	歯髄疾患，根尖性歯周炎，根管処置，根管充塡，根未完成歯，外傷歯，変色歯の漂白，歯内－歯周病変，高齢者・有病者の歯内治療，安全対策	D-5-2-2／必6-イ-b, 必7-イ-c, 総Ⅴ-5, 6, 各Ⅱ-2-ア-a, b, c, d, イ-b, c, d, e, j, 各Ⅴ-6-ア D-5-2-2-2／各Ⅱ-2-イ-e D-5-2-2-6／各Ⅱ-1-ウ-f D-5-6-4／各Ⅱ-2-イ-f D-3-1-2／各Ⅰ-4-ア-b, 各Ⅱ-2-ア-d	①
41	12／23	総まとめ	歯髄疾患から根尖性歯周炎，根管処置，根管充塡，根未完成歯，外傷歯，変色歯の漂白，歯内－歯周病変，高齢者・有病者の歯内治療，安全対策	D-5-2-2／必6-イ-b, 必7-イ-c, 総Ⅴ-5, 6, 各Ⅱ-2-ア-a, b, c, d, イ-b, c, d, e, j, 各Ⅴ-6-ア D-5-2-2-2／各Ⅱ-2-イ-e D-5-2-2-6／各Ⅱ-1-ウ-f D-5-6-4／各Ⅱ-2-イ-f D-3-1-2／各Ⅰ-4-ア-b, 各Ⅱ-2-ア-d	①
42	〃	総まとめ	歯髄疾患から根尖性歯周炎，根管処置，根管充塡，根未完成歯，外傷歯，変色歯の漂白，歯内－歯周病変，高齢者・有病者の歯内治療，安全対策	D-5-2-2／必6-イ-b, 必7-イ-c, 総Ⅴ-5, 6, 各Ⅱ-2-ア-a, b, c, d, イ-b, c, d, e, j, 各Ⅴ-6-ア D-5-2-2-2／各Ⅱ-2-イ-e D-5-2-2-6／各Ⅱ-1-ウ-f D-5-6-4／各Ⅱ-2-イ-f D-3-1-2／各Ⅰ-4-ア-b, 各Ⅱ-2-ア-d	〃

●歯周病学

担当者：①臼井　通彦（歯周），②高橋　昌宏（歯周）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／13	歯周組織の解剖	歯周組織の解剖における基本的重要項目	A-3-4／総Ⅱ5-イ-b, 総Ⅳ 2-イ	① ②
2	〃	歯周診査	歯周病の診査方法	E-2-2-5(Ia)／総Ⅵ-1ア-c／各Ⅲ-9ア	〃
3	〃	リスクファクター	歯周病に関わるリスクの考え方	D-3-2-3, D-5-2-3-1／各論Ⅱ3-ア-a, b	〃
4	4／27	宿主応答	歯周炎における宿主応答の特徴	E-3-3)-(3)-②／総Ⅵ-11イ	〃
5	〃	歯周医学	歯周医学の基本的重要項目	D-5-2-3-1／各論Ⅱ3-ア-h	〃
6	〃	歯周病の病因論	病因論の基本的重要項目	D-3-2-3／総Ⅲ 2-アb	〃
7	5／18	レントゲン画像の読影	レントゲン写真の読影方法	E-2-2-5(Ia)／総Ⅵ-1ア-c／各Ⅲ-9ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
8	5／18	口腔内写真の読み方	口腔内写真の読み取り方	E-2-2-5(Ia)／総Ⅵ-1ア-c／各Ⅲ-9ア	①②
9	〃	臨床データの読みとり方	歯周病の検査結果の解釈	E-2-2-5(Ia)／総Ⅵ-1ア-c／各Ⅲ-9ア	〃
10	6／8	診査と診断	過去の問題を解いて知識の定着を図る	E-2-2-5(Ia)／総Ⅵ-1ア-c／各Ⅲ-9ア	〃
11	〃	歯周基本治療	歯周基本治療の基本的重要項目	D-1-1／各論Ⅱ3-ウ-a	〃
12	〃	歯周基本治療	過去の問題を解いて知識の定着を図る	D-5-3-3-2／各論Ⅱ3-ウ-b	〃
13	6／22	歯周基本治療	歯周基本治療の基本的重要項目	D-5-3-3-3／総Ⅶ8-イ，各論Ⅱ3-ウ-i	〃
14	〃	歯周基本治療	過去の問題を解いて知識の定着を図る	D-5-2-3-5／各論Ⅱ3-ウ-c	〃
15	〃	歯周外科療法	歯周外科治療の基本的重要項目	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-e	〃
16	7／6	歯周外科療法	歯周外科治療の基本的重要項目	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-e	〃
17	〃	歯周外科療法	過去の問題を解いて知識の定着を図る	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-e	〃
18	〃	歯周外科療法	過去の問題を解いて知識の定着を図る	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-d	〃
19	8／3	臨床推論	臨床思考の技術の習得を図る	E-3-1, 2／総Ⅴ-1ア	〃
20	〃	臨床推論	臨床思考の技術の習得を図る	E-3-1, 2／必須3-ケa, b, c	〃
21	〃	臨床推論	臨床思考の技術の習得を図る	E-3-1, 2／必須3-ケa, b, c	〃
22	8／24	根分岐部病変	根分岐部病変における基本的重要項目	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-g	〃
23	〃	根分岐部病変	根分岐部病変における基本的重要項目	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-g	〃
24	〃	歯内－歯周複合病変	歯内－歯周複合病変における基本的重要項目	D-5-2-3-4,／各Ⅲ-9カ	〃
25	9／7	歯周形成外科	遊離歯肉移植術，小帯切除等	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-f	〃
26	〃	歯周形成外科	根面被覆	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-f	〃
27	9／7	歯周形成外科	歯肉弁根尖側移動術，臨床的歯冠長延長術	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-f	①②
28	9／28	必須問題	歯周病学の必須問題 歯科英語	E-5-3-3／	〃
29	〃	歯周疾患の分類	慢性歯周炎と侵襲性歯周炎の特徴と症状	D-5-2-3-1／各論Ⅱ3-ア-a, b, c	〃
30	〃	歯周疾患の分類	特殊な歯周疾患（歯肉炎を含む）	D-5-2-3-1／各論Ⅱ3-ア-a, c	〃
31	10／26	SPT	SPTにおける基本的重要項目	D-5-3-3-6／各論Ⅱ3-ウ-j	〃
32	〃	疫学	歯周病の疫学問題	E-3-3)-(3)-⑤／総Ⅴ-1オ／総Ⅹ-1ア，イ，ウ，エ	〃
33	〃	口臭	口臭における基本的重要項目	E-3-3)-(3)-⑥／総Ⅵ-1ア-f	〃
34	11／9	歯周基本治療	過去の問題を解いて知識の定着を図る	E-5-3-3-1（Ⅰa)／各論Ⅱ3-イ-a, b, c, d, e, 各論Ⅱ3-ウ-b	〃
35	〃	歯周外科療法	過去の問題を解いて知識の定着を図る	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-e	〃
36	〃	歯周外科療法	過去の問題を解いて知識の定着を図る	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-e	〃
37	11／30	歯周形成外科	過去の問題を解いて知識の定着を図る	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-f	〃
38	〃	歯周形成外科	過去の問題を解いて知識の定着を図る	D-5-2-3-4／各論Ⅱ3-ウ-f	〃
39	〃	臨床問題の解き方	過去の問題を解いて知識の定着を図る	D-5-2-3-2,／必12-アc, ウa	〃
40	12／14	臨床問題の解き方	過去の問題を解いて知識の定着を図る	D-5-2-3-2,／必12-アc, ウa	〃
41	〃	臨床問題の解き方	過去の問題を解いて知識の定着を図る	D-5-2-3-2,／必12-アc, ウa	〃
42	〃	臨床問題の解き方	過去の問題を解いて知識の定着を図る	D-5-2-3-2,／必12-アc, ウa	〃

●冠橋義歯補綴学

担当者：①羽鳥　弘毅（冠橋），②冨士　岳志（冠橋），
③内田　光洋（冠橋）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／10	冠橋義歯補綴学の意義と目的	冠橋義歯補綴学の意義と目的	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	①
2	〃	咬合・咀嚼障害	咬合・咀嚼障害	E-5-3／各Ⅳ-1-ア，イ，ウ，エ，オ	〃
3	〃	クラウンブリッジの要件	クラウンブリッジに求められる要件	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	〃
4	4／24	クラウンの種類と分類	クラウンの種類と分類	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	〃
5	〃	ブリッジの種類と構成	ブリッジの固定方法とポンティック基底面形態	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	〃
6	〃	ブリッジの設計	支台歯，支台装置とポンティックの選択	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	〃
7	5／15	支台歯形成①	支台歯形成の原則	E-5-3／各Ⅳ-3-イ	③
8	〃	支台歯形成②	支台歯の基本形態	E-5-3／各Ⅳ-3-イ	〃
9	〃	印象採得①	印象材，印象採得器材	E-5-3／各Ⅳ-3-イ	①
10	5／29	印象採得②	印象の前準備印象法	E-5-3／各Ⅳ-3-イ	〃
11	〃	顎間関係の記録①	咬合関係の記録と決定	E-5-3／各Ⅳ-3-イ	〃
12	〃	顎間関係の記録②	頭蓋に対する上顎の位置記録	E-5-3／各Ⅳ-3-イ	〃
13	6／12	フィードバック	1～12回の講義内容	E-5-3／各Ⅳ-3-ア，イ，ウ	〃
14	〃	作業用模型	作業用模型の要件と種類	E-5-3／各Ⅳ-3-ウ	②
15	〃	ワックスパターン形成	ワックスパターン形成の要件と形成法	E-5-3／各Ⅳ-3-ウ	〃
16	7／3	埋没・鋳造熱処理・研磨	埋没法，鋳造収縮の補償鋳造欠陥，後処理	E-5-3／各Ⅳ-3-ウ	〃
17	〃	レジン前装冠①	レジン前装冠の臨床的意義	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	①
18	〃	レジン前装冠②	レジンと金属の結合	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	〃
19	7／17	ハイブリッド型コンポジットレジンクラウン	ハイブリッド型コンポジットレジンクラウンの適応症と禁忌症	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	③
20	7／17	陶材焼付冠①	陶材焼付冠の臨床的意義	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	①
21	〃	陶材焼付冠②	陶材と金属の結合	E-5-3／各Ⅳ-3-ウ	〃
22	7／31	オールセラミッククラウン	オールセラミッククラウンの適応症と禁忌症	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	〃
23	〃	従来型ブリッジ①	従来型ブリッジの種類	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	②
24	〃	従来型ブリッジ②	従来型ブリッジの連結法	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	〃
25	8／21	フィードバック	14～21回の講義内容	E-5-3／各Ⅳ-3-ア，イ，ウ	〃
26	〃	接着ブリッジ①	接着ブリッジの適応症と製作法	E-5-3／各Ⅳ-3-ア	〃
27	〃	接着ブリッジ②	接着ブリッジの適応症と製作法	E-5-3／各Ⅳ-3-ウ	〃
28	9／4	支台築造①	支台築造の臨床的意義と種類	E-5-3／各Ⅳ-3-イ	①
29	〃	支台築造②	支台築造の方法	E-5-3／各Ⅳ-3-イ	〃
30	〃	プロビジョナルレストレーション	プロビジョナルレストレーションの臨床的意義と種類	E-5-3／各Ⅳ-3-イ	③
31	10／9	前処置①	予防的・外科的処置	E-5-3／各Ⅳ-3-イ	①
32	〃	前処置②	矯正的・補綴的処置	E-5-3／各Ⅳ-3-イ	〃
33	〃	CAD/CAMによるクラウンブリッジの製作①	歯科におけるCAD/CAM	E-5-3／各Ⅳ-3-イ	〃
34	10／23	CAD/CAMによるクラウンブリッジの製作②	CAD/CAMによるクラウンブリッジの製作②	E-5-3／各Ⅳ-3-イ	〃
35	〃	フィードバック	22～30回の講義内容	E-5-3／各Ⅳ-3-ア，イ，ウ	〃
36	〃	口腔内試適・装着	口腔内試適の手順	E-5-3／各Ⅳ-3-イ	②
37	11／13	術後管理	術後管理の重要性と方法	E-5-3／各Ⅳ-3-ア，イ，ウ	〃
38	〃	装着後に発生する問題と対応	装着後に発生する問題とその対応	E-5-3／各Ⅳ-3-ア，イ，ウ	〃
39	〃	高齢者・要介護者への適用	超高齢社会におけるクラウンブリッジの役割と注意点	E-5-3／各Ⅳ-3-ア，イ，ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
40 41	11／27	冠橋義歯補綴学の要点の再点検①	外部模試問題解説など	E-5-3／各Ⅳ-3-ア，イ，ウ	②
42	〃	冠橋義歯補綴学の要点の再点検②	外部模試問題解説など	E-5-3／各Ⅳ-3-ア，イ，ウ	①

●有床義歯補綴学

担当者：①髙津　匡樹（有床）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2	4／13	全部床義歯学1	全部床義歯学概要，第119回国家試験問題解説	D-5-3-2／各Ⅳ-2-ア～エ，各Ⅳ-5-ア～ウ	①
3 4	4／20	全部床義歯学2	診察・検査と前処置	D-5-3-2／各Ⅳ-2-ア～エ，各Ⅳ-5-ア，イ	〃
5 6	5／11	全部床義歯学3	印象採得	D-5-3-2／各Ⅳ-5-イ，ウ	〃
7 8	5／13	全部床義歯学4	咬合採得	D-5-3-2／各Ⅳ-5-イ，ウ	〃
9 10	5／18	全部床義歯学5	下顎運動の記録と咬合器調節	D-5-3-2／各Ⅳ-5-イ，ウ	〃
11 12	5／27	全部床義歯学6	人工歯の選択と排列	D-5-3-2／各Ⅳ-5-イ，ウ	〃
13 14	6／8	全部床義歯学7	第1回卒業試験問題解説（E～H）	D-5-3-2／各Ⅳ-2-ア～エ，各Ⅳ-5-ア～ウ	〃
15 16	6／15	全部床義歯学8	歯肉形成，ろう義歯試適	D-5-3-2／各Ⅳ-5-イ，ウ	〃
17 18	6／22	全部床義歯学9	重合～咬合調整，義歯の装着と管理	D-5-3-2／各Ⅳ-5-イ，ウ，各Ⅳ-8-イ	〃
19 20	6／29	全部床義歯学10	義歯装着後の経過観察	D-5-3-2／各Ⅳ-8-オ	〃
21 22	7／6	全部床義歯学11	特殊な義歯	D-5-3-2／各Ⅳ-5-ア～ウ	〃
23 24	7／13	全部床義歯学12	全部床義歯学解説	D-5-3-2／各Ⅳ-5-ア～ウ	〃
25 26	8／3	全部床義歯学13	第1回卒業試験問題解説（I～L）	D-5-3-2／各Ⅳ-2-ア～エ，各Ⅳ-5-ア～ウ	〃
27 28	8／10	部分床義歯学1	全部床義歯学概要，診察・検査と分類	D-5-3-2／各Ⅳ-2-ア～エ，各Ⅳ-4-ア，イ	〃
29 30	8／24	部分床義歯学2	前処置	D-5-3-2／各Ⅳ-4-イ	〃
31 32	8／31	部分床義歯学3	支持様式と印象採得	D-5-3-2／各Ⅳ-4-イ，ウ	〃
33 34	9／7	部分床義歯学4	サベイングと設計	D-5-3-2／各Ⅳ-4-イ，ウ	〃
35 36	9／14	部分床義歯学5	支台装置と連結装置	D-5-3-2／各Ⅳ-4-イ，ウ	〃
37 38	9／28	部分床義歯学6	フレームワークとろう義歯試適	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ア～ウ	〃
39 40	10／19	部分床義歯学7	第1回卒業試験問題解説（N～P）	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ア～ウ	①
41 42	10／26	部分床義歯学8	埋没・重合と義歯装着	D-5-3-2／各Ⅳ-4-イ，ウ，各Ⅳ-8-イ	〃
43 44	11／2	部分床義歯学9	義歯装着後の経過観察	D-5-3-2／各Ⅳ-8-オ	〃
45 46	11／9	部分床義歯学10	特殊な義歯	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ア～ウ	〃
47 48	11／16	部分床義歯学11	部分床義歯学解説	D-5-3-2／各Ⅳ-4-ア～ウ	〃
49 50	11／30	有床義歯学演習1	必修問題	D-5-3-2／必11-ケ	〃
51 52	12／7	有床義歯学演習2	第2回卒業試験問題解説	D-5-3-2／各Ⅳ-5-ア～ウ	〃
53 54	12／14	有床義歯学演習3	症例演習	D-5-3-2／各Ⅳ-5-ア～ウ	〃
55 56	12／21	有床義歯学総括	解説	D-5-3-2／各Ⅳ-5-ア～ウ	〃

●口腔インプラント学

担当者：①高橋　昌宏（歯周），②保田　　穣（イン）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／15	口腔インプラント学総論1	オーバービュー：口腔インプラント学の全容	D-5-3-3／各Ⅳ-6-ア～ウ	①
2	5／13	口腔インプラント学総論2	これだけは覚えておきたい基礎知識	D-5-3-3／各Ⅳ-6-ア～ウ	〃
3	5／20	インプラント関連必修対策	インプラントと天然歯の違いを理解する	D-5-3-3／各Ⅳ-6-ア	〃
4	6／17	診察・検査・診断	リスクファクターと必須検査項目との関係	D-5-3-3／各Ⅳ-6-ア	②
5	7／1	治療計画1	補綴主導型治療の手順	D-5-3-3／各Ⅳ-6-ア，イ	〃
6	7／15	治療計画2	計画通りに施術するための工夫	D-5-3-3／各Ⅳ-6-ア	〃
7	8／5	外科処置1	インプラント外科にかかわる硬・軟組織管理①	D-5-3-3／各Ⅳ-6-イ	①
8	8／19	外科処置2	インプラント外科にかかわる硬・軟組織管理②	D-5-3-3／各Ⅳ-6-イ	〃
9	9／9	補綴処置1	上部構造の固定方法の特徴	D-5-3-3／各Ⅳ-6-イ	〃
10	9／30	補綴処置2	インプラント印象方法	D-5-3-3／各Ⅳ-6-イ，ウ	〃
11	10／21	術後管理	口腔衛生と咬合の管理	D-5-3-3／各Ⅳ-8-オ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
12	11／11	術後のトラブル対策	外科処置にかかわる重篤な偶発症と対策	D-5-3-3／各Ⅳ-6-イ	①
13	11／18	まとめ①	振り返り講義	D-5-3-3／各Ⅳ-6-ア，イ	〃
14	12／16	まとめ②	試験問題解説	D-5-3-3／各Ⅳ-6-ア～ウ	〃

●歯科矯正学

担当者：①川鍋　　仁（矯正），②山野辺晋也（矯正），
③松村　賢史（矯正），④根本奈央子（矯正），
⑤荻野　早紀（矯正）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	4／17	診査，検査，診断①	診査，検査法分析，資料の総合的評価を説明する	E-5-4／各Ⅰ-6	① ④
4 5 6	5／8	診査，検査，診断②	診断，治療方針の立案に至る過程を説明する	E-5-4／各Ⅰ-6	〃
7 8 9	5／22	成長発育	発生と成長発育について説明する	A-2-4／総Ⅱ-7-イ，総Ⅱ-8-ア	③
10 11 12	6／5	口蓋裂，顎機能異常，顎変形症	口蓋裂・顎変形症について説明する	D-5-5-3／各Ⅰ-10-エオ	① ⑤
13 14 15	6／19	歯科矯正用材料・器具	矯正歯科治療に使用される材料，器具について説明する	D-5-5-4／総Ⅷ-10-ア～オ	③
16 17 18	7／10	矯正装置	矯正装置について説明する	D-5-5-4／各Ⅰ-9-ア～キ	②
19 20 21	7／24	歯の移動と組織変化	矯正歯科治療にて生じる生体反応について説明する	D-5-5／各Ⅰ-8	① ⑤
22 23 24	8／7	上顎前突の治療	上顎前突の治療を実際の症例を通じて理解する。	D-5-5-3/各Ⅰ-10-	②
25 26 27	8／28	叢生の治療	叢生の治療を実際の症例を通じて理解する	D-5-5-3/各Ⅰ-10-	〃
28 29 30	9／25	反対咬合の治療	反対咬合の治療を実際の症例を通じて理解する。	D-5-5-3/各Ⅰ-10-	① ④
31 32 33	10／16	開咬の治療	開咬の治療を実際の症例を通じて理解する。	D-5-5-3/各Ⅰ-10-	②
34 35 36	10／30	保定・全身疾患	保定及び全身疾患について説明する	D-5-5-3／各Ⅰ-10	① ⑤
37 38 39	11／20	総まとめ①	重要箇所の復習１	E-5-4	①
40 41 42	12／4	総まとめ②	重要箇所の復習２	E-5-4	〃

●小児歯科学

担当者：①島村　和宏（小児）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	4／15	小児の成長・発達	成長発達・評価，反射，運動・言語情緒・社会性の発達	A-2-2-2, D-5-6／必-5-イウ，総Ⅱ-7，Ⅴ-1,2	①
4	5／13	頭蓋顎顔面の発育 口腔機能発達	頭蓋顔面頭蓋の成長，咀嚼嚥下・顎関節機能の発達	A-2-2-1／必-5-イウ，総Ⅱ-7	〃
5	〃	歯の形成と萌出 歯の発育異常	歯の形成・萌出，歯列・咬合の成長発育	A-3-4／必-5, 総Ⅱ-8-イ，各Ⅰ-2,3	〃
6	〃	歯の形成と萌出 歯の発育異常	乳歯・幼若永久歯の特徴，歯・歯列・萌出異常	E-4／必-6, 総Ⅱ，Ⅳ-2, 各Ⅰ-2,3	〃
7 8 9	5／27	歯列・咬合の発育と異常	歯列，咬合の定義・発育 歯列咬合の発育変化	A-3-4／必-5, 総Ⅱ-8-エ, Ⅳ-2-ウ	〃
10	6／17	乳歯・幼若永久歯の特徴・歯周組織	乳歯の形態的・組織学的特徴	A-3-4／必-5, 総Ⅱ-5，Ⅳ-2	〃
11	〃	乳歯・幼若永久歯の特徴・歯周組織	乳歯の形態的・組織学的特徴・歯周組織	D-5-6／必-11, 総Ⅷ-4	〃
12	〃	疼痛コントロール	小児の心理・対応の実際・基本的な診察・管理	D-5-6／必-11, 総Ⅷ-4	〃
13 14 15	7／1	歯科的対応	小児の心理・対応の実際・基本的な診察・管理	D-5-6／必-8, 総Ⅴ-2，Ⅷ-4	〃
16 17 18	7／15	小児の診療の流れ う蝕治療の前準備	小児患者の診察・検査・診断 治療の前処置・麻酔・偶発症	D-5-6／必-必-3-ウ,8, 総Ⅴ-2，Ⅵ-1, 2，Ⅷ-1 各Ⅱ-1-イ	〃
19 20 21	8／5	小児期の齲蝕① 小児期の齲蝕② 小児期の齲蝕③	齲蝕の疫学，特徴と分類，好発時期 齲蝕予防	D-5-6-1,2／必-3-ウ，-7-イ-b, 総Ⅲ-2-ア-b, 各Ⅱ-1	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
22 23 24	8／26	乳歯・幼若永久歯の歯冠修復	歯の硬組織疾患の治療	D-5-6-3／ 必-11, 各Ⅱ-1	①
25 26 27	9／9	乳歯・幼若永久歯の歯内療法①②③	歯髄・根尖性歯周組織疾患の治療	D-5-6-4／ 必-11, 総Ⅳ-2, Ⅵ-1, Ⅶ-1, 各Ⅱ-2	〃
28 29 30	9／30	外科的処置①②	抜歯，軟組織疾患	D-5-6／ 必-11, 総Ⅶ-4	〃
31 32 33	10／21	外科的処置③	歯の外傷	D-5-6-6／ 各Ⅰ-4	〃
34 35 36	11／11	咬合誘導①②	保隙，動的咬合誘導	D-5-6-8／ 総Ⅵ-1, 各Ⅰ-5	〃
37 38 39	11／25	障害児の歯科診療①・虐待障害児②・虐待・摂食先天異常・小児疾患	障害者への対応・虐待 先天異常・骨系統疾患・症候群	D-5-6, D-5-6-10, D-5-8／ 必7-イ, 11, 総Ⅰ-2, 総Ⅲ-2, Ⅴ-3, 各Ⅴ-2, 各-8	〃
40 41 42	12／16	模試／卒試解説・まとめ	模試／卒試解説　まとめ		〃

●歯科放射線学

担当者：①川原　一郎（放射），②原田　卓哉（物理），
③臼田　真浩（放射）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／14	歯科放射線学総論　1	歯科放射線学演習	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア～コ, 総Ⅶ-7-ア～ウ	②
2	〃	歯科放射線学総論　2	歯科放射線学演習	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア～コ, 総Ⅶ-7-ア～ウ	〃
3	4／28	歯科放射線学総論　3	歯科放射線学演習	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア～コ, 総Ⅶ-7-ア～ウ	〃
4	〃	歯科放射線学総論　4	歯科放射線学演習	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア～コ, 総Ⅶ-7-ア～ウ	〃
5	5／19	画像診断　1	診断入門 正常画像解剖	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅱ-4-キ, 総Ⅵ-2-エ, オ, カ, コ	③
6	5／19	画像診断　2	診断入門 正常画像解剖	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅱ-4-キ, 総Ⅵ-2-エ, オ, カ, コ	③
7	6／9	放射線とその性質　1	放射線の物理	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア	①
8	〃	放射線とその性質　2	放射線の物理	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア	〃
9	6／23	X線と投影画像の形成　1	X線撮影装置とX線像の形成	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア, エ	〃
10	〃	X線と投影画像の形成　2	X線撮影装置とX線像の形成	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア, エ	〃
11	7／7	X線と投影画像の形成　3	X線撮影装置とX線像の形成	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア, エ	〃
12	〃	X線と投影画像の形成　4	フイルムによる撮影 デジタル撮影 医療情報とデジタル画像	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-イ	〃
13	7／21	放射線とその性質　3	放射線の量・単位とその測定	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア	〃
14	〃	放射線とその性質　4	放射線の生物学的影響	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア, ウ	〃
15	8／25	放射線とその性質　5	人体に対する放射線影響	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア, ウ	〃
16	〃	放射線とその性質　6	医療における放射線防護	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア, ウ	〃
17	9／8	X線撮影法と画像検査　1	口内法X線撮影	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-エ	〃
18	〃	X線撮影法と画像検査　2	パノラマX線撮影 顔面頭蓋部撮影	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-エ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
19	9／29	X線撮影法と画像検査　3	CT 歯科用コーンビーム CT	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-オ	①
20	〃	X線撮影法と画像検査　4	MRI	D-2-5, E-2-5／ 総Ⅵ-2-カ	〃
21	10／20	X線撮影法と画像検査　5	超音波検査法 核医学検査	D-2-5, E-2-5／ 総Ⅵ-2-キ, ク	〃
22	〃	がんの放射線治療　1	腫瘍に対する放射線の作用	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅶ-7-ア, イ, ウ	③
23	11／17	がんの放射線治療　2	放射線治療の概念と治療機器 頭頸部放射線治療の実際	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅶ-7-ア, イ, ウ	〃
24	〃	がんの放射線治療　3	放射線治療に伴う有害事象と患者の管理	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅶ-7-ア, イ, ウ	〃
25	12／1	画像診断　3	歯および歯周組織の疾患 炎症 嚢胞 良性腫瘍 悪性腫瘍	D-2-5, E-2-5／ 総Ⅵ-2-コ, 各Ⅱ-1～3, 各Ⅲ-1～5	〃
26	〃	画像診断　4	唾液腺・上顎洞・顎関節の疾患 外傷 全身に関連する疾患	D-2-5, E-2-5／ 総Ⅵ-2-コ, 各Ⅱ-1～3, 各Ⅲ-1～5	〃
27	12／15	まとめ　1	国家試験対策	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア～コ, 総Ⅶ-7-ア～ウ	①
28	〃	まとめ　2	国家試験対策	D-2-5, E-2-5／ 必-9-カ, 総Ⅵ-2-ア～コ, 総Ⅶ-7-ア～ウ	〃

●総合臨床医学

担当者：①風間　咲美（医学）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／9	総論（診察，症候）	発熱，全身倦怠感，食思〈欲〉不振，体重減少・増加，ショック，意識障害，失神，けいれん，めまい，脱水，浮腫	D-6-1)／ 総Ⅶ-1-エ 必-7-ア, 総Ⅳ-ア	①
2	4／23	循環器疾患 1	循環器疾患総論，心不全，心筋梗塞，狭心症，不整脈	D-6-1)／ 総Ⅳ-1-ウ, 総Ⅴ-6-アb, 総Ⅶ-1-エc, 各Ⅴ-2-エc, 1-エc, 各Ⅴ-2-エc	〃
3	5／14	循環器疾患 2	感染性心内膜炎，弁膜症，先天性心疾患，深部静脈血栓，高血圧，高血圧緊急症	D-6-1)／ 総Ⅳ-1-ウ, 総-Ⅴ-6-アb, 総Ⅶ-1-エc, 各Ⅲ-4-ス, 各Ⅴ-2-エc	〃
4	5／28	呼吸器疾患	慢性閉塞性肺疾患〈COPD〉，気管支喘息，呼吸不全，誤嚥性肺炎	D-6-1)／ 総Ⅳ-1-ウ, 総-Ⅴ-6-アa, 総Ⅶ-1-エb, 各Ⅴ-2-エb	〃
5	6／18	腎・泌尿器・生殖器臓患	乏尿，無尿，多尿，慢性腎臓病〈CKD〉，腎不全	D-6-1)／ 総Ⅳ-1-カ, 総-Ⅴ-6-アe, 総Ⅶ-1-エf, 各Ⅴ-2-エf	〃
6	7／2	消化器疾患	消化管疾患総論，消化性潰瘍，Gardner 症候群，Peutz-Jeghers 症候群	D-6-1)／ 総Ⅳ1-エ, 総-Ⅴ-6-アc, 総Ⅶ-1-エd, 各Ⅲ-4-ア, 各Ⅴ-2-エd	〃
7	7/16	肝疾患	肝硬変，ウイルス性肝炎	D-6-1)／ 総Ⅳ-1-エ, 総Ⅴ-6-アc, 総Ⅶ-1-エd, 各Ⅴ-2-エd	〃
8	8／6	アレルギー疾患	アレルギー疾患，アナフィラキシー，金属アレルギー，関節リウマチ，全身性エリテマトーデス〈SLE〉，IgA 血管炎〈アレルギー性紫斑病〉，IgG4関連疾患，Sjögren 症候群	D-6-1)／ 総Ⅶ-1-エj, 総-Ⅴ-6-アk, 各Ⅲ-4-エ, 各Ⅴ-2-エj	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
9	8／27	内分泌疾患	骨粗鬆症，先端巨大症，成長ホルモン分泌不全性低身長，甲状腺機能亢進症（Basedow病），甲状腺機能低下症（粘液水腫，クレチン病，慢性甲状腺炎〈橋本病〉），副甲状腺機能亢進症・低下症，副腎皮質機能亢進症（Cushing病，Cushing症候群），副腎皮質機能低下症（Addison病）	D-6-1)／総Ⅶ-1-エi，総Ⅴ-6-アh，各Ⅲ-4-カ，各Ⅴ-2-エi	①
10	9／24	糖尿病・代謝疾患	糖尿病，低血糖，脂質異常症，アミロイドーシス	D-6-1)／総Ⅳ-ケ，総Ⅶ-1-エi，各Ⅲ-Ⅳ-オ，各Ⅴ-2-エi	〃
11	10／8	神経疾患	頭痛，高次脳機能障害，運動麻痺，脳血管疾患（脳内出血，脳梗塞，くも膜下出血），認知症，てんかん，脳性麻痺，Parkinson病，重症筋無力症，筋ジストロフィ，筋萎縮性側索硬化症，不随意運動（ジストニア，ジスキネジア）	D-6-1)／総Ⅳ-1-ク，総Ⅴ-6-アf･g，総Ⅶ-1-エh，各Ⅴ-2-エh，各Ⅴ-4-イ-e	〃
12	10／22	血液・造血器疾患１ 赤血球系疾患 白血球系疾患	貧血（鉄欠乏性貧血，巨赤芽球性貧血（悪性貧血），再生不良性貧血，溶血性貧血），赤血球増多症，白血病，骨髄異形成症候群，無顆粒球症，悪性リンパ腫，多発性骨髄腫	D-6-1)／総Ⅳ-オ，総Ⅴ-6-アd，総Ⅶ-1-エe，各Ⅲ-4-ク･ケ，各Ⅴ-2-エe	〃
13	11／12	血液・造血器疾患２ 出血性素因	Osler病，壊血病，特発性血小板減少性紫斑病〈免疫性血小板減少性紫斑病〉〈ITP〉，血小板無力症，血友病A・B，播種性血管内凝固症候群〈DIC〉	D-6-1)／総Ⅳ-オ，総Ⅴ-6-アd，総Ⅶ-1-エe，各Ⅲ-4-キb，各Ⅲ-4-コ，各Ⅴ-2-エe	①
14	11／26	復習	復習		〃

●医療倫理学

担当者：①長岡　正博（薬理），②佐藤　　歩（心理）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／20	国家試験問題解説と医の倫理１	ヒポクラテスの誓い，ジュネーブ宣言等	C-1-2-1／必1-ア-a, b	①
2	5／11	医療倫理と心理臨床１ 心の発達と精神疾患①	神経発達症・発達障害者支援法	D-5-8)／総Ⅴ-2-オabc	②
3	5／25	医療倫理と心理臨床２ 心の発達と精神疾患②	虐待・心的外傷及びストレス因関連症群	D-5-9)／総Ⅰ-2-ア-g，各Ⅲ-4-シ-c	〃
4	6／15	医療倫理と心理臨床３ 心の発達と精神疾患③	うつ病・双極症・ストレスチェック	D-5-9)／各Ⅲ-4-シa	〃
5	6／29	医療倫理と心理臨床４ 心の発達と精神疾患	不安症・統合失調症	D-5-9)／各Ⅲ-4-シb，各Ⅴ-2-エ-g	〃
6	7／13	医療倫理と心理臨床５ 主な心理療法	心理療法（行動療法）	D-5-9)／総Ⅶ-9-コ	〃
7	8／10	医の倫理２	ニュルンベルク綱領，ヘルシンキ宣言	C-1-1-5／必2-エ-a, b	①
8	8／31	患者中心の歯科医療１	患者の権利と義務	C-1-1-1／必1-ア-a	〃
9	9／14	患者中心の歯科医療２	インフォームドコンセント	C-1-1―4／必1-イ-a	〃
10	10／19	生命倫理	バイオエシックスの４原則，死に関する宣言（シドニー宣言）	C-1-1-1, 5／必1-ア-a, b，必2-エ-a, b	〃
11	11／2	医療面接１	意義と目的，患者－歯科医師関係の確立言語的コミュニケーション	D-2-1／必8-ウ-a	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
12	11／16	医療面接２	準言語的コミュニケーション，非言語的コミュニケーション	D-2-1／必8-ウ-a	①
13	12／7	現代医療の倫理問題	末期患者の苦痛と心理，ターミナルケアとランディングケ	C-1-3-6／総Ⅶ-5-ア，イ	〃
14	12／21	まとめ	国試頻出事項の再確認	C-1-1-1，4／必1-ア，イ-a	〃

●歯科麻酔学

担当者：①川合　宏仁（麻酔），②安部　将太（麻酔），
③佐藤　　光（麻酔）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／20	臨床に必要な生理１	循環生理	A3-1／必4-ア-e，総Ⅱ-1-ウ	①②③
2	〃	臨床に必要な生理１	循環生理	A3-1／必4-ア-e，総Ⅱ-1-ウ	〃
3	〃	臨床に必要な生理１	循環生理	A3-1／必4-ア-e，総Ⅱ-1-ウ	〃
4	5／11	臨床に必要な生理２	呼吸生理	A3-1／必4-ア-e，総Ⅱ-1-エ	〃
5	〃	臨床に必要な生理２	呼吸生理	A3-1／必4-ア-e，総Ⅱ-1-エ	〃
6	〃	臨床に必要な生理２	呼吸生理	A3-1／必4-ア-e，総Ⅱ-1-エ	〃
7	5／25	臨床に必要な生理３	代謝内分泌生理	A3-1-9／必4-ア-e，総Ⅱ-1-ク，ケ	〃
8	〃	臨床に必要な生理３	小児の生理	D2-3-8／必11-カ，総論Ⅱ-7	〃
9	〃	臨床に必要な生理３	高齢者妊婦の生理	D2-3-8／必11-イ，各Ⅴ-5，総Ⅰ-2-オ	〃
10	6／15	局所麻酔	局所麻酔，痛覚伝導路	D-1-2-1／必11-カ-c，総Ⅶ-4-ウ-c	〃
11	〃	ペインクリニック	痛みの分類	D-3-1-9／必11-ア-b，総Ⅶ-5，各Ⅲ-1-キ	〃
12	〃	ペインクリニック	代表的な疼痛，痙攣	D-3-1-10-11／必11-ア-b，総Ⅶ-5，各Ⅲ-1-キ	〃
13	6／29	全身麻酔	全身麻酔	D-1-2-3／総Ⅶ-4-ウ-b	①②③
14	〃	全身麻酔	全身麻酔	D-1-2-3／総Ⅶ-4-ウ-b	〃
15	〃	精神鎮静法	精神鎮静法	D-1-2-2／必11-カ-c，総Ⅶ-4-ウ-c	〃
16	7／13	周術期管理	検査，術前評価	D2-3／総Ⅶ-4-イ	〃
17	〃	周術期管理	前投薬，術前管理	D2-3／総Ⅶ-4-イ	〃
18	〃	周術期管理	術中管理，術後管理	D1-2-3／総Ⅶ-4-イ-d	〃
19	8／10	全身的偶発症１	神経性ショック	D-1-1-1／必8，10，総Ⅶ-1，3，各Ⅲ-4-ソ	〃
20	〃	全身的偶発症１	過換気症候群，高血圧緊急症	D-1-1-1／必8，10，総Ⅶ-1，3，各Ⅲ-4-ソ	〃
21	〃	全身的偶発症１	アナフィラキシー	D-1-1-1／必8，10，総Ⅶ-1，3，各Ⅲ-4-ソ	〃
22	8／31	全身的偶発症２	局麻中毒，MetHb 血症	D-1-1-1／必8，10，総Ⅶ-1，3，各Ⅲ-4-ソ	〃
23	〃	全身的偶発症２	仰臥位低血圧	D-1-1-1／必8，10，総Ⅶ-1，3，各Ⅲ-4-ソ	〃
24	〃	全身的偶発症２	虚血性心疾患脳卒中	D-1-1-1／必8，10，総Ⅶ-1，3，各Ⅲ-4-ソ	〃
25	9／14	全身的偶発症３	代謝内分泌疾患	D-1-1-1／必8，10，総Ⅶ-1，3，各Ⅲ-4-ソ	〃
26	〃	全身的偶発症３	糖尿病	D-1-1-1／必8，10，総Ⅶ-1，3，各Ⅲ-4-ソ	〃
27	〃	全身的偶発症３	肝，腎疾患	D-1-1-1／必8，10，総Ⅶ-1，3，各Ⅲ-4-ソ	〃
28	10／19	全身的偶発症４	不整脈	D-1-1-1／必8，10，総Ⅶ-1，3，各Ⅲ-4-ソ	〃
29	〃	全身的偶発症４	不整脈	D-1-1-1／必8，10，総Ⅶ-1，3，各Ⅲ-4-ソ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
30	10／19	全身的偶発症４	不整脈	D-1-1-1／必8, 10, 総Ⅶ-1, 3, 各Ⅲ-4-ソ	①②③
31	11／2	器具，英語	麻酔救急器具, 英語	D-1-2／必11-カ, 総Ⅶ-4	〃
32	〃	歴史	麻酔歴史	D-1-2／必11-カ, 総Ⅶ-4	〃
33	〃	計算問題	麻酔計算問題	D-1-2／必11-カ, 総Ⅶ-4	〃
34	11／16	救急処置	一次救命処置	D-1-1／必10, 総Ⅶ-3, 各Ⅲ-4-ソ	〃
35	〃	救急処置	窒息の解除	D-1-1／必10, 総Ⅶ-3, 各Ⅲ-4-ソ	〃
36	〃	救急処置	二次救命処置	D-1-1／必10, 総Ⅶ-3, 各Ⅲ-4-ソ	〃
37	12／7	まとめ１	歯科麻酔まとめ	D-1-2／必11-カ, 総Ⅶ-4	〃
38	〃	まとめ１	歯科麻酔まとめ		〃
39	〃	まとめ１	歯科麻酔まとめ		〃
40	12／21	まとめ２	歯科麻酔まとめ		〃
41	〃	まとめ２	歯科麻酔まとめ		〃
42	〃	まとめ２	歯科麻酔まとめ		〃

●高齢者歯科学

担当者：①鈴木　史彦（高齢），②北條健太郎（高齢）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／21	全身の加齢変化１	身体・精神の加齢変化	D-5-7-1／必5エ-b	①
2	〃	口腔の加齢変化１	口腔の加齢変化	D-5-7-4／総Ⅱ-7-エ	〃
3	〃	高齢者に多い口腔疾患１	硬・軟組織疾患	D-5-7-2／各Ⅴ-6-ア～エ	〃
4	5／12	脳血管障害１	分類と後遺症	D-5-7-2／総Ⅶ-1-エ	〃
5	〃	認知症１	分類と症状	D-5-7-2／総Ⅶ-1-エ	〃
6	〃	その他の全身疾患１	Parkinson 病等	D-5-7-2／総Ⅶ-1-エ	〃
7	5／26	チーム医療と各ステージでの歯科の役割１	急性期～終末期	D-6-2／必2-ウ	〃
8	5／26	歯科訪問診療と治療の場１	施設，在宅	D-5-7-7／総Ⅰ-1-オ	①
9	〃	口腔健康管理１	口腔衛生管理口腔ケア	D-5-7-5／必3-エ	〃
10	6／16	障害学１	ICF, アプローチ法	C-4-3-4／必2-ア-d	②
11	〃	嚥下器官の構造と機能１	解剖と生理	A-3-2／総Ⅱ-7-ウ-a	〃
12	〃	摂食嚥下モデルと摂食嚥下障害１	嚥下モデルと各期の障害	D-5-7-8／総Ⅱ-6-エ-a	〃
13	6／30	原因と病態１	諸因子，構音，合併症	D-5-7-8／各Ⅳ-1-イ，ウ	①
14	〃	スクリーニングテスト１	RSST, MWST 等	D-3-1-11-2／各Ⅴ-4-イ-a	〃
15	〃	VE・VF１	特徴と評価方法	D-3-1-11-2／各Ⅴ-4-イ-a	〃
16	7／14	間接訓練１	各期の間接訓練	D-5-7-8／各Ⅴ-7-ア-a	〃
17	〃	直接訓練と食事指導１	直接訓練，食事指導	D-5-7-8／各Ⅴ-7-ア-b	〃
18	〃	嚥下補助床１	PAP，PLP	D-5-7-8／各Ⅳ-7-ア～エ	〃
19	8／4	高齢者と栄養１	評価と管理	D-5-7-9／必11-サ-a	〃
20	〃	前半のまとめ	総括１	D-5-7／各Ⅴ	〃
21	〃	全身の加齢変化２	身体・精神の加齢変化	D-5-7-1／必5エ-b	〃
22	9／1	口腔の加齢変化２	口腔の加齢変化	D-5-7-4／総Ⅱ-7-エ	〃
23	〃	高齢者に多い口腔疾患２	硬・軟組織疾患	D-5-7-2／各Ⅴ-6-ア～エ	〃
24	〃	脳血管障害２	分類と後遺症	D-5-7-2／総Ⅶ-1-エ	〃
25	9／15	認知症２	分類と症状	D-5-7-2／総Ⅶ-1-エ	〃
26	〃	その他の全身疾患２	Parkinson 病等	D-5-7-2／総Ⅶ-1-エ	〃
27	〃	チーム医療と各ステージでの歯科の役割２	急性期～終末期	D-6-2／必2-ウ	〃
28	10／13	歯科訪問診療と治療の場２	施設，在宅	D-5-7-7／総Ⅰ-1-オ	〃
29	〃	口腔健康管理２	口腔衛生管理口腔ケア	D-5-7-5／必3-エ	〃
30	〃	障害学２	ICF, アプローチ法	C-4-3-4／必2-ア-d	〃
31	11／10	嚥下器官の構造と機能２	解剖と生理	A-3-2／総Ⅱ-7-ウ-a	②
32	〃	摂食嚥下モデルと摂食嚥下障害２	嚥下モデルと各期の障害	D-5-7-8／総Ⅱ-6-エ-a	〃
33	〃	原因と病態２	諸因子，構音合併症	D-5-7-8／各Ⅳ-1-イ，ウ	〃
34	11／24	スクリーニングテスト２	RSST, MWST 等	D-3-1-11-2／各Ⅴ-4-イ-a	①

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
35	11／24	VE・VF２	特徴と評価方法	D-3-1-11-2／各Ⅴ-4-イ-a	①
36	〃	間接訓練２	各期の間接訓練	D-5-7-8／各Ⅴ-7-ア-a	〃
37	12／８	直接訓練と食事指導２	直接訓練，食事指導	D-5-7-8／各Ⅴ-7-ア-b	〃
38	〃	嚥下補助床２	PAP，PLP	D-5-7-8／各Ⅳ-7-ア～エ	〃
39	〃	高齢者と栄養２	評価と管理	D-5-7-9／必11-サ-a	〃
40	12／22	後半のまとめ	総括２	D-5-7／各Ⅴ	〃

●障害者歯科学

担当者：①吉田　健司（障害），②加川千鶴世（障害）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	４／22	歯科医療におけるスペシャルニーズ	QOL，ノーマライゼーション，バリアフリー，ユニバーサルデザイン	C-4-3-4)／必2-ア-C，総Ⅰ-1-ア-d	①
2	５／27	スペシャルニーズと社会保障	障害者福祉，医療制度，ADL，IADL，チーム医療	C-1-3)，D-6)／総Ⅰ-2-カ，総Ⅴ-5-イ-a，b	〃
3	６／10	精神発達・心理的発達と行動の障害	発達遅滞，精神遅滞，自閉症スペクトラム障害，注意欠陥多動性障害，学習障害	D-5-8)，D-5-9)／総Ⅴ-2-オ	②
4	６／24	神経・運動障害（１）	脳性麻痺，筋ジストロフィー，脊髄損傷，関節リウマチ，Parkinson 病	D-5-8)，D-5-9)／総Ⅴ-3-オ，総Ⅴ-6-ア-g	①
5	７／８	精神および行動の障害	統合失調症，うつ病，不安症，強迫症，心身症，認知症，摂食障害	D-5-8)，D-5-9)／総Ⅴ-6-ア-f	②
6	７／22	神経・運動障害（２）	感覚障害脳血管障害，筋萎縮性側索硬化症，てんかん，視覚・聴覚障害	D-5-8)，D-5-9)／総Ⅴ-6-ア-g	①
7	８／26	歯科治療時に配慮すべき疾患	内科的疾患（循環器・呼吸器・消化器腎尿路内分泌・血液疾患）	D-5-8)，D-5-9)／総Ⅴ-6-ア-b	〃
8	９／２	歯科治療時に配慮すべき疾患・症候群－１	（口腔に症状がみられる）遺伝性疾患	D-5-8)，D-5-9)／総Ⅴ-3-オ，各Ⅰ-1-ア，イ，ウ，エ	①
9	９／16	歯科治療時に配慮すべき疾患・症候群－２	（頭蓋・顎顔面に症状がみられる）遺伝性疾患，染色体異常	D-5-8)，D-5-9)／総Ⅴ-3-オ，各Ⅰ-1-ア，イ，ウ，エ	〃
10	10／14	歯科治療時に配慮すべき疾患・難病	炎症性腸疾患，心筋症，エリテマトーデス，サルコイドーシス	D-5-8)，D-5-9)／総Ⅴ-6-ア-k，各Ⅲ-1-ク，各Ⅲ-4-オ	〃
11	11／４	行動調整	コミュニケーション法，行動療法，薬物的行動調整，体動の調整法	D-5-8)，D-5-9)／総Ⅴ-3-ウ，オ，各Ⅴ-8-ア-b	②
12	11／25	スペシャルニーズのある人の歯科治療－１	医療面接，歯髄処置，歯周治療，歯冠修復	D-5-8)，D-5-9)／各Ⅴ-8-ウ	①
13	12／９	スペシャルニーズのある人の歯科治療－２	補綴的対応，顎顔面領域の外傷	D-5-8)，D-5-9)／各Ⅴ-8-ウ	〃
14	12／23	リスク評価と安全管理	リスク評価，医療安全管理体制，医療事故の予防，ターミナルケア	D-5-8)，D-5-9)／必2-オ，総Ⅶ-5-イ	〃

●公衆衛生学・口腔衛生学

担当者：①南　健太郎（衛生），②小林美智代（衛生），

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	４／10	公衆衛生概論	健康の概念，健康の保持増進対策	C-4-1，C-5-1，3／必2-ア，必3-ア，総Ⅰ-1-ア	②
2	〃	口腔衛生学概論	健康の概念	C-5-3／必2-ア	①
3	４／17	公衆衛生総論	健康日本21，健康増進法	C-5-1，C-5-3／必-ア，必3-ア，総Ⅰ-1-ア，オ	②
4	〃	口腔衛生学概論	プライマリヘルスケア，ヘルスプロモーション，行動変容	C-5-3／必2-ア，必3-ア，総Ⅰ-1-ア，オ	①
5	４／24	公衆衛生概論	国際保健協力，SDGs，UHC	C-7-3，4，5／総Ⅰ-5-ア	②

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
6	4／24	口腔衛生学概論	歯科医師の任務，口腔保健	C-4-2-2／必2-イ	①
7	5／8	疫学	分析疫学（コホート研究，相対危険度）	C-6-1／必9-ア，ウ，総Ⅰ-6-ア，イ	②
8	〃	口腔の組織と発育・機能	口腔の組織と発育，口腔の機能	A-2-4／必4-ア	①
9	5／15	疫学	分析疫学（患者対照研究，オッズ比）	C-6-1／必9-ア，ウ，総Ⅰ-6-ア，イ	②
10	〃	口腔バイオフィルムの形成と病原性	ペリクル，プラーク，歯石，舌苔	D-3-2-4／必4-ア，イ	①
11	5／22	疫学	スクリーニング	C-6-1／必9-ア，ウ，総Ⅰ-6-ア，イ	②
12	〃	疫学	生態学的研究バイアス，介入研究	D-5-1-2／必3-ウ，総Ⅰ-6-エ	〃
13	5／29	疫学	臨床試験，RCT，メタアナリシス，EBM	C-6-1／必2-エ，必9-ア，総Ⅰ-6-ア，イ	〃
14	〃	フッ化物応用	フッ化物の応用法，齲蝕予防機序，代謝，為害作用	D-5-1-2／必3-ウ，総Ⅰ-6-エ	①
15	6／5	疫学	統計分析，経済指標	C-6-2／総Ⅰ-6-ア，イ	②
16	〃	歯周病	歯周病の定義と分類，発生要因	D-5-2-3／必2-ア，総Ⅰ-1-ア，総Ⅰ-7-ア	①
17	6／12	疾病の予防と健康管理	疾病予防の概念	C-4-1，C-5-1，4／総Ⅰ-1-ア	②
18	〃	口臭	口臭の定義と分類，その他の口腔疾患と予防	D-5-1-1／必9-オ	①
19	6／19	疾病の予防と健康管理	感染症の予防	C-5-4／総Ⅰ-7-ア	②
20	〃	口腔と全身の健康	ライフスタイルと口腔保健，全身の疾患（糖尿病，メタボリックシンドローム）	C-4-1／必3-ア，必6-ア	①
21	7／3	疾病の予防と健康管理	生活習慣病の予防，健康管理，院内感染症予防	C-5-4，E-1-1／必2-キ，必3-ア	②
22	〃	行動科学と健康教育	行動科学の意義，プリシード・プロシードモデル，ヘルスリテラシー，健康教育	C-4-3-1／必3-ア	①
23	7／10	疾病の予防と健康管理	保健衛生統計民生活基礎調査，患者調査，医師歯科医師薬剤師統計等）	C-6-2／総Ⅰ-6-ウ	②
24	〃	口腔保健と疫学	疫学の定義と目的，記述疫学，分析疫学	C-6-1-1／総Ⅰ-6-ア～エ	①
25	7／17	環境と健康	地球環境変化と健康被害，公害	C-4-5／総Ⅰ-9-ア	②
26	〃	口腔保健と疫学	口腔疾患の疫学的特徴，スクリーニング	C-6-1-3／総Ⅰ-6-ア～エ	①
27	7／24	環境と健康	温熱，空気，水の衛生	C-4-5／総Ⅰ-9-ア	②
28	〃	口腔保健の指標（齲蝕の指標）	DMF，RID，ICDAS 基準，OHI，OHI-S	C-6-1-3／総Ⅰ-6-エ	①
29	7／31	環境と健康	医療廃棄物	C-4-5／総Ⅰ-9-ア	②
30	〃	口腔保健の指標（歯周疾患の指標）	PMA，GI，PDI，CPI	C-6-1-3／総Ⅰ-6-エ	①
31	8／7	食生活と健康	国民健康・栄養調査，日本人の食事摂取基準	E-5-2／総Ⅰ-8-ア，イ	②
32	〃	食生活と健康	食品保健	E-5-2／総Ⅰ-8-ア，イ	〃
33	8／21	食生活と健康	食中毒	E-5-2／総Ⅰ-8-ア，イ	〃
34	〃	齲蝕予防	宿主要因，食事の要因，微生物の要因，齲蝕活動性試験	D-5-1-1／必3-ウ，各Ⅱ-1-ア，イ	①
35	8／28	地域医療と地域保健	ヘルスプロモーション，PDCA サイクル，保健行政	C-4-2，C-5-1，3／必3-イ，総Ⅰ-1-オ	②
36	〃	歯周病予防	歯周病の検査・診断	D-5-1-1／必3-ウ，エ，各Ⅱ-3-ア，イ	①
37	9／4	母子保健	母子保健統計母子保健の動向	C-4-2，3／必3-イ，総Ⅰ-2-ア	②
38	〃	プラークコントロール	プラークコントロールの分類，ブラッシング法，歯磨剤	D-5-1-3，／必3-ウ，エ，各Ⅱ-1-イ，各Ⅱ-3-イ	①
39	9／25	母子保健	女性の就労と育児支援児童虐待	C-4-2，3／必3-イ，総Ⅰ-2-ア	②

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
40	9／25	禁煙支援・指導	禁煙・受動喫煙の健康影響，禁煙支援・指導の実際	C-4-2，C-4-3／必3-イ，総Ⅰ-2-ア	①
41	10／9	学校保健	学校保健の概要，学校保健活動，学校保健統計調査，学校感染症	C-4-2, 3／必3-イ，総Ⅰ-2-イ	②
42	〃	地域保健	地域保健の概要，地域保健法，歯科口腔保健の推進に関する法律	C-4-3-1／必3-イ，総Ⅰ-1-エ	①
43	10／16	人口問題	人口静態統計，人口動態統計	C-6-2／総Ⅰ-6-ウ	②
44	〃	母子歯科保健	妊産婦歯科健康診査，１歳６か月児歯科健康診査，３歳児歯科健康診査	C-4-3-1, 2, 4, 5／必3-イ，総Ⅰ-2-ア	①
45	10／23	人口問題	出生の指標，死亡に関する指標	C-6-2／総Ⅰ-6-ウ	②
46	〃	学校歯科保健	学校保健の意義，学校歯科医と口腔保健管理	C-4-3-1／必3-イ，総Ⅰ-2-イ	①
47	10／30	人口問題	平均寿命，平均余命，少子高齢化	C-6-2／総Ⅰ-6-ウ	②
48	〃	成人の口腔保健	成人の口腔の特徴，特定健康診査，特定保健指導	C-4-3-1／必3-イ，総Ⅰ-2-エ	①
49	11／13	成人・高齢者保健	関連法規，健康増進法に基づく活動	C-4-2, 3／必3-イ，総Ⅰ-1-カ，総Ⅰ-2-エ, オ	②
50	〃	高齢者の口腔保健	口腔ケアの定義，フレイル予防，摂食嚥下指導，周術期口腔管理	C-4-3-4, 5／必3-イ，総Ⅰ-2-オ	①
51	11／20	成人・高齢者保健	介護予防，地域支援事業	C-4-2, 3／必3-イ，総Ⅰ-1-カ，総Ⅰ-2-エ, オ	②
52	〃	精神保健・産業保健	産業保健の概要，作業環境管理，作業管理	C-4-2, 3／必3-イ，総Ⅰ-2-ウ, カ	〃
53	11／27	精神保健・産業保健	特殊健康診断，精神保健福祉対策	C-4-2, 3／必3-イ，総Ⅰ-2-ウ, カ	〃
54	11／27	介護・福祉制度	地域包括ケアシステム，地域連携クリニカルパス	C-4-2, 3／必3-イ，総Ⅰ-1-カ，総Ⅰ-2-エ, オ	②
55	12／4	社会保障	社会保障の機能	C-4-3／必2-イ，総Ⅰ-1-ウ	〃
56	〃	社会保障	社会保険（医療保険），生活保護	C-4-3／必2-イ，総Ⅰ-1-ウ	〃

●社会歯科学

担当者：①南　健太郎（衛生）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／10	社会歯科学概論	歯科医師の責務と倫理	C-1-1／必1-ア	①
2	4／24	医事衛生法規１	歯科医師法，歯科衛生士法，歯科技工士法	C-4-2／必2-イ	〃
3	5／15	医事衛生法規２	医療法	C-4-3／必2-イ	〃
4	5／29	医療連携，チーム医療	医療関係職種，医長機関でのチームワーク，地域医療でのチームワーク	C-1-3／必2-ウ	〃
5	6／12	診療情報・診療記録	診療情報，診療録・医療記	C-3-1／必2-サ	〃
6	7／3	医療の質と安全の確保	医療の質の確保，医療事故防止，院内感染対策，医事裁判	C-3-1)／必2-カ, キ	〃
7	7／17	薬事衛生法規	医薬品，医療機器等の品質，有効性及び安全性の確保に関する法律，臨床試験と倫理	C-4-2／必2-ケ	〃
8	7／31	衛生行政とその他の衛生法規１	地域保健法，健康増進法	C-4-5／総Ⅰ-1-オ，総Ⅰ-8-イ	〃
9	8／21	衛生行政とその他の衛生法規２	学校保健安全法，母子保健法，労働安全衛生法，歯科口腔保健の推進に関する法律	C-5-5／総Ⅰ-2-ア，イ，ウ，	〃
10	9／4	社会保険１	医療保険	C-4-3／総Ⅰ-1-ウ	〃
11	10／9	社会保険２	介護保険，地域包括ケアシステム，年金保険，雇用保険	B-2-2)／総Ⅰ-4-ア C-4-3／総Ⅰ-4-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
12	10／23	公的扶助	生活保護法	C-4-3／総Ⅰ-1-ウ	①
13	11／13	社会福祉	精神保健福祉法，障害者総合支援法	C-4-3／総Ⅰ-2-カ，総1-1-オ	〃
14	11／27	国民医療費	国民医療費	C-4-3／総Ⅰ-4-ア	〃

●口腔外科学

担当者：①金　　秀樹（口外），②森　　一将（口外），
③小嶋　忠之（口外），④高橋文太郎（薬理），
⑤西　　祐也（口外），⑥山崎　北斗（口外），
⑦川原　一郎（放射），⑧臼田　真浩（放射）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／9	検査・治療	総論	E-1-2)3)／総Ⅵ	①
2	〃	先天異常・後天異常	総論	E-2-4)／必7-アイ	⑥
3	〃	損傷	総論	E-2-4)／必7-アイ	⑤
4	4／16	炎症	総論	E-2-4)／必7-アイ	〃
5	〃	炎症	総論	E-2-4)／必7-アイ	〃
6	〃	嚢胞	総論	E-2-4)／必7-アイ	③
7	5／7	嚢胞	総論	E-2-4)／必7-アイ	〃
8	〃	腫瘍	総論	E-2-4)／必7-アイ	①
9	〃	腫瘍	総論	E-2-4)／必7-アイ	〃
10	5／14	粘膜疾患	総論	E-2-4)／必7-アイ	〃
11	〃	粘膜疾患	総論	E-2-4)／必7-アイ	〃
12	〃	神経疾患	総論	E-2-4)／必7-アイ	②
13	5／21	唾液腺疾患	総論	E-2-4)／必7-アイ	〃
14	〃	顎関節疾患	総論	E-2-4)／必7-アイ	④
15	〃	血液疾患	総論	E-2-4)／必7-アイ	〃
16	5／28	顎・口腔領域の先天異常	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-ア	⑥
17	〃	顎・口腔領域の先天異常	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-ア	〃
18	〃	顎変形症	各論	E-2-4)／各Ⅲ-2-アイ	〃
19	6／11	顎・口腔領域の損傷	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-イ 各Ⅲ-2-ウ	⑤
20	〃	顎・口腔領域の損傷	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-イ 各Ⅲ-2-ウ	〃
21	6／11	顎・口腔領域の損傷	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-イ 各Ⅲ-2-ウ	⑤
22	6／18	顎・口腔領域の損傷	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-イ 各Ⅲ-2-ウ	⑦ ⑧
23	〃	顎・口腔領域の嚢胞	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-エ 各Ⅲ-2-オ	③
24	〃	顎・口腔領域の嚢胞	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-エ 各Ⅲ-2-オ	〃
25	7／2	顎・口腔領域の嚢胞	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-エ 各Ⅲ-2-オ	〃
26	〃	顎・口腔領域の嚢胞	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-エ 各Ⅲ-2-オ	⑦ ⑧
27	〃	顎・口腔領域の炎症	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-ウ 各Ⅲ-2-エ	⑤
28	7／9	顎・口腔領域の炎症	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-ウ 各Ⅲ-2-エ	〃
29	〃	顎・口腔領域の炎症	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-ウ 各Ⅲ-2-エ	〃
30	〃	顎・口腔領域の炎症	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-ウ 各Ⅲ-2-エ	〃
31	7／16	顎・口腔領域の炎症	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-ウ 各Ⅲ-2-エ	⑦ ⑧
32	〃	唾液腺疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-3-ア	②
33	〃	唾液腺疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-3-ア	〃
34	8／6	唾液腺疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-3-ア	⑦ ⑧
35	〃	顎・口腔領域の神経疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-3-イ	②
36	〃	顎・口腔領域の神経疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-3-イ	〃
37	8／20	顎関節疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-3-ウ	④
38	〃	顎関節疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-3-ウ	〃
39	〃	顎関節疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-3-ウ	⑦ ⑧
40	8／27	血液疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-4-クケコサ	④
41	〃	血液疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-4-クケコサ	〃
42	〃	口腔症状を示す全身疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-4-アイウエオカキ	⑥

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
43	9／24	口腔症状を示す全身疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-4-アイウエオカキ	⑥
44	〃	口腔症状を示す全身疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-4-アイウエオカキ	〃
45	〃	口腔症状を示す全身疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-4-アイウエオカキ	⑦⑧
46	10／1	口腔粘膜疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-ク	④
47	〃	口腔粘膜疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-ク	〃
48	〃	口腔粘膜疾患	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-ク	
49	10／15	顎・口腔領域の悪性腫瘍	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカキ各Ⅲ-2-カキ	①
50	〃	顎・口腔領域の悪性腫瘍	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカキ各Ⅲ-2-カキ	〃
51	〃	顎・口腔領域の悪性腫瘍	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカキ各Ⅲ-2-カキ	〃
52	10／22	顎・口腔領域の悪性腫瘍	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカキ各Ⅲ-2-カキ	〃
53	〃	顎・口腔領域の悪性腫瘍	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカキ各Ⅲ-2-カキ	〃
54	〃	顎・口腔領域の悪性腫瘍	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカ各Ⅲ-2-カキ	③
55	10／29	顎・口腔領域の悪性腫瘍	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカ各Ⅲ-2-カキ	〃
56	〃	顎・口腔領域の悪性腫瘍	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカ各Ⅲ-2-カキ	⑦⑧
57	〃	顎・口腔領域の良性腫瘍	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカ各Ⅲ-2-カキ	③
58	11／12	顎・口腔領域の良性腫瘍	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカ各Ⅲ-2-カキ	〃
59	〃	顎・口腔領域の良性腫瘍	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカ各Ⅲ-2-カキ	〃
60	〃	顎・口腔領域の良性腫瘍	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカ各Ⅲ-2-カキ	〃
61	11／26	顎・口腔領域の良性腫瘍	各論	E-2-4)／各Ⅲ-1-オカ各Ⅲ-2-カキ	⑦⑧
62	〃	必須領域	各論	E-2-4)／必7-アイ	①
63	〃	国家試験直前対策	各論	全領域	〃

●口腔内科学

担当者：①髙田　　訓（口外），②森　　一将（口外）
③髙橋文太郎（薬理），④山﨑　北斗（口外），
⑤野村　武史（客員），⑥安彦　善裕（客員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／23	循環器疾患，脳血管障害	各論	E-2-4)／必7-アイ各Ⅲ-12345	④⑤
2	〃	代謝・内分泌疾患，糖尿病	各論	E-2-4)／必7-アイ各Ⅲ-12345	〃
3	〃	第１・２回まとめ	各論	E-2-4)／必7-アイ各Ⅲ-12345	①
4	6／25	血液疾患（貧血，顆粒球減少症，白血病）	各論	E-2-4)／必7-アイ各Ⅲ-12345	④⑤
5	〃	出血性素因，造血幹細胞移植	各論	E-2-4)／必7-アイ各Ⅲ-12345	〃
6	〃	第４・５回まとめ	各論	E-2-4)／必7-アイ各Ⅲ-12345	①
7	7／23	呼吸器疾患，睡眠障害	各論	E-2-4)／必7-アイ各Ⅲ-12345	④⑤
8	〃	消化器疾患，腎疾患，周産期医療	各論	E-2-4)／必7-アイ各Ⅲ-12345	〃
9	〃	第７・８回まとめ	各論	E-2-4)／必7-アイ各Ⅲ-12345	①
10	9／3	神経疾患，心身症	各論	E-2-4)／必7-アイ各Ⅲ-12345	④⑤
11	〃	精神疾患，認知症	各論	E-2-4)／必7-アイ各Ⅲ-12345	〃
12	〃	第10・11回まとめ	各論	E-2-4)／必7-アイ各Ⅲ-12345	①
13	10／8	アレルギー・自己免疫疾患	各論	E-2-4)／必7-アイ各Ⅲ-12345	③⑥
14	〃	唾液腺疾患	各論	E-2-4)／必7-アイ各Ⅲ-12345	〃
15	〃	第13・14回まとめ	各論	E-2-4)／必7-アイ各Ⅲ-12345	②
16	11／19	摂食嚥下，オーラルフレイル	各論	E-2-4)／必7-アイ各Ⅲ-12345	③⑥
17	〃	感染症，医療安全と感染症対策	各論	E-2-4)／必7-アイ各Ⅲ-12345	〃
18	〃	第16・17回まとめ	各論	E-2-4)／必7-アイ各Ⅲ-12345	②

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
19	12／24	診断，検査，症候，薬物療法，治療学総論	各論	全領域	②
20	〃	卒業試験 FB-1	各論	全領域	①
21	〃	卒業試験 FB-2	各論	全領域	〃

●災害歯科医学

担当者：①中川　敏浩（衛生），②岩原　香織（非常勤）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／21	総論	大規模災害時における歯科医師の役割	C-4-3／総Ⅰ-1-オ，総Ⅰ-3-ア	①
2	5／26	災害時歯科医療	災害時における医療体制 口腔ケアと誤嚥性肺炎	C-4-3／総Ⅰ-1-オ，各Ⅴ-1-エ	〃
3	6／30	個人識別	人類学的個人識別／性別判定・年齢推定	C-4-3／総Ⅰ-3-ア	①②
4	8／4	歯科的個人識別	検死と照合判定	C-4-3／総Ⅰ-3-ア	①
5	9／15	歯科法医学1	創傷，死後変化	C-4-4／総Ⅰ-3-ア，総Ⅲ-3-ア，イ	〃
6	11／10	歯科法医学2	死因究明制度・死体解剖	C-4-4／総Ⅰ-3-ア	〃
7	12／8	総括	国家試験に向けて		①②

●歯科医療管理学

担当者：①南　健太郎（衛生）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／13	歯科医療管理学総論，歯科医師法①	歯科医療管理学とは，歯科医師法	C-1-1／必2-イ	①
2	4／27	歯科医療	歯科医療と患者の権利，歯科医療とコンプライアンス，DOS と POS	C-4-2／必2-イ，必2-キ	①
3	5／18	歯科医療の法的性格	歯科医療と医療法，医療法の目的と理念	C-1-2／必2-イ	〃
4	6／8	歯科医療と医療法	医療機関の開設と管理，医業等に関する広告制限，広告可能な診療科名	C-4-2／必2-イ	〃
5	6／22	歯科診療所の開設	医療機関の開設と管理，医業等に関する広告制限，広告可能な診療科名	C-4-2／必2-イ	①
6	7／6	歯科医療安全	医療安全，感染予防管理，医療機器の管理	C-4-2／必2-イ	〃
7	8／3	診療所管理と医療監視	医療廃棄物の処理・管理	C-3-3／必2-キ	〃
8	8／24	歯科医療事故の対応	医療機器管理，医療過誤の民事・刑事責任・行政責任	C-3-2／必2-カ	〃
9	9／7	医療情報管理	診療録，電子診療録，個人情報保護	D-4-1／必2-サ	〃
10	9／28	医事紛争と処理	医事紛争の原因，防止，解決	C-3-2／必2-カ	〃
11	10／26	医療制度	日本の医療制度	C-4-3／総Ⅰ-1-ウ	〃
12	11／9	介護保険	介護保険，セカンドオピニオン	C-4-3／総Ⅰ-1-ウ	〃
13	11／30	生活保護	生活保護制度，医療券，申請保護の原則	C-4-3／総Ⅰ-1-ウ	〃
14	12／14				

●歯学史／歯科英語

担当者：①南　健太郎（衛生），②山崎　信也（生理），③長峯　英樹（英語）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	5／12	歯学史	世界，日本の歯学史①	A-7-2)／必-13-ウ	①
2	6／16	歯学史	世界，日本の歯学史②	A-2-2)／必-13-ア	〃
3	7／14	歯科英語	歯科医療に関わる医学／歯学英語の基礎知識 Tooth Decay/ Toothache	A-7-2)／必-13-ウ	③
4	9／1	歯科英語	歯科医療に関わる医学／歯学英語の基礎知識 Oral Hygiene	A-7-2)／必-13-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
5	10／13	歯科英語	歯科医療に関わる医学／歯学英語の基礎知識 Periodontal Disease	A-7-2)／必-13-ウ	③
6	11／24	歯科英語	歯科医療に関わる医学／歯学英語の基礎知識 Trigeminal Neuralgia	A-7-2)／必-13-ウ	〃
7	12／22	歯科英語	歯科医療に関わる医学／歯学英語の基礎知識 Paranasal Sinusitis	A-7-2)／必-13-ウ	②

2026年度　第６学年　授業時間割

日　付	朝礼 ８：40	1 （８：50-９：50）	2 （10：00-11：00）	3 （11：10-12：10）	4 （13：00-14：00）	5 （14：10-15：10）	6 （15：20-16：20）	7 （16：30-17：30）
2026/４/１(水)								
2026/４/２(木)								
2026/４/３(金)								
2026/４/４(土)		入学式						
2026/４/５(日)								
2026/４/６(月)					ガイダンス			
2026/４/７(火)		第１回卒業試験Ａ			第１回卒業試験Ｂ			
2026/４/８(水)		第１回卒業試験Ｃ			第１回卒業試験Ｄ			
2026/４/９(木)	前期１	生材１	生材２	総医１	口外１	口外２	口外３	
2026/４/10(金)	前期２	衛生１	衛生２	社歯１	冠橋１	冠橋２	冠橋３	
2026/４/11(土)								
2026/４/12(日)								
2026/４/13(月)	前期３	有床１	有床２	管理１	歯周１	歯周２	歯周３	
2026/４/14(火)	前期４	放射１	放射２	薬理１	修復１	修復２	修復３	
2026/４/15(水)	前期５	解剖１	解剖２	イン１	小児１	小児２	小児３	
2026/４/16(木)	前期６	組織１	組織２	生化１	口外４	口外５	口外６	
2026/４/17(金)	前期７	衛生３	衛生４	生理１	矯正１	矯正２	矯正３	
2026/４/18(土)								
2026/４/19(日)								
2026/４/20(月)	前期８	有床３	有床４	医倫１	麻酔１	麻酔２	麻酔３	
2026/４/21(火)	前期９	病理１	病理２	災歯１	高齢１	高齢２	高齢３	
2026/４/22(水)	前期10	免疫１	免疫２	障害１	歯内１	歯内２	歯内３	
2026/４/23(木)	前期11	生材３	生材４	総医２	口内１	口内２	口内３	
2026/４/24(金)	前期12	衛生５	衛生６	社歯２	冠橋４	冠橋５	冠橋６	
2026/４/25(土)								
2026/４/26(日)								
2026/４/27(月)	前期13	解剖３	解剖４	管理２	歯周４	歯周５	歯周６	
2026/４/28(火)	前期14	放射３	放射４	薬理２	修復４	修復５	修復６	
2026/４/29(水)								
2026/４/30(木)								
2026/５/１(金)								
2026/５/２(土)								
2026/５/３(日)								
2026/５/４(月)								
2026/５/５(火)								
2026/５/６(水)								
2026/５/７(木)	前期15	組織３	組織４	生化２	口外７	口外８	口外９	
2026/５/８(金)	前期16	衛生７	衛生８	生理２	矯正４	矯正５	矯正６	
2026/５/９(土)								
2026/５/10(日)								
2026/５/11(月)	前期17	有床５	有床６	医倫２	麻酔４	麻酔５	麻酔６	
2026/５/12(火)	前期18	病理３	病理４	史英１	高齢４	高齢５	高齢６	
2026/５/13(水)	前期19	有床７	有床８	イン２	小児４	小児５	小児６	
2026/５/14(木)	前期20	生材５	生材６	総医３	口外10	口外11	口外12	
2026/５/15(金)	前期21	衛生９	衛生10	社歯３	冠橋７	冠橋８	冠橋９	
2026/５/16(土)								
2026/５/17(日)								
2026/５/18(月)	前期22	有床９	有床10	管理３	歯周７	歯周８	歯周９	
2026/５/19(火)	前期23	放射５	放射６	薬理３	修復７	修復８	修復９	
2026/５/20(水)	前期24	免疫３	免疫４	イン３	歯内４	歯内５	歯内６	
2026/５/21(木)	前期25	組織５	組織６	生化３	口外13	口外14	口外15	
2026/５/22(金)	前期26	衛生11	衛生12	生理３	矯正７	矯正８	矯正９	
2026/５/23(土)								
2026/５/24(日)								
2026/５/25(月)	前期27	有床11	有床12	医倫３	麻酔７	麻酔８	麻酔９	
2026/５/26(火)	前期28	病理５	病理６	災歯２	高齢７	高齢８	高齢９	
2026/５/27(水)	前期29	解剖５	解剖６	障害２	小児７	小児８	小児９	
2026/５/28(木)	前期30	生材７	生材８	総医４	口外16	口外17	口外18	
2026/５/29(金)	前期31	衛生13	衛生14	社歯４	冠橋10	冠橋11	冠橋12	
2026/５/30(土)								
2026/５/31(日)								

日　付	朝礼 8：40	1 （8：50-9：50）	2 （10：00-11：00）	3 （11：10-12：10）	4 （13：00-14：00）	5 （14：10-15：10）	6 （15：20-16：20）	7 （16：30-17：30）
2026/6/1(月)		第1回卒業試験E						
2026/6/2(火)		第1回卒業試験F						
2026/6/3(水)		第1回卒業試験G						
2026/6/4(木)		第1回卒業試験H						
2026/6/5(金)	前期32	衛生15	衛生16	生理4	矯正10	矯正11	矯正12	
2026/6/6(土)								
2026/6/7(日)								
2026/6/8(月)	前期33	有床13	有床14	管理4	歯周10	歯周11	歯周12	
2026/6/9(火)	前期34	放射7	放射8	薬理4	修復10	修復11	修復12	
2026/6/10(水)	前期35	免疫5	免疫6	障害3	歯内7	歯内8	歯内9	
2026/6/11(木)	前期36	組織7	組織8	生化4	口外19	口外20	口外21	
2026/6/12(金)	前期37	衛生17	衛生18	社歯5	冠橋13	冠橋14	冠橋15	
2026/6/13(土)								
2026/6/14(日)								
2026/6/15(月)	前期38	有床15	有床16	医倫4	麻酔10	麻酔11	麻酔12	
2026/6/16(火)	前期39	病理7	病理8	史英2	高齢10	高齢11	高齢12	
2026/6/17(水)	前期40	解剖7	解剖8	イン4	小児10	小児11	小児12	
2026/6/18(木)	前期41	生材9	生材10	総医5	口外22	口外23	口外24	
2026/6/19(金)	前期42	衛生19	衛生20	生理5	矯正13	矯正14	矯正15	
2026/6/20(土)								
2026/6/21(日)								
2026/6/22(月)	前期43	有床17	有床18	管理5	歯周13	歯周14	歯周15	
2026/6/23(火)	前期44	放射9	放射10	薬理5	修復13	修復14	修復15	
2026/6/24(水)	前期45	免疫7	免疫8	障害4	歯内10	歯内11	歯内12	
2026/6/25(木)	前期46	組織9	組織10	生化5	口内4	口内5	口内6	
2026/6/26(金)		模試0-1						
2026/6/27(土)								
2026/6/28(日)								
2026/6/29(月)	前期47	有床19	有床20	医倫5	麻酔13	麻酔14	麻酔15	
2026/6/30(火)	前期48	病理9	病理10	災歯3	高齢13	高齢14	高齢15	
2026/7/1(水)	前期49	解剖9	解剖10	イン5	小児13	小児14	小児15	
2026/7/2(木)	前期50	生材11	生材12	総医6	口外25	口外26	口外27	
2026/7/3(金)	前期51	衛生21	衛生22	社歯6	冠橋16	冠橋17	冠橋18	
2026/7/4(土)								
2026/7/5(日)								
2026/7/6(月)	前期52	有床21	有床22	管理6	歯周16	歯周17	歯周18	
2026/7/7(火)	前期53	放射11	放射12	薬理6	修復16	修復17	修復18	
2026/7/8(水)	前期54	免疫9	免疫10	障害5	歯内13	歯内14	歯内15	
2026/7/9(木)	前期55	組織11	組織12	生化6	口外28	口外29	口外30	
2026/7/10(金)	前期56	衛生23	衛生24	生理6	矯正16	矯正17	矯正18	
2026/7/11(土)								
2026/7/12(日)								
2026/7/13(月)	前期57	有床23	有床24	医倫6	麻酔16	麻酔17	麻酔18	
2026/7/14(火)	前期58	病理11	病理12	史英3	高齢16	高齢17	高齢18	
2026/7/15(水)	前期59	解剖11	解剖12	イン6	小児16	小児17	小児18	
2026/7/16(木)	前期60	生材13	生材14	総医7	口外31	口外32	口外33	
2026/7/17(金)	前期61	衛生25	衛生26	社歯7	冠橋19	冠橋20	冠橋21	
2026/7/18(土)								
2026/7/19(日)								
2026/7/20(月)								
2026/7/21(火)	前期62	放射13	放射14	薬理7	修復19	修復20	修復21	
2026/7/22(水)	前期63	免疫11	免疫12	障害6	歯内16	歯内17	歯内18	
2026/7/23(木)	前期64	組織13	組織14	生化7	口内7	口内8	口内9	
2026/7/24(金)	前期65	衛生27	衛生28	生理7	矯正19	矯正20	矯正21	
2026/7/25(土)								
2026/7/26(日)								
2026/7/27(月)		第1回卒業試験I						
2026/7/28(火)		第1回卒業試験J						
2026/7/29(水)		第1回卒業試験K						
2026/7/30(木)		第1回卒業試験L						
2026/7/31(金)	前期66	衛生29	衛生30	社歯8	冠橋22	冠橋23	冠橋24	
2026/8/1(土)								
2026/8/2(日)								

日　付	朝礼 8：40	1 （8：50-9：50）	2 （10：00-11：00）	3 （11：10-12：10）	4 （13：00-14：00）	5 （14：10-15：10）	6 （15：20-16：20）	7 （16：30-17：30）
2026/8/3(月)	前期67	有床25	有床26	管理7	歯周19	歯周20	歯周21	
2026/8/4(火)	前期68	病理13	病理14	災歯4	高齢19	高齢20	高齢21	
2026/8/5(水)	前期69	解剖13	解剖14	イン7	小児19	小児20	小児21	
2026/8/6(木)	前期70	生材15	生材16	総医8	口外34	口外35	口外36	
2026/8/7(金)	前期71	衛生31	衛生32	生理8	矯正22	矯正23	矯正24	
2026/8/8(土)								
2026/8/9(日)								
2026/8/10(月)	前期72	有床27	有床28	医倫7	麻酔19	麻酔20	麻酔21	
2026/8/11(火)								
2026/8/12(水)								
2026/8/13(木)								
2026/8/14(金)								
2026/8/15(土)								
2026/8/16(日)								
2026/8/17(月)								
2026/8/18(火)		ガイダンス						
2026/8/19(水)	後期1	免疫13	免疫14	イン8	歯内19	歯内20	歯内21	
2026/8/20(木)	後期2	組織15	組織16	生化8	口外37	口外38	口外39	
2026/8/21(金)	後期3	衛生33	衛生34	社歯9	冠橋25	冠橋26	冠橋27	
2026/8/22(土)								
2026/8/23(日)								
2026/8/24(月)	後期4	有床29	有床30	管理8	歯周22	歯周23	歯周24	
2026/8/25(火)	後期5	放射15	放射16	薬理8	修復22	修復23	修復24	
2026/8/26(水)	後期6	解剖15	解剖16	障害7	小児22	小児23	小児24	
2026/8/27(木)	後期7	生材17	生材18	総医9	口外40	口外41	口外42	
2026/8/28(金)	後期8	衛生35	衛生36	生理9	矯正25	矯正26	矯正27	
2026/8/29(土)								
2026/8/30(日)								
2026/8/31(月)	後期9	有床31	有床32	医倫8	麻酔22	麻酔23	麻酔24	
2026/9/1(火)	後期10	病理15	病理16	史英4	高齢22	高齢23	高齢24	
2026/9/2(水)	後期11	免疫15	免疫16	障害8	歯内22	歯内23	歯内24	
2026/9/3(木)	後期12	組織17	組織18	生化9	口内10	口内11	口内12	
2026/9/4(金)	後期13	衛生37	衛生38	社歯10	冠橋28	冠橋29	冠橋30	
2026/9/5(土)								
2026/9/6(日)								
2026/9/7(月)	後期14	有床33	有床34	管理9	歯周25	歯周26	歯周27	
2026/9/8(火)	後期15	放射17	放射18	薬理9	修復25	修復26	修復27	
2026/9/9(水)	後期16	解剖17	解剖18	イン9	小児25	小児26	小児27	
2026/9/10(木)		模試1-1						
2026/9/11(金)		模試1-2						
2026/9/12(土)								
2026/9/13(日)								
2026/9/14(月)	後期17	有床35	有床36	医倫9	麻酔25	麻酔26	麻酔27	
2026/9/15(火)	後期18	病理17	病理18	災歯5	高齢25	高齢26	高齢27	
2026/9/16(水)	後期19	免疫17	免疫18	障害9	歯内25	歯内26	歯内27	
2026/9/17(木)		模試2-1						
2026/9/18(金)		模試2-2						
2026/9/19(土)								
2026/9/20(日)								
2026/9/21(月)								
2026/9/22(火)								
2026/9/23(水)								
2026/9/24(木)	後期20	生材19	生材20	総医10	口外43	口外44	口外45	国試願書作成説明会
2026/9/25(金)	後期21	衛生39	衛生40	生理10	矯正28	矯正29	矯正30	
2026/9/26(土)								
2026/9/27(日)								
2026/9/28(月)	後期22	有床37	有床38	管理10	歯周28	歯周29	歯周30	
2026/9/29(火)	後期23	放射19	放射20	薬理10	修復28	修復29	修復30	
2026/9/30(水)	後期24	解剖19	解剖20	イン10	小児28	小児29	小児30	
2026/10/1(木)	後期25	組織19	組織20	生化10	口外46	口外47	口外48	
2026/10/2(金)		第1回卒業試験M						
2026/10/3(土)								
2026/10/4(日)								

日　付	朝礼 8：40	1 （8：50-9：50）	2 （10：00-11：00）	3 （11：10-12：10）	4 （13：00-14：00）	5 （14：10-15：10）	6 （15：20-16：20）	7 （16：30-17：30）
2026/10/5(月)		第1回卒業試験N						
2026/10/6(火)		第1回卒業試験O						
2026/10/7(水)		第1回卒業試験P						
2026/10/8(木)	後期26	生材21	生材22	総医11	口内13	口内14	口内15	
2026/10/9(金)	後期27	衛生41	衛生42	社歯11	冠橋31	冠橋32	冠橋33	
2026/10/10(土)								
2026/10/11(日)								
2026/10/12(月)								
2026/10/13(火)	後期28	病理19	病理20	史英5	高齢28	高齢29	高齢30	
2026/10/14(水)	後期29	免疫19	免疫20	障害10	歯内28	歯内29	歯内30	
2026/10/15(木)	後期30	組織21	組織22	生化11	口外49	口外50	口外51	
2026/10/16(金)	後期31	衛生43	衛生44	生理11	矯正31	矯正32	矯正33	
2026/10/17(土)								
2026/10/18(日)								
2026/10/19(月)	後期32	有床39	有床40	医倫10	麻酔28	麻酔29	麻酔30	
2026/10/20(火)	後期33	放射21	放射22	薬理11	修復31	修復32	修復33	
2026/10/21(水)	後期34	解剖21	解剖22	イン11	小児31	小児32	小児33	
2026/10/22(木)	後期35	生材23	生材24	総医12	口外52	口外53	口外54	
2026/10/23(金)	後期36	衛生45	衛生46	社歯12	冠橋34	冠橋35	冠橋36	
2026/10/24(土)								
2026/10/25(日)								
2026/10/26(月)	後期37	有床41	有床42	管理11	歯周31	歯周32	歯周33	
2026/10/27(火)		模試3-1						
2026/10/28(水)		模試3-2						
2026/10/29(木)	後期38	組織23	組織24	生化12	口外55	口外56	口外57	
2026/10/30(金)	後期39	衛生47	衛生48	生理12	矯正34	矯正35	矯正36	国試願書作成会
2026/10/31(土)								
2026/11/1(日)								
2026/11/2(月)	後期40	有床43	有床44	医倫11	麻酔31	麻酔32	麻酔33	
2026/11/3(火)								
2026/11/4(水)	後期41	免疫21	免疫22	障害11	歯内31	歯内32	歯内33	
2026/11/5(木)		模試4-1						
2026/11/6(金)		模試4-2						
2026/11/7(土)								
2026/11/8(日)								
2026/11/9(月)	後期42	有床45	有床46	管理12	歯周34	歯周35	歯周36	
2026/11/10(火)	後期43	病理21	病理22	災歯6	高齢31	高齢32	高齢33	
2026/11/11(水)	後期44	解剖23	解剖24	イン12	小児34	小児35	小児36	
2026/11/12(木)	後期45	生材25	生材26	総医13	口外58	口外59	口外60	
2026/11/13(金)	後期46	衛生49	衛生50	社歯13	冠橋37	冠橋38	冠橋39	
2026/11/14(土)								
2026/11/15(日)								
2026/11/16(月)	後期47	有床47	有床48	医倫12	麻酔34	麻酔35	麻酔36	
2026/11/17(火)	後期48	放射23	放射24	薬理12	修復34	修復35	修復36	
2026/11/18(水)	後期49	免疫23	免疫24	イン13	歯内34	歯内35	歯内36	
2026/11/19(木)	後期50	組織25	組織26	生化13	口内16	口内17	口内18	
2026/11/20(金)	後期51	衛生51	衛生52	生理13	矯正37	矯正38	矯正39	
2026/11/21(土)								
2026/11/22(日)								
2026/11/23(月)								
2026/11/24(火)	後期52	病理23	病理24	史英6	高齢34	高齢35	高齢36	
2026/11/25(水)	後期53	解剖25	解剖26	障害12	小児37	小児38	小児39	
2026/11/26(木)	後期54	生材27	生材28	総医14	口外61	口外62	口外63	
2026/11/27(金)	後期55	衛生53	衛生54	社歯14	冠橋40	冠橋41	冠橋42	
2026/11/28(土)								
2026/11/29(日)								
2026/11/30(月)	後期56	有床49	有床50	管理13	歯周37	歯周38	歯周39	
2026/12/1(火)	後期57	放射25	放射26	薬理13	修復37	修復38	修復39	
2026/12/2(水)		第2回卒業試験A			第2回卒業試験B			
2026/12/3(木)		第2回卒業試験C			第2回卒業試験D			
2026/12/4(金)	後期58	衛生55	衛生56	生理14	矯正40	矯正41	矯正42	
2026/12/5(土)								
2026/12/6(日)								

日　付	朝礼 8：40	1 （8：50-9：50）	2 （10：00-11：00）	3 （11：10-12：10）	4 （13：00-14：00）	5 （14：10-15：10）	6 （15：20-16：20）	7 （16：30-17：30）
2026/12/7(月)	後期59	有床51	有床52	医倫13	麻酔37	麻酔38	麻酔39	
2026/12/8(火)	後期60	病理25	病理26	災歯7	高齢37	高齢38	高齢39	
2026/12/9(水)	後期61	免疫25	免疫26	障害13	歯内37	歯内38	歯内39	
2026/12/10(木)		模試5-1						
2026/12/11(金)		模試5-2						
2026/12/12(土)								
2026/12/13(日)								
2026/12/14(月)	後期62	有床53	有床54	管理14	歯周40	歯周41	歯周42	
2026/12/15(火)	後期63	放射27	放射28	薬理14	修復40	修復41	修復42	
2026/12/16(水)	後期64	解剖27	解剖28	イン14	小児40	小児41	小児42	
2026/12/17(木)		模試6-1						
2026/12/18(金)		模試6-2						
2026/12/19(土)								
2026/12/20(日)								
2026/12/21(月)	後期65	有床55	有床56	医倫14	麻酔40	麻酔41	麻酔42	
2026/12/22(火)	後期66	病理27	病理28	史英7	高齢40	高齢41	高齢42	
2026/12/23(水)	後期67	免疫27	免疫28	障害14	歯内40	歯内41	歯内42	
2026/12/24(木)	後期68	組織27	組織28	生化14	口内19	口内20	口内21	
2026/12/25(金)								
2026/12/26(土)								
2026/12/27(日)								
2026/12/28(月)								
2026/12/29(火)								
2026/12/30(水)								
2026/12/31(木)								
2027/1/1(金)								
2027/1/2(土)								
2027/1/3(日)								
2027/1/4(月)								
2027/1/5(火)								
2027/1/6(水)								
2027/1/7(木)								
2027/1/8(金)		予　備　日						
2027/1/9(土)								
2027/1/10(日)								
2027/1/11(月)								
2027/1/12(火)		第3回卒業試験A			第3回卒業試験B			
2027/1/13(水)		第3回卒業試験C			第3回卒業試験D			
2027/1/14(木)		冬期強化講義1	冬期強化講義2	冬期強化講義3				
2027/1/15(金)		冬期強化講義4	冬期強化講義5	冬期強化講義6				
2027/1/16(土)								
2027/1/17(日)								
2027/1/18(月)		冬期強化講義7	冬期強化講義8	冬期強化講義9				
2027/1/19(火)		冬期強化講義10	冬期強化講義11	冬期強化講義12				
2027/1/20(水)		卒業予定者発表						
2027/1/21(木)		冬期強化講義13	冬期強化講義14	冬期強化講義15				
2027/1/22(金)		冬期強化講義16	冬期強化講義17	冬期強化講義18				
2027/1/23(土)								
2027/1/24(日)								
2027/1/25(月)		冬期強化講義19	冬期強化講義20	冬期強化講義21				
2027/1/26(火)		冬期強化講義22	冬期強化講義23	冬期強化講義24				
2027/1/27(水)		冬期強化講義25	冬期強化講義26	冬期強化講義27				
2027/1/28(木)		冬期強化講義28	冬期強化講義29	冬期強化講義30				
2027/1/29(金)		国家試験出発日（未定）						
2027/1/30(土)		第120回　歯科医師国家試験　1日目（未定）						
2027/1/31(日)		第120回　歯科医師国家試験　2日目（未定）						

歯学教育モデル・コア・カリキュラム

令和４年度改訂版

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/116/toushin/mext_01280.html

モデル・コア・カリキュラム改定に関する連絡調整委員会

歯科医師国家試験出題基準

令和５年版

https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000163627_00002.html

厚生労働省医政局歯科保健課

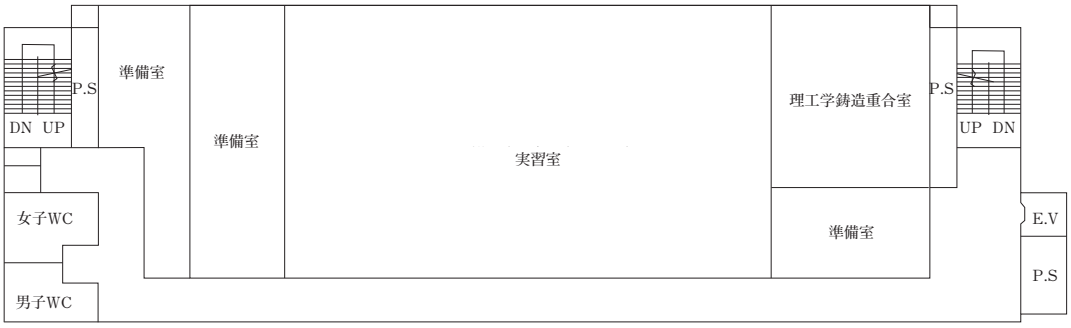
Ⅳ. 構 内 案 内 図

1．構内案内図

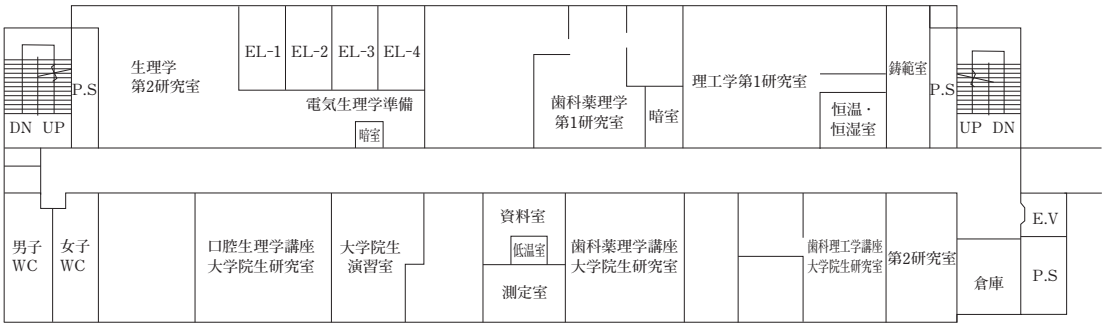
2．基礎医学研究棟案内図

1 階

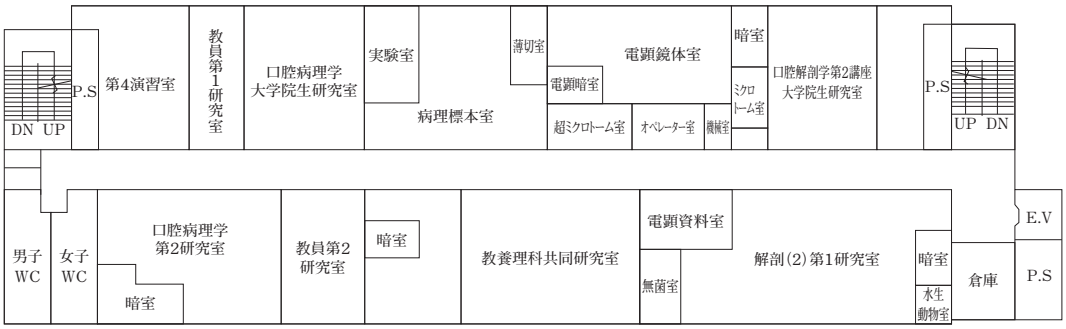
2 階



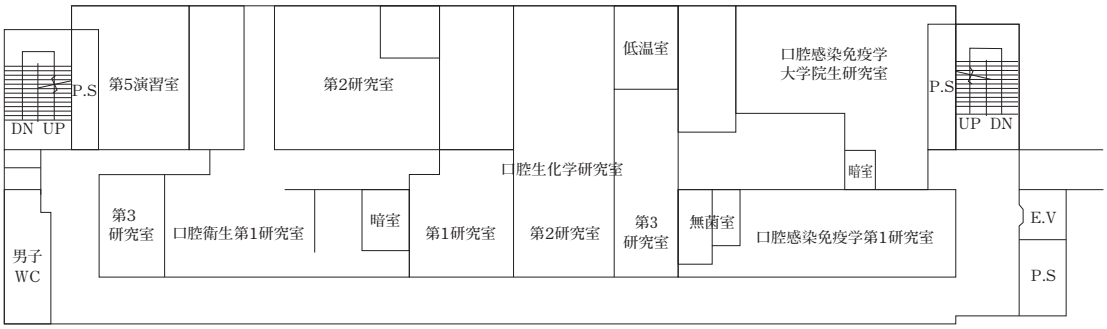
3 階



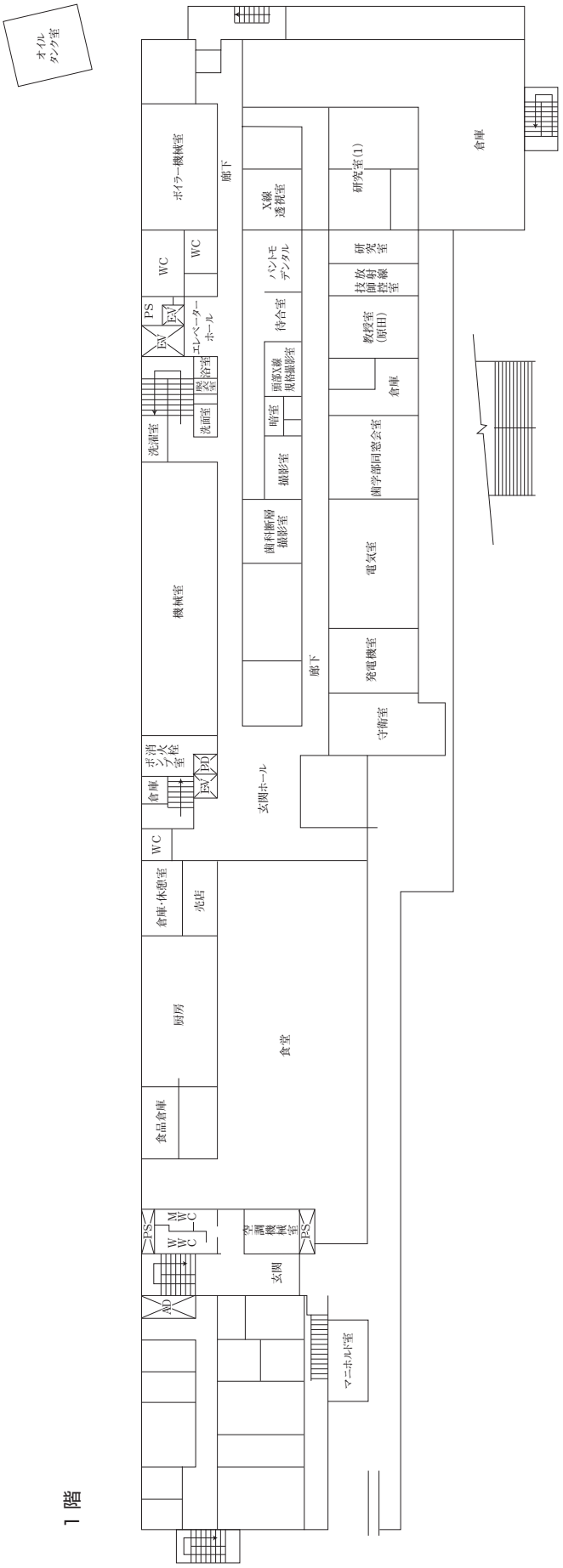
４階


DN UP
P.S
第4演習室
教員第1研究室
口腔病理学大学院生研究室
実験室
病理標本室
薄切室
電顕暗室
電顕鏡体室
超ミクロトーム室
オペレーター室
暗室
ミクロトーム室
口腔解剖学第2講座大学院生研究室
P.S
UP DN
男子WC
女子WC
口腔病理学第2研究室
暗室
教員第2研究室
暗室
教養理科共同研究室
電顕資料室
無菌室
解剖(2)第1研究室
暗室
水生動物室
倉庫
E.V
P.S

５階

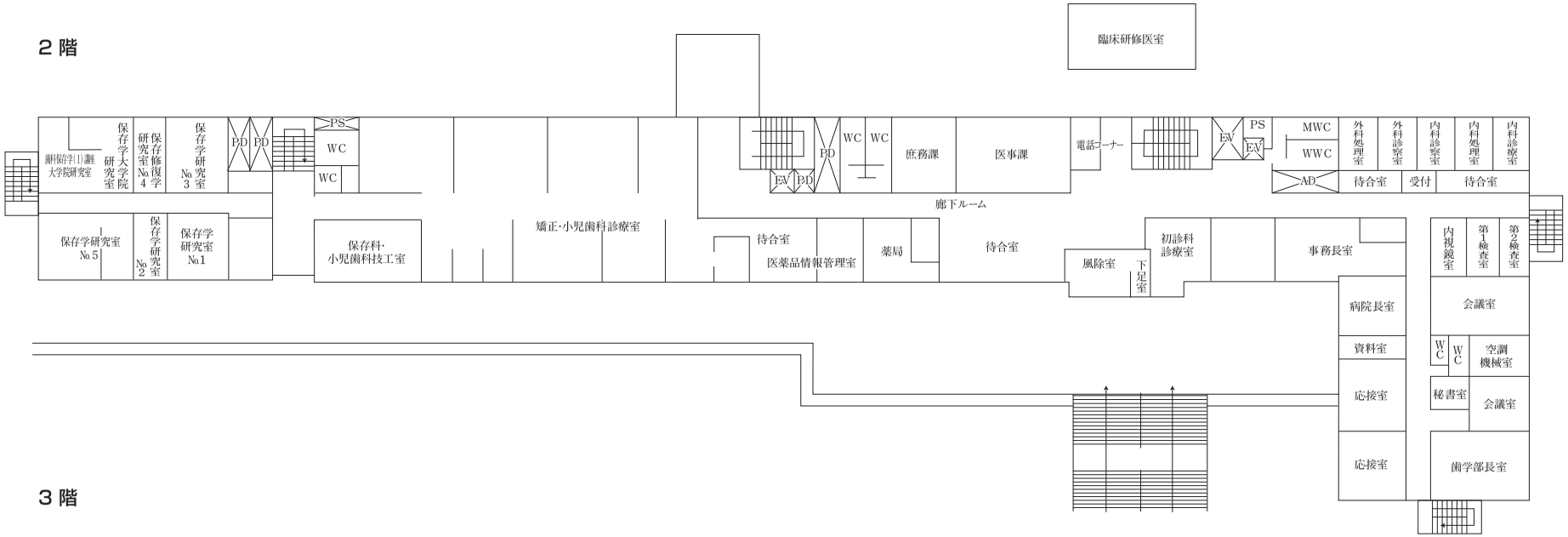

DN UP
P.S
第5演習室
第2研究室
低温室
口腔感染免疫学大学院生研究室
P.S
UP DN
口腔生化学研究室
暗室
第3研究室
口腔衛生第1研究室
暗室
第1研究室
第2研究室
第3研究室
無菌室
口腔感染免疫学第1研究室
E.V
男子WC
P.S

3．附属病院棟
案内図

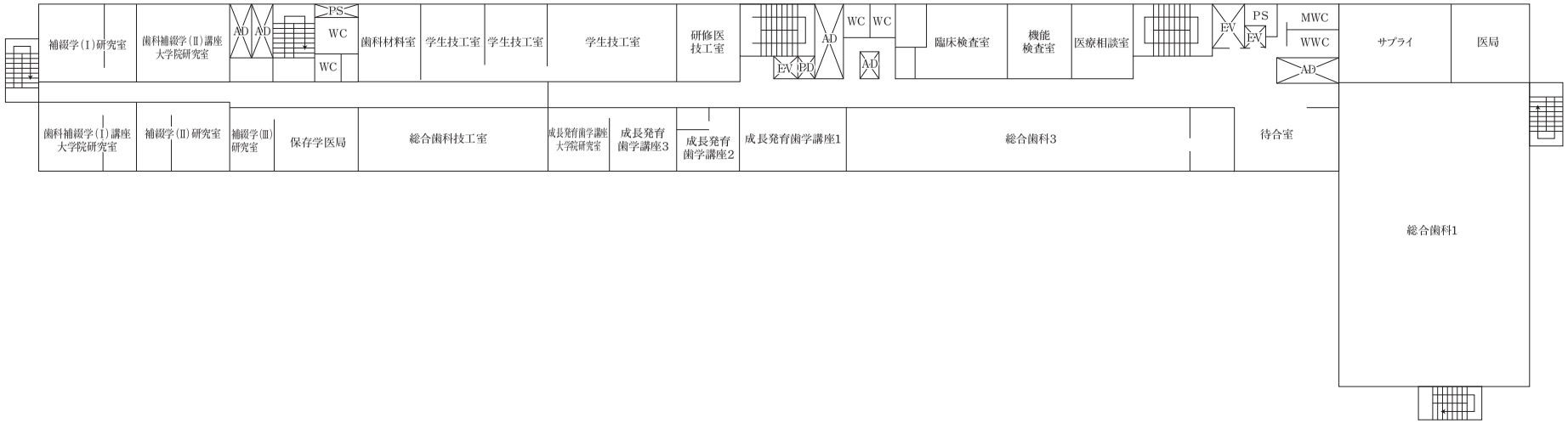


1階

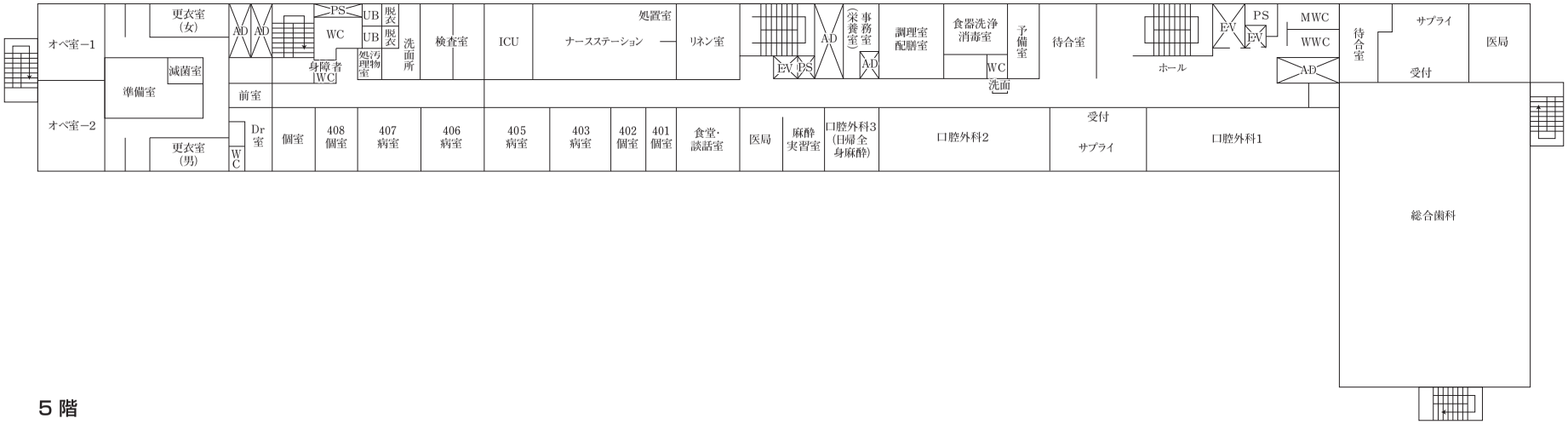
2階


臨床研修医室
歯科保存学(Ⅰ)講座 大学院研究室
保存学大学院研究室
保存修復学研究室No.4
保存学研究室No.3
PD
PD
PS
WC
WC
EV
PD
PD
WC
WC
庶務課
医事課
電話コーナー
EV
PS
EV
MWC
WWC
AD
外科処理室
外科診察室
内科診察室
内科処理室
内科診察室
待合室
受付
待合室
廊下ルーム
保存学研究室No.5
保存学研究室No.2
保存学研究室No.1
保存科・小児歯科技工室
矯正・小児歯科診療室
待合室
医薬品情報管理室
薬局
待合室
風除室
下足室
初診科診療室
事務長室
内視鏡室
第1検査室
第2検査室
病院長室
会議室
資料室
WC
WC
空調機械室
応接室
秘書室
会議室
応接室
歯学部長室

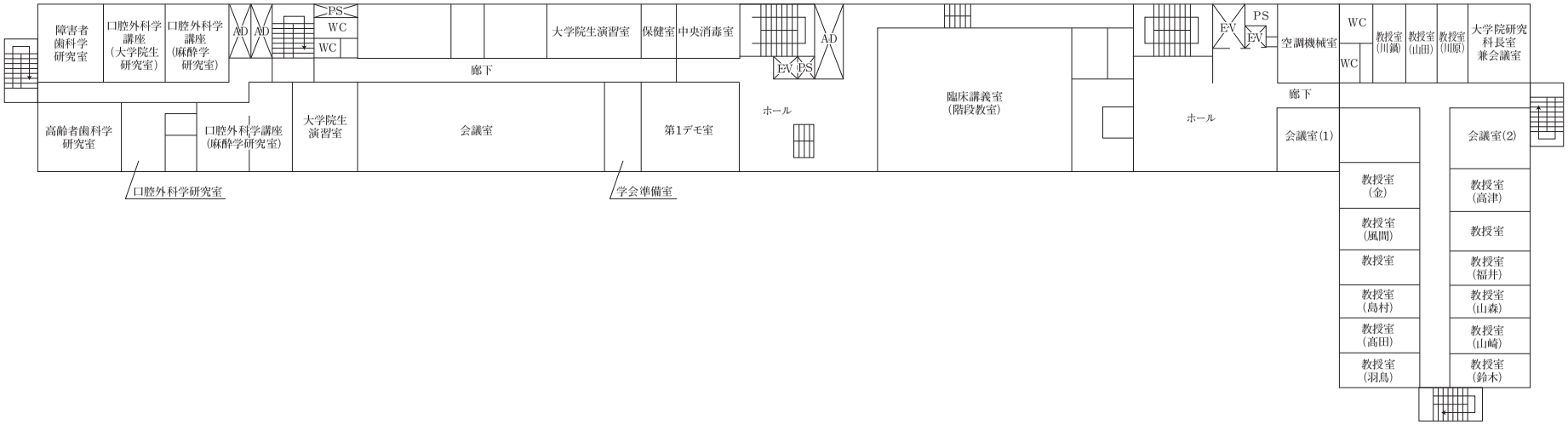
3階


補綴学(Ⅰ)研究室
歯科補綴学(Ⅱ)講座大学院研究室
AD
AD
PS
WC
WC
歯科材料室
学生技工室
学生技工室
学生技工室
研修医技工室
EV
PD
AD
WC
WC
AD
臨床検査室
機能検査室
医療相談室
EV
PS
EV
MWC
WWC
AD
サプライ
医局
歯科補綴学(Ⅰ)講座大学院研究室
補綴学(Ⅱ)研究室
補綴学(Ⅲ)研究室
保存学医局
総合歯科技工室
成長発育歯学講座大学院研究室
成長発育歯学講座3
成長発育歯学講座2
成長発育歯学講座1
総合歯科3
待合室
総合歯科1

4階

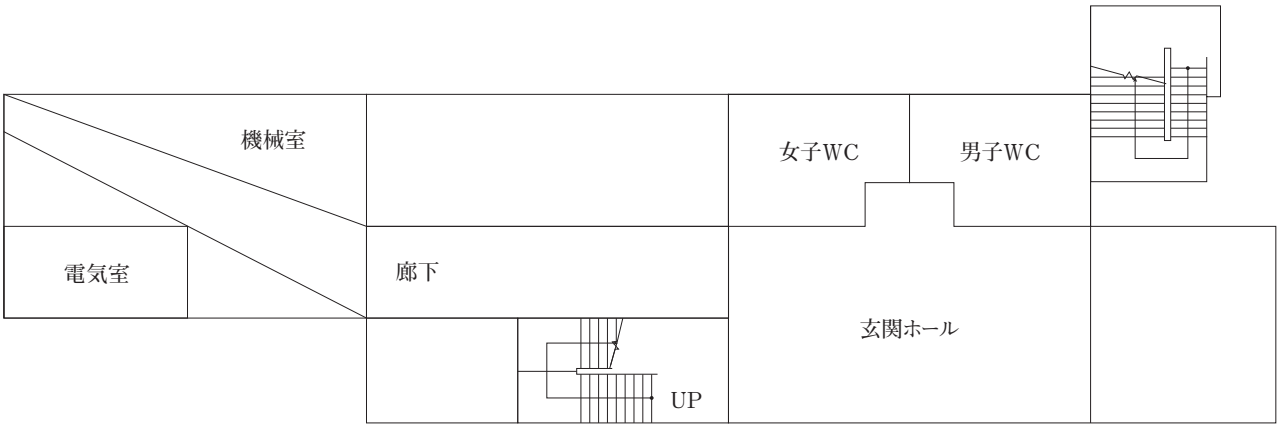

オペ室−1
オペ室−2
更衣室（女）
更衣室（男）
準備室
滅菌室
前室
Dr室
WC
AD
AD
PS
WC
身障者WC
UB
UB
処理物室
脱衣
脱衣
洗面所
検査室
ICU
処置室
ナースステーション
リネン室
EV
PS
AD
（栄養室）
事務室
AD
調理室
配膳室
食器洗浄消毒室
WC
洗面
予備室
待合室
ホール
EV
PS
EV
MWC
WWC
AD
待合室
サプライ
受付
医局
総合歯科
個室
408個室
407病室
406病室
405病室
403病室
402個室
401個室
食堂・談話室
医局
麻酔実習室
口腔外科3（日帰全身麻酔）
口腔外科2
受付
サプライ
口腔外科1

5階

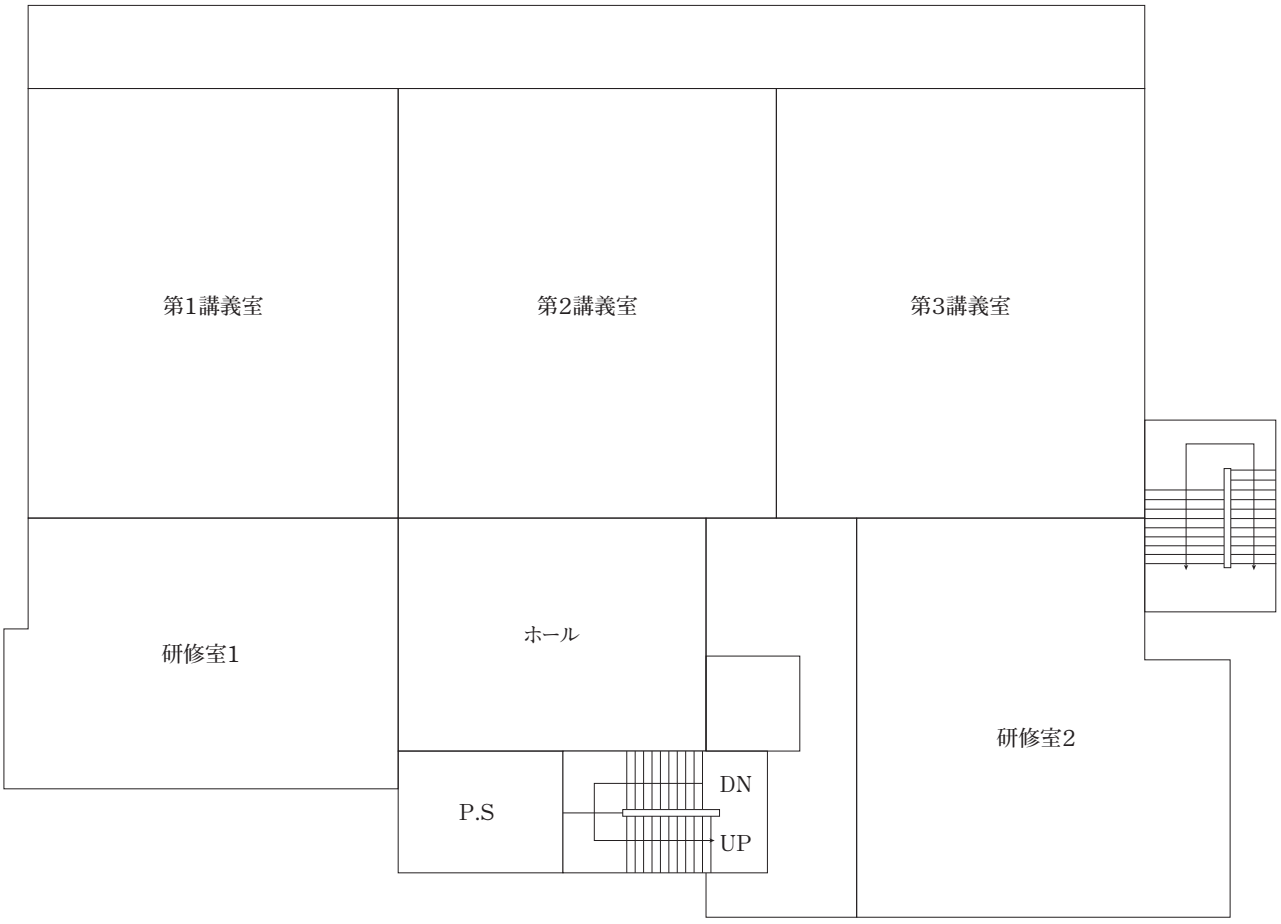

障害者歯科学研究室
口腔外科学講座（大学院生研究室）
口腔外科学講座（麻酔学研究室）
AD
AD
PS
WC
WC
廊下
大学院生演習室
保健室
中央消毒室
EV
PS
AD
ホール
臨床講義室（階段教室）
ホール
EV
PS
EV
空調機械室
廊下
WC
WC
教授室（川鍋）
教授室（山田）
教授室（川原）
大学院研究科長室兼会議室
高齢者歯科学研究室
口腔外科学講座（麻酔学研究室）
大学院生演習室
会議室
第1デモ室
会議室（1）
会議室（2）
教授室（金）
教授室（高津）
教授室（風間）
教授室
教授室（福井）
教授室（島村）
教授室（山森）
教授室（髙田）
教授室（山崎）
教授室（羽鳥）
教授室（鈴木）
口腔外科学研究室
学会準備室

４．講義棟案内図

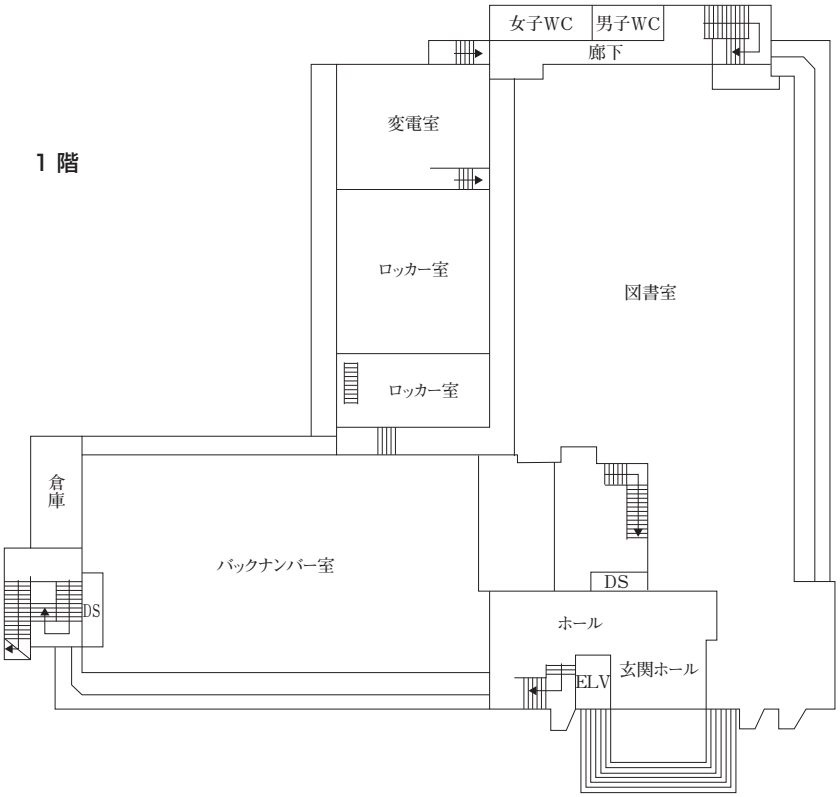
１階

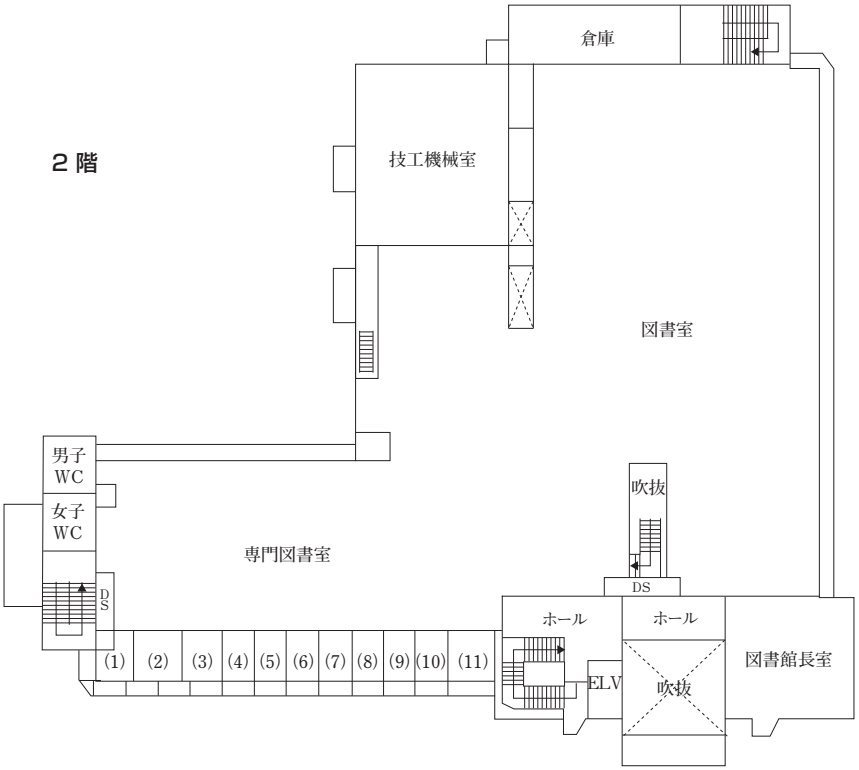


２階

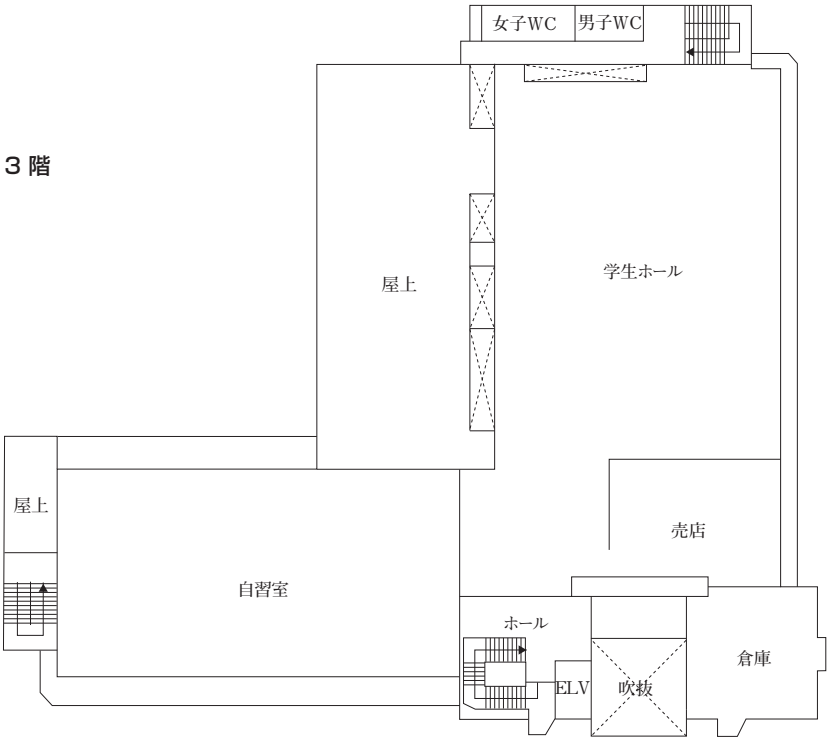


5．中央棟案内図

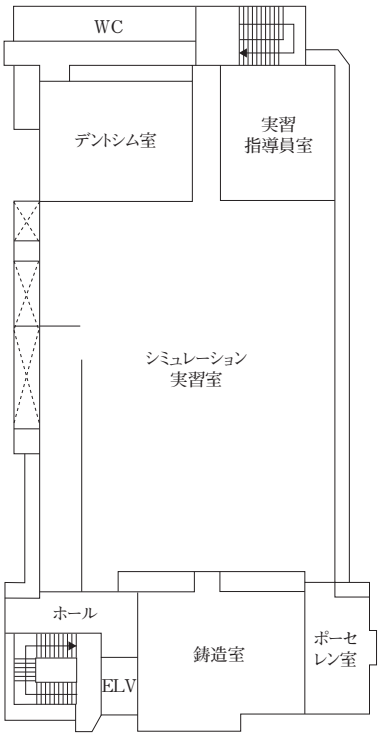

1 階
女子WC
男子WC
廊下
変電室
ロッカー室
ロッカー室
図書室
倉庫
バックナンバー室
DS
DS
ホール
ELV
玄関ホール


2 階
倉庫
技工機械室
図書室
男子WC
女子WC
DS
専門図書室
吹抜
DS
ホール
ホール
(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)
(7)
(8)
(9)
(10)
(11)
ELV
吹抜
図書館長室

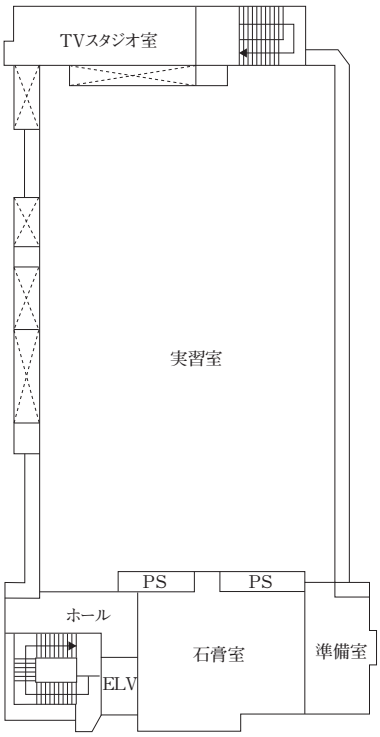
３階


女子WC
男子WC
屋上
学生ホール
屋上
売店
自習室
ホール
倉庫
ELV
吹抜

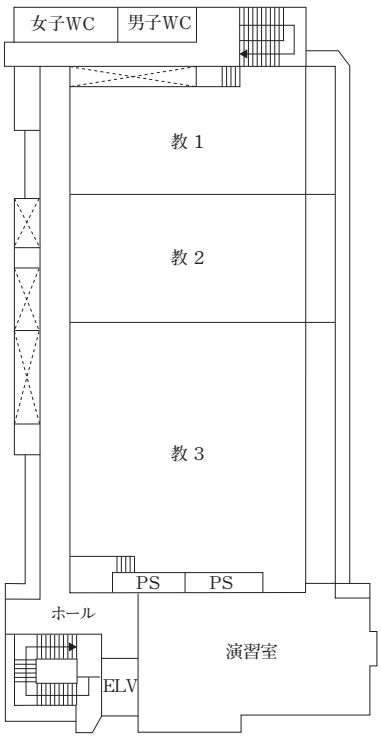
４階


WC
デントシム室
実習
指導員室
シミュレーション
実習室
ホール
鋳造室
ポーセ
レン室
ELV

５階

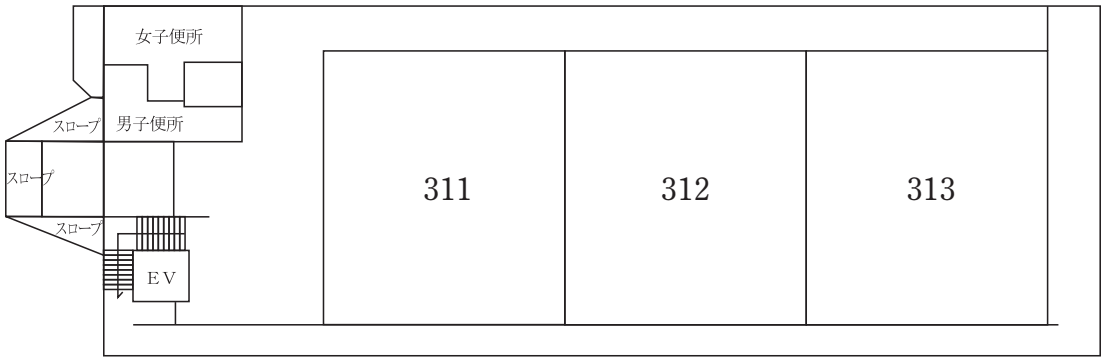

TVスタジオ室
実習室
PS
PS
ホール
石膏室
準備室
ELV

６階

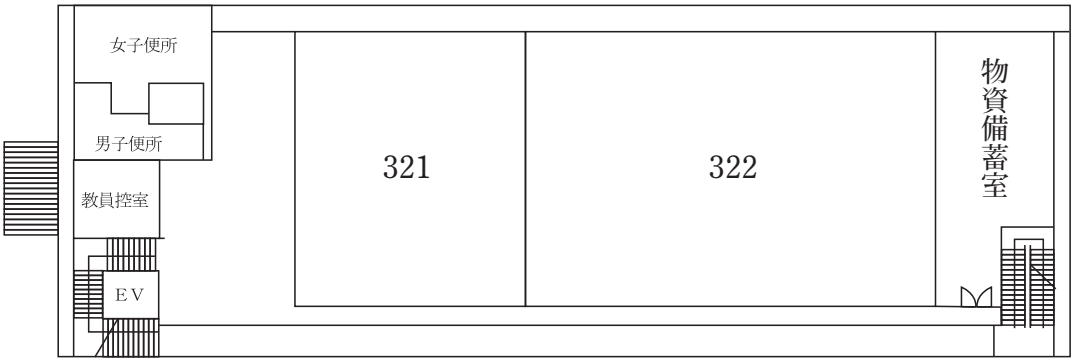

女子WC
男子WC
教１
教２
教３
PS
PS
ホール
演習室
ELV

６．第３講義棟案内図

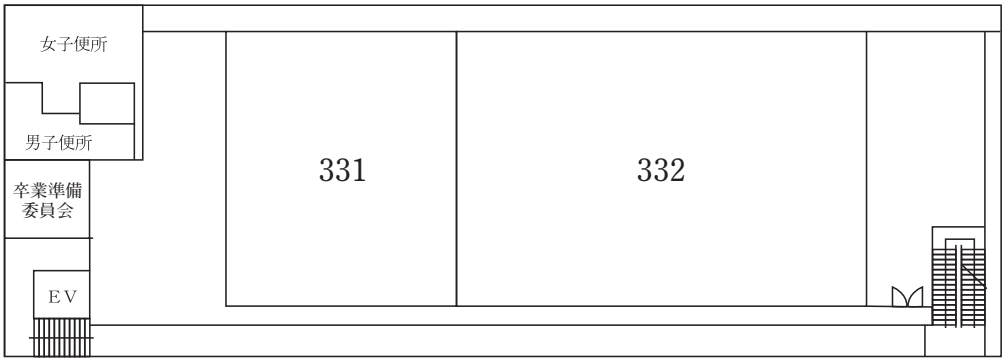
1階



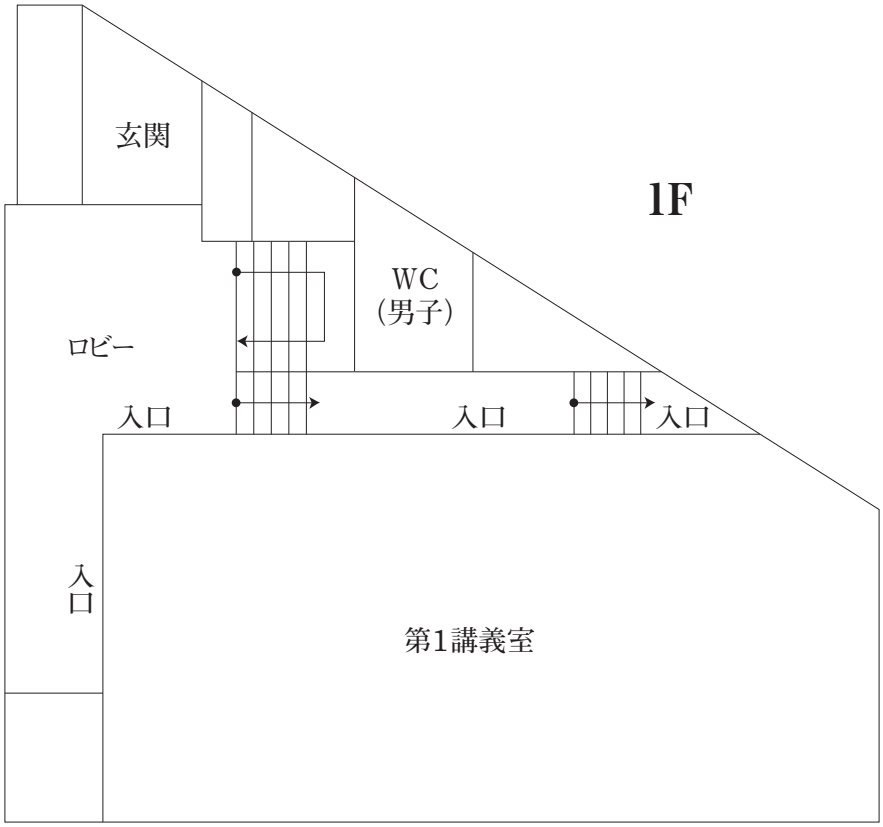
2階

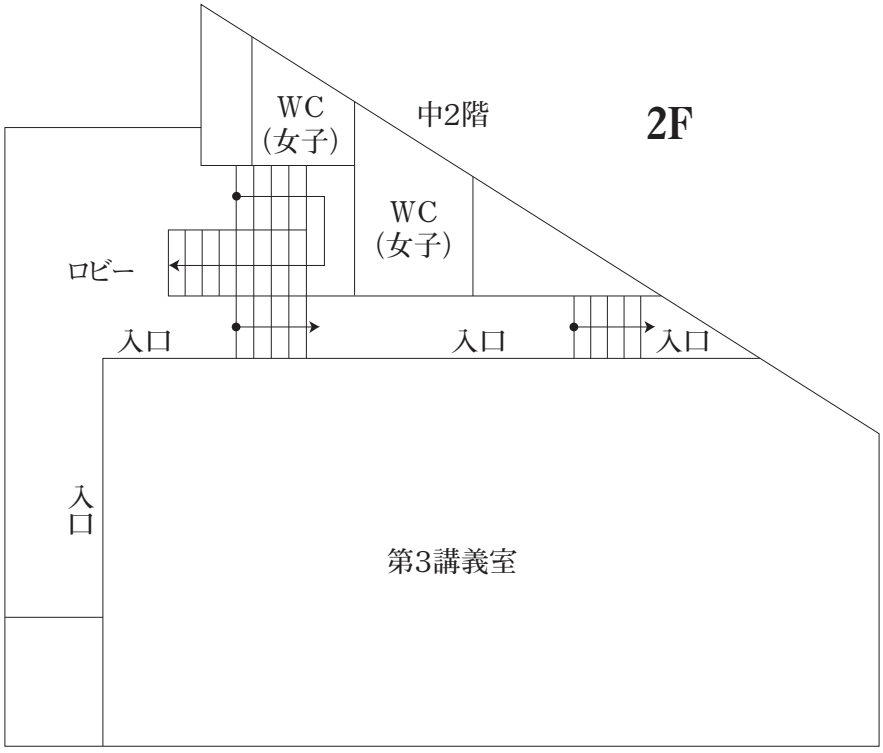


3階



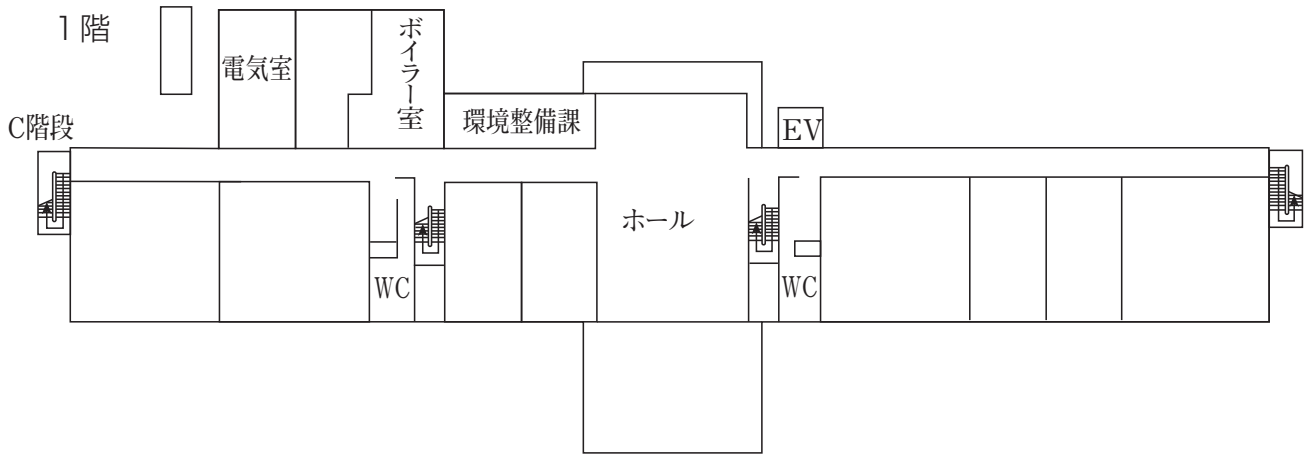
7．第２講義棟案内図


玄関
1F
WC
(男子)
ロビー
入口
入口
入口
入口
第1講義室

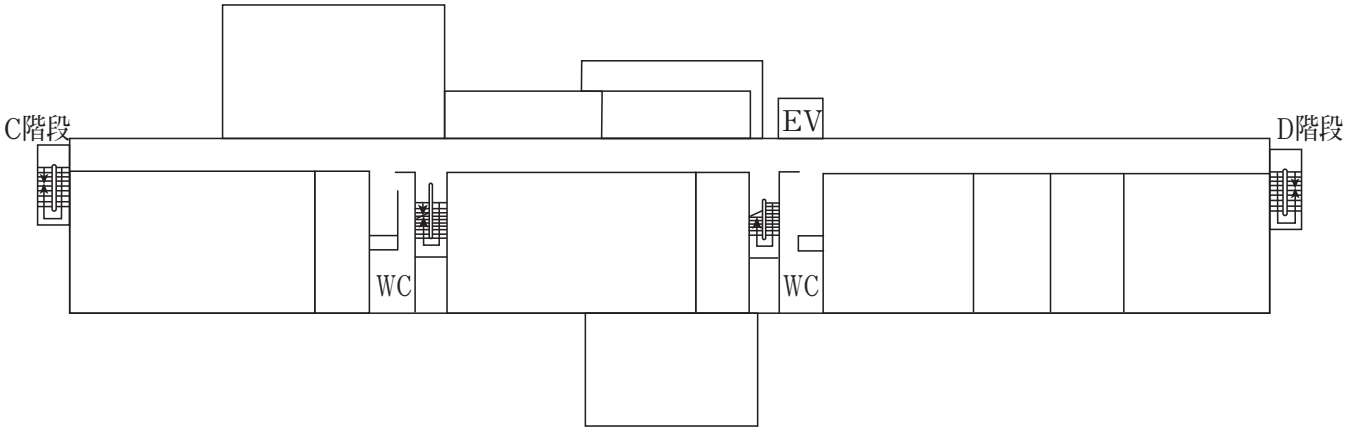

WC
(女子)
中2階
2F
WC
(女子)
ロビー
入口
入口
入口
入口
第3講義室

8．歯学・薬学実習棟案内図

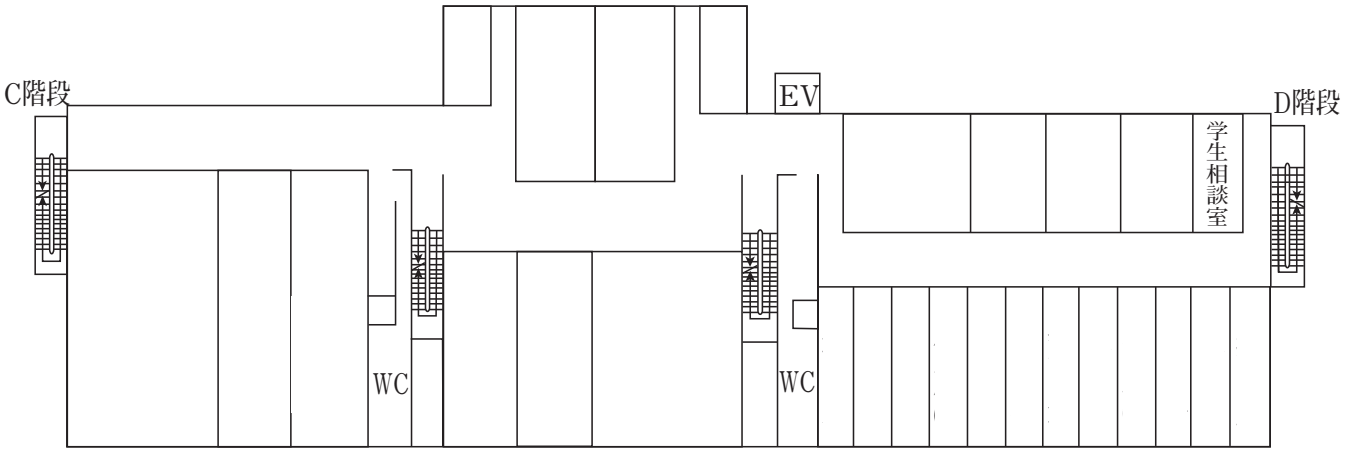
1階



2階

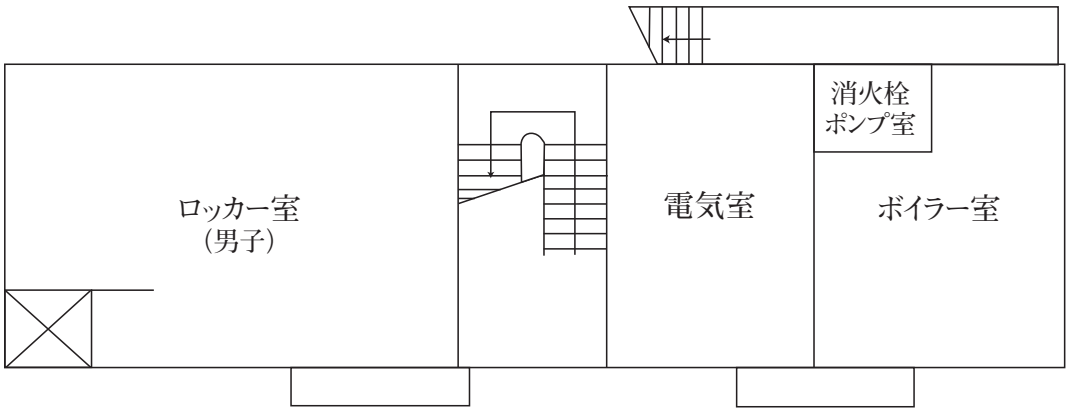


3階

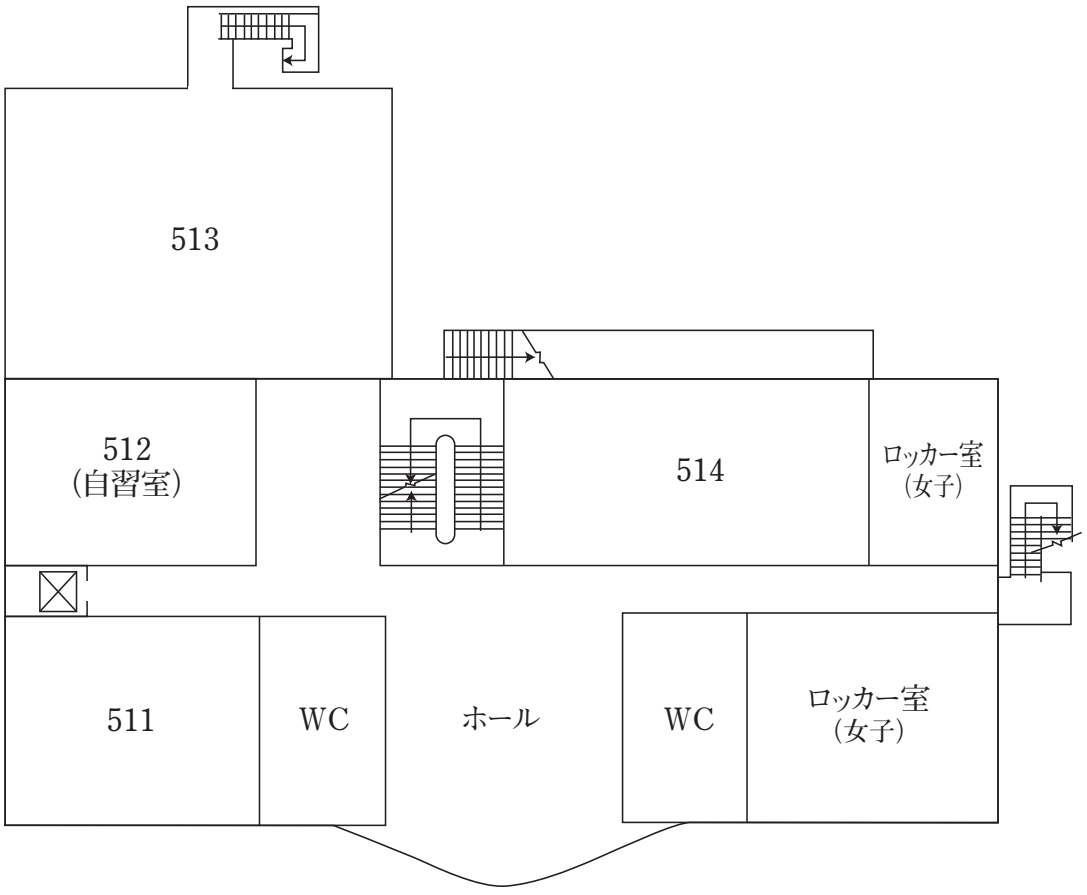


９．薬学部棟案内図

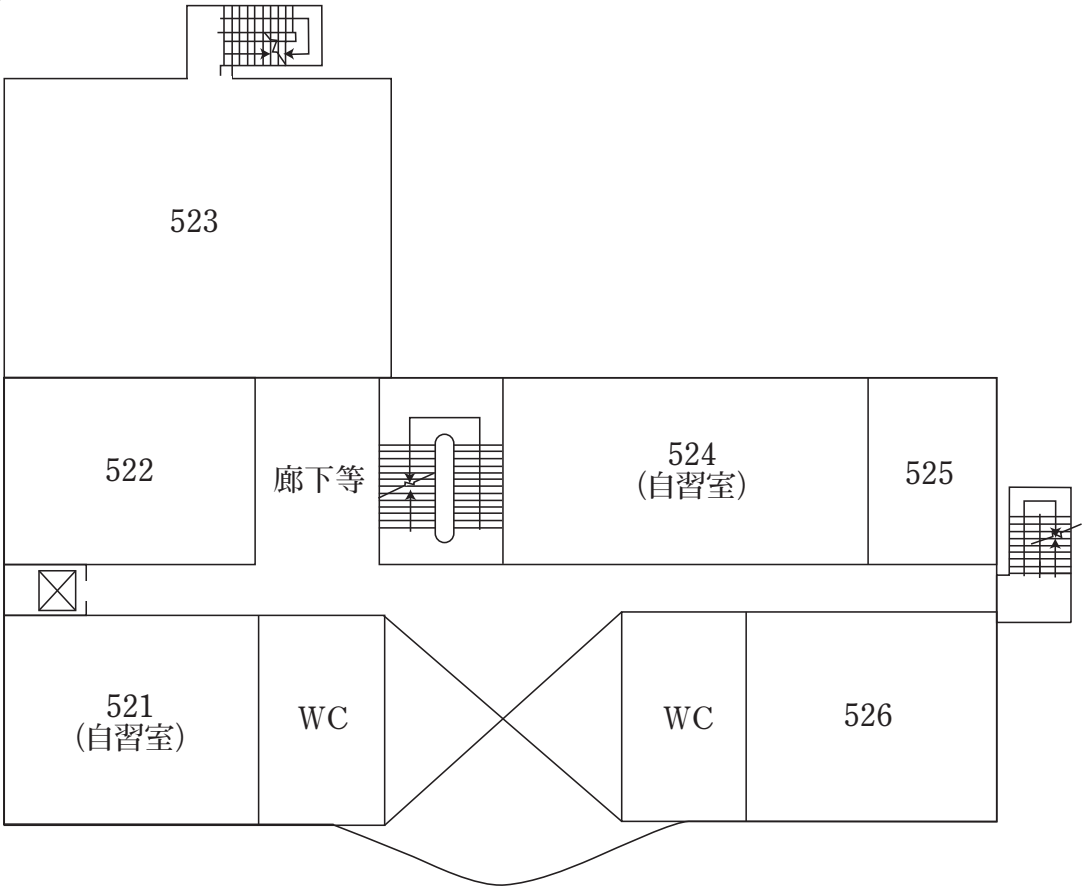
Ｂ１階



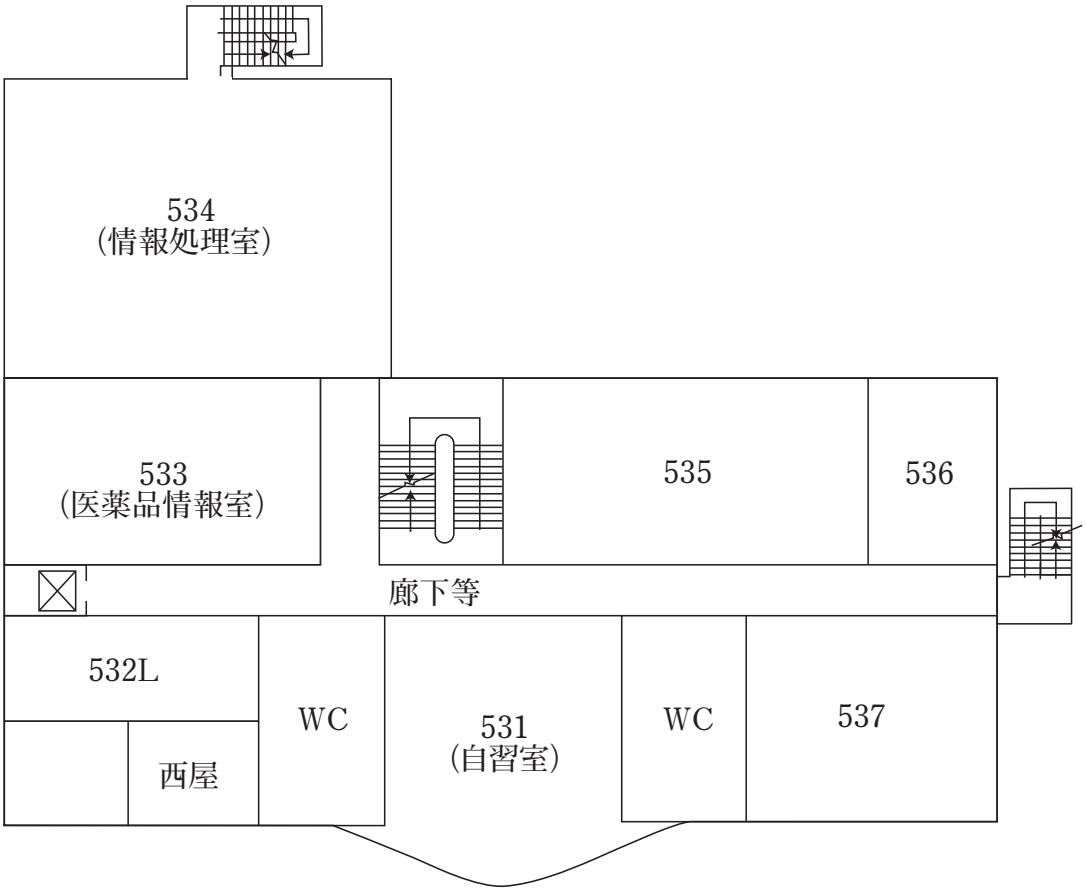
１階



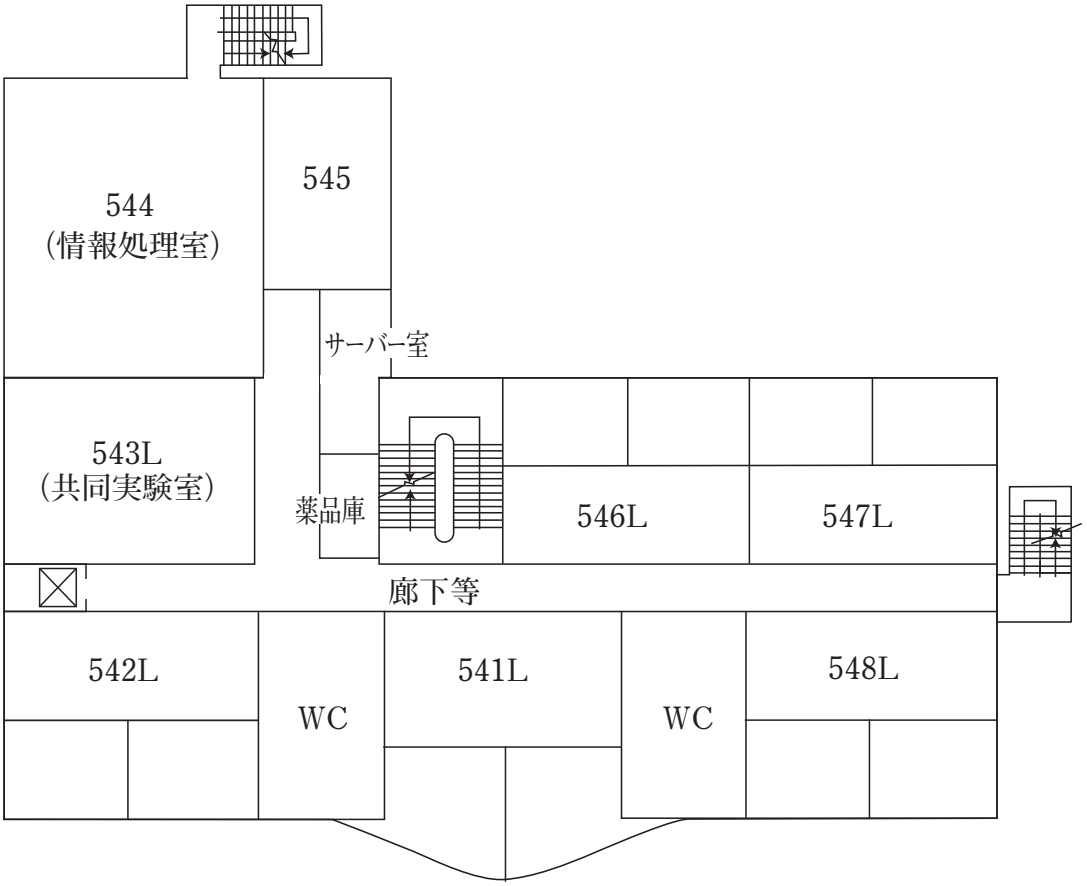
2階


523
522
廊下等
524
(自習室)
525
521
(自習室)
WC
WC
526

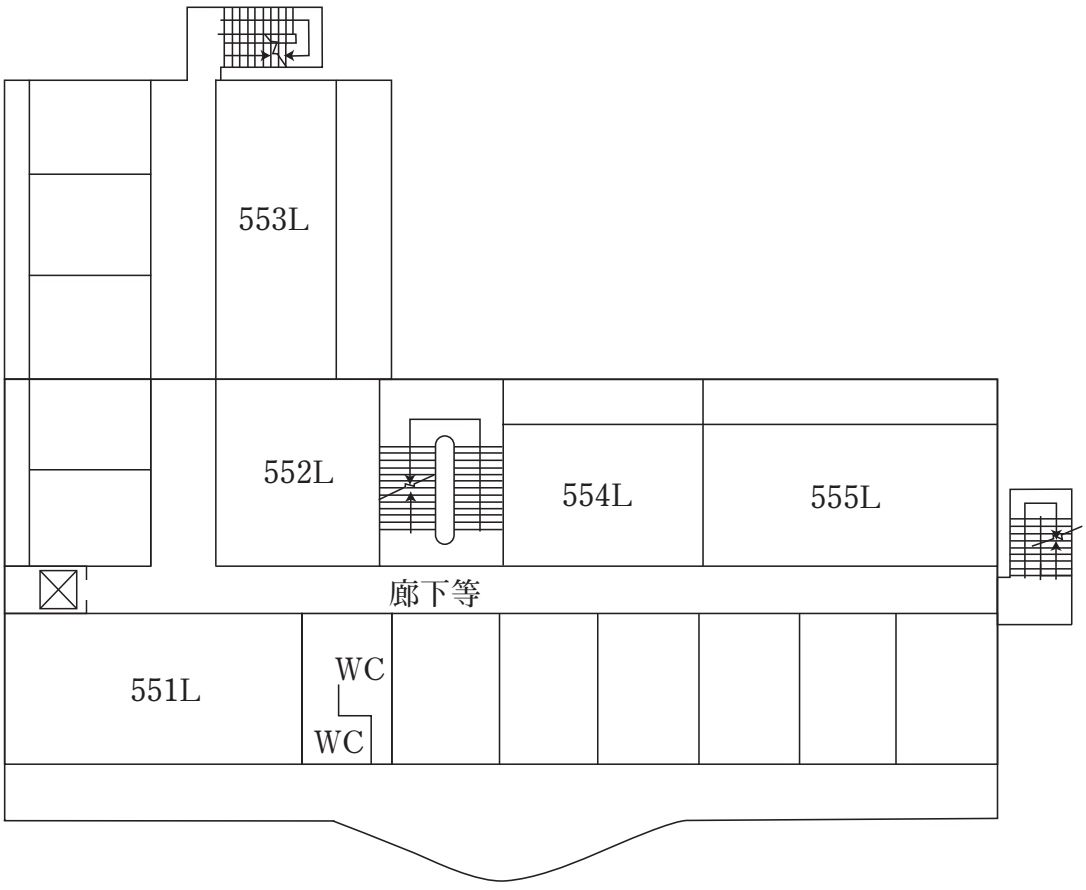
3階


534
(情報処理室)
533
(医薬品情報室)
535
536
廊下等
532L
西屋
WC
531
(自習室)
WC
537

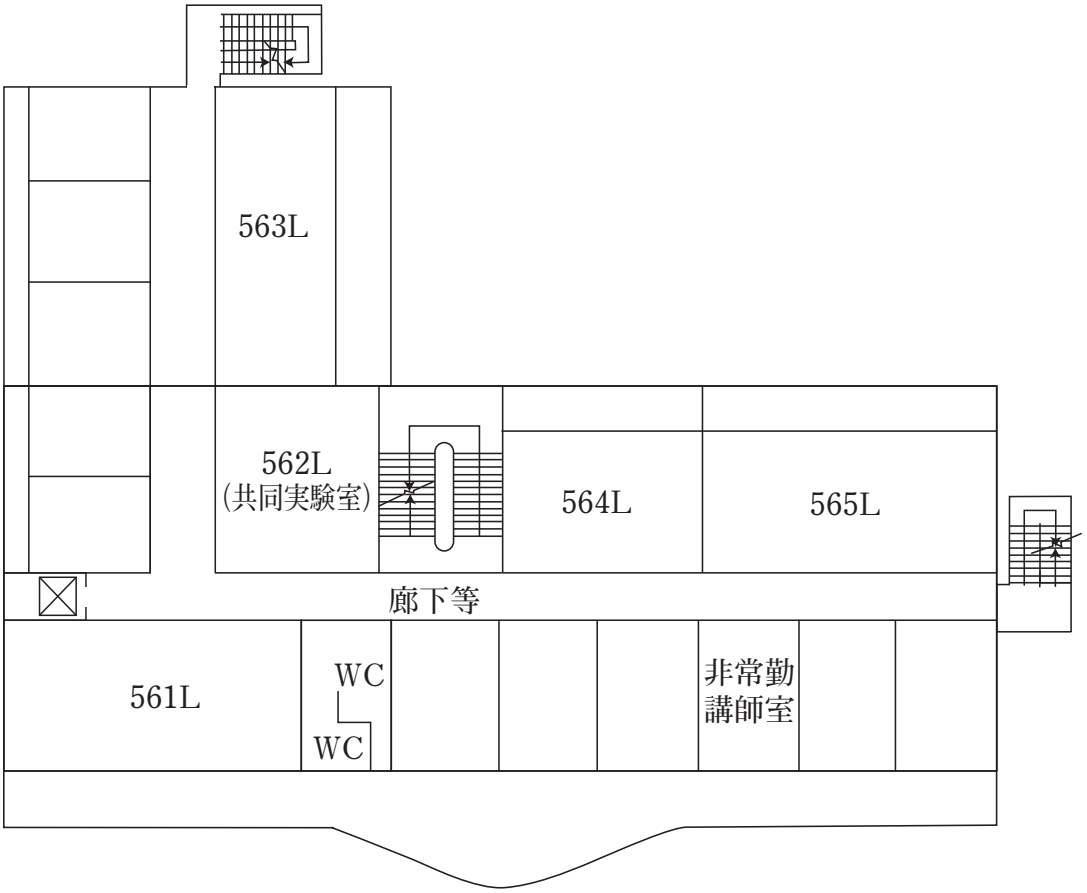
4階


544
(情報処理室)
545
サーバー室
543L
(共同実験室)
薬品庫
546L
547L
廊下等
542L
WC
541L
WC
548L

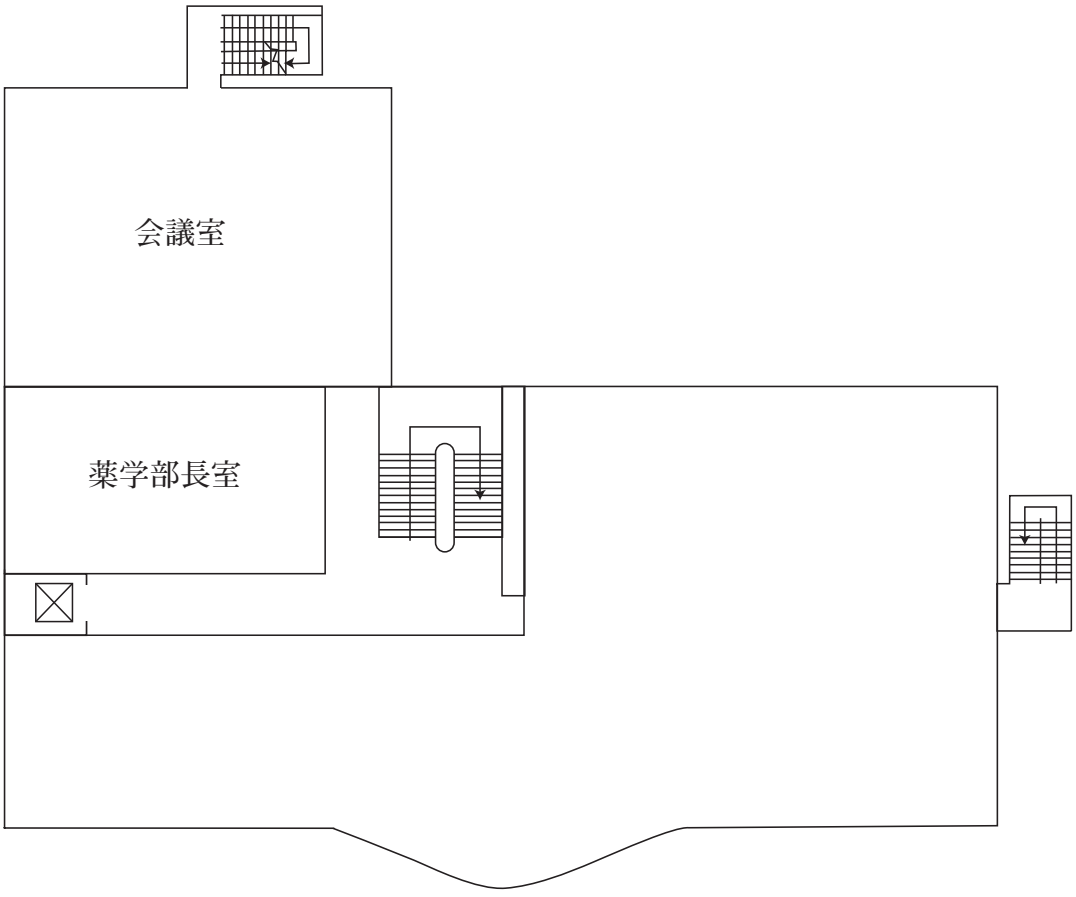
5階


553L
552L
554L
555L
廊下等
551L
WC
WC

6階



7階



本誌は環境にやさしい植物油インキを使用しています